

Syllabus

平成29年度

人間工学科授業計画

近畿大学生物理工学部

目 次

〈全学科共通の科目〉

共通教養科目	7
外国語科目	114
学部基礎科目	407

〈専門科目〉

人間工学科	514
-------	-------	-----

〈教職課程〉

教職科目	637
------	-------	-----

～生物理工学部の教育方針～

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

生物理工学部は、21世紀の社会が直面する「食糧」、「医療・福祉」、「人間生活の環境」における学際的分野の課題を自ら発見し解決できる人材を育成するためアクティブラーニングを含めた以下のようなカリキュラムを提供しています。

＜共通教養科目＞

幅広い知識と深い洞察力を培い、高い倫理性を育み、豊かな人間関係と確かな主体性を確立するために、調和の取れた教養教育を実施します。さらに、課題設定及び問題解決に積極的に挑戦する意欲とその能力を、初年次教育の講義及び演習により修得します。

＜外国語科目＞

国際的な感覚や異文化を理解する能力の涵養によって、生命科学と理工学の学際的分野の広いグローバル社会で活躍できる人材を育成するため、外国語教育を重視しています。英語では、初年次から学科横断的な習熟度別の少人数のクラス編成にて基礎・基本を徹底して学ぶとともに、外国人教員によるコミュニケーション能力を養う科目を履修することで、総合的な語学能力を養成します。さらに、中国語やドイツ語等の第二外国語を学修することで、さらなる国際的な感覚を育成します。

＜学部基礎科目＞

総合的な視野から専門分野を理解し、その研究に必要な基礎知識を養うことを目的とした系統的な科目を多く開講しています。特に、理工系学生として最低限必要な基礎学力を確保するために、少人数で習熟度別のクラス編成の採用や、リメディアル教育を行うクラスの併設をしています。

＜専門科目＞

社会のニーズに対応できる豊かな教養に裏打ちされた専門性を高める教育プログラムを、各学科の人材育成目標に沿って提供します。実験・実習・演習を重視し、産学連携を推進し、生きた実学教育を実施します。また、学科の枠を超えた学際領域選択科目を設け、学際的な学術分野の専門知識を深めます。さらに、学科毎に研究室に所属して行う卒業研究では、教員や大学院生との深い相互討論によって、基礎的あるいは最先端の研究を体験し、専門知識の深化と専門技術の修得を図ります。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

生物理工学部は、生命科学と理工学の学際的な学術分野の教育研究を通じて、地域社会ならびに国際社会と連携して人類社会の福祉と持続可能な発展に寄与できる人材の育成を目指しています。生物理工学部では、所定の期間在学し、所属学科の卒業所要単位表に記載の全ての要件を満たしている学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。

1. 生命科学と理工学の学際的分野において、高い基礎知識と技能を修得し、それらを活かした社会貢献への使命感を有していること。
2. 21 世紀の社会が直面する生命科学と理工学の学際的分野の課題に対して、論理的思考に基づく解決能力を備えていること。
3. 独創性と創造性ある科学的発想力を身につけていること。
4. 科学技術に対して高い倫理観を有していること。
5. 生命科学と理工学の学際領域に関わるグローバルな課題に対応するため、俯瞰的な視野を身につけ、異文化の人々とのコミュニケーションを円滑にできる能力を備えていること。

講 義 要 項

全学科共通

カリキュラム一覧 8

共通教養科目

人権と社会1	15
人権と社会2	16
暮らしのなかの憲法	17
芸術鑑賞入門	21
現代社会と法	24
現代社会と倫理	25
現代経済の課題	27
新しい政治学	29
持続可能な社会論	34
自己発見の心理学	39
科学倫理	41
情報倫理	43
生物と地球環境	46
医療・科学・暮らし	48
国際経済入門	51
日本近現代史	53
国際社会と日本	55
国際化と異文化コミュニケーション	58
里山の環境学	63
言語文化学入門	67
日本語の技法	69
基礎ゼミ	72
思考の技術	74
キャリアデザイン	76
社会奉仕実習	79
科学技術と人間・社会	82
インターンシップ	84
キャリアインターンシップ	88
スクールインターンシップ	90
情報処理基礎Ⅰ	93
情報処理基礎Ⅱ	95
生涯スポーツ1	97
生涯スポーツ2	102
健康とスポーツの科学	107
食生活と健康	112

外国語科目

基礎英語1	114
基礎英語2	122
総合英語1	131
総合英語2	139
理系英語1	145
理系英語2	178
オーラルスキル(英語)1	211
オーラルスキル(英語)2	228
オーラルスキル(英語)3	245
オーラルスキル(英語)4	256
海外研修(英語)	267
言語演習(英語)1	270
言語演習(英語)2	278

言語演習(英語)3	283
言語演習(英語)4	292
理系英語3(コンプリヘンション)	303
理系英語4(コンプリヘンション)	312
理系英語3(プレゼンテーション)	321
理系英語4(プレゼンテーション)	329
英語実践1	336
英語実践2	339
英語スキル上級1	342
英語スキル上級2	345
TOEIC 1	348
TOEIC 2	356
TOEIC 3	363
TOEIC 4	370
理系英語応用1	377
理系英語応用2	380
ドイツ語総合1	383
ドイツ語総合2	386
ドイツ語総合3	389
ドイツ語総合4	392
中国語総合1	395
中国語総合2	398
中国語総合3	401
中国語総合4	404

学部基礎科目

化学Ⅰ	407
化学Ⅱ	414
基礎数学	419
数学	425
生物学Ⅰ	434
生物学Ⅱ	439
基礎物理学	444
物理学Ⅰ	450
物理学Ⅱ	458
微分積分学	468
線形代数学	478
化学実験	488
物理学実験	495
生命科学概論	497
基礎食品化学	500
知的財産権	502
Webデザイン	504
バイオテクノロジー技術論	506
ロボットメカニクス技術論	508
ロボット制御技術論	510
自主演習	512

全学科共通

授業科目			配当年次	単位数		担当教員	
				必修	選択		
全 学 共 通 科 目	人間性・社会性科目群	人権と社会1	1(前期)		2	岡 宏	
		人権と社会2	1(後期)		2	岡 宏	
		暮らしのなかの憲法	1(後期)		2	新田 和宏	
		芸術鑑賞入門	1(後期)		2	泉 健	
		現代社会と法	1(前期)		2	海堀 崇	
		現代社会と倫理	1(前期)		2	平木 光二	
		現代経済の課題	1(後期)		2	椎木 和光	
		新しい政治学	1(前期)		2	新田 和宏	
		持続可能な社会論	1(後期)		2	新田 和宏	
		自己発見の心理学	1(後期)		2	大日方 薫	
		科学倫理	1(前期)		2	前田 直哉	
		情報倫理	1(前・後期)		2	岡 宏	
		生物と地球環境	1(前期)		2	オムニバス	
		医療・科学・暮らし	1(前期)		2	オムニバス	
		地域性・国際性科目群	国際経済入門	1(前期)		2	椎木 和光
日本近現代史	1(前期)			2	長沢 一恵		
国際社会と日本	1(後期)			2	新田 幸夫		
国際化と異文化コミュニケーション	1(前・後期)			2	服部・新田(幸)		
里山の環境学	1(前・後期)			2	新田 和宏		
言語文化学入門	1(後期)			2	オムニバス		
課題設定・問題解決科目群	日本語の技法	1(前期)		2	梶山・吉田(久)・村田		
	基礎ゼミ	1(前期)	2		全 教 員		
	思考の技術	1(後期)		2	平木 光二		
	キャリアデザイン	1(後期)		2	中村 弘成		
	社会奉仕実習	2(前・後期)		1	新田 和宏		
	科学技術と人間・社会	1(後期)		2	久保田 均		
	インターンシップ	3(通年)		2	新田 和宏		
	キャリアインターンシップ	3(通年)		1	各学科担当教員		
	スクールインターンシップ	3(後期)		1	渡部・小田		
	情報処理基礎Ⅰ	1(前期)	1		木戸・小濱・大政 他		
情報処理基礎Ⅱ	1(後期)	1		木戸・吉田(久)・大政 他			
現活動科目群	スポーツ表	生涯スポーツ1	1(前期)		1	橋本・黒住	
	生涯スポーツ2	1(後期)		1	橋本・黒住		
	健康とスポーツの科学	1(前期)		2	橋本・黒住		
	食生活と健康	1(後期)		2	居原 秀		
外国語科目	第一外国語	基幹科目	基礎英語1	1(前期)		2	野口・滝口
			基礎英語2	1(後期)		2	野口・滝口
			総合英語1	1(前期)		2	服部・長谷川・吉川 他
			総合英語2	1(後期)		2	服部・長谷川・吉川 他
			理系英語1	2(前期)		1	長谷川・澤邊・山本(哲) 他
			理系英語2	2(後期)		1	長谷川・澤邊・山本(哲) 他
			オーラルスキル(英語)1	1(前期)		1	ドゥデジアン・ポーレン 他
			オーラルスキル(英語)2	1(後期)		1	ドゥデジアン・ポーレン 他
			オーラルスキル(英語)3	2(前期)		1	ファミュラロ・バンナム 他
			オーラルスキル(英語)4	2(後期)		1	ファミュラロ・バンナム 他

※配当年次と開講期が異なる科目がありますので、シラバス・時間割等で確認してください。

※基礎ゼミは学科によって通年・隔週の開講となる場合があります。

授業科目		配当年次	単位数		担当教員		
			必修	選択			
外国語科目	第一外国語	応用科目A	海外研修(英語)	1(通年)		2	服部・長谷川・吉川
			言語演習(英語)1	2(前期)		1	竹中・ファミユラロ・ホーバット
			言語演習(英語)2	2(後期)		1	竹中・ファミユラロ
			言語演習(英語)3	2(前期)		1	服部・山本(哲)・藤原
			言語演習(英語)4	2(後期)		1	服部・山本(哲)・上村・藤原
		応用科目B	理系英語3(コンプリヘンション)	3(前期)		1	澤邊・畠中・恵
			理系英語4(コンプリヘンション)	3(後期)		1	澤邊・畠中・恵
			理系英語3(プレゼンテーション)	3(前期)		1	服部・吉川・矢田
			理系英語4(プレゼンテーション)	3(後期)		1	服部・吉川・矢田
			英語実践1	3(前期)		1	澤邊 興平
			英語実践2	3(後期)		1	澤邊 興平
			英語スキル上級1	3(前期)		1	上村 バックス 尚美
	英語スキル上級2	3(後期)		1	ジェイムズ ホーバット		
	発展科目	TOEIC 1	2(前期)		1	竹中・片岡・藤原	
		TOEIC 2	2(後期)		1	竹中・片岡・藤原	
		TOEIC 3	3(前期)		1	長谷川・矢田	
		TOEIC 4	3(後期)		1	長谷川・矢田	
		理系英語応用1	3(前期)		1	澤邊 興平	
		理系英語応用2	3(後期)		1	澤邊 興平	
	第二外国語	ドイツ語総合1	1(前期)		1	田中・北川・南谷	
		ドイツ語総合2	1(後期)		1	田中・北川・南谷	
		ドイツ語総合3	2(前期)		1	南谷 真紀	
		ドイツ語総合4	2(後期)		1	南谷 真紀	
		中国語総合1	1(前期)		1	村田・平坂・王・東條	
		中国語総合2	1(後期)		1	村田・平坂・王・東條	
		中国語総合3	2(前期)		1	垣内 智之	
		中国語総合4	2(後期)		1	垣内 智之	
学部基礎科目	化学Ⅰ	1(前期)		2	藤澤・櫻井・高木		
	化学Ⅱ	1(後期)		2	藤澤・櫻井		
	基礎数学	1(前期)	△2	2	吉田 久 他		
	数学	1(前期)	△2	2	中迫・楠・福田・藤井		
	生物学Ⅰ	1(前期)		2	小谷・平井		
	生物学Ⅱ	1(後期)		2	小谷・平井		
	基礎物理学	1(前期)		2	西垣 勉 他		
	物理学Ⅰ	1(前期)		2	木村・藤井・松本(俊)		
	物理学Ⅱ	1(後期)		2	木村・西垣・藤井・松本(俊)		
	微分積分学	1(後期)	◆2	2	吉田(久)・西川・西垣・堤		
	線形代数学	1(後期)	□2	2	楠・宮下(尚)・根本・堤		
	化学実験	1(前期)		2	藤澤・瀧川・櫻井		
	物理学実験	1(前期)		2	木村 裕一 他		
	生命科学概論	1(前期)		2	加藤 博己		
	基礎食品化学	2(前期)		2	尼子 克己		
	知的財産権	2(後期)		2	尾崎 嘉彦		
	Webデザイン	1(後期)		1	吉田 久 他		
	バイオテクノロジー技術論	1(前期)		2	瀧川 義浩		
ロボットメカニクス技術論	1(前期)		2	渡辺 俊明			
ロボット制御技術論	1(前期)		2	久保田 均			
自主演習	2(通年)		1	生物理工学部全教員			

※配当年次と開講期が異なる科目がありますので、時間割等で確認してください。

△印:生命情報工学科・システム生命科学科は選択必修科目です。プレースメントテストにより履修科目を指示します。いずれか一方を必ず履修しなければなりません。

◆印:生命情報工学科・システム生命科学科・人間環境デザイン工学科・人間工学科・医用工学科は、必修科目です。

□印:生命情報工学科・システム生命科学科・医用工学科は必修科目です。

カリキュラム対照表(共通教養科目)

平成22～25年度カリキュラム				平成29年度開講科目名				担当教員	開講学科	
授業科目	配当年次	単位数		授業科目	開講年次	単位数				
		必修	選択			必修	選択			
共通教養科目	人権と社会1	1(前期)		2	人権と社会1	1(前期)		2	岡 宏	
	人権と社会2	1(後期)		2	人権と社会2	1(後期)		2	岡 宏	
	暮らしのなかの憲法	1(後期)		2	暮らしのなかの憲法	1(前・後期)		2	新田 和宏	
	芸術鑑賞入門	1(後期)		2	芸術鑑賞入門	1(後期)		2	泉 健	
	現代社会と法	1(前期)		2	現代社会と法	1(前期)		2	海堀 崇	
	現代社会と倫理	1(前期)		2	現代社会と倫理	1(前期)		2	平木 光二	
	現代経済の課題	1(後期)		2	現代経済の課題	1(後期)		2	椎木 和光	
	新しい政治学	1(前期)		2	新しい政治学	1(前・後期)		2	新田 和宏	
	持続可能な社会論	1(前期)		2	持続可能な社会論	1(後期)		2	新田 和宏	
	自己発見の心理学	1(後期)		2	自己発見の心理学	1(前・後期)		2	大日方 薫	
	生物と地球環境	1(前期)		2	生物と地球環境	1(前・後期)		2	オムニバス	
	医療・科学・暮らし	1(前期)		2	医療・科学・暮らし	1(前・後期)		2	オムニバス	
	国際経済入門	1(前期)		2	国際経済入門	1(前期)		2	椎木 和光	
	国際化と異文化コミュニケーション	1(後期)		2	国際化と異文化コミュニケーション	1(前・後期)		2	服部・新田(幸)	
	国際社会と日本	1(後期)		2	国際社会と日本	1(前期)		2	新田 幸夫	
	日本近現代史	1(前期)		2	日本近現代史	1(前期)		2	長沢 一恵	
	里山の環境学	1(前期)		2	里山の環境学	1(前・後期)		2	新田 和宏	
	日本語の技法	1(前期)		2	日本語の技法	1(前期)		2	梶山・吉田(久)・村田	
	基礎ゼミ	1(前期)	2		基礎ゼミ	1(前・後期)	2		全教員	
	思考の技術	1(後期)		2	思考の技術	1(後期)		2	平木 光二	
	キャリアデザイン	1(後期)		2	キャリアデザイン	1(後期)		2	中村 弘成	
	社会奉仕実習	2(前・後期)		1	社会奉仕実習	2(前・後期)		1	新田 和宏	
	科学技術と人間・社会	1(後期)		2	科学技術と人間・社会	1(前・後期)		2	久保田 均	
	インターンシップ	3(通年)		2	インターンシップ	3(通年)		2	新田 和宏	
	キャリアインターンシップ	3(通年)		1	キャリアインターンシップ	3(通年)		1	各学科担当教員	
	スクールインターンシップ	3(後期)		1	スクールインターンシップ	3(集中)		1	渡部・小田	
	生涯スポーツ1	1(前期)		1	生涯スポーツ1	1(前期)		1	橋本・黒住	
	生涯スポーツ2	1(後期)		1	生涯スポーツ2	1(後期)		1	橋本・黒住	
健康とスポーツの科学	1(前期)		2	健康とスポーツの科学	1(前・後期)		2	橋本・黒住		
食生活と健康	1(後期)		2	食生活と健康	1(前・後期)		2	居原 秀		
外国語科目	英語演習1	1(前期)		2	基礎英語1	1(後期)		2	滝口 智子	
	英語演習2	1(後期)		2	基礎英語2	1(前期)		2	滝口 智子	
	英語演習3	2(前期)		1	理系英語1	2(前・後期)		1	竹中 義胤	
	英語演習4	2(後期)		1	理系英語2	2(前・後期)		1	竹中 義胤	
	オーラルイングリッシュ1	1(前期)		1	オーラルスキル(英語)1	1(前・後期)		1	バンナム・ポーレン	
	オーラルイングリッシュ2	1(後期)		1	オーラルスキル(英語)2	1(前・後期)		1	バンナム・ポーレン	
	オーラルイングリッシュ3	2(前期)		1	オーラルスキル(英語)3	2(後期)		1	ジョン ドウデジアン	
	オーラルイングリッシュ4	2(後期)		1	オーラルスキル(英語)4	2(前期)		1	ジョン ドウデジアン	
	総合英語A	3(前期)		1	英語実践1	3(前期)		1	澤邊 興平	
	総合英語B	3(後期)		1	英語実践2	3(後期)		1	澤邊 興平	

○平成29年度の開講時期については時間割を確認してください。

平成22～25年度カリキュラム				平成29年度開講科目名				担当教員	開講学科	
授業科目	配当年次	単位数		授業科目	開講年次	単位数				
		必修	選択			必修	選択			
外国語科目	TOEIC 1A	2(前期)		1	TOEIC 1	2(前期)		1	竹中・片岡・藤原	
	TOEIC 1B	2(後期)		1	TOEIC 2	2(後期)		1	竹中・片岡・藤原	
	TOEIC 2A	2(前期)		1	TOEIC 3	2(前期)		1	長谷川・矢田	
	TOEIC 2B	2(後期)		1	TOEIC 4	2(後期)		1	長谷川・矢田	
	サイエンスイングリッシュA	3(前期)		1	理系英語3 (コンプリヘンション)	3(前期)		1	澤邊・島中・恵	
	サイエンスイングリッシュB	3(後期)		1	理系英語4 (コンプリヘンション)	3(後期)		1	澤邊・島中・恵	
	英語プレゼンテーションA	3(前期)		1	理系英語3 (プレゼンテーション)	3(前期)		1	服部・吉川・矢田	
	英語プレゼンテーションB	3(後期)		1	理系英語4 (プレゼンテーション)	3(後期)		1	服部・吉川・矢田	
	英語特別演習1A	2(前期)		1	言語演習(英語)1	2(前期)		1	竹中・ファミユラロ・ホーバット	
	英語特別演習1B	2(後期)		1	言語演習(英語)2	2(後期)		1	竹中・ファミユラロ	
	英語特別演習2A	3(前期)		1	言語演習(英語)3	2(前期)		1	服部・山本(哲)・藤原	
	英語特別演習2B	3(後期)		1	言語演習(英語)4	2(後期)		1	服部・山本(哲)・上村・藤原	
	英語スキル上級A	1(前期)		1	英語スキル上級1	3(集中)		1	上村 バックス 尚美	
	英語スキル上級B	1(後期)		1	英語スキル上級2	3(集中)		1	ジェイムズ ホーバット	
	海外研修(英語)	1(通年)		2	海外研修(英語)	1(通年)		2	服部・長谷川・吉川	
	ドイツ語総合1	1(前期)		1	ドイツ語総合1	1(前期)		1	田中・北川・南谷	
	ドイツ語総合2	1(後期)		1	ドイツ語総合2	1(後期)		1	田中・北川・南谷	
	ドイツ語総合3	2(前期)		1	ドイツ語総合3	2(前期)		1	南谷 真紀	
	ドイツ語総合4	2(後期)		1	ドイツ語総合4	2(後期)		1	南谷 真紀	
	中国語総合1	1(前期)		1	中国語総合1	1(前期)		1	村田・平坂・王・東條	
中国語総合2	1(後期)		1	中国語総合2	1(後期)		1	村田・平坂・王・東條		
中国語総合3	2(前期)		1	中国語総合3	2(前期)		1	垣内 智之		
中国語総合4	2(後期)		1	中国語総合4	2(後期)		1	垣内 智之		
学部基礎科目	化学Ⅰ	1(前期)		2	化学Ⅰ	1(前期)		2	藤澤・櫻井・高木	
	化学Ⅱ	1(後期)		2	化学Ⅱ	1(後期)		2	藤澤・櫻井	
	基礎数学	1(前期)		2	基礎数学	1(前期)		2	吉田 久 他	
	数学	1(前期)		2	数学	1(前期)		2	中迫・楠・福田・藤井	
	生物学Ⅰ	1(前期)		2	生物学Ⅰ	1(前期)		2	小谷・平井	
	生物学Ⅱ	1(後期)		2	生物学Ⅱ	1(後期)		2	小谷・平井	
	基礎物理学	1(前期)		2	基礎物理学	1(前期)		2	西垣 勉 他	
	物理学Ⅰ	1(前期)		2	物理学Ⅰ	1(前期)		2	木村・藤井・松本(俊)	
	物理学Ⅱ	1(後期)		2	物理学Ⅱ	1(後期)		2	木村・西垣・藤井・松本(俊)	
	微分積分学	1(後期)		2	微分積分学	1(後期)		2	吉田(久)・西川・西垣・堤	
	線形代数学	1(後期)		2	線形代数学	1(後期)		2	楠・宮下(尚)・根本・堤	
	化学実験	1(前期)		2	化学実験	1(前・後期)		2	藤澤・瀧川・櫻井	
	物理学実験	1(前期)		2	物理学実験	1(前・後期)		2	木村 裕一 他	
	科学倫理	1(前期)		2	科学倫理	1(前期)		2	前田 直哉	共通教養科目
	情報倫理	1(後期)		2	情報倫理	1(前・後期)		2	岡 宏	共通教養科目
	初級シミュレーション技術論	2(後期)		1	※				—	※不開講
	Webデザイン	1(後期)		1	Webデザイン	1(後期)		2	吉田 久 他	
	バイオテクノロジー技術論	1(前期)		2	バイオテクノロジー技術論	1(前期)		2	瀧川 義浩	
	ロボットメカニクス技術論	1(前期)		2	ロボットメカニクス技術論	1(前期)		2	渡辺 俊明	
	ロボットセンサー技術論	1(前期)		2	※				—	※不開講
ロボット制御技術論	1(前期)		2	ロボット制御技術論	1(前期)		2	久保田 均		
自主演習	2(通年)		1	自主演習	2(通年)		1	全教員		

近畿大学の教養教育の目的と目標

前 文

近畿大学の建学の精神は、「未来志向の実学教育・人格の陶冶」にあり、教育の理念である「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」を育成することを教育の目的としている。この建学の精神に基づき、社会の発展に貢献できる有為な人材を育成するために、教育の中核に教養教育と専門教育を据え、それを通して総合的な教育を行うところに、本学の教育の特色がある。

さらに、近畿大学は、「世の中になくものを創り、生み出す」ことを社会的使命と任じ、新たな地平の開拓へ果敢に挑戦する人材を育成する。このような観点に立脚し、近畿大学の教養教育の目的を次のように謳うものである。

目 的

「近畿大学の教養教育は、幅広い知識と深い洞察力を培い、豊かな人間関係と確かな主体性を確立することを目的とする」

この目的の達成のために以下の目標をおく。

1. 個人の自由と平等を尊重し、社会において担うべき責任を理解し、公正に判断する能力を養う。
2. 日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養う。
3. 課題設定と問題解決の能力を高め、課題に積極的に挑戦する意欲を養う。
4. 健康な精神と肉体を培うとともに、趣味の涵養を通して豊かな人間性を養う。
5. 国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養う。
6. 総合的な視野から専門分野を理解し、その研究に必要な基礎知識を養う。

科目群は、上記目標に対応させて以下のとおりとする。

- ① 人間性・社会性科目群（個人の尊重・社会的責任の認識）
- ② 地域性・国際性科目群（国際的感覚の育成）
- ③ 課題設定・問題解決科目群（課題設定・解決能力の育成）
- ④ スポーツ・表現活動科目群（スポーツ・表現活動を通じた人間性の育成）
- ⑤ 外国語科目群（外国語によるコミュニケーション能力の育成）
- ⑥ 専門基礎科目群

科目名： 人権と社会 1			
英文名： Human Rights and Society 1			
担当者： <small>オカ ヒロシ</small> 岡 宏			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

部落問題を中心に、日本における人権問題について、それらがどのように生じたのか、差別・被差別の実態、さらにそれらを解決しようと努力してきた人びとの営みを学ぶことを通じて人権について学ぶことを目標とする。できるかぎりさまざまな資料に即して、政治的な仕組みや法律のほか、私たちの生活や意識を通して上記の問題について考える。

■学習・教育目標および到達目標

- ・部落問題を中心に日本社会における人権の歴史について知識・理解を深める。
 - ・現代社会における人権課題の解決に向けて考える能力を養う。
- この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的 1 の達成に関与しています。

■教科書

指定しない。適宜授業時に資料を配付。

■参考文献

授業時に紹介する。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

定期試験 80%
授業中に行う小レポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）hiroshioka@socio.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- ・人権とは何か
- ・権利について学ぶこと
- ・世界人権宣言
- ・国際人権条約と日本
- ・基本的人権と部落問題
- ・部落問題から見る日本の歴史
- ・日本社会とマイノリティ

必ずしも上記の順番で講義を進める訳ではなく、受講者の関心・理解度を考慮したうえで、それぞれのテーマの回数・順番は変更することがある。

科目名： 人権と社会 2			
英文名： Human Rights and Society 2			
担当者： <small>オカ ヒロシ</small> 岡 宏			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

日本社会におけるさまざまな人権問題について、それらがどのように生じたのか、差別・被差別の実態、さらにそれらを解決しようと努力してきた人びとの営みを通じて人権について学ぶことを目標とする。できるかぎりさまざまな資料に即して、政治的な仕組みや法律のほか、人びとの生活や意識を通して上記の問題について考える。

■学習・教育目標および到達目標

- ・日本社会における人権の歴史について知識・理解を深める。
- ・現代社会における人権課題の解決に向けて考える能力を養う。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的 1 の達成に関与しています。

■教科書

指定しない。授業時に適宜資料を配付。

■参考文献

授業時に紹介する。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

定期試験 80%
授業中に行う小レポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）hiroshioka@socio.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- ・人権の思想と歴史
- ・差別と人権
- ・部落問題
- ・性・ジェンダーと人権
- ・日本のエスニックマイノリティ

必ずしも上記の順番で講義を進める訳ではなく、受講者の関心・理解度を考慮したうえで、それぞれのテーマの回数・順番は変更することがある。

科目名：暮らしのなかの憲法			
英文名：Constitution in Everyday Life			
担当者： <small>ニッタ カズヒロ</small> 新田 和宏			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

<本講座を学ぶ目的>

本講座は、日本国憲法の基本問題について理解を深めることを目的とする。

<本講座において学ぶ意義>

そもそも、憲法とは、国家権力の濫用を抑制しつつ、国民の自由と人権を擁護する立憲主義（constitutionalism）という考え方に立脚するが、もちろん日本国憲法も同じ立場である。しかしながら、今日、立憲主義がゆらぐ中、改めて、日本国憲法を学ぶ意義を強調するならば、それは自由と人権について熟考することにあるといえよう。日本国憲法第12条は「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」と要請する。もしも、時代に流され、思考停止に陥り、「不断の努力」を怠れば、97条がいう「この憲法が国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」を台無しにしてしまう恐れすらある。

<本講座の方法>

アクティブ・ラーニングとして展開する。

教科書をベースに据え、憲法裁判の判例や学説を検討しつつ、また学生諸君のプレゼンテーションとディスカッションを交えながら、表層的な観察に終わらない重心の低い本格的な考察を講じていく。

■学習・教育目標および到達目標

本講座を通じて得られるべき到達目標とは次の通りである。

①. 教科書を読み、これを正確に理解できる読解力。②. 講義を積極的に傾聴（active listening）できる能力。③. 板書に頼らずとも、自分の頭の中で情報を整理しつつ、ノートがとれる能力。④. 日本国憲法の基本問題について、その本質を粘り強く考えようとする態度と、その洞察力。⑤. 実際の憲法裁判の判決文を前にして、その要点が理解しえる能力。⑥. 持論を展開し表現しえる能力。

<ディプロマポリシーとの関連>

「暮らしのなかの憲法」の修得は、近畿大学が教養教育において掲げる目標を達成するための目的1および2の達成に関連している。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後、試験期間中に指定した日程において試験の解題を行う。

■教科書

棟居快行他『基本的人権の事件簿・第5版』有斐閣、2015年 ISBN978-4-641-28135-6

辻村みよ子『憲法・第5版』日本評論社、2016年 ISBN978-4-535-52183-4

■参考文献

長谷部恭男『憲法とは何か』岩波新書、2006年 [ISBN]4004310024

渋谷秀樹『憲法への招待・新版』岩波新書、2014年 [ISBN]4004314704

古関彰一『平和憲法の深層』ちくま新書、2015年 [ISBN]9784480068279

ヘアテ・シロタ・ゴードン『1945年のクリスマス』朝日文庫、2016年 [ISBN]9784022618573

加藤隆之『人権判例から学ぶ憲法』ミネルヴァ書房、2014年 [ISBN]9784623070589

山田隆司『戦後史で読む憲法判例』日本評論社、2016年 [ISBN]9784535521865

山本龍彦・清水唯一朗・出口雄一編『憲法判例からみる日本』日本評論、2016年 [ISBN]9784535522114

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！』有斐閣、2016年 [ISBN]9784641227194

長谷部恭男・石川賢治・宍戸常寿編『別冊Jurist憲法判例百選①・第6版』有斐閣、2013年 [ISBN]9784641115170

■関連科目

新しい政治学

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

新田研究室（2号館5階）・nitta@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜5限。予め、メールで連絡ください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 立憲主義と日本国憲法

予習内容 : Exercise①. 憲法は「国民を縛るものでなく」、「国家を縛るものである」。そのポイントをノートにまとめなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: 講義中における議論を踏まえながら、Exercise③. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第2回 日本国憲法の成立過程

予習内容 : Exercise②. 日本国憲法の成立過程において、民間の憲法研究会が果たした役割についてノートにまとめなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: 講義中における議論を踏まえながら、Exercise③. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第3回 包括的基本権／幸福追求権

予習内容 : Exercise③. 自らが信じる宗教の教義に従い、輸血を拒否し、死を選ぶ「自己決定権」は憲法13条が保障する「幸福追求権」に値するものなのか、ノートに私見をまとめなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: 講義中における議論を踏まえながら、Exercise③. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第4回 法の下の平等

予習内容 : Exercise④-1. 民法900条4項但書が規定する非嫡出子（婚外子）に対する相続規定（嫡出子の1/2）に対し、最高裁は、如何なる理由をもって、憲法14条が定める「法の下での平等」に違反したものであると判断したのか、論点を整理しなさい。

Exercise④-2. 2015年12月16日、最高裁は、民法733条1項が定める、離婚後6ヶ月間、女性は再婚できない、という規定は違憲であるとし、再婚禁止期間は100日で足りると判断した。しかしそれでも、最高裁の判断は、性別による差別を禁止した憲法14条、および婚姻の自由を保障した24条に抵触しないのか、検討しなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: 講義中における議論を踏まえながら、Exercise④-1. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第5回 人権主体

予習内容 : Exercise⑤. テキストの「事件1」に関して。中津川市議会は、「声が出せない議員」が希望する議場での「代読」を拒否し、パソコンによる音声変換機能による読み上げならば認めるとした。尚、「市議会側の主張」は3点に基づく（テキストpp.10-11）。それでは改めて、「市議会側の主張」は、「声が出せない議員」に対する「合理的配慮」を伴うものなのか、検討しなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: 講義中における議論を踏まえながら、Exercise⑤. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第6回 人権保障の公共の福祉

予習内容 : Exercise⑥. 憲法に登場する「公共の福祉」（12条、13条、22条および29条）とは、一体何を意味するのか、解釈を整理しなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: 講義中における議論を踏まえながら、Exercise⑥. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第7回 思想の自由

予習内容 : Exercise⑦. 「君が代ピアノ伴奏命令事件」において最高裁は、憲法19条が保障する思想・良心に対する「問

接的制約」は、「直接的制約」と異なり、必要性と合理性があり許容されると判断した。しかし、内面を侵害する「直接的制約」は違憲であるが、外観に対する「間接的制約」は、職務上の必要性と合理性からして合憲である、という議論に果たして憲法上の問題はないのか、私見をまとめなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: 講義中における議論を踏まえながら、Exercise⑦. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第8回 信教の自由

予習内容 : Exercise⑧. 「剣道受講拒否事件」において最高裁は、特定の宗教を信じる学生に対する剣道実技の受講免除およびその代替措置は、特定の宗教に対する特別扱い(援助・助長・促進)とはいえ、したがってまた憲法20条3項が定める政教分離原則に違反しないとした。最高裁の見解は妥当な判断なのか、論評しなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: 講義中における議論を踏まえながら、Exercise⑧. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第9回 表現の自由

予習内容 : Exercise⑨. 自衛隊立川宿舎の各戸玄関には、日常的に飲食店のチラシ等の商業的宣伝ビラが投函されていたにもかかわらず、自衛隊のイラク派兵反対を訴えるビラを投函した者に対して、最高裁は住居侵入罪を適用した。このような最高裁の判断は、憲法21条が保障する表現の自由を萎縮してしまわないのか、私見をまとめなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: 講義中における議論を踏まえながら、Exercise⑨. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第10回 学問の自由および教育権

予習内容 : Exercise⑩. 「指導要録開示訴訟」において最高裁は、(1)「各教科の学習の記録」の「観点別学習状況」欄と「評価」欄、および(4)「標準検査の記録」の「所見」欄の開示を認めたが、それ以外は非開示とした。それでは、非開示とされた指導要録の情報は、開示されないことが妥当なのか、私見をまとめなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: 講義中における議論を踏まえながら、Exercise⑩. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第11回 営業の自由

予習内容 : Exercise⑪. 厚労省は、薬事法の対面販売の原則を固持しつつ、第一類および第二類医薬品のインターネット販売を禁止する施行規則を定め2009年に施行した。これに対して、最高裁は、薬事法が薬のインターネット販売を一律に禁止する施行規則の制定を委任するものではないとして、かかる規定は薬事法の委任の範囲を逸脱し、違法であると判断した。このような最高裁の判断は妥当といえるものなのか、私見をまとめなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: 講義中における議論を踏まえながら、Exercise⑪. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第12回 生存権

予習内容 : Exercise⑫. 最高裁は、老齢加算違憲訴訟において、生活保護受給者のうち、70歳以上の高齢者に加算されていた、「老齢加算」(教養費、身の回り品費、保健衛生費、および嗜好品費)の支給を廃止した厚労省の裁量は認められるべきであると判断した。かかる最高裁の判断は、憲法25条の解釈として適切であるのか、私見をまとめなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: 講義中における議論を踏まえながら、Exercise⑫. について、私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第13回 環境権

予習内容 : Exercise⑬. 「ムツゴロウ干拓事業差止め事件」において、長崎地裁は、自然の権利、自然享有権、および環境権は、その権利の享有主体や権利要件および効果等が明確ではなく、権利性が未熟であると指摘した。

しかし他方、最高裁は、「国立『大学通り』高層マンション訴訟」において、開発業者を勝訴させた一方で、良好な景観の恵沢を享受する利益（「景観利益」）は法律上保護に値するとの判断を示した。

両者を総合して勘案すると、環境権を提起し、これを主張することは難しいものの、むしろ環境権を主張せず、良好な環境の恵沢を享受する利益（いわば「環境利益」）は法律上保護するに値することになるのか、私見をまとめなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本：ノートを読み返しながらか、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：講義中における議論を踏まえながら、Exercise⑬. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第14回 平和憲法

予習内容 : Exercise⑭. 自衛隊イラク派遣差止訴訟において、名古屋高裁は、憲法前文に記載されている平和的生存権について、全ての基本的人権の基礎となる「基底的権利」であり、9条に違反する戦争遂行に加担・協力を強制された場合、これに対して差止請求を行うことができる具体的権利性があると判断した。このような平和的生存権の判断は、政府の集団的自衛権の行使を差し止めることにも適用できるのか、ノートに私見をまとめなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本：ノートを読み返しながらか、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：講義中における議論を踏まえながら、Exercise⑭. について、私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

第15回 暮らしのなかの憲法

予習内容 : Exercise⑮. 「憲法解釈の積み重ねとその議論から、憲法が暮らしのなかに対自的に具現化する」といえるのか？ ノートに私見をまとめなさい。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本：ノートを読み返しながらか、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：講義中における議論を踏まえながら、Exercise⑮. について、ノートに私見を800字以内にまとめなさい。

復習時間 : 90分

定期試験

科目名： 芸術鑑賞入門			
英文名： Introduction to Appreciation of Art			
担当者： <small>イズミ ケン</small> 泉 健			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

全学共通科目の中の共通教養の一つです。研究の基礎段階において、豊かな教養と広い視野を磨いておくことは、専門課程へステップアップを図るために大切です。この科目では西洋の芸術音楽を例に取りあげながら、高度化・複雑化する社会において、専門知識・技能を活かすために不可欠な、幅広い教養を身につけることを目指しています。講義では西洋音楽の名曲を取りあげながら、音楽と社会との関係、音楽と思想との関係、音楽と同時代の美術・文学との関係などを考察していきます。授業の形式は、CDとDVDで実際の音や映像を十分に体験してもらいながら進めていきます。

■学習・教育目標および到達目標

講義を聞いて、ある音楽に感動したり、その音楽をめぐる事象に興味を持ってもらうことが、学習・教育目標です。そして、音楽をめぐるある事象に興味を持った場合に、単に講義を聞いただけでなく、それをきっかけとしてその興味を持った問題を自分でさらに調査研究し、それを文章にまとめることができるようになることが到達目標です。そのために第1回目の講義において、音楽文献学的な観点から詳細な説明をしますので、第1回目の講義から必ず出席して下さい。この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートの課題図書として提示した6冊の書籍の提示理由と各書籍の重要なポイントをUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

適時プリント配布

■参考文献

[ISBN]9784487792443『西洋音楽の歴史』(高橋 浩子, 東京書籍 : 1996)

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

授業中課題(講義をどう受け止めたかを書くカードを毎回提出 : B6版) 45%
学期末レポート (4800字A4版3枚) 55%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階)・izumi@center.wakayama-u.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 音楽文献学

予習内容 : 音楽学という学問のことをインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 30分

復習内容 : IMSLP(国際楽譜ライブラリープロジェクト)のサイトで、クラシック音楽の好きな曲の楽譜を検索してみる。

復習時間 : 60分

講義概要の説明と定期試験の内容の説明。音楽文献学的な観点から調査研究の方法、及び論文の書き方を詳しく解説します。

第2回 脳と音楽:その1

予習内容 : 人間の脳の左右の機能差をインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 30分

復習内容 : 角田忠信理論の補正すべき点を『科学朝日』1990年3,6,7月号の各研究者の論文によって確認しておく。

復習時間 : 120分

脳の中の音処理機構のシステムに注目しながら、日本人と欧米人の音処理機構の違いを考察します。

第3回 脳と音楽:その2

予習内容 : 音楽療法という医療方法についてインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 30分

復習内容 : 音楽運動療法以外の様々な種類の音楽療法について、講義内で紹介した文献などをもとに調べてみる。

復習時間 : 90分

音楽運動療法を実例にとりあげながら、音楽が人間の病気に対して持つ大きな力を脳の機能に注目して考察します。

第4回 脳と音楽:その3

予習内容 : ホメオスタシスとは何かということインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 30分

復習内容 : 大脳の中の視床と大脳基底核の機能を、講義内で紹介した文献などをもとにさらに詳しく調べてみる。

復習時間 : 90分

音楽が人間を癒すとはどのような作用なのかを、ホメオスタシスと脳の構造を学びながら考察していきます。

第5回 宇宙と音楽

予習内容 : ピュタゴラスの音楽関係の業績をインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 30分

復習内容 : ピュタゴラス音律とケプラーの惑星の音階のことを、講義内で紹介した文献などをもとに調べてみる。

復習時間 : 120分

古代ギリシャ以来の天体の音楽の歴史の思想を振り返りながら音楽と宇宙、音楽と数の関係を考察していきます。

第6回 自然と音楽

予習内容 : 日本と西洋の農業形態の相違をインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 30分

復習内容 : 渡辺正雄『日本人と近代科学』(岩波新書,1976,ISBN 978-4004160670)の第6章を読んでおく。

復習時間 : 120分

ヴィヴァルディの『四季』と三曲合奏『四季の眺め』を聞き比べながら、彼我の自然環境、自然観の相違を考察していきます。

第7回 西洋音楽史のテクスチャーの歴史

予習内容 : 西洋音楽史の時代区分をインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 30分

復習内容 : 講義で紹介した各時代の代表曲を、インターネットのyou tubeのサイトで実際に聴いてみる。

復習時間 : 120分

西洋音楽史の変遷を、作曲技法の観点からたどっていきます。

第8回 芸術概念の誕生

予習内容 : バウムガルテン,A.G.(1714-1762)という人物についてインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 30分

復習内容 : 古典派時代の音楽の思想的背景を、講義内で紹介した文献などをもとにさらに詳しく調べてみる。

復習時間 : 120分

18世紀後半に芸術という概念がどのように誕生していったかを、美学史の観点から説明します。

第9回 コンサートの成立

予習内容 : 古典派時代の音楽の歴史とコンサートの歴史を、インターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 60分

復習内容 : 講義内で紹介したモーツァルトの交響曲を、インターネットのyou tubeのサイトで実際に聴き、モーツァルトの生涯の転換点であるウィーンへの進出のことをさらに詳しく調べてみる。

復習時間 : 120分

芸術概念の誕生には、コンサートの成立が大きな役割を果たしています。英・仏・独・伊におけるその成立の様相を見ていきます。

第10回 著作権の歴史

予習内容 : ベルヌ条約とは何かということインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 30分

復習内容 : 講義内で紹介した原曲と盗作曲を、インターネットのyou tubeのサイトで実際に聴いてみる。

復習時間 : 90分

芸術概念の登場と共に著作権意識も現れてきます。コミュニケーションの歴史の観点からこの問題を考えます。

第11回 パロディーの歴史

予習内容 : ミサ曲とは何かということをインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 30分

復習内容 : 講義内で紹介したルネサンス時代のパロディー・ミサ曲の原曲とパロディー曲を、インターネットのyou tubeのサイトで実際に聴いてみる。

復習時間 : 120分

18世紀半ばまでの西洋音楽史では、パロディーは作曲上の重要な技法でした。ミサの歴史をたどりながらこの問題を考察します。

第12回 ピリオド楽器とピアノ

予習内容 : ピリオド楽器とは何かということと、ピアノの歴史を、インターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 60分

復習内容 : 講義内で紹介したピアノの前身楽器の音を、インターネットのyou tubeのサイトで実際に聴いてみる。

復習時間 : 120分

ピアノの楽器としての歴史を振り返りながら、古楽器（ピリオド楽器）の復興の歴史を考察します。

第13回 フォルテ・ピアノを使用してわかること

予習内容 : フォルテ・ピアノとは何かということをインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 45分

復習内容 : 講義内で紹介した1750-1850年代のフォルテ・ピアノの音を、インターネットのyou tubeのサイトで実際に聴いてみる。

復習時間 : 120分

古楽器としてのピアノで演奏して初めてわかる作曲家の意図をいくつか実例とともに考察していきます。

第14回 ピリオド楽器とオーケストラ

予習内容 : フルートとヴァイオリンの歴史をインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 45分

復習内容 : 講義内で紹介・分析したバッハ,J.S.の「ヨハネ受難曲」のモダン楽器とピリオド楽器の演奏を、インターネットのyou tubeのサイトで実際に比較し、その違いを体験してみる。

復習時間 : 120分

古楽器で演奏して初めてわかる作曲家の意図をいくつかの管弦楽曲を実例に考察していきます。

第15回 オペラの名曲を聴く

予習内容 : ロマン派時代のオペラの歴史をインターネットなどで調べてみる。

予習時間 : 45分

復習内容 : 講義内で紹介したヴェルディの諸作品の背景にある政治的・経済的状況を考えながら、インターネットのyou tubeのサイトで実際にそれらの作品を聴いてみる。

復習時間 : 120分

特にロマン派時代のオペラの中から、各作品の時代背景を説明しながら有名なアリア、合唱曲を中心に鑑賞していきます。

科目名：現代社会と法			
英文名：Law and Modern Society			
担当者： <small>カイボリ タカシ</small> 海堀 崇			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

私たちの暮らしは、そのさまざまな生活場面にさまざまな法律がかかわっています。生活場面で発生するトラブルの解決には法的知識が不可欠になっています。

本講義では、受講生にとって身近な話題、実務上重要な問題を取り上げ、法理論的な考察を加えていきます。

本講義は講義型ではあるものの可能な限り双方向式で理解を深めたいと考えています。

■学習・教育目標および到達目標

法的な分野についての基本的な知識、考え方の習得を目標とする。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

特になし

■教科書

特に指定しない。

六法。

■参考文献

[ISBN]978-4-641-11283-4末川博「法学入門」(有斐閣)

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

不定期に行う小テスト・レポート 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）

メールアドレスkaibori_takashi_kindai@yahoo.co.jp

(アンダーバーに注意)

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

本講義は法の基本的な考え方から個別の各法分野に順次話を進めてゆく。

科目名：現代社会と倫理			
英文名：Modern Society and Ethics			
担当者： ^{ヒラキ コウジ} 平木 光二			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

我が子のDNA鑑定やドローンの使用など、今日まさに社会問題化しつつある諸問題を取りあげ、それらを倫理学の視点から検討・考察する。

■学習・教育目標および到達目標

講義やグループ討論などを通じて、倫理とは何かについての理解を深め、日常生活にあつて倫理的に行動する意識を養うことを目標とする。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案（印刷物）を配布します。

■教科書

指定しない。毎授業時、関係資料を配布する。

■参考文献

特になし。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

定期試験 80%

授業中課題 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・hirakik@pj9.so-net.ne.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

この授業では、講義よりもむしろグループ討議（4～6人で構成）が授業の核となります。したがって初日はグループ討議の進め方などを説明するだけにとどめますが、次回から実際にグループに分かれて討論してもらうこととなりますので、受講者はこの授業形態に戸惑わないようにしてください。

第2回 倫理と法の境界

第3回 人権と表現の自由

第4回 環境倫理—自然の権利

第5回 安楽死

第6回 SNSの倫理

第7回 ドローン—その平和的・軍事的利用について

第8回 脳死と臓器移植

第9回 企業倫理(Corporate Ethics)

第10回 代理出産、ゲノム編集による不妊治療

第11回 確認テスト

予習内容 : 個々の事例についてその背景を説明できることは当然であるが、それにくわえ、自分はどちらの立場(賛否等)をとるのかを再考、再確認し、あわせてそう考える理由・根拠も示せるように用意しておくこと。
既習事項についての理解度を確認するテストを実施します。

第12回 食の倫理—Table for Two

第13回 DNA鑑定

第14回 罪と罰

第15回 薬物使用

定期試験

科目名： 現代経済の課題			
英文名： Problems of Modern Economics			
担当者： <small>シイノキ ワコウ</small> 椎木 和光			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

私たちが日々生活しているこの社会はどういう仕組みになっているのか、それにはどういう意味があるのか、より良い社会とはどういうものなのか、こういうことを考えるのが「社会科学」の分野です。経済学はこれを「経済」の視点から考え説明しようとするものです。

この授業では、現実の経済社会を理解するための手段としての経済学を扱おうと思います。何を使って、何をどれだけ、どのように造り、それをどう分けるか、これを社会全体の仕組みの基本問題として扱うのが経済学です。つまりは、社会的な「資源配分」の問題ということであり、配分をめぐる利害をどう調整するかの問題ということになります。

■学習・教育目標および到達目標

具体的なトピックスを例にとり、受講者が日々の生活のなかで現実に見聞きし体験しているさまざまな経済的事象を体系的に観察・理解できるようになることを目指します。受講する皆さんとともに授業を工夫したいと思います。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

- ①試験や各確認テストの終了後、解答例・問題解説等を配布ないし掲示板に掲示し、各人の理解・学習の促進を図ります。
- ②テスト後の適当な授業時に要点解説を行い、理解・学習の促進を図ります。

■教科書

特定の教科書は用いず、授業自体を重視します。
適宜、プリント等を配布します。

■参考文献

適宜、授業時に紹介します。

■関連科目

国際経済入門

■成績評価方法および基準

定期試験 80%

テーマの区切りごとに行う確認テスト 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）shiinoki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 社会科学としての経済学

第2回 欲望と資源配分問題

第3回 生産可能性フロンティアの概念

第4回 生産の迂回化と経済の特化・分業

第5回 交換と貨幣

第6回 経済体制の分類

第7回 資本主義市場経済

第8回 市場は完璧ではない

第9回 政府の役割と混合資本主義体制

第10回 家計・企業・政府

第11回 国民経済計算

第12回 需給の均衡と調整過程

第13回 失業・物価・貧困

第14回 世界経済の課題

第15回 まとめ

定期試験

科目名： 新しい政治学			
英文名： New Political Science			
担当者： <small>ニッタ カズヒロ</small> 新田 和宏			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

＜本講座を学ぶ目的＞

本講座は、1989年の冷戦終結後、約四半世紀におよぶ「新しい政治の世界」について、基本的な理解を深めることを目的とする。「グローバル化」・「新自由主義」・「新興国」・「人間の安全保障」・「新しい戦争」・「脆弱国家」・「グローバル・ガバナンス」・「市民社会」・「公共性の再編」・「新しい社会的リスク」・「持続可能性」・「政治改革」・「政治主導」・「マニフェスト」・「政権交代」・「大統領制化」・「福祉政治」・「環境政治」・「言説政治」・「熟議民主主義」・「ポピュリズム」・「新しい右翼」等々、これらは「新しい政治の世界」を読み解く重要なキーワードであるが、こうしたキーワードの理解も深めることを目的とする。

＜本講座において学ぶことの意義＞

本講座を通じて学ぶ意義は、「新しい政治の世界」を理解することにより、わたくしたちがいま生きている、この21世紀前半という時代が、今後どのような方向へ進むべきか、それを見極めることにある。かつて20世紀を代表する政治学者ハロルド・ラスキは、「新しい時代には新しい政治哲学が必要である」と記した。同様に、わたくしたちは、「21世紀という新しい時代には新しい政治学が必要である」、といえよう。その意味で、21世紀を導く「新しい政治学」は、現代人の必須の学問といえる。

＜本講座の方法＞

アクティブ・ラーニングとして展開する。

本講座は、明快なレクチャーをベースに据え、学生諸君のディスカッションを交え、静かに「白熱」する。

■学習・教育目標および到達目標

本講座を通じて得られるべき到達目標とは次の通りである。

①. 教科書を読み、これを正確に理解できる読解力。②. 講義を積極的に傾聴（active listening）できる能力。③. 板書に頼らずとも、自分の頭の中で情報を整理しつつ、ノートがとれる能力。④. 岩波書店から刊行されているオピニオン雑誌『世界』に所収されている政治学関係もしくは政治論の論文を読み、これを正確に理解できる読解力。⑤. 現実の政治現象に対して関心を示しつつ、基礎的な政治学的考察ができる能力。⑥. 政治に対し持論を表現できる能力。

＜ディプロマポリシーとの関連＞

「新しい政治学」の修得は、近畿大学が教養教育において掲げる目標を達成するための目的1および2の達成に関連している。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後、試験期間中に指定した日程において試験の解題を行う。

■教科書

新田和宏『新しい政治の世界』地球市民教育総合研究所／麦の郷出版（2017）

■参考文献

- ①. 明治学院大学法学部政治学科編『政治学の扉』風行社、2015年 [ISBN]9784862580900
- ②. デヴィッド・ヘルド『論争グローバリゼーション』岩波書店、2007年 [ISBN]9784000025911
- ③. 古関彰一『安全保障とは何か』岩波書店、2013年 [ISBN]9784000220774
- ④. 水島治郎『ポピュリズムとは何か』中公新書、2016年 [ISBN]9784121024107
- ⑤. 辻中豊・坂本治也・山本英弘『現代日本のNPO政治』木鐸社、2012年 [ISBN]9784833224543
- ⑥. 飯尾潤『政局から政策へ』NTT出版、2008年 [ISBN]9784757140943
- ⑦. 中北浩爾『自民党政治の変容』NHK出版、2014年 [ISBN]9784140912171
- ⑧. 内山融『小泉政権』中公新書、2007年 [ISBN]9784121018922
- ⑨. 佐々木毅『平成デモクラシー』講談社、2013年 [ISBN]9784062182584
- ⑩. 日本再建イニシアティブ『民主党政権失敗の検証』中公新書、2013年 [ISBN]9784121022332
- ⑪. 中野晃一編『徹底検証安倍政治』岩波書店、2016年 [ISBN]9784000240505
- ⑫. 大田昌秀・佐藤優『沖縄の未来をどう生きるか』岩波書店、2016年。 [ISBN]9784000611442
- ⑬. 石田徹・伊藤恭彦・上田道彦編『ローカル・ガバナンスとデモクラシー』法律文化社、2016年 [ISBN]9784589037251
- ⑭. 宮本太郎『福祉政治』有斐閣、2008年 [ISBN]9784641178021
- ⑮. 日本再建イニシアティブ『「戦後保守」は終わったのか』角川新書、2015年 [ISBN]9784040820538

■関連科目

持続可能な社会論

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

新田研究室（2号館5階）・nitta@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜5限。予め、メールで連絡ください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 古い政治の世界から新しい政治の世界へ

予習内容：基本：テキスト『新しい政治の世界』の第1講「古い政治の世界から新しい政治の世界へ」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise①。ここにAとBという2人の人間がいるとする。AはBに対して自分の言うことをきかせたい。そこで、Aはどのような方法もしくは手段を用いて、Bに言うことをきかせることができるか。私見を要領よく400字以内でノートに記述する。尚、これが政治の本質に関係する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、古い政治の世界から新しい政治の世界への流れに関して、簡潔な年表をエクセルで作成する。

跳躍：参考文献①を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第2回 グローバル化と新自由主義をめぐる政治

予習内容：基本：テキスト『新しい政治の世界』の第2講「グローバル化と新自由主義をめぐる政治」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise②。アメリカ・メジャー・リーグの野球選手イチローの給料は高かったのか？ 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「グローバル化と新自由主義をめぐる政治」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献②を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第3回 「新しい帝国」と「新しい戦争」をめぐる政治

予習内容：基本：テキスト『新しい政治の世界』の第3講「『新しい帝国』と『新しい戦争』をめぐる政治」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise③。ローマ法王フランシスコは、「戦争は神が創造した最も素晴らしいものを破壊する。戦争は、人間を殺害する」と語りつつ、「地域紛争、大量虐殺、人間の殺害、その他の侵略者やテロリストたちの犯罪」が広がる中、「世界は第三次大戦の状態にある」との懸念を発表しました（2014年9月）。それでは、このローマ法王フランシスコの発言を踏まえると、現在、「世界は第三次大戦」の真只中であると判断できるのか？ 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「『新しい帝国』と『新しい戦争』をめぐる政治」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献③を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第4回 右翼ポピュリズムと民主主義をめぐる政治

予習内容：基本：テキスト『新しい政治の世界』の第4講「右翼ポピュリズムと民主主義をめぐる政治」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise④。今日、政治の世界は、民主主義を踏み台にしながら、右翼ポピュリズムが跋扈する時代を迎えようとしているのか？ 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「右翼ポピュリズムと民主主義をめぐる政治」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献④を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間 : 90分

第5回 市民社会とガバナンスの編成をめぐる政治

予習内容 : 基本:テキスト『新しい政治の世界』の第5講「市民社会とガバナンスの編成をめぐる政治」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展:Exercise⑤. 年収が400万円あるとしたら、「認定NPO」にいくら寄附するか? また、どのような分野で活躍している認定NPOに寄附するか? 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本:ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展:また、講義を踏まえつつ、「市民社会とガバナンスの編成をめぐる政治」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍:参考文献⑤を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間 : 90分

第6回 自民党政治①55年体制:一党優位政党および包括政党

予習内容 : 基本:テキスト『新しい政治の世界』の第6講「自民党政治①55年体制:一党優位政党および包括政党」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展:Exercise⑥. 何故に、戦後、自民党は長期政権を維持しえたのか? その要因について要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本:ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展:また、講義を踏まえつつ、「自民党政治①55年体制:一党優位政党および包括政党」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍:参考文献⑤を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間 : 90分

第7回 自民党政治②利益配分政治

予習内容 : 基本:テキスト『新しい政治の世界』の第7講「自民党政治②利益配分政治」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展:Exercise⑦. 自民党「一党優位」という政党の布置状況において、野党は一体どのような存在であったのか? 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本:ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展:また、講義を踏まえつつ、「自民党政治②利益配分政治」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍:参考文献⑦を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間 : 90分

第8回 小泉政治と新自由主義改革

予習内容 : 基本:テキスト『新しい政治の世界』の第8講「小泉政治と新自由主義改革」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展:Exercise⑧. 「自民党をぶっ壊す」と叫んで登場した小泉政権は、何故に、5年5ヶ月もの長期政権を維持しえたのか? その要因について要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本:ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展:また、講義を踏まえつつ、「小泉政治と新自由主義改革」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍:参考文献⑧を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間 : 90分

第9回 政治改革

予習内容 : 基本:テキスト『新しい政治の世界』の第9講「政治改革」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展:Exercise⑨. 何故に、政治改革が選挙制度改革からスタートしたのか? 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながらか、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。
発展: また、講義を踏まえつつ、「政治改革」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。
跳躍: 参考文献⑨を繙き、さらに興味・関心を高める。
復習時間 : 90分

第10回 政権交代

予習内容 : 基本: テキスト『新しい政治の世界』の第10講「政権交代」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。
発展: Exercise⑩. 2009年の自民党から民主党への政権交代は、どのような要因に起因しているのか? その要因について要領よく400字以内でノートに記述する。
予習時間 : 90分
復習内容 : 基本: ノートを読み返しながらか、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。
発展: また、講義を踏まえつつ、「政権交代」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。
跳躍: 参考文献⑩を繙き、さらに興味・関心を高める。
復習時間 : 90分

第11回 安倍政治と新保守主義

予習内容 : 基本: テキスト『新しい政治の世界』の第11講「安倍政治と新保守主義」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。
発展: 何故に、第1次安倍政権は1年で潰えたにもかかわらず、第2次安倍政権は長期政権を維持しえているのか? その要因について要領よく400字以内でノートに記述する。
予習時間 : 90分
復習内容 : 基本: ノートを読み返しながらか、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。
発展: Exercise⑪. また、講義を踏まえつつ、「安倍政治と新保守主義」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。
跳躍: 参考文献⑪を繙き、さらに興味・関心を高める。
復習時間 : 90分

第12回 安全保障政治と沖縄をめぐる政治

予習内容 : 基本: テキスト『新しい政治の世界』の第12講「安全保障政治と沖縄をめぐる政治」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。
発展: Exercise⑫. 日米安全保障体制が再定義される中、その「定義」において沖縄はどのような位置付けがなされているのか? 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。
予習時間 : 90分
復習内容 : 基本: ノートを読み返しながらか、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。
発展: また、講義を踏まえつつ、「安全保障政治と沖縄をめぐる政治」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。
跳躍: 参考文献⑫を繙き、さらに興味・関心を高める。
復習時間 : 90分

第13回 地方政治と市民自治

予習内容 : 基本: テキスト『新しい政治の世界』の第13講「地方政治と市民自治」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。
発展: Exercise⑬. 地方議会改革を進めている自治体がある。その一つに、「議会改革ランキング」(日経グローバル)第1位となった北海道芽室町がある。芽室町の議会改革のポイントについて要領よく400字以内でノートに記述する。
予習時間 : 90分
復習内容 : 基本: ノートを読み返しながらか、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。
発展: また、講義を踏まえつつ、「地方政治と市民自治」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。
跳躍: 参考文献⑬を繙き、さらに興味・関心を高める。
復習時間 : 90分

第14回 ポスト日本型福祉国家をめぐる福祉政治

予習内容 : 基本: テキスト『新しい政治の世界』の第14講「ポスト日本型福祉国家をめぐる福祉政治」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。
発展: Exercise⑭. 選挙のたびに、有権者が最も関心のある政策テーマに社会保障がアップされる。それでは、何故に、社会保障政策に高い関心が集まるのか? そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。
予習時間 : 90分
復習内容 : 基本: ノートを読み返しながらか、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「ポスト日本型福祉国家をめぐる福祉政治」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献⑭を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第15回 「新しい政治の世界」の行方

予習内容：基本：テキスト『新しい政治の世界』の第2講「新しい政治の世界の行方」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise⑮. 今後、国際政治および日本の国内政治はどのような展開を辿ることになるのか？ その行方について、私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「新しい政治の世界の行方」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献⑮を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

定期試験

科目名： 持続可能な社会論			
英文名： Sustainable Society			
担当者： <small>ニ ッ タ カ ズ ヒ ロ</small> 新田 和宏			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

＜本講座を学ぶ目的＞

本講座は、国連の「環境と開発に関する世界委員会」（ブルントラント委員会）において提唱された「持続可能な開発（sustainable development）」という考え方の延長として議論されている「持続可能な社会(sustainable society)」について、その基本的な理解を深めることを目的とする。「持続可能な社会」とは、積極的平和に基づき、環境保全と経済成長とを両立させ、それに生活保障という側面を連動させながら、世代間および世代内における公正を実現しようとする政治が作用する社会の在り方である。

＜本講座において学ぶ意義＞

しかしながら、実際の社会の在り方は、むしろ反対に、「人口減少」・「限界集落」・「少子高齢化」・「雇用と所得の不安定化」・「若者の貧困化」・「子どもの貧困」・「無縁社会」・「シャッター商店街」・「地球温暖化」等々、「持続可能性（sustainability）」が縮減されつつある状況にある。それ故に、「持続可能な社会」を実現するための社会的条件について、それを見出す粘り強い思考を重ねることこそ、本講座において学ぶ意義があるといえる。

＜本講座の方法＞

アクティブ・ラーニングとして展開する。

明快なレクチャーをベースに据え、学生諸君のディスカッションを交え、静かに「白熱」する。

■学習・教育目標および到達目標

本講座を通じて得られるべき到達目標とは次の通りである。

①. 教科書を読み、これを正確に理解できる読解力。②. 講義を積極的に傾聴（active listening）できる能力。③. 板書に頼らずとも、自分の頭の中で情報を整理しつつ、ノートがとれる能力。④. 社会現象に潜む本質を捉え、かつまた個々の社会現象のつながりを探ろうとする態度とその洞察力。⑤. 先行する「持続可能な社会」の試みから「政策学習」を試みようとする意欲とその想像力。⑥. 「持続可能な社会」の在り方について判断し、基本的な提言を表現できる能力。

＜ディプロマポリシーとの関連＞

「持続可能な社会論」の修得は、近畿大学が教養教育において掲げる目標を達成するための目的1および2の達成に関連している。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後、試験期間中に指定した日程において試験の解題を行う。

■教科書

新田和宏『持続可能な社会』地球市民教育総合研究所／麦の郷出版（2017）

■参考文献

- ①. 環境と開発に関する世界委員会『地球の未来を守るために』福武書店、1987年 [ISBN]4828811672 C0033 P2580E
- ②. 山下祐介『限界集落の真実』筑摩新書、2012年 [ISBN]9784480066480
- ③. 増田寛也『地方消滅』中公新書、2014年 [ISBN]9784121022820
- ④. 藤田孝典『下流老人』朝日新書、2015年 [ISBN]9784022736208
- ⑤. 松田茂樹『少子化論』勁草書房、2013年 [ISBN]9784326653805
- ⑥. 橋本健二『現代貧乏物語』弘文堂、2016年 [ISBN]9784335551826
- ⑦. 小杉礼子・宮本みち子編『下層化する女性たち』勁草書房、2015年 [ISBN]9784326653942
- ⑧. 広井良典『持続可能な福祉社会』筑摩新書、2006年 [ISBN]4480063110
- ⑨. 宮本太郎『共生保障』岩波新書、2017年 [ISBN]9784004316398 C0236
- ⑩. 小室淑恵『労働時間革命』毎日新聞出版、2016年 [ISBN]9784620323725
- ⑪. 川野真治・小出裕章・今中哲二『原子力安全問題ゼミ小出裕章最後の講演』岩波書店、2015年 [ISBN]9784000229425
- ⑫. 諸富徹『「エネルギー自治」で地域再生！』岩波書店、2015年。 [ISBN]9784002709260
- ⑬. 環境省編『平成28年版環境白書』全国官報販売協同組合、2016年 [ISBN]9784865790450
- ⑭. 福川裕一・矢作弘・岡部明子『持続可能な都市』岩波書店、2005年 [ISBN]4000234099
- ⑮. デレク・ウォール『緑の政治ガイドブック』筑摩新書、2012年 [ISBN]9784480066473

■関連科目

新しい政治学

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

新田研究室（2号館5階）・nitta@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜5限。予め、メールで連絡ください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 「持続可能な開発」から「持続可能な社会」へ

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第1講「『持続可能な開発』から『持続可能な社会』へ」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise①. 持続可能な社会に対する定義を、私見として要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「『持続可能な開発』から『持続可能な社会』へ」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献①を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第2回 限界集落と「持続不可能な社会」

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第2講「限界集落と『持続不可能な社会』」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise②. 限界集落の現状は、日本社会全体の近未来を映し出す鏡と言える。この点について、私見として要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「限界集落と『持続不可能な社会』」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献②を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第3回 人口減少社会／縮小社会の行方

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第3講「人口減少社会／縮小社会の行方」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise③. およそ21世紀の100年間を通じ、日本社会は急激な人口減少を辿ることになるであろうと予測されている。かかる人口減少の要因について、要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「人口減少社会／縮小社会の行方」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献③を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第4回 超高齢社会

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第4講「超高齢社会」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise④. 超高齢社会の進展は、「下流老人」が増加する傾向を伴うことが予想されている。何故に、そうなるのか、私見として要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「超高齢社会」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献④を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第5回 少子化社会

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第5講「少子化社会」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise⑤. 島嶼部や中山間地域に較べて、経済的に裕福な大都市は合計特殊出生率が極めて低い傾向にある。何故に、そうなるのか、私見として要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「少子化社会」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献⑤を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第6回 雇用と所得の不安定化

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第6講「雇用と所得の不安定化」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise⑥. アメリカ・メジャー・リーグの野球選手イチローの給料は高かったのか？ 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第6講「雇用と所得の不安定化」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise⑥. アメリカ・メジャー・リーグの野球選手イチローの給料は高かったのか？ 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

復習時間：90分

第7回 豊かな社会における構造的貧困

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第7講「豊かな社会における構造的貧困」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise⑦. 年収200万円で生活すると、1年にいくら貯金できるか？ 試算結果を示し、その理由を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「豊かな社会における構造的貧困」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献⑦を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第8回 崩壊しつつある日本型福祉国家

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第8講「崩壊しつつある日本型福祉国家」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise⑧. 「日本型福祉国家」は稼得による生活保障および家族福祉を基盤に据えてきたが、何故にその基盤が崩れつつあるのか？ 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「崩壊しつつある日本型福祉国家」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献⑧を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第9回 ポスト日本型福祉国家

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第9講「ポスト日本型福祉国家」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise⑨. 必要とされる社会保障費を、中央銀行が超「異次元」の大発行によって賄うという大胆な政策は可能なのか？ 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「ポスト日本型福祉国家」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献⑨を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第10回 ワーク・ライフ・バランス

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第10講「ワーク・ライフ・バランス」を熟読しつつ、自分自身で選

択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise⑩. 結婚するにあたり、相手に対して望む条件として、最も重要なポイントを5つ指摘した上で、その理由に関して要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「ワーク・ライフ・バランス」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献⑩を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第11回 エネルギー選択と脱原発

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第11講「エネルギー選択と脱原発」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise⑪. 福島第1原発事故以来、原発ゼロの状態を長期間経験してきたが、今後、原発ゼロでもエネルギーの供給は可能なのか？ 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「エネルギー選択と脱原発」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献⑪を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第12回 低炭素社会と地域分散型再生可能エネルギー自給システム

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第12講「低炭素社会と地域分散型再生可能エネルギー自給システム」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise⑫. 長野県飯田市における再生可能エネルギーの普及の仕方に注目しつつ、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「低炭素社会と地域分散型再生可能エネルギー自給システム」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献⑫を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第13回 気候変動と温暖化対策

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第13講「気候変動と温暖化対策」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise⑬. 日本の温暖化対策の取り組みは決して高いパフォーマンスを示しているとはいえない。これを是正するには、どうすればよいのか？ 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「気候変動と温暖化対策」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献⑬を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第14回 持続可能な都市の条件

予習内容：基本：テキスト『持続可能な社会論』の第14講「持続可能な都市の条件」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展：Exercise⑭. 近畿大学生物理工学部が所在する和歌山県北部一帯は、如何にして持続可能な都市となり得るか？ 私見を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間：90分

復習内容：基本：ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、講義を踏まえつつ、「持続可能な都市の条件」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍：参考文献⑭を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間：90分

第15回 持続可能な開発目標2030

予習内容 : 基本:テキスト『持続可能な社会論』の第15講「持続可能な開発目標2030」を熟読しつつ、自分自身で選択した、キー・ワードを5つ、キー・センテンスを3箇所、および議論を深めたい論点を1つ、それぞれノートに記す。

発展: Exercise⑮. 国連が提示した「持続可能な開発目標2030」に対して、あなたは何かができるか? その考え方を要領よく400字以内でノートに記述する。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本: ノートを読み返しながら、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展: また、講義を踏まえつつ、「持続可能な開発目標2030」について、そのポイントを要領よく400字以内でノートに記述する。

跳躍: 参考文献⑮を繙き、さらに興味・関心を高める。

復習時間 : 90分

定期試験

科目名： 自己発見の心理学			
英文名： Psychology for Self- Discovery			
担当者： <small>オビナタ カナル</small> 大日方 薫			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

自分自身が何者であるか、どこから来てどこへ行くのか、それらを知ろうとすることは容易ではないだけに尽きることのない面白さがある。本講義では、心理学の知見を概観することによって人間の心の仕組みに様々な角度から接近し、我々が世界をどのように感じ、どのように把握しているのかを学んでゆく。「自己」なるものをそれぞれの内外に発見してゆく糸口としたい。講義形式に加え、必要に応じて質疑応答を組み入れる。

■学習・教育目標および到達目標

本講義では、自分自身を問題の中心に置き、主として次の3点から心理学を通した人間理解を深めることを目標とする。

- 1 心理学が扱う広範な領域を横断的に学び、その全体像を理解する。
- 2 人間の一般性と個別性についての相互的なつながりを理解する。
- 3 自分自身とは何かについて問い直し、自己発見への手がかりを見出す。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

講義内コメントシートについては、実施した翌回に全体に向けて取り上げる
学期末レポートについては、要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載する

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

[ISBN]9784641123458 『はじめて出会う心理学 改訂版(有斐閣アルマ)』(長谷川 寿一, 有斐閣 : 2008)

[ISBN]9784641053694 『心理学』(無藤隆他, 有斐閣 : 2004)

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

期末レポート 80%

講義内コメントシート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階254)・d01c09@gmail.com

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とする。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 心理学における「自己」

第2回 動物としての人間、生命・種としての「自己」

第3回 生まれてきた子どもとしての人間、「自己」を発見し続ける存在

第4回 動かすもの、動かされるものとしての人間、感情と動機付け

第5回 性格・知能、個体差における「自己」

第6回 ストレスへの適応、外界との関係における「自己」

第7回 カウンセリングと臨床心理学

第8回 深層の心理学における「自己」

第9回 感覚・知覚、人間はどのように外界を把握するか

第10回 記憶と忘却のメカニズム

第11回 次の手を読む、思考と学習、認知心理学

第12回 心と脳

第13回 夢の世界

第14回 社会における「自己」、関係としての「私」

第15回 「自己」という果てなき物語

科目名： 科学倫理			
英文名： Scientific Ethics			
担当者： <small>マエダ ナオキ</small> 前田 直哉			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

この講義では、科学分野の専門研究を行う者として看過することのできない倫理的問題に習熟し、社会の中で科学者として生きる上で備えるべき道徳意識を養います。

授業前半ではまず、科学者が犯してきた様々な不正行為や、科学的な装いのもとで非合理的な主張を展開する疑似科学（ニセ科学）の問題性について検討します。こうした言わば負の事例を確認した上で、そもそも科学とは何なのか、技術とは何か、科学者とはどのような集団であり、誰に対していかなる責任を負うべきか等、根本的な問題について検討します。そして授業後半では、地球温暖化や生物多様性の喪失、出生前診断や代理懐胎など、現代社会が直面している幾つかの具体的な問題を取り上げ、科学者の社会的責任について引き続き検討します。授業は配布資料をもとにした講義形式で行います。また、成績評価と単位の認定は、授業時間内に指示する小レポートと、中間試験および定期試験の内容によって判断します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者はこの授業を通して、倫理的意識を欠いた一部の科学者が犯した不正行為の実態や、合理的な裏付けを欠いた疑似科学的言説が社会にもたらす弊害に目を向け、科学者に課せられた責任の重さについて考察します。

また今現在、環境倫理や生命倫理の分野で議論されている諸問題——地球温暖化や生物多様性の保全、安楽死・尊厳死や、生殖医療における倫理的課題など——に対して、主体的に向き合う姿勢を身に付けます。

そして、レポートの作成を通して、批判的な問題意識を養うとともに、受講者自身が自らの見解、立場を明確に表明することを最終的な目標とします。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

特に指定しません。毎回、プリントを配布し、それをもとに授業を進めます。

■参考文献

幅広いテーマを取り扱うため、参考文献は数多くあります。毎回の配布資料に明記し、とりわけ重要な文献に関しては授業の中で指示します。

■関連科目

特にありません。

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

中間試験 30%

小レポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）

■オフィスアワー

火曜日2限、3限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 序論——授業の目的と概要

第2回 科学者と社会（1）——科学者の倫理的意識

第3回 科学者と社会（2）——科学者の不正行為

第4回 疑似科学（1）——身の周りの不合理なく科学>

第5回 疑似科学（2）——深刻な被害をもたらす<科学>

第6回 科学と技術（1）——科学革命と近代自然科学の成立

第7回 科学と技術（2）——科学と技術の融合

第8回 前半授業のまとめと中間試験

第9回 倫理と進化（1）——ダーウィンの進化論と倫理

第10回 進化と倫理（2）——倫理の進化

第11回 環境と倫理（1）——自然の生存権

第12回 環境倫理（2）——環境差別と環境正義

第13回 生命と倫理（1）——生殖医療

第14回 生命と倫理（2）——終末期医療

第15回 結論——科学者の社会的責任

定期試験

科目名： 情報倫理			
英文名： Information Ethics			
担当者： <small>オカ ヒロシ</small> 岡 宏			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

2003年より高校で普通教科「情報」が必修となり、情報活用の実践力、情報の科学的な理解力、情報社会に参画する姿勢を基軸に教育が行われている。大学での情報教育は、高校での教科「情報」の履修を前提に行われる。さて、1990年代終わりから商用インターネット利用が急速に進み、世界的に利用者が激増した。利用者は利便性を享受する一方、インターネット利用時の危険について理解し、身を守る対策をとり、情報を個人が自由に受発信できることに伴う課題を理解し、さらに他人に危害を与えないための配慮も求められる。さらに近年、サイバー犯罪に関連し少年少女が性犯罪に巻き込まれる危険性が増大している。国際的には、少年少女への商業的性的搾取は「児童虐待」という重大問題であることの認識を深め、社会全体で対応を考えることが喫緊の課題である。また大学でも、日常生活でインターネットを利用し、情報の受発信を行う学生が少なくないが、時に外部から著作権侵害などの警告をうけることもある。このような状況下で情報倫理教育は必須のものとなってきた。本来、情報倫理意識とは道徳的判断に委ねられている。そのため、個人の道徳的規範意識が大きく影響する。道徳的・倫理的背景には、その国の文化や社会構造が働いている。その点で、日本における情報倫理教育も完全にユニバーサルなものにはならないが、各国における課題の差異性は、異文化理解という視点では興味深い。本年度は特にサイバー犯罪と情報に関連する犯罪を中心に国際化する犯罪の一端を観察しながら情報倫理の意味について学修します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、この講義を履修することによって、

- ①情報倫理を学ぶ理由を考え、その必要性を説明し、
- ②現代社会における情報倫理の必要性と限界性を考え、
- ③情報倫理教育の今後の展望を表現する

ことができるようになります。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

課題については、講義中に要点を示し、資料を配布します。また、必要に応じて添削を行いません。

試験については、要点と課題へのアプローチをUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

各回、講義レジュメ配付。

■参考文献

[ISBN]9784879812964 『子どものケータイ利用と学校の危機管理』(下田 博次(青少年メディア研究会理事長), 少年写真新聞社: 2009)

■関連科目

情報処理基礎 I・II

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

情報倫理研究ノート 50%

■授業評価アンケート実施方法

「生物理工学部実施規程に準拠して行います。」

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階254室)・hiroshioka@socio.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

金曜日3時限後の休憩時間、4時限後の休憩時間。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

特に、授業時間以外に下記の要領で研究ノートの提出を行うこととする。

- (1)「情報倫理研究ノート」の作成。

2週間に1テーマを挙げ（但し、新聞・ニュース番組は用いない）

- ①テーマ選定の理由。
- ②テーマに関連して調べた内容。
- ③「思い、感じ、考え」たこと。
- ④第2週目では、第1週目の記述を再考する。
- ⑤どのように考えが変化したか、あるいは深化したかを分析する。

第1回 「サイバー犯罪①～被害状況（国内）～、授業概要と成績評価の説明」

予習内容 : サイバー犯罪について
予習時間 : 60分
復習内容 : サイバー犯罪①～被害状況（国内）
復習時間 : 60分

第2回 「サイバー犯罪①～インターポールの警告～」

予習内容 : インターポールの警告について
予習時間 : 60分
復習内容 : サイバー犯罪①～インターポールの警告～
復習時間 : 60分

第3回 「子どものケイタイ利用への危険意識と対応の混乱」

予習内容 : 子どものケイタイ利用について考える
予習時間 : 60分
復習内容 : 子どものケイタイ利用への危険意識と対応の混乱
復習時間 : 60分

第4回 「なぜネット遊びが増殖するのか」

予習内容 : ネット遊びとネット利用の違いを考える
予習時間 : 60分
復習内容 : なぜネット遊びが増殖するのか
復習時間 : 60分

第5回 「リスクを発生させる情報環境・構造」

予習内容 : 情報環境構造のリスクを考える
予習時間 : 60分
復習内容 : リスクを発生させる情報環境・構造
復習時間 : 60分

第6回 「ネットいじめの時代」

予習内容 : ネットいじめから子どもを如何に守るか
予習時間 : 60分
復習内容 : ネットいじめから子どもを救済する方法
復習時間 : 60分

第7回 「学校のリスク管理」

予習内容 : 学校のリスク管理の重要性
予習時間 : 60分
復習内容 : 学校のリスク管理の実態
復習時間 : 60分

第8回 「情報社会のなかの責任を考える」～【自己責任原則】

予習内容 : 自己責任とは何かを考える
予習時間 : 60分
復習内容 : 「自己責任」という表現の意味
復習時間 : 60分

第9回 「情報犯罪①～日本近代史を揺るがす事実～」

予習内容 : 征韓論とは何か
予習時間 : 60分
復習内容 : 征韓論の真実を検証する
復習時間 : 60分

第10回 「情報犯罪②～西山太吉事件・沖縄返還と日米関係～」

予習内容 : 西山事件について
予習時間 : 60分
復習内容 : 沖縄返還の真実を検証する
復習時間 : 60分

第11回 「情報犯罪③～カラー革命の真実～」

予習内容 : カラー革命について
予習時間 : 60分
復習内容 : カラー革命と民主化運動の意味を再考する
復習時間 : 60分

第12回 「情報犯罪④～アノニマスとは～」

予習内容 : アノニマスの役割
予習時間 : 60分
復習内容 : アノニマスの役割
復習時間 : 60分

第13回 「情報操作①～プライバシー権～」

予習内容 : プライバシー権とは何か
予習時間 : 60分
復習内容 : プライバシーの重要性
復習時間 : 60分

第14回 「情報操作②～データマイニング～」

予習内容 : データマッチングについて
予習時間 : 60分
復習内容 : データマイニングの必要性はあるのか
復習時間 : 60分

第15回 「情報操作③～パノプティコンとジョージ・オーウエル～」

予習内容 : パノプティコンについて
予習時間 : 60分
復習内容 : パノプティコンハ空想なのか
復習時間 : 60分

定期試験

科目名： 生物と地球環境			
英文名： Organisms and Global Environment			
担当者： <small>カトウ ツネオ アキタ モトム アノ タカシ ホシ タケヒロ タケベ ソウ</small> 加藤 恒雄・秋田 求・阿野 貴司・星 岳彦・武部 聡			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

生物集団は、気候、日照・温度、水環境、土壌環境などの多くの環境から強い影響を受けながらそれらに適応し、大きな多様性を生み出している。本講義では、生物の存在・形成・発達に対して多様な環境要因がどのような影響を及ぼすのかについて、生物の示す進化と多様性の視点を軸に解説し、人間が地球環境を保全し健康で幸福な生活を送るためになすべきことを科学技術の観点から考察する。

■学習・教育目標および到達目標

受講生は、地球規模での環境の変化と、それに適応し進化してきた生物との関連性を、生物学的観点から理解できるようになることを目標とする。この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に関与する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポート課題に関する要点と解説を、UNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

特になし。

■参考文献

[ISBN]9784274219276 [絵とき] 植物生理学入門 山本良一（編） オーム社（2016年）
[ISBN]9784759811070 植物生理学 三村徹郎・鶴見誠二（編著） 化学同人（2009年）
[ISBN]9784274208201 環境科学 吉原利一（編） オーム社（2010年）

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

レポート（5回）100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して実施する。

■研究室・E-mailアドレス

阿野研究室（西1号館4階458）・tano@waka.kindai.ac.jp
加藤（恒）研究室（西1号館5階551）・tkato@waka.kindai.ac.jp
秋田研究室（西1号館5階557）・akita@waka.kindai.ac.jp
星研究室（西1号館4階459）・hoshi@waka.kindai.ac.jp
武部研究室（西1号館6階660）・takebe@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

複数教員のため、UNIVERSAL PASSPORT (<https://waka-unipa.itp.kindai.ac.jp/>) のオフィスアワーを参照すること。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 地球環境（1）（阿野）

予習内容：地球環境問題の整理
復習内容：地球環境の成立

第2回 地球環境（2）（阿野）

予習内容：地球環境問題の原因
復習内容：持続可能な社会

第3回 地球環境（3）（阿野）

予習内容：地球環境問題の本質的原因
復習内容：持続可能な社会と環境技術

第4回 生物の多様性と進化 (1) (加藤 (恒))

予習内容 : 生物の系統について予習する。

復習内容 : 種概念と種の多様性について復習する。

第5回 生物の多様性と進化 (2) (加藤 (恒))

予習内容 : 進化について予習する。

復習内容 : 進化の概念と種分化の機構について復習する。

第6回 生物の多様性と進化 (3) (加藤 (恒))

予習内容 : 進化について予習する。

復習内容 : 進化と多様性との相互関係について復習する。

第7回 植物と環境 (1) (秋田)

予習内容 : 参考図書等を手がかりに植物の構造、葉緑体、光合成について調べる。

復習内容 : 予習した内容、ユニパに掲載したパワーポイント(講義中の資料)と授業中に書いたメモをもとに講義ノートを作成させる。

第8回 植物と環境 (2) (秋田)

予習内容 : 参考図書等を手がかりに光合成(C4型、CAM型)、窒素と硫黄の同化について調べる。

復習内容 : 予習した内容、ユニパに掲載したパワーポイント(講義中の資料)と授業中に欠いたメモをもとに講義ノートを作成させる。

第9回 植物と環境 (3) (秋田)

予習内容 : 参考図書を手がかりに、ファイトレメディエーションについて調べる。

復習内容 : 予習した内容、ユニパに掲載したパワーポイント(講義中の資料)と授業中に書いたメモをもとに講義ノートを作成させる。

第10回 食糧生産と環境 (1) (星)

予習内容 : 1960年代から1970年代にかけての世界の食糧増産に貢献した主要技術は何か調べておく。

復習内容 : 持続的農業の実践的技術にはどのようなものがあるのか調べてまとめる。

第11回 食糧生産と環境 (2) (星)

予習内容 : 食糧に関係する環境アセスメント技術にはどのようなものがあるか調べておく。

復習内容 : LCA、CFP、VWの食糧に関する実施事例を調べ、その問題点と解決法について考える。

第12回 食糧生産と環境 (3) (星)

予習内容 : 世界の国別食料自給率を調べ、日本と比較し、日本の占める順位について考察する。

復習内容 : 2030年には、努力によって日本の食料自給率をどの程度向上させることができるか。考えられる方法と、それによりどの程度向上できるかまとめる。

第13回 生物農薬 (1) (武部)

予習内容 : ユニバーサルパスポートにレポート課題があるので、レポート作成の予定を立てておく。レポート作成における注意点等は授業で説明する。

復習内容 : レポートに記述すべき項目および検討すべき内容について講義で説明するので、それを参考に各自で調べ、レポートの概要をまとめること。

第14回 生物農薬 (2) (武部)

予習内容 : 創造する農薬、または生産システムについて、候補をいくつか作っておくこと。

復習内容 : レポートにする農薬またはシステムについて、機能や性質を具体的にまとめる。

第15回 生物農薬 (3) (武部)

予習内容 : 引き続き、レポートの構想をまとめる。

復習内容 : レポートはユニバーサルパスポートに提出する。その前に、もう一度読み返して論理構成をチェックすること。

科目名：医療・科学・暮らし			
英文名：Medical Care, Science and Daily Life			
担当者： <small>アサイ マサミツ</small> 浅居 正充・ <small>キムラ ユウイチ</small> 木村 裕一・ <small>キタヤマ イチロウ</small> 北山 一郎・ <small>ミヤシタ ナオユキ</small> 宮下 尚之・ <small>ニシテ ヨシアキ</small> 西手 芳明・ <small>フジイ マサオ</small> 藤井 雅雄			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

健康や病気そして食と暮らしの安全など、人間生活の質の維持と向上に関する課題に強い関心がよせられている。本講では、現代社会・未来社会を支える研究者・技術者に必要な科学的教養の獲得を目的に以下の講義を行う。

(西手芳明) ヒポクラテス時代の医術から現代医療への変遷に科学の成果が果たした役割は極めて大きい。現代医療を成し支えている科学について概説し、人体の構造とその機能を代行する医療機器についての特徴や働き、安全管理の技術について概説する。

(宮下・浅居・木村) 医療や暮らしを支えるコンピュータ・エレクトロニクス技術に関する話題をとりあげ、生命科学、生体情報処理、生物の仕組みとの関わりや応用につき概説する。

(藤井雅雄) 現代社会の暮らしにおいては、様々なエネルギーと工業製品（特に家電製品）なくして快適な生活は実現できない。快適な生活環境とは何かを、熱・温度という視点から、身近な空気と水を通して概説する。

(北山一郎) 質の高い人間生活とは何かを考察し、それを実現する医療・福祉機器について、例えば障がいを克服して充実した生活を実現する福祉用具・ウェルネス機器などの教材をもとにヒューマンマシンシステムの観点から概説する。

■学習・教育目標および到達目標

- ・医療機器の役割や意義、安全管理について理解ができること。
 - ・コンピュータ・エレクトロニクス技術の生命科学との関わりや応用が理解できること。
 - ・暮らしの中の冷暖房など具体例を通して、熱や流体の移動に関する基本概念を学び、快適な生活空間を実現するための方法を数式を用いて検討することができること。
 - ・ロボットをはじめとする人間と機械の共存を目指した21世紀社会において、福祉や介護の分野では現状どのような機器システムが開発されているのか、その代表例を知ることで人間と機械のインターフェースの重要性を理解すること。
- この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に参与している。各学科ディプロマポリシーとの対応については、学科カリキュラムマップに示す。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートの内容に基づいて、それに応じた指導を行う

■教科書

適宜資料を配付する。

■参考文献

特になし。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

レポート 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

北山研究室（西1号館1階152）・kitayama@waka.kindai.ac.jp

宮下研究室（東1号館2階217）・miya@waka.kindai.ac.jp

浅居研究室（東1号館3階313）・asai@info.waka.kindai.ac.jp

木村研究室（東1号館4階410）・ukimura@waka.kindai.ac.jp

西手研究室（東1号館2階218）・menisite@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

浅居正充 火5限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 医療機器とは

予習内容：医療機器の定義について予習すること。

予習時間：120分

復習内容：講義後のノートを見返し医療機器についての見識をさらに深めること。

復習時間 : 120分
医療機器について解説を行い、実際の使用例を提示して講義を行います。

第2回 医療現場で用いられる医療機器 1

予習内容 : 呼吸器および循環器系の臓器について調べておくこと。
予習時間 : 120分
復習内容 : 呼吸器および循環器系の臓器の役割とそれぞれの関係性を再確認すること。
復習時間 : 120分
呼吸器および循環器系の機能を代行する医療機器について講義を行います。

第3回 医療現場で用いられる医療機器 2

予習内容 : 代謝系の臓器について調べておくこと。
予習時間 : 120分
復習内容 : 代謝系の臓器の役割とそれぞれの関係性を再確認すること。
復習時間 : 120分
代謝系の機能を代行する医療機器について講義を行います。

第4回 医療機器の安全管理

予習内容 : 医療機器使用についてトラブルやアクシデントについて調べておくこと。
予習時間 : 120分
復習内容 : 医療機器使用についてトラブルやアクシデントの対策など講義を振り返り、再確認すること。
復習時間 : 120分
医療事故・事例を紹介して医療機器の安全管理について講義を行います。

第5回 生命科学とコンピュータ -アルツハイマー病の分子機構-

予習内容 : スーパーコンピュータや分子シミュレーションの概要について書籍やインターネットで調べる。
予習時間 : 150分
復習内容 : スーパーコンピュータ・たんぱく質と医療・生活との関わりについて考察する。
復習時間 : 90分
スーパーコンピュータに関する基礎知識とそれを用いた生体分子シミュレーションの話題について講義し、その一つの例としてアルツハイマー病の分子機構について講義する。

第6回 生命に学ぶ、"光"をあやつる技術

予習内容 : 電磁波に関する物理につきインターネット等で調べておく。
予習時間 : 150分
復習内容 : 人工媒質(メタマテリアル)につき概説できるよう講義内容を復習する。
復習時間 : 90分
人工電磁波媒質の研究につき紹介し、負の屈折率、透明マント等の関連トピックにつき解説する。

第7回 画像の医学への応用 -アルツハイマー病の画像診断の実現に向けて-

予習内容 : PETについてインターネット上の情報源に
当り、その概略を把握する。
予習時間 : 150分
復習内容 : PETを用いたアルツハイマー病早期診断の流れを、自分の言葉で
説明できるように、講義内容を復習する。
復習時間 : 90分
認知症の過半数を占め、治療薬の開発も進んでいるアルツハイマー病は、 $A\beta$ の脳組織への蓄積が原因であることが確定しています。そこで、陽電子断層画像法(PET)を放射性同位体を使って合成した対 $A\beta$ 分子プローブとの組み合わせによる、アルツハイマー病の画像診断法について説明します。

第8回 暮らしの中のエネルギーと快適性

予習内容 : 暮らしを支えるエネルギー源について調査する。
予習時間 : 90分
復習内容 : 熱エネルギーの特性を考察する。
復習時間 : 150分
暮らしを支えるインフラについて述べ、冷房と熱中症を例にして健康維持と省エネの重要性を解説する。

第9回 省エネ対策1 (エアコンの設定温度を変える)

予習内容 : 冷暖房の設定温度は何℃が推奨されているか調査する。
予習時間 : 90分
復習内容 : 設定温度による冷暖房負荷の変化を数式を用いて考察する。
復習時間 : 150分

省エネ対策として、冷暖房負荷の低減についてニュートンの法則を用いて解説する。

第10回 省エネ対策2 (人間の体温調節のメカニズムを知る)

予習内容 : 暑さ寒さをしのぐための生活の知恵を調査する。
予習時間 : 90分
復習内容 : 熱伝導に関するフーリエの法則を用いて、省エネ対策を検討する。
復習時間 : 150分

人間が快適と感じる皮膚温を維持するための対策をフーリエの法則を用いて解説する。

第11回 暮らしを支えるICT技術 (半導体連鎖)

予習内容 : 半導体技術の進展の暮らしへの影響を調査する。
予習時間 : 150分
復習内容 : IoTの進展の暮らしへの影響を考察する。
復習時間 : 90分

快適な暮らしは様々な工業製品に支えられており、特に半導体の進歩によるところが大きいことを解説する。

第12回 ヒューマン・マシーンシステム

予習内容 : ヒューマン・マシーンシステムの代表例を事前に調べておくこと。
予習時間 : 150分
復習内容 : ヒューマン・マシーンシステムについて概説できるよう復習すること。
復習時間 : 90分

人間と機械が一体となって作業を遂行するシステムのモデルと開発・製品事例を説明する。

第13回 生活支援機器

予習内容 : 生活支援機器の代表例を事前に調べておくこと。
予習時間 : 150分
復習内容 : 生活支援機器について概説できるよう復習すること。
復習時間 : 90分

障がい者や高齢者の生活を支援する機器・システムの事例とそこに用いられている技術を解説する。

第14回 バリアフリー、ユニバーサルデザイン

予習内容 : バリアフリーとユニバーサルデザインの代表例を事前に調べておくこと。
予習時間 : 150分
復習内容 : バリアフリーとユニバーサルデザインについて概説できるよう復習すること。
復習時間 : 90分

私たちの生活を豊かにし、参加の機会を推進する方策としてのバリアフリー、ユニバーサルデザインを事例を用いて解説する。

第15回 ウェルネス機器

予習内容 : ウェルネス機器の代表例を事前に調べておくこと。
予習時間 : 150分
復習内容 : ウェルネス機器について概説できるよう復習すること。
復習時間 : 90分

代表的な医療機器と健康長寿推進を進めるウェルネス機器の事例とそこに用いられている技術を解説する。

科目名： 国際経済入門			
英文名： Introductory International Economics			
担当者： <small>シイノキ ワカウ</small> 椎木 和光			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

経済学は基本的に「資源配分」の問題を扱い、配分をめぐる利害をどう調整するかを考えます。国際経済も、国境を越えた資源の配分と調整の課題をもっています。

経済活動が国境を越えグローバル化しているという表現は、すでに常識化しており当然のごとく受け入れていると思います。世界経済は、経済グローバル化を支えるためにいくつか基本的な枠組みを作り、その中で動いています。皆さんも現実に見聞きし実感している所があると思います。

他方、それぞれの国の社会経済の状況は多様であり、すべての国の利害が一致して同一方向に向いている訳ではありません。それぞれの国は自国の利害に対応した施策（政治的判断）をとって、経済活動に独白の枠組みを与えています。国際間で不調和（対立）が表面化する事もあります。これもまた見聞きし体験していることと思います。

■学習・教育目標および到達目標

この授業では、この2つが現実の社会でどのように影響し合っているかを念頭に置きつつ、国際経済を観察・理解できるよう基礎を学ぶことを目指します。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

①試験や各確認テストの終了後、解答例・問題解説等を配布ないし掲示板に掲示し、各人の理解・学習の促進を図ります。

②テスト後の適当な授業時に要点解説を行い、理解・学習の促進を図ります。

■教科書

特定の教科書は用いず、授業自体を重視します。

適宜、プリント等を配布します。

■参考文献

適宜、授業時に紹介します。

■関連科目

現代経済の課題

■成績評価方法および基準

定期試験 80%

テーマの区切りごとに行う確認テスト 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階） shiinoki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 現代の国際経済

ーはじめに

第2回 世界大恐慌からの教訓

第3回 ブレトンウッズ体制とGATT

第4回 東洋の奇跡

一戦後の日本経済

第5回 ニクソンショックとオイルショック

一戦後国際経済の転換

第6回 レーガノミックスとプラザ合意

第7回 ウルグアイランドの締結とWTO

第8回 ヨーロッパの経済統合化

第9回 為替レート変動のもつ意味

第10回 外国為替市場の基本構図

第11回 為替リスクと国際貿易

第12回 国際貿易と経済成長

第13回 比較優位と国際貿易

第14回 現代の国際経済と通商問題 一FTAへの動き

第15回 まとめ

定期試験

科目名：日本近現代史			
英文名：Modern Japanese History			
担当者： <small>ナガサワ カズエ</small> 長沢 一恵			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

明治維新からアジア・太平洋戦争前後の日本歴史の流れを、おもに「民主化の発展と平和の模索」のテーマから理解します。開国によって近代国家として出発した日本は、大日本帝国憲法のもとで大正民主化期には民衆の社会要求や権利意識の高まりを背景として多彩な言論や社会運動を展開し、政党政治の成立へと結実するとともに、一方では差別や植民地支配、戦争、移民問題など複雑で多面的な課題を抱える社会でした。

講義では、こうした内外の問題を広く捉えながら、差別・戦争・植民地統治・ナショナリズムといった20世紀が抱えていた諸問題の解決を図るなかで追求された民主主義や「平和」の価値を見直すことによって、これからの国際社会のありかたを考える手がかりにしたいと考えます。

■学習・教育目標および到達目標

- ①日本現代史の基礎的な知識や流れを学ぶ。
 - ②多様で重層的な社会構造や国際関係のなかで歴史を捉える相対化の視点を養う。
 - ③戦後に継承される民主主義や平和の意義について理解を深める。
- この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1および2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に「試験の要点と解説」をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

教科書は使用せず、授業プリントを配付します。

■参考文献

- 『日本の時代史』18～30巻（吉川弘文館）2003年～2004年
『日本の歴史』20～25巻（講談社）2002年～2003年
歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座』8～10巻（東京大学出版会）2005年
『シリーズ日本近現代史』全10巻（岩波新書）2006年～2010年
【ISBN】9784004307679 鹿野政直『日本の近代思想』（岩波新書）2002年
【ISBN】9784004309550 中村政則『戦後史』（岩波新書）2005年

■関連科目

暮らしのなかの憲法、人権と社会1・2、国際社会と日本

■成績評価方法および基準

定期試験 60%
授業中に行う小レポート 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階254）・kazue_nagasawa@yahoo.co.jp

■オフィスアワー

当該科目開講期間の火曜5限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス

第2回 明治維新

第3回 自由民権運動

第4回 明治憲法体制の成立

第5回 日清・日露戦争

第6回 第一次護憲運動と大正政変

第7回 大正デモクラシーと憲法論争

第8回 大正デモクラシーの展開

第9回 琉球処分と「沖縄県」設置

第10回 ソテツ地獄と伊波普猷

第11回 南洋「委任統治」と沖縄移民

第12回 アジア・太平洋戦争と「沖縄戦」

第13回 米軍統治と「琉球政府」

第14回 沖縄「復帰運動」

第15回 第五福竜丸事件

定期試験

科目名： 国際社会と日本			
英文名： International Society and Japan			
担当者： <small>ニッツタ サチオ</small> 新田 幸夫			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

私たちが認識できる「世界」は限られています。環境や時代に制約され、認識する範囲が限定されています。しかし、この科目では、制約された範囲を乗り越えて、ヨーロッパ、アフリカ、中東、南北アメリカ、中国などの国々が抱えるさまざまな問題、特に国際紛争、貧困、環境、エネルギーなどの観点からそれらを概観し分析していきます。そうして、国際的な感性を養っていきます。

■学習・教育目標および到達目標

受講生は、ヒトとモノが地球規模的な動きをしているなかで、1) その発端となった世界戦争・冷戦そしてグローバリゼーションの現況などを理解して、国際社会の中での自分の立ち位置をしっかりと見つめることから始めます。そして2) 中東、アフリカ、南米、さらに中国の現状とそれぞれの歴史的背景を学びつつ、3) 世界の問題を身近なこととしてとらえ、思考を重ねて徐々に自らの高邁な世界観等を養っていくこととなります。この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

- 1) 授業中の質疑応答形式問題(ミニッツペーパー)の用紙を提出したその次の週の講義時間に、補足説明が必要と思われる点があれば、再度解説します。
- 2) 定期試験一週間前に講義内容の復習をします。

■教科書

適宜プリントを配布します。

■参考文献

適宜授業時に紹介します。

■関連科目

なし

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

授業中の質疑応答形式問題(ミニッツペーパー) 40%

■授業評価アンケート実施方法

「生物理工学部実施規定に準拠して行います。」

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階)・snittaskmj0715@yahoo.co.jp

■オフィスアワー

金曜日 1限と2限の間

講師控室 2号館2階

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 グローバリゼーションについて

予習内容 : グローバリゼーションの意味を調べておくこと

予習時間 : 60分

復習内容 : 講義内容でのグローバリゼーションを復習すること

復習時間 : 60分

グローバリゼーションについての是非を問う

第2回 国民国家と世界大戦の関係について

予習内容 : ナショナリズムの意味を考えノートに記しておくこと

予習時間 : 60分

復習内容 : ナショナリズムとグローバリズムの違いを確認すること

復習時間 : 60分

第3回 米ソ冷戦について

- 予習内容 : 冷戦とは何かを調べておくこと
予習時間 : 60分
復習内容 : 冷戦時の外交が現在どのような影響を与えているかを復習すること
復習時間 : 60分
冷戦時期にとられた外交政策と国際秩序について

第4回 冷戦後のアフリカ

- 予習内容 : アフリカの紛争地帯について調べておくこと
予習時間 : 60分
復習内容 : 民族自決による植民地から独立国へ過程を復習すること
復習時間 : 60分
アフリカの国で紛争が勃発した紛争の要因

第5回 中南米の地域性

- 予習内容 : 中南米の諸国の問題点について調べておく
予習時間 : 60分
復習内容 : 中南米の同盟の在り方を復習すること
復習時間 : 60分
中南米の地域性とアメリカ合衆国の影響について

第6回 イスラムと国際社会

- 予習内容 : イスラム教の基本構造について調べておくこと
予習時間 : 60分
復習内容 : イスラム教と戦争に関して復習しておくこと
復習時間 : 60分
イスラム教と戦争について

第7回 中国とグローバリゼーション

- 予習内容 : 中国の現代史を調べておくこと
予習時間 : 60分
復習内容 : 中国共産党軍と国民党軍による争いを復習すること
復習時間 : 60分
中華人民共和国の成立に関して

第8回 外交とは

- 予習内容 : 外交とは何かを調べておくこと
予習時間 : 60分
復習内容 : 外交の多様化に関して復習すること
復習時間 : 60分
外交の起源と外交の任務ならびに多様化に関して

第9回 国連の役割

- 予習内容 : 国際連合に関して概要を調べておくこと
予習時間 : 60分
復習内容 : 国連の働きを復習すること
復習時間 : 60分
国際連盟と国際連合に関して

第10回 世界における民主主義の現状

- 予習内容 : 人権の歴史を調べておく
予習時間 : 60分
復習内容 : 民主主義の拡大に関して復習すること
復習時間 : 60分
人権の保障に関する歴史を概観する

第11回 世界の貧困問題

- 予習内容 : 貧困とは何かを調べる
予習時間 : 60分
復習内容 : 世界の貧困の現状を復習すること
復習時間 : 60分
貧困に関する状況を解説する

第12回 地球の環境問題

- 予習内容 : 自然環境における問題点を挙げておくこと
予習時間 : 60分
復習内容 : 国際関係論に関する地球環境問題を復習すること
復習時間 : 60分
国際関係論から見た地球の環境問題と自然環境の問題について

第13回 国際社会と情報化

- 予習内容 : 情報化という言葉の定義を調べておくこと
予習時間 : 60分
復習内容 : 情報化社会とアイデンティティについて復習しておくこと
復習時間 : 60分
情報化社会とは何かを考える

第14回 地政学について

- 予習内容 : 地政学の辞書的意味を調べておくこと
予習時間 : 60分
復習内容 : 国家間における争いの原因となる事例を復習すること
復習時間 : 60分
地政学とは何かについて

第15回 国際社会と現在の日本

- 予習内容 : これまでの資料を整理すること
復習内容 : 試験に向けて準備をすること
コンパクトに総復習を行う

定期試験

1. グローバリゼーションに関して
 2. アフリカの国で紛争が勃発した紛争の要因として考えられることについて
 3. 冷戦時期にとられた外交政策について
 4. 中国の周恩来首相とインドのネルー首相の平和五原則について
 5. イスラム教の基本構造と政治の基本単位について
- など

科目名： 国際化と異文化コミュニケーション			
英文名： Internationalization and Cross Cultural Communication			
担当者： <small>ハットリ ケイコ</small> 服部 圭子			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

国際社会において異なる言語や文化を持つ人々との接触場面で、自信を持って発信できるコミュニケーション能力の育成、他者と対等に関わる態度の育成やアイデンティティの確立など、異文化リテラシー能力の育成を目標とする。
 ・授業はペアで話したり、色々なグループを形成して意見交換したりしますので、積極的に授業に参加してください。
 ・毎回、考えたことや学んだことなどを振り返り、感想をまとめて提出してもらいます。

■学習・教育目標および到達目標

異文化コミュニケーションの理論を学習するとともに、多文化化する日本の現状や課題を知り、滞日する外国人との対等な関係性構築のための日本人の態度や、受け入れる側の制度などについても考えることができるようになる。さらに、言語意識の育成をめざし、複言語・複文化意識の大切さにも触れる。議論やロールプレイ、体験談の傾聴などを通して異文化コミュニケーションスキルや態度の育成を目指す。
 この科目の修得は、学部のプロマポリシー5、近畿大学教養科目の目的2、3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

課題提出後、その期の授業時間内に、その内容の要点と解説、主要概念の提示を行います。

■教科書

特になし。

■参考文献

講義時に必要な参考文献の紹介を行います。

■関連科目

言語文化学入門

■成績評価方法および基準

課題レポート 60%
 授業中の発表 20%
 授業ごとのまとめ・提出物 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

服部研究室（2号館5階513室）・khattori@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜5限（その他の時間帯は、事前に予約してください）。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション・国際化と日本社会の多文化化

授業の進め方の説明、受講に関しての留意事項、課題や評価についての説明を行う。
 日本社会の多文化・多言語化について、外国人数、ことばの数などの視点から考える。

第2回 地域に在住する外国人と日本社会

日本在住の外国人が抱える生活上・言語上の現状について知り、課題を挙げて、その解決法について議論する。

第3回 グローバル化とその課題

「グローバル化」とは何か、政策、社会の現状、およびことばやアイデンティティの問題などを通じて考える。

第4回 リングイスティック・ランドスケープ（言語景観）

Linguistic landscapeの概念を学び、実際に学内や街の言語現象を視覚的に捉える。同様に、日本の多文化・多言語化現象を観察する。

第5回 異文化コミュニケーションの基礎概念

コミュニケーションと自己開示、さまざまなコミュニケーションモデル、コミュニケーションの類型、異文化コミュニケーションに大切な視点などを学び、コミュニケーションとは何かについて考える。

第6回 ことばによるコミュニケーション

高テキスト文化・低テキスト文化、スピーチアコモデーション、日本語の文字・表記による意味の異なり、などの視点から、ことばを用いたコミュニケーションについて考える。

第7回 非言語コミュニケーション

非言語的手段のルール、コミュニケーションにおいて非言語が占める割合、距離と空間などについての知識を得る。ジェスチャー、マナーやタブーなどについて、異文化による相違について学ぶ。レポート①提出。

第8回 カルチャーショックと異文化適応

カルチャーショック、ステレオタイプ、偏見などの概念について学ぶ。自らの異文化体験を振り返る。

第9回 言語と文化 (1)：価値観と文化的特徴・日英発想法

文化観・文化内での価値観のバリエーション、言語・現実・思考を関連づけて捉える概念について学ぶ。日本語と英語の発想法の違い、ことばと文化の関係について考える。

第10回 言語と文化 (2)：言語意識・言語とコミュニケーション①

世界の言語、日本の言語、わたしのことばについて知る。世界の言語と英語の位置づけについて考える。

第11回 言語と文化 (3)：複文化・複言語意識・言語とコミュニケーション②

欧州の言語政策および多言語・多文化主義、複言語・複文化主義について学ぶ。実際に色々な言語を聞く機会を持ち、様々な言語のルールを見つける体験をする。

第12回 言語と文化 (4)：日本語の相対化・言語とコミュニケーション③

世界の挨拶、「すみません」の意味、日本語の特徴などを見直し、言語と文化を結ぶ視点や話し手との関係性について考える。

第13回 人の移動と課題

移民、人の移動について知り、実際に語られたインタビューの内容から人々の想いを学ぶ。日系ブラジル人を対象に、読み物教材やカルタを用いて、その背景や歴史等について学ぶ。

第14回 日本社会と異文化間コミュニケーション、

職場の人間関係、挨拶等、日本社会で働くために大切だと考える知識や態度について考える。メッセージの受け取り方の違いによって生じる誤解を整理することに役立つD I E法について学ぶ。

第15回 国際化と異文化コミュニケーションのまとめ (2)

言語・(異)文化・ことば・コミュニケーション」について、授業を通して気づいたことや考えたことなどについて振り返り、グループで議論する。グローバル化する社会において大切な態度について話し合う。レポート②提出。

科目名： 国際化と異文化コミュニケーション			
英文名： Internationalization and Cross Cultural Communication			
担当者： <small>ニ ッ ツ サ チ オ</small> 新田 幸夫			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

国際社会において、異文化のコミュニケーションを理解することは重要である。そのために英語などの言語的見地からのアプローチのみならず、多様化する国際交流、多文化共生、国際化、グローバル化などの異文化コミュニケーションに関する基礎知識を理解し、その内容を習得する必要がある。本講義では、各項目に即して説明した後に、2, 3の質疑応答を行い、その理解を深めていく。

■学習・教育目標および到達目標

本講義では、政治的・歴史的・文化的背景の異なる人たちとコミュニケーションを展開するときに影響を与えるさまざまな要因を分析し考察を行う。そうして、さまざまなケースに関して、学生がその対応を考え、実行できることを目標とする。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的2の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

1) 授業中の質疑応答形式問題(ミニッツペーパー)の用紙を提出したその次の週の講義時間に、補足説明が必要と思われる点があれば、再度解説します。

2) 定期試験一週間前に講義内容の復習をします。

■教科書

適宜プリントを配布します。

■参考文献

適宜授業時に紹介します。

■関連科目

なし。

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

授業中の質疑応答形式問題(ミニッツペーパー) 40%

■授業評価アンケート実施方法

「生物理工学部実施規定に準拠して行います。」

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階)・snittaskmj0715@yahoo.co.jp

■オフィスアワー

金曜日 1限と2限の間

講師控室 2号館2階

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 コミュニケーションとは

予習内容 : あなたにとってコミュニケーションとは何かを考えてくること

予習時間 : 60分

復習内容 : 相手に対する効果とは何かを復習すること

復習時間 : 60分

送り手と受け手における「情報処理システム」について

第2回 コミュニケーションの前提と制約

予習内容 : コミュニケーションをとる前提条件とは何かを考えてくること

予習時間 : 60分

復習内容 : 何のためのコミュニケーションかを復習すること

復習時間 : 60分

コミュニケーションの前提と制約について考察をする

第3回 異文化とは

- 予習内容 : 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションとは何かを調べてくること
予習時間 : 60分
復習内容 : 講義の内容を復習し、異文化との対応においてさらに考察をすること
復習時間 : 60分
異文化コミュニケーションに関して

第4回 コミュニケーション・その前提と制約、異文化に関する復習

- 予習内容 : これまでの講義内容のノートの整理をすること
予習時間 : 60分
復習内容 : コミュニケーションに現れる3つの型を復習すること
復習時間 : 60分
これまでの内容に関する資料を配布し、考えを深める

第5回 報道について

- 予習内容 : 報道の中立性について考えてくること
予習時間 : 60分
復習内容 : 報道に関する講義の復習をすること
復習時間 : 60分
報道とは、報道機関とは、メディアとは、ジャーナリズムとは、取材とは、などを検討し、報道の原則等を講義する。

第6回 マスコミュニケーションの効果

- 予習内容 : 新聞紙面の記事についてその編集の在り方を考えてくること
予習時間 : 60分
復習内容 : 報道の構造的性質について復習すること
復習時間 : 60分
マスメディアの効果と選択性について

第7回 日本のメディアの構造について

- 予習内容 : メディアに関する問題点を調べること
予習時間 : 60分
復習内容 : 日本のメディアの問題を復習すること
復習時間 : 60分
テレビと新聞に関する日本のメディアの構造とは

第8回 テレビの報道について

- 予習内容 : これまでの講義の資料を参考にテレビの報道についてを覚えておくこと
予習時間 : 60分
復習内容 : 講義内容の復習をすること
復習時間 : 60分
テレビ報道の問題点を指摘し、マスメディアの在り方を考察する

第9回 情報革命について

- 予習内容 : 情報化社会での恩恵について考えてくること
予習時間 : 60分
復習内容 : 情報化社会の講義内容の復習をすること
復習時間 : 60分
情報化社会の特徴について

第10回 日本の報道の構造の復習

- 予習内容 : これまでの講義の資料を整理し復習をすること
予習時間 : 60分
復習内容 : 日本の報道のメカニズムについて復習すること
復習時間 : 60分
マスコミュニケーションの効果と構造的性質のメカニズムの復習

第11回 会話・対話について

予習内容 : それぞれの言葉の定義を調べておくこと
予習時間 : 60分
復習内容 : 対話に関して、ギリシャの対話に関する資料を復習すること
復習時間 : 60分
会話・対話についてそれぞれ検証する

第12回 討論について

予習内容 : 討論とは何であることを確認すること
予習時間 : 60分
復習内容 : 討論の是非について復習すること
復習時間 : 60分
テレビ討論会などの事例を検証する

第13回 報道・会話・対話・討論におけるコミュニケーションの復習

予習内容 : これまでの講義の資料を整理し復習をすること
予習時間 : 60分
復習内容 : どのようなコミュニケーションをとるかでその方法を理解できるように復習すること
復習時間 : 60分
報道の原則ならびに責任、会話と対話の違い、討論の限界に関する復習をする

第14回 グローバリゼーションについて

予習内容 : グローバリゼーションの意味を調べておくこと
予習時間 : 60分
復習内容 : 講義内容でのグローバリゼーションについて復習すること
復習時間 : 60分
グローバリゼーションについての是非を問う

第15回 異文化コミュニケーションに関する総復習

予習内容 : これまでの資料の整理をすること
予習時間 : 60分
復習内容 : 定期試験に向けた準備を行うこと
復習時間 : 60分
コミュニケーションの成立に関して、対話の基本原則などこれまでの講義内容の総復習

定期試験

1) 対話の基本原則について 2) コミュニケーションの成立に関して 3) マスコミュニケーションのメカニズムについて
4) 異文化に遭遇した時に関して 5) 情報化社会に関して

科目名： 里山の環境学			
英文名： SATOYAMA			
担当者： <small>ニッタ カズヒロ</small> 新田 和宏			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

＜本講座を学ぶ目的＞

本講座は、里山に関する基本的な理解を深め、里山の環境を保全するために必要とされる、「技」を含めた、基本的な「身体知」を習得することを目的とする。それ故に、本講座は大変興味深い講座である。

＜本講座において学ぶ意義＞

現在、わが国の里山は危機的状況にある。多く見積もっても、里山全体の5%程度しか、適正な管理がおこなわれていない。また、里山ボランティアによる管理は、わずかに0.1%に過ぎないともいわれている。「日本の原風景」ともいわれる里山は、滅び行くのであろうか。こうした問題意識を秘めつつ、里山における実践的な学びから、里山の再生には、どのような働きかけが求められるのか、そのような提言を試みようとするところに、本講座を学ぶ根本的な意義がある。

＜本講座の方法＞

極めて「アクティブ」なアクティブ・ラーニングとして展開する。

キャンパスに隣接する「近畿大学里山の哲学の道」をフィールドとし、講義とフィールド・ワークを中心に、エクスカージョン（遠足）などをも交えながら、本講座は多彩かつアクティブに展開する。

尚、本講座は野外におけるフィールド・ワークを行う関係から履修者数を制限する場合がある。

■学習・教育目標および到達目標

本講座を通じて得られるべき到達目標とは次の通りである。

①. フィールド・ノートを取る力。②. 鋤や木槌および造林鎌などを用いて道普請を行える力。③. 杉の間伐や竹の除伐を行える力。④. 里山を代表するクヌギやコナラなどの樹木を識別しえる力。⑤. 里山のすみずみまで巡り歩くことができるトレッキングの力。⑥. 里山再生に向けて具体的な提言を表現しえる力。

＜ディプロマポリシーとの関連＞

「里山の環境学」の修得は、近畿大学が教養教育において掲げる目標を達成するための目的2および1の達成に関連している。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後、試験期間中に指定した日程において試験の解題を行う。

■教科書

使用しない。

■参考文献

中国新聞取材班編『猪変』本の雑誌社、2015年 ISBN978-4-86011-266-0
 平野伸明・新開孝・大久保茂徳『里山大百科』TBSブリタニカ、2000年 ISBN4-484-00405-4
 養父志乃夫『里山・里海暮らし図鑑』柏書房、2012年 ISBN978-4-7601-4118-0
 養父志乃夫『里山里海』勁草書房、2016年 ISBN978-4-326-65399-7
 藻谷浩介『里山資本主義』角川書店、2013年 ISBN978-4-04-110512-2
 今森光彦監修『NHKニッポンの里山』NHK出版、2014年
 おくやまひさし『里山図鑑』ポプラ社、2001年 ISBN4-591-06664-9
 武内和彦・鷺谷いづみ・恒川篤史編『里山の環境学』東京大学出版会、2001年 ISBN4-13-060301-9
 丸山徳次・宮浦富保編『里山学のすすめ』昭和堂、2007年 ISBN978-4-8122-0738-3
 中村浩二・嘉田良平編『里山復権』創森社、2010年 ISBN978-4-88340-252-6
 太田猛彦『森林飽和』NHK出版、2012年 ISBN978-4-14-091193-8 C1336
 四手井綱英『森林』法政大学出版部、1985年 ISBN0320-21055-7710

■関連科目

持続可能な社会論

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

新田研究室（2号館5階）・nitta@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜5限。予め、メールで連絡ください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 里山を保全するための「身体知」とフィールド・ノート技法

予習内容 : 基本:「里山」について調べながら、「里山」のイメージを膨らませる。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本:フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展:また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、フィールド・ノートに使う記号および略記を確定し、フィールド・ノートの冒頭に記号・略記の凡例を作成する。

復習時間 : 90分

第2回 里山のトレッキング技法

予習内容 : 基本:キー・ワード「五感」「観天望気」「ヤブこぎ」について調べ、それぞれの要点をフィールド・ノートに記す。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本:フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展:また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、「靴紐の結び方」「急斜面の登り方」および「急斜面の下り方」について、そのポイントをフィールド・ノートに要領よく図解する。このような作業の積み重ねが「里山の環境学」における学習成果の一つである「里山保全図鑑」の作成となる。

復習時間 : 90分

第3回 里山を立体的に理解するためのエクスカッションと里地里山および奥山そして里山の衰退

予習内容 : 基本:キー・ワード「里地里山」「奥山」「アミニズム」について調べ、それぞれの要点をフィールド・ノートに記す。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本:フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展:また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、「里地里山」「奥山」および「アミニズム」について、そのポイントをフィールド・ノートに要領よく図解する。

復習時間 : 90分

第4回 里山における侵略的外来種の増殖と害獣の被害およびその駆除

予習内容 : 里山における侵略的外来種の増殖と害獣の被害およびその駆除

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本:フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展:また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、「孟宗竹と真竹の爆発的増殖」と「イノシシによる獣害」について、そのポイントをフィールド・ノートに要領よく図解する。

復習時間 : 90分

第5回 里山の道普請

予習内容 : 基本:キー・ワード「道」「獣道」について調べ、それぞれの要点をフィールド・ノートに記す。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本:フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展:また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、道普請の作業手順について、そのポイントをフィールド・ノートに要領よく図解する。

復習時間 : 90分

第6回 里山の間伐・除伐・除草

予習内容 : 基本:キー・ワード「人工林」「二次林」「原生林」について調べ、それぞれの違いに配慮しながら、その要点をフィールド・ノートに記す。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本:キー・ワード「人工林」「二次林」「原生林」について調べ、それぞれの違いに配慮しながら、その要点をフィールド・ノートに記す。

復習時間 : 90分

第7回 里山の樹木の見分け方

予習内容 : 基本:キー・ワード「落葉樹」「常緑樹(照葉樹林)」「針葉樹」について調べ、それぞれの違いに配慮しながら、その要点をフィールド・ノートに記す。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本:フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展:また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、「コナラ」「クヌギ」「クスノキ」および「ヤマザクラ」について、

その見分け方のポイント（鋸歯、葉脈、樹皮、臭い等）をフィールド・ノートに要領よく図解する。

復習時間：90分

第8回 里山におけるバードウォッチング技法

予習内容：基本：キー・ワード「留鳥」「夏鳥」「冬鳥」「旅鳥」「漂鳥」について調べ、それぞれの違いに配慮しながら、その要点をフィールド・ノートに記す。

予習時間：90分

復習内容：基本：フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、「シジウカラ」「メジロ」「ヤマガラ」「エナガ」「コゲラ」、および「キビタキ」「オオルリ」「ツツドリ」「ジョウビタキ」「ツグミ」並びに「コウノトリ」について、その見分け方のポイント（大きさ、色、模様、さえずり・地鳴き、飛び方等）をフィールド・ノートに要領よく図解する。

復習時間：90分

第9回 里山の恵み①：桃狩りという里山保全の意義

予習内容：基本：「桃の摘果」について調べ、それぞれ要点をフィールド・ノートに記す。

予習時間：90分

復習内容：基本：フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、「クリの木の見分け方」について、そのポイントをフィールド・ノートに要領よく図解する。

復習時間：90分

第10回 里山の恵み②：「栗拾い」という里山保全の意義

予習内容：基本：キー・ワード「縄文時代の栗」について調べ、それぞれ要点をフィールド・ノートに記す。

予習時間：90分

復習内容：基本：フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、落葉やヤマザクラの落ち枝および杉の落ち枝を用いた焼き芋の手順と裏技について、フィールド・ノートに要領よく図解する。

復習時間：90分

予習内容：基本：「鋸」「草刈り鎌」「造林鎌」「鉋」「木槌」「鋏」について調べ、それぞれの用途をフィールド・ノートに記す。

予習時間：90分

復習内容：基本：フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、「鋸」「草刈り鎌」「造林鎌」「鉋」「木槌」「鋏」のメンテナンスの仕方について、フィールド・ノートに要領よく図解する。

復習時間：90分

里山を保全するためのツール（道具）のメンテナンスの仕方

第12回 里山を案内する道標の作成とその設置

予習内容：基本：キー・ワード「道標」「ウッドバーニング」について調べ、それぞれの要点をフィールド・ノートに記す。

予習時間：90分

復習内容：基本：フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、「道標の作成方法と設置方法」について、フィールド・ノートに要領よく図解する。

復習時間：90分

第13回 里山と人間との関係：攪拌（disturbance）と保全（conservation）および保護（preservation）

予習内容：基本：キー・ワード「攪拌」「保全」「保護」について調べ、それぞれの要点をフィールド・ノートに記す。

予習時間：90分

復習内容：基本：フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、「道標の作成方法と設置方法」について、フィールド・ノートに要領よく図解する。

復習時間：90分

第14回 紀ノ川流域の歴史と民俗および里山文化

予習内容：基本：キー・ワード「和泉砂岩」「根来衆」「紀州材」について調べ、それぞれの要点をフィールド・ノートに記す。

予習時間：90分

復習内容：基本：フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展：また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、「近畿大学里山の哲学の道周辺の絵図」を、フィールド・ノート

に描く。

復習時間 : 90分

第15回 里山再生と里山文化の継承および里山保全ボランティア

予習内容 : 基本:霞ヶ浦の「アサザ・プロジェクト」など各地で行われている「里山再生の取り組み」について実例を一つ調べ、その要点をフィールド・ノートに記す。

予習時間 : 90分

復習内容 : 基本:フィールド・ノートを読み返しなが、適所にマーキングを行い、関連情報を書き足す。

発展:また、フィールド・ワークと講義を踏まえつつ、「里山再生と里山文化の継承および里山保全ボランティア」について、私見をフィールド・ノートに記す。

復習時間 : 90分

定期試験

科目名：言語文化学入門			
英文名：Introduction to Language and Cultures			
担当者：服部 圭子・長谷川 由美・ジン タナンゴナン・大加茂 巧・松村 博史・ハタノ リリアン			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

交通手段の発達、インターネットの普及により、私たちの日常生活の身近なところで、多言語や多文化と接する機会が増えてきました。社会のグローバル化が急速に進む現代社会においては、様々な文化や言語が共存しています。普段の外国語の授業であまり学ぶ機会がない文化や言語に触れると同時に、私たちの文化や言語への理解も深めましょう。

■学習・教育目標および到達目標

- ・多言語・多文化に対するより広い視野と多角的な視野を養う。
 - ・講義で取り上げる国々における文化や言語の特殊性を学ぶと同時に、自国の言語や文化に対する理解を深める。
 - ・異なる文化や言語に対する感受性を磨き、多様性を受容し、多種と共存する力を養う。
- この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

課題または小テストに関する解説を授業内で行います。

■教科書

特になし。

■参考文献

授業内に指示。

■関連科目

外国語関連科目、国際社会と日本、国際化と異文化コミュニケーション

■成績評価方法および基準

授業中に指示される課題・レポート（教員によっては小テスト）100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

服部研究室（2号館5階）・khattori@waka.kindai.ac.jp

それ以外の講師：講師控室（2号館2階）

■オフィスアワー

服部：木曜日5限（その他の時間は必ず予約すること）

その他の講師：担当授業の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

本科目は5人の講師が5つのトピックを3回にわたり講義をするオムニバス形式のものです。1～2回目および最終回は服部が担当し、ことばと文化に関する講義、3～5回目ハタノが担当し、ブラジルの社会と文化院に関する講義、6～8回目はジンが担当し多言語社会であるフィリピンに関する講義、9～11回目は松村が担当しフランスの言語文化および医用に関する講義、そして12～14回目は大加茂が担当しESPとしての航空英語に関する講義をします。各教員によって、レポートが出されたり小テストがあったりしますので、詳細に関しては、各担当者から説明があります。講義内容の順序は変更される可能性があります。変更の場合は、最初の授業でお伝えいたします。

予習内容：授業で学ぶテーマについて、あらかじめ自分で調べておく。

復習内容：授業で学んだ内容について、ノートやプリント等を読み返して復習する。

第1回 オリエンテーション、多言語・多文化社会日本

言語文化学の範疇について学ぶ。そして、日本社会の多文化・多言語状況について振り返り、多文化共生に向けての課題について考える。

第2回 ことばと文化（1）

ことばと文化の関係・複言語複文化について学ぶ。多言語多文化ワークを通じて言語の規則性を発見し、ことばを客観的に捉える視点を知る。また多言語多文化社会であるカナダを例に、言語景観の視点を学ぶ。

第3回 ブラジル社会と文化

ブラジル社会の現状、文化的特徴について概観する。

第4回 日本とブラジルの関係

移民について、ただ、日本の移民の歴史の流れの中にブラジルへの移民を位置づける、戦前と戦後の移民について学ぶ。

第5回 在日ブラジル人と在外ブラジル人について

ブラジルへの移民を経て日本へ来日し、一時滞在から長期滞在、定住する現状について述べる。さらに日本への移住は世界へ移住する動きの中に居続けることについて学ぶ。

第6回 多文化社会フィリピン（1）

島嶼国フィリピンの多彩な土着文化と西洋文化との融合の歴史的背景を理解し、知られざる日本とのかかわりを発見する。

第7回 多文化社会フィリピン（2）

共通語の英語とPilipino語の他に少なくとも8つの異なる言語が混在する現状や日常生活における多言語コミュニケーションを理解する。

第8回 現代フィリピンと環境問題

フィリピンの環境問題と国際情勢のつながりを知り、環境問題のグローバル化に対処するための異文化理解について考える。

第9回 フランスの文化とフランス語の世界

フランスという国と地域のあり方、首都パリと地方との関係などについて紹介し、全体的な特徴を捉えられるようにする。またフランス語はフランスだけではなく、世界中で広く使われている。言語としてのフランス語の分布と現状について考える。

第10回 フランスの地域多様性と地域言語

フランスは一方では中央集権的な国家だが、もともと多様な民族・文化から成る複合体であり、現在のフランスの各地域もそうした独自の文化を保ち続けている。それらの文化を見るとともに、各地域に残る少数言語とその保存への試みについて考える。

第11回 移民社会フランスと言語

フランスはヨーロッパの中でも多様な民族の人々が共存する「移民大国」である。もとのフランス人に加え、アラブ系、アフリカ系、ユダヤ系、中国系、東南アジア系など多様な住人がその文化を保持しながら暮らしている。そのようなフランス人の姿と言語の位置付けについて考える。

第12回 世界の言語分布と英語支配

世界の言語分布の現状や言語政策を俯瞰しながら、勢力拡大威信言語と消滅しつつある弱体言語の問題について学ぶ。さらに、経済のグローバル化に伴ってさまざまな領域で英語が支配言語になっている背景を探る。英語帝国主義についても知見を広める。

第13回 ESPとしての航空英語と航空管制官の職域言語

特定目的の英語の代表例でもある航空英語の基本的特徴について学ぶ。さらに、航空管制官の業務及び彼らの職域言語であるPhraseologyの背景について理解を深める。EGPとの関係についても触れる。

第14回 DVD（航空管制業務の現場紹介）と小レポート

DVDを通して日本の空の安全を守る航空管制システムについて学ぶ。講義後半で与えられた課題（威信言語と消滅言語の問題、航空英語と英語支配等のテーマ）について小レポートを作成する。

第15回 ことばと文化（2）・まとめ

言語文化学入門の授業を通して学んだこと、気づいたことを振り返る。また、日本語を客観的に見つめなおす機会を持つとともに、日本の多言語多文化に関する言語景観について各々発表する。

科目名：日本語の技法			
英文名：Skills of Japanese Language			
担当者：梶山 慎一郎・吉田 久・村田 大 <small>カジヤマ シンイチロウ ヨシダ ヒサシ ムラタ マサル</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

入学者の日本語表現について基礎学力向上と自分の論点や考え方について、レポートや論文で分かりやすく論理的に表現する能力を学修します。授業後、ワークブックにより授業内容の確認をし、さらにe-Learningによる授業内容の再確認をします。

【e-Learning演習概要】

講義終了後e-Learning演習にて学習していく。内容は演習・文章添削など（60分以内で完了できる内容×10回とする）。次の講義までに提出し、必ず添削を受けなければならない。

■学習・教育目標および到達目標

<学習・教育目標>自分の考えや伝えるべきことを、書き言葉で的確に表現する能力を養う。レポート作成や論文作成で、卒業後の実社会でも必要とされる文章作成能力を養うことを目標とする。

<到達目標>受講者はこの科目を履修することによって、以下のことができるようになる。

1. 自分の考えや伝えるべきことを、書き言葉で的確に表現する能力を養う。
2. レポート作成や論文作成で、卒業後の実社会でも必要とされる文章作成能力を養うことを目標とする。
3. 自分の日本語表現力を各テストにて自覚し、論理的な文章を書くために基礎的な事柄を学習していく。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1および2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験期間終了後に、模範答案をWEBにて配信します。

ワークブック演習の解答については、授業最終日に解答・解説を配布します。

確認テストの解説は、次回授業内に実施する。

■教科書

[ISBN]9784900930889『日本語表現法（改訂版）』（株式会社ワオ・コーポレーション：2015）

「日本語表現法ワークブック」（株式会社ワオ・コーポレーション）

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

e-Learning 40%

ワークブック 20%

■授業評価アンケート実施方法

生物理工学部実施規程に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

基礎教育センター（3号館2階就職情報室内）

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス：講義の概要と進め方についての説明、自己診断テスト

文章の書き方：簡潔な文章の書き方

予習内容：教科書第1章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。

予習時間：60分

第2回 文章の書き方：まぎらわしさを排除する

予習内容：教科書第2章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。

予習時間：60分

復習内容：教科書第1章・第2章の内容に関する演習問題解く。

復習時間：60分

第3回 文章の書き方 : 道筋を示す

予習内容 : 教科書第3章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教科書第2章復習問題・第3章の内容に関する演習問題解く。
復習時間 : 60分

第4回 文章の書き方 : 文章を論理的に構成する

予習内容 : 教科書第4章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教科書第3章復習問題・第4章の内容に関する演習問題解く。
復習時間 : 60分

第5回 レポートの書き方 : アカデミックライティングとは 確認テスト①

予習内容 : 教科書第5章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。
予習時間 : 60分

第6回 レポートの書き方 : レポートの基本と目的

予習内容 : 教科書第6章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教科書第5章・第6章の内容に関する演習問題解く。
復習時間 : 60分

第7回 レポートの書き方 : レポートの事前準備と全体の構成

予習内容 : 教科書第7章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教科書第6章復習問題・第7章の内容に関する演習問題解く。
復習時間 : 60分

第8回 レポートの書き方 : 事実と意見の組み立て

予習内容 : 教科書第8章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教科書第7章復習問題・第8章の内容に関する演習問題解く。
復習時間 : 60分

第9回 レポートの書き方 : データ分析とグラフ・表の活用

予習内容 : 教科書第9章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教科書第8章復習問題・第9章の内容に関する演習問題解く。
復習時間 : 60分

第10回 レポートの書き方 : 要約、批評、報告の文章 確認テスト②

予習内容 : 教科書第10章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。
予習時間 : 60分

第11回 論文の書き方 : テーマの見つけ方・捉え方

予習内容 : 教科書第11章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教科書第10章・第11章の内容に関する演習問題解く。
復習時間 : 60分

第12回 論文の書き方 : 論理展開の思考と記述1

予習内容 : 教科書第12章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教科書第11章復習問題・第12章の内容に関する演習問題解く。
復習時間 : 60分

第13回 論文の書き方 : 論理展開の思考と記述2

予習内容 : 教科書第13章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。

予習時間 : 60分

復習内容 : 教科書第12章復習問題・第13章の内容に関する演習問題解く。

復習時間 : 60分

第14回 論文の書き方 : 論文の表記と記号

予習内容 : 教科書第14章、第16章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。

予習時間 : 120分

第15回 論文の書き方 : 長文の読解と要約文

予習内容 : 教科書第15章、第17章を読み、分からない語句や理解が困難な箇所を抜き出すこと。

予習時間 : 120分

定期試験

科目名： 基礎ゼミ			
英文名： Foundation Seminar			
担当者： 全教員			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・通年	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

この授業は、新入生の皆さんが自主性や主体性を身に付け、大学で学ぶこと、研究することの楽しさを体験するための導入教育として位置付けられています。授業は大きく二つの内容から成り立っています。ひとつは、近畿大学および生物理工学部の歴史や教育方針を学び、皆さんに近畿大学生としての自覚を持ってもらうための自校学習。もう一つは、少人数クラスで行われるゼミ形式で、一人一人、またはみんなで協力し合って問題解決に取り組む手法を学びます。担当教員の指導のもと、資料集め、調査、報告書の作成、人前での発表といったことをおこないます。皆さんが相互的に「学び、学びあう」という姿勢で、積極的に参加する授業です。この授業は、教員と学生との距離を縮め、学生の皆さんが円滑に大学生活に馴染んでいくようにする目的もあり、そのため担当教員はアドバイザーになっています。

■学習・教育目標および到達目標

近畿大学および生物理工学部の建学の精神や教育理念・目標を理解し、近畿大学生としての自覚を持つ。
MyCampusPlanを用いて4年間の学生生活を計画し、半期ごとの実現可能な目標を立てる。
主体的に課題に取り組み、「学び、学び合う」姿勢を修得する。
学ぶこと、研究することに必要な手法を体験的に理解する。
自分の考えをまとめ、人前で発表する。
他人の発表を聞いて質問したり、意見を述べたりする。
この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的3の達成に関与しています。

■教科書

担当教員により指示があります。

■参考文献

担当教員により指示があります。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

担当教員により異なりますので担当者に尋ねてください。 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

(代表) 吉田研究室 (東1号館4階418) ・ yoshida@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

第2回目の授業時に担当教員より知らされます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 基礎ゼミガイダンス

第2回 近畿大学の建学の精神と教育理念1

第3回 近畿大学の建学の精神と教育理念2

第4回 生物理工学部の歴史と理念

第5回 マイキャンパスプランを用いた大学生活設計

第6回 図書館の使い方

- 第7回 課題設定 グループディスカッション
- 第8回 プレゼンテーションの準備 情報収集の方法、整理と分析
- 第9回 プレゼンテーションの準備 キーメッセージを考える
- 第10回 プレゼンテーションの準備 論理の構築とストーリー展開
- 第11回 プレゼンテーションの準備 ビジュアル（配布資料など）の作成
- 第12回 プレゼンテーションの準備 全体のチェック
- 第13回 プレゼンテーション 自分が発表する
- 第14回 プレゼンテーション 他の人の発表を聞く
- 第15回 討論とまとめ

科目名： 思考の技術			
英文名： The Art of Thinking			
担当者： ^{ヒラキ コウジ} 平木 光二			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

<思考の技術>という思考を一つの技術ととらえるメソッドについての入門的内容を学びます。

■学習・教育目標および到達目標

演習問題に加え、グループでのライティング作業を通じて、思考の技術・発表の技術を磨くことを目標とする。この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案（印刷物）を配布します。

■教科書

指定しない。毎授業時、演習問題を配布する。

■参考文献

特になし。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

定期試験 80%

授業中課題 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・hirakik@pj9.so-net.ne.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション（講義の進め方を説明します）

予習内容：本講義の前半では、Discourse Markerに関する演習問題を解きながら、思考の技術の基礎を学習しますので、受講者はDiscourse Markerとはなにかについて、各自調べて予備知識をもっておくこと。

第2回 Discourse Markerに関する演習問題（1）

第3回 Discourse Markerに関する演習問題（2）

第4回 Discourse Markerに関する演習問題（3）

第5回 事実と意見

第6回 論証形式—主題提示文

第7回 論証形式—理由・根拠の提示

第8回 異論・批判・反論

第9回 仮説形成（1）

第10回 仮説形成（2）

第11回 確認テストの実施

予習内容：受講者の理解度を確認するために、確認テストを実施する。
既習の演習問題のうち、重要な問題を重点的にしっかり見直して理解を深めておくこと。

第12回 非論理的文章のre-writing演習

第13回 パラグラフ・ライティングの指導

第14回 レポート作成

第15回 グループでのライティング作業

定期試験

科目名： キャリアデザイン			
英文名： Career Design			
担当者： <small>ナカムラ ヒロシゲ</small> 中村 弘成			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

キャリアとは仕事人生のことを指す。その仕事人生をうまくデザインするには、人間は社会的生物であることを認識することが必要である。すなわち、自分を知り、社会の大きな流れを知り、それらを「統合」するスキルを身につけることで可能になる。

当授業の最大の特徴は、これから学生に起こり得るであろう「状況」をテキストで「模擬体験」してもらいながら授業を進めることである。

誰でも先のことを考えると不安になってくる。特に人生経験の少ない学生にとってはなおさらである。だからこそ、模擬体験を通して、これから必要な知識やスキルを学ぶことは、不安の払拭や軽減に役立つものと信じている。また、充実した大学生活の指針作りにも影響するであろう。

授業では、まずキャリアデザインとは何なのかを解説し、同時に世の中の大きな流れが何を意味するのか、そして、経済についても概説し、それらがキャリアデザインにどう影響していくのかを考えていく。その後、自己分析を通して「自分を知る」のだが、それは今の自分を客観的に認識しておく、認識できることがキャリアデザインに必須だからである。また、自分の欠点を改善するためではなく、伸ばすべき点をどう伸ばしていくのかを知るためでもある。それ以降は、必要なスキル（授業計画を参照）を全員参加型のワークで進めていく。

全員参加型はグループワークを意味していない。集合教育のメリットを最大限に生かした授業の進め方と考えてもらいたい。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、この授業を履修することによって、

- (1) キャリアデザインの方法、必要な知識とスキルを示すことができ、
- (2) 学んだことの学生生活への応用、経験した学生生活の就活への関係づけができ、
- (3) 未知の分野に挑む心構えやコミュニケーション力の強化

が可能となります。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業中課題について：次回以降に模範例をスライドで示します。

小テストについて：次回以降に模範解答をスライドで示します。

■教科書

第2回目の授業から使用する。

書籍名：仕事に就くときの不安解消 第1歩 問題集 - ヒューマンスキル問題集シリーズVol.2 (MyISBN - デザインエッグ社)

著者名：中村弘成

出版社：デザインエッグ社

ISBNコード：978-4865433470

参考：当書籍はPOD書籍なので、アマゾンで購入が便利。大学の販売センターでは購入できないと思われる。

■参考文献

適宜授業時に紹介。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

小テスト 30%

授業中課題 10%

■授業評価アンケート実施方法

生物理工学部実施規定に準拠しています。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）。hnakamura@silver.ocn.ne.jp

■オフィスアワー

月曜日3限。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 「世の中の大きな流れを知らなければ始まらない」

- ・授業の進め方と特徴、評価の仕方など。
- ・世の中の大きな流れ。
- ・経済とは。
- ・企業を選択する基準とは？

第2回 「企業や社会が求める人物像を知って行動することが近道Ⅰ」

- ・今回からテキストを使用。
- ・「神田風太の第1話」を早読み&要約。
- ・企業が求める人物像の解釈とこれからの必要な行動。
- ・就活にもビジネスにも最低限必要な話法。
- ・SDS法。
- ・PREP法。
- ・DESC法。

第3回 「企業や社会が求める人物像を知って行動することが近道Ⅱ」

- ・新入社員の役割もわかっているれば就活はスムーズ。
- ・「神田風太の第1話」を早読み&要約。
- ・企業が求める人物像の解釈とこれからの必要な行動。

第4回 「自分を知ることで他人が理解できる」

- ・「神田風太の第2話」を早読み&要約。
- ・自己概念とは。
- ・自分の気質、信念価値観、興味を認識する。
- ・自分に期待していいこと、期待しない方がいいこと。

第5回 「キャリアデザインにもビジネスにも必須な解決志向を学ぶ」

- ・「神田風太の第3話」を早読み&要約。
- ・イメージの重要性を学ぶ。
- ・1年先を解決志向でブレイクダウン。
- ・「10年後のあなたは？」「あなたはどんな人材になりたいか？」

第6回 「アサーティブなコミュニケーションの必要性Ⅰ」

- ・「神風福男の第7話」を早読み&要約。
- ・ストレスを溜めない溜めにくいコミュニケーション。
- ・人を動かすコミュニケーション。

第7回 「アサーティブなコミュニケーションの必要性Ⅱ」

- ・評価が高くなる「提案型相談」の方法。
- ・主観と客観の違い。

第8回 小テストⅠ

- ・これまでの範囲の理解度テスト。
- ・テスト時間は45分間。
- ・45分間は授業に使用。
- ・テキスト持ち込みOKだが、資料などの持ち込みはできない。

第9回 「残業が多いとブラック企業か？ブラックを考える」

- ・「神風福男の第8話」を早読み&要約。
- ・残業はどのようにして増えるのか？
- ・ブラック企業とは？

第10回 「キャリアは自分の思い込みとの闘い？」

- ・「音無安子の第9話」を早読み&要約。

- ・音無安子に期待していいこと、期待しない方がいいこと。
- ・部下の伸ばし方。
- ・自分を認識することは、自分を客観的にみること。

第11回 「アナロジー思考ができれば仕事人生は大きく変わるⅠ」

- ・「音無安子の第10話」を早読み&要約。
- ・キャリアデザインの重要な基礎とは。
- ・「統合」に必要な構造と関係性の類似点の把握。

第12回 「アナロジー思考ができれば仕事人生は大きく変わるⅡ」

- ・就活へ活かす（志望動機への活用）。

第13回 「信頼される傾聴スキルは、仕事人生に必須のスキル」

- ・「音無安子の第11話」を早読み&要約。
- ・FBIも活用する重要スキル。
- ・トップの成績を収めたいなら、話し上手より聴き上手。

第14回 「グループディスカッションに活かされる傾聴スキル」

- ・グループディスカッションの目的と進め方。
- ・一番重要なのは、場の活性化。そのために必要な傾聴スキル。
- ・司会役（進行役）を体験しておくとうまく上手になれる。

第15回 小テストⅡ

- ・第1回の小テスト以降から、これまでの範囲の理解度テスト。
- ・テスト時間は45分間。
- ・45分間は授業に使用。
- ・テキスト持ち込みOKだが、資料などの持ち込みはできない。

定期試験

科目名： 社会奉仕実習			
英文名：Volunteer Learning			
担当者： <small>ニッタ カズヒロ</small> 新田 和宏			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

＜本講座を学ぶ目的＞

本講座は、ボランティアに関する理論的な考察を交えながら、実際のボランティア活動を通じ、ボランティアについて学ぶことを目的とする。

＜本講座において学ぶ意義＞

昨今、大学生であるならば、在学期間中に、少なくとも何か一つ、ボランティアを行うことが求められている次第である。しかし、本講座は単にボランティア活動の場を提供することを主眼するものではない。本講座の学び意義は、机上だけでボランティアについて学ぶのではなく、実際にボランティアを実践することで、「ボランティア・ラーニング」すなわちボランティア活動を通じながら学びを深めることにある。

＜本講座の方法＞

事前導入講義は、ワークショップや演劇などの手法を取り入れ、アクティブ・ラーニングとして展開する。

尚、本講座は、事前導入授業の後、大学が指定した実習施設（社会福祉施設もしくはNGO・NPOおよびボランティア団体）において、ボランティア活動としての実習（合計22時間以上）を行う。

尚、本講座は実習先の受け入れ事情を鑑み、履修者数を制限する場合がある。

■学習・教育目標および到達目標

本講座を通じて得られるべき到達目標とは次の通りである。

①. ボランティア活動に求められる基礎能力として、ホスピタリティの精神に基づき、当事者に適切なアウトリーチを行える能力。②. とりわけ、当事者のニーズを先読みできる能力。③. ボランティア活動に関心を示し、かつまた継続して行えるモチベーションを持ち続ける能力。④. 社会人として求められる社会貢献への取り組みに参加しえる態度と意欲。

＜ディプロマポリシーとの関連＞

「社会奉仕実習」の修得は、近畿大学が教養教育において掲げる目標を達成するための目的3の達成に関連している。

■試験・課題に対するフィードバック方法

提出された『社会奉仕実習』の課題レポートにコメントを加えた上で、学生本人へ『社会奉仕実習簿』を返却する。

■教科書

新田和宏 編『2017年度・社会奉仕実習簿』近畿大学生物理工学部（2017）

■参考文献

新田和宏『参加型学習』地球市民教育総合研究所（2001）

平田 哲『What ボランティア』アジアボランティアセンター（2005）

[ISBN]9784750317984『まんがで学ぶ開発教育 世界と地球の困った現実』（みなみ ななみ, 明石書店：2003）

[ISBN]9784641076587『NPOと市民社会—アソシエーション論の可能性』（佐藤 慶幸, 有斐閣：2002）

■関連科目

持続可能な社会論 インターンシップ

■成績評価方法および基準

レポート 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

新田研究室（2号館5階）・nitta@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜5限。予め、メールで連絡ください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

社会奉仕実習という科目は、全7回の事前導入授業と3日以上の実習によって構成されている。シラバスの記載上、第1回から第7回は事前導入授業として、下記における「授業計画の項目・内容」を参照し、また第8回から第15回は社会奉仕実習先であるNGO・NPOや社会福祉法人などにおける社会奉仕実習なのでシラバスにその内容は記載できない。

第1回 「社会奉仕実習」の履修方法と実習施設の紹介

予習内容 : Exercise①次の設問について私見を用意する。i) ボランティアとは何か、それを一言のキーワードで表現する。ii) ボランティアを色に喩えると何色か。またその理由について。iii) 自分のためにすることと、他者のためにすることとを比較すると、どちらが容易か。またその理由について。iv) ボランティアは一切の対価を求めない無償の行為なのか？

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり) ①のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

第2回 ボランティア概論

予習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習簿』の中に記載されているExercise②のミッションを達成する。

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり) ②のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

第3回 NGO・NPO概論

予習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習簿』の中に記載されているExercise③のミッションを達成する。

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり) ③のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

第4回 福祉・環境・国際協力ボランティア論

予習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習簿』の中に記載されているExercise④のミッションを達成する。

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり) ④のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

第5回 コミュニケーション・スキル

予習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習簿』の中に記載されているExercise⑤のミッションを達成する。

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり) ⑤のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

第6回 コラボレーション・スキル

予習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習簿』の中に記載されているExercise⑥のミッションを達成する。

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり) ⑥のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

第7回 ボランティア・ラーニング

予習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習簿』の中に記載されているExercise⑦のミッションを達成する。

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度社会奉仕実習研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり) ⑦のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

第8回 社会奉仕実習

第9回 社会奉仕実習

第10回 社会奉仕実習

第11回 社会奉仕実習

第12回 社会奉仕実習

第13回 社会奉仕実習

第14回 社会奉仕実習

第15回 社会奉仕実習

試験は行わず課題を提示する。

科目名： 科学技術と人間・社会			
英文名： Science Technology, Human and Society			
担当者： ^{クボタ ヒトシ} 久保田 均			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

[授業概要]

科学技術は特に産業革命以降、著しく人類の生活の向上、福祉の増進に著しい貢献をしてきた。一方、同時に種々の問題も引き起こし、それらを克服しながら発展し続けてきたのが現状である。本科目では、技術者を目指す学生に対して、人間・社会に対しての接点を技術者倫理の観点から解説し、事例演習を通して技術者の使命・役割を総合的に学習する。最近の話題である「遺伝子組み換え作物」についても考察する。

■学習・教育目標および到達目標

技術者として知っておかねばならない「技術者倫理」の体系的な知識、応用力が養われる。特に、エネルギー、環境、安心と安全のものづくり、情報に関する人間・社会と技術者の関係、倫理面が理解できる。

また、事例演習を通じて文章表現力、発表力が養われる。

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートについては、事例と演習の中で、発表して頂きます。

また、その発表についての講評もして頂きます。

■教科書

適宜、プリントを配布します。

■参考文献

なし。

■関連科目

なし。

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

授業中の演習、および、レポート 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・kubota@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜日 4時限。事前にメールをすること。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 クリティカルシンキング

復習内容： 配布プリントの理解

第2回 エネルギーの歴史と現状

復習内容： 配布プリントの理解

第3回 原子力発電と放射能

復習内容： 配布プリントの理解

第4回 事例演習

復習内容： レポートの作成

第5回 古典的な公害と現代の公害

復習内容 : 配布プリントの理解

第6回 低炭素社会と循環型社会

復習内容 : 配布プリントの理解

第7回 事例演習

復習内容 : レポートの作成

第8回 日常の安全活動、製造物責任、製品安全

復習内容 : 配布プリントの理解

第9回 システム工学における設計基本ルール

復習内容 : 配布プリントの理解

第10回 遺伝子組み換え作物

復習内容 : 配布プリントの理解

第11回 事例演習

復習内容 : レポートの作成

第12回 知的財産権と特許

復習内容 : 配布プリントの理解

第13回 特許の書き方と演習

復習内容 : レポートの作成

第14回 警笛鳴らしと内部告発：スペースシャトル爆発事故

復習内容 : 配布プリントの理解

第15回 事例研究と演習

復習内容 : レポートの作成

定期試験

科目名： インターンシップ			
英文名： Internship			
担当者： <small>ニ ッ タ カ ズ ヒ ロ</small> 新田 和宏			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 通年	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

＜本講座を学ぶ目的＞

本講座は、前期における事前講義を踏まえながら、夏季休暇中のインターンシップ研修（30時間以上）を通じて、学生が企業及び行政機関等の業務を直接体験することにより、仕事に取り組む姿勢や態度、職場の人間関係、並びに業務内容を理解しつつ、自己の職業意識・専門の実務能力を高め、もって学生自身の主体的かつ真摯な就職活動及び職業選択・適性判断・将来設計、並びに自己改善能力の構築を促す目的で行う。したがって、本講座の受講にあたっては、職業意識及び学業意識が高く、積極的な態度を示す学生の受講が望まれる。

＜本講座において学ぶ意義＞

本講座を学ぶ意義は、「仕事の哲学」を考えることにより、インターンシップ受講後における就職活動およびキャリア形成の礎となるところにある。

尚、インターンシップ研修の受け入れ先の企業及び行政機関等については、主に和歌山県経営者協会「インターンシップ制度推進委員会」加盟の企業及び行政機関等から学生が選択する。

＜本講座の方法＞

事前講義は、エクササイズとワークショップ、ふり返りシート、および明快なミニ・レクチャーを交えながら、デーブ・アクティブ・ラーニングとして展開する。

尚、本講座は履修にあたり選抜試験を行う。

■学習・教育目標および到達目標

本講座を通じて得られるべき到達目標とは次の通りである。

①. 就職活動およびキャリア形成に対する意欲的なモチベーションを継続しえる能力。②. 仕事および職業に対する基本的な判断の軸となる「仕事の哲学」を形成する基本的な能力。③. プレゼンテーションの基本的な表現技法。④. 言語的・非言語的コミュニケーション能力。⑤. コラボレーションおよびファシリテートの基礎能力。⑥. インターンシップを通じて学び得たことを的確に表現しえる能力。⑦. 財務諸表分析を踏まえた企業研究を進められる基礎能力。

＜ディプロマポリシーとの関連＞

「インターンシップ」の修得は、近畿大学が教養教育において掲げる目標を達成するための目的3の達成に関連している。

■試験・課題に対するフィードバック方法

事後報告会において予め提出された課題レポートに関してコメントを加える。

■教科書

新田和宏 編『2017年度・インターンシップ研修簿』近畿大学生物理工学部（2017）

■参考文献

- ①. OJTソリューションズ『トヨタの問題解決』中経出版、2014年、[ISBN]9784046003126
- ②. 高田明『伝えることから始めよう』東洋経済新報社、2017年 [ISBN]9784492045909
- ③. 佐藤利明『寅さんのことば』東京新聞、2014年 [ISBN]9784808309824
- ④. 高城幸司『社内政治の教科書』ダイヤモンド社、2014年 [ISBN]9784478028339
- ⑤. 山田昭男『働き方バイブル』東洋経済新報社、2015年 [ISBN]9784492045749
- ⑥. 山田昭男『稼ぎたければ、働くな』サンマーク出版、2012年 [ISBN]9784763132475
- ⑦. モリー・ステットナー『新米リーダー 10のスキル』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2003年 [ISBN]488759268XC0034
- ⑧. 松下直子『採用・面接で「採ってはいけない人」の見分け方』同文館出版、2012年 [ISBN]9784495598617
- ⑨. 経済産業省『ホワイト企業』文藝春秋、2013年 [ISBN]9784163768403
- ⑩. ムーギー・キム『世界中のエリートの働き方を1冊にまとめてみた』東洋経済新報社、2013年 [ISBN]9784492045176
- ⑪. 渡邊正裕『これが働きたい会社だ』幻冬舎、2014年 [ISBN]4344006992
- ⑫. リッチ・カールガード『グレートカンパニー』ダイヤモンド社、2015年 [ISBN]9784478039618
- ⑬. JALアカデミー『美しい食事のマナー』成美堂出版、2006年 [ISBN]4415035930
- ⑭. 寿マリコ『好印象で面接に勝つ！就活メイク講座』ミネルヴァ書房、2014年 [ISBN]9784623070756

■関連科目

社会奉仕実習

■成績評価方法および基準

レポート 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

■オフィスアワー

火曜5限。予め、メールで連絡ください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

通年科目の扱いではあるが、シラバスの記載上、第1回から第15回は事前導入授業として、下記における「授業計画の項目・内容」を参照し、また第16回から第29回はインターンシップ研修先の企業・行政機関等におけるインターンシップ研修に該当するのでシラバスでは記載できない。尚、第30回は事後報告会として下記における第30回「授業計画の項目・内容」を参照すること。

第1回 インターンシップ・プログラムと自己紹介

予習内容 : Exercise①: まず、自己アピールしえるポイントを3つ絞る。次に、それを自己アピールのストーリーに落とし込む。そして、事前自己演習として、鏡を前に置き、1分間で、自己アピールのプレゼンテーションを、繰り返し行う。

予習時間 : 90分

復習内容 : 第1講の講義を踏まえながら、再度Exercise①を研鑽し、自己アピールのプレゼンテーションのパフォーマンスを高める。

復習時間 : 90分

第2回 セルフ・マネジメントとビジネス・メール

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise②のミッションを達成する。

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)②のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

第3回 企業研究① 基本情報収集

予習内容 : 予習 テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise③のミッションを達成する。

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)③のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

第4回 自己表現とコミュニケーション・スキル

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise④のミッションを達成する。

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)④のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

第5回 プレゼンテーション・スキル①研究テーマ

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑤のミッションを達成する。

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)⑤のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

第6回 プレゼンテーション・スキル③「商品開発」

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑥のミッションを達成する。

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)⑥のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

第7回 ソリューション・スキル

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑦のミッションを達成する。

予習時間 : 90分
復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)⑦のミッションを達成する。
復習時間 : 90分

第8回 ヒューマン・リレーション・スキル

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑧のミッションを達成する。
予習時間 : 90分
復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)⑧のミッションを達成する。
復習時間 : 90分

第9回 ビジネス・マナー①コミュニケーション

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑨のミッションを達成する。
予習時間 : 90分
復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)⑨のミッションを達成する。
復習時間 : 90分

第10回 ビジネス・マナー②パフォーマンス

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑩のミッションを達成する。
予習時間 : 90分
復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)⑩のミッションを達成する。
復習時間 : 90分

第11回 ビジネス・マナー③状況判断Ⅰ

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑪のミッションを達成する。
予習時間 : 90分
復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)⑪のミッションを達成する。
復習時間 : 90分

第12回 ビジネス・マナー④状況判断Ⅱ

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑫のミッションを達成する。
予習時間 : 90分
復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)⑫のミッションを達成する。
復習時間 : 90分

第13回 リーダーシップ・スキル

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑬のミッションを達成する。
予習時間 : 90分
復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)⑬のミッションを達成する。
復習時間 : 90分

第14回 企業研究②財務諸表

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑭のミッションを達成する。
予習時間 : 90分
復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑭のミッションを達成する。
復習時間 : 90分

第15回 スケジュール管理と手帖術

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑮のミッションを達成する。
予習時間 : 90分
復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり)⑮のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

試験は行わず課題を提示する。

第16回 ガイダンス

第17回 インターンシップ研修

第18回 インターンシップ研修

第19回 インターンシップ研修

第20回 インターンシップ研修

第21回 インターンシップ研修

第22回 インターンシップ研修

第23回 インターンシップ研修

第24回 インターンシップ研修

第25回 インターンシップ研修

第26回 インターンシップ研修

第27回 インターンシップ研修

第28回 インターンシップ研修

第29回 インターンシップ研修

第30回 事後報告会

予習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているExercise⑩のミッションを達成する。

予習時間 : 90分

復習内容 : テキスト『2017年度インターンシップ研修簿』の中に記載されているReflection(ふりかえり) ⑩のミッションを達成する。

復習時間 : 90分

試験は行わず課題を提示する。

科目名： キャリアインターンシップ			
英文名： Career Internship			
担当者： <small>カクガツカタントウキョウイン</small> 各学科担当教員			
単 位： 1単位	開講年次： 3年次	開講期： 通年	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

本講座は、事前研修（集中講座）を実施し、インターンシップ研修を行う際における、社会で働く心構え、インターンシップへの参加目的の明確化、ビジネスマナーなどを学び、身に付けます。さらに、インターンシップ研修後は、事後研修を実施し、インターンシップ研修で学んだことをさらに深めて考えることで、今後の自らの専攻における学習の目標化や将来の進路選択に活かすことを目的とします。

尚、インターンシップ研修の受け入れ先の企業及び行政機関等については、大学で紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

社会で働く心構え、インターンシップへの参加目的の明確化、ビジネスマナーなどを学び身に付けます。この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的3の達成に關与しています。

■教科書

プリント配布します。

■参考文献

特になし。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

事前授業・研修先での評価・および事後報告会における内容を総合的に判断して評価します。100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

3号館2階・就職情報室 bost-shu@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日～金曜日 9:00～17:00

土曜日 9:00～13:00

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ビジネスマナー1

第2回 ビジネスマナー2

第3回 企業研究

第4回 コミュニケーション1

第5回 コミュニケーション2

第6回 研修①

第7回 研修②

第8回 研修③

第9回 研修④

第10回 研修⑤

第11回 研修⑥

第12回 研修⑦

第13回 研修⑧

第14回 研修⑨

第15回 事後研修会

科目名： スクールインターンシップ			
英文名： School Internship			
担当者： <small>ワタナベ ヨウコ オダ ヨシタカ</small> 渡部 容子・小田 義隆			
単 位： 1単位	開講年次： 3年次	開講期： 集中	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

本科目は主に教職課程を履修する3年生と4年生を対象とするもので、本学部に協力してくださる公立の小中学校及び高等学校における、教職業務についての研修体験を通して学ぶことを目的としています。4年次で履修する「教育実習」では、教科指導（授業実習）に重点が置かれるのに対して、「スクール・インターンシップ」は、授業補助や児童・生徒との交流などに重点を置きながら、教職業務全般について経験することをねらいとしています。研修Ⅰ（事前研修、4時間）で、今日の教育課題、教員の職務と校務分掌等（下記、「授業計画の項目・内容」）について学んだ後に、本学部に近接する地域の公立学校で30時間以上の研修Ⅱ（実地研修）を行い、終了後、研修Ⅲ（事後研修、2時間）で、研修体験について報告・交流し、教職の意義、課題等について認識を深めます。

■学習・教育目標および到達目標

教科指導に重点を置く教育実習と違い、児童・生徒の理解と指導に重点を置きながら教職全般について経験することによって、教職に対する理解を深めることを学習・教育目標とします。また、研修体験を通して、履修生が自ら課題を見出し、それぞれが独自に到達目標を設定することも求められます。教師を志望する学生には、非常に有意義な実地研修です。この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

スクール・インターンシップ反省会において、試験の要点について解説します。

■教科書

渡部容子・小田義隆『スクール・インターンシップBOOK 2017』山口美術印刷、2017。

■参考文献

- 『現代教育制度論』（土屋 基規，ミネルヴァ書房：2011）ISBN-13: 978-4623058358
『生きづらい時代と自己肯定感 「自分が自分であって大丈夫」って？』（高垣 忠一郎，新日本出版社：2015）ISBN-13: 978-4406059084
『学校の「空気」(若者の気分)』（本田 由紀，岩波書店：2011）ISBN-13: 978-4000284516
『先生はえらい(ちくまプリマー新書)』（内田樹，筑摩書房：2015）ISBN: 9784480687029
『つながりを煽られる子どもたち——ネット依存といじめ問題を考える(岩波ブックレット)』（土井 隆義，岩波書店：2014）ISBN-13: 978-4002709031
『スクールカーストの闇 なぜ若者は便所飯をするのか』（和田秀樹，祥伝社:2013）ISBN-13: 978-4396316129

■関連科目

教職に関する全科目

■成績評価方法および基準

授業中課題 50%
研修校での評価 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

渡部研究室（2号館5階507室）・ywatanabe@waka.kindai.ac.jp
小田研究室（2号館5階509室）・oda@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

渡部・火曜3限
小田・木曜4限
事前にメールにてアポイントメントをとってください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 はじめに「実習の心得」

- 予習内容 : 実習を行うことに関する心得を図書館等の書籍を読み理解を深めておく。
予習時間 : 60分
復習内容 : 実習を行うことに関して理解したことに関する振り返りを行う。
復習時間 : 60分

第2回 教員の服務

予習内容 : 教師の服務に関する事項を図書館等の書籍を読み理解を深めておく。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教師の服務に関して理解したことに対する振り返りを行う。
復習時間 : 60分

第3回 教師の役割と仕事

予習内容 : 教師の役割に関する事項を図書館等の書籍を読み理解を深めておく。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教師の役割について理解したことに関する振り返りを行う。
復習時間 : 60分

第4回 教師の職務と校務分掌

予習内容 : 教師の職務や校務分掌等に関する事項を図書館等の書籍を読み理解を深めておく。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教師の職務や校務分掌等について理解したことに関する振り返りを行う。
復習時間 : 60分

第5回 学級経営と学校経営

予習内容 : 学校・学級経営に関する事項を図書館等の書籍を読み理解を深めておく。
予習時間 : 60分
復習内容 : 学校・学級経営について理解したことに関する振り返りを行う。
復習時間 : 60分

第6回 教師の勤務実態

予習内容 : 教師の勤務実態に関する事項を図書館等の書籍を読み理解を深めておく。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教師の勤務実態について理解したことに関する振り返りを行う。
復習時間 : 60分

第7回 教師の悩みと不満

予習内容 : 教師の悩みに関する事項を図書館等の書籍を読み理解を深めておく。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教師の悩みについて理解したことに関する振り返りを行う。
復習時間 : 60分

第8回 学校の人間関係

予習内容 : 学校の人間関係に関する事項を図書館等の書籍を読み理解を深めておく。
予習時間 : 60分
復習内容 : 学校の人間関係について理解したことに関する振り返りを行う。
復習時間 : 60分

第9回 教師の資質・能力

予習内容 : 教師の資質・能力に関する事項を図書館等の書籍を読み理解を深めておく。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教師の資質・能力について理解したことに関する振り返りを行う。
復習時間 : 60分

第10回 教師を支える学校事務職員

予習内容 : 学校事務職員に関する事項を図書館等の書籍を読み理解を深めておく。
予習時間 : 60分
復習内容 : 学校事務職員について理解したことに関する振り返りを行う。
復習時間 : 60分

第11回 今日の教育課題

予習内容 : 現代的な教育課題に関する事項を図書館等の書籍を読み理解を深めておく。

予習時間 : 60分
復習内容 : 現代的な教育課題について理解したことに関する振り返りを行う。
復習時間 : 60分

第12回 スクール・インターンシップを終えて

予習内容 : スクールインターンシップでの体験をまとめておくこと。
予習時間 : 60分
復習内容 : 他のメンバーとのディスカッションを踏まえて教職とは何かを振り返る。
復習時間 : 60分

第13回 研修で経験した困難について

予習内容 : インターンシップにおいて体験した困難をまとめておくこと。
予習時間 : 60分
復習内容 : 他のメンバーの困難等も検討し今日の教職の困難な部分を振り返る。
復習時間 : 60分

第14回 学校（教師・生徒）における研修の意義

予習内容 : 教師の研修に関する事項を図書館等の書籍を読み理解を深めておく。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教師の研修に関して理解したことを振り返る。
復習時間 : 60分

第15回 教職をめざして 今後の学習課題

予習内容 : スクールインターンシップを通して自らの今後の課題をまとめておく。
予習時間 : 60分
復習内容 : 他のメンバーの教職に関する課題を知った上で、各自の教職への課題を振り返り、まとめておく。
復習時間 : 60分

科目名： 情報処理基礎 I			
英文名： Computer Literacy 1			
担当者： <small>オオマサ ミツシ</small> 大政 光史			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

現代の情報社会で必要とされる情報活用力について演習を行いながら学ぶ。電子メール、Webなどのインターネットの活用と情報検索、文書作成、画像処理、プレゼンテーションなど、大学および卒業後の実社会において必要となる基礎知識や操作方法を学ぶ。同時にコンピュータや情報を利用するときのエチケット、規則および情報倫理を理解する。また、情報発信のためのWebページ作成についても学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

コンピュータの基礎知識や操作方法を学修し、コンピュータと情報に関する能力を向上させる。また、ワープロやプレゼンテーションソフトによる資料の作成方法など、今後の学修で必要となるスキルを獲得する。この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に課題の採点と解説をします。

■教科書

資料を配付する。

■参考文献

[ISBN]9784407320848『ネットワーク社会における情報の活用と技術』(ICT基礎教育研究会, 実教出版：2010)

■関連科目

情報処理基礎II

■成績評価方法および基準

演習課題 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

大政研究室（西1号館3階351）・ohmasa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜4限と木曜4限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 コンピュータの基本操作とパスワード、利用心得と規則

第2回 文字入力とデータの保存

第3回 電子メールの利用

第4回 Webの情報検索と情報の信頼性

第5回 ファイル管理と画像の利用法

第6回 ネット・コミュニケーションと情報倫理・著作権

第7回 コンピュータ・ウィルスとセキュリティ

第8回 プレゼンテーション資料の作成

第9回 図の作成と配置

第10回 各種画像を用いた発表資料の作成

第11回 Webページ作成

第12回 ハイパーテキストの作成

第13回 情報発信

第14回 報告書作成方法

第15回 情報交換用ファイルと授業全体のまとめ

科目名： 情報処理基礎Ⅱ			
英文名： Computer Literacy 2			
担当者： <small>オオマサ ミツシ</small> 大政 光史			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

さまざまな現象を科学的に分析しようとするとき、測定した数値データを処理する必要がある。データ処理の基本的な方法について、表計算、グラフ作成などの演習を行うことによって理解を深め、報告書の作成技術として図表や数式の入力方法などを学ぶ。また、福祉に役立つソフトウェアの機能についても学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

表計算ソフトを学修するとともに、数値データを具体的に扱うことによって、コンピュータと情報に関する能力を向上させる。また、理工系で必要とされる報告書を作成するスキルを獲得する。この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に課題の採点と解説をします。

■教科書

資料を配付する。

■参考文献

[ISBN]9784898144619『詳解 福祉情報技術〈1〉障害とテクノロジー編—福祉とテクノロジーの共存をめざして』(ローカス：2003)

[ISBN]9784898144626『詳解 福祉情報技術〈2〉生活を支援する技術編—福祉とテクノロジーの共存をめざして』(ローカス：2003)

■関連科目

情報処理基礎Ⅰ

■成績評価方法および基準

演習課題 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

大政研究室（西1号館3階351）・ohmasa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜3限と木曜3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 表計算の基礎

第2回 測定と単位

第3回 グラフ作成と近似線

第4回 数値表示と有効数字

第5回 表を利用したレポート作成

第6回 グラフを利用したレポート作成

第7回 関数による計算

第8回 連続データによる計算表

第9回 関数グラフの作成

第10回 各種数値データの利用

第11回 複数列のグラフ

第12回 データベースの利用

第13回 数式エディタ

第14回 福祉情報技術

第15回 情報のユニバーサルデザイン

科目名： 生涯スポーツ 1			
英文名： Sports and Exercises 1			
担当者： <small>クロズミ ケイジ</small> 黒住 啓二			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

グラウンド・コミュニティホールを使用し、各種目を個人の体力に合わせて行う。

■学習・教育目標および到達目標

生涯体育のレクリエーション・スポーツとしての理解を深め、この種目の持つ特性と楽しみを知ることを目標とする。健康の保持増進のために必要な身体活動量について経験することを目標にしている。

■教科書

特になし。

■参考文献

特になし。

■関連科目

生涯スポーツ 2

■成績評価方法および基準

実技評価 60%
授業記録 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）dpeew102@kawachi.zaq.ne.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 基本技術Ⅰ

第3回 基本技術Ⅱ

第4回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第5回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第6回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第7回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第8回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第9回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第10回 ゲーム (ソフトボール・サッカー・バトミントン)

第11回 ゲーム (ソフトボール・サッカー・バトミントン)

第12回 ゲーム (ソフトボール・サッカー・バトミントン)

第13回 ゲーム (ソフトボール・サッカー・バトミントン)

第14回 ゲーム (ソフトボール・サッカー・バトミントン)

第15回 まとめ

科目名： 生涯スポーツ 1			
英文名： Sports and Exercises 1			
担当者： <small>ハシモト ヨシユキ</small> 橋本 剛幸			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

それぞれの技能・体力に合わせて、生涯スポーツにつながる様々なスポーツを行う。種目や状況に応じて、グラウンドおよびコミュニティーホールを使用する。

■学習・教育目標および到達目標

生涯を通じて付き合っていけるスポーツを見つけることを目標に、能力の個人差や性別を超えてすべての人とそのスポーツの持つ特性を共有し、楽しむことを目指す。
この科目の習得は、本学部の定めるディプロマポリシー 2, 5の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

毎授業ごとに、各個人の運動技能、積極性、ゲーム運営協力度などを評価します。
授業終了時にゲーム内容の後評、ゲーム進行についての後評などを全体として行います。
個人に対して、授業内で、ゲーム中でのプレイや積極性、運営へ協力度についてコメントを適宜行います。

■教科書

特になし。

■参考文献

特になし。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

実技評価 60%
授業態度・意欲[授業内の質問に対する応答、ディスカッション内容] 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

橋本研究室（2号館5階）・hasimoto@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜 2 限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回目の授業ではオリエンテーションを行う。

2回目以降は各種目基本的な実技を行い、技能に応じて、ゲームへ移行する。

予習内容：各スポーツのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。日常生活におけるスポーツ実施に向けた意識の再確認。

予習時間：30分

復習内容：各スポーツのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。

復習時間：30分

第1回 オリエンテーション

予習内容：各スポーツのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。日常生活におけるスポーツ実施に向けた意識の再確認。

予習時間：30分

復習内容：各スポーツのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。

復習時間：30分

生涯スポーツの意味を理解し、積極的に参加できるように準備を行う。

第2回 ソフトボール 基礎実技1

予習内容：ソフトボールのルールの確認。キャッチボールの技能の確認。

予習時間 : 30分
復習内容 : 正確なキャッチボールの技能の習得。
復習時間 : 30分

第3回 ソフトボール 基礎実技2

予習内容 : ソフトボールのルールの確認。バッティングの技能の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : ソフトボールの攻撃、守備に関する技能の習得。
復習時間 : 30分

第4回 ソフトボール ゲーム

予習内容 : ソフトボールのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : ソフトボールのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。
復習時間 : 30分

第5回 サッカー 基礎実技1

予習内容 : サッカーのルールの確認。インサイドキックを中心としたキックの技能の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : 正確なキック、シュートの技能の習得。
復習時間 : 30分

第6回 サッカー 基礎実技2

予習内容 : サッカーのルールの確認。ミニゲームにおけるサッカーの技能の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : サッカーのゲーム展開を考えた技能の習得。
復習時間 : 30分

第7回 サッカー ゲーム

予習内容 : サッカーのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : サッカーのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。
復習時間 : 30分

第8回 バasketボール 基礎実技1

予習内容 : バasketボールのルールの確認。パス、キャッチの技能の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : 正確なパス、キャッチの技能の習得。
復習時間 : 30分

第9回 バasketボール 基礎実技2

予習内容 : バasketボールのルールの確認。シュートの技能の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : 攻守の切り替え、正確なシュートの技能の習得。
復習時間 : 30分

第10回 バasketボール ゲーム

予習内容 : バasketボールのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : バasketボールのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。
復習時間 : 30分

第11回 バレーボール 基礎実技1

予習内容 : バレーボールのルールの確認。オーバー、アンダーハンドパスの技能の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : 正確なオーバー、アンダーハンドパスの技能の習得。
復習時間 : 30分

第12回 バレーボール 基礎実技2

予習内容 : バレーボールのルールの確認。サーブの技能の確認。

予習時間 : 30分

復習内容 : バレーボールの攻撃のための技能の習得。

復習時間 : 30分

第13回 バレーボール ゲーム

予習内容 : バレーボールのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。

予習時間 : 30分

復習内容 : バレーボールのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。

復習時間 : 30分

第14回 ゲーム1 (ソフトボール、サッカー、バスケットボール、バレーボールより選択)

予習内容 : 各スポーツのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。

予習時間 : 30分

復習内容 : 各スポーツのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。

復習時間 : 30分

第15回 ゲーム2 (ソフトボール、サッカー、バスケットボール、バレーボールより選択)

予習内容 : 各スポーツのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。

予習時間 : 30分

復習内容 : 各スポーツのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。

復習時間 : 30分

科目名： 生涯スポーツ2			
英文名： Sports and Exercises 2			
担当者： <small>クロズミ ケイジ</small> 黒住 啓二			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

グラウンド・コミュニティホールを使用し、各種目を個人の体力に合わせて行う。

■学習・教育目標および到達目標

生涯体育のレクリエーション・スポーツとしての理解を深め、この種目の持つ特性と楽しみを知ることを目標とする。健康の保持増進のために必要な身体活動量について経験することを目標にしている。

■教科書

特になし。

■参考文献

特になし。

■関連科目

生涯スポーツ 1

■成績評価方法および基準

実技評価 60%
授業態度 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）dpeew102@kawachi.zaq.ne.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 基本技術Ⅰ

第3回 基本技術Ⅱ

第4回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第5回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第6回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第7回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第8回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第9回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第10回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第11回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第12回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第13回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第14回 ゲーム（ソフトボール・サッカー・バトミントン）

第15回 まとめ

科目名： 生涯スポーツ2			
英文名： Sports and Exercises 2			
担当者： <small>ハシモト ヨシユキ</small> 橋本 剛幸			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

それぞれの技能・体力に合わせて、生涯スポーツにつながる様々なスポーツを行う。種目や状況に応じて、グラウンドおよびコミュニティホールを使用する。

■学習・教育目標および到達目標

生涯を通じて付き合っていけるスポーツを見つけることを目標に、能力の個人差や性別を超えてすべての人とそのスポーツの持つ特性を共有し、楽しむことを目指す。
この科目の習得は、本学部の定めるディプロマポリシー 2, 5の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

毎授業ごとに、各個人の運動技能、積極性、ゲーム運営協力度などを評価します。
授業終了時にゲーム内容の後評、ゲーム進行についての後評などを全体として行います。
個人に対して、授業内で、ゲーム中でのプレイや積極性、運営へ協力度についてコメントを適宜行います。

■教科書

特になし。

■参考文献

特になし。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

実技評価 60%
授業態度・意欲[授業内の質問に対する応答、ディスカッション内容] 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

橋本研究室（2号館5階）・hasimoto@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回目の授業ではオリエンテーションを行う。

2回目以降は各種目基本的な実技を行い、技能に応じて、ゲームへ移行する。

予習内容：各スポーツのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。日常生活におけるスポーツ実施に向けた意識の再確認。

予習時間：30分

復習内容：各スポーツのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。

復習時間：30分

第1回 オリエンテーション

予習内容：各スポーツのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。日常生活におけるスポーツ実施に向けた意識の再確認。

予習時間：30分

復習内容：各スポーツのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。

復習時間：30分

生涯スポーツの意味を理解し、積極的に参加できるように準備を行う。

第2回 ソフトボール 基礎実技

予習内容：ソフトボールのルールの確認。攻撃、守備の技能の確認。

予習時間 : 30分
復習内容 : ソフトボールの作戦を踏まえた攻守の技能の習得。
復習時間 : 30分

第3回 ソフトボール ゲーム

予習内容 : ソフトボールのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : ソフトボールのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。
復習時間 : 30分

第4回 サッカー 基礎実技

予習内容 : サッカーのルールの確認。サッカーの攻守を踏まえた技能の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : サッカーのより高いレベルのゲームに向けた技能の習得。
復習時間 : 30分

第5回 サッカー ゲーム

予習内容 : サッカーのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : サッカーのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。
復習時間 : 30分

第6回 バドミントン 基礎実技1

予習内容 : バドミンントンのルールの確認。シャトルを強く打つための技能の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : 強弱を打ち分けるための技能の習得。
復習時間 : 30分

第7回 バドミントン 基礎実技2

予習内容 : バドミンントンのルールの確認。サーブの技能の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : ゲームで勝つための技能の習得。
復習時間 : 30分

第8回 バドミントン ゲーム

予習内容 : バドミンントンのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : バドミンントンのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。
復習時間 : 30分

第9回 バスケットボール 基礎実技

予習内容 : バスケットボールのルールの確認。早い攻守の切り替えを踏まえた技能の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : ゲームで勝つための攻守の技能の習得。
復習時間 : 30分

第10回 バスケットボール ゲーム

予習内容 : バスケットボールのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : バスケットボールのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。
復習時間 : 30分

第11回 バレーボール 基礎実技

予習内容 : バレーボールのルールの確認。多彩な攻撃を仕掛けるための技能の確認。
予習時間 : 30分
復習内容 : ゲームに勝つための攻守の技能の習得。
復習時間 : 30分

第12回 バレーボール ゲーム

予習内容 : バレーボールのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。

予習時間 : 30分

復習内容 : バレーボールのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。

復習時間 : 30分

第13回 ゲーム1 (ソフトボール,サッカー,バスケットボール,バレーボール,バドミントンより選択)

予習内容 : 各スポーツのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。

予習時間 : 30分

復習内容 : 各スポーツのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。

復習時間 : 30分

第14回 ゲーム2 (ソフトボール,サッカー,バスケットボール,バレーボール,バドミントンより選択)

予習内容 : 各スポーツのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。

予習時間 : 30分

復習内容 : 各スポーツのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。

復習時間 : 30分

第15回 ゲーム3 (ソフトボール,サッカー,バスケットボール,バレーボール,バドミントンより選択)

予習内容 : 各スポーツのルールの確認。技能、作戦、ゲーム運営、審判法の確認。

予習時間 : 30分

復習内容 : 各スポーツのゲームにおける技能面、作戦面での失敗の反省、改善に向けて取り組み。

復習時間 : 30分

科目名：健康とスポーツの科学			
英文名：Health and Sports Sciences			
担当者： <small>クロズミ ケイジ</small> 黒住 啓二			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

各自一冊のノートを作成し、生涯における健康の意義と体力維持の方法を学習する。

■学習・教育目標および到達目標

現代生活では体を動かすことが少なくなり、運動不足が問題となっている。ここでは基本的なトレーニング理論を土台に、健康で活力ある毎日がおくれるための知識を学習する。

■教科書

特になし。

■参考文献

【ISBN】9784915926013 湯浅景元 著「よくわかるスポーツサイエンス」サニーサイドアップ

■関連科目

生涯スポーツ1、2

■成績評価方法および基準

レポート 10%

授業中の小テスト（3回）90%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）dpeew102@kawachi.zaq.ne.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 体のしくみ 筋肉

第3回 体のしくみ 骨

第4回 体のしくみ 脂肪

第5回 体力について 性と体力

第6回 体力について 年齢と体力

第7回 体力について 環境と体力

第8回 筋肉トレーニング

第9回 スタミナトレーニング

第10回 柔軟性トレーニング

第11回 サプリメントと栄養

第12回 水分補給

第13回 ドーピング

第14回 生活習慣病

第15回 まとめ

科目名：健康とスポーツの科学			
英文名：Health and Sports Sciences			
担当者：橋本 剛幸 <small>ハシモト ヨシユキ</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

スポーツや運動についての基礎理論を学ぶことにより、人間の健康について考えます。グループ、もしくは個人でテーマを決めて調べ、そのテーマについてプレゼンテーションおよび討議を行います。

■学習・教育目標および到達目標

生涯にわたって健康的な生活を送るために、いかに運動が大切であるかを理解し、スポーツとどのように付き合っていくかを考え、実践していく意識を高めることを目標とします。また、自ら学ぶ姿勢とプレゼンテーション能力を養い、一つのテーマに対して討議することでお互いの知識を深めることも目標としています。この科目の習得は、本学部の定めるディプロマポリシー 2, 5の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各グループのプレゼンテーションについて、終了後と次回の授業の最初に行うまとめの中で、後評を行います。各授業の質疑応答、ディスカッション内容について、授業終了後、各個人にアドバイスや評価内容の説明を行います。

■教科書

特になし。

■参考文献

特になし。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

プレゼンテーション内容 70%

受講態度・意欲[授業内の質問に対する応答、ディスカッション内容] 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

橋本研究室（2号館5階）・hasimoto@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回目の授業ではオリエンテーション、グループ分けを行う。

2回目以降はテーマ決定、テーマ内容の調査を数時間行い、準備ができ次第できるだけ早い時期からプレゼンテーション、討議を順番に行っていく。

予習内容：プレゼンテーションに向けての準備。発表内容に対しての質問内容の整理。自分たちの発表内容の様々な見地からの検討。

予習時間：60分

復習内容：発表内容の再検討。まとめを受けて、内容の検討、質問内容の整理。

復習時間：30分

第1回 オリエンテーション（グループ分け・発表日決定）

予習内容：グループ分けに向けて、発表内容の検討。

予習時間：30分

復習内容：グループでの討議、発表内容、分担の決定へ向けての準備。

復習時間：30分

第2回 ディスカッション1（テーマ決定・プレゼンテーション例〈個人スポーツ〉の実施）

予習内容：グループでの討議、発表内容、分担の決定へ向けての準備。

予習時間：60分

復習内容 : プレゼンテーション例を受けて、内容の再検討。
復習時間 : 30分

第3回 ディスカッション2 (内容調査・プレゼンテーション例〈集団スポーツ〉の実施)

予習内容 : グループでの討議、発表内容、分担の決定へ向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : プレゼンテーション例を受けて、内容の再検討。
復習時間 : 30分

第4回 ディスカッション3 (内容調査・プレゼンテーション例〈アスリート〉の実施)

予習内容 : グループでの討議、発表内容、分担の決定へ向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : プレゼンテーション例を受けて、内容の再検討。
復習時間 : 30分

第5回 プレゼンテーション1

予習内容 : プレゼンテーションに向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : 発表内容を受けて、内容の検討、質問内容の整理。
復習時間 : 30分

第6回 プレゼンテーション2

前回のプレゼンテーションのまとめ (バイオメカニクスの見地より)

予習内容 : 自分たちの発表内容についてのバイオメカニクスの見地より再検討。プレゼンテーションに向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : 発表内容を受けて、内容の検討、質問内容の整理。
復習時間 : 30分

第7回 プレゼンテーション3

前回のプレゼンテーションのまとめ (運動医学の見地より)

予習内容 : 自分たちの発表内容についてのスポーツ医学の見地より再検討。プレゼンテーションに向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : 発表内容を受けて、内容の検討、質問内容の整理。
復習時間 : 30分

第8回 プレゼンテーション4

前回のプレゼンテーションのまとめ (スポーツ社会学的見地より)

予習内容 : 自分たちの発表内容についてのスポーツ社会学的見地より再検討。プレゼンテーションに向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : 発表内容を受けて、内容の検討、質問内容の整理。
復習時間 : 30分

第9回 プレゼンテーション5

前回のプレゼンテーションのまとめ (スポーツ心理学的見地より)

予習内容 : 自分たちの発表内容についてのスポーツ心理学的見地より再検討。プレゼンテーションに向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : 発表内容を受けて、内容の検討、質問内容の整理。
復習時間 : 30分

第10回 プレゼンテーション6

前回のプレゼンテーションのまとめ（体育史の見地より）

予習内容 : 自分たちの発表内容についての体育史の見地より再検討。プレゼンテーションに向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : 発表内容を受けて、内容の検討、質問内容の整理。
復習時間 : 30分

第11回 プレゼンテーション7

前回のプレゼンテーションのまとめ（運動生理学的見地より）

予習内容 : 自分たちの発表内容についての運動生理学的見地より再検討。プレゼンテーションに向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : 発表内容を受けて、内容の検討、質問内容の整理。
復習時間 : 30分

第12回 プレゼンテーション8

前回のプレゼンテーションのまとめ（体育経営学の見地より）

予習内容 : 自分たちの発表内容についての体育経営学の見地より再検討。プレゼンテーションに向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : 発表内容を受けて、内容の検討、質問内容の整理。
復習時間 : 30分

第13回 プレゼンテーション9

前回のプレゼンテーションのまとめ（体育方法学の見地より）

予習内容 : 自分たちの発表内容についての体育方法学の見地より再検討。プレゼンテーションに向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : 発表内容を受けて、内容の検討、質問内容の整理。
復習時間 : 30分

第14回 プレゼンテーション10

前回のプレゼンテーションのまとめ（スポーツ測定評価学の見地より）

予習内容 : 自分たちの発表内容についてのスポーツ測定評価学の見地より再検討。プレゼンテーションに向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : 発表内容を受けて、内容の検討、質問内容の整理。
復習時間 : 30分

第15回 前回のプレゼンテーションのまとめ（発達発育学の見地より）

まとめ

予習内容 : 自分たちの発表内容についての発達発育学の見地より再検討。プレゼンテーションに向けての準備。
予習時間 : 60分
復習内容 : 発表内容を受けて、内容の検討、質問内容の整理。
復習時間 : 30分

科目名：食生活と健康			
英文名：Diet and Health			
担当者： <small>イハラ ヒデアキ</small> 居原 秀			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

食は、我々の生命を維持するために必要不可欠である。しかし現代は、様々な食品が豊富に流通し食生活も多様化したため、特定の栄養素の過剰摂取や摂取不足が生じやすくなってきた。間違った栄養摂取が続くと健康を害することもある。そのため、栄養の基本的概念を理解した上で、正しい食生活をおくる必要がある。本講義では、さまざまな栄養素に関する基礎知識を身につけるとともに、人間がよりよい食生活を送り、健康を維持増進するためには、どうすべきかを総合的に考える。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、この授業を履修することによって、

- (1) 主要な栄養素の機能について理解する。
- (2) ライフステージ別に必要な栄養とその摂取方法を理解する。
- (3) 健康を保つ上で適した生活習慣と食生活を理解する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に「試験の要点と解説」を掲示板に掲載します。

■教科書

[ISBN]9784808260415『イラスト栄養学総論』（城田知子，東京教学社：2015）

■参考文献

[ISBN]9784767961750『最新栄養学—専門領域の最新情報』（建帛社：2014）

■関連科目

特になし

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・ihara@b.s.osakafu-u.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 健康と栄養

第2回 エネルギー供給栄養素（1）

第3回 エネルギー供給栄養素（2）

第4回 体をつくる栄養素（1）

第5回 体をつくる栄養素（2）

第6回 代謝調節栄養素（1）

第7回 代謝調節栄養素（2）

第8回 機能性非栄養成分

第9回 消化と吸収（1）

第10回 消化と吸収（2）

第11回 生体におけるエネルギー（1）

第12回 生体におけるエネルギー（2）

第13回 ライフスタイルと栄養摂取（1）

第14回 ライフスタイルと栄養摂取（2）

第15回 栄養状態の判定

定期試験

科目名： 基礎英語 1			
英文名： Basic English 1			
担当者： <small>ノグチ ヒロヨ</small> 野口 博代			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

基礎文法力の充実、リスニング、リーディングストラテジーの習得を目指した授業を行う。文法については頭で理解するだけに留まらず、英語を使用するための能力が身につくように、プラクティス型の授業を行う。リスニング・リーディングについては、平易な語彙を用いた教科書などを使用しながら、無理なく基本が身につく授業を行う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースに指定された回数以上の参加を必修とする。

* TOEIC教材の使用は、学内TOEIC-IPテストの日程により使用期間が変わることがある。

■学習・教育目標および到達目標

「基礎英語2」と合わせて、今後の大学での英語学習に必要とされる文法力、語彙力、読解力をつける。複雑でない構文の英文を、1文単位であれば理解できるようになり、また、平易な文章であれば、辞書を使用しながらある程度の速さで読めるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

模範解答をuniversal passport に掲載します。

■教科書

『Science for Fun!』（金星堂）[ISBN]9784764740464

『Cubic Listening : Puzzle It Out』（Macmillan Languagehouse）ISBN 9784777360116

『TOEIC Test:Workout300 大学生のためのTOEICテスト基礎演習』（南雲堂）ISBN 9784523177784

■参考文献

特になし

■関連科目

基礎英語2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)

野口 h-noguch@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

各教科書についての説明

授業の進め方の説明

・ 予習の進め方

・ 授業の進め方

・ 課題（インターネットを使った課題やランチタイムリーディングへの参加など）

受講に際しての注意事項

・ 欠席／遅刻について

・ 忘れもの（テキスト・辞書）について

・ 携帯電話の使用の制限について

・ 単語／熟語の小テストについて

・ 定期試験について

・ 総合評価について

その他、受講に際しての重要事項について

第2回 Uni 1 t Secret Taste Cells(1)

【リーディング】 味覚細胞についての英文を読み解く。

第3回 Uni 1 t Secret Taste Cells (2)

【リーディング】 味覚細胞についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む>

第4回 リスニング Unit 1 Treasure Island

【リスニング】 map work, geographyに関するリスニング問題を解く

第5回 リスニング Unit 2 Gridwork

【リスニング】 positions, describing shapesに関するリスニング問題を解く。

第6回 Unit 2 Singing Sand(1)

【リーディング】 鳴き砂についての英文を読み解く。

第7回 Unit 2 Singing Sand(2)

【リーディング】 鳴き砂についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む>

第8回 リスニング Unit 3 Checks and Stripes

【リスニング】 patterns, describing clothes, pricesに関する内容のリスニング問題を解く。

第9回 リスニング Unit 4 Put It Away

【リスニング】 rooms, furniture, locationに関する内容のリスニング問題を解く。

第10回 Unit 3 Christmas Tree Science(1)

【リーディング】 最近のクリスマスツリー農家についての英文を読み解く。

第11回 Unit 3 Christmas Tree Science(2)

【リーディング】 最近のクリスマスツリー農家についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む>

第12回 リスニング Unit 5 What's On?

【リスニング】 times, theater schedulesに関する内容のリスニング問題を解く。

第13回 リスニング Unit 6 Where's the Deli ?

【リスニング】 stores, street locations, directionsに関する内容のリスニング問題を解く。

第14回 Unit 4 Watch a Zebra Think (1)

【リーディング】 魚の脳についての英文を読み解く。

第15回 Unit 5 Watch a Zebra Think (2)

【リーディング】 魚の脳についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む>

第16回 リスニング Unit 7 Give Us a Clue

【リスニング】 crossword cluesに関する内容のリスニング問題を解く。

第17回 リスニング Unit 8 On the Way

【リスニング】 different ways of travel, journey times, race commentaryに関する内容のリスニング問題を解く。

第18回 Unit 5 The Time-Traveling Flower (1)

【リーディング】 大昔の花の種類の見つけ方についての英文を読み解く。

第19回 Unit 5 The Time-Traveling Flower (2)

【リーディング】 大昔の花の種類の見つけ方についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む>

第20回 リスニング Unit 9 Fill in the Form

【リスニング】 forms, questionnaires, giving informationに関する内容のリスニング問題を解く。

第21回 TOEIC概要説明・TOEIC Unit1

【TOEIC】 TOEICの各パートの問題形式など、TOEICに関する基本情報を知る。TOEIC Unit1

第22回 Unit 6 Super Seaweed-Slurping Gut Bugs(1)

【リーディング】 海藻を消化するために必要な腸内細菌についての英文を読み解く。

第23回 Unit 6 Super Seaweed-Slurping Gut Bugs(2)

【リーディング】 海藻を消化するために必要な腸内細菌についての英文を読み解く。

第24回 TOEIC Unit2

【TOEIC】 疑問詞を使う問いかけに注目し、動詞を決める要素に注目しながらTOEIC問題を解く。

第25回 TOEIC Unit3

店頭での会話をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。動詞に絡む補充問題を解く。

第26回 Unit 7 Self-Driving Cars Will make the World a Better Place(1)

【リーディング】 未来の自動車についての英文を読み解く。

第27回 Unit 7 Self-Driving Cars Will make the World a Better Place(2)

【リーディング】 未来の自動車についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む>

第28回 リスニング Unit 10 Call911

【リスニング】 crime report, description of stolen propertyに関する内容のリスニング問題を解く。

第29回 Unit 8 Your Brain on Music(1)

【リーディング】 脳と音楽についての英文を読み解く。

第30回 Unit 8 Your Brain on Music(2)

【リーディング】 脳と音楽についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む>

★夏休み中にも引き続きTOEIC対策の自主的な学習を行うとともに、可能であれば1度TOEICを受験することも視野に入れてみる。

定期試験

科目名：基礎英語 1 〈再履修〉			
英文名：Basic English 1			
担当者： <small>タキグチ トモコ</small> 滝口 智子			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

基礎文法力の充実、リスニング・リーディングストラテジーの習得を目指した授業を行う。文法については頭で理解するだけに留まらず、実際に英語を使用するための能力が身につくように、プラクティス型の授業を行う。リスニング・リーディングについては、平易な語彙を用いた教科書等を使用しながら、無理なく基本が身につく授業を行う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースに少なくとも2回の参加を必修とする。

■学習・教育目標および到達目標

英語の長文を、ゆっくりしたペースで読んだり聴いたりし、内容が理解できるようになる。語彙力を高め、様々な表現を覚える。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案(写し)を返却します。

■教科書

ISBN 978-4-7919-4792-8

『世界で輝く若者たちの英語 2』

World Wide English on DVD Volume 2 (森田 彰, 成美堂)

■参考文献

授業中に適宜、指示します

■関連科目

基礎英語 2

■成績評価方法および基準

平常点 (提出物・グループワークへの参加度を含む) 50%

小テスト 30%

課題 10%

口頭発表 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階)・tom106@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 unit 1 New York Introduction

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第2回 unit 1 New York Introduction

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第3回 unit 2 A Passion for Hip Hop

～ヒップホップに首ったけ～ (New York)

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第4回 unit 2 A Passion for Hip Hop

～ヒップホップに首ったけ～ (New York)

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第5回 unit 3 Australia Introduction

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第6回 unit 3 Australia Introduction

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第7回 unit 4 A Girl with Big Dreams and High Hopes

～夢と希望にあふれた女性～ (Australia)

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第8回 unit 4 A Girl with Big Dreams and High Hopes

～夢と希望にあふれた女性～ (Australia)

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第9回 unit 5 Northern Ireland Introduction

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第10回 unit 5 Northern Ireland Introduction

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習

- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第11回 unit 6 More Than Meets the Eye

～コメディアンはつらいよ～ (Northern Ireland)

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第12回 unit 6 More Than Meets the Eye

～コメディアンはつらいよ～ (Northern Ireland)

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第13回 unit 7 Review Section

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第14回 unit 7 Review Section

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第15回 まとめと小テスト

Unit 1 ～ Unit 6 までのまとめとして、復習テストを行います。

第16回 unit 8 South Africa Introduction

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第17回 unit 8 South Africa Introduction

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第18回 unit 9 Life Is a Gift

～命は、1つの贈り物～ (South Africa)

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習

(4) 内容理解の問題

第19回 unit 9 Life Is a Gift

～命は、1つの贈り物～ (South Africa)

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第20回 unit 10 Wales Introduction

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第21回 unit 10 Wales Introduction

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第22回 unit 11 Enjoying New Experiences

～新たな経験を楽しむこと～ (Wales)

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第23回 unit 11 Enjoying New Experiences

～新たな経験を楽しむこと～ (Wales)

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第24回 unit 12 India Introduction

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第25回 unit 12 India Introduction

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第26回 unit 13 The Most Important Things in My Life

～僕の人生にとって重要なこと～ (India)

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第27回 unit 13 The Most Important Things in My Life

～僕の人生にとって重要なこと～ (India)

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第28回 unit 14 Review Section

- (1) 都市についての基礎的な知識を確認し、英語で表現
- (2) 新しい語彙の練習
- (3) 語彙の連結の練習と文の口頭練習
- (4) 内容理解の問題

第29回 unit 14 Review Section

- (1) 内容についての正誤問題
- (2) 役立つフレーズの口頭練習
- (3) シャドウイング・リピーティングの口頭練習
- (4) 英語のインタビューを聴きとる
- (5) 要約作成

第30回 まとめと小テスト

Unit 8 ～ Unit 13 までのまとめとして、復習テストを行います。

まとめのテスト

自分の言葉で、ひとつあるいはふたつのユニットの内容を英語にまとめて話してみましよう。
授業内で段階を追って練習した成果を、発揮してみましよう。

科目名： 基礎英語 2			
英文名： Basic English 2			
担当者： <small>ノグチ ヒロヨ</small> 野口 博代			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

「基礎英語 1」に引き続き、基礎文法力の充実、リスニング・リーディングストラテジーの習得を目指した授業を行う。文法については頭で理解するだけに留まらず、実際に英語を使用するための能力が身につくように、プラクティス型の授業を行う。リスニング・リーディングについては、平易な語彙を用いた教科書等を使用しながら、無理なく基本が身につく授業を行う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースに指定された回数の参加を必修とする。

*TOEIC教材の使用は、学内TOEIC-IPテストの日程により使用期間が変わることがある。

*実力テストが12月上旬に行われる予定である。

■学習・教育目標および到達目標

「基礎英語 1」と合わせて、今後の大学での英語学習に必要とされる文法力、語彙力、読解力をつける。複雑でない構文の英文を、1文単位であれば理解できるようになり、また、平易な文章であれば、辞書を使用しながらある程度の速さで読めるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

模範解答をuniversal passport に掲載します。

■教科書

『Science for Fun!』（金星堂）[ISBN]9784764740464

『Cubic Listening :Puzzle It Out』（Macmillan Languagehouse）ISBN 9784777360116

『TOEIC Test WORKOUT300 大学生のためのTOEICテスト基礎演習』（南雲堂）ISBN 9784523177784

■参考文献

特になし

■関連科目

基礎英語 1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)

野口h-noguch@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

実力テストが12月上旬に行われる予定であり、授業計画がそれにより前後することがある。

第1回 オリエンテーション

授業の進め方の説明

- ・ 予習の進め方
- ・ 授業の進め方
- ・ 課題（インターネットを使った課題やランチタイムリーディングへの参加など）

受講に際しての注意事項

- ・ 欠席／遅刻について
- ・ 忘れもの（テキスト・辞書）について
- ・ 携帯電話の使用の制限について

- ・単語／熟語の小テストについて
 - ・定期試験について
 - ・総合評価について
- その他、受講に際しての重要事項について

第2回 Unit 9 Blast Off! Astronauts Will Print Custom Tools (1)

【リーディング】 未来の3Dプリンターの活用についての英文を読み解く。

第3回 Unit 9 Blast Off! Astronauts Will Print Custom Tools (2)

【リーディング】 未来の3Dプリンターの活用についての英文を読み解く。
 <文法・リスニング含む>

第4回 リスニング Unit 11 Dot to Dot

【リスニング】 numbers, instructionsに関する内容のリスニング問題を解く。

第5回 リスニング Unit 12 In the Mail

【リスニング】 at the post office, pricesにする内容のリスニング問題を解く。

第6回 Unit10 Too Quick to Be Roadkill(1)

【リーディング】 環境に適応する燕の進化についての英文を読み解く。

第7回 Unit10 Too Quick to Be Roadkill(2)

【リーディング】 環境に適応する燕の進化についての英文を読み解く。
 <文法・リスニング含む>

第8回 リスニング Unit 13 Asia Trip

【リスニング】 travel itinerary, souvenirsに関する内容のリスニング問題を解く。

第9回 リスニング Unit 14 The Office

【リスニング】 office layout, office furniture, office equipmentに関する内容のリスニング問題を解く。

第10回 Unit 11 Meet Your Mighty Microbes (1)

【リーディング】 自分の身近にいる微生物についての英文を読み解く。

第11回 Unit 11 Meet Your Mighty Microbes (1)

【リーディング】 自分の身近にいる微生物についての英文を読み解く。
 <英文・リスニング含む>

第12回 リスニング Unit 15 What's Your Number ?

【リスニング】 phone numbers, phone messages, instructionsに関する内容のリスニング問題を解く。

第13回 Unit 12 Raise Your Hand, Robots Go to School(1)

【リーディング】 学校にいけない子どもの代わりに学校に行くロボットについての英文を読み解く。

第14回 Unit12 Raise Your Hand, Robots Go to School(2)

【リーディング】 学校にいけない子どもの代わりに学校に行くロボットについての英文を読み解く。
 <文法・リスニング含む>

第15回 U9～U12 まとめ

U9～U12に学習した項目の確認・復讐を行う。

第16回 TOEIC Unit7

【TOEIC】電話でよく使われる英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。前置詞と接続詞の補充問題を解く。

第17回 TOEIC Unit8

【TOEIC】録音メッセージや社内のメモを理解する時に使う英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

第18回 TOEIC UNIT9

【TOEIC】人物と背景の描写、人物や物の代名詞についてTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

第19回 リスニング Unit 16 The Big Race

【リスニング】description of riders, bicycle race commentaryに関するのスニング問題を解く。

第20回 Unit13 Jet Lag = Brain Damage for Hamsters (1)

【リーディング】時差ボケと脳の家計についての英文を読み解く。

第21回 Unit 13 Jet Lag = Brain Damage for Hamsters (2)

【リーディング】時差ボケと脳の関係についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む>

第22回 リスニング Unit 17 Under the Hammer

【リスニング】description of works of art, large numbersに関するのスニング問題を解く。

第23回 リスニング Unit 18 Around Town

【リスニング】directions, locationsに関するのスニング問題を解く。

第24回 Unit 14 What Do Elephants and Rats Have in Common?(1)

【リーディング】異なる動物における共通点についての英文を読み解く。

第25回 Unit 14 What Do Elephants and Rats Have in Common?(2)

【リーディング】異なる動物における共通点についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む>

第26回 リスニング Unit 19 Chocolate Mousse

【リスニング】ingredients, recipes, cookingに関するリスニング問題を解く。

第27回 リスニング Unit 20 Zoo Safari

【リスニング】description of animals, locations at the zooに関するリスニング問題を解く。

第28回 Unit 15 Spying on Disease (1)

【リーディング】バクテリアについての英文を読み解く。

第29回 Unit 15 Spying on Disease (2)

【リーディング】バクテリアについての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む>

第30回 Science for Fun のまとめ+Cubic Listening のまとめ

- ・ Science for Funの内容に関する質問
- ・ Science for Funで取り扱われたトピックの中で特に関心があったトピックについて英語で意見交換をする。
- ・ Cubic Listeningの内容に関する質問
- ・ Cubic Listeningで取り扱われたトピックの中で特に関心があったトピックについて英語で意見交換をする

定期試験

科目名：基礎英語2 〈再履修〉			
英文名：Basic English 2			
担当者： <small>タキグチ トモコ</small> 滝口 智子			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

この授業では、英語のニュースを教材として、DVDを見ながら聞き取りと読解の練習を行います。さらに応用として、英作文および英語会話の練習をします。

授業は次のように進めていきます。

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)
- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表、課題として提出

提出してもらった課題は、途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

■学習・教育目標および到達目標

英語のニュースを聞いて、内容を理解し自分でもある程度説明できるようになること。

英語の様々な話題について、自分の意見をシンプルな表現で言えるようになること。

口頭練習を多く行い、聞き取りの精度をあげること。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案(写し)を返却します。

■教科書

『What's on Japan 11 日本を発信する 11—NHK English News Stories (映像で学ぶNHK英語放送)』(金星堂：2015)

■参考文献

授業時に適宜指示する。

■関連科目

特になし

■成績評価方法および基準

平常点 50%

小テスト 30%

課題・提出物 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階)・tom106@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit 1 Introduction

Manga Message for the Young

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第2回 Unit 1 Manga Message for the Young

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第3回 Unit 2 Jumping for Victory

ダブルダッチ選手権—神技集合

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第4回 Unit 2 Jumping for Victory

ダブルダッチ選手権—神技集合

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第5回 Unit 3 Seeking Quality over Cost

売れる店はこう作れ！

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第6回 Unit 3 Seeking Quality over Cost

売れる店はこう作れ

！

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第7回 Unit 4 Getting Dads Home Earlier

イクメンボス企業—長時間労働を変える

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第8回 Unit 4 Getting Dads Home Earlier

クメンボス企業—長時間労働を変える

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第9回 Unit 5 Plugging Privacy

「ぼっち」消費—ニーズの多様化に応える

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第10回 Unit 5 Plugging Privacy

「ぼっち」消費—ニーズの多様化に応える

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第11回 Unit 6 Recycling Messages of Hope

折り鶴再生で平和祈念

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第12回 Unit 6 Recycling Messages of Hope

折り鶴再生で平和祈念

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第13回 Unit 7 Breaking Out

建築物の未来形—発泡ポリスチレン

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第14回 Unit 7 Breaking Out 建築物の未来形—発泡ポリスチレン

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習

(7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第15回 Unit 8 A Barrier-free Welcome

バリアフリーホテル—北の大地でお出迎え

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第16回 Unit 8 A Barrier-free Welcome

バリアフリーホテル—北の大地でお出迎え

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第17回 Unit 9 Helping in Times of Disaster

災害弱者を守る取り組み—外国人の場合

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第18回 Unit 9 Helping in Times of Disaster

災害弱者を守る取り組み—外国人の場合

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第19回 Unit 10 Right on Track

カーレーサー—井原慶子—挑戦は続く

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第20回 Unit 10 Right on Track

カーレーサー—井原慶子—挑戦は続く

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第21回 Unit 11 Refining Japanese Art

神の手ニッポン展

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第22回 Unit 11 Refining Japanese Art

神の手ニッポン展

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第23回 Unit 12 Japanese Conbini Comes to Dubai

日本式コンビニ、中東へ

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第24回 Unit 12 Japanese Conbini Comes to Dubai

日本式コンビニ、中東へ

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第25回 Unit 13 Mix Masters

「混ぜる」に商機

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第26回 Unit 13 Mix Masters

「混ぜる」に商機

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第27回 Unit 14 Virtual Connections

バーチャルリアリティの新たな可能性

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第28回 Unit 14 Virtual Connections

バーチャルリアリティの新たな可能性

- (5) 難しい箇所の文法確認と翻訳
- (6) 各課の話題に関して、自分の意見を口頭で表現する練習
- (7) 時間があれば、好きな課を選んで日本語訳の原稿を作成し、発表

また、好きな課を選んで翻訳（日本語訳の原稿）を作成し、提出してもらいます。
途中で添削を行いつつ、完成度を高めます。

第29回 unit 15 Questioning Labor Practices

ブラックバイトの現状 ー学生の生活を守れ！

- (1) 各課に出てくる英語の単語や表現の練習
- (2) 各課の話題に応じた表現の口頭練習
- (3) DVD視聴と読解
- (4) 聞き取り練習 (dictation)

第30回 unit 15 Stressing the Rural Lifeおよび復習テスト

Unit 15のまとめ、および復習テスト

復習テスト

Unit 1 ～ Unit 15の復習テストを行います。

科目名： 総合英語 1			
英文名： General English 1			
担当者： <small>ハットリ ケイコ</small> 服部 圭子・ <small>ハセガワ ユミ</small> 長谷川 由美・ <small>ヨシカワ ユウスケ</small> 吉川 裕介・ <small>ヤマシタ ヤヨイ</small> 山下 弥生			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、聞く・話す・読む・書くの4技能の総合的な習得を目指した授業を行う。科学の題材を用いた教科書を使用して、今後必要となる学術語彙の導入を測りながら、まとまった英文を時間をかけずに読む訓練を行う。リスニングについては、聴解が難しい部分を重点的に扱い、英文が聞こえてくる感覚が身につくような授業を行う。また、現在一般的に通用度の高いTOEICテストについて、形式への習熟、ストラテジーの習得を行う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースに指定された回数以上の参加を必修とする。
* TOEIC教材の使用は、学内TOEIC-IPテストの日程により使用期間が変わることがある。

■学習・教育目標および到達目標

「総合英語2」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。分野横断的な学術用語の内、基本的なものを理解・使用出来るようになる。400語程度の語彙で構成された文章の読解において、要点を掴みながら、正確に意味を理解できるようになる。既知の単語が出てくる文のリスニングにおいては、文単位で正確な聞き取りができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各教員から指示があります。

■教科書

『Science for Fun』（金星堂）ISBN 978-4-7647-4046-4

『Cubic Listening : Closing the Culture Gap』（Macmillan Languagehouse）ISBN 9784777363469

『THE TOEIC TEST TRAINER Target 650』（センテージラーニング）ISBN 9784863122741

■参考文献

特になし

■関連科目

総合英語2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

服部研究室（2号館5階） khattori@waka.kindai.ac.jp

長谷川研究室（2号館5階） hasegawa@waka.kindai.ac.jp

吉川研究室（2号館5階） y-yoshikawa@waka.kindai.ac.jp

非常勤講師：講師控室（2号館2階）

山下 yayoiyam@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

服部：木曜日 5限（その他の時間は必ず予約すること）

長谷川：月曜日 4限目（その他の時間帯は必ず予約すること）

吉川：火曜日 4限（その他の時間は必ず予約すること）

山下：担当授業の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

各テキストの説明

リスニング Unit1 Getting Married

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題（インターネットを使った課題やランチタイムリーディングへの参加など）

受講に際しての注意事項

- ・欠席／遅刻について
- ・忘れもの（テキスト・辞書）について
- ・携帯電話の使用の制限について
- ・単語／熟語の小テストについて
- ・定期試験について
- ・総合評価について

各テキストの説明

その他、受講に際しての重要事項について

【リスニング】 ウェディングに関する内容のリスニング問題を解く。

第2回 Unit1 Ssecret Taste Cells（1）

【リーディング】 味覚細胞についての英文を読み解く。

第3回 Unit1 Ssecret Taste Cells（2）

【リーディング】 味覚細胞についての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

第4回 リスニング Unit2 Do You Have a Part-Time job?

【リスニング】 海外のアルバイト事情などに関する内容のリスニング問題を解く。

第5回 リスニング Unit3 50 Channels and Nothing On

【リスニング】 海外のテレビ事情に関する内容のリスニング問題を解く。

第6回 Unit2 Singing Sand（1）

【リーディング】 鳴き砂についての英文を読み解く。

第7回 Unit2 Singing Sand（2）

【リーディング】 鳴き砂についての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

第8回 リスニング Unit4 Fingers Crossed for Good Luck

【リスニング】 海外の迷信に関する内容のリスニング問題を解く。

第9回 リスニング Unit5 At the Movies

【リスニング】 海外の映画事情に関する内容のリスニング問題を解く。

第10回 Unit3 Christmas Tree Science（1）

【リーディング】 最近のクリスマスツリー農家についての英文を読み解く。

第11回 Unit3 Christmas Tree Science（2）

【リーディング】 最近のクリスマスツリー農家についての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

第12回 リスニング Unit6 College Life

【リスニング】 海外の大学生活に関する内容のリスニング問題を解く。

第13回 リスニング Unit7 Happy Thanksgiving

【リスニング】 海外の祝祭日に関する内容のリスニング問題を解く。

第14回 Unit4 Watch a Zebra Think (1)

【リーディング】 魚の脳についての英文を読み解く。

第15回 Unit4 Watch a Zebra Think (2)

【リーディング】 魚の脳についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第16回 リスニング Unit 8 Volunteering Your Time

【リスニング】 ボランティア活動に関する内容のリスニング問題を解く。

第17回 リスニング Unit 9 Living at Home

【リスニング】 家庭生活に関する内容のリスニング問題を解く。

第18回 Unit5 The Time-Traveling Flower (1)

【リーディング】 大昔の花の種の発見についての英文を読み解く。

第19回 Unit5 The Time-Traveling Flower (2)

【リーディング】 大昔の花の種の発見についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第20回 リスニング Unit 10 Sunday Morning Breakfast

【リスニング】 朝食の習慣に関する内容のリスニング問題を解く。

第21回 TOEIC概略説明

TOEIC Unit 1

TOEICの各パートの問題形式に関する説明。

【TOEIC】 提案をする時に使える英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 時制

第22回 Unit6 Super Seaweed-Slurping Gut Bugs (1)

【リーディング】 海藻を消化するために必要な腸内細菌についての英文を読み解く。

第23回 Unit6 Super Seaweed-Slurping Gut Bugs (2)

【リーディング】 海藻を消化するために必要な腸内細菌についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第24回 TOEIC Unit 2

【TOEIC】 確認をする時に使える英語表現を含んだTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 時制

第25回 TOEIC Unit 3

【TOEIC】 会話を始める時に使える英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 助動詞

第26回 Unit7 Self-Driving Cars Will Make the World a Better Place (1)

【リーディング】 未来の自動車についての英文を読み解く。

第27回 Unit7 Self-Driving Cars Will Make the World a Better Place (2)

【リーディング】 未来の自動車についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第28回 TOEIC Unit 4

【TOEIC】 ニュース報道に使われている英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 熟語

第29回 Unit8 Your Brain on Music (1)

【リーディング】 脳と音楽についての英文を読み解く。

第30回 Unit8 Your Brain on Music (2)

【リーディング】 脳と音楽についての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

★夏休み中にも引き続きTOEIC対策の自主的な学習を行うとともに、可能であれば1度TOEICを受験することも視野に入れてみる。

定期試験

科目名： 総合英語 1			
英文名： General English 1			
担当者： <small>タキグチ トモコ</small> 滝口 智子・ <small>フジナガ マリコ</small> 藤永 真理子・ <small>カタオカ ヒロヒト</small> 片岡 宏仁			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、聞く・話す・読む・書くの4技能の総合的な習得を目指した授業を行う。科学の題材を用いた教科書を使用して、今後必要となる学術語彙の導入を測りながら、まとまった英文を時間をかけずに読む訓練を行う。リスニングについては、聴解が難しい部分を重点的に扱い、英文が聞こえてくる感覚が身につくような授業を行う。また、現在一般的に通用度の高いTOEICテストについて、形式への習熟、ストラテジーの習得を行う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースに指定された回数以上の参加を必修とする。
* TOEIC教材の使用は、学内TOEIC-IPテストの日程により使用期間が変わることがある。

■学習・教育目標および到達目標

「総合英語2」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。分野横断的な学術用語の内、基本的なものを理解・使用出来るようになる。400語程度の語彙で構成された文章の読解において、要点を掴みながら、正確に意味を理解できるようになる。既知の単語が出てくる文のリスニングにおいては、文単位で正確な聞き取りができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各教員から指示があります。

■教科書

『Science for Fun』（金星堂）ISBN 978-4-7647-4046-4

『Cubic Listening : Closing the Culture Gap』（Macmillan Languagehouse）ISBN 9784777363469

『THE TOEIC TEST TRAINER Target 470』（センゲージラーニング）ISBN 978-4-86312-260-4

■参考文献

特になし

■関連科目

総合英語2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

非常勤講師：講師控室（2号館2階）

藤永 fujinaga@waka.kindai.ac.jp

滝口 tom106@waka.kindai.ac.jp

片岡 hrht_knk@waka.kindai.ac.jp

山下 yayoiyam@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

担当授業の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

各テキストの説明

リスニング Unit1 Getting Married

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方

- ・課題（インターネットを使った課題やランチタイムリーディングへの参加など）
 - 受講に際しての注意事項
 - ・欠席／遅刻について
 - ・忘れもの（テキスト・辞書）について
 - ・携帯電話の使用の制限について
 - ・単語／熟語の小テストについて
 - ・定期試験について
 - ・総合評価について
- 各テキストの説明
その他、受講に際しての重要事項について

【リスニング】 ウェディングに関する内容のリスニング問題を解く。

第2回 Unit1 Ssecret Taste Cells（1）

【リーディング】 味覚細胞についての英文を読み解く。

第3回 Unit1 Ssecret Taste Cells（2）

【リーディング】 味覚細胞についての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

第4回 リスニング Unit2 Do You Have a Part-Time job?

【リスニング】 海外のアルバイト事情などに関する内容のリスニング問題を解く。

第5回 リスニング Unit3 50 Channels and Nothing On

【リスニング】 海外のテレビ事情に関する内容のリスニング問題を解く。

第6回 Unit2 Singing Sand（1）

【リーディング】 鳴き砂についての英文を読み解く。

第7回 Unit2 Singing Sand（2）

【リーディング】 鳴き砂についての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

第8回 リスニング Unit4 Fingers Crossed for Good Luck

【リスニング】 海外の迷信に関する内容のリスニング問題を解く。

第9回 リスニング Unit5 At the Movies

【リスニング】 海外の映画事情に関する内容のリスニング問題を解く。

第10回 Unit3 Christmas Tree Science（1）

【リーディング】 最近のクリスマスツリー農家についての英文を読み解く。

第11回 Unit3 Christmas Tree Science（2）

【リーディング】 最近のクリスマスツリー農家についての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

第12回 リスニング Unit6 College Life

【リスニング】 海外の大学生活に関する内容のリスニング問題を解く。

第13回 リスニング Unit7 Happy Thanksgiving

【リスニング】 海外の祝祭日に関する内容のリスニング問題を解く。

第14回 Unit4 Watch a Zebra Think（1）

【リーディング】 魚の脳についての英文を読み解く。

第15回 Unit4 Watch a Zebra Think (2)

【リーディング】 魚の脳についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第16回 リスニング Unit 8 Volunteering Your Time

【リスニング】 ボランティア活動に関する内容のリスニング問題を解く。

第17回 リスニング Unit 9 Living at Home

【リスニング】 家庭生活に関する内容のリスニング問題を解く。

第18回 Unit5 The Time-Traveling Flower (1)

【リーディング】 大昔の花の種の発見についての英文を読み解く。

第19回 Unit5 The Time-Traveling Flower (2)

【リーディング】 大昔の花の種の発見についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第20回 リスニング Unit 10 Sunday Morning Breakfast

【リスニング】 朝食の習慣に関する内容のリスニング問題を解く。

第21回 TOEIC概略説明

TOEIC Unit 1

TOEICの各パートの問題形式に関する説明。

【TOEIC】 予定について話す時に使える英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 動詞・5文型

第22回 Unit6 Super Seaweed-Slurping Gut Bugs (1)

【リーディング】 海藻を消化するために必要な腸内細菌についての英文を読み解く。

第23回 Unit6 Super Seaweed-Slurping Gut Bugs (2)

【リーディング】 海藻を消化するために必要な腸内細菌についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第24回 TOEIC Unit 2

【TOEIC】 数量を尋ねる時に使える英語表現を含んだTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 名詞

第25回 TOEIC Unit 3

【TOEIC】 命令・依頼に関する英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 形容詞・副詞

第26回 Unit7 Self-Driving Cars Will Make the World a Better Place (1)

【リーディング】 未来の自動車についての英文を読み解く。

第27回 Unit7 Self-Driving Cars Will Make the World a Better Place (2)

【リーディング】 未来の自動車についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第28回 TOEIC Unit 4

【TOEIC】 広告・宣伝に使われている英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【スキル】 フレーズリーディング

第29回 Unit8 Your Brain on Music (1)

【リーディング】脳と音楽についての英文を読み解く。

第30回 Unit8 Your Brain on Music (2)

【リーディング】脳と音楽についての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

★夏休み中にも引き続きTOEIC対策の自主的な学習を行うとともに、可能であれば1度TOEICを受験することも視野に入れてみる。

定期試験

科目名： 総合英語 2			
英文名： General English 2			
担当者： <small>ハットリ ケイコ</small> 服部 圭子・ <small>ハセガワ ユミ</small> 長谷川 由美・ <small>ヨシカワ ユウスケ</small> 吉川 裕介・ <small>ヤマシタ ヤヨイ</small> 山下 弥生			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、聞く・話す・読む・書くの4技能の総合的な習得を目指した授業を行う。科学の題材を用いた教科書を使用して、今後必要となる学術語彙の導入を測りながら、まとまった英文を時間をかけずに読む訓練を行う。リスニングについては、聴解が難しい部分を重点的に扱い、英文が聞こえてくる感覚が身につくような授業を行う。また、現在一般的に通用度の高いTOEICテストについて、形式への習熟、ストラテジーの習得を行う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースに指定された回数以上の参加を必修とする。
* TOEIC教材の使用は、学内TOEIC-IPテストの日程により使用期間が変わることがある。

■学習・教育目標および到達目標

「総合英語 1」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。分野横断的な学術用語の内、基本的なものを理解・使用出来るようになる。400語程度の語彙で構成された文章の読解において、要点を掴みながら、正確に意味を理解できるようになる。既知の単語が出てくる文のリスニングにおいては、文単位で正確な聞き取りができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各教員から指示があります。

■教科書

『Science for Fun』（金星堂）ISBN 978-4-7647-4046-4

『Cubic Listening : Closing the Culture Gap』（Macmillan Languagehouse）ISBN 9784777363469

『THE TOEIC TEST TRAINER Target 650』（センゲージラーニング）ISBN 9784863122741

■参考文献

特になし

■関連科目

総合英語 1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

服部研究室（2号館5階） khattori@waka.kindai.ac.jp

長谷川研究室（2号館5階） hasegawa@waka.kindai.ac.jp

吉川研究室（2号館5階） y-yoshikawa@waka.kindai.ac.jp

非常勤講師：講師控室（2号館2階）

山下 yayoiyam@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

服部：木曜 5 限目（その他の時間は必ず予約すること）

長谷川：月曜 4 限目（その他の時間帯は必ず予約すること）

吉川：火曜 4 限目（その他の時間は必ず予約すること）

山下：担当授業の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第 1 回 Unit9 Blast Off! Astronauts Will Print Custom Tools（1）

【リーディング】 未来の 3D プリンターの活用についての英文を読み解く。

第 2 回 Unit9 Blast Off! Astronauts Will Print Custom Tools（2）

【リーディング】 未来の3Dプリンターの活用についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第3回 リスニング Unit11 Armchair Quarterback

【リスニング】 スポーツ観戦などに関する内容のリスニング問題を解く。

第4回 リスニング Unit12 The Good Book

【リスニング】 宗教や聖書に関する内容のリスニング問題を解く。

第5回 Unit10 Too Quick to bBe Roadkill (1)

【リーディング】 環境に適応する燕の進化についての英文を読み解く。

第6回 Unit10 Too Quick to bBe Roadkill (2)

【リーディング】 環境に適応する燕の進化についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第7回 リスニング Unit13 Sweethearts

【リスニング】 海外の恋愛事情に関する内容のリスニング問題を解く。

第8回 リスニング Unit14 What Did You Get for Christmas?

【リスニング】 海外のクリスマス事情に関する内容のリスニング問題を解く。

第9回 Unit11 Meet Your Mighty Microbes (1)

【リーディング】 自分の身近にいる微生物についての英文を読み解く。

第10回 Unit11 Meet Your Mighty Microbes (2)

【リーディング】 自分の身近にいる微生物についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第11回 リスニング Unit17 ArmOnline Shopping

【リスニング】 海外のオンラインショッピングに関する内容のリスニング問題を解く。

第12回 リスニング Unit18 Are You Going to the Prom?

【リスニング】 プロムに関する内容のリスニング問題を解く。

第13回 Unit12 Raise Your Hand, Robots Go to School (1)

【リーディング】 学校に行けない子供の代わりに学校に行くロボットについての英文を読み解く。

第14回 Unit12 Raise Your Hand, Robots Go to School (2)

【リーディング】 学校に行けない子供の代わりに学校に行くロボットについての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第15回 TOEIC 5

【TOEIC】 義務を表す英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。
【文法】 代名詞

第16回 TOEIC 6

【TOEIC】 理由を表す英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。
【文法】 前置詞

第17回 TOEIC 7

【TOEIC】 苦情を訴える時に使える英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 接続詞

第18回 TOEIC 8

【TOEIC】 交通手段に関する英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【スキル】 スキャニング

第19回 TOEIC 9

【TOEIC】 Yes/Noで答えられる疑問文を含んだ英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 関係詞

第20回 TOEIC 10

【TOEIC】 自分の意見を述べる時に使う英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 分詞構文

第21回 TOEIC 11

【TOEIC】 意見の一致・不一致を示す英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 仮定法

第22回 TOEIC 12

【TOEIC】 会議の時によく使う英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【スキル】 スキミング

第23回 Unit13 Jet ag = Brain Damage for Hamsters (1)

【リーディング】 時差ボケと脳の関係についての英文を読み解く。

第24回 Unit13 Jet ag = Brain Damage for Hamsters (2)

【リーディング】 時差ボケと脳の関係についての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

第25回 リスニング Unit19 Read All About It

【リスニング】 海外の新聞事情に関する内容のリスニング問題を解く。

第26回 リスニング Unit20 Politically Correct

【リスニング】 差別や偏見が含まれない言い方に関する内容のリスニング問題を解く。

第27回 Unit14 What Do Elephants and Rats Have in Common? (1)

【リーディング】 異なる動物における共通点についての英文を読み解く。

第28回 Unit14 What Do Elephants and Rats Have in Common? (2)

【リーディング】 異なる動物における共通点についての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

第29回 Unit15 Spying on Disease (1)

【リーディング】 バクテリアについての英文を読み解く。

第30回 Unit15 Spying on Disease (2)

【リーディング】 バクテリアについての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

定期試験

科目名： 総合英語 2			
英文名： General English 2			
担当者： <small>タキグチ トモコ</small> 滝口 智子・ <small>フジナガ マリコ</small> 藤永 真理子・ <small>カタオカ ヒロヒト</small> 片岡 宏仁			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、聞く・話す・読む・書くの4技能の総合的な習得を目指した授業を行う。科学の題材を用いた教科書を使用して、今後必要となる学術語彙の導入を測りながら、まとまった英文を時間をかけずに読む訓練を行う。リスニングについては、聴解が難しい部分を重点的に扱い、英文が聞こえてくる感覚が身につくような授業を行う。また、現在一般的に通用度の高いTOEICテストについて、形式への習熟、ストラテジーの習得を行う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースに指定された回数以上の参加を必修とする。
* TOEIC教材の使用は、学内TOEIC-IPテストの日程により使用期間が変わることがある。

■学習・教育目標および到達目標

「総合英語 1」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。分野横断的な学術用語の内、基本的なものを理解・使用出来るようになる。400語程度の語彙で構成された文章の読解において、要点を掴みながら、正確に意味を理解できるようになる。既知の単語が出てくる文のリスニングにおいては、文単位で正確な聞き取りができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各教員から指示があります。

■教科書

『Science for Fun』（金星堂）ISBN 978-4-7647-4046-4

『Cubic Listening : Closing the Culture Gap』（Macmillan Languagehouse）ISBN 9784777363469

『THE TOEIC TEST TRAINER Target 470』（センゲージラーニング）ISBN 978-4-86312-260-4

■参考文献

特になし

■関連科目

総合英語 1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

非常勤講師：講師控室（2号館2階）

藤永・fujinaga@waka.kindai.ac.jp

滝口・tom106@waka.kindai.ac.jp

片岡・hrht_kuk@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

担当授業の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit9 Blast Off! Astronauts Will Print Custom Tools（1）

【リーディング】未来の3Dプリンターの活用についての英文を読み解く。

第2回 Unit9 Blast Off! Astronauts Will Print Custom Tools（2）

【リーディング】未来の3Dプリンターの活用についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第3回 リスニング Unit11 Armchair Quarterback

【リスニング】 スポーツ観戦などに関する内容のリスニング問題を解く。

第4回 リスニング Unit12 The Good Book

【リスニング】 宗教や聖書に関する内容のリスニング問題を解く。

第5回 Unit10 Too Quick to bBe Roadkill (1)

【リーディング】 環境に適応する燕の進化についての英文を読み解く。

第6回 Unit10 Too Quick to bBe Roadkill (2)

【リーディング】 環境に適応する燕の進化についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第7回 リスニング Unit13 Sweethearts

【リスニング】 海外の恋愛事情に関する内容のリスニング問題を解く。

第8回 リスニング Unit14 What Did You Get for Christmas?

【リスニング】 海外のクリスマス事情に関する内容のリスニング問題を解く。

第9回 Unit11 Meet Your Mighty Microbes (1)

【リーディング】 自分の身近にいる微生物についての英文を読み解く。

第10回 Unit11 Meet Your Mighty Microbes (2)

【リーディング】 自分の身近にいる微生物についての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第11回 リスニング Unit17 ArmOnline Shopping

【リスニング】 海外のオンラインショッピングに関する内容のリスニング問題を解く。

第12回 リスニング Unit18 Are You Going to the Prom?

【リスニング】 プロムに関する内容のリスニング問題を解く。

第13回 Unit12 Raise Your Hand, Robots Go to School (1)

【リーディング】 学校に行けない子供の代わりに学校に行くロボットについての英文を読み解く。

第14回 Unit12 Raise Your Hand, Robots Go to School (2)

【リーディング】 学校に行けない子供の代わりに学校に行くロボットについての英文を読み解く。
<文法・リスニング含む。>

第15回 TOEIC 5

【TOEIC】 時間を尋ねる英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。
【文法】 動名詞

第16回 TOEIC 6

【TOEIC】 場所を尋ねる英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。
【文法】 to不定詞

第17回 TOEIC 7

【TOEIC】 確認をする時に使える英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。
【文法】 分詞

第18回 TOEIC 8

【TOEIC】 留守番電話によく使われる英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【スキル】 スキャニング

第19回 TOEIC 9

【TOEIC】 アドバイスをする時によく使われる英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 受動態

第20回 TOEIC 10

【TOEIC】 誘う時によく使われる英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 比較

第21回 TOEIC 11

【TOEIC】 申し出をする時によく使われる英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【文法】 関係詞

第22回 TOEIC 12

【TOEIC】 講演者を紹介する時によく使う英語表現をTOEIC形式の問題を解きながら学ぶ。

【スキル】 スキミング

第23回 Unit13 Jet ag = Brain Famage for Hamsters (1)

【リーディング】 時差ボケと脳の関係についての英文を読み解く。

第24回 Unit13 Jet ag = Brain Famage for Hamsters (2)

【リーディング】 時差ボケと脳の関係についての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

第25回 リスニング Unit19 Read All About It

【リスニング】 海外の新聞事情に関する内容のリスニング問題を解く。

第26回 リスニング Unit20 Politically Correct

【リスニング】 差別や偏見が含まれない言い方に関する内容のリスニング問題を解く。

第27回 Unit14 What Do Elephants and Rats Have in Common? (1)

【リーディング】 異なる動物における共通点についての英文を読み解く。

第28回 Unit14 What Do Elephants and Rats Have in Common? (2)

【リーディング】 異なる動物における共通点についての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

第29回 Unit15 Spying on Disease (1)

【リーディング】 バクテリアについての英文を読み解く。

第30回 Unit15 Spying on Disease (2)

【リーディング】 バクテリアについての英文を読み解く。

<文法・リスニング含む。>

定期試験

科目名： 理系英語 1			
英文名： Academic English 1			
担当者： <small>ハセガワ ユミ</small> 長谷川 由美			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

理系英語 1 では、自然科学系および理工学系の話題を取り扱った英文の読解力を主に養成することを目的としています。そのために、テキスト中のライティング部分を割愛することがあります（授業中に指示します）。授業ではペアやグループワークも取り入れますので、メンバーとコミュニケーションをとりながら学習を進めることもあります。予習必須です。かならず辞書を持参しましょう。また、受講期間中にランゲージスペースやランチタイムリーディングを有効活用するように心がけてください。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語 2」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

模範答案をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

『Academic Encounters The Natural World 1 <Reading / Writing >』（Cambridge）著者：Jennifer Wharton,(ISBN978-1-107-68363-1)

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

理系英語 2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

長谷川研究室（2号館5階）・hasegawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜 4 限目(その他の時間帯は必ず予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第 1 回 オリエンテーション+Preview Unit 1

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題（ランチタイムリーディングへの参加など）

受講に際しての注意事項

- ・欠席／遅刻について
- ・忘れもの（テキスト・辞書）について
- ・携帯電話の使用の制限について
- ・単語／熟語の小テストについて
- ・定期試験について
- ・総合評価について

その他、受講に際しての重要事項について

Unit1の概要を知り、ブレイクストーミングを行う。

第2回 Unit 1 Planet Earth, Chapter 1 The Physical Earth, Reading 1 Our Solar System

<Reading Skills>

Thinking about the topic
Previewing art
Asking and answering questions about a text
Previewing key parts of a text

<Vocabulary Skills>

Words from Latin and Greek
Cues for finding word meaning
Learning verbs with their prepositions

<Academic Success Skills>

Highlighting
Making a pie chart
Answering multiple-choice questions
Labeling diagrams

第3回 Unit 1 Planet Earth, Chapter 1 The Physical Earth, Reading 2 Earth's Four Systems

Same as 第2回

第4回 Unit 1 Planet Earth, Chapter 1 The Physical Earth, Reading 3 Rocks on Our Planet

Same as 第2回

第5回 Unit 1 Planet Earth, Chapter 2 The Dynamic Earth, Reading 1 Plate Tectonics

<Reading Skills>

Using headings to remember main ideas
Building background knowledge about the topic
Reading boxed texts
Illustration main ideas
Thinking about the topic
Reading for main ideas

<Vocabulary Skills>

Previewing key words
Prefixes
Prepositional phrases
Using grammar, context, and background knowledge to guess meaning

<Academic Success Skills>

Reading maps
Answering true/false questions

第6回 Unit 1 Planet Earth, Chapter 2 The Dynamic Earth, Reading 2 Volcanoes

same as 第5回

第7回 Unit 1 Planet Earth, Chapter 2 The Dynamic Earth, Reading 3 Earthquakes

same as 第5回

第8回 Writing an academic paragraph about a place on Earth you like

Presentation

<Writing Skills>

Parts of speech
Comparative adjectives
Writing simple and compound sentences
Writing definitions
Pronoun reference
Showing contrast

第9回 Presentation

Preview Unit 2 Water on Earth

Uni 2 Water on Earth, Chapter 3 Earth's Water Supply, Reading 1 The Water Cycle

<Reading Skills>

Thinking about the topic

Examining graphics

Sequencing

Reading about statistics

Increasing reading speed

Reading for main ideas

Scanning

<Vocabulary Skills>

Synonyms

Suffixes that change verbs into nouns

Countable and uncountable nouns

Subject-verb agreement

<Academic Success Skills>

Understanding test questions

Answering multiple-choice questions

Mapping

Conducting a survey

第10回 Unit 2 Water on Earth, Chapter 3 Earth's Water Supply, Reading 2 Ground Water and Surface Water

same as 第9回

第11回 Unit 2 Water on Earth, Chapter 3 Earth's Water Supply, Reading 3 Glaciers

same as 第9回

第12回 Unit 2 Water on Earth, Chapter 4 Earth's Water Supply, Reading 1 Oceans

<Reading Skills>

Thinking about the topic

Building background knowledge about the topic

Reading maps

Examining graphics

Brainstorming

Reading for main ideas and details

<Vocabulary Skills>

Subject-verb agreement

Too and very

Adjective suffixes

<Academic Success Skills>

Taking notes

Highlighting

Labeling a map

Organizing ideas

第13回 Unit 2 Water on Earth, Chapter 4 Earth's Water Supply, Reading 2 Currents

same as 第12回

第14回 Unit 2 Water on Earth, Chapter 4 Earth's Water Supply, Reading 3 Waves and Tsunamis

same as 第12回

第15回 Writing an academic paragraph about a water feature on earth

Presentation

<Writing Skills>

Identifying topic sentences and supporting sentences

Writing topic sentences and supporting sentences
Writing about superlatives
Describing results
Concluding sentences
Parallel structure
Reviewing paragraph structure

定期試験

科目名： 理系英語 1			
英文名： Academic English 1			
担当者： ^{タケチ} ^{ミカ} 武智 美佳			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

理系英語の力を身に付ける授業を行う。生命・自然・宇宙に関する英文とその内容把握を問う練習問題をする事により、読解力を養う。また、各ユニットにある英語表現だけでなく、広く自然科学に関する英文を身に着けるようにするために、各々理解を問う練習問題をする。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がける。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語2」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案（印刷物）を配布します。

■教科書

[ISBN]9784523178149 『科学の不思議—動物・人体・生命・宇宙・進化の世界』（永田博人, 南雲堂 : 2016)

■参考文献

特になし

■関連科目

理系英語2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・takechi@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

Part 1 Mysteries in the Animal Kingdom

UNIT 1 Parasitic Butterflies and Their Host Ants（前半）

予習内容 : UNIT 1 Parasitic Butterflies and Their Host Ants(後半)

予習時間 : 60分

復習内容 : UNIT 1 Parasitic Butterflies and Their Host Ants(前半)

復習時間 : 60分

(動物の不思議) アリに育てられるシジミチョウ

第2回 Part 1 Mysteries in the Animal Kingdom

UNIT 1 Parasitic Butterflies and Their Host Ants（後半）

予習内容 : UNIT 2 Where Have All the Honeybees Gone?(前半)

予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 1 Parasitic Butterflies and Their Host Ants(後半)
復習時間 : 60分
(動物の不思議) アリに育てられるシジミチョウ

第3回 Part 1 Mysteries in the Animal Kingdom

UNIT 2 Where Have All the Honeybees Gone? (前半)

予習内容 : UNIT 2 Where Have All the Honeybees Gone?(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 2 Where Have All the Honeybees Gone?(前半)
復習時間 : 60分
(動物の不思議) ハチはどこへ行った?

第4回 Part 1 Mysteries in the Animal Kingdom

UNIT 2 Where Have All the Honeybees Gone? (後半)

予習内容 : UNIT 3 He or She? (前半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 2 Where Have All the Honeybees Gone?(後半)
復習時間 : 60分
(動物の不思議) ハチはどこへ行った?

第5回 Part 1 Mysteries in the Animal Kingdom

UNIT 3 He or She? (前半)

予習内容 : UNIT 3 He or She? (後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 3 He or She? (前半)
復習時間 : 60分
(動物の不思議) 性を変える生き物たち

第6回 Part 1 Mysteries in the Animal Kingdom

UNIT 3 He or She? (後半)

予習内容 : UNIT 4 Brain Regeneration(前半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 3 He or She? (後半)
復習時間 : 60分
(動物の不思議) 性を変える生き物たち

第7回 Part 2 Mysteries in our Body

UNIT 4 Brain Regeneration (前半)

予習内容 : UNIT 4 Brain Regeneration(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 4 Brain Regeneration(前半)
復習時間 : 60分
(人体の不思議) 脳細胞の再生

第8回 Part 2 Mysteries in our Body

UNIT 4 Brain Regeneration (後半)

予習内容 : 小テストの内容
予習時間 : 120分

復習内容 : UNIT 4 Brain Regeneration(後半)
復習時間 : 60分
(人体の不思議) 脳細胞の再生

第9回 小テスト

予習内容 : UNIT 5 Now You See it, Now You Don't: The Invisible Gorilla(前半)
予習時間 : 60分
復習内容 : 小テストの内容
復習時間 : 60分
小テスト

第10回 Part 2 Mysteries in our Body

UNIT 5 Now You See it, Now You Don't: The Invisible Gorilla (前半)

予習内容 : UNIT 5 Now You See it, Now You Don't: The Invisible Gorilla(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 5 Now You See it, Now You Don't: The Invisible Gorilla(前半)
復習時間 : 60分
(人体の不思議) 知覚の謎: 見えないゴリラ

第11回 Part 2 Mysteries in our Body

UNIT 5 Now You See it, Now You Don't: The Invisible Gorilla (後半)

予習内容 : UNIT 6 Be Careful of Paper-Cuts(前半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 5 Now You See it, Now You Don't: The Invisible Gorilla(後半)
復習時間 : 60分
(人体の不思議) 知覚の謎: 見えないゴリラ

第12回 Part 2 Mysteries in our Body

UNIT 6 Be Careful of Paper-Cuts (前半)

予習内容 : UNIT 6 Be Careful of Paper-Cuts(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 6 Be Careful of Paper-Cuts(前半)
復習時間 : 60分
(人体の不思議) 感染症との戦い

第13回 Part 2 Mysteries in our Body

UNIT 6 Be Careful of Paper-Cuts (後半)

予習内容 : UNIT 7 Baby Corals Dance Their Way Home(前半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 6 Be Careful of Paper-Cuts(後半)
復習時間 : 60分
(人体の不思議) 感染症との戦い

第14回 Part 3 Mysteries in Life

UNIT 7 Baby Corals Dance Their Way Home (前半)

予習内容 : UNIT 7 Baby Corals Dance Their Way Home(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 7 Baby Corals Dance Their Way Home(前半)
復習時間 : 60分
(生命の不思議) 産後のサンゴ

第15回 Part 3 Mysteries in Life

UNIT 7 Baby Corals Dance Their Way Home (後半)

予習内容 : 定期試験の内容

予習時間 : 180分

復習内容 : UNIT 7 Baby Corals Dance Their Way Home(後半)

復習時間 : 60分

(生命の不思議) 産後のサンゴ

定期試験

定期試験

科目名：理系英語 1			
英文名：Academic English 1			
担当者：澤邊 興平 <small>サワベ コウヘイ</small>			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

- ・著名な理系一般誌と提携して作られた指定教科書内の、科学エッセイの部分の読解に重点を置いた学習を行います。
- ・授業中に各受講生の担当課題範囲を決め翌週に発表してもらう形式なので、積極的に授業に参加してください。
- ・授業には辞書を必ず持参しましょう。
- ・受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がけてください。

■学習・教育目標および到達目標

基礎英語力の向上と科学英語への関心を養うことを本授業の教育目標とします。

- ・300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。
- ・そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける
- ・本文で使われている単語や熟語を理解し、それらを自分のものとして使うことができる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間内に課題担当者の答案を基に模範解答を板書として提示します。

■教科書

[ISBN]9784863122895 『Science Frontiers』(野口ジュディー, センゲージラーニング:2016)

初回授業時までに購入しておくこと。(コピー不可)

この他、必要に応じて授業中にプリントを配布します。

■参考文献

授業にて指示します。

■関連科目

理系英語 2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)・ksawabe@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

授業時限前後の休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、ウォームアップ

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題

受講に際しての注意事項

- ・欠席/遅刻について
- ・忘れ物(テキスト・辞書)について
- ・携帯電話の使用制限について
- ・定期試験について
- ・総合評価について

その他、受講に関する注意点について

科学技術英語の特徴

第2回 Unit1 : Bare Bones (前半)

- ・人体の骨格に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第3回 Unit1 : Bare Bones (後半)

- ・人体の骨格に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・骨格に関する他の事例を英語で読む

第4回 Unit2 : Mummy Mystery (前半)

- ・ミイラの謎に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第5回 Unit2 : Mummy Mystery (後半)

- ・ミイラの謎に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・ミイラに関する他の事例を英語で読む

第6回 Unit3 : Swim with Seahorses (前半)

- ・タツノオトシゴに関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第7回 Unit3 : Swim with Seahorses (後半)

- ・タツノオトシゴに関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・魚類に関する他の事例を英語で読む

第8回 Unit4 : Mission to Mars (前半)

- ・火星有人飛行に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第9回 Unit4 : Mission to Mars (後半)

- ・火星有人飛行に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・惑星に関する他の事例を英語で読む

第10回 Unit5 : Feed the World (前半)

- ・世界食糧危機に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第11回 Unit5 : Feed the World (後半)

- ・世界食糧危機に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・食糧生産に関する他の事例を英語で読む

第12回 Unit6 : Into the Rain Forest (前半)

- ・ジャングルの動物に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第13回 Unit6 : Into the Rain Forest (後半)

- ・ジャングルの動物に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・動物学に関する他の事例を英語で読む

第14回 Unit7 : Turn Up the Heat (前半)

- ・寒冷地の活火山に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第15回 Unit7 : Turn Up the Heat (後半)

- ・寒冷地の活火山に関する英文を読み解く（前回の続き）。
- ・火山についての他の事例を英語で読む

定期試験

科目名： 理系英語 1			
英文名： Academic English 1			
担当者： <small>オサダ キヨシ</small> 長田 希好			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

【医用工学科】

理系の学術英語を確実に理解できるようになること、「速読」と「精読」の二種類の読み方のテクニックを習得し、その二つを巧みに組み合わせながら文章を読解できるようになることを目標とする。理系英語1では、各ユニットにある医療と健康に関する英文を読みその内容把握を問う練習問題を解くことにより、読解力を養う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がける。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語2」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784255153513『英語で学ぶ医療と健康 新訂版』(西村 月満, 朝日出版社: 2001)

■参考文献

特になし

■関連科目

理系英語2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階) k-ci_osa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Orientation and Introduction

予習内容： テキスト全体に目を通し概要、そのレベルを確認しておくこと。

復習内容： 前期の学習範囲の各Unitのリーディングを読み、それぞれの所要時間を記録しておくこと。

授業の進め方の説明

・予習の進め方

・授業の進め方

・課題

受講に際しての注意事項

・欠席/遅刻について

・定期試験について

・総合評価について

その他、受講に際しての重要事項について

第2回 Concepts about Humans and Human Functions

予習内容： 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
心身のはたらきと人間の一生に関する英文を読み解く。

第3回 Sports Medicine and the Overtraining Syndrome

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
スポーツ医療に関する英文を読み解く。

第4回 Music Therapy: Soothing the Savage Beast

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
音楽療法に関する英文を読み解く。

第5回 Organ Transplant: A Matter of Life and Death

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
臓器移植に関する英文を読み解く。

第6回 The Health Care Team

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
医療チームに関する英文を読み解く。

第7回 Vital Signs

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
脈拍、呼吸、血圧、体温に関する英文を読み解く。

第8回 High-tech Diagnostic Tests

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
高度な医療テクノロジーを用いた病気診断に関する英文を読み解く。

第9回 In-hospital Infections

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
院内感染から患者と医療従事者を救う方策に関する英文を読み解く。

第10回 Medication

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
薬の体内でのはたらきに関する英文を読み解く。

第11回 Cancer Therapy

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
ガン治療に関する英文を読み解く。

第12回 Reproductive Therapy

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
生殖治療に関する英文を読み解く。

第13回 Gene Therapy

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
遺伝子治療に関する英文を読み解く。

第14回 Ethical and Legal Concerns

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
患者の権利章典に関する英文を読み解く。

第15回 Review

予習内容 : 授業で学習したUnitのリーディングを読み、理解が完全か確認しておくこと。疑問点がある場合にはメモし
質問できるようにしておくこと。

復習内容 : 復習授業で取り上げた各Unitの難易度の高い箇所を理解できるようになること。
学習したUnitの復習授業

定期試験

科目名： 理系英語 1			
英文名： Academic English 1			
担当者： <small>ヨシカワ ユウスケ</small> 吉川 裕介			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

【医用工学科】

理系英語の力を身に付ける授業を行う。最近の医薬品研究の成果や、薬に関する基礎知識、医薬品の使用に伴う副作用や薬害問題といった専門的な内容を英文で理解するための読解力を身に付ける。特に前期では精読を意識し、内容を正確に理解するための素地を養う。授業では予習を前提に授業を行い、適宜ペアワークによる意見交換や口頭練習を交えながら英語表現の定着を目指す。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がけること。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語2」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案を返却し、解説します。

■教科書

『The Wonders of Medicine』（瀬谷幸男、高津昌宏ほか: 南雲堂）[ISBN]978-4-523-17556-8

■参考文献

授業にて指示します。

■関連科目

理系英語2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

吉川研究室（2号館5階514）y-yoshikawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日4限(その他の時間は必ず予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

授業に関する概要説明と必要事項の伝達

第2回 Unit 1: Receptors as Drug Targets

レセプターに関する英文読解

第3回 Unit 1: Receptors as Drug Targets

レセプターに関する英文読解

第4回 Unit 2: Routes of Drug Administration

投薬に関する英文読解

第5回 Unit 2: Routes of Drug Administration

投薬に関する英文読解

第6回 Unit 3: Drug Development and Approval

新薬開発に関する英文読解

第7回 Unit 3: Drug Development and Approval

新薬開発に関する英文読解

第8回 Review Test 1

到達度確認テスト

第9回 Unit 4: What is Kampo?

漢方に関する英文読解

第10回 Unit 4: What is Kampo?

漢方に関する英文読解

第11回 Unit 5: Helicobacter pylori and the New Drugs for Peptic Ulcers

ピロリ菌と潰瘍に関する英文読解

第12回 Unit 5: Helicobacter pylori and the New Drugs for Peptic Ulcers

ピロリ菌と潰瘍に関する英文読解

第13回 Unit 6: Heart Disease: Nitroglycerin as a Cardiovascular Drug

心疾患に関する英文読解

第14回 Unit 6: Heart Disease: Nitroglycerin as a Cardiovascular Drug

心疾患に関する英文読解

第15回 Review test 2

到達度確認テスト

定期試験

科目名： 理系英語 1			
英文名： Academic English 1			
担当者： <small>ハタナカ カヨコ</small> 梶中 加代子			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

科学テーマに関する英文のエッセイを題材にしたテキストを使用し、科学エッセイの読解に重点をおいた学習をおこないます。各ユニットでは、語彙学習、本文のエッセイの読解、内容理解を確認する練習問題、役に立つ表現をもちいたライティングの練習を中心に授業を進めます。単語・熟語の小テストを随時おこないます。授業には必ず辞書を持参してください。受講期間中にランゲージスペースを有効活用するよう心がけてください。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語 2」とあわせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、所々辞書をひきながら、スムーズに読む力を身につける。そのために必要な文法力、語彙力、読解力を身につける。また、音読やシャドーイングを通して、発音のルール・リズム・イントネーションを学び、リスニング力やスピーキング力を養う。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案を掲示板に掲載します。

■教科書

Mysteries in Science (永田博人・ Geraldine Twilley, 南雲堂) [ISBN]978-4-523-17814-9

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

理系英語 2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階)・hatanaka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、Unit1: Parasitic Butterflies and Their Host Ants (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

(1) シラバスについて説明 (授業の目標、授業計画、授業方法、評価方法)

(2) 受講に際しての注意事項

(3) Unit1 (前半)

・生物界の共生関係に焦点をあてた英文を読み解く。

・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第2回 Unit1: Parasitic Butterflies and Their Host Ants (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組む。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第3回 Unit2: Where Have All the Honeybees Gone? (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。
- 復習時間 : 30分
- ・ミツバチの大量失踪に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第4回 Unit2: Where Have All the Honeybees Gone? (後半)

- 予習内容 : Exerciseに取り組む。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第5回 Unit3: He or She? (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。
- 復習時間 : 30分
- ・生物学における「性転換」に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Unit1&2 単語・熟語小テスト

第6回 Unit3: He or She? (後半)

- 予習内容 : Exerciseに取り組む。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第7回 Unit4: Brain Regeneration (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。
- 復習時間 : 30分
- ・脳の再生に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第8回 Unit4: Brain Regeneration (後半)

- 予習内容 : Exerciseに取り組む。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第9回 Unit5: You See it, Now You Don't: The Invisible Gorilla (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・人間の認知構造の限界に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Unit3&4 単語・熟語小テスト

第10回 Unit5: You See it, Now You Don't: The Invisible Gorilla (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組む。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第11回 Unit6: Be Careful of Paper-Cuts (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・人間と感染症の戦いに焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第12回 Unit6: Be Careful of Paper-Cuts (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組む。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第13回 Unit7: Baby Corals Dance Their Way Home (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・産後の珊瑚に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Unit5&6 単語・熟語小テスト

第14回 Unit7: Baby Corals Dance Their Way Home (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組む。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第15回 Unit8: Monarch Butterfly Migration (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・蝶の大移動に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Unit7 単語・熟語小テスト

科目名： 理系英語 1			
英文名： Academic English 1			
担当者： <small>ヤマモト サトシ</small> 山本 哲			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

理系英語の力を身に付ける授業を行う。理系英語1では、各ユニットにある①自然科学、理工学系に関する英文とその内容把握を問う練習問題、②自然科学、理工学系に関する速読用英文とその内容把握を問う練習問題を行うことにより、読解力を養う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がける。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語2」と合わせて、3000～4000語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験については、試験終了後に解答例（印刷物）を配布します。
課題については、次回（または次々回）に詳しく解説します。

■教科書

荒木英彦編著『英語で学ぶやさしい科学』（朝日出版社）[ISBN] 978-4-255-15601-9

■参考文献

特になし。

■関連科目

理系英語2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・yamas@center.wakayama-u.ac.jp

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

予習内容：特になし。

復習内容：特になし。

授業内容、授業計画、授業方針、評価方法等の説明。

第2回 Unit 1, "Atoms"

予習内容：テキスト未習部分の予習。

予習時間：120分

復習内容：テキスト既習部分の復習。

復習時間：60分

「原子」をテーマとする英文を読み、「詳しく説明する文（句）」について学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第3回 Unit 1, "Atoms" & Unit 2, "Mixtures and Compounds"

予習内容：未習部分の予習。

予習時間：120分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

Unit 1の練習問題により、同Unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。引き続き、Unit 2「混合物と化合物」をテーマとする英文を読み、「詳しく説明する文(節)」の前半を学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第4回 Unit 2, "Mixtures and Compounds"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 120分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

Unit 2の「詳しく説明する文(節)」の後半を学習するとともに、練習問題により、同Unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第5回 Unit 3, "Acid"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 120分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

「酸」をテーマとする英文を読み、「原因・結果を表す文(1)」について学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第6回 Unit 3, "Acid" & Unit 4, "Radioactivity"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 150分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

Unit 3の練習問題により、同Unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。引き続き、Unit 4「放射能」をテーマとする英文を読み、「原因・結果を表す文(2)」の前半を学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第7回 Unit 4, "Radioactivity"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 120分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

Unit 4の「原因・結果を表す文(2)」の後半を学習するとともに、練習問題により、同unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第8回 Unit 5, "Forces"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 120分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

「力」をテーマとする英文を読み、「原因・結果を表す文(3)」について学習する。

第9回 Unit 5, "Forces" & Unit 6, "Work, Power, Efficiency"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 120分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

Unit 5の練習問題により、同Unitの学習内容、表現等の定着を図る。引き続き、Unit 6「仕事、仕事率、効率」をテーマとする英文を読み、「目的を表す文」の前半を学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第10回 Unit 6, "Work, Power, Efficiency"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 120分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

Unit 6の「目的を表す文」の後半を学習するとともに、練習問題により、同unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第11回 Unit 7, "Energy resources"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 120分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

「エネルギー資源」をテーマとする英文を読み、「手段・方法を表す文」について学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第12回 Unit 7, "Energy resources" & Unit 8, "Pressure"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 120分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

Unit 7の練習問題により、同Unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。引き続き、Unit 8「圧力」をテーマとする英文を読み、「条件・仮定を表す文(1)」の前半を学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第13回 Unit 8, "Pressure"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 120分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

Unit 8の「条件・仮定を表す文(1)」の後半を学習するとともに、練習問題により、同unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第14回 Unit 9, "Heat and Temperature"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 120分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

「熱と温度」をテーマとする英文を読み、「条件・仮定を表す文(2)」を学習するとともに、練習問題により、同Unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第15回 Part 3 & 4 の復習と小テスト

Part 3とPart 4のポイント確認、復習、質問など。Part 3とPart 4に関する小テスト。

定期試験

科目名： 理系英語 1			
英文名： Academic English 1			
担当者： <small>オサダ キヨシ</small> 長田 希好			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

理系の学術英語を確実に理解できるようになること、「速読」と「精読」の二種類の読み方のテクニックを習得し、その二つを巧みに組み合わせながら文章を読解できるようになることを目標とする。理系英語1では、各ユニットにある「生物環境」「自然資源」「医療」「生活様式」などに関する英文を読みその内容把握を問う練習問題を解くことにより、読解力を養う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がける。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語2」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784791947836『最新科学の知見』(永田 博人, 成美堂: 2015)

■参考文献

特になし

■関連科目

理系英語2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階) k-ci_osa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Orientation and Introduction

予習内容： テキストのUnit 1～12に目を通し概要、そのレベルを確認しておくこと。

復習内容： 前期の学習範囲の各Unitのリーディングを読み、それぞれの所要時間を記録しておくこと。

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題

受講に際しての注意事項

- ・欠席／遅刻について
- ・定期試験について
- ・総合評価について

その他、受講に際しての重要事項について

第2回 Unit 1: Four-Legged Fish

予習内容： 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いておくこと。

復習内容： 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。

進化の謎に関する英文を読み解く。

第3回 Unit 2: Reproduction Without Males

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
単為生殖に関する英文を読み解く。

第4回 Unit 3: Deeper and Deeper

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
深海生物に関する英文を読み解く。

第5回 Unit 4: Nature, Our Ferocious Mother

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
山体崩壊に関する英文を読み解く。

第6回 Unit 5: Fierce Fungi

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
菌に関する英文を読み解く。

第7回 Unit 6: Extreme Weather

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
異常気象に関する英文を読み解く

第8回 Review 1

予習内容 : Unit 1～Unit 6のリーディングを読み、理解が完全か確認しておくこと。疑問点がある場合にはメモし質問できるようにしておくこと。

復習内容 : 復習授業で取り上げた各Unitの難易度の高い箇所を理解できるようになること。
Unit 1～6の復習

第9回 Unit 7: The Wolf Girls of Bengal

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
オオカミに育てられた少女に関する英文を読み解く

第10回 Unit 8: Finding Nessie

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
ネッシーに関する英文を読み解く

第11回 Unit 9: Crop Circles

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
ミステリーサークルに関する英文を読み解く

第12回 Unit 10: Smart Roots

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
木の根冠に関する英文を読み解く

第13回 Unit 11: Insecticide Resistance

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
耐性昆虫との闘いに関する英文を読み解く

第14回 Unit 12: Unwelcome Guests

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
寄生に関する英文を読み解く

第15回 Review 2

予習内容 : Unit 7～Unit 12のリーディングを読み、理解が完全か確認しておくこと。疑問点がある場合にはメモし質
問できるようにしておくこと。

復習内容 : 復習授業で取り上げた各Unitの難易度の高い箇所を理解できるようになること。
Unit 7～12の復習

定期試験

科目名： 理系英語 1			
英文名： Academic English 1			
担当者： ^{タケチ} ^{ミカ} 武智 美佳			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

理系英語の力を身に付ける授業を行う。理系英語1では、各ユニットにある①自然科学、理工学系に関する英文とその内容把握を問う練習問題、②自然科学、理工学系に関する速読用英文とその内容把握を問う練習問題を行うことにより、読解力を養う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がける。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語2」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案（印刷物）を配布します。

■教科書

[ISBN]9784255155197『自然科学を読む：過去・現在・未来』（原口 治, 朝日出版社：2012）

■参考文献

特になし

■関連科目

理系英語2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・takechi@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

Unit 1 Time Travel: Energy and Electricity（前半）

予習内容 : Unit 1 Time Travel: Energy and Electricity(前半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 1 Time Travel: Energy and Electricity(後半)

復習時間 : 60分

電気の歴史をひも解く

第2回 Unit 1 Time Travel: Energy and Electricity（後半）

予習内容 : Unit 2 The Less You Sleep, the More You Gain(前半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 1 Time Travel: Energy and Electricity(後半)

復習時間 : 60分

電気の歴史をひも解く

第3回 Unit 2 The Less You Sleep, the More You Gain（前半）

予習内容 : Unit 2 The Less You Sleep, the More You Gain(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : Unit 2 The Less You Sleep, the More You Gain(前半)
復習時間 : 60分

睡眠と肥満の関係

第4回 Unit 2 The Less You Sleep, the More You Gain (後半)

予習内容 : Unit 3 Stem Cell Plan for Nuclear Operators(前半)
予習時間 : 60分
復習内容 : Unit 2 The Less You Sleep, the More You Gain(後半)
復習時間 : 60分

睡眠と肥満の関係

第5回 Unit 3 Stem Cell Plan for Nuclear Operators (前半)

予習内容 : Unit 3 Stem Cell Plan for Nuclear Operators(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : Unit 3 Stem Cell Plan for Nuclear Operators(前半)
復習時間 : 60分

放射線被ばくの治療に、幹細胞が果たす役割とは

第6回 Unit 3 Stem Cell Plan for Nuclear Operators (後半)

予習内容 : Unit 4 Internet Addiction(前半)
予習時間 : 60分
復習内容 : Unit 3 Stem Cell Plan for Nuclear Operators(後半)
復習時間 : 60分

放射線被ばくの治療に、幹細胞が果たす役割とは

第7回 Unit 4 Internet Addiction (前半)

予習内容 : Unit 4 Internet Addiction(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : Unit 4 Internet Addiction(前半)
復習時間 : 60分

インターネット依存症の診断法

第8回 Unit 4 Internet Addiction (後半)

予習内容 : 小テストの内容
予習時間 : 120分
復習内容 : Unit 4 Internet Addiction(後半)
復習時間 : 60分

インターネット依存症の診断法

第9回 小テスト

予習内容 : Unit 5 Electric Motors and Generators(前半)
予習時間 : 60分
復習内容 : 小テストの内容
復習時間 : 60分

小テスト

第10回 Unit 5 Electric Motors and Generators (前半)

予習内容 : Unit 5 Electric Motors and Generators(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : Unit 5 Electric Motors and Generators(前半)
復習時間 : 60分

発電機の仕組み

第11回 Unit 5 Electric Motors and Generators (後半)

予習内容 : Unit 6 Bilingualism(前半)
予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 5 Electric Motors and Generators(後半)

復習時間 : 60分

発電機の仕組み

第12回 Unit 6 Bilingualism (前半)

予習内容 : Unit 6 Bilingualism(後半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 6 Bilingualism(前半)

復習時間 : 60分

二ヶ国語が話せることの効用

第13回 Unit 6 Bilingualism (後半)

予習内容 : Unit 7 A One-Way Human Mission to Mars(前半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 6 Bilingualism(後半)

復習時間 : 60分

二ヶ国語が話せることの効用

第14回 Unit 7 A One-Way Human Mission to Mars (前半)

予習内容 : Unit 7 A One-Way Human Mission to Mars(後半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 7 A One-Way Human Mission to Mars(前半)

復習時間 : 60分

火星への定住の可能性を探る

第15回 Unit 7 A One-Way Human Mission to Mars (後半)

予習内容 : 定期試験

予習時間 : 180分

復習内容 : Unit 7 A One-Way Human Mission to Mars(後半)

復習時間 : 60分

火星への定住の可能性を探る

定期試験

定期試験

科目名：理系英語 1			
英文名：Academic English 1			
担当者： <small>ヨシカワ ユウスケ</small> 吉川 裕介			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

自然科学系の幅広いトピックを取り上げたテキストを使用し、自然科学・理工学に関する様々な内容に興味を持ち、英文で理解するための読解力を身に付ける。特に前期では精読を意識し、内容を正確に理解するための素地を養う。授業では予習を前提に授業を行い、適宜ペアワークによる意見交換や口頭練習を交えながら英語表現の定着を目指す。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がけること。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語2」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案を返却し、解説します。

■教科書

『Science in Focus』(Kevin Cleary, 野崎 嘉信, 松本和子: 成美堂) [ISBN]978-4-7919-5082-9

■参考文献

授業にて指示します。

■関連科目

理系英語2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

吉川研究室 (2号館5階514) y-yoshikawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日4限(その他の時間は必ず予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

授業に関する概要説明と必要事項の伝達

第2回 Unit 1: Out of Ice

環境に関する英文読解

第3回 Unit 1: Out of Ice

環境に関する英文読解

第4回 Unit 2: Extrasolar Planet

太陽系外の惑星に関する英文読解

第5回 Unit 2: Extrasolar Planet

太陽系外の惑星に関する英文読解

第6回 Unit 3: For the Benefit of the Patient

人体に関する英文読解

第7回 Unit 3: For the Benefit of the Patient

人体に関する英文読解

第8回 Review Test 1

到達度確認テスト

第9回 Unit 4: The Tragedy of the Commons

健康に関する英文読解

第10回 Unit 4: The Tragedy of the Commons

健康に関する英文読解

第11回 Unit 5: Telemedicine

遠隔治療に関する英文読解

第12回 Unit 5: Telemedicine

遠隔治療に関する英文読解

第13回 Unit 6: Making Music

音楽に関する英文読解

第14回 Unit 6: Making Music

音楽に関する英文読解

第15回 Review test 2

到達度確認テスト

定期試験

科目名：理系英語 1 〈再履修〉			
英文名：Academic English 1			
担当者： <small>タケナカ ヨシツグ</small> 竹中 義胤			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

科学に関する平易な読み物を読みながら、理系学生に必要な基本的な語彙や表現、文法知識などを身に付けていきます。

■学習・教育目標および到達目標

科学技術に関連した英文を読むのに必要な語彙力と文法知識をつけること。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案（印刷物）を配布します。

■教科書

[ISBN]9784791960255 『Science Finder—科学の不思議』(Jonathan Lynch, 成美堂：2017)

■参考文献

特になし

■関連科目

理系英語 2（再履修）

■成績評価方法および基準

授業参加 30%

課題・小テスト 20%

定期試験 50%

■授業評価アンケート実施方法

指定された時期に授業中に行います。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階 講師控室・takenaka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩、又は昼休憩時とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit 1 Digital Amnesia 前半

(スマホと物忘れの危険な関係)

第2回 第2回 Unit 1 Digital Amnesia 後半

(スマホと物忘れの危険な関係)

第3回 Unit 2 Sleep Paralysis 前半

(金縛りは心霊現象ではなかった)

第4回 Unit 2 Sleep Paralysis 後半

(金縛りは心霊現象ではなかった)

第5回 Unit 3 Why Are Some People Better at Learning Languages? 前半

(語学力は脳で決まる?)

第6回 Unit 3 Why Are Some People Better at Learning Languages? 後半

(語学力は脳で決まる?)

第7回 Unit 4 The McCollough Effect 前半

(見えないものが見えてくる—不思議なマッカロー効果)

第8回 Unit 4 The McCollough Effect 後半

(見えないものが見えてくる—不思議なマッカロー効果)

第9回 Unit 5 The Healthiest Drink? 前半

(コーヒーを飲んで健康になろう)

第10回 Unit 5 The Healthiest Drink? 後半

(コーヒーを飲んで健康になろう)

第11回 Unit 6 Health Advice for Fashion Lovers 前半

(おしゃれは危険?)

第12回 Unit 6 Health Advice for Fashion Lovers 後半

(おしゃれは危険?)

第13回 Unit 7 Live to Be 120 前半

(糖尿病治療薬が寿命を延ばす)

第14回 Unit 7 Live to Be 120 後半

(糖尿病治療薬が寿命を延ばす)

第15回 Unit 8 A New Antibiotic Found in the Soil

(新しい抗生物質が世界を救う?)

定期試験

科目名： 理系英語 2			
英文名： Academic English 2			
担当者： <small>ハセガワ ユミ</small> 長谷川 由美			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

理系英語2では、自然科学系および理工学系の話題を取り扱った英文の読解力を主に養成することを目的としています。そのために、テキスト中のライティング部分を割愛することがあります（授業中に指示します）。授業ではペアやグループワークも取り入れられるので、メンバーとコミュニケーションをとりながら学習を進めることもあります。予習必須です。かならず辞書を持参しましょう。また、受講期間中にランゲージスペースやランチタイムリーディングを有効活用するように心がけてください。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語1」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

模範答案をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

『Academic Encounters The Natural World 1 <Reading / Writing >』（Cambridge）著者：Jennifer Wharton,(ISBN978-1-107-68363-1)

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

理系英語1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

長谷川研究室（2号館5階）・hasegawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜4限目(その他の時間帯は必ず予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション+Preview Unit 3

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題（ランチタイムリーディングへの参加など）

受講に際しての注意事項

- ・欠席／遅刻について
- ・忘れもの（テキスト・辞書）について
- ・携帯電話の使用の制限について
- ・単語／熟語の小テストについて
- ・定期試験について
- ・総合評価について

その他、受講に際しての重要事項について

Unit3の概要を知り、ブレイクストーミングを行う。

第2回 Unit 3 The Air Around Us, Chapter 5 Earth's Atmosphere, Reading 1 The Composition of the Atmosphere

Building background knowledge about the topic
Thinking about the topic
Previewing key parts of a text examining graphics
Previewing art
<Vocabulary Skills>
Guessing meaning from context
Describing parts
Playing with words
Colons, such as and lists
Words from Latin and Greek
When Clauses
<Academic Success Skills>
Examining test questions
Taking notes with a chart
Using symbols and abbreviations

第3回 Unit 3 The Air Around Us, Chapter 5 Earth's Atmosphere, Reading 2 The Structure

Same as 第2回

第4回 Unit 3 The Air Around Us, Chapter 5 Earth's Atmosphere, Reading 3 Clouds

Same as 第2回

第5回 Unit 3 The Air Around Us, Chapter 6 Weather and Climate, Reading 1 Climates around the World

<Reading Skills>
Thinking about the topic
Applying what you have read
Previewing key parts of a text
Increasing reading speed
Reading for main ideas
<Vocabulary Skills>
Defining key words
Using a dictionary
Using this/that/these/those to connect ideas
Synonyms
Prepositions of location
<Academic Success Skills>
Understanding averages
Using a Venn diagram to organize ideas from a text
Examining statistics
Thinking critically about the topic

第6回 Unit 3 The Air Around Us, Chapter 6 Weather and Climate, Reading 2 Storms

same as 第5回

第7回 Unit 3 The Air Around Us, Chapter 6 Weather and Climate, Reading 3 Hurricanes

same as 第5回

第8回 Writing an academic paragraph about the climate in a place you know

Presentation

<Writing Skills>
Previewing paragraph structure
Transition words
Writing about height
Writing an observation report
Introducing examples

第9回 Presentation

Preview Unit 4 Life on Earth

Unit 4 Life on Earth, Chapter 7 Plants and Animals, Reading 1 Living Things

<Reading Skills>

Thinking about the topic

Building background knowledge about the topic

Previewing key parts of a text

<Vocabulary Skills>

Word families

Defining key words

Cues for finding word meaning

That clauses

Compound words

<Academic Success Skills>

Answering true/false questions

Asking for clarification

Conducting a survey

Making an outline

Applying what you have read

Thinking critically about the topic

第10回 Unit 4 Life on Earth, Chapter 7 Plants and Animals, Reading 2 Plant Life

same as 第9回

第11回 Unit 4 Life on Earth, Chapter 7 Plants and Animals, Reading 2 Animal Life

same as 第9回

第12回 Unit 4 Life on Earth, Chapter 8 Humans, Reading 1 The Brain

<Reading Skills>

Thinking about the topic

Applying what you have read

Increasing reading speed

Asking and answering questions about a text

Scanning for details

Building background knowledge about the topic

Sequencing

<Vocabulary Skills>

Using adjectives

Gerunds

Words that can be used as nouns or verbs

Prepositions of direction

Playing with words

<Academic Success Skills>

Highlighting and taking notes

Using a dictionary

Conducting an experiment

Answering multiple-choice questions

Highlighting and making an outline

第13回 Unit 4 Life on Earth, Chapter 8 Humans, Reading 2 The Skeletal and Muscular Systems

same as 第12回

第14回 Unit 4 Life on Earth, Chapter 8 Humans, Reading 3 The Heart and the Circulatory System

same as 第12回

第15回 Writing an academic paragraph about the human body

Presentation

<Writing Skills>

Writing about similarities

Writing about differences

Writing a description

Writing about the body

定期試験

科目名：理系英語 2			
英文名：Academic English 2			
担当者：武智 美佳			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

理系英語 1 を通して身につけた英語力を基に、さらに高度な英語力の養成を目指す。特に、生命・自然・宇宙に関する英文とその内容把握を問う練習問題を行うことにより、読解力を養う。また、各ユニットにある英語表現だけでなく、広く自然科学に関する英文を身に着けるようにするために、各々理解を問う練習問題を行う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がける。* 12月上旬に実力テストを予定している。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語 1」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案（印刷物）を配布します。

■教科書

[ISBN]9784523178149『科学の不思議—動物・人体・生命・宇宙・進化の世界』（永田博人, 南雲堂：2016）

■参考文献

特になし

■関連科目

理系英語 1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）takechi@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Part 3 Mysteries in Life

UNIT 8 Monarch Butterfly Migration（前半）

予習内容：UNIT 8 Monarch Butterfly Migration(後半)

予習時間：60分

復習内容：UNIT 8 Monarch Butterfly Migration(前半)

復習時間：60分

(生命の不思議) 蝶の大移動

第2回 Part 3 Mysteries in Life

UNIT 8 Monarch Butterfly Migration（後半）

予習内容：UNIT 9 No Polar Bears in the Antarctic(前半)

予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 8 Monarch Butterfly Migration(後半)
復習時間 : 60分
(生命の不思議) 蝶の大移動

第3回 Part 3 Mysteries in Life

UNIT 9 No Polar Bears in the Antarctic (前半)

予習内容 : UNIT 9 No Polar Bears in the Antarctic(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 9 No Polar Bears in the Antarctic(前半)
復習時間 : 60分
(生命の不思議) 白クマは何故南極にいないのか?

第4回 Part 3 Mysteries in Life

UNIT 9 No Polar Bears in the Antarctic (後半)

予習内容 : UNIT 10 Wish Upon a Shooting Star(前半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 9 No Polar Bears in the Antarctic(後半)
復習時間 : 60分
(生命の不思議) 白クマは何故南極にいないのか?

第5回 Part 4 Mysteries in Our Universe

UNIT 10 Wish Upon a Shooting Star (前半)

予習内容 : UNIT 10 Wish Upon a Shooting Star(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 10 Wish Upon a Shooting Star(前半)
復習時間 : 60分
(宇宙の不思議) 星に願いを

第6回 Part 4 Mysteries in Our Universe

UNIT 10 Wish Upon a Shooting Star (後半)

予習内容 : UNIT 11 It' s Not Safe Out There!(前半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 10 Wish Upon a Shooting Star(後半)
復習時間 : 60分
(宇宙の不思議) 星に願いを

第7回 Part 4 Mysteries in Our Universe

UNIT 11 It' s Not Safe Out There! (前半)

予習内容 : UNIT 11 It' s Not Safe Out There!(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 11 It' s Not Safe Out There!(前半)
復習時間 : 60分
(宇宙の不思議) 地球最後の日

第8回 Part 4 Mysteries in Our Universe

UNIT 11 It' s Not Safe Out There! (後半)

予習内容 : 小テストの内容
予習時間 : 120分

復習内容 : UNIT 11 It' s Not Safe Out There!(後半)
復習時間 : 60分
(宇宙の不思議) 地球最後の日

第9回 小テスト

予習内容 : UNIT 12 Come Out, Come Out, Wherever You Are!(前半)
予習時間 : 60分
復習内容 : 小テストの内容
復習時間 : 60分
小テスト

第10回 Part 4 Mysteries in Our Universe

UNIT 12 Come Out, Come Out, Wherever You Are! (前半)

予習内容 : UNIT 12 Come Out, Come Out, Wherever You Are!(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 12 Come Out, Come Out, Wherever You Are!(前半)
復習時間 : 60分
(宇宙の不思議) 宇宙人はいるのか?

第11回 Part 4 Mysteries in Our Universe

UNIT 12 Come Out, Come Out, Wherever You Are! (後半)

予習内容 : UNIT 13 Who Is The Smallest One of All?(前半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 12 Come Out, Come Out, Wherever You Are!(後半)
復習時間 : 60分
(宇宙の不思議) 宇宙人はいるのか?

第12回 Part 5 Mysteries in Evolution

UNIT 13 Who Is The Smallest One of All? (前半)

予習内容 : UNIT 13 Who Is The Smallest One of All?(後半)
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 13 Who Is The Smallest One of All?(前半)
復習時間 : 60分
(進化の不思議) 小さい動物、見つけた!

第13回 Part 5 Mysteries in Evolution

UNIT 13 Who Is The Smallest One of All? (後半)

予習内容 : UNIT 14 Missing Link: Tiktaalik
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 13 Who Is The Smallest One of All?(後半)
復習時間 : 60分
(進化の不思議) 小さい動物、見つけた!

第14回 Part 5 Mysteries in Evolution

UNIT 14 Missing Link: Tiktaalik

予習内容 : UNIT 15 The Bittersweet Battle with Cockroaches
予習時間 : 60分
復習内容 : UNIT 14 Missing Link: Tiktaalik
復習時間 : 60分
(進化の不思議) つながった進化の鎖

第15回 Part 5 Mysteries in Evolution

UNIT 15 The Bittersweet Battle with Cockroaches

予習内容 : 定期試験

予習時間 : 180分

復習内容 : UNIT 15 The Bittersweet Battle with Cockroaches

復習時間 : 60分

(進化の不思議) 甘辛騒動: ゴキブリとのほろ苦い戦い

定期試験

定期試験

科目名：理系英語 2			
英文名：Academic English 2			
担当者：澤邊 興平			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

- ・著名な理系一般誌と提携して作られた指定教科書内の、科学エッセイの部分の読解に重点を置いた学習を行います。
- ・授業中に各受講生の担当課題範囲を決め翌週に発表してもらう形式なので、積極的に授業に参加してください。
- ・授業には辞書を必ず持参しましょう。
- ・受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がけてください。

■学習・教育目標および到達目標

基礎英語力の向上と科学英語への関心を養うことを本授業の教育目標とします。

- ・300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。
- ・そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける
- ・本文で使われている単語や熟語を理解し、それらを自分のものとして使うことができる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間内に課題担当者の答案を基に模範解答を板書として提示します。

■教科書

[ISBN]9784863122895 『Science Frontiers』(野口ジュディー、センゲージラーニング：2016)

初回授業時までに購入しておくこと。(コピー不可)

この他、必要に応じて授業中にプリントを配布します。

■参考文献

授業にて指示します。

■関連科目

理系英語 1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)・ksawabe@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

授業時限前後の休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、ウォームアップ、Unit8：Free Fall(前半)

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題

受講に際しての注意事項

- ・欠席/遅刻について
- ・忘れ物(テキスト・辞書)について
- ・携帯電話の使用制限について
- ・定期試験について
- ・総合評価について

Unit8：Free Fall(前半)

- ・超高高度降下についての英文を読み解く。

・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第2回 Unit8 : Free Fall (後半)

・超高高度降下についての英文を読み解く (前回の続き)。
・自由落下についての他の事例を英語で読む

第3回 Unit9 : The Hidden Lives of Leaves (前半)

・木の葉の生態についての英文を読み解く。
・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第4回 Unit9 : The Hidden Lives of Leaves (後半)

・木の葉の生態についての英文を読み解く (前回の続き)。
・植物についての他の事例を英語で読む

第5回 Unit10 : Getting the Shot (前半)

・海中撮影についての英文を読み解く。
・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する

第6回 Unit10 : Getting the Shot (後半)

・海中撮影についての英文を読み解く (前回の続き)。
・海中生物についての他の事例を英語で読む

第7回 Unit11 : Attack of the Germs (前半)

・免疫作用に関する英文を読み解く。
・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第8回 Unit11 : Attack of the Germs (後半)

・免疫作用に関する英文を読み解く (前回の続き)。
・生理学についての他の事例を英語で読む

第9回 Unit12 : Just Like Earth? (前半)

・地球外源試料についての英文を読み解く。
・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第10回 Unit12 : Just Like Earth? (後半)

・地球外源試料についての英文を読み解く (前回の続き)。
・天文学に関する他の事例を英語で読む

第11回 Unit13 : The Skin You're In (前半)

・皮膚の働きについての英文を読み解く。
・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第12回 Unit13 : The Skin You're In (後半)

・皮膚の働きについての英文を読み解く (前回の続き)。
・臓器・組織に関する他の事例を英語で読む

第13回 Unit14 : Weirdest Wonders (前半)

・地質学的驚異に関する英文を読み解く。
・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第14回 Unit14 : Weirdest Wonders (後半)

・地質学的驚異に関する英文を読み解く (前回の続き)。
・地球に関する他の事例を英語で読む

第15回 Unit15 : Aquarius

- ・海中研究所についての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

定期試験

科目名： 理系英語 2			
英文名： Academic English 2			
担当者： <small>オサダ キヨシ</small> 長田 希好			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

【医用工学科】

理系の学術英語を確実に理解できるようになること、「速読」と「精読」の二種類の読み方のテクニックを習得し、その二つを巧みに組み合わせながら文章を読解できるようになることを目標とする。理系英語2では、各ユニットにある医療コラムの英文を読みその内容把握を問う練習問題を解くことにより、読解力を養う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がける。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語1」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784523177562 『医系コラム「バイタル・サイエンス」で学ぶ基本医学用語演習—Sings And Symptoms:True S』(大下晴美, 南雲堂:2014)

■参考文献

特になし

■関連科目

理系英語1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階) k-ci_osa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Orientation and Introduction

予習内容： テキスト全体に目を通し概要、そのレベルを確認しておくこと。

復習内容： 前期の学習範囲の各Unitのリーディングを読み、それぞれの所要時間を記録しておくこと。

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題

受講に際しての注意事項

- ・欠席／遅刻について
- ・定期試験について
- ・総合評価について

その他、受講に際しての重要事項について

第2回 Chapter 1: And Down She Goes (1)

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
失神患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第3回 Chapter 2: And Down She Goes (2)

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
失神患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第4回 Chapter 3: Simple Sickness Gone Awry (1)

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
心臓衰弱患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第5回 Chapter 4: Simple Sickness Gone Awry (2)

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
心臓衰弱患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第6回 Chapter 5: Confusion That Comes And Goes (1)

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
精神錯乱患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第7回 Chapter 6: Confusion That Comes And Goes (2)

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
精神錯乱患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第8回 Chapter 7: Brain Got Your Tongue (1)

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
言語障害患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第9回 Chapter 8: Brain Got Your Tongue (2)

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
言語障害患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第10回 Chapter 9: Those Who Know Us Best (1)

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
口臭患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第11回 Chapter 10: Those Who Know Us Best (2)

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。

口臭患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第12回 Chapter 11: Treating Disease In The Big Easy (1)

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。

腹痛患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第13回 Chapter 12: Treating Disease In The Big Easy (2)

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。

腹痛患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第14回 Chapter 13: Bugs Are Crawling In My Skin

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。

皮膚病患者の診断、原因究明、治療に関する英文を読み解く

第15回 Chapter 14: Attacked From Within

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。

狼瘡患者に関する英文を読み解く

定期試験

科目名： 理系英語 2			
英文名： Academic English 2			
担当者： <small>ヨシカワ ユウスケ</small> 吉川 裕介			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

【医用工学科】

「理系英語1」を通して身につけた英語力をもとに、さらに高度な英語力の養成を目指す。最近の医薬品研究の成果や、薬に関する基礎知識、医薬品の使用に伴う副作用や薬害問題といった専門的な内容を英文で理解するための読解力を身に付ける。特に後期は読解力と内容理解を向上および定着させることを目的とする。授業では予習を前提に授業を行い、適宜ペアワークによる意見交換や口頭練習を交えながら英語表現の定着を目指す。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がけること。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語1」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案を返却し、解説します。

■教科書

『The Wonders of Medicine』(瀬谷幸男、高津昌宏ほか: 南雲堂) [ISBN]978-4-523-17556-8

■参考文献

授業にて指示します。

■関連科目

理系英語1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

吉川研究室 (2号館5階514) y-yoshikawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日4限(その他の時間は必ず予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

授業に関する概要説明と必要事項の伝達

第2回 Unit 7: Respiratory Disease: The Renewed Threat of Tuberculosis

呼吸器系の疾患に関する英文読解

第3回 Unit 7: Respiratory Disease: The Renewed Threat of Tuberculosis

呼吸器系の疾患に関する英文読解

第4回 Unit 8: Aniti-anxiety Agents

抗不安薬に関する英文読解

第5回 Unit 8: Aniti-anxiety Agents

抗不安薬に関する英文読解

第6回 Unit 9: Chemotherapy: An Old Treatment with New Hope for the Future

化学療法薬に関する英文読解

第7回 Unit 9: Chemotherapy: An Old Treatment with New Hope for the Future

化学療法薬に関する英文読解

第8回 Review Test 1

到達度確認テスト

第9回 Unit 10: AIDS: Getting a Handle on Treatment

エイズに関する英文読解

第10回 Unit 10: AIDS: Getting a Handle on Treatment

エイズに関する英文読解

第11回 Unit 11: Immunosuppressant Drugs and the Transplant Revolution

免疫抑制剤と臓器移植に関する英文読解

第12回 Unit 11: Immunosuppressant Drugs and the Transplant Revolution

免疫抑制剤と臓器移植に関する英文読解

第13回 Unit 12: Adverse Drug Reactions

薬剤の副作用に関する英文読解

第14回 Unit 12: Adverse Drug Reactions

薬剤の副作用に関する英文読解

第15回 Review test 2

到達度確認テスト

定期試験

科目名：理系英語 2			
英文名：Academic English 2			
担当者： <small>ハタナカ カヨコ</small> 畠中 加代子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

科学テーマに関する英文のエッセイを題材にしたテキストを使用し、科学エッセイの読解に重点をおいた学習をおこないます。各ユニットでは、語彙学習、本文のエッセイの読解、内容理解を確認する練習問題、役に立つ表現をもちいたライティングの練習を中心に授業を進めます。単語・熟語の小テストを随時おこないます。授業には必ず辞書を持参してください。又、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するよう心がけてください。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語 1」とあわせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、所々辞書をひきながら、スムーズに読む力を身につける。そのために必要な文法力、語彙力、読解力を身につける。また、音読やシャドーイングを通して発音のルール・リズム・イントネーションを学び、リスニング力やスピーキング力を養う。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案を掲示板に掲載します。

■教科書

Mysteries in Science (永田博人・ Geraldine Twilley, 南雲堂) [ISBN]978-4-523-17814-9

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

理系英語 1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・hatanaka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、Unit8: Monarch Butterfly Migration（前半）

予習内容：辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間：60分

復習内容：英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間：30分

(1) シラバスについて説明（授業の目標、授業計画、授業方法、評価方法）

(2) 受講に際しての注意事項

(3) Unit8 (前半)

- ・オオカバマダラ蝶の大移動に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第2回 Unit8: Monarch Butterfly Migration（後半）

予習内容：Exerciseに取り組む。

予習時間：30分

復習内容：英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第3回 Unit9: No Polar Bears in the Antarctic (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・北極圏の個体の絶滅の危機に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第4回 Unit9: No Polar Bears in the Antarctic (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組み。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第5回 Unit10: Wish Upon a Shooting Star (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・三大流星群の地球に及ぼす影響に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Unit8&9 単語・熟語テスト

第6回 Unit10: Wish Upon a Shooting Star (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組み。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第7回 Unit11: It's Not Safe Out There! (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・地球と衝突する可能性をもつ小惑星に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第8回 Unit11: It's Not Safe There! (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組み。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第9回 Unit12: Come Out, Come Out, Wherever You Are! (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。
- 復習時間 : 30分
- ・地球外生命体に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Unit10&11 単語・熟語小テスト

第10回 Unit12: Come Out, Come Out, Wherever You Are! (後半)

- 予習内容 : Exerciseに取り組む。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第11回 Unit13: Who Is The Smallest One of All? (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。
- 復習時間 : 30分
- ・気候変動による動植物の小型化に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける

第12回 Unit13: Who Is The Smallest One of All? (後半)

- 予習内容 : Exerciseに取り組む。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第13回 Unit14: Missing Link: Tiktaalik (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。
- 復習時間 : 30分
- ・進化の謎を解く化石に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Unit12&13 単語・熟語小テスト

第14回 Unit14: Missing Link: Tiktaalik (後半)

- 予習内容 : Exerciseに取り組む。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第15回 Unit15: The Bittersweet Battle with Cockroaches

- 予習内容 : 辞書を用いて英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し、自分のコメントをつけ加える。
- 復習時間 : 60分
- ・ゴキブリの耐性獲得の過程に焦点をあてた英文を読み解く。
 - ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける

- ・ CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・ Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・ トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

定期試験

科目名：理系英語 2			
英文名：Academic English 2			
担当者： <small>ヤマモト サトシ</small> 山本 哲			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

理系英語 1 を通して身につけた英語力を基に、さらに高度な英語力の養成を目指す。特に、各ユニットにある①自然科学、理工学系に関する英文とその内容把握を問う練習問題、②自然科学、理工学系に関する速読用英文とその内容把握を問う練習問題を行うことにより、読解力を養う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がける。

* 1 2月上旬に実力テストを予定している。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語 2」と合わせて、3000～4000語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験については、試験終了後に解答例（印刷物）を配布します。

課題については、次回（または次々回）に詳しく解説します。

■教科書

荒木英彦編著『英語で学ぶやさしい科学』（朝日出版社）[ISBN] 978-4-255-15601-9

■参考文献

特になし。

■関連科目

理系英語 1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）yamas@center.wakayama-u.ac.jp

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

予習内容：特になし。

復習内容：特になし。

授業内容、授業計画、授業方針、評価方法等の説明。

第2回 Unit 11, "Lenses and Mirrors"

予習内容：未習部分の予習。

予習時間：120分

復習内容：既習部分の復習。

復習時間：60分

「レンズと鏡」をテーマとする英文を読み、「関係を表す文（2）」について学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第3回 Unit 11, "Lenses and Mirrors" & Unit 12, "Sound waves"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

Unit 11の練習問題により、同Unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。引き続き、Unit 12「音波」をテーマとする英文を読み、「比較を表す文(1)」の前半を学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第4回 Unit 12, "Sound waves"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

Unit 12の「比較を表す文(1)」の後半を学習するとともに、練習問題により、同Unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第5回 Unit 13, "Magnetism"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

「磁気」をテーマとする英文を読み、「比較を表す文(2)」について学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第6回 Unit 13, "Magnetism" & Unit 14, "Electricity"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

Unit 13の練習問題により、同Unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。引き続き、Unit 14「電気」をテーマとする英文を読み、「比較を表す文(3)」の前半を学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第7回 Unit 14, "Electricity"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

Unit 14の「比較を表す文(3)」の後半を学習するとともに、練習問題により、同Unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第8回 Unit 15, "Electrical circuits"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

「電気回路」をテーマとする英文を読み、「能力・特性を表す文」について学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第9回 Unit 15, "Electrical circuits" & Unit 16, "Electronics"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

Unit 15の練習問題により、同Unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。引き続き、Unit 16「電子工学」をテーマとする英文を読み、「可能性・確率を表す文」の前半を学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第10回 Unit 16, "Electronics"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

Unit 16の「可能性・確率を表す文」の後半を学習するとともに、練習問題により、同Unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第11回 Unit 17, "Computers and Telecommunications"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

「コンピューターと遠距離通信」をテーマとする英文を読み、「数量を表す文(1)」について学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第12回 Unit 17, "Computers and Telecommunications" & Unit 18, "Microscopic life"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

Unit 17の練習問題により、同unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。引き続き、Unit 18「微生物」をテーマとする英文を読み、「数量を表す文(2)」の前半を学習する。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第13回 Unit 18, "Microscopic life"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

Unit 18の「数量を表す文(2)」の後半を学習するとともに、練習問題により、同unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第14回 Unit 19, "Photosynthesis"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

「光合成」をテーマとする英文を読み、「数量を表す文(3)」を学習するとともに、練習問題により、同Unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

第15回 Unit 20, "The solar system"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 120分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

「太陽系」をテーマとする英文を読み、「増減を表す文」を学習するとともに、練習問題により、同unitの学習内容、英語表現等の定着を図る。また、本文中に出てくる重要語彙、熟語等を学ぶことによって、発信型コミュニケーションに役立てる。

定期試験

科目名：理系英語 2			
英文名：Academic English 2			
担当者： <small>オサダ キヨシ</small> 長田 希好			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

理系の学術英語を確実に理解できるようになること、「速読」と「精読」の二種類の読み方のテクニックを習得し、その二つを巧みに組み合わせながら文章を読解できるようになることを目標とする。理系英語1では、各ユニットにある「生物環境」「自然資源」「医療」「生活様式」などに関する英文を読みその内容把握を問う練習問題を解くことにより、読解力を養う。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がける。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語1」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784791947836『最新科学の知見』(永田 博人, 成美堂: 2015)

■参考文献

特になし

■関連科目

理系英語1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階) k-ci_osa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Orientation and Introduction

予習内容： テキストのUnit 13～24に目を通し概要、そのレベルを確認しておくこと。

復習内容： 前期の学習範囲の各Unitのリーディングを読み、それぞれの所要時間を記録しておくこと。

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題

受講に際しての注意事項

- ・欠席／遅刻について
- ・定期試験について
- ・総合評価について

その他、受講に際しての重要事項について

第2回 Unit 13:Galileo' s Inclined Plane

予習内容： 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
ガリレオの実験に関する英文を読み解く

第3回 Unit 14:All the Colors of the Rainbow

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
ニュートンとプリズム実験に関する英文を読み解く

第4回 Unit 15:Watching the Earth Move

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
フーコーの振り子に関する英文を読み解く

第5回 Unit 16:The G Factor

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
知能と知性の差異に関する英文を読み解く

第6回 Unit 17:A Trip to the Land of Nod

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
睡眠に関する英文を読み解く

第7回 Unit 18:Lab-Grown Organs

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
再生医療に関する英文を読み解く

第8回 Review 1

予習内容 : Unit 13～Unit 18のリーディングを読み、理解が完全か確認しておくこと。疑問点がある場合にはメモし質
問できるようにしておくこと。

復習内容 : 復習授業で取り上げた各Unitの難易度の高い箇所を理解できるようになること。
Unit 13～18の復習

第9回 Unit 19:Looking for New Earths

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
地球外生命体可能性惑星に関する英文を読み解く

第10回 Unit 20:Weird and Wonderful Worlds

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
衛星に関する英文を読み解く

第11回 Unit 21:The Invisible Universe

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いて
を解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
天文学に関する英文を読み解く

第12回 Unit 22:Eating Bugs

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
昆虫食に関する英文を読み解く

第13回 Unit 23:Bacterial Batteries

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
電流発生菌に関する英文を読み解く

第14回 Unit 24:Carbon Capture and Storage

予習内容 : 文章を読み、わからない語彙を辞書で調べておく。内容把握問題、語彙の問題などテキストの問題を解いてを解いておくこと。

復習内容 : 授業で解説した文の構造などを理解できるようになること。
二酸化炭素回収・貯留に関する英文を読み解く

第15回 Review 2

予習内容 : Unit 19～Unit 24のリーディングを読み、理解が完全か確認しておくこと。疑問点がある場合にはメモし質問できるようにしておくこと。

復習内容 : 復習授業で取り上げた各Unitの難易度の高い箇所を理解できるようになること。
Unit 19～24の復習

定期試験

科目名：理系英語 2			
英文名：Academic English 2			
担当者： ^{タケチ} 武智 ^{ミカ} 美佳			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

理系英語 2 では、理系英語 1 に引き続き、自然科学系および理工学系の話題を取り扱った英文を教材として、各ユニットにある①自然科学、理工学系に関する英文とその内容把握を問う練習問題、②自然科学、理工学系に関する速読用英文とその内容把握を問う練習問題をさらに行うことにより、主に読解力を向上および定着させることを目的とする。また授業のみならず授業外において、ランゲージスペースで行われる英語関連講座やランチタイムリーディングを積極的に有効活用するように心がける。また、次年度のプレースメントテストの役割を兼ねた実力テストを12月上旬（予定）にしているため、授業計画が前後することが予想される。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語 1」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案（印刷物）を配布します。

■教科書

[ISBN]9784255155197『自然科学を読む：過去・現在・未来』（原口 治, 朝日出版社：2012）

■参考文献

特になし

■関連科目

理系英語 1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）takechi@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit 8 Elasticity and Strength（前半）

予習内容：Unit 8 Elasticity and Strength(後半)

予習時間：60分

復習内容：Unit 8 Elasticity and Strength(前半)

復習時間：60分

物質結合の不思議

第2回 Unit 8 Elasticity and Strength（後半）

予習内容：Unit 9 World's Sixth Mass Extinction under Way(前半)

予習時間：60分

復習内容：Unit 8 Elasticity and Strength(後半)

復習時間：60分

物質結合の不思議

第3回 Unit 9 World' s Sixth Mass Extinction under Way (前半)

予習内容 : Unit 9 World' s Sixth Mass Extinction under Way(後半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 9 World' s Sixth Mass Extinction under Way(前半)

復習時間 : 60分

6度目の大量絶滅進行中

第4回 Unit 9 World' s Sixth Mass Extinction under Way (後半)

予習内容 : Unit 10 Prime Numbers, Composite Numbers(前半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 9 World' s Sixth Mass Extinction under Way(後半)

復習時間 : 60分

6度目の大量絶滅進行中

第5回 Unit 10 Prime Numbers, Composite Numbers (前半)

予習内容 : Unit 10 Prime Numbers, Composite Numbers(前半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 10 Prime Numbers, Composite Numbers(後半)

復習時間 : 60分

数の魅力

第6回 Unit 10 Prime Numbers, Composite Numbers (後半)

予習内容 : Unit 11 First Europeans Did Not Rely on Fire(前半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 10 Prime Numbers, Composite Numbers(後半)

復習時間 : 60分

数の魅力

第7回 Unit 11 First Europeans Did Not Rely on Fire (前半)

予習内容 : Unit 11 First Europeans Did Not Rely on Fire(後半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 11 First Europeans Did Not Rely on Fire(前半)

復習時間 : 60分

原始人と火

第8回 Unit 11 First Europeans Did Not Rely on Fire (後半)

予習内容 : 小テストの内容

予習時間 : 120分

復習内容 : Unit 11 First Europeans Did Not Rely on Fire(後半)

復習時間 : 60分

原始人と火

第9回 小テスト

予習内容 : Unit 12 Genetic Engineering(前半)

予習時間 : 60分

復習内容 : 小テストの内容

復習時間 : 60分

小テスト

第10回 Unit 12 Genetic Engineering (前半)

予習内容 : Unit 12 Genetic Engineering(後半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 12 Genetic Engineering(前半)

復習時間 : 60分

遺伝子組み換え鶏の意外な活躍とは

第11回 Unit 12 Genetic Engineering (後半)

予習内容 : Unit 13 Plates and Continents(前半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 12 Genetic Engineering(後半)

復習時間 : 60分

遺伝子組み換え鶏の意外な活躍とは

第12回 Unit 13 Plates and Continents (前半)

予習内容 : Unit 13 Plates and Continents(後半)

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 13 Plates and Continents(前半)

復習時間 : 60分

プレート理論と地震

第13回 Unit 13 Plates and Continents (後半)

予習内容 : Unit 14 Tagging White Sharks

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 13 Plates and Continents(後半)

復習時間 : 60分

プレート理論と地震

第14回 Unit 14 Tagging White Sharks

予習内容 : Unit 15 An Introduction to Technical English

予習時間 : 60分

復習内容 : Unit 14 Tagging White Sharks

復習時間 : 60分

ホオジロザメの行動パターンを探る

第15回 Unit 15 An Introduction to Technical English

予習内容 : 定期試験

予習時間 : 180分

復習内容 : Unit 15 An Introduction to Technical English

復習時間 : 60分

テクニカル・イングリッシュ入門—工業英検とは

定期試験

定期試験

科目名：理系英語2			
英文名：Academic English 2			
担当者： <small>ヨシカワ ユウスケ</small> 吉川 裕介			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

自然科学系の幅広いトピックを取り上げたテキストを使用し、自然科学・理工学に関する様々な内容に興味を持ち、英文で理解するための読解力を身に付ける。特に前期では精読を意識し、内容を正確に理解するための素地を養う。授業では予習を前提に授業を行い、適宜ペアワークによる意見交換や口頭練習を交えながら英語表現の定着を目指す。授業には必ず辞書を持参すること。また、受講期間中にランゲージスペースを有効活用するように心がけること。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語1」と合わせて、300～400語程度で書かれた学術系の文章について、ところどころ辞書を引きながら、スムーズに読める力を身に付ける。そのために、複雑な文の構造を見抜くヒント、長い文章の読むべきポイント等を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案を返却し、解説します。

■教科書

『Science in Focus』(Kevin Cleary, 野崎 嘉信, 松本和子: 成美堂) [ISBN]978-4-7919-5082-9

■参考文献

授業にて指示します。

■関連科目

理系英語1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表および課題 15%

実力テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

吉川研究室 (2号館5階514) y-yoshikawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日4限(その他の時間は必ず予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

授業に関する概要説明と必要事項の伝達

第2回 Unit 7: Yoga

ヨガに関する英文読解

第3回 Unit 7: Yoga

ヨガに関する英文読解

第4回 Unit 8: Forest Therapy

森林浴療法に関する英文読解

第5回 Unit 8: Forest Therapy

森林浴療法に関する英文読解

第6回 Unit 9: The Uncanny Valley

中間領域に関する英文読解

第7回 Unit 9: The Uncanny Valley

中間領域に関する英文読解

第8回 Review Test 1

到達度確認テスト

第9回 Unit10: Renewable Energy

再生可能エネルギーに関する英文読解

第10回 Unit10: Renewable Energy

再生可能エネルギーに関する英文読解

第11回 Unit 11: Electric Vehicles

電気自動車に関する英文読解

第12回 Unit 11: Electric Vehicles

電気自動車に関する英文読解

第13回 Unit 13: Biomimicry

生態模倣に関する英文読解

第14回 Unit 13: Biomimicry

生態模倣に関する英文読解

第15回 Review test 2

到達度確認テスト

定期試験

科目名：理系英語2 〈再履修〉			
英文名：Academic English 2			
担当者： <small>タケナカ ヨシツグ</small> 竹中 義胤			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

理系英語2に引き続き、英文を読みながら、必要な語彙と文法的な知識を養成します。同時に読み物の内容を理解するのに必要な予備知識も身に付けていきます。

■学習・教育目標および到達目標

科学技術関連の英文を読んで理解するのに必要な基本的語彙と文法的知識を身に付けること。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案（印刷物）を配布します。

■教科書

[ISBN]9784791960255 『Science Finder—科学の不思議』（Jonathan Lynch, 成美堂：2017）

■参考文献

特になし

■関連科目

理系英語1（再履修）

■成績評価方法および基準

授業参加 30%

課題・小テスト 20%

期末テスト 50%

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階 講師控室・takenaka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩、または昼休憩時とします。

Unit 9 The World's Oldest Creature? 前半

（世界最高齢の生き物は貝だった）

第2回 Unit 9 The World's Oldest Creature? 後半

（世界最高齢の生き物は貝だった）

第3回 Unit 10 Lazy Ants 前半

（巣に欠かせない怠け者のアリ）

第4回 Unit 10 Lazy Ants 後半

（巣に欠かせない怠け者のアリ）

第5回 Unit 11 (Almost) Vegetarian Bears 前半

（ベジタリアンになったパンダの秘密）

第6回 Unit 11 (Almost) Vegetarian Bears 後半

(ベジタリアンになったパンダの秘密)

第7回 Unit 12 Animals and Earthquakes 前半

(動物だけが知る地震の前兆)

第8回 Unit 12 Animals and Earthquakes 後半

(動物だけが知る地震の前兆)

第9回 Unit 13 LiquiGlide 前半

(特殊コーティング技術でケチャップが水のように)

第10回 Unit 13 LiquiGlide 後半

(特殊コーティング技術でケチャップが水のように)

第11回 Unit 14 Unbreakable Glass 前半

(割れないガラスでスマホも安心)

第12回 Unit 14 Unbreakable Glass 後半

(割れないガラスでスマホも安心)

第13回 Unit 15 Robots Are Winning 前半

(ロボット優位の時代がやってくる)

第14回 Unit 15 Robots Are Winning 後半

(ロボット優位の時代がやってくる)

第15回 Unit 16 Li-Fi

(Wi-Fi のイライラにさようなら?)

定期試験

科目名： オーラルスキル（英語） 1			
英文名： Oral Skills (English) 1			
担当者： ファミユラロ ラルフ マイケル			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

Students will be required to participate in pairs, small groups and individual activities. These activities will include speaking, listening and writing skills.

■学習・教育目標および到達目標

to become familiar with the vocabulary and necessary expressions of English communication.

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案(写し)を返却します。

■教科書

Clip Art English
Edward A. Karagianis
Eddie-Bones Publishing
2013
ISBN: 978-4-9907064-1-8

■参考文献

An English- Japanese, Japanese-English dictionary is necessary.

■関連科目

Oral Skills 2, 3, 4

■成績評価方法および基準

Oral presentations 40%
In-class activities 40%
Note-related quizzes 20%

■授業評価アンケート実施方法

In-class questionnaire

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・bunbogul@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

Monday: 10:40 ~ 4:10
Friday: 9:00 ~ 4:10

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Course Introduction

予習内容 : Pronunciation and listening practice
予習時間 : 45分
復習内容 : Walk-around activity and summary writing
復習時間 : 45分
Expressing Likes and Dislikes

第2回 Self-introductions

予習内容 : Giving and asking for personal information
予習時間 : 45分
復習内容 : Days and dates practice
復習時間 : 45分
Introducing oneself, small talk, basic questions and answers

第3回 Daily Routines

予習内容 : "WH" question practice
予習時間 : 45分
復習内容 : Everyday lifestyle conversations
復習時間 : 45分

Explaining daily activities

第4回 Usual patterns

予習内容 : "How often do you?" practice
予習時間 : 45分
復習内容 : Giving general and specific replies to frequency of actions.
復習時間 : 45分

Using adverbs of frequency to discuss how often activities are done.

第5回 Abilities

予習内容 : "Can you?" questions and answers, conversation development
予習時間 : 45分
復習内容 : The potential for an action to be carried out -- possibilities.
復習時間 : 45分

Explaining things that can and cannot be done based on individual abilities.

第6回 Time

予習内容 : Understanding clock usage in English.
予習時間 : 45分
復習内容 : Pair-work and group activity related to time-events
復習時間 : 45分

Learning to tell time in English.

第7回 Occupations and work

予習内容 : Job description pair-work
予習時間 : 45分
復習内容 : Defining jobs and their responsibilities.
復習時間 : 45分

Learning work-related vocabulary.

Asking and answering questions related to employment activities.

第8回 Review 1

予習内容 : 1st-term topics
予習時間 : 45分
復習内容 : Notebook check
復習時間 : 45分

Review of content taught from lessons 1 - 7.

第9回 Family

予習内容 : Explaining relationships among family members.
予習時間 : 45分
復習内容 : Individual work in text on the topic of family
復習時間 : 45分

Learning the vocabulary related to family and relatives.

第10回 Describing people

予習内容 : Who is it? Physical appearances
予習時間 : 45分
復習内容 : Personality traits and human relations
復習時間 : 45分

Using adjectives and adjectival phrases to describe the appearance of people.

第11回 Adjectives and adverbs

予習内容 : "What kind of?" & "How is it done?" questions.

予習時間 : 45分
復習内容 : Adjective combination practice
復習時間 : 45分

Practicing the use of adjectives and adverbs to describe things and situations

第12回 Comparisons

予習内容 : The grammatical structure of the comparative, speaking practice
予習時間 : 45分
復習内容 : Expressing preferences for one thing over another.
復習時間 : 45分

Comparing qualities between two items and two people.

第13回 How Questions

予習内容 : Expressing quality and quantity
予習時間 : 45分
復習内容 : Explaining methods and ways of doing things.
復習時間 : 45分

Practicing the various, "How" related questions to get qualitative information.

第14回 Possessions

予習内容 : "What do they have?" questions
予習時間 : 45分
復習内容 : Changing adjectives to verbs.
復習時間 : 45分

Describing the items that people own.

第15回 Review

予習内容 : Reviewing of lessons 9 ~ 14
予習時間 : 45分
復習内容 : Note review information
復習時間 : 45分

Review 2

Ongoing assessment includes midterm and final tests.

科目名： オーラルスキル（英語） 1			
英文名： Oral Skills (English) 1			
担当者： エドワード アフ カラギアニス			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、オールイングリッシュの授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が多くない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。

■学習・教育目標および到達目標

「オーラルスキル2」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

小テストは次の授業に返却します

■教科書

"Clip Art English - A Straightforward Approach, Second Edition", (Edward A. Karagianis: Eddie-Bones Publishing: 2013), [ISBN] 978-4-9907064-0-1.

■参考文献

最初の授業で指示します。

■関連科目

オーラルスキル2

■成績評価方法および基準

宿題/ 小テスト 60%
定期試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・ekaragi@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- ・ Talk about yourself for 1 minute under a certain topic.
- ・ Explain / describe a process / sequence :talk about plans
- ・ Giving and confirming instructions

第1回 授業説明 テキスト Self-Intro, What kind of, Genealogy

現在形、形容詞形

第2回 What kind of, Do you have any allergies? That's what friends are for,

現在形、副詞、出来る

第3回 What kind of, So/such, How often do you, , What are you up to,

現在形、副詞、出来る

第4回 How often do you, Adverbs for athletic people, Tank game

現在形、副詞、出来る

第5回 What are you up to, Activities, Applying for a job

現在形、趣味、出来る

第6回 Activities, Applying for a job, What time/Do you ever

自分が出来ること、現在形、趣味、仕事関係

第7回 What time/Do you ever, New part-time job, Occupations, FUNCTION: Self-talk

現在形、仕事関係、自分のことを1分間話す

第8回 Occupations, On the airplane, I'll pick some up, 4つ揃え card game

I'm hungry, Requests, A favor, FUNCTION: Give & confirm instructions

第9回 I'm hungry, Requests, A favor, FUNCTION: Give & confirm instructions

食料品、食べ物、レストラン、丁寧語、説明をしたり確認したりする

第10回 Bird Watching, Where/What 1, Who is it game

現在進行形、形容詞、比較/最上級、人の描写

第11回 Where/What 2, Boyfriends, Tank game

比較/最上級

第12回 Which is /Who is, as/as/not-as - as, What are you going to do?

比較級、最上級、未来形

第13回 Superlative Animals, Traveling to various, How to read numbers, Hurdle Race

最上級、未来形、数字の読み方

第14回 Adjectives & related nouns, I'm broke

未来形 going to/will、形容詞 - 副詞

第15回 Write the questions for the sentences, From adj. into verbs, Tank game

未来形 going to/will、形容詞-動詞

定期試験

科目名： オーラルスキル（英語） 1			
英文名： Oral Skills (English) 1			
担当者： ジョン ドウデジアン			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

A communicative language teaching approach will be used in this class. Students will be encouraged to actively participate in class. Pair work and small group activities will be featured to increase opportunities for communication.

■学習・教育目標および到達目標

This course aims to develop basic English proficiency through which students can communicate in English. Students will learn fundamental English language and conversation skills necessary for various situations in daily life.

Students are expected to:

- > cooperate
- > concentrate
- > make a strong effort
- > be on time
- > bring all necessary classroom materials including a Japanese-English Dictionary
- > bring and maintain a notebook
- > record and look up any unknown vocabulary items
- > return all homework assignments on time
- > be responsible for completing all coursework in the event they are absent

By the end of the course, students will have:

- > acquired basic expressions and related vocabulary useful for daily life
- > acquired basic grammar necessary for daily conversation
- > acquired basic listening and speaking skills necessary for daily communication
- > learned how to facilitate the natural flow of conversation

■試験・課題に対するフィードバック方法

For security purposes, tests and quizzes are generally not returned to students. However, results are available by private consultation before, during and after class.

■教科書

Talk a Lot Book One Second Edition
David Martin
EFL Press

■参考文献

No specific references

■関連科目

Oral Skills (English) 2

■成績評価方法および基準

Coursework 25%
Tests/Quizzes 50%
Participation 25%

■授業評価アンケート実施方法

The university course survey is the main method for students to evaluate the course and written comments are highly valued. Students are also encouraged to express their opinions about course content and methodology.

■研究室・E-mailアドレス

Classroom before and after class john4649@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

By appointment

■授業計画の項目・内容及び到達目標

1. Course rules and objectives/Introductory activities
Explanation of rules and objectives/Diagnostic listening and speaking tasks

2. Making acquaintances

Greeting people and introducing yourself/Exchanging personal information with multiple classmates

3. Numbers

Using cardinal numbers/ Saying multiple digit numbers up to eight digits/ Exchanging numerical information

4. Dates

Using ordinal numbers/Using dates/Communicating about culturally and personally significant dates

5. Abilities

Expressing abilities past, present and future/Talking about interests/Discovering areas of mutual interest

6. Locations

Using prepositions of location/Describing locations within a confined space/ Explaining locations and identifying differences in drawings

7. Likes and dislikes

Asking and answering yes/no questions/Expressing preferences and discussing reasons for disliking something/Exchanging information regarding like and dislikes

8. Family

Using family vocabulary/Talking about immediate and extended family

9. Family

Discussing family relationships/Describing personality traits and giving opinions about relatives and friends

10. Telling time

Working with clocks/Telling time using everyday phrases/Discussing time spent on various activities

11. Daily routines

Talking about daily schedules and free time activities/Exchanging information about school and work schedules

12. School life

Discussing school related activities/Making plans and setting dates

13. Semester review

Review of major topics and points of emphasis from weeks 1-12

14. Written examination

Notebook review/Final review on areas of weakness

15. Speaking tasks/Notebook check

Pair and group speaking tasks/Notebook check/Preview of Oral Skills 2

予習内容 : Review previous lesson. Get any missed assignments and notes if you were absent. Check to be sure you bring all your materials to class.

予習時間 : 30分

復習内容 : Do any homework assignments. Help any classmates who were absent.

復習時間 : 30分

科目名： オーラルスキル（英語） 1			
英文名： Oral Skills (English) 1			
担当者： パトリック ポーレン			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、オールイングリッシュの授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が多くない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。

■学習・教育目標および到達目標

「オーラルスキル2」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案(写し)を返却します。

■教科書

“Fifty-fifty: A speaking and listening course, Book 1, Third Edition” (Warren Wilson and Roger Barnard, Pearson ELT: 2007) [ISBN] 9789620056642

■参考文献

Nothing

■関連科目

オーラルスキル2

■成績評価方法および基準

小テスト 30%

コース活動 40%

宿題／レポート 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)/prpolen@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Class Orientation

Teacher to student introduction, explanation of the course and student responsibilities. Vocabulary for clarification.

第2回 Introductions and greetings

Introducing oneself and a partner both formally and informally

第3回 Abilities and Jobs

Asking and answering questions about abilities; discussing types of jobs, job qualifications and skills

第4回 Personal information

Asking for and giving personal information, discussing appropriate vs.inappropriate topics

第5回 Times and Dates

Asking and answering questions about times and dates

第6回 Routines and Schedules

Understanding personal schedules. Making appointments. Comparing routine.

第7回 Review of weeks 1-6

A review of the topics covered in the first six weeks of the course

第8回 Location and movement

Talking about furniture and household furnishings. Identifying locations in a room, discussing the movement of objects

第9回 Directions

Asking for, giving, and understanding map directions, giving directions to a taxi driver, describing stores and their services.

第10回 Travel

Asking and answering questions about travel experiences, discussing foreign languages and cultures, making travel plans, checking into a hotel

第11回 Movies and Television

Talking about movies and television, describing a movie, narrating a basic story

第12回 Processes

Talking about food and cooking, making a meal from a recipe, asking a friend for advice. Guessing processes from hints. Giving and confirming instructions.

第13回 Opinions

Asking for opinions on both domestic and world issues, agreeing and disagreeing with someone politely

第14回 Review of Weeks 7-13

A review of the topics covered in weeks 7-13 of the course

第15回 Final Review and Summer Plans

A final review of all topics, discussion of summer holiday plans

科目名： オーラルスキル（英語） 1			
英文名： Oral Skills (English) 1			
担当者： グラマテイス チンゾグル			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

This is a seminar style course which aims to help students gain confidence in using English language structures, in a variety of situations on a variety of topics. It is based on the communicative approach to teaching, which means students are expected to participate using language structures they have already learned and newly acquired structures in each class and throughout the course. The text offers stimulating topics and springboards for discussion which students can engage with. Lessons generally have introductory, warm up, pair work, groupwork discussions, group and class presentations. There are activities which have build use of new language components and also activities to help students re-use previously learned language structures. Students are required to engage with others and the teacher when they don't understand a word, question or idea in class (mobile phones are unacceptable as reference items). Using such methods, it is hoped students will learn to use language structures to understand, engage with and solve problems on topics and situations.

■学習・教育目標および到達目標

Learn new English language structures, phrases, expressions
 Build vocabulary to help build confidence in using English practically
 Move beyond short simple sentences to more compound/complex sentences
 Understand word and sentence stress/intonation and how to use it to convey meaning
 Begin to use the English language more fluently and confidently without pausing, backtracking
 Understanding some basic differences between formal and informal language.
 Expand on discussion by asking follow up questions
 Build on skills for agreeing and disagreeing
 Re-Use new language from the course
 Interact with other students in English (not only the teacher)

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案（写し）を返却します。

■教科書

[ISBN]978-0194307574 English for Life: Beginner: Student's Book with MultiROM Pack: General English Four-skills Course for Adults
 Tom Hutchinson
 Oxford University Press
 2011

■参考文献

Notebook — students are expected to use an A4 size notebook to take notes in every class.
 Notes will include topic points, pronunciation and vocabulary listings.
 These will be used by students for review and assessment.
 Please note:
 No notebook or no notetaking will result in a less than satisfactory score which will affect student grades.
 In class handouts
 Online links (to be provided accordingly)

■関連科目

オーラルスキル 2

■成績評価方法および基準

In Class work / Homework / Presentation Based Assessment Tasks 60%
 Participation and Attitude 30%
 Attendance 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館、2階)
 grammati@waka.kindai.ac.jp

■ オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■ 授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Introductory Lesson

- 予習内容 : Attend Class
- 復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)
- 復習時間 : 20分

Introductory lesson where the rules and and expectations of students are explained.

- ★ Absence due to illness will require a medical certificate and supplementary work.
- ★ Participation is an important aspect of the course and is monitored throughout the course.
- ★ A model student is expected to participate, initiate and engage with others on the lesson topic, questions for discussion, present their summaries in small groups and assist others to understand and expand on their ideas on the topic.
- ★ A model student does not give one word answers but will expand with full sentences and follow up questions, to maintain discussion in the language of instruction.
- ★ A model student will ask the teacher when they do not understand instructions, vocabulary or the lesson topic. Where the teacher is unavailable or helping other students, a model student will not sit in silence and wait for the teacher but will ask a fellow student, check their electronic dictionary, or continue with work they can do. The model student will be active in their learning and treat this course as seminar style in order facilitate their academic skill development.
- ☆ ATTITUDE
- ★ A model student is on time for class before the teacher is there and has their textbook, notebook, pens, pencils, classroom English sheet, namecard and electronic dictionary ready to start the lesson. Failure to have any of these materials will result in a less than satisfactory score for this component.
- ★ A model student will NOT talk when the teacher is giving instructions to the class
- ★ A model student will NOT talk when others are presenting to the class
- ★ A model student will NOT use their mobile phone to play games, or use social networking services to contact others during class time
- ★ A student with a good attitude, engages a topic with an open mind, does NOT complain about the lesson topic, will attempt to engage the teacher using communication tools taught in class, will make every effort possible to engage in the language of instruction i.e ENGLISH, will help motivate others by asking questions.
- ★ No food is permitted during class time. Drinks are okay as long as they do not leave sticky liquids on study tables.
- ★ Student's attitudes are monitored throughout the course and given a final score for the academic year.
- ★ Students repeatedly not cooperating or abusing the above classroom rules will be asked to leave the classroom for the day and marked as absent in order not to disrupt other learners. This is not negotiable and is made as an informal agreement with students in the first class of semester.
- 10% Attendance
- ★ Coming to class after the teacher has started roll call constitutes a late attendance
- ★ Two late attendances make up one absence
- ★ You are allowed 4 absences only (absence due to illness will require a medical certificate)
- ★ Failure to attend a minimum of 11 classes and ALL assessment tasks will result in an unsatisfactory score and affect other aspects of assessment.

第2回 The alphabet and spelling names

- 予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)
- 予習時間 : 20分
- 復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)
- 復習時間 : 20分

Chapter 4 - This is my friend Lucy!

Chapter 1 - Introducing yourself

Chapter 2 - Grammar - articles

第3回 Saying hello and goodbye

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 8 - English in the real world

Chapter 5 - Possessive's

Chapter 6 - Introducing other people

第4回 Saying Sorry

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 12 - Man with a van

Chapter 9 -

Chapter 10 -

第5回 Shop opening times

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 16 - Telling the time

Chapter 13 - Numbers

Chapter 14 - yes/no -wh questions

第6回 Invitations

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 20 - An important meeting

Chapter 17 - things people carry

Chapter 18 - prepositions

第7回 Offering a drink

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 24 - Using just

Chapter 21 - food and drink

Chapter 22 - present simple / positives negatives

第8回 Oral Presentations 1

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 60分

Oral Presentations by individual students

第9回 Offering a lift

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 28 - Wheres the driver

Chapter 25 - free time activities

Chapter 26 - computers

第10回 Days, times, and days of the week

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 32 - time prepositions

Chapter 29 - pronunciation practise

Chapter 30 - simple present -wh questions

第11回 Dealing with problems

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 36 - Lucys in trouble

Chapter 33 - Daily Activities

Chapter 34 - simple present -es endings

第12回 Showing interest

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 40 - getting to know someone

Chapter 37 - talking about jobs

Chapter 38 - question form practise

第13回 To be assessed

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

To be assessed

第14回 Review

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Review

第15回 Oral Presentations 2

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 60分

復習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

Oral Presentations by individual students

Oral Presentations x2

There are two Oral Presentations per semester.

One half way through

and the second in the last class (class 15)

科目名： オーラルスキル（英語） 1 〈再履修〉			
英文名： Oral Skills (English) 1			
担当者： デビット トーマス バンハム			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、オールイングリッシュの授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が多くない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。

■学習・教育目標および到達目標

「オーラルスキル2」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

"Students can offer their comments through the university class survey offered during the year. Also students can always speak to me directly about any suggestions they may have about the class."

■教科書

no text required

■参考文献

All students will need an English dictionary.

■関連科目

オーラルスキル2

■成績評価方法および基準

小テスト 25%

口頭発表 50%

宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・dtvanham@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Class Introduction

Review of Class Requirements and Workbook

第2回 About You and Me

Personal Information and Introductions

第3回 Friends are Forever

Personal Relationships and Activities

第4回 People Close to Me

Family and Family Relationships

第5回 My Childhood

Discussion of Childhood Activities

第6回 Socializing

Going out with others and personal relationships

第7回 First Presentation

Writing and presenting a topic related to earlier classwork

第8回 My Hobbies

Discussion about free time and personal activities

第9回 Food preferences

Discussion of eating and cooking

第10回 Group Presentation Preparation

Preparation of a demonstration as a group

第11回 Group Presentation

Group presentation of a specific topic

第12回 Sports and Daily Life

Discussion of sports preferences

第13回 Shopping

Discussion of shopping preferences

第14回 Travel

Discussion of future plans and travel options

第15回 Final Class Evaluation

Review of Class Material and Final Reports

科目名： オーラルスキル（英語） 1 〈再履修〉			
英文名： Oral Skills (English) 1			
担当者： パトリック ポーレン			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、オールイングリッシュの授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が多くない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。

■学習・教育目標および到達目標

「オーラルスキル2」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案(写し)を返却します。

■教科書

"Fifty-fifty: A speaking and listening course, Book 1, Third Edition" (Warren Wilson and Roger Barnard, Pearson ELT: 2007) [ISBN] 9789620056642

■参考文献

Nothing

■関連科目

オーラルスキル2

■成績評価方法および基準

小テスト 30%

コース活動 40%

宿題／レポート 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)/prpolen@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Class Orientation

Teacher to student introduction, explanation of the course and student responsibilities. Vocabulary for clarification.

第2回 Introductions and greetings

Introducing oneself and a partner both formally and informally

第3回 Abilities and Jobs

Asking and answering questions about abilities; discussing types of jobs, job qualifications and skills

第4回 Personal information

Asking for and giving personal information, discussing appropriate vs. inappropriate topics

第5回 Times and Dates

Asking and answering questions about times and dates

第6回 Routines and Schedules

Understanding personal schedules. Making appointments.. Comparing routine.

第7回 Review of weeks 1-6

A review of the topics covered in the first six weeks of the course

第8回 Location and movement

Talking about furniture and household furnishings. Identifying locations in a room, discussing the movement of objects

第9回 Directions

Asking for, giving, and understanding map directions, giving directions to a taxi driver, describing stores and their services.

第10回 Travel

Asking and answering questions about travel experiences, discussing foreign languages and cultures, making travel plans, checking into a hotel

第11回 Movies and Television

Talking about movies and television, describing a movie, narrating a basic story

第12回 Processes

Talking about food and cooking, making a meal from a recipe, asking a friend for advice. Guessing processes from hints. Giving and confirming instructions.

第13回 Opinions

Asking for opinions on both domestic and world issues, agreeing and disagreeing with someone politely

第14回 Review of Weeks 7-13

A review of the topics covered in weeks 7-13 of the course

第15回 Final Review and Summer Plans

A final review of all topics, discussion of summer holiday plans

科目名： オーラルスキル（英語） 2			
英文名： Oral Skills (English) 2			
担当者： ファミユラロ ラルフ マイケル			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

Students will be required to participate in pairs, small groups and individual activities. These activities will include speaking, listening and writing skills.

■学習・教育目標および到達目標

to become familiar with the vocabulary and necessary expressions of English communication.

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案(写し)を返却します。

■教科書

Clip Art English
Edward A. Karagianis
Eddie-Bones Publishing
2013
ISBN: 978-4-9907064-1-8

■参考文献

An English- Japanese, Japanese-English dictionary is necessary.

■関連科目

Oral Skills 1, 3, 4

■成績評価方法および基準

Oral presentations 40%
In-class activities 40%
Note-related quizzes 20%

■授業評価アンケート実施方法

In-class questionnaire

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・bunbogul@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

Monday: 10:40 ~ 4:10
Friday: 9:00 ~ 4:10

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Summer Activities

予習内容 : Pronunciation of the final, "ed" verb patterns
予習時間 : 45分
復習内容 : Discussing past activities with correct question-formation.
復習時間 : 45分

Using the past-tense to discuss summer break activities.

第2回 More uses of the past tense

予習内容 : "Used to": activities that were done before but not now
予習時間 : 45分
復習内容 : "Where were you?" / "What were you doing?"
復習時間 : 45分

Explaining past regular actions.

Use of some, any and no

第3回 Simple past be verb review

- 予習内容 : "When I was younger" questions and answers
予習時間 : 45分
復習内容 : Comparing the past and the present. How things have changed.
復習時間 : 45分

Discussing location, action and past situations.

第4回 First time in a long time.

- 予習内容 : Renewing activities
予習時間 : 45分
復習内容 : Weather information and weather gap-task practice.
復習時間 : 45分

Explaining activities done after a long hiatus.

第5回 Have you ever?

- 予習内容 : Talking about experiences.
予習時間 : 45分
復習内容 : Giving reasons and excuses for certain actions.
復習時間 : 45分

Discussing past experiences and rare experiences, including the grammatically correct patterns to ask and answer related questions.

第6回 Modal Verbs

- 予習内容 : Rules for school, home and society
予習時間 : 45分
復習内容 : Past-tense modals for habits and expectations
復習時間 : 45分

Using modal verbs to explain rules, obligation and permission.

第7回 Causative I

- 予習内容 : Asking for permission as a visitor.
予習時間 : 45分
復習内容 : Giving reasons for refusal.
復習時間 : 45分

Asking and giving / refusing permission by using, "Let."

第8回 Review 1

- 予習内容 : Presentation on 1st-half topics
予習時間 : 45分
復習内容 : Note-related activity
復習時間 : 45分

Review of Lessons 1 ~ 7

第9回 Causative II

- 予習内容 : Required actions and activities in everyday life
予習時間 : 45分
復習内容 : Information exchange with numbers
復習時間 : 45分

Using, "Make" to ensure that actions are satisfactorily done.

第10回 Causative III

- 予習内容 : Receiving assistance in work and home situations.
予習時間 : 45分
復習内容 : Introduction to the superlative: Which is the best?
復習時間 : 45分

Receiving favors or services rendered with the use of, "Have."

第11回 Sense Verbs and their usage

予習内容 : Sounds, Tastes, Looks, Smells, Feels like
予習時間 : 45分
復習内容 : Sentence-writing with sense verbs
復習時間 : 45分

Using verbs related to the 5 senses to explain certain conditions.

第12回 Limits and extremes

予習内容 : Why can / can't things be accomplished?
予習時間 : 45分
復習内容 : Limits of ability or condition; use of negative forms
復習時間 : 45分

Using too + adjective / not + adjective + enough

第13回 Long-term activities

予習内容 : "How long have you been _____ ing?" questions
予習時間 : 45分
復習内容 : Introduction to both, only one and neither
復習時間 : 45分

Using the progressive present participle to understand time lengths of actions.

第14回 Similarities and differences

予習内容 : Adverbs of degree
予習時間 : 45分
復習内容 : Mixed tense practice comparisons
復習時間 : 45分

Comparing things and people for similar and different traits.

第15回 Review 2

予習内容 : Presentation of 2nd-half topics
予習時間 : 45分
復習内容 : Note-related activity
復習時間 : 45分

Review of Lessons 9 ~ 14

Ongoing assessment includes midterm and final tests.

科目名： オーラルスキル（英語） 2			
英文名： Oral Skills (English) 2			
担当者： エドワード アフ カラギアニス			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、オールイングリッシュの授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が多くない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。

■学習・教育目標および到達目標

「オーラルスキル1」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

小テストは次の授業に返却します

■教科書

Clip Art English - A "Straightforward Approach, Second Edition", (Edward A. Karagianis: Eddie-Bones Publishing: 2013), [ISBN] 978-4-9907064-0-1.

■参考文献

最初の授業で指示します。

■関連科目

オーラルスキル1

■成績評価方法および基準

宿題、小テスト 60%

定期試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・ekaragi@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 A Tasteless Patrol, Sensory Verbs, Sensory Verbs - matching

未来形、感覚動詞

第2回 Sensory Verbs & Tag Questions, 4つ揃え card game, Something, anything, nothing, etc.,

感覚動詞、Something, anything, nothing; someone, anyone, no one; など

第3回 How was your weekend? It was the first time

過去形

第4回 Did you get . . . ? Did you . . . when you were . . . ? 1/2, Face Game (print)

過去形

第5回 Did you . . . when you were . . . ? 2/2, Make a Mistake & questions, Tank Game

過去形

第6回 How did it go? Motion Sickness, Used to

過去形、一位、二位など、車酔い 船酔いなど

第7回 Used to, Let & Make, Let & Make - matching

かつて、させてあげる - させる 強制

第8回 Let & Make - questionnaire, I Can't go, Did you have to

させる、しなければならない

第9回 What do they have to do to fulfill, You aren't allowed to etc, Because & So

しなければならない、してまいかない、しても良い

第10回 At the Beach, Relative Pronouna that/where, FUNCTION: Describe a process

関係代名詞、過程の説明

第11回 Tank Game, too - to/not - enough, Exercises - too - to/not - enough

関係代名詞

第12回 The Weather Forecast, Dreary Weather, Time For a Change

天気、過去分詞、現在分詞

第13回 Participial Adjectives, News live from Chui Chu, Change to the Passives

過去分詞、現在分詞、受動態

第14回 A Few Passives, Have you ever played/been、Work & Interests,

受動態、現在完了形

第15回 How long have you been, How long have you been ~ ing? Doctor's Office

現在完了形, 現在完了進行形、病気

定期試験

科目名： オーラルスキル（英語） 2			
英文名： Oral Skills (English) 2			
担当者： ジョン ドウデジアン			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

A communicative language teaching approach will be used in this class. Students will be encouraged to actively participate in class. Pair work and small group activities will be featured to increase opportunities for communication.

■学習・教育目標および到達目標

This course aims to develop basic English proficiency through which students can communicate in English. Students will learn fundamental English language and conversation skills necessary for various situations in daily life.

Students are expected to:

- > cooperate
- > concentrate
- > make a strong effort
- > be on time
- > bring all necessary classroom materials including a Japanese-English Dictionary
- > bring and maintain a notebook
- > record and look up any unknown vocabulary items
- > return all homework assignments on time
- > be responsible for completing all coursework in the event they are absent

By the end of the course, students will have:

- > acquired basic expressions and related vocabulary useful for daily life
- > acquired basic grammar necessary for daily conversation
- > acquired basic listening and speaking skills necessary for daily communication
- > learned how to facilitate the natural flow of conversation

■試験・課題に対するフィードバック方法

For security purposes, tests and quizzes are generally not returned to students. However, results are available by private consultation before, during and after class.

■教科書

Talk a Lot Book One Second Edition
David Martin
EFL Press

■参考文献

No specific references

■関連科目

Oral Skills (English) 3

■成績評価方法および基準

Coursework 25%
Tests/Quizzes 50%
Participation 25%

■授業評価アンケート実施方法

The university course survey is the main method for students to evaluate the course and written comments are highly valued. Students are also encouraged to express their opinions about course content and methodology.

■研究室・E-mailアドレス

Classroom before and after class john4649@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

By appointment

■授業計画の項目・内容及び到達目標

1. Summer vacation

Discussing summer vacation experiences/Interviewing classmates about past activities

2. Describing the recent past
Interviewing classmates/Reporting information
3. Body and health
Describing body parts, body types and physical appearance/Identifying people from a set of alternatives
4. Describing clothing/fashion
Describing clothing items, patterns and materials/Talking about fashion preferences
5. Describing people
Differentiating between people by communicating appearance/Adjective ordering/Making comparisons/Comparing two items and discussing differences/Using positive and negative forms to describe items
6. Describing locations
Saying a location from a map/Describing and sequencing /Confirming each step in a process
7. Directions in a city or town (maps)
Asking for and giving directions from a map/Using clarification and confirmation requests
8. Directions for trains and subways (maps and schedules)
Asking for and giving directions for mass transit/Clarifying and confirming time and place information
9. Making plans
Setting up personal and professional appointments/Turning down a request/ Making arrangements for meetings
10. Expressing future intent
Discussing future plans and hopes/Using relative time expressions/Expressing probability/Predicting future events
11. Talking about past experiences
Discussing life events and every day experiences/Using relative time expressions/Sequencing a series of events
12. Holidays
Identifying Japanese holidays, their origins and English names/Discussing and comparing Japanese and Western holidays
13. Semester review
Review of major topics and points of emphasis from weeks 1-12
14. Written examination
Notebook review/Final review on areas of weakness
15. Speaking tasks/Notebook check
Pair and group speaking tasks/Notebook check/Preview of Oral Skills 3
予習内容 : Review previous lesson. Get any missed assignments and notes if you were absent. Check to be sure you bring all your materials to class.
予習時間 : 30分
復習内容 : Do any homework assignments. Help any classmates who were absent.
復習時間 : 30分

科目名： オーラルスキル（英語） 2			
英文名： Oral Skills (English) 2			
担当者： パトリック ポーレン			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、オールイングリッシュの授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が多くない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。

■学習・教育目標および到達目標

「オーラルスキル2」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案(写し)を返却します。

■教科書

“Fifty-fifty: A speaking and listening course, Book 1, Third Edition” (Warren Wilson and Roger Barnard, Pearson ELT: 2007) [ISBN] 9789620056642

■参考文献

Nothing

■関連科目

オーラルスキル2

■成績評価方法および基準

小テスト 30%

コース活動 40%

宿題／レポート 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)/prpolen@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Introduction to class, Talking about Summer Vacation

Explanation of course responsibilities. Review of clarification language. Discussing what one did during the summer vacation.

第2回 Describing People

Identifying people based on physical features

第3回 Family

Asking for and giving information about one's family

第4回 Like and Dislikes

Discussing and comparing with others one's preferences. Talking about favorite things

第5回 The Future

Asking about and giving information about one's future plans and activities.

第6回 The Past

Discussing past activities and talking about weekends

第7回 Review of weeks 1-6

A review of the topics covered in the first six weeks of the course

第8回 At a Restaurant

Ordering a meal at a restaurant, comparing and describing western and Japanese food

第9回 Japanese Culture and Places

Talking about culture and places in Japan

第10回 Love & Marriage

Talking about love and marriage, describing people, inviting someone for a date

第11回 Health and Lifestyle

Talking about health and lifestyle, giving advice

第12回 Music and Books

Asking and answering questions about music and books, talking about one's favorite musicians and authors

第13回 The Environment

Talking about the environment and world problems, agreeing and disagreeing

第14回 Review of Weeks 7-13

A review of the topics covered in weeks 7-13 of the course

第15回 Final Review and Winter Vacation Plans

Final Class Review, Discussing plans for the winter vacation

科目名：オーラルスキル（英語） 2			
英文名：Oral Skills (English) 2			
担当者：グラマテイス チンゾグル			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

Semester 2 is a continuation of topics and language structures studied in semester 1. This is a seminar style course which aims to help students gain confidence in using English language structures, in a variety of situations on a variety of topics. It is based on the communicative approach to teaching, which means students are expected to participate using language structures they have already learned and newly acquired structures in each class and throughout the course. The text offers stimulating topics and springboards for discussion which students can engage with. Lessons generally have introductory, warm up, pair work, groupwork discussions, group and class presentations. There are activities which have build use of new language components and also activities to help students re-use previously learned language structures. Students are required to engage with others and the teacher when the don't understand a word, question or idea in class (mobile phones are unacceptable as reference items). Using such methods, it is hoped students will learn to use language structures to understand, engage with and solve problems on topics and situations,

■学習・教育目標および到達目標

Learn new English language structures, phrases, expressions
 Build vocabulary to help build confidence in using English practically
 Move beyond short simple sentences to more compound/complex sentences
 Understand word and sentence stress/intonation and how to use it to convey meaning
 Begin to use the English language more fluently and confidently without pausing, backtracking
 Understanding some basic differences between formal and informal language.
 Expand on discussion by asking follow up questions
 Build on skills for agreeing and disagreeing
 Re-Use new language from the course
 Interact with other students in English (not only the teacher)

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案（写し）を返却します。

■教科書

[ISBN]978-0194307574 English for Life: Beginner: Student's Book with MultiROM Pack: General English Four-skills Course for Adults
 Tom Hutchinson
 Oxford University Press
 2011

■参考文献

Notebook — students are expected to use an A4 size notebook to take notes in every class. Notes will include topic points, pronunciation and vocabulary listings. These will be used by students for review and assessment. Please note:
 No notebook or no notetaking will results in a less than satisfactory score which will affect student grades.
 In class handouts
 Online links (to be provided accordingly)

■関連科目

オーラルスキル 1

■成績評価方法および基準

In Class work / Homework /Presentation Based Assessment Tasks 60%
 Participation and Attitude 30%
 Attendance 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館、2階)
 grammati@waka.kindai.ac.jp

■ オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■ 授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Overview and Progress feedback

Expectations Review

予習内容 : Attend Class

復習内容 : Lesson Review (to be done outside of class / for homework)

復習時間 : 20分

Students will receive individual feedback and guidance. They will have time to ask questions to the instructor and reflect on their learning.

Activities

Expectations Review from Semester 1, 2017

第2回 Finding a seat

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 44 - A new neighbour!

Chapter 41 - adjectives and colours

Chapter 42 - Grammar - have/has got

第3回 Asking for things

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 48 - Have you got a...?

Chapter 45 - parts of the body

Chapter 46 - Grammar - articles, questions and short forms

第4回 Invitations 2

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 52 - Wanna see a movie?

Chapter 49 - activities + -ing

Chapter 50 - Grammar - can / cant / pronunciation points

第5回 Asking where places are.

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分

Chapter 56 - ordinal numbers, what floor is it on?

Chapter 53 - parts of a house

Chapter 54 - Grammar - there is / there are

第6回 Saying goodbye!

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

予習時間 : 20分

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)

復習時間 : 20分
Chapter 60 - Story - I wont be long
Chapter 57 - clothes, plurals
Chapter 58 - Grammar - present continuous -ing

第7回 Talking about plans.

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)
予習時間 : 20分
復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)
復習時間 : 20分
Chapter 64 - future expressions, transport signs
Chapter 61 - modes of transport, pronunciation
Chapter 62 - present continuous question forms

第8回 Oral Presentations 1

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)
予習時間 : 60分
復習内容 : None
Oral Presentations by individual students

第9回 Expressing emotion.

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)
予習時間 : 20分
復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)
復習時間 : 20分
Chapter 68 - Where were you.
Chapter 65 - prepositions and places
Chapter 66 - Grammar - simple past, past time expressions

第10回 Talking about dates

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)
予習時間 : 20分
復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)
復習時間 : 20分
Chapter 72 - Months of the year.
Chapter 69 - emergency services
Chapter 70 - simple past / regular verbs -ed

第11回 Right and wrong?

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)
予習時間 : 20分
復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)
復習時間 : 20分
Chapter 76 - "You're wonderful"
Chapter 73 - irregular past forms
Chapter 74 - Grammar - negative statements regular and irregular forms

第12回 Building a conversation

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)
予習時間 : 20分
復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)
復習時間 : 20分
Chapter 80 - Talking about the weekend
Chapter 77 - weekend activities
Chapter 78 - Grammar - regular and irregular question forms

第13回 To be assessed

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)

復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)
To be assessed

第14回 Review

予習内容 : Lesson Review
復習内容 : Lesson Review (to be done out of class / homework)
復習時間 : 60分
Review of semester and academic year topics

第15回 Oral Presentations 2

予習内容 : Lesson Preview (to be done out of class / homework)
予習時間 : 60分
復習内容 : None
Oral Presentations by individual students

科目名： オーラルスキル（英語） 2 〈再履修〉			
英文名： Oral Skills (English) 2			
担当者： デビット トーマス バンハム			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、オールイングリッシュの授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が多くない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。

■学習・教育目標および到達目標

「オーラルスキル1」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

"Students can offer their comments through the university class survey offered during the year. Also students can always speak to me directly about any suggestions they may have about the class."

■教科書

No text required

■参考文献

All students will need an English dictionary.

■関連科目

オーラルスキル1

■成績評価方法および基準

小テスト 25%

口頭発表 50%

宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・dtvanham@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 After Summer Vacation

Talking about past events

第2回 Working

Discussion of work and future work plans

第3回 Music

Discussion of music preferences and styles

第4回 Opinion

Expressing opinions on various subjects

第5回 Holidays

Discussion of various holidays and cultural aspects

第6回 School and Classes

Discussion of Educational Experiences

第7回 Superstitions

Discussion of various folk beliefs and stories

第8回 Hometown

Discussion of students hometowns and environment

第9回 Second Presentation

Student presentations on earlier topics

第10回 Future Plans

Consideration of students future plans

第11回 Discussion of personal finance

Character and Personality

第12回 Exploring personal character

Exploring personal character

第13回 Entertainment

Discussion of Leisure Activities

第14回 Final Evaluation

Review of topics discussion

第15回 Final Reports and Presentations

Review of students work and remaining presentations

科目名： オーラルスキル（英語） 2 〈再履修〉			
英文名： Oral Skills (English) 2			
担当者： パトリック ポーレン			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

高校卒業までに身に付けた英語力を基盤として、オールイングリッシュの授業を受講することで、聞く・話すという英語のオーラルスキルの習得を目指した授業を行う。大学入学時までに、英語での発話・聴解場面の経験が多くない学生に対しても無理のない授業となるように、分かり易い身近な素材を使った授業を行う。

■学習・教育目標および到達目標

「オーラルスキル2」と合わせて、以下の目標に到達できるようにする。会話場面において、基本的な語彙を使用した文レベルの発話が聞き取れるようになる。自分の意思を、文法的なミスはあっても伝えることができるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案(写し)を返却します。

■教科書

“Fifty-fifty: A speaking and listening course, Book 1, Third Edition” (Warren Wilson and Roger Barnard, Pearson ELT: 2007) [ISBN] 9789620056642

■参考文献

Nothing

■関連科目

オーラルスキル2

■成績評価方法および基準

小テスト 30%

コース活動 40%

宿題／レポート 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)/prpolen@kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Introduction to class, Talking about Summer Vacation

Explanation of course responsibilities. Review of clarification language. Discussing what one did during the summer vacation.

第2回 Describing People

Identifying people based on physical features

第3回 Family

Asking for and giving information about one's family

第4回 Like and Dislikes

Discussing and comparing with others one's preferences. Talking about favorite things

第5回 The Future

Asking about and giving information about one's future plans and activities.

第6回 The Past

Discussing past activities and talking about weekends

第7回 Review of weeks 1-6

A review of the topics covered in the first six weeks of the course

第8回 At a Restaurant

Ordering a meal at a restaurant, comparing and describing western and Japanese food

第9回 Japanese Culture and Places

Talking about culture and places in Japan

第10回 Love & Marriage

Talking about love and marriage, describing people, inviting someone for a date

第11回 Health and Lifestyle

Talking about health and lifestyle, giving advice

第12回 Music and Books

Asking and answering questions about music and books, talking about one's favorite musicians and authors

第13回 The Environment

Talking about the environment and world problems, agreeing and disagreeing

第14回 Review of Weeks 7-13

A review of the topics covered in weeks 7-13 of the course

第15回 Final Review and Winter Vacation Plans

Final Class Review, Discussing plans for the winter vacation

科目名： オーラルスキル（英語） 3			
英文名： Oral Skills (English) 3			
担当者： ジョン ドウデジアン			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

A communicative language teaching approach will be used in this class. Students will be encouraged to actively participate in class. Pair work and small group activities will be featured to increase opportunities for communication.

■学習・教育目標および到達目標

This course aims to develop English communication skills for learners studying science and technology. It will cover the fundamental language and skills necessary to communicate basic information in scientific and technological settings.

Students are expected to:

- > cooperate
- > concentrate
- > make a strong effort
- > be on time
- > bring all necessary classroom materials including a Japanese-English dictionary
- > bring and maintain a notebook
- > record and look up any unknown vocabulary items
- > return all homework assignments on time
- > be responsible for completing all coursework in the event they are absent

By the end of the course, students will have:

- > acquired basic expressions and related vocabulary useful for science and technology
- > acquired basic grammar necessary for science and technology
- > acquired basic listening and speaking skills necessary for communication

■試験・課題に対するフィードバック方法

For security purposes, tests and quizzes are generally not returned to students. However, results are available by private consultation before, during and after class.

■教科書

[ISBN]9781405845458 『Technical English Level 1: Course Book』 (David Bonamy, Pearson Japan : 2013)

■参考文献

No specific references

■関連科目

Oral Skills (English) 4

■成績評価方法および基準

Coursework 45%
Tests/Quizzes 30%
Participation 25%

■授業評価アンケート実施方法

The university course survey is the main method for students to evaluate the course and written comments are highly valued. Students are also encouraged to express their opinions about course content and methodology.

■研究室・E-mailアドレス

Classroom before and after class john4649@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

By appointment

■授業計画の項目・内容及び到達目標

Week 1

Course guidelines and syllabus
Conversation review and practice

Week 2

Meeting and greeting people
Following instructions

Week 3
Exchanging information
Completing forms

Week 4
Using numerical information
Identifying parts

Week 5
Using checklists
Explaining what parts are needed for a job

Week 6
Using voicemail
Ordering by phone

Week 7
Describing tools
Describing components

Week 8
Saying what things do
Describing a product

Week 9
Describing direction
Using an instruction manual

Week 10
Giving and following instructions
Explaining results

Week 11
Explaining movement
Using a flowchart

Week 12
Explaining electrical circuits
Describing everyday routines

Week 13
Giving a demonstration
Explaining what you are doing

Week 14
Describing properties of materials
Making a phone call

Week 15
Receiving a phone call
Checking information

予習内容 : Review previous lesson. Get any missed assignments and notes if you were absent. Check to be sure you bring all your materials to class.

予習時間 : 30分

復習内容 : Do any homework assignments. Help any classmates who were absent.

復習時間 : 30分

科目名： オーラルスキル（英語） 3			
英文名： Oral Skills (English) 3			
担当者： ファミユラロ ラルフ マイケル			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

Students will be required to participate in pairs, small groups and individual activities. These activities will include speaking, listening and writing skills.

■学習・教育目標および到達目標

to become familiar with the necessary vocabulary and basic information of English-based science topics.

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案(写し)を返却します。

■教科書

Oxford Content and Language Support: Science
 Saema Kauser and Sarah O'Donoghue
 Oxford University Press
 2010
 ISBN: 978-0-19-913530-1

■参考文献

An English- Japanese, Japanese-English dictionary is necessary.

■関連科目

Oral Skills 1, 2, 4

■成績評価方法および基準

Oral presentations 40%
 In-class activities 30%
 Note and textbook-related quizzes 30%

■授業評価アンケート実施方法

In-class questionnaire

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・bunbogul@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

Monday: 10:40 ~ 4:10
 Friday: 9:00 ~ 4:10

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Course Introduction

予習内容 : Course introduction
 予習時間 : 45分
 復習内容 : Science-based fields of study
 復習時間 : 45分
 Scientific Fields

第2回 Classification of living things

予習内容 : Classification of animals
 予習時間 : 45分
 復習内容 : Classification of plants
 復習時間 : 45分
 Classifying living creatures

第3回 Human Nutrition

予習内容 : Food groups
予習時間 : 45分
復習内容 : Food habits and improving health
復習時間 : 45分

Food and health topics

第4回 Nature Study

予習内容 : Food chains and food webs
予習時間 : 45分
復習内容 : The food pyramid, nutrition
復習時間 : 45分

Ecosystems and the environment

第5回 Environmental Pollution

予習内容 : Populations
予習時間 : 45分
復習内容 : Human impact on the environment
復習時間 : 45分

The causes and solutions to environmental pollution

第6回 Energy

予習内容 : Energy efficiency and green energy
予習時間 : 45分
復習内容 : Thermal energy
復習時間 : 45分

The study of different forms of energy

第7回 Speed, Distance and Acceleration

予習内容 : Various natural speeds: The speed of light, etc.
予習時間 : 45分
復習内容 : Velocity and acceleration
復習時間 : 45分

The study of speed, velocity and acceleration

第8回 Review 1

予習内容 : Presentation topics
予習時間 : 45分
復習内容 : Note-related writing activity
復習時間 : 45分

Review of Lessons 1 ~ 7

第9回 The universe and the solar system

予習内容 : The Milky Way
予習時間 : 45分
復習内容 : Planets and stars
復習時間 : 45分

Study of planets, stars and galaxies

第10回 Star report preparation

予習内容 : Star chart information
予習時間 : 45分
復習内容 : Example report by instructor
復習時間 : 45分

Organizing activity to prepare planet / star-based reports

第11回 Project 1

予習内容 : Speaking activity on stars, planets, galaxies
予習時間 : 45分

復習内容 : Written activity on same topic

復習時間 : 45分

Students presentation

第12回 Reproduction Processes 1

予習内容 : Text-based reading

予習時間 : 45分

復習内容 : Handouts and activity on plant reproduction

復習時間 : 45分

The study of plant reproduction

第13回 Reproduction Processes 2

予習内容 : Text-based reading on animal reproduction

予習時間 : 45分

復習内容 : Handouts and activity on animal reproduction

復習時間 : 45分

The study of animal reproduction

第14回 The Nature of Matter

予習内容 : The three states of matter

予習時間 : 45分

復習内容 : Changing state and diffusion

復習時間 : 45分

The study of the bases of matter

第15回 Review 2

予習内容 : Presentation topics

予習時間 : 45分

復習内容 : Note-related writing activity

復習時間 : 45分

Review of Lessons 9 - 14

Ongoing assessment includes a midterm and final test

科目名： オーラルスキル（英語） 3			
英文名： Oral Skills (English) 3			
担当者： デビット トーマス バンハム			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

「オーラルスキル1・2」で身に付けた英語のオーラルスキルを基盤として、将来の英語使用場面（学会発表等）を見据えた形での、実際の英語発話訓練を行う。具体的には、プレゼンテーション、質疑応答等が出来るように、基本語彙・表現を身に付け、使えるようにする。

■学習・教育目標および到達目標

「オーラルスキル4」とともに、理系・学術場面（学会発表）等で使用する語彙・構文について、発話出来るレベルで習得する。プレゼンテーション・質疑応答の際に必要な、談話（段落レベルの発話）を組み立てる力を習得する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

"Students can offer their comments through the university class survey offered during the year. Also students can always speak to me directly about any suggestions they may have about the class."

■教科書

[ISBN]9781405845458 『Technical English Level 1: Course Book』 (David Bonamy, Pearson Japan : 2013)

■関連科目

オーラルスキル4

■成績評価方法および基準

Classwork 60%

Evaluations 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階） dtvanham@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

Basics "1.

[タイトル]"

Meeting People, Following Instructions "1.

[内容詳細]"

Letters and Numbers "2.

[タイトル]"

Exchanging Information "2.

[内容詳細]"

Dates and Times "3.

[タイトル]"

Using numbers, timetables, appointments "3.

[内容詳細]"

Naming "4.

[タイトル]"

Identifying things "4.

[内容詳細]"

Assembling "5.

[タイトル]"

Using checklists, instruction manuals "5.

[内容詳細]"

Ordering "6.

[タイトル]"

Introducing yourself to others "6.

[内容詳細]
Tools "7.
[タイトル]
Describing components "7.
[内容詳細]
Functions "8.
[タイトル]
Describing products "8.
[内容詳細]
Locations "9.
[タイトル]
Explaining where things are "9.
[内容詳細]
Directions "10.
[タイトル]
Describing direction of movement "10.
[内容詳細]
Instructions "11.
[タイトル]
Using an instruction manual "11.
[内容詳細]
Actions "12.
[タイトル]
Giving and following instructions "12.
[内容詳細]
Heating Systems "13.
[タイトル]
Explaining how fluid moves around a system "13.
[内容詳細]
Class review "14.
[タイトル]
A review of all material covered "14.
[内容詳細]
Final Evaluation "15.
[タイトル]
Student evaluations "15.
[内容詳細]

科目名： オーラルスキル（英語） 3			
英文名： Oral Skills (English) 3			
担当者： トレント スプリグス			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

「オーラルスキル1・2」で身に付けた英語のオーラルスキルを基盤として、将来の英語使用場面（学会発表等）を見据えた形での、実地的な英語発話訓練を行う。具体的には、プレゼンテーション、質疑応答等が出来るように、基本語彙・表現を身に付け、使えるようにする。

■学習・教育目標および到達目標

「オーラルスキル4」とともに、学術場面（学会発表）等で使用する語彙・構文について、発話出来るレベルで習得する。プレゼンテーション・質疑応答の際に必要な、談話（段落レベルの発話）を組み立てる力を習得する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

Speak directly after class.

■教科書

"Science Works 2: Interactive Resources & Planning", (Philippa Gardom-Hulme: Oxford University Press), [ISBN] 978-0-19-915250-6

■参考文献

最初の授業で指示します。

■関連科目

オーラルスキル4

■成績評価方法および基準

小テスト 25%

口頭発表 50%

宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・trentatkindai@gmail.com

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Orientation

Students will be oriented in the course and given an overview.

第2回 Making Choices(1)

The psychology of eating

第3回 Making Choices(2)

The psychology of eating

第4回 Keeping Fit(1)

The importance of fitness

第5回 Keeping Fit(2)

The importance of fitness

第6回 Reduce, Reuse, Recycle(1)

Learn about recycling

第7回 Reduce, Reuse, Recycle(2)

Learn about recycling

第8回 Mid term

Mid term

第9回 The Sound of Music(1)

How is sound produced by musical instruments

第10回 The Sound of Music(2)

How is sound produced by musical instruments

第11回 The Space Shuttle(1)

The development of the shuttle and aerospace innovation

第12回 The Space Shuttle(2)

The development of the shuttle and aerospace innovation

第13回 Thrill Rides(1)

The effects of acceleration

第14回 Thrill Rides(2)

The effects of acceleration

第15回 Final Review

Students will review the year's topics.

科目名： オーラルスキル（英語） 3 〈再履修〉			
英文名： Oral Skills (English) 3			
担当者： ジョン ドウデジアン			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

A communicative language teaching approach will be used in this class. Students will be encouraged to actively participate in class. Pair work and small group activities will be featured to increase opportunities for communication.

■学習・教育目標および到達目標

This course aims to develop basic English proficiency through which students can communicate in English. Students will learn fundamental English language and conversation skills necessary for various situations in daily life.

Students are expected to:

- > cooperate
- > concentrate
- > make a strong effort
- > be on time
- > bring all necessary classroom materials including a Japanese-English Dictionary
- > bring and maintain a notebook
- > record and look up any unknown vocabulary items
- > return all homework assignments on time
- > be responsible for completing all coursework in the event they are absent

By the end of the course, students will have:

- > acquired basic expressions and related vocabulary useful for daily life
- > acquired basic grammar necessary for daily conversation
- > acquired basic listening and speaking skills necessary for daily communication
- > learned how to facilitate the natural flow of conversation

■試験・課題に対するフィードバック方法

For security purposes, tests and quizzes are generally not returned to students. However, results are available by private consultation before, during and after class.

■教科書

[ISBN]9789620189517 『LETS TALK ABOUT IT (2E)』 (Pearson Japan)

■参考文献

No specific references

■関連科目

Oral Skills (English) 4

■成績評価方法および基準

Coursework 40%
 Tests/Quizzes 35%
 Participation 25%

■授業評価アンケート実施方法

The university course survey is the main method for students to evaluate the course and written comments are highly valued. Students are also encouraged to express their opinions about course content and methodology.

■研究室・E-mailアドレス

Classroom before and after class john4649@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

By appointment

■授業計画の項目・内容及び到達目標

1. Course rules and objectives introductory activities
 Explanation of rules and objectives/Diagnostic listening and speaking tasks

2. Levels of formality

Identifying the differences between formal, neutral and casual discourse

3. Personal relationships

Formulating yes/no and WH topic opening questions/Discussing personal information

4. Personal relationships

Expanding answers to questions by adding relevant information/Creating additional topic opening questions/Discussing personal information

5. Likes and dislikes

Clarifying and confirming information/Making topic opening questions/Discussing likes and dislikes

6. Likes and dislikes

Interviewing classmates to find out about preferences/Expanding discussions by using follow-up questions/Forming additional topic opening questions/ Discussing likes and dislikes

7. Friends and family

Practicing follow-up questions/Using family vocabulary/Generating topic opening questions/Discussing friends and family

8. Friends and family

Using follow-up questions/Designing additional topic opening questions/ Discussing friends and family

9. School life

Using mind maps to prepare for a discussion/Using discourse markers to pass the speaking turn or change the topic/ Producing topic opening questions/Discussing school life

10. School life

Matching answers to questions and writing expanded answers/Practicing changing the topic and passing the conversation/ Composing additional topic opening questions/Discussing school life

11. Holidays

Reviewing Japanese holidays and their origins. Generating topic opening questions. Discussing holidays in Japan.

12. Holidays

Comparing and contrasting Japanese and western holidays. Designing additional topic opening questions. Discussing holidays in Japan.

13. Semester review

Review of relevant topics covered during weeks 1-12 with a focus on discussion techniques

14. Written examination

Notebook review/Final review on areas of weakness

15. Speaking tasks. Pair and group speaking tasks.

Evaluation of students' ability to apply concepts taught throughout the semester

予習内容 : Review previous lesson. Get any missed assignments and notes if you were absent. Check to be sure you bring all your materials to class.

予習時間 : 30分

復習内容 : Do any homework assignments. Help any classmates who were absent.

復習時間 : 30分

科目名： オーラルスキル（英語） 4			
英文名： Oral Skills (English) 4			
担当者： ジョン ドウデジアン			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

A communicative language teaching approach will be used in this class. Students will be encouraged to actively participate in class. Pair work and small group activities will be featured to increase opportunities for communication.

■学習・教育目標および到達目標

This course aims to develop English communication skills for learners studying science and technology. It will cover the fundamental language and skills necessary to communicate basic information in scientific and technological settings.

Students are expected to:

- > cooperate
- > concentrate
- > make a strong effort
- > be on time
- > bring all necessary classroom materials including a Japanese-English dictionary
- > bring and maintain a notebook
- > record and look up any unknown vocabulary items
- > return all homework assignments on time
- > be responsible for completing all coursework in the event they are absent

By the end of the course, students will have:

- > acquired basic expressions and related vocabulary useful for science and technology
- > acquired basic grammar necessary for science and technology
- > acquired basic listening and speaking skills necessary for communication

■試験・課題に対するフィードバック方法

For security purposes, tests and quizzes are generally not returned to students. However, results are available by private consultation before, during and after class.

■教科書

[ISBN]9781405845458 『Technical English Level 1: Course Book』 (David Bonamy, Pearson Japan : 2013)

■参考文献

No specific references

■成績評価方法および基準

Coursework 45%
Participation 25%
Tests/Quizzes 30%

■授業評価アンケート実施方法

The university course survey is the main method for students to evaluate the course and written comments are highly valued. Students are also encouraged to express their opinions about course content and methodology.

■研究室・E-mailアドレス

Classroom before and after class john4649@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

By appointment

■授業計画の項目・内容及び到達目標

Week 1
Review
Using a specifications chart

Week 2
Buying materials
Using a materials checklist

Week 3
Describing future plans
Using charts

Week 4
Checking on progress
Reporting damage

Week 5
Discussing past events
Explaining how things work

Week 6
Explaining what things do
Listening to automated messages

Week 7
Problems and solutions
Using a troubleshooting guide

Week 8
Giving and following warnings
Using safety signs

Week 9
Reporting an accident
Invitations

Week 10
Expressing permission
Expressing prevention

Week 11
Switches and relays
Explaining how a relay works

Week 12
Explaining how a turbine works
Making suggestions

Week 13
Expressing approximation
Checking data

Week 14
Following spoken instructions
Confirming actions

Week 15
Describing maintenance
Checking progress with charts

予習内容 : Review previous lesson. Get any missed assignments and notes if you were absent. Check to be sure you bring all your materials to class.

予習時間 : 30分

復習内容 : Do any homework assignments. Help any classmates who were absent.

復習時間 : 30分

科目名： オーラルスキル（英語） 4			
英文名： Oral Skills (English) 4			
担当者： ファミユラロ ラルフ マイケル			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

Students will be required to participate in pairs, small groups and individual activities. These activities will include speaking, listening and writing skills.

■学習・教育目標および到達目標

to become familiar with the necessary vocabulary and basic information of English-based science topics.

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案(写し)を返却します。

■教科書

Oxford Content and Language Support: Science
 Saema Kauser and Sarah O'Donoghue
 Oxford University Press
 2010
 ISBN: 978-0-19-913530-1

■参考文献

An English- Japanese, Japanese-English dictionary is necessary.

■関連科目

Oral Skills 1, 2, 3

■成績評価方法および基準

Oral Presentations 40%
 In-class Activities 30%
 Note mad textbook-related quizzes 30%

■授業評価アンケート実施方法

In-class questionnaire

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・bunbogul@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

Monday: 10:40 ~ 4:10
 Friday: 9:00 ~ 4:10

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Course Introduction

Forces, Part 1

予習内容 : Balanced and unbalanced forces
 予習時間 : 45分
 復習内容 : Gravity and pressure
 復習時間 : 45分

Introduction to the course for students joining in the Fall term.
 The study of natural forces

第2回 Forces Part 2

予習内容 : Friction and air resistance
 予習時間 : 45分
 復習内容 : Hooke's Law and equilibrium

復習時間 : 45分

The study of more natural forces

第3回 Famous Scientists

予習内容 : Jane Goodall and chimpanzee research

予習時間 : 45分

復習内容 : Example presentation by instructor

復習時間 : 45分

Introductory material of scientific figures of historical note

第4回 Famous Scientists Presentation

予習内容 : Group presentation speaking activity

予習時間 : 45分

復習内容 : Individual presentations and writing activity

復習時間 : 45分

Students will present information about scientists they have researched.

第5回 The Characteristics of Waves, part 1

予習内容 : Reflection of waves

予習時間 : 45分

復習内容 : Refraction of waves

復習時間 : 45分

The study of various forms of energy waves

第6回 The characteristics of waves, part 2

予習内容 : Total internal reflection

予習時間 : 45分

復習内容 : Diffraction

復習時間 : 45分

The continued study of energy waves

第7回 Experimental Techniques

予習内容 : Laboratory equipment

予習時間 : 45分

復習内容 : What is it used for? (Handout)

復習時間 : 45分

A review of laboratory-related equipment and methods

第8回 Review 1

予習内容 : Speaking-related activity on 1st-half topics

予習時間 : 45分

復習内容 : Writing-based activity on 1st-half topics

復習時間 : 45分

Review of lessons 1 ~ 7

第9回 The Periodic Table, part 1

予習内容 : Group 1 - the alkali metals

予習時間 : 45分

復習内容 : The transition metals

復習時間 : 45分

The study of the periodic table of elements

第10回 The Periodic Table, Part 2

予習内容 : Group VII -- the Halogens

予習時間 : 45分

復習内容 : Group 0 -- the Noble gases

復習時間 : 45分

The continued study of the periodic table of elements

第11回 Herbology

予習内容 : Uses of the Dandelion
予習時間 : 45分
復習内容 : The history and uses of Thyme
復習時間 : 45分

Introduction to the basic concepts of herbal medicine as preventative medicine

第12回 Herb Reports: Presentations

予習内容 : Small-group speaking presentations
予習時間 : 45分
復習内容 : Individual reports and written-based activity
復習時間 : 45分

Student presentations based on individual herb research

第13回 Sound and Ultrasound, Part 1

予習内容 : The speed of sound
予習時間 : 45分
復習内容 : Introduction to ultrasound
復習時間 : 45分

The study of sound and ultrasound

予習内容 : The decibel chart

予習時間 : 45分
復習内容 : Sound frequencies and hearing ability of different species
復習時間 : 45分

Sound and Ultrasound, part 2

第15回 Review 2

予習内容 : Final speaking activity
予習時間 : 45分
復習内容 : Final note-based writing activity
復習時間 : 45分

Review of Lessons 9 ~ 14

Ongoing assessment includes midterm test and final test

科目名： オーラルスキル（英語） 4			
英文名： Oral Skills (English) 4			
担当者： デビット トーマス バンハム			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

オーラルスキル1・2」で身に付けた英語のオーラルスキルを基盤として、将来の英語使用場面（学会発表等）を見据えた形での、実的な英語発話訓練を行う。具体的には、プレゼンテーション、質疑応答等が出来るように、基本語彙・表現を身に付け、使えるようにする。

■学習・教育目標および到達目標

「オーラルスキル3」とともに、学術場面（学会発表）等で使用する語彙・構文について、発話出来るレベルで習得する。プレゼンテーション・質疑応答の際に必要な、談話（段落レベルの発話）を組み立てる力を習得する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

"Students can offer their comments through the university class survey offered during the year. Also students can always speak to me directly about any suggestions they may have about the class."

■教科書

[ISBN]9781405845458 『Technical English Level 1: Course Book』 (David Bonamy, Pearson Japan : 2013)

■関連科目

オーラルスキル3

■成績評価方法および基準

Classwork 60%
Evaluations 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階） dtvanham@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

Dimensions "16.

[タイトル]"

Using a specification chart"16.

[内容詳細]"

Quantities "17.

[タイトル]"

Specifying materials "17.

[内容詳細]"

Future projects "18.

[タイトル]"

Describing plans for the future "18.

[内容詳細]"

Recent incidents "19.

[タイトル]"

Explaining events "19.

[内容詳細]"

Damage and loss "20.

[タイトル]"

Reporting damage "20.

[内容詳細]"

Past events "21.

[タイトル]"

Discussing past events "21.

[内容詳細]"		
Operation	" 2 2 .	
[タイトル]"		
Explaining how things work	" 2 2 .	
[内容詳細]"		
User Guide	" 2 3 .	
[タイトル]"		
Using a flow chart	" 2 3 .	
[内容詳細]"		
Rules and warnings	" 2 4 .	
[タイトル]"		
Following safety rules	" 2 4 .	
[内容詳細]"		
Safety hazards	" 2 5 .	
[タイトル]"		
Giving and following warnings	" 2 5 .	
[内容詳細]"		
Investigations	" 2 6 .	
[タイトル]"		
Investigating an accident	" 2 6 .	
[内容詳細]"		
Pistons and valves	" 2 7 .	
[タイトル]"		
Expressing causation	" 2 7 .	
[内容詳細]"		
Switches and relays	" 2 8 .	
[タイトル]"		
Giving an oral presentation	" 2 8 .	
[内容詳細]"		
Review of Materials	" 2 9 .	
[タイトル]"		
Review of material covered	" 2 9 .	
[内容詳細]"		
Student Evaluations	" 3 0 .	
[タイトル]"		
Final student evaluation	" 3 0 .	
[内容詳細]"		

科目名： オーラルスキル（英語） 4			
英文名： Oral Skills (English) 4			
担当者： トレント スプリグス			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

「オーラルスキル1・2」で身に付けた英語のオーラルスキルを基盤として、将来の英語使用場面（学会発表等）を見据えた形での、実際の英語発話訓練を行う。具体的には、プレゼンテーション、質疑応答等が出来るように、基本語彙・表現を身に付け、使えるようにする。

■学習・教育目標および到達目標

「オーラルスキル3」とともに、学術場面（学会発表）等で使用する語彙・構文について、発話出来るレベルで習得する。プレゼンテーション・質疑応答の際に必要な、談話（段落レベルの発話）を組み立てる力を習得する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

Speak directly after class.

■教科書

"Science Works 2", (Philippa Gardom-Hulme: Oxford University Press), [ISBN]9780199152506

■参考文献

Loose leaf paper, notebook, dictionary.

■関連科目

オーラルスキル3

■成績評価方法および基準

小テスト 25%

口頭発表 50%

宿題／レポート 25%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・trentatkindai@gmail.com

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Orientation

第2回 Hot and Cold (Heat and Temperature) No.1

Hot and Cold (Heat and Temperature) No.1

第3回 Hot and Cold (Heat and Temperature) No.2

Hot and Cold (Heat and Temperature) No.1

第4回 On Safari (Food webs and biomass) No.1

On Safari (Food webs and biomass) No.1

第5回 On Safari (Food webs and biomass) No.2

On Safari (Food webs and biomass) No.2

第6回 Choices (Food Choices) No.1

Choices (Food Choices) No.1

第7回 Choices (Food Choices) No.2

Choices (Food Choices) No.2

第8回 Mid-Term

Mid-Term Week 2から Week7までの復習

第9回 Winter Sports (Causes of pressure) No.1

Winter Sports (Causes of pressure) No.1

第10回 Winter Sports (Causes of pressure) No.2

Winter Sports (Causes of pressure) No.2

第11回 Staying Alive (Cells and respiration) No.1

Staying Alive (Cells and respiration) No.1

第12回 Staying Alive (Cells and respiration) No.2

Staying Alive (Cells and respiration) No.2

第13回 Earth (Adaptation and environment) No.1

Earth (Adaptation and environment) No.1

第14回 Earth (Adaptation and environment) No.2

Earth (Adaptation and environment) No.2

第15回 Final Review

Final Review, Week 9からWeek 15までの復習

科目名： オーラルスキル（英語） 4 〈再履修〉			
英文名： Oral Skills (English) 4			
担当者： ジョン ドウデジアン			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

A communicative language teaching approach will be used in this class. Students will be encouraged to actively participate in class. Pair work and small group activities will be featured to increase opportunities for communication.

■学習・教育目標および到達目標

This course aims to develop basic English proficiency through which students can communicate in English. Students will learn fundamental English language and conversation skills necessary for various situations in daily life.

Students are expected to:

- > cooperate
- > concentrate
- > make a strong effort
- > be on time
- > bring all necessary classroom materials including a Japanese-English Dictionary
- > bring and maintain a notebook
- > record and look up any unknown vocabulary items
- > return all homework assignments on time
- > be responsible for completing all coursework in the event they are absent

By the end of the course, students will have:

- > acquired basic expressions and related vocabulary useful for daily life
- > acquired basic grammar necessary for daily conversation
- > acquired basic listening and speaking skills necessary for daily communication
- > learned how to facilitate the natural flow of conversation

■試験・課題に対するフィードバック方法

For security purposes, tests and quizzes are generally not returned to students. However, results are available by private consultation before, during and after class.

■教科書

[ISBN]9789620189517 『LETS TALK ABOUT IT (2E)』 (Pearson Japan)

■参考文献

No specific references

■成績評価方法および基準

Coursework 40%
 Tests/Quizzes 35%
 Participation 25%

■授業評価アンケート実施方法

The university course survey is the main method for students to evaluate the course and written comments are highly valued. Students are also encouraged to express their opinions about course content and methodology.

■研究室・E-mailアドレス

Classroom before and after class john4649@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

By appointment

■授業計画の項目・内容及び到達目標

1. Spring vacation
 Discussing spring vacation experiences. Interviewing classmates about past activities.
2. Japanese culture.
 Discussing every day Japanese customs and life. Categorizing food by types.
3. Food

Categorizing food by tastes and textures. Composing topic opening questions. Discussing food in Japanese life.

4. Food

Describing Japanese dishes. Review of techniques for expanding answers. Creating additional topic opening questions. Discussing food in Japanese life.

5. Entertainment

Review of the use of follow-up questions. Forming topic opening questions. Discussing entertainment in Japanese life.

6. Entertainment

Interviewing classmates about entertainment preferences. Devising additional topic opening questions. Discussing entertainment in Japanese life.

7. Music

Categorizing music by genre. Identifying musical preferences and favorites. Initiating topic opening questions. Discussing music in Japan.

8. Music

Listening and identifying music by genre. Producing additional topic opening questions. Discussing music in Japan.

9. Occupations

Using working conditions and benefits to describe jobs/Devising additional topic opening questions/Discussing work and careers.

10. Occupations

Reviewing job titles/working conditions and benefits/Initiating topic opening questions/Discussing work and careers

11. Travel

Identifying popular tourist destinations in Japan. Formulating topic opening questions. Discussing travel in Japan.

12. Travel

Creating a travel itinerary for visitors to Japan. Making additional public opening questions. Discussing travel in Japan.

13. Semester review

Review of relevant topics covered during weeks 1-12 with a focus on discussion techniques.

14. Written examination

Notebook review/Final review on areas of weakness

15. Speaking tasks. Pair and group speaking tasks.

予習内容 : Review previous lesson. Get any missed assignments and notes if you were absent. Check to be sure you bring all of your materials to class.

予習時間 : 30分

復習内容 : Do any homework assignments. Help any classmates who were absent.

復習時間 : 30分

科目名：海外研修（英語）			
英文名：Study Abroad Program (English)			
担当者：服部 圭子・長谷川 由美・吉川 裕介			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：通年	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

この科目は、本学国際交流室所管の夏期または春期英語研修に参加し、海外における研修を修了して規定の成績を得た者に、所定の手続きを経て単位が与えられるものである。国際交流室主催の研修に加えて、学部での海外研修の事前・事後研修授業に参加すること。授業には必ず辞書を持参すること。
なお、研修の申し込みは、各自行う必要がある。

■学習・教育目標および到達目標

英語圏で実際に生活することによって、日頃の学習の成果を試し、リスニング力、スピーキング力、ライティング力、リーディング力などの総合的英語力を身につけることを目標とする。また、異文化適応力をつけ、自らの意見を発信する力を養成する。さらに、海外での体験をまとめて、わかりやすく発表できるようになることを目指す。

■試験・課題に対するフィードバック方法

研修後の発表およびレポートに関し、プレゼンテーションの録音や録画資料を用いて振り返りを行います。

■教科書

初日に提示

■参考文献

初日に提示

■関連科目

特になし

■成績評価方法および基準

レポート・課題 50%
発表 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

服部研究室（2号館5階）・khattori@waka.kindai.ac.jp
長谷川研究室（2号館5階）・hasegawa@waka.kindai.ac.jp
吉川研究室（2号館5階）・y-yoshikawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜5限（服部）（その他の時間帯は、事前に予約してください）
月曜4限（長谷川）（その他の時間帯は、事前に予約してください）
火曜4限（吉川）（その他の時間帯は、事前に予約してください）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、ウォーミングアップ

本学国際交流室所管の夏期または春期英語研修に参加するに際しての心構えや準備できることについて意識を高める。また、参加者個々の参加目標／参加動機などの意見交換を行うことによって、どのようにすれば英語研修がより良いものになりうるのかを考える。

第2回 自己紹介（1）

英語による自己紹介を考える。

- ・何を自己紹介のときに言えば、より「自分」を伝えることができるのか。
- ・自分のアピールポイントは何か。伝えたい「自分」は何か。
- ・英語による表現を学ぶ。

第3回 自己紹介（2）

英語による自己紹介を行う。

・前回、および課題として考えて来た自己紹介をみんなの前で行い、意見交換を行う。

第4回 自文化紹介（1）

英語による日本文化の紹介を考える。

- ・どのような日本文化が世界で紹介されているのか。
- ・自分が紹介したい日本文化について考える。
- ・英語による表現を学ぶ。

第5回 自文化紹介（2）

英語による自己文化紹介を行う。

・前回、および課題として考えて来た自己文化紹介で発表し、意見交換を行う。

第6回 自文化紹介（3）

英語による自己文化紹介を行う。

・前回、および課題として考えて来た自己文化紹介を発表し、意見交換を行う。

第7回 ホームステイでの英語（1）

ホームステイに必要な英語表現を学ぶ。

- ・どのような英語表現が（通常のシチュエーションにおいて）必要になりそうなのか考える。
- ・英語による表現を学ぶ。

第8回 ホームステイでの英語（2）

ホームステイに必要な英語表現を学ぶ。

- ・どのような英語表現が（非常事態や緊急事態において）必要になりそうなのか考える。
- ・英語による表現を学ぶ。

第9回 海外研修報告

海外研修で得た経験の報告を行う。

・海外研修で得た経験について報告を行う。

第10回 プレゼンテーション準備活動（1）

ランゲージスペースでの発表準備を行う。

- ・トピック
- ・発表の目的（オーディエンスに伝えたいことを考える）
- ・効率的な視覚資料（スライドなど）の作り方／使い方

第11回 プレゼンテーション準備活動（2）

ランゲージスペースでの発表準備を行う。

・発表原稿の作成

第12回 プレゼンテーション準備活動（3）

ランゲージスペースでの発表準備を行う。

- ・リハーサル
- ・発表に対する意見交換

第13回 プレゼンテーション（1）

プレゼンテーションを行う。

・プレゼンテーションとフィードバック

第14回 プレゼンテーション（2）

プレゼンテーションを行う。

・プレゼンテーションとフィードバック

第15回 まとめ

海外研修によって得た経験を今後の学習／生活にどのように活かせるのかについて意見交換を行い、これをまとめとする。

科目名： 言語演習（英語） 1			
英文名： Language Seminar(English) 1			
担当者： <small>タケナカ ヨシツグ</small> 竹中 義胤			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

テキストを使って練習問題を解きながら、基礎的なリスニング力を養成すると同時に、新聞やインターネットの記事を読みながら読解力の向上を目指します。

■学習・教育目標および到達目標

基礎的なリスニング力を養成すると同時に、新聞やインターネットの記事の主旨が理解できるようになることを目標とします。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に「試験の要点と解説」を掲示板に掲載します。

■教科書

[ISBN]9780194013840 『Tactics for Listening: Third Edition Basic Student Book』 (Jack C. Richards with Grant Trew, Oxford University Press (Japan) Ltd. : 2011)

■関連科目

言語演習（英語） 2

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

授業参加度 30%

小テスト・課題 20%

■授業評価アンケート実施方法

学期末に授業中実施します。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階 講師控室・takenaka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩、又は昼休憩時とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit 1 Introductions and Names

第2回 Unit 2 Describing People

第3回 Unit 3 Clothes

第4回 Unit 4 Routines

第5回 Unit 5 Dates

第6回 Unit 6 Jobs

第7回 Unit 7 Favorites

第8回 Unit 8 Sports and Exercise

第9回 Unit 9 Locations

第10回 Unit 10 The Family

第11回 Unit 11 Entertainment

第12回 Unit 12 Prices

第13回 Unit 13 Restaurants

第14回 Unit 14 Small Talk

第15回 Unit 15 Vacations

定期試験

科目名：言語演習（英語） 1			
英文名：Language Seminar(English) 1			
担当者：ファミユラロ ラルフ マイケル			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

Students will study about different cultures and countries around the world.

English-speaking nations will be included.

Current affairs relating a wide-range of topics including science, economics, politics and international relations will be presented.

*Note: the main language of the course will be English.

Students will be required to have good attendance and to actively participate in the class.

■学習・教育目標および到達目標

To become aware of different cultural concepts within one's own and others' cultures.

To become aware of current events in various fields that affect modern society directly and indirectly.

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案(写し)を返却します。

■教科書

There is no required text for the course.

The teacher will provide handouts. These handouts must be kept for continuing in-class work and for test preparation.

■参考文献

Access to a Japanese-English / English-Japanese dictionary is necessary. The dictionary may be electronic or traditional book-format.

■成績評価方法および基準

In-Class participation 35%

Midterm Test 30%

Final Test 35%

■授業評価アンケート実施方法

In-class questionnaires will be done near the end of the term.

■研究室・E-mailアドレス

bunbogul@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

On campus from Mondays: 10:40 - 4:10 and Fridays, 9:00 - 4:10

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Course Introduction

予習内容 : Countries, Nationalities and Languages

予習時間 : 45分

復習内容 : Comparative culture exercise

復習時間 : 45分

Initial practice

第2回 The World in General

予習内容 : World knowledge activity

予習時間 : 45分

復習内容 : Introduction to the English-speaking nations

復習時間 : 45分

Checking knowledge of international facts

第3回 Media and Society

予習内容 : Media and influence on personal opinions
予習時間 : 45分
復習内容 : Fake news online and in the media
復習時間 : 45分

Analysis of how media shapes opinions

第4回 English Speaking Nations 1

予習内容 : The nations that make up the United Kingdom
予習時間 : 45分
復習内容 : British food traditions
復習時間 : 45分

Introduction to the United Kingdom

第5回 Science in the News

予習内容 : Latest research and inventions
予習時間 : 45分
復習内容 : The necessity of English in the Science World
復習時間 : 45分

Science news of an international scope

第6回 English as a World language

予習内容 : World-wide English usage
予習時間 : 45分
復習内容 : Local Englishes and standard Englishes
復習時間 : 45分

The number of people and countries that use English on a regular basis

第7回 Introduction to New Zealand

予習内容 : Life in New Zealand cities and countryside
予習時間 : 45分
復習内容 : The New Zealand connection to the United Kingdom
復習時間 : 45分

A review of the culture and society of New Zealand

第8回 Review 1

予習内容 : English-speaking nations review
予習時間 : 45分
復習内容 : International topics review
復習時間 : 45分

Review of Lessons 1 - 7

第9回 English as a Unifying Language 1

予習内容 : India
予習時間 : 45分
復習内容 : Myanmar
復習時間 : 45分

A study of nations that use English as a common language among different domestic ethnic groups

第10回 Health and economics

予習内容 : Health conditions around the world
予習時間 : 45分
復習内容 : Social status in relation to health access
復習時間 : 45分

An analysis of how health and economics are intertwined

第11回 Science of Weather

予習内容 : Weather-related concepts
予習時間 : 45分

復習内容 : The latest technology in helping predict weather conditions
復習時間 : 45分

An article on weather technology

第12回 Genetic Modification

予習内容 : Plant biology
予習時間 : 45分
復習内容 : The pros and cons of GMO foods
復習時間 : 45分

A study of genetically modified food crops

第13回 Introduction to Australia

予習内容 : Popular cultural activities in modern Australia
予習時間 : 45分
復習内容 : The natural wonders of Australia
復習時間 : 45分

An introduction to Australian culture and society

第14回 Australia, part 2

予習内容 : Australian history in relation to the United Kingdom
予習時間 : 45分
復習内容 : Australian English usage
復習時間 : 45分

A continuing study of Australia

第15回 Review

予習内容 : English-speaking nations review
予習時間 : 45分
復習内容 : Current event topics review
復習時間 : 45分

Review of Lessons 9 - 14

Ongoing assessment will include a midterm and final test.

科目名： 言語演習（英語） 1			
英文名： Language Seminar(English) 1			
担当者： ジェイムズ ホーバット			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 集中	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

この科目は、科学技術的なビデオクリップ等を使用し、各自の英語能力向上のための英語による受信・発信能力を高めることを目指す。

■学習・教育目標および到達目標

ビデオクリップ（2～5分）などによる現代や未来の身近なトピックスと英語の歌等を使う中で、リスニングやリーディング能力の改善・進歩を図ることを学習目標とする。また、グループディスカッションやクラスディスカッションを通して自分の考えを英語で効果的に伝えたり、他者の考えを論理的に理解したりする能力を高める養成やトレーニングを行なう。"英語で考え、英語で表現する姿勢を心がけてください。集中講座として開講されます。上級レベルの英語習得を目指す者を対象とする。（英語スキル上級A・B受講者など）"

■試験・課題に対するフィードバック方法

Students will receive some feedback, especially common errors, on their quizzes from the teacher during the class. Students will receive feedback on their assignments, especially common strengths and things to work on, from the teacher during the class. There will be some feedback on class discussions, good points, and some important errors / things to work on.

■教科書

授業内で指示します。

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

言語演習（英語）2、言語演習（英語）3、言語演習（英語）4

■成績評価方法および基準

ディスカッション 20%
授業中課題 40%
小テスト 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階） j_horvat@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Introductions, Exchange of Business Cards, Talking About Jobs

予習内容 : Write down some common greetings— formal / informal
予習時間 : 15分
復習内容 : Write a short conversation of people meeting each other.
復習時間 : 15分

Focus on speaking. Initial contact in English with other workers in a business or professional environment.

第2回 Meetings and Discussions

予習内容 : Write down some things people do in meetings (share information, solve problems, etc.)
予習時間 : 15分
復習内容 : Write the English version of a meeting you had recently.
復習時間 : 15分

Focus on listening and speaking-- with giving contributions, asking for other people's opinions, asking for clarification.

Some meeting role plays.

第3回 Meetings and Discussions 2

予習内容 : Write down three things (foods, movies, hobbies, etc.) which you and your friend both like.

予習時間 : 15分

復習内容 : Write a brief English version of a conversation in which you disagreed.

復習時間 : 15分

Continue to develop listening and speaking skills, agreeing and disagreeing in a meeting. Interrupting others. Role plays.

第4回 Cultural Awareness-- Regions of the World (Pop Song 1)

予習内容 : Write down three countries you want to go to. Why? Write the reasons.

予習時間 : 15分

復習内容 : Write down three things you learned about other countries in this class.

復習時間 : 15分

Vocabulary & Discussion. World regions, developed and developing countries. Japanese businesspeople working abroad. Group discussion.

第5回 Cultural Awareness 2-- Differences, Rules for Travelers

予習内容 : Write down three rules (e.g. driving, at school, at work, etc.) in life

予習時間 : 15分

復習内容 : Write down three things you learned in this class.

復習時間 : 15分

Vocabulary and discussion. Discussing cultural differences between Japan and other places, rules (spoken and unspoken) for travelers.

第6回 Business Emails

予習内容 : What are three reasons we write an email (e.g. to ask a question, to ask for help, to make a schedule)? Write them down.

予習時間 : 15分

復習内容 : Write a business email.

復習時間 : 15分

Focus on writing skills. Formal Language vs informal language. Writing to a customer or superior vs. writing to an equal. Common errors in emails.

第7回 Business Emails 2

予習内容 : Write down three business English sentences.

予習時間 : 15分

復習内容 : Write a business email.

復習時間 : 15分

Writing skills. Looking at some common types of emails, writing practice in groups, individual email creation.

第8回 Cultural Awareness-- Great Business Cities (Pop Song 2)

予習内容 : Write down three things you want to see in London or New York.

予習時間 : 15分

復習内容 : Find a picture of London or New York. Write some sentences about it.

復習時間 : 15分

Vocabulary and speaking. Why are London & New York great business centers? Cultures of the cities, tips for the business traveler.

第9回 Current Topic in the News

予習内容 : Write down five people who are in the news. Write down, briefly, what they did.

予習時間 : 15分

復習内容 : Write down your reaction to the news topic in class.

復習時間 : 15分

Depending on the news in spring and summer, we will look at a current topic. Emphasis on listening, vocabulary, and discussion.

第10回 Presentations

予習内容 : Write down three things that people giving a speech need to do (e.g. speak loudly).
予習時間 : 15分
復習内容 : Think about a topic for your presentation.
復習時間 : 15分

Essential elements of a good presentation. Guidelines for presenters (voice volume, eye contact, body language).

第11回 Presentations 2

予習内容 : Think more about your presentation topic.
予習時間 : 15分
復習内容 : Finish writing your presentation.
復習時間 : 15分

Developing presentation skills, looking at model presentations. In groups students will plan a presentation

第12回 Using the Telephone

予習内容 : Write down three sentences of "telephone English"
予習時間 : 15分
復習内容 : Write in English the first part of a telephone conversation you had.
復習時間 : 15分

Speaking and listening Skills. Examples will be presented. Practice of telephoning skills for the professional or business environment.

第13回 Group Presentations

予習内容 : Look at your presentation, practice it at home.
予習時間 : 15分
復習内容 : Consider what were the strong points and areas to work on of your presentation.
復習時間 : 15分

Students will make presentations about a company, scientific or engineering organization, research organization, or NGO.

第14回 Leisure Patterns in the World

予習内容 : Write down some sentences about your hobbies.
予習時間 : 15分
復習内容 : Write three sentences about a hobby, or sport, or leisure activity we discussed today.
復習時間 : 15分

Vocabulary & discussion. Students will learn how to talk about various leisure activities and to use comparative language.

第15回 Review and Wrap Up

予習内容 : Consider which activities in class were easy & which were more difficult.
予習時間 : 15分
復習内容 : Write a brief comment about the class.
復習時間 : 15分

We will review the class, discussing areas of strong performance and areas to work on for the students.

There is no final exam.

None

科目名：言語演習（英語） 2			
英文名：Language Seminar(English) 2			
担当者： <small>タケナカ ヨシツグ</small> 竹中 義胤			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

テキストを使って練習問題を解きながら、基礎的なリスニング力を養成すると同時に、新聞やインターネットの記事を読みながら読解力の向上を目指します。

■学習・教育目標および到達目標

言語演習（英語）1の内容に引き続き、テキストを使って練習問題を解きながら、基礎的なリスニング力を養成すると同時に、新聞やインターネットの記事を読みながら読解力の向上を目指します。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に「試験の要点と解説」を掲示板に掲載します。

■教科書

[ISBN]9780194013840 『Tactics for Listening: Third Edition Basic Student Book』(Jack C. Richards with Grant Trew, Oxford University Press (Japan) Ltd. : 2011)

■関連科目

言語演習（英語）1

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

授業参加度 30%

小テスト・課題 20%

■授業評価アンケート実施方法

学期末に授業中実施します。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階 講師控室・takenaka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩、又は昼休憩時とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit 16 Apartment Living

第2回 Unit 17 Hopes Plans

第3回 Unit 18 The Weather

第4回 Unit 19 Shopping

第5回 Unit 20 Describing Things

第6回 Unit 21 Directions

第7回 Unit 22 People We Know

第8回 Unit 23 Places

第9回 Unit 24 Health

第10回 Test 1 (Units 1-4)

第11回 Test 2 (Units 5-8)

第12回 Test 3 (Units 9-12)

第13回 Test 4 (Units 13-16)

第14回 Test 5 (Units 17-20)

第15回 Test 6 (Units 21-24)

定期試験

科目名：言語演習（英語） 2			
英文名：Language Seminar(English) 2			
担当者：ファミユラロ ラルフ マイケル			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

Students will study about different cultures and countries around the world. English-speaking nations will be included. Current affairs relating a wide-range of topics including science, economics, politics and international relations will be presented.

*Note: the main language of the course will be English.

Students will be required to have good attendance and to actively participate in the class.

■学習・教育目標および到達目標

To become aware of different cultural concepts within one's own and others' cultures.

To become aware of current events in various fields that affect modern society directly and indirectly.

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案(写し)を返却します。

■教科書

There is no required text for the course.

The teacher will provide handouts. These handouts must be kept for continuing in-class work and for test preparation.

■参考文献

Access to a Japanese-English / English-Japanese dictionary is necessary. The dictionary may be electronic or traditional book-format.

■成績評価方法および基準

In-Class Participation 35%

Midterm Test 30%

Final Test 35%

■授業評価アンケート実施方法

In-class questionnaires will be done near the end of the term.

■研究室・E-mailアドレス

bunbogul@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

On campus from Mondays: 10:40 - 4:10 and Fridays, 9:00 - 4:10

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Course (re)Introduction

予習内容 : International awareness activity

予習時間 : 45分

復習内容 : Cultural use of space

復習時間 : 45分

Course introduction for new students and continuing students.

第2回 Introduction to Canada

予習内容 : Canadian history relating to the United Kingdom and France

予習時間 : 45分

復習内容 : Modern Canada and multi ethnicity

復習時間 : 45分

A study of Canadian topics including history and modern society of Canada

第3回 Cultural Use of time

予習内容 : Monochronic Cultures
予習時間 : 45分
復習内容 : Polychronic Cultures
復習時間 : 45分

A study of how different cultures use time differently and have different expectations of time use at work

第4回 English as a Unifying Language in Africa

予習内容 : Nigeria
予習時間 : 45分
復習内容 : Kenya
復習時間 : 45分

A study of African nations that use English as an official language to keep the nation together

第5回 Manner and Culture

予習内容 : Comparison of American and Japanese expectations with manners
予習時間 : 45分
復習内容 : Tokyo Train Line article on train manners
復習時間 : 45分

A study of how manners are used and perceived in different cultures

第6回 Culture and festivals: Halloween

予習内容 : Halloween and its origins
予習時間 : 45分
復習内容 : The Day of the Dead Festival: Mexico
復習時間 : 45分

A study of the origins of modern Halloween and similar customs in the Spanish-speaking world.

第7回 News Update

予習内容 : Politics and conflict
予習時間 : 45分
復習内容 : Globalization and its pros and cons
復習時間 : 45分

A study and analysis of major news events that affect Japan and other nations

第8回 Review 1

予習内容 : Review of English-speaking nations
予習時間 : 45分
復習内容 : Review of current affairs topics
復習時間 : 45分

A review of Lessons 1 - 7

第9回 Introduction to the USA, part 1

予習内容 : The United States as a sports-crazy nation
予習時間 : 45分
復習内容 : American movie, music and propaganda
復習時間 : 45分

American topics in sports, music and movies

第10回 The United States, part 2

予習内容 : Positive and negative views of the USA
予習時間 : 45分
復習内容 : Is the United States a declining power?
復習時間 : 45分

A study of the influence of the United States around the world

第11回 Minority Cultures, part 1

予習内容 : Aboriginal creation myths
予習時間 : 45分

復習内容 : Aborigines place in modern Australia
復習時間 : 45分

An introduction to Aboriginal Australian culture

第12回 Minority Culture, part 2

予習内容 : Maori traditional culture
予習時間 : 45分
復習内容 : Maori-influence on European-New Zealand majority culture
復習時間 : 45分

An introduction into Maori (New zealand) culture

第13回 The Roots of Christmas

予習内容 : Paganism in Europe and the Roman Catholic Empire
予習時間 : 45分
復習内容 : Modern Christmas traditions and their non-Christian beginnings
復習時間 : 45分

A study of the Christmas holiday and its multicultural roots

第14回 Subcultures and Mainstream Cultures

予習内容 : Personal experience of in-groups and outsiders
予習時間 : 45分
復習内容 : Subcultures and their effects on society
復習時間 : 45分

An analysis of subcultures within a society based on different factors

第15回 Review 2

予習内容 : Minority and subculture review
予習時間 : 45分
復習内容 : Traditional Festivals and modern customs review
復習時間 : 45分

A review of Lessons 9 - 14

Ongoing assessment will include a midterm and final test.

科目名：言語演習（英語） 3			
英文名：Language Seminar(English) 3			
担当者： <small>ヤマモト サトシ</small> 山本 哲			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

英語を手段として、様々な内容の素材を解釈・理解し、また同時に、英語力そのものを向上させるための訓練を演習形式で行います。授業には必ず辞書を持参すること。

なお、教育効果を考慮し、受講者数の調整を行うことがあります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可です。

■学習・教育目標および到達目標

様々な角度から英語に慣れ親しみ、英語力を高めるだけでなく、英語を通して、世界の事象に触れ、理解し、広く批判的な物事の捉え方を学びます。さらに、グローバルな思考を訓練するとともに、言語文化的知識あるいはその背景についての認識を深め、必要不可欠な高度なスキルを身に着けることを目標とします。

■試験・課題に対するフィードバック方法

次回（または次々回）の授業時間に詳しく解説します。

■教科書

東京大学教養学部英語教室編 The Universe of English(東京大学出版会)

ISBN: 4-13-082100-8

■参考文献

授業中に、適宜指示します。

■関連科目

言語演習（英語） 1・2・4

■成績評価方法および基準

小テスト 20%

授業中の発表および課題提出 40%

レポート 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・yamas@center.wakayama-u.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

予習内容：特になし。

復習内容：特になし。

授業内容、授業計画、授業方針、評価方法等の説明。

第2回 テキスト Session 1, "What a Painting Can Tell Us"

予習内容：テキスト未習部分の予習。

予習時間：150分

復習内容：テキスト既習部分の復習。

復習時間：60分

Witold Rybczynski, What a Painting Can Tell Us (1)

英文の精読と内容の詳解により、名画に描き込まれた人間観や時代思潮を考察する。

第3回 テキスト Session 1, "What a Painting Can Tell Us"

予習内容：未習部分の予習。

予習時間 : 150分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

What a Painting Can Tell Us (2)
承前。

第4回 テキスト Session 1, "What a Painting Can Tell Us"

予習内容 : 未習箇所の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 既習箇所の復習
復習時間 : 90分

What a Painting Can Tell Us (3)
承前。最後に、3回にわたる講義のまとめを行う。

第5回 テキスト Session 3, "The Processes of Image Formation"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

Gregory Bateson, The Processes of Image Formation (1)
英文の精読と内容の詳解により、イメージ形成とそれが原因の視覚的錯覚について考察する。

第6回 テキスト Session 3, "The Processes of Image Formation"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

The Processes of Image Formation (2)
承前。

第7回 テキスト Session 3, "The Processes of Image Formation"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 90分

The Processes of Image Formation (3)
承前。3回にわたる講義のまとめ。

第8回 既習の諸テーマについてのまとめ

予習内容 : 特になし。
復習内容 : 第2回から第7回までの復習。
復習時間 : 150分

既習の内容に関する確認と総括を行う。

第9回 テキスト Session 5, "The Eiffel Tower"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

O. B. Hardison, Jr., The Eiffel Tower (1)
英文の精読と内容の詳解により、エッフェル塔に象徴される新時代の到来と新機軸について考察する。

第10回 テキスト Session 5, "The Eiffel Tower"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

The Eiffel Tower (2)

承前。

第11回 テキスト Session 5, "The Eiffel Tower"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 150分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 90分

The Eiffel Tower (3)

承前。3回にわたる講義のまとめ。

第12回 テキスト Session 7, "The Blind Watchmaker"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 150分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

Vernon Blackmore & Andrew Page, The Blind Watchmaker (1)

英文の精読と内容の詳解により、自然選択〔淘汰〕の驚異的成果を考察する。

第13回 テキスト Session 7, "The Blind Watchmaker"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 150分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

The Blind Watchmaker (2)

承前。

第14回 テキスト Session 7, "The Blind Watchmaker"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 150分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 90分

The Blind Watchmaker (3)

承前。3回にわたる講義のまとめ。

第15回 既習の諸テーマについてのまとめ

予習内容 : 特になし。

復習内容 : 第9回から第14回までの復習。

復習時間 : 150分

既習の内容に関する確認と総括を行う。

科目名：言語演習（英語） 3			
英文名：Language Seminar(English) 3			
担当者： <small>ハットリ ケイコ</small> 服部 圭子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

異文化コミュニケーションを題材にしたテキストを使って、コミュニケーションのあり方を英語で読み解く。そして学んだ知識や表現を用いて、自分自身のことを表現したり、相手に尋ねたりする練習を行う。さらに、実際の異文化接触場面でコミュニケーションをとることを想定した、さまざまなアクティビティを行い、英語力そのものの向上のための訓練を演習形式で行う。辞書は必ず持参すること。

なお、教育効果を考慮し、受講者調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は履修不可となります。

■学習・教育目標および到達目標

異文化コミュニケーションに関する内容を読み解く力を養うとともに、自分自身の考えや経験を語ったり共有したりすることによって、相手からも新たな情報を引き出す力を身につけることを目標とする。英語を用いたアクティビティに参加することにより、間違いを恐れずに英語を用いて相手とかわる力、異文化コミュニケーション能力の修得を目指す。さらに、発信した自分の意見をまとめて書く力の養成も目指す。

この科目の修得は、学部ディプロマポリシー 5、近畿大学の教養教育の目的2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

後日、掲示板またはUNIPAで掲示します。

■教科書

[ISBN]978-4-523-17840-8 『Speaking of Intercultural Communication:』異文化理解の英語コミュニケーション』Peter Vincent著（南雲堂）

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

言語演習（英語）1、2、4

■成績評価方法および基準

小テスト 20%

授業中の発表および課題 40%

定期試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

服部研究室（2号館5階513号室）・khattori@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜5限（その他の時間帯は、事前にメールでアポをとってください）。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、ウォーミングアップ

授業の進め方についての説明

- ・予習、復習について
- ・授業内活動（ペアワーク、グループワーク、調査等）について
- ・課題、小テストおよび定期試験について

受講に際しての注意事項

- ・授業内の態度について
- ・欠席、遅刻について
- ・評価について

その他、受講に際しての重要事項について

自己紹介、コミュニケーションに関する意見をペアおよびグループで話し合う。

第2回 unit1 Communication

異文化コミュニケーションに関する紹介、文化やコミュニケーションについて書かれた文章を読み解くコミュニケーションのあり方について、さまざまなアクティビティを通して学ぶ。授業で利用するテキストのパターンを観察する。

第3回 Unit2 Culture

文化について述べられた文章を読み解く。文化を語る上でよく使われる概念について学び、自らを振り返り、意見を述べる練習をする。そして、さまざまな文化について相違点を調べ、2パラグラフ程度の英語の文章を作成する。

第4回 Unit3 Nonverbal Communication

非言語コミュニケーションについての英文を読み説く。日本でみられる外国人の非言語行動の違い、日米間の誤解についての文章を読み、意見を述べある。

第5回 Unit4 Communicating Clearly

英語によるコミュニケーションの上で必要な文化的背景、文法的間違いに対する考え方についての英文を読む。意見の述べ方やコミュニケーションを通して生まれる誤解について考える。

第6回 Unit5 Culture and Values

正誤、公平・不公平などの価値観について考える。日本とアメリカが各々大切にしている価値観はどんなものか、その相違に関して調べ、意見を述べるができるようにする。

第7回 Unit6 Culture and Perception

文化による物事の捉え方の相違、表現の異なりについての考え方について書かれた英文を読み解く。物の見え方の違いなどについて、アクティビティを通して体験し、自分の考えをまとめて述べる。

第8回 U1 ~ U6のまとめ

U1 ~ U6で扱った事象について、インターネットを利用してより深く調べ、発表する。疑問に思ったことについて質問したり、意見を述べたりする機会とする。

第9回 Unit7 Diversity

日本の多様性についての英文を読み、さまざまなエスニックグループ、サブカルチャーに関して調べる。また、日本社会における外国人労働者問題について、自分の意見を述べる。

第10回 Unit8 Stereotypes

いくつかの写真を見て感じることを述べあう。ステレオタイプについて書かれた英文を読む。また、日本人に対するステレオタイプについて考える。

第11回 Unit9 Culture Shock

カルチャーショックの段階について書かれた英文を読む。そして、カルチャーショックによるストレスについて学び、意見を述べる。

第12回 Unit10 Culture and Change

異なる文化の受け入れ方が国によって異なること、文化は変化することについて書かれた英文を読む。グローバリゼーションの功罪について意見を述べる。

第13回 U11 Talking about Japan

日本は集団主義か個人主義か。海外に行く前に日本文化について知ることの意義、日本文化が各々のアイデンティティにどう影響しているかなどについて、英文を読んだりアクティビティを通して考える。

第14回 Unit12 Becoming a Global Person

グローバル人材、異文化感覚のステージについて書かれた英文を読み解く。グローバルビレッジについて、人・言語・宗教などの視点から考える。

第15回 まとめ・発表

前期に読み学んだことについて振り返る。テキストで扱っているテーマを発展させ、自分なりに調査してまとめた事柄を発表する。オーディエンスは、語彙・表現・文の構造・意見や内容などの視点から評価する。異文化コミュニケーション時、または英語を用いたコミュニケーションにおける留意点などについての意見交換をする。

定期試験

科目名：言語演習（英語） 3			
英文名：Language Seminar(English) 3			
担当者：藤原 知予			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

自然科学、生物学、心理学などをテーマにした英文を聞き取り、そのテーマに関連する語彙、文法、文章の論理的な関係を把握し、内容を理解する学習を行う。さらに各テーマに基づいて自分の考えをまとめ、英語で口頭発表するスピーキング演習を行う。テキストの各ユニットは、語彙を強化する「Vocabulary」、内容の概要から、詳細な情報、数値のデータなどを聞き取る力をつける、段階的なリスニング演習である「Preview Listening / Global Listening / Close Listening」、英文を聞き取り、理解するために必要な文法を学ぶ「Grammar」、スピーキング力を養うためのペアワークによるロールプレイ演習やディスカッションをする「Speaking task」、正しい英語発音を身につけ、相手に情報を正確に伝えることを学ぶ「Pronunciation skill」で構成されている。演習やディスカッションにおいてペアワークやグループワークを積極的に取り入れる。

*辞書を必ず持参すること。(携帯電話の辞書アプリは使用不可)

*随時単語・熟語テストを行う。

■学習・教育目標および到達目標

科学を中心とした幅広い分野に関する英文に対する関心を養い、基礎的な英語運用能力を習得することを目標とする。

- ・各ユニットで学習した単語・熟語を自分のものとし、運用することができる。
- ・各ユニットの聴解教材の内容を英語で理解し、リスニング力を向上させる。
- ・単語や熟語の意味を理解するだけでなく、リスニングやスピーキング、ライティングによって正しい発音やスペリングを習得する。
- ・ユニットで扱う科学的なテーマに関して、英語でディスカッションすることを目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案を返却し、重要事項を学生がペアワーク、またはグループワークにおいて議論した後、教員が解説する。

■教科書

Skillful Listening & Speaking Student's Book 1, (Linda Baker, Steven Gershon. Macmillan Academic Skills), [ISBN]978-1-7863-2940-0]

初回授業までに必ず購入しておくこと。

■参考文献

授業内で指示

■関連科目

言語演習（英語）1、2、4

■成績評価方法および基準

Oral Presentation 40%

小テスト 30%

課題（宿題含む）30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)

chiyofujiwara@gmail.com

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション / Unit1: Character Listening section

授業の進め方、遅刻や欠席、予習の仕方、評価などについて解説

Unit 1のテーマである性格に関する英文を聞き取り、語彙や文法を理解し、global listeningとclose listeningによって英文の情報をより正確に聞き取る演習を行う。

第2回 Unit1: Character Critical Thinking & Speaking section

性格に関する英文を聞き取り、Critical Thinkingのテーマについてペアやグループでディスカッションをする。Speaking Sectionで重要文法事項や発音を学び、テーマに則したスピーキング演習をペアで行う。

第3回 Unit2: Time Listening section

時間に関する英文を聞き取り、語彙や文法を理解し、global listeningとclose listeningによって英文の情報をより正確に聞き取る演習を行う。

第4回 Unit2: Time Critical Thinking & Speaking section

時間に関する科学的トピックを扱った英文を聞き取り、Critical Thinkingのテーマについてペアやグループでディスカッションをする。Speaking Sectionで重要文法事項や発音を学び、テーマに則したスピーキング演習をペアで行う。

第5回 Unit3: Home Listening section

家や家族形態に関する英文を聞き取り、語彙や文法を理解し、global listeningとclose listeningによって英文の情報をより正確に聞き取る演習を行う。

第6回 Unit3: Home Critical Thinking & Speaking section

家や家族形態に関する英文を聞き取り、Critical Thinkingのテーマについてペアやグループでディスカッションをする。Speaking Sectionで重要文法事項や発音を学び、テーマに則したスピーキング演習をペアで行う。

第7回 Unit4: Size Listening section

製品や製造過程、広告などに関する英文を聞き取り、語彙や文法を理解し、global listeningとclose listeningによって英文の情報をより正確に聞き取る演習を行う。

第8回 Unit4: Size Critical Thinking & Speaking section

製品や製造過程、広告などに関する英文を聞き取り、Critical Thinkingのテーマについてペアやグループでディスカッションをする。Speaking Sectionで重要文法事項や発音を学び、テーマに則したスピーキング演習をペアで行う。

第9回 Unit5: Patterns Listening section

筆跡学についての英文を聞き取り、語彙や文法を理解し、global listeningとclose listeningによって英文の情報をより正確に聞き取る演習を行う。

第10回 Unit5: Patterns Critical Thinking & Speaking section

筆跡学についての英文を聞き取り、Critical Thinkingのテーマについてペアやグループでディスカッションをする。Speaking Sectionで重要文法事項や発音を学び、テーマに則したスピーキング演習をペアで行う。

第11回 Unit6: Speed Listening section

スピードを競うスポーツや、スピードが人間の心理にもたらす影響などについて書かれた英文を聞き取り、語彙や文法を理解し、global listeningとclose listeningによって英文の情報をより正確に聞き取る演習を行う。

第12回 Unit6: Speed Critical Thinking & Speaking section

スピードを競うスポーツや、スピードが人間の心理にもたらす影響などについて書かれた英文を聞き取り、Critical Thinkingのテーマについてペアやグループでディスカッションをする。Speaking Sectionで重要文法事項や発音を学び、テーマに則したスピーキング演習をペアで行う。

第13回 Unit7: Vision Listening section

人や動物の視覚について書かれた英文を聞き取り、語彙や文法を理解し、global listeningとclose listeningによって英文の情報をより正確に聞き取る演習を行う。

第14回 Unit6: Vision Critical Thinking & Speaking section

人や動物の視覚について書かれた英文を聞き取り、Critical Thinkingのテーマについてペアやグループでディスカッションをする。Speaking Sectionで重要文法事項や発音を学び、テーマに則したスピーキング演習をペアで行う。

第15回 Unit8: Extremes Listening section

災害や天災などの非常事態と人間の脳の関係について書かれた英文を聞き取り、語彙や文法を理解し、global listeningとclose listeningによって英文の情報をより正確に聞き取る演習を行う。Critical Thinkingのテーマについてペアやグループでディスカッションをする。Speaking Sectionで重要文法事項や発音を学び、テーマに則したスピーキング演習をペアで行う。

Final Oral Presentation

科目名： 言語演習（英語） 4			
英文名： Language Seminar(English) 4			
担当者： <small>ヤマモト サトシ</small> 山本 哲			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

「言語演習（英語）3」と同様に、様々な内容を演習形式で学習します。それによって、英語力のさらなる向上を目指します。授業には必ず辞書を持参すること。

なお、教育効果を考慮し、受講者数の調整を行うことがあります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可です。

■学習・教育目標および到達目標

「言語演習（英語）3」と同じ。様々な角度から英語に慣れ親しみ、英語力を高めるだけでなく、英語を通して、世界の事象に触れ、理解し、広く批判的な物事の捉え方を学びます。さらに、グローバルな思考を訓練するとともに、言語文化的知識あるいはその背景についての認識を深め、必要不可欠な高度なスキルを身に着けることを目標とします。

■試験・課題に対するフィードバック方法

次回（または次々回）の授業時間に詳しく解説します。

■教科書

東京大学教養学部英語教室編 The Universe of English(東京大学出版会)

ISBN: 4-13-082100-8

■参考文献

授業中に、適宜指示します。

■関連科目

言語演習（英語）1・2・3

■成績評価方法および基準

小テスト 20%

授業中の発表および課題提出 40%

レポート 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館3階）・yamas@center.wakayama-u.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

予習内容 : テキスト未習部分の予習。

予習時間 : 150分

復習内容 : テキスト既習部分の復習。

復習時間 : 60分

授業内容、授業計画、授業方針、評価方法等の説明。

第2回 テキスト Session 9, "On Speaking of Speaking"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 150分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

Lewis Thomas, On Speaking of Speaking (1)

英文の精読と内容の詳解により、子供が生来的に持つ驚異の言語能力を考察する。

第3回 テキスト Session 9, "On Speaking of Speaking"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

On Speaking of Speaking (2)

承前。

第4回 テキスト Session 9, "On Speaking of Speaking"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 90分

On Speaking of Speaking (3)

承前。3回にわたる講義のまとめを行う。

第5回 テキスト Session 11, "Disneyland: America's Sacred Land"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

Masako Notoji, Disneyland: America's Sacred Land (1)

英文の精読と内容の詳解により、一大娯楽施設ディズニーランドの史的象徴性について考察する。

第6回 テキスト Session 11, "Disneyland: America's Sacred Land"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

Disneyland: America's Sacred Land (2)

承前。

第7回 テキスト Session 11, "Disneyland: America's Sacred Land"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 未習部分の予習。
復習時間 : 90分

Disneyland: America's Sacred Land (3)

承前。3回にわたる講義のまとめ。

第8回 既習の諸テーマについてのまとめ

予習内容 : 特になし。
復習内容 : 第2回から第7回までの既習部分についての復習。
復習時間 : 150分

既習の内容に関する確認と総括を行う。

第9回 テキスト Session 13, "The Myth of Uniqueness"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

O-Young Lee, The Myth of Uniqueness (1)

英文の精読と内容の詳解により、独自性についての日本人の独善的感覚を考察する。

第10回 テキスト Session 13, "The Myth of Uniqueness"

予習内容 : 未習部分の予習。
予習時間 : 150分
復習内容 : 既習部分の復習。
復習時間 : 60分

The Myth of Uniqueness (2)

承前。

第11回 テキスト Session 13, "The Myth of Uniqueness"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 150分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 90分

The Myth of Uniqueness (3)

承前。3回にわたる講義のまとめ。

第12回 テキスト Session 15, "China Now"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 150分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

China Now (TV Reports) (1)

英文の精読と内容の詳解により、現代中国の保守主義と西欧文明の相克について考察する。

第13回 テキスト Session 15, "China Now"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 150分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 60分

China Now (2)

承前。

第14回 テキスト Session 15, "China Now"

予習内容 : 未習部分の予習。

予習時間 : 150分

復習内容 : 既習部分の復習。

復習時間 : 90分

China Now (3)

承前。3回にわたる講義のまとめ。

第15回 既習の諸テーマについてのまとめ

予習内容 : 特になし。

復習内容 : 第9回から第14回までの既習部分の復習。

復習時間 : 150分

既習の内容に関する確認と総括を行う。

科目名：言語演習（英語） 4			
英文名：Language Seminar(English) 4			
担当者：服部 圭子 <small>ハットリ ケイコ</small>			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

TED TALKを扱ったテキストを用い、さまざまなテーマについて、その内容に関する語彙を学び、まとめた文章を読み解き、関連情報に触れたうえで、実際のプレゼンテーションを見聞きする。それらを通して、あるテーマに関して英語で意見を述べるために必要な知識や方法を学ぶ。決められた部分(セクションBやC)に関する予習は必ずすること。辞書は必ず持参すること。

なお、教育効果を考慮し、受講者調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は履修不可となります。

■学習・教育目標および到達目標

英語でのコミュニケーション時に扱われるさまざまなテーマに関する見識を深めるとともに、語彙力や英語表現力を向上させる。また、関連の内容について書かれた英語の文章を読んで大意が理解できるようになること、プレゼンテーションを見聞きして、内容が理解できるようになることを目標とする。リスニング力の向上を図ると同時に、ノートテイクの技術を高め、聞き取ったものをまとめて発表したり、関連のトピックについて調査したり自分自身の意見を述べたりする力を養成する。

この科目の修得は、学部ディプロマポリシー 5、近畿大学の教養教育の目的2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

発表およびプレゼンテーションの後、授業内で行います。

■教科書

[ISBN]978-1-337-10410-4 Keynote, David Bohlke (CENGAGE Learning)

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

言語演習（英語） 1・2・3

■成績評価方法および基準

小テスト等 30%

授業中の発表および課題等 30%

プレゼンテーション 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠しています。

■研究室・E-mailアドレス

服部研究室（2号館5階）・khattori@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜5限（その他の時間帯は、事前に予約してください）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、イントロダクション

(1)授業の進め方の説明

・授業の目標

・授業の計画

・指導方法

・評価方法

・予習、復習について

(2)受講に際しての注意事項

第2回 Unit 1 Passions

自己紹介、および音楽や映画のジャンルについて、自分の好みや関心が言えるように練習する。TED TALK "Bluegrass from New Jersey"を用いて学ぶ。

第3回 Unit2 Spending Habits

お金の使い方をテーマに、自分の癖や習慣についての表現を学ぶ。TED TALK m p "Wearing nothing new"を用いて、ボディランゲージについて考える。

第4回 Unit3 Caree Paths

インタビューの手法、仕事に関する表現を学ぶ。TED TALKの"The joy of surfing in ice-cold water"を用いて、プレゼンテーションの終わり方、オーディエンスへの感謝の述べ方について学ぶ。

第5回 Unit4 Talents

能力や才能に関する描写の仕方を学ぶ。TED TALKの"The orchestra in my mouth"を用いて、トピックの紹介の仕方を知る。

第6回 Unit5 Technology

ビデオ撮影時のドローンの利用をトピックに、物事の描写表現について学ぶ。TED TALKの"Fly wit the jetman"を用いて、ジェスチャーの効果的な使い方についても学ぶ。

第7回 Unit6 Challenges

日常的にチャレンジしていることやストレス対処法をテーマに、シークエンスの描写表現を学ぶ。TED TALKの"How I use sonar to navigate the world"を用いて、プレゼンテーションにおいて聴衆をいかに巻き込むかについて学ぶ。

第8回 Unit1 ~ Unit6のまとめ

Unit1 ~ Unit6で学んだ内容や表現、プレゼンテーションの技術などについて復習する。My keynote onlineの利用を確認する。

第9回 Unit7 Confidence

外見や性格の表現を行う。TED TALK "Why thinking you're ugly is bad for you" を用いて学ぶ。

第10回 Unit8 Wild Places

比較表現を学ぶ。TED TALK "Unseen footage, untamed nature"を用いる。

第11回 Unit9 Achievements

自分が育った地域の隣人に関する描写、提案の仕方などについて学ぶ。TED TALKの"How to revive a neighborhood"を用いて、キーポイントをまとめる方法を学習する。

第12回 Uni 1 0 Creative Cities

- ・テーマについて4人のモデルオピニオンを聞き、ディクテーションをして自分の意見を述べる参考にする。
- ・自分自身がそのテーマについて賛成か反対の立場かを論理的に深く考える
- ・自分の意見を論理的にまとめて述べる練習をし、グループやクラスでディスカッションをする

第13回 Unit6 ~ 1 0のまとめ

- ・「死刑制度の存続か基本的人権の擁護か？」をテーマにした英文を読み解き内容を把握する。
- ・テーマに関する有用な語彙や表現を学ぶ。
- ・テーマについて4人のモデルオピニオンを聞き、ディクテーションをして自分の意見を述べる参考にする。
- ・自分の意見を論理的にまとめて述べる練習をし、グループやクラスでディスカッションをする

第14回 まとめと発表(1)

- ・後期の授業で扱ったテーマのなかで自分をもっとも興味を持った社会問題についてリサーチをする。
- ・自分の主張を論理的に展開させ、説得力のある原稿を作成する。
- ・そのテーマに関してプレゼンテーションを行う。(質疑応答を含む)

第15回 まとめと発表(2)

- ・後期の授業で扱ったテーマのなかで自分をもっとも興味を持った社会問題についてリサーチをする。
- ・自分の主張を論理的に展開させ、説得力のある原稿を作成する。
- ・そのテーマに関してプレゼンテーションを行う。(質疑応答を含む)

科目名：言語演習（英語） 4			
英文名：Language Seminar(English) 4			
担当者： ^{ハタナカ カヨコ} 畠中 加代子			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

科学、異文化交流、音楽、伝統芸能など幅広い分野をテーマにした400語程度の英文を読み、情報を伝えたり、自らの考えを表現するのに必要な英語力を、語彙、文法、文章の論理的な関係などから養成する。聴解教材を用いたリスニング演習や、ライティング演習も行う。テキストの各ユニットは、内容理解を問う「Reading Comprehension」語彙表現を強化し、英作文の力を養う「Expression」、要約文を理解したり、リスニング力を養う「Summary Dictation」で構成されている。演習やディスカッションにおいてペアワークやグループワークを取り入れる。

- (1)辞書を必ず持参すること。(携帯電話の辞書アプリは使用不可)
- (2)随時単語・熟語テストを行う。

■学習・教育目標および到達目標

科学だけでなく、芸術や文化、今日性のある社会問題など様々な分野に関する英文に対する関心を養い、初・中級レベルの英語運用能力を習得することを目標とする。

- ・単語400語程度の英文を読み、内容を理解し、要旨をまとめることができる。
- ・各ユニットで学習した単語・熟語を自分のものとし、運用することができる。
- ・各ユニットの聴解教材の内容を英語で理解し、リスニング力を向上させる。
- ・単語や熟語の意味を理解するだけでなく、リスニングやスピーキング、ライティングによって正しい発音やスペリングを習得する。
- ・ユニットで扱う科学的なテーマに関して、英語でディスカッションをしたり、自分の考えを英語で記述することを目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案を返却し、重要事項を学生がペアワーク、またはグループワークにおいて議論した後、教員が解説する。

■教科書

[ISBN]978-4-88198-718-6 『Delightful Topics for Reading & Writing R&W中心型総合英語—異文化交流からモダンアートまで』(Rechard Carpenter, Mitsuru Yokoyama, Keizo Fukuda, Tomohiro Yamamoto, Chiyo Fujiwara, Nobumichi Kawada. 松柏社: 2016)

初回授業までに必ず購入しておくこと。

■参考文献

授業内で指示

■関連科目

言語演習（英語）1、2、3

■成績評価方法および基準

Oral Presentation 40%

小テスト 30%

課題（宿題含む）30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)

hatanaka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション / Introduction / 「パラグラフ・リーディングとは何か」

授業の進め方、遅刻や欠席、予習の仕方、評価などについて解説

英文読解、要約、ライティングの力を養うために必要な「パラグラフ・リーディング」について学ぶ。テキスト第一章の

英文を用いて演習する。

第2回 Chapter 1: Music hath Charms to Soothe a Savage Miso

発行食品製作にクラシック音楽を用いるという取り組みについての英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第3回 Chapter 2: In the Kitchen—Cultural Clashes in Britain

イギリスとアメリカの文化の違いについての英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第4回 Chapter 3: Kaleidoscope of the Heart: Shared Silence Is Sometimes the Best Medicine

実生活にも有効な精神医学についての英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第5回 Chapter 4: When Red Means Stop

交通安全と認知心理学者の理論についての英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第6回 Chapter 5: Is Modern Art Really Art?

モダンアートの芸術性についての英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第7回 Chapter 6: Lessons from a Late-Edo Intellectual on Intercultural Relations

幕末の思想家吉田松陰の異文化との向き合い方を扱った英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第8回 Chapter 7: Study: Green Space Around Schools May Boost Mental Abilities

自然と子供たちの知的能力の発達との関係を論じる英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第9回 Chapter 8: Circus Antics Bring Jews, Arabs Closer

中東問題におけるユダヤ人とアラブ人との歴史的対立の現状についての英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第10回 Chapter 9: The Noh Plays of Japan

日本の伝統芸能である能の歴史についての英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第11回 Chapter 10: Language: Like, Yikes!—Misunderstood Word

なじみ深い英単語にまつわる俗説と多義性についての英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第12回 Chapter 11: The Christmas Warrior

人間の共感が広まることが社会に大きな影響を及ぼす可能性についての英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに

に基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第13回 Chapter 12: I Am a Cat

夏目漱石の『吾輩は猫である』を英文で読み原作と違った面白さを味わう。内容を理解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第14回 Chapter 13: Can We Use Waste for Energy?

近年関心を寄せられているバイオ燃料についての英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

第15回 Chapter 14 & 15: Dying Professor's "Last Lecture"

カーネギーメロン大学コンピューター科学教授Randy Pausch教授が行った「最後の授業」についての英文を読解し、語彙を増やし、CDを聞いてリスニング力を養う。本文で使われている単語やイディオムを使って文章を作る練習を行う。パラグラフ・リーディングのルールに基づき、100語程度の要約文を作成し、CDを聞いて模範解答の要約文を使ったリスニング演習を行う。

Final Oral Presentation

科目名：言語演習（英語） 4			
英文名：Language Seminar(English) 4			
担当者：上村 <small>カミムラ</small> バックス <small>ナオミ</small> 尚美			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：集中	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

英語を手段として様々な内容の素材を解釈・理解したり、英語力そのものの向上のための訓練を演習形式で行う。授業には必ず辞書を持参すること。なお、教育効果を考慮し、受講者数調整のため、初日に抽選を行う場合がある。その際、初日を欠席した学生は、履修不可となる。

■学習・教育目標および到達目標

プロフェッショナルとして活動できるための英語をどのように習得するか、また、仕事に利用できるように言語ツールとリソースの使い方を学ぶ。コーパスの構築、コンコーダンスソフトの使い方、Websiteの活用方法を練習する。なお、教育効果を考慮し、受講者数調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可です。

■試験・課題に対するフィードバック方法

模範答案をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

授業内で指示します。

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

言語演習（英語） 1 2 3

■成績評価方法および基準

ポートフォリオ 50%

授業中の発表 30%

授業中の課題提出 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）：backes@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

Websiteの活用術

予習内容：英語による理工系分野のサイトを調査してURLを持参する。

予習時間：45分

復習内容：授業中に学習した理工系分野特有の表現などをまとめる。

復習時間：45分

理工系分野における英語の重要性や言語習得について講義する。

理工系分野特有の表現や理論構造をジャンルアプローチを用いて講義する。

第2回 科学技術分野の表現（数字、数式などの読み方）

予習内容：自分に関連した分野での数式など専門的表現を調査する。

予習時間：45分

復習内容：授業中に学習したものとともに数式などの表現をまとめる。

復習時間：45分

理工系分野では数式など英語に直訳すると誤訳になる場合が多く、英語ではどのように表現されるか発音も含めて学習する。

第3回 科学技術分野の専門用語の発音、文法など

予習内容 : 自分に関連した分野での専門的表現を調査する。

予習時間 : 45分

復習内容 : 授業中に学習したものととも専門用語などの表現をまとめる。

復習時間 : 45分

理工系では専門用語が頻出するが、専門用語を単体で学習するのではなく文中でどのように使用されるかを学習する。

第4回 コーパスでの発見(1)

予習内容 : 自分の関連分野の研究論文を5本選択する。

予習時間 : 45分

復習内容 : 共起表現を3件所定の書式でまとめる。

復習時間 : 45分

コーパスソフトを用いて共起表現の分析の手法を学習する。

第5回 コーパスでの発見(2)

予習内容 : 選択した研究論文をテキストファイルに保存する。

予習時間 : 45分

復習内容 : 共起表現を3件所定の書式でまとめる。

復習時間 : 45分

第6回 Websiteを利用しての発表練習(1)

一般的な会話でペア練習

予習内容 : オンライン音声教材で会話文を検索する。

予習時間 : 45分

復習内容 : 会話文をシャドーイング練習し、録音する。

復習時間 : 45分

第7回 Websiteを利用しての発表練習(2)

スピーチなどのモノローグ練習

予習内容 : オンライン音声教材でスピーチを検索する。

予習時間 : 45分

復習内容 : スピーチをシャドーイング練習し、録音する。

復習時間 : 45分

第8回 Websiteを利用しての発表練習(3)

科学技術ニュースの伝え方

予習内容 : 科学技術ニュースを3本検索する。

予習時間 : 45分

復習内容 : 科学技術ニュースをシャドーイング練習し録音する。

復習時間 : 45分

第9回 Websiteを利用しての発表練習(4)

NatureやScience Podcastなどのrecitation

予習内容 : Podcastsを視聴する。

予習時間 : 45分

復習内容 : Podcastsを1～2分間分を暗記し録音する。

復習時間 : 45分

第10回 Websiteを利用しての発表練習(5)

研究分野のPodcast的な紹介

- 予習内容 : 自分の研究分野に近いPodcastsを検索する。
- 予習時間 : 45分
- 復習内容 : 自分の研究分野の紹介をPodcast的にレポートする。
- 復習時間 : 45分

第11回 論文のジャンル分析 (タイトル)

- 予習内容 : 研究論文を5本選ぶ。
- 予習時間 : 45分
- 復習内容 : 授業中に学習したようにタイトルを所定の書式にまとめる。
- 復習時間 : 45分

第12回 論文のジャンル分析 (要旨)

- 予習内容 : 選択した研究論文のタイトルと要旨の部分を分類する。
- 予習時間 : 45分
- 復習内容 : 授業中に学習したように要旨を所定の書式にまとめる。
- 復習時間 : 45分

第13回 論文のジャンル分析 (実験方法)

- 予習内容 : 選択した研究論文の実験方法の部分を分類する。
- 予習時間 : 45分
- 復習内容 : 授業中に学習したように実験方法を所定の書式にまとめる。
- 復習時間 : 45分

第14回 論文のジャンル分析 (結果、考察)

- 予習内容 : 選択した研究論文の結果と考察の部分を分類する。
- 予習時間 : 45分
- 復習内容 : 授業中に学習したように結果と考察を所定の書式にまとめる。
- 復習時間 : 45分

第15回 研究分野の発表

- 予習内容 : 自分の研究分野の紹介をどのようにまとめるか考えてくる。
- 予習時間 : 45分
- 復習内容 : 自分の研究分野の紹介を背景、先行研究、現在注目されている研究などをもとに準備する。
- 復習時間 : 45分

科目名：理系英語3（コンプリヘンション）			
英文名：Science English (Comprehension) 3			
担当者： <small>ハタナカ カヨコ</small> 畠中 加代子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

私たちの未来に影響を与える科学テーマに関する英文のエッセイを題材にしたテキストを使用し、科学エッセイの読解に重点をおいた学習をおこないます。各ユニットでは、語彙学習、本文のエッセイの読解、内容理解を確認する練習問題、役に立つ表現を用いたライティングの練習を中心に授業を進めます。単語・熟語の小テストを随時おこないます。授業には必ず辞書を持参してください。

■学習・教育目標および到達目標

総合的な英語力の向上と科学英語への関心を養うことを本授業の教育目標とします。

- ・平易な英語400～500語で書かれた科学英文を読み、内容を理解できる。
- ・本文で使われている語彙や表現を理解し、それらを運用することができる。
- ・本文のトピックに関連した他の英文記事やエッセイを読み、理解することができる。
- ・科学の分野で使用される技術英語の語彙力を増進させる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案を掲示板に掲載します。

■教科書

Science Wisdom (石井 隆之・梶山 宗克・Joe Ciunci) 成美堂、[ISBN]978-4-7919-3382-2

■参考文献

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案を掲示板に掲載します。

■関連科目

理系英語4C

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・hatanaka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、Chapter1: Animal's Sleeping Hours（前半）

予習内容：辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間：60分

復習内容：英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間：30分

(1) シラバスについて説明（授業の目標、授業計画、授業方法、評価方法）

(2) 受講に際しての注意事項

(3) Chapter1（前半）

・地球上の生物の睡眠時間に焦点をあてた英文を読み解く。

・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第2回 Chapter1: Animal's Sleeping Hours（後半）

予習内容：Exerciseに取り組む。

予習時間：30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第3回 Chapter2: The Mechanism of Hiccups (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・しゃっくりの起こる原因に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第4回 Chapter2: The Mechanism of Hiccups (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組み。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第5回 Chapter3: The Taste of Tears (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・人が味を感じたり涙を流すメカニズムに焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Chapter1&2 単語・熟語小テスト

第6回 Chapter3: The Taste of Tears (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組み。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第7回 Chapter4: Male Brains and Female Brains (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・男性と女性の脳のちがいに焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第8回 Chapter4: Male Brains and Female Brains (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組み。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第9回 Chapter5 : Light from Fireflies (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。
- 復習時間 : 30分
- ・光を発する蛍に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Chapter3&4 単語・熟語小テスト

第10回 Chapter5 : Light from Fireflies (後半)

- 予習内容 : Exerciseに取り組む。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第11回 Chapter6: Merits and Demerits of Pyramids (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。
- 復習時間 : 30分
- ・ピラミッドの建造がもたらした功罪に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第12回 Chapter6: Merits and Demerits of Pyramids (後半)

- 予習内容 : Exerciseに取り組む。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第13回 Chapter7: The Birth of the Hawaiian Islands (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。
- 復習時間 : 30分
- ・海底火山であるハワイ諸島の誕生に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Chapter5&6 単語・熟語小テスト

第14回 Chapter7: The Birth of the Hawaiian Islands (後半)

- 予習内容 : Exerciseに取り組む。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第15回 Chapter8: Bees and the Extinction of Man

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・ミツバチの蜂群崩壊症候群(CCD)に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

- ・ CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・ Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・ トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

定期試験

科目名：理系英語3（コンプリヘンション）			
英文名：Science English (Comprehension) 3			
担当者：澤邊 興平 <small>サワベ コウヘイ</small>			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

- ・伝統ある科学雑誌Scienceのオンライン版掲載の記事を題材にしたテキストを使用し、理論的展開が明快な科学エッセイの読解に重点を置いた学習を行います。
- ・授業中に各受講生の担当課題範囲を決め翌週に発表してもらう形式なので、積極的に授業に参加してください。
- ・授業には辞書を必ず持参しましょう。

■学習・教育目標および到達目標

科学英語への関心と実践的英語力の向上を養うことを本授業の教育目標とします。

- ・中級レベル以上の科学英文を読み、内容を理解できる。
- ・本文で使われている単語や熟語を理解し、それらを自分のものとして使うことができる。
- ・本文に関連した内容の英文を読み、理解することができる。
- ・本文に関連した内容の英文で使われている科学英語の語彙力を向上させる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間内に課題担当者の答案を基に模範解答を板書として提示します。

■教科書

Science Fair：『Science』で読む科学の世界
 (野崎・松本・クレアリー 南雲堂：2012) ISBN978-4-523-17698-5
 初回授業時までに購入しておくこと。(コピー不可)
 この他、必要に応じて授業中にプリントを配布します。

■参考文献

授業にて指示します。

■関連科目

理系英語4（コンプリヘンション）

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
 小テスト 20%
 発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・ksawabe@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

授業時限前後の休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、ウォームアップ

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題

受講に際しての注意事項

- ・欠席／遅刻について
- ・忘れ物（テキスト・辞書）について
- ・携帯電話の使用制限について
- ・定期試験について
- ・総合評価について

その他、受講に関する注意点について

第2回 Unit1 : Why Diets Fail (前半)

- ・なぜダイエットが難しいのかについての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第3回 Unit1 : Why Diets Fail (後半)

- ・なぜダイエットが難しいのかについての英文を読み解く (前回の続き)。
- ・食事療法についての他の事例を英語で読む。

第4回 Unit2 : Dance Moves (前半)

- ・ダンスの動きの魅力に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第5回 Unit2 : Dance Moves (後半)

- ・ダンスの動きの魅力に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・運動やスポーツに関する他の事例を英語で読む。

第6回 Unit3 : The Origins of Tidiness (前半)

- ・整理整頓の人類史的起源に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第7回 Unit3 : The Origins of Tidiness (後半)

- ・整理整頓の人類史的起源に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・初期人類についての他の事例を英語で読む。
- ・整理整頓の人類史的起源に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・初期人類についての他の事例を英語で読む。

第8回 Unit4 : Malagasy Spiders (前半)

- ・蜘蛛の糸の研究と応用に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第9回 Unit4 : Malagasy Spiders (後半)

- ・蜘蛛の糸の研究と応用に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・蜘蛛についての他の事例を英語で読む。

第10回 Unit5 : Goodbye to Sunspots? (前半)

- ・太陽黒点減少についての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第11回 Unit5 : Goodbye to Sunspots? (後半)

- ・太陽黒点減少についての英文を読み解く (前回の続き)。
- ・太陽黒点についての他の事例を英語で読む。

第12回 Unit6 : The Moon's Phase Affects Rainfall (前半)

- ・月の周期と降水量の関係に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第13回 Unit6 : The Moon's Phase Affects Rainfall (後半)

- ・月の周期と降水量の関係に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・降水や気象に関する他の事例を英語で読む。

第14回 Unit7 : Safe Passage for Salmon (前半)

- ・ 鮭の稚魚にやさしい河川についての英文を読み解く。
- ・ 本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第15回 Unit7 : Safe Passage for Salmon (後半)

- ・ 鮭の稚魚にやさしい河川についての英文を読み解く (前回の続き)。
- ・ 河川や自然環境に関する他の事例を英語で読む。

定期試験

科目名：理系英語3（コンプリヘンション）			
英文名：Science English (Comprehension) 3			
担当者： <small>メグミ タツジロウ</small> 恵 達二郎			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

「科学は、コミュニケーションでできている」という考えを軸にした「サイエンス・コミュニケーション」の教本を使用します。英文を読み、聞き、理解するだけでなく、学習した英文を参考にしながら、自分の意見や考えを「人にわかりやすく」さらに「論理的に」書けるまでに発展させる学習を行います。前期では、教本のUnit1～7まで後期では、Unit8～15を学習します。各ユニットは、それぞれの主題に沿って、基本的な語彙を想起させる「Warming Up」、文法事項の復習を行う「Science Communicationに必要な英文法」、400～450字程度の文章を読み解き、内容確認と語彙・文法問題に解答する「Reading」、基礎力を培う演習で構成された「ライティングの授業」の4つのパートで構成されています。2回の講義で1ユニットを終えます。各ユニットの終了回で、該当ユニットの小テストを行います。授業ではペア・ワークやグループ・ワークも行います。辞書（電子辞書も含む）は必ず持参してください。スマートフォンや携帯電話での検索・辞書アプリは原則使用禁止とします。

■学習・教育目標および到達目標

基礎英語を確認・演習することで基本的な英語力を向上させるとともに、読み物を通じて科学的な考えを意識し、今日の科学技術も人間のコミュニケーション力の上に成立してきていることへの関心を培うことを、本授業の教育目標とします。

- ・辞書の使い方に習熟し、読解や作文において有効に活用することができる。
- ・学習した語彙・文法をもとに、400～450字程度の科学的な内容の英文を読み、解き理解できる。
- ・学習した内容をもとに、400～450字程度の科学的な英文を聞き、理解することができる。
- ・学習した語彙・文法・慣用句を、自分から発信する表現に応用して用いることができる。
- ・科学におけるコミュニケーションの大切さへの理解を深める。
- ・科学的な小論文を論じ、短い英文を書くことができる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各小テストを採点し、次回の授業にて返却し、解説を行う。

■教科書

[ISBN]978-4-255-15579-1 Science Communication in English Mari Taniguchi Asahi Press

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

理系英語4（コンプリヘンション）

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

口頭発表および課題 30%

小テスト 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階（講師控室）tatsujiro1188@yahoo.co.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- ・予習（必須）
- ・授業中に指示された課題

第1回 オリエンテーションおよびPreview

第2回 Unit 1:Science and Communication（前半）

第3回 Unit 1: Science and Communication (後半)

小テスト実施

第4回 Unit 2 : Engineered Sakura (前半)

第5回 Unit 2 : Engineered Sakura (前半)

小テスト 実施

第6回 Unit 3 : Science Is for Evreyone (前半)

第7回 Unit 3 : Science Is for Evreyone (後半)

小テスト 実施

第8回 Unit 4 : Galileo and Sciense Communicatiin (前半)

第9回 Unit 4 : Galileo and Sciense Communicatiin (後半)

小テスト 実施

第10回 Unit 5 : What Is Information? (前半)

第11回 Unit 5 : What Is Information? (後半)

小テスト 実施

第12回 Unit 6 : The Advent of Writing (前期)

第13回 Unit 6 : The Advent of Writing (後半)

小テスト 実施

第14回 Unit 7 : Leonardo da Vinci's Perspective (前期)

第15回 Unit 7 : Leonardo da Vinci's Perspective (後期)

定期試験

科目名：理系英語 4 (コンプリヘンション)			
英文名：Science English (Comprehension) 4			
担当者： <small>ハタナカ カヨコ</small> 畠中 加代子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

私たちの未来に影響を与える科学テーマに関する英文のエッセイを題材にしたテキストを使用し、科学エッセイの読解に重点をおいた学習をおこないます。各ユニットでは、語彙学習、本文のエッセイの読解、内容理解を確認する練習問題、役に立つ表現を用いたライティングの練習を中心に授業を進めます。単語・熟語の小テストを随時おこないます。授業には必ず辞書を持参してください。

■学習・教育目標および到達目標

総合的な英語力の向上と科学英語への関心を養うことを本授業の教育目標とします。

- ・平易な英語400～500語で書かれた科学英文を読み、内容を理解できる。
- ・本文で使われている語彙や表現を理解し、それらを運用することができる。
- ・本文のトピックに関連した他の英文記事やエッセイを読み、理解することができる。
- ・科学の分野で使用される技術英語の語彙力を増進させる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案を掲示板に掲載します。

■教科書

Science Wisdom (石井 隆之・梶山 宗克・Joe Ciunci) 成美堂、[ISBN]978-4-7919-3382-2

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

理系英語 3 C

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠しています。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・hatanaka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、Chapter9: Herbivorous Horns（前半）

予習内容：辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間：60分

復習内容：英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間：30分

(1) シラバスについて説明（授業の目標、授業計画、授業方法、評価方法）

(2) 受講に際しての注意事項

(3) Chapter 9（前半）

・草食動物になぜ角がはえているのかに焦点をあてた英文を読み解く。

・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第2回 Chapter9: Herverous Horns（後半）

予習内容：Exerciseに取り組む。

予習時間：30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第3回 Chapter10: Sunflowers and the Sun (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・ひまわりが太陽を追うメカニズムに焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第4回 Chapter10: Sunflowers and the Sun (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組み。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第5回 Chapter11: Trees of Greatness and the Greatness of Trees (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・人が森からうける恩恵に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Chapter9&10 単語・熟語 小テスト

第6回 Chapter11: Trees of Greatness and the Greatness of Trees (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組み。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第7回 Chapter12: Living Fossils (前半)

予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。

予習時間 : 60分

復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。

復習時間 : 30分

- ・生きた化石の5つの区分に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第8回 Chapter12: Living Fossils (後半)

予習内容 : Exerciseに取り組み。

予習時間 : 30分

復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。

復習時間 : 60分

- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exerciseに取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第9回 Chapter13: Electric Cars VS Hydrogen Cars (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。
- 復習時間 : 30分
- ・電気自動車と水素自動車の長所と短所に焦点を当てた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Chapter11&12 単語・熟語 小テスト

第10回 Chapter13: Electric Cars VS Hydrogen Cars (後半)

- 予習内容 : Exerciseに取り組む。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第11回 Chapter14: The Future of Smartphones (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。
- 復習時間 : 30分
- ・スマートフォンの将来的な進化に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。

第12回 Chapter14: The Future of Smartphones (後半)

- 予習内容 : Exerciseに取り組む。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第13回 Chapter15: Technology Learned from Animals (前半)

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文の各パラグラフのアウトラインをまとめる。
- 復習時間 : 30分
- ・科学技術に应用されている動物のさまざまな能力に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける。
- ・Chapter13&14 単語・熟語 小テスト

第14回 Chapter15: Technology Learned from Animals (後半)

- 予習内容 : Exerciseに取り組む。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

第15回 Chapter16: Rainfall by Laser

- 予習内容 : 辞書を用いて、英文の大意をつかむ。
- 予習時間 : 60分
- 復習内容 : 英文を英語で要約し自分のコメントを付け加える。
- 復習時間 : 60分
- ・科学の力で雨を降らす技術に焦点をあてた英文を読み解く。
- ・本文中の単語・熟語・文の構造を理解し、使用頻度の高い表現を身につける

- ・ CDを使って本文のリスニングやシャドーイングを行い、英語の発音のルール・リズム・イントネーションを身につける。
- ・ Exercise に取り組み、英語の4技能を高める。
- ・ トピックに関する他の事例の英文を読んだり聞いたりして、理解を深める。

定期試験

科目名：理系英語 4 (コンプリヘンション)			
英文名：Science English (Comprehension) 4			
担当者：澤邊 興平 <small>サワベ コウヘイ</small>			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

- ・伝統ある科学雑誌Scienceのオンライン版掲載の記事を題材にしたテキストを使用し、理論的展開が明快な科学エッセイの読解に重点を置いた学習を行います。
- ・授業中に各受講生の担当課題範囲を決め翌週に発表してもらう形式なので、積極的に授業に参加してください。
- ・授業には辞書を必ず持参しましょう。

■学習・教育目標および到達目標

科学英語への関心と実践的英語力の向上を養うことを本授業の教育目標とします。

- ・中級レベル以上の科学英文を読み、内容を理解できる。
- ・本文で使われている単語や熟語を理解し、それらを自分のものとして使うことができる。
- ・本文に関連した内容の英文を読み、理解することができる。
- ・本文に関連した内容の英文で使われている科学英語の語彙力を向上させる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に課題担当者の答案を基に模範解答を作成して板書で提示します。

■教科書

Science Fair：『Science』で読む科学の世界
 (野崎・松本・クレアリー 南雲堂：2012) ISBN978-4-523-17698-5
 初回授業時まで購入しておくこと。(コピー不可)
 この他、必要に応じて授業中にプリントを配布します。

■参考文献

授業にて指示します。

■関連科目

理系英語 3 (コンプリヘンション)

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
 小テスト 20%
 口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階)・ksawabe@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

授業時限前後の休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、ウォームアップ、Unit8：Human Mobility Research (前半)

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題

受講に際しての注意事項

- ・欠席／遅刻について
- ・忘れ物 (テキスト・辞書) について
- ・携帯電話の使用制限について
- ・定期試験について
- ・総合評価について

Unit8：Human Mobility Research (前半)

- ・人の移動性向の分析についての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第2回 Unit8 : Human Mobility Research (後半)

- ・人の移動性向の分析についての英文を読み解く (前回の続き)。
- ・社会における人の行動に関する他の事例を英語で読む。

第3回 Unit9 : Alien Gases in the atmosphere (前半)

- ・大気中の地球外由来の気体に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第4回 Unit9 : Alien Gases in the atmosphere (後半)

- ・大気中の地球外由来の気体に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・地球の起源 に関する他の事例を英語で読む。

第5回 Unit10 : Altitude Doping (前半)

- ・高地順応トレーニングに関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第6回 Unit10 : Altitude Doping (後半)

- ・高地順応トレーニングに関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・ドーピングに関する他の事例を英語で読む。

第7回 Unit11 : Flocks of Pigeons (前半)

- ・鳩の集団のリーダーについての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第8回 Unit11 : Flocks of Pigeons (後半)

- ・鳩の集団のリーダーについての英文を読み解く (前回の続き)。
- ・動物心理についての他の事例を英語で読む。

第9回 Unit12 : Japanese Guts (前半)

- ・日本人の腸内細菌についての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第10回 Unit12 : Japanese Guts (後半)

- ・日本人の腸内細菌についての英文を読み解く (前回の続き)。
- ・腸内細菌についての他の事例を英語で読む。

第11回 Unit13 : Cats' Tongues (前半)

- ・猫の水の飲み方に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第12回 Unit13 : Cats' Tongues (後半)

- ・猫の水の飲み方に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・動物の行動に関する他の事例を英語で読む。

第13回 Unit14 : Groundwater Disappearance (前半)

- ・地下水の消滅とその観測に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第14回 Unit14 : Groundwater Disappearance (後半)

- ・地下水の消滅とその観測に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・自然環境の変化についての他の事例を英語で読む。

第15回 Unit15 : A Greener Way to Make Plastic

- ・バイオマスをプラスチック製造に活用することについての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

定期試験

科目名：理系英語 4 (コンプリヘンション)			
英文名：Science English (Comprehension) 4			
担当者： <small>メグミ タツジロウ</small> 恵 達二郎			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

「科学は、コミュニケーションでできている」という考えを軸にした「サイエンス・コミュニケーション」の教本を使用します。英文を読み、聞き、理解するだけでなく、学習した英文を参考にしながら、自分の意見や考えを「人にわかりやすく」さらに「論理的に」書けるまでに発展させる学習を行います。前期では、教本のUnit1～7まで後期では、Unit8～15を学習します。各ユニットは、それぞれの主題に沿って、基本的な語彙を想起させる「Warming Up」、文法事項の復習を行う「Science Communicationに必要な英文法」、400～450字程度の文章を読み解き、内容確認と語彙・文法問題に解答する「Reading」、基礎力を培う演習で構成された「ライティングの授業」の4つのパートで構成されています。2回の講義で1ユニットを終えます。各ユニットの終了回で、該当ユニットの小テストを行います。授業ではペア・ワークやグループ・ワークも行います。辞書（電子辞書も含む）は必ず持参してください。スマートフォンや携帯電話での検索・辞書アプリは原則使用禁止とします。

■学習・教育目標および到達目標

基礎英語を確認・演習することで基本的な英語力を向上させるとともに、読み物を通じて科学的な考えを意識し、今日の科学技術も人間のコミュニケーション力の上に成立してきていることへの関心を培うことを、本授業の教育目標とします。

- ・辞書の使い方に習熟し、読解や作文において有効に活用することができる。
- ・学習した語彙・文法をもとに、400～450字程度の科学的な内容の英文を読み、解き理解できる。
- ・学習した内容をもとに、400～450字程度の科学的な英文を聞き、理解することができる。
- ・学習した語彙・文法・慣用句を、自分から発信する表現に応用して用いることができる。
- ・科学におけるコミュニケーションの大切さへの理解を深める。
- ・科学的な小論文を論じ、短い英文を書くことができる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各小テストを採点し、次回の授業にて返却し、解説を行う。

■教科書

[ISBN]978-4-255-15579-1 Science Communication in English Mari Taniguchi Asahi Press

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

理系英語 3 (コンプリヘンション)

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

口頭発表および課題 30%

小テスト 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階（講師控室）tatsujiro1188@yahoo.co.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- ・予習（必須）
- ・授業中に指示された課題

第1回 Unit 8:Scientific Insight into Colors（前半）

小テスト 実施

第2回 Unit 8:Scientific Insight into Colors（後半）

小テスト 実施

第3回 Unit 9:Science Communication Activity (前半)

小テスト 実施

第4回 Unit 9:Science Communication Activity (後半)

小テスト 実施

第5回 Unit 10:Into the Future (前半)

小テスト 実施

第6回 Unit 10:Into the Future (後半)

小テスト 実施

第7回 Unit 11:Communication through Occupation (前半)

小テスト 実施

第8回 Unit 11:Communication through Occupation (後半)

小テスト 実施

第9回 Unit 12:The Hope of and Anxiety over Robots and Automation (前半)

小テスト 実施

第10回 Unit 12:The Hope of and Anxiety over Robots and Automation (後半)

小テスト 実施

第11回 Unit 13:Technoloigy and Gambling Addiction (前半)

小テスト 実施

第12回 Unit 13:Technoloigy and Gambling Addiction (後半)

小テスト 実施

第13回 Unit 14:Cats and Snacks in Rome (前半)

小テスト 実施

第14回 Unit 14:Cats and Snacks in Rome (後半)

小テスト 実施

第15回 Unit 15:Water Crisis (前半)

定期試験

科目名：理系英語3（プレゼンテーション）			
英文名：Science English (Presentation) 3			
担当者： <small>ハットリ ケイコ</small> 服部 圭子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

英語でのプレゼンテーションに関する知識とスキルを、テキストやモデルスピーチによる実例を通して学んでいきます。英語の運用能力の向上を念頭に、プレゼンテーションの準備、発表、評価を繰り返す中で段階的に実践的なプレゼンテーションのスキルを育成することを目指します。なお、教育効果を考慮し、受講者調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可となります。

■学習・教育目標および到達目標

英語でのプレゼンテーションに関する知識とスキルをを学び、英語の運用能力を高めながら、論理的で説得力のあるプレゼンテーションをおこなう実践力を身につけることを目標とします。この科目の修得は、学部ディプロマポリシー 5、近畿大学の教養教育の目的2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

プレゼンテーション発表については、授業内で実施します。試験については、試験時間の最後に回答提示します。

■教科書

[ISBN] 978-1-107-43578-0 Present Yourself:second edition, Steven Gershon(Cambridge University Press)

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

理系英語4(プレゼンテーション)

■成績評価方法および基準

定期試験 40%
 プレゼンテーション 30%
 課題等の提出 20%
 小テスト 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

服部研究室（2号館5階）khattori@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜日5限（その他の時間帯は必ず予約すること）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーションと英語プレゼンテーションの基礎

- (1)授業の進め方を説明する。
 - ・授業の目的
 - ・授業計画
 - ・指導方法
 - ・評価方法
- (2)テキストとDVD等を使ってプレゼンテーションの基礎を説明する。
 - ・プレゼンテーションに関する基本的な知識
 - ・プレゼンテーションの準備のしかた
 - ・プレゼンテーションの実行

第2回 Getting Ready

オーディエンスのことを把握する。これまでのプレゼンテーションの経験についてペアで話す。準備の過程を確認し、自己紹介に関して自身でブレーンストーミングをする。

第3回 Giving your presentation

プレゼンテーション時に大切なテクニックの要素を確認する。各々自己紹介をする。

第4回 Unit1 A person to admire(1)

人物描写、ある人の背景や歴史の説明の仕方について学ぶ。

第5回 Unit1 A person to admire(2)

Malalaについて発表する場合の観点について整理し、アウトラインを考える。実際のプレゼンテーションのDVDを見て聞き取り、プレゼンテーションの開始・終了方法、ノートカードの準備について学ぶ。

第6回 Unit1 A person to admire(3)

予習内容：自己紹介を考える。

アイコンタクトについて学び、練習を行い、各自順番に3分間のプレゼンテーションをおこなう。(質疑応答の時間も設ける。)他のクラスメートは評価シートを使ってすべてのプレゼンテーションの評価をし、コメントを書く。

第7回 Unit2 A great vacation idea(1)

旅行に関するインタビューを行い、目的地を決めて旅行プランを立てる。旅行先について述べる際の表現を学ぶ。

第8回 Unit2 A great vacation idea(2)

旅行のアイデア作成過程、プレゼンテーションのアウトラインの作成過程を、アンディの例から学ぶ。そして、各々の発表アイデアを練る。また、オーディエンスへの質問の仕方や結論の述べ方について学ぶ。

第9回 Unit2 A great vacation idea(3)

予習内容：休暇に行きたいところについてパソコンで調べ、パワーポイントを利用し、グループで発表する準備を行う。ボディーランゲージについて学び、グループ内で練習を行い、タイムを計る。順番に各グループがプレゼンテーションをおこなう。(質疑応答の時間を設ける。)他のクラスメートは評価シートを使ってすべてのプレゼンテーションの評価をし、それぞれコメントを書く。

第10回 Unit3 Young people today(1)

調査の仕方について学び、クラス内で簡単な調査を行う。そして、その結果の提示・発表の仕方を学ぶ。

第11回 Unit3 Young people today(2)

表やグラフを用いて結果を提示する方法を学ぶ。Young people and technologyに関するモデルプレゼンテーションを見て、調査データの示し方やプレゼンテーションの構成を確認する。

第12回 Unit3 Young people today(3)

Power Pointの操作(表の追加等)を学ぶ。重要なポイントの強調方法について考える。これまでのモデルプレゼンテーションを見直し、活用できる語彙や表現について確認し、チェックポイントに留意して、各自テーマを決めてプレゼンテーションの原稿準備をし、スライドを作成・点検し、発表準備を行う。

第13回 プレゼンテーション(1)

プレゼンテーションの前に、ペアやグループでリハーサルをおこなう。(アイコンタクト、声の抑揚やゲスチャーなどの身体的メッセージの効果を意識する)順番に各自5分程度のプレゼンテーションをおこなう。(質疑応答の時間を設ける。)他のクラスメートは評価シートをつかって、すべてのプレゼンテーションの評価をし、それぞれコメントを書く。

第14回 プレゼンテーション(2)

プレゼンテーションの前に、ペアやグループでリハーサルをおこなう。(アイコンタクト、声の抑揚やゲスチャーなどの身体的メッセージの効果を意識する)順番に各自5分程度のプレゼンテーションをおこなう。(質疑応答の時間を設ける。)他のクラスメートは評価シートをつかって、すべてのプレゼンテーションの評価をし、それぞれコメントを書く。

第15回 英語プレゼンテーションのまとめ

各々の発表に対する評価やコメントを参考に、プレゼンテーションのフィードバックをおこなう。自分プレゼンテーション

を振り返り、自己評価をする。「プレゼンテーションを成功させるために何が大事か」についてディスカッションをする。
前期の授業の総括をする。

定期試験

科目名：理系英語3（プレゼンテーション）			
英文名：Science English (Presentation) 3			
担当者： ^{ヤタ ヒロコ} 矢田 寛子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

役に立つ情報や自分の考えを英語で表現し、それを伝えるプレゼンテーション技能を育成する。DVDにより実例を視聴し、効果的なスキルを身に付ける。英語力を強化しつつ、プレゼンテーションの準備・発表を行い実践力を養成する。

■学習・教育目標および到達目標

プレゼンテーションの目的に合わせて、効果的な構成・技能を育成することを目標とする。段階的にスキルを高めながら、収集した情報と自分の考えを構成し発信力のあるプレゼンテーションを行えるようになることを到達目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

SPEAKING of SPEECH New Edition (MACMILLAN) [ISBN]9784777362714

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

理系英語4(プレゼンテーション)

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

プレゼンテーション 30%

小テスト 10%

課題等の提出物 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）hiyata@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。（他の時間帯は予約すること）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、Unit 1 Speech Skill 1

目標・方法・授業の進め方等の説明

・発表、小テスト、定期試験、評価

・受講に際しての注意事項

The Three Messages in a Speech

The PhysicalMessage

・Practice (Pairwork)

Posture and Eye Contact

・Practice

第2回 Unit 1 Informative Speech

・Speech Type

・Speech Skill

Model: DVD Episode 1

・First Viewing

・Second Viewing

Model Script

Model Power Point

Speech Plan

第3回 Unit 1 Speech Preparation

STEP 1: Ideas ("SEE," "DO," "EAT" and "GETTING AROUND")

STEP 2: Script Writing

STEP 3: Script Check

第4回 Unit 1 プレゼンテーションの準備

- ・パワーポイント作成
- ・Practice (Posture, Eye Contact, Memorization)

第5回 Unit 1 プレゼンテーション: 発表1

- ・リハーサル
- ・評価表
- ・発表、質疑応答、コメント

第6回 Unit 1 プレゼンテーション: 発表2

- ・リハーサル
- ・評価表
- ・発表、質疑応答、コメント

第7回 小テスト、Unit 2 Speech Skill 2

- ・小テスト実施
- Gestures
- ・Number / Sequence
 - ・Emphasis / Focus
 - ・Illustration / Location
 - ・Comparison / Contrast

第8回 Unit 2 Layout Speech

- ・Speech Type
 - ・Speech Skill
- Model: DVD Episode 2
- ・First Viewing
 - ・Second Viewing
- Model Script
Model Power Point
Speech Plan

第9回 Unit 2 Speech Preparation

STEP 1: Ideas

STEP 2: Script Writing

STEP 3: Script Check

第10回 Unit 2 プレゼンテーションの準備

- ・パワーポイント作成
- ・Practice (Gestures, Memorization)

第11回 Unit 2 プレゼンテーション: 発表1

- ・リハーサル
- ・評価表
- ・発表、質疑応答、コメント

第12回 Unit 2 プレゼンテーション: 発表2

- ・リハーサル
- ・評価表

- ・発表、質疑応答、コメント

第13回 Unit 3 Speech Skill 3

Voice Inflection

- ・ Stressing
- ・ Stretching
- ・ Pausing

第14回 Unit 3 Demonstration Speech

- ・ Speech Type
- ・ Speech Skill

Model: DVD Episode 3

- ・ First Viewing
- ・ Second Viewing

Voice Inflection

第15回 Unit 3 Demonstration Speech

Script

- ・ Filling blanks
- ・ Voice Inflection Check
- ・ Practice

定期試験

科目名：理系英語3（プレゼンテーション）			
英文名：Science English (Presentation) 3			
担当者： <small>ヨシカワ ユウスケ</small> 吉川 裕介			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

英語で自らの意見を適切に他者に伝えるためのプレゼンテーション技能を習得する。テキストや視聴覚教材を通して良いプレゼンテーションと悪いプレゼンテーションとの違いを理解し、論理的で説得力のあるプレゼンテーションを行う実践力を養成する。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語4(プレゼンテーション)」と合わせて、英語で自らの意見をまとめ、発信するプレゼンテーション技能を育成する。基礎的となる英語の運用能力も高めながら、論理的で実践的なプレゼンテーション技能を身につけることを到達目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案を返却し、解説します。

■教科書

『Present yourself 2 (2nd edition)』(Steven Gershon: Cambridge University Press) [ISBN]978-1107435780

■参考文献

授業にて指示します。

■関連科目

理系英語4(プレゼンテーション)

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

プレゼンテーション 30%

小テスト 10%

課題等の提出物 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

吉川研究室（2号館5階514）y-yoshikawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日4限(その他の時間は必ず予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション, Getting Ready

授業に関する概要説明と必要事項の伝達

第2回 Unit 1: A person to admire

Exploring the topic

第3回 Unit 1: A person to admire

Organizing ideas

第4回 Unit 1: Getting ready for a presentation

Adding impact and developing presentation techniques

第5回 Unit 1: Presentation & Feedback

Give a presentation about a person you admire

第6回 Unit 2: A great vacation idea

Exploring the topic

第7回 Unit 2: A great vacation idea

Organizing ideas

第8回 Unit 2: Getting ready for a presentation

Adding impact and developing presentation techniques

第9回 Unit2: Presentation & Feedback

Give a presentation about a vacation you recommend

第10回 小テスト、Unit 3: Young people today

Review test

第11回 Unit 3: Young people today

Exploring the topic

第12回 Unit 3: Young people today

Organizing ideas

第13回 Unit 3: Getting ready for a presentation

Adding impact and developing presentation techniques

第14回 Unit3: Presentation & Feedback

Conduct a survey and report the results

第15回 英語プレゼンテーションのまとめ

Feedback

定期試験

科目名：理系英語 4（プレゼンテーション）			
英文名：Science English (Presentation) 4			
担当者： <small>ハットリ ケイコ</small> 服部 圭子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

英語でのプレゼンテーションに関する知識とスキルを、テキストやモデルスピーチによる実例を通して学んでいきます。英語の運用能力の向上を念頭に、プレゼンテーションの準備、発表、評価を繰り返す中で段階的に実践的なプレゼンテーションのスキルを育成することを目指します。なお、教育効果を考慮し、受講者調整のため、初日に抽選を行う場合があります。その際、初日を欠席した学生は、履修不可となります。

■学習・教育目標および到達目標

英語でのプレゼンテーションに関する知識とスキルをを学び、英語の運用能力を高めながら、論理的で説得力のあるプレゼンテーションをおこなう実践力を身につけることを目標とします。この科目の修得は、学部ディプロマポリシー 5、近畿大学の教養教育の目的2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

プレゼンテーション発表については、授業内で実施します。試験については、試験時間の最後に回答提示します。

■教科書

[ISBN] 978-1-107-43578-0 Present Yourself:second edition, Steven Gershon(Cambridge University Press)

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

理系英語 3（プレゼンテーション）

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

プレゼンテーション 30%

課題などの提出 20%

小テスト 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

服部研究室（2号館5階）khattori@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜日5限（その他の時間帯は必ず予約すること）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーションと英語プレゼンテーションの基礎

(1)授業の進め方を説明する。

- ・授業の目的
- ・授業計画
- ・指導方法
- ・評価方法

(2)テキストとDVDを使ってプレゼンテーションの基礎を説明する。

- ・プレゼンテーションに関する基本的な知識
- ・プレゼンテーションの準備のしかた
- ・プレゼンテーションの実行

第2回 Unit4 Let me explain (1)

トリビアクイズを用いたアクティビティの実施。物事のプロセスの提示の仕方を学ぶ。

第3回 Unit4 Let me explain (2)

プロセスや段階の説明の仕方を、How We Sleepに関するモデルプレゼンテーションを見て学ぶ。

第4回 Unit4 Let me explain (3)

オーディエンスに質問を投げかけたり、オーディエンスからの質問に答える方法について学ぶ。物事の手順について、段階的に説明することをテーマに、グループで発表準備を行う。

第5回 Unit4 Let me explain (4)

グループでプレゼンテーションをおこなう。(質疑応答の時間も設ける。)他のクラスメートは評価シートを使ってすべてのプレゼンテーションの評価をし、コメントを書く。

第6回 U5 In my opinion (1)

社会の問題や生活の事象に関する意見を述べるときの表現を学ぶ。また主張する意見をサポートする要素を述べる表現に触れる。

第7回 U5 In my opinion (2)

EmmaのSay no to metというモデルプレゼンテーションを見て、Emmaの主張、それらをサポートする意見の述べ方について学ぶ。

第8回 U5 In my opinion (3)

結論を述べるときの表現について学ぶ。声の調子、強調やポーズをとることによる対比の仕方等について学び、説得力のあるプレゼンテーション方法について考える。

第9回 U5 In my opinion (4)

ある物事の手順やステップに関するプレゼンテーションをおこなう。(質疑応答の時間を設ける。)他のクラスメートは評価シートを使ってすべてのプレゼンテーションの評価をし、それぞれコメントを書く。

第10回 U6 In the news (1)

ニュースのヘッドラインの例に触れ、ニュースの内容の概要の述べ方について学ぶ。

第11回 U6 In the news (2)

JasonによるThe Future of Workのプレゼンテーションを見て、その構成について考える。

第12回 U6 In the news (3)

フレーズの間におくポーズ、グループディスカッションを導く方法等について学ぶ。これまでのモデルプレゼンテーションを見直し、活用できる語彙や表現について確認し、チェックポイントに留意して、各自テーマを決めてプレゼンテーションの原稿準備をし、スライドを作成・点検し、発表準備を行う。

第13回 プレゼンテーション (1)

プレゼンテーションの前に、ペアやグループでリハーサルをおこなう。(アイコンタクト、声の抑揚やゲスチャーなどの身体的メッセージの効果を意識する)
順番に各自5分程度のプレゼンテーションをおこなう。(質疑応答の時間を設ける。)他のクラスメートは評価シートをつかって、すべてのプレゼンテーションの評価をし、それぞれコメントを書く。

第14回 プレゼンテーション (2)

プレゼンテーションの前に、ペアやグループでリハーサルをおこなう。(アイコンタクト、声の抑揚やゲスチャーなどの身体的メッセージの効果を意識する)
順番に各自5分程度のプレゼンテーションをおこなう。(質疑応答の時間を設ける。)他のクラスメートは評価シートをつかって、すべてのプレゼンテーションの評価をし、それぞれコメントを書く。

第15回 英語プレゼンテーションのまとめ

各々の発表に対する評価やコメントを参考に、プレゼンテーションのフィードバックをおこなう。自分プレゼンテーションを振り返り、自己評価をする。「プレゼンテーションを成功させるために何が大事か」についてディスカッションをする。後期の授業の総括をする。

定期試験

科目名：理系英語 4（プレゼンテーション）			
英文名：Science English (Presentation) 4			
担当者： ^{ヤタ ヒロコ} 矢田 寛子			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

役に立つ情報や自分の考えを英語で表現し、それを伝えるプレゼンテーション技能を育成する。DVDにより実例を視聴し、効果的なスキルを身に付ける。英語力を強化しつつ、プレゼンテーションの準備・発表を行い実践力を養成する。

■学習・教育目標および到達目標

プレゼンテーションの目的に合わせて、効果的な構成・技能を育成することを目標とする。収集した視覚的・言語的情報や自分の考え等を構成するスキルを高め、説得力のあるプレゼンテーションを行えるようになることを到達目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

SPEAKING of SPEECH New Edition (MACMILLAN) [ISBN]9784777362714

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

理系英語 3(プレゼンテーション)

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

プレゼンテーション 30%

小テスト 10%

課題等の提出物 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）hiyata@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間 とします。(他の時間帯は予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、Unit 4 Speech Skill 4

目標・方法・授業の進め方等の説明

・発表、小テスト、定期試験、評価

・受講に際しての注意事項

The Three Messages in a Speech

The VisualMessage

・Effective visuals

Example: DVD Episode 4

・First Viewing

・Second Viewing

第2回 Unit 4 Effective visuals

Glossary of Visuals

・Graphs / Pictures / Charts

How to Make Visuals

Speech Plan: Comparison Speech

・Model Power Point

第3回 Unit 5 Speech Skill 5

Explaining Visuals

Example: DVD Episode 5

- ・ First Viewing
- ・ Second Viewing

Three-Step Technique

Glossary of Phrases

Speech Plan: Comparison Speech

- ・ Model Script

第4回 Comparison Speech Preparation

STEP 1: Research for data charts

STEP 2: Script Writing

STEP 3: Script Check

第5回 プレゼンテーションの準備

- ・ パワーポイント作成 (Effective visuals)
- ・ Practice (Explaining Visuals, Memorization)

第6回 プレゼンテーション: 発表1

- ・ リハーサル
- ・ 評価表
- ・ 発表、質疑応答、コメント

第7回 プレゼンテーション: 発表2

- ・ リハーサル
- ・ 評価表
- ・ 発表、質疑応答、コメント

第8回 小テスト, The Story Message

- ・ 小テスト実施

The Story Message

- ・ Introduction / Body / Conclusion

Unit 6 The Introduction

- ・ Four Functions: Greeting, What, Why and Overview
- ・ Introductory Phrases

Example: DVD Episode 6

- ・ First Viewing
- ・ Second Viewing

第9回 Unit 7 The Body

- ・ Main Points
- ・ Evidence: Numbers, Examples
- ・ Practice
- ・ Transitions

Example: DVD Episode 7

- ・ First Viewing
- ・ Second Viewing

第10回 Unit 8 The Conclusion

- ・ Summarizing
- ・ Emphasizing

Glossary of Phrases

Example: DVD Episode 8

- ・ First Viewing
- ・ Second Viewing

第11回 Product Speech Preparation

- ・ Model Script
 - ・ Model Power Point
- Speech Plan: Ideas
STEP 1: Research for data charts

第12回 Product Speech Preparation

- STEP 2: Script Writing
STEP 3: Script Check

第13回 プレゼンテーションの準備

- ・ パワーポイント作成
- ・ Practice (Speech Skills, Memorization)

第14回 プレゼンテーション: 発表1

- ・ リハーサル
- ・ 評価表
- ・ 発表、質疑応答、コメント

第15回 プレゼンテーション: 発表2

- ・ リハーサル
- ・ 評価表
- ・ 発表、質疑応答、コメント

定期試験

科目名：理系英語 4 (プレゼンテーション)			
英文名：Science English (Presentation) 4			
担当者： <small>ヨシカワ ユウスケ</small> 吉川 裕介			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

英語で自らの意見を適切に効果的に他者に伝えるためのプレゼンテーション技能を習得する。テキストや視聴覚教材を通して良いプレゼンテーションと悪いプレゼンテーションとの違いを理解し、論理的で説得力のあるプレゼンテーションを行う実践力を養成する。

■学習・教育目標および到達目標

「理系英語3(プレゼンテーション)」と合わせて、英語で自らの意見をまとめ、発信するプレゼンテーション技能を育成する。基礎的となる英語の運用能力も高めながら、論理的で実践的なプレゼンテーション技能を身につけることを到達目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案を返却し、解説します。

■教科書

『Present yourself 2 (2nd edition)』(Steven Gershon: Cambridge University Press) [ISBN]978-1107435780

■参考文献

授業にて指示します。

■関連科目

理系英語3(プレゼンテーション)

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

プレゼンテーション 30%

小テスト 10%

課題等の提出物 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

吉川研究室 (2号館5階514) y-yoshikawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日4限(その他の時間は必ず予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション, Unit 4: Let me explain

授業に関する概要説明と必要事項の伝達

第2回 Unit 4: Let me explain

Exploring the topic

第3回 Unit 4: Let me explain

Organizing ideas

第4回 Unit 4: Getting ready for a presentation

Adding impact and developing presentation techniques

第5回 Unit 4: Presentation & Feedback

Explaining how something works or happens

第6回 Unit 5: In my opinion

Exploring the topic

第7回 Unit 5: In my opinion

Organizing ideas

第8回 Unit 5: Getting ready for a presentation

Adding impact and developing presentation techniques

第9回 Unit 5: Presentation & Feedback

Give a persuasive presentation about an issue

第10回 小テスト、Unit 6: In the news

Review test

第11回 Unit 6: In the news

Exploring the topic

第12回 Unit 6: In the news

Organizing ideas

第13回 Unit 6: Getting ready for a presentation

Give a persuasive presentation about an issue

第14回 Unit 6: Presentation & Feedback

Give a presentation about a news story

第15回 英語プレゼンテーションのまとめ

Feedback

定期試験

科目名：英語実践 1			
英文名：Essential English 1			
担当者：澤邊 興平 <small>サワベ コウヘイ</small>			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

- ・低年齢層対象の科学雑誌Science News for Kids掲載のエッセイを題材にしたテキストを使用し、理論的展開が明快な科学エッセイの読解に重点を置いた学習を行います。
- ・授業中に各受講生の担当課題範囲を決め翌週に発表してもらう形式なので、積極的に授業に参加してください。
- ・授業には辞書を必ず持参しましょう

■学習・教育目標および到達目標

- 基礎英語力の向上と科学英語への実践的な関心を養うことを本授業の教育目標とします。
- ・平易な科学英文を読み、内容を理解できる。
 - ・本文で使われている単語や熟語を理解し、それらを自分のものとして使うことができる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に課題担当者の答案を基に模範解答を作成して板書で提示します。

■教科書

Science Explorer：『Science News』やさしい科学英語リーディング演習
 (野崎・松本・クレアリー 南雲堂：2013) ISBN978-4-523-17757-9
 初回授業時までに必ず購入しておくこと。(コピー不可)
 この他、必要に応じて授業中にプリントを配布します。

■参考文献

授業内に指示します。

■関連科目

英語実践 2

■成績評価方法および基準

定期テスト 50%
 課題 (宿題含む) 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階)・ksawabe@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

授業時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、ウォームアップ

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題

受講に際しての注意事項

- ・欠席/遅刻について
- ・忘れ物(テキスト・辞書)について
- ・携帯電話の使用制限について
- ・定期試験について
- ・総合評価について

その他、受講に関する注意点について

科学技術英語の特徴

第2回 Unit1：Self-cleaning Clothes (前半)

- ・光触媒による自浄衣服に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第3回 Unit1 : Self-cleaning Clothes (後半)

- ・光触媒による自浄衣服に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・光触媒の他の事例を英語で読む

第4回 Unit2 : Wet-dog Physics (前半)

- ・犬の胴震いの原理に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第5回 Unit2 : Wet-dog Physics (後半)

- ・犬の胴震いの原理に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・動物の行動に関する他の事例を英語で読む

第6回 Unit3 : Hot Technology (前半)

- ・廃熱の有効利用に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第7回 Unit3 : Hot Technology (後半)

- ・廃熱の有効利用に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・リサイクル技術に関する他の事例を英語で読む

第8回 Unit4 : Elephant Songs (前半)

- ・象の超低音域発声に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第9回 Unit4 : Elephant Songs (後半)

- ・象の超低音域発声に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・動物と発声に関する他の事例を英語で読む

第10回 Unit5 : The Origin of Mummies (前半)

- ・南米砂漠のミイラに関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第11回 Unit5 : The Origin of Mummies (後半)

- ・南米砂漠のミイラに関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・新大陸古代史に関する他の事例を英語で読む

第12回 Unit6 : Tracing a Gem' s Origins (前半)

- ・レーザー誘起分光法に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第13回 Unit6 : Tracing a Gem' s Origins (後半)

- ・レーザー誘起分光法に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・鉱物分析に関する他の事例を英語で読む

第14回 Unit7 : Costs of Missing Sleep (前半)

- ・短時間睡眠に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第15回 Unit7 : Costs of Missing Sleep (後半)

- ・短時間睡眠に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・睡眠についての他の事例を英語で読む

科目名：英語実践2			
英文名：Essential English 2			
担当者：澤邊 興平 <small>サワベ コウヘイ</small>			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

- ・低年齢層対象の科学雑誌Science News for Kids掲載のエッセイを題材にしたテキストを使用し、理論的展開が明快な科学エッセイの読解に重点を置いた学習を行います。
- ・授業中に各受講生の担当課題範囲を決め翌週に発表してもらう形式なので、積極的に授業に参加してください。
- ・授業には辞書を必ず持参しましょう。

■学習・教育目標および到達目標

- 基礎英語力の向上と科学英語への実践的な関心を養うことを本授業の教育目標とします。
- ・平易な科学英文を読み、内容を理解できる。
 - ・本文で使われている単語や熟語を理解し、それらを自分のものとして使うことができる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に課題担当者の答案を基に模範解答を作成して板書で提示します。

■教科書

Science Explorer：『Science News』やさしい科学英語リーディング演習
 (野崎・松本・クレアリー 南雲堂：2013) ISBN978-4-523-17757-9
 初回授業時までに必ず購入しておくこと。(コピー不可)
 この他、必要に応じて授業中にプリントを配布します。

■参考文献

授業内に指示します。

■関連科目

英語実践1

■成績評価方法および基準

定期テスト 50%
 課題 (宿題含む) 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階)・ksawabe@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

授業時限前後の休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、ウォームアップ、Unit8：Lasers of a Feather (前半)

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題

受講に際しての注意事項

- ・欠席/遅刻について
- ・忘れ物(テキスト・辞書)について
- ・携帯電話の使用制限について
- ・定期試験について
- ・総合評価について

Unit8：Lasers of a Feather (前半)

- ・次世代レーザーの開発についての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第2回 Unit8 : Lasers of a Feather (後半)

- ・次世代レーザーの開発についての英文を読み解く (前回の続き)。
- ・次世代レーザーについての他の事例を英語で読む

第3回 Unit9 : Paralyzed Rats Walk Again (前半)

- ・脊髄損傷ラットの歩行機能回復についての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第4回 Unit9 : Paralyzed Rats Walk Again (後半)

- ・脊髄損傷ラットの歩行機能回復についての英文を読み解く (前回の続き)。
- ・脊髄損傷の治療についての他の事例を英語で読む

第5回 Unit10 : Threatened Coral Get Fishy Rescue (前半)

- ・サンゴ、海藻、魚の関係についての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第6回 Unit10 : Threatened Coral Get Fishy Rescue (後半)

- ・サンゴ、海藻、魚の関係についての英文を読み解く (前回の続き)。
- ・異種生物間に関する他の事例を英語で読む

第7回 Unit11 : Mammals Feel the Heat (前半)

- ・哺乳類と温暖化の脅威に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第8回 Unit11 : Mammals Feel the Heat (後半)

- ・哺乳類と温暖化の脅威に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・温暖化の生物に対する影響についての他の事例を英語で読む

第9回 Unit12 : Sugar-pill Medicine (前半)

- ・偽薬投与についての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第10回 Unit12 : Sugar-pill Medicine (後半)

- ・偽薬投与についての英文を読み解く (前回の続き)。
- ・偽薬に関する他の事例を英語で読む

第11回 Unit13 : Food Web Woes (前半)

- ・フードウェブについての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第12回 Unit13 : Food Web Woes (後半)

- ・フードウェブについての英文を読み解く (前回の続き)。
- ・フードウェブに関する他の事例を英語で読む

第13回 Unit14 : Climate Coolers (前半)

- ・温暖化対策に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第14回 Unit14 : Climate Coolers (後半)

- ・温暖化対策に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・温暖化対策に関する他の事例を英語で読む

第15回 Unit15 : Seeing Red Means Danger Ahead

- ・劣化を可視化する素材についての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

定期試験

科目名：英語スキル上級 1			
英文名：Advanced Skills in English 1			
担当者：上村 <small>カミムラ</small> バックス <small>ナオミ</small> 尚美			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：集中	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

この科目は、英語圏在住経験者や、すでにTOEIC 500点以上（目安）またはそれ相当の資格を取得している学生を対象に実施する。アカデミックリスニングとリーディングを通してレセプティブな理解力養成を行ない、アカデミックなトピックについて情報を収集し、内容を要約し、レポートにまとめるような、高度な英語スキルを養成することを目指す。総合的な英語力を伸ばす一方で、専門領域において英語を駆使できるスキルを学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

理工系分野において最新の情報は英語で発信されており、学科や研究分野に関わらず常日頃から英語能力の向上を図ることが不可欠である。本講座は基礎的英語運用能力を有する者を対象に、学術系文書特有の英文を中心に読解力と聴解力の向上を目指し、内容理解だけでなく文章構造の分析能力も養うことを目標とする。本講座受講後も各自英語能力向上のための学習を継続することを前提とし、それに必要なスキル（文章要約、言語特徴観察と分析、リスニングの際のノートテイキング等）を習得することを到達目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

模範答案をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

適時プリント配布

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

英語スキル上級 2

■成績評価方法および基準

ポートフォリオ 50%

授業中の発表 30%

授業中の課題提出 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）:backes@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 読解力や聴解力練習のためのウェブサイトなどの紹介

予習内容 : 科学誌や英字新聞の科学セクションを閲覧する。

予習時間 : 30分

復習内容 : 科学ニュースを3本選択しレポートにまとめる。

復習時間 : 60分

Nature, Scienceなどの科学誌やNew York Timesなどの英字新聞の科学セクションの記事などから各自興味のある分野の情報を検索閲覧する方法を学ぶ。

第2回 学術系文書の言語特徴の検証

予習内容 : 共起表現サイトを用いてアカデミックな表現を検索する。

予習時間 : 45分

復習内容 : 共起表現検索サイトで科学系のアカデミックな表現例を検索し、それらの特徴や用法をまとめる。

復習時間 : 45分

共起表現検索サイトで科学系のアカデミックな表現例を検索し、それらの特徴や用法をまとめ発表する。

発表内容をデータとしてポートフォリオに保存する。

第3回 Nature誌、Science誌論文要旨講読 (1)

予習内容 : 科学誌からの記事を3本選択する。

予習時間 : 45分

復習内容 : 科学雑誌からの記事を研究分野別に収集し、それらの要旨をスライドにまとめる。

復習時間 : 45分

科学雑誌からの記事を研究分野別に収集し、それらの要旨をスライドにまとめ発表する。

第4回 Nature誌、Science誌論文要旨講読 (2)

予習内容 : 科学誌からの記事を3本選択する

予習時間 : 45分

復習内容 : 科学雑誌からの記事を研究分野別に収集し、それらの要旨をスライドにまとめる。

復習時間 : 45分

科学雑誌からの記事を研究分野別に収集し、それらの要旨をスライドにまとめ発表する。

第5回 Nature誌、Science誌論文序論講読 (1)

予習内容 : 科学誌からの記事を3本選択する

予習時間 : 45分

復習内容 : 科学雑誌からの記事を研究分野別に収集し、それらの序論をスライドにまとめる。

復習時間 : 45分

科学雑誌からの記事を研究分野別に収集し、それらの序論をスライドにまとめ発表する。

第6回 Nature誌、Science誌論文序論講読 (2)

予習内容 : 科学誌からの記事を3本選択する

予習時間 : 45分

復習内容 : 科学雑誌からの記事を研究分野別に収集し、それらの序論をスライドにまとめる。

復習時間 : 45分

科学雑誌からの記事を研究分野別に収集し、それらの序論をスライドにまとめ発表する。

第7回 論文序論の内容を要約し、発表と質疑応答

予習内容 : 科学誌からの記事を3本選択する

予習時間 : 45分

復習内容 : 収集した論文の一つを要旨と序論を用いて内容を要約し発表と質疑応答の準備をする。

復習時間 : 45分

収集した論文の一つを要旨と序論を用いて内容を要約し発表と質疑応答の練習をする。

第8回 理系関連ニュースリスニング (1)

予習内容 : 科学系ニュースを視聴する。

予習時間 : 45分

復習内容 : オンライン音声教材の中から科学系ニュースを用いてリスニングし、録音する。

復習時間 : 45分

VOA、New York Timesなどのオンライン音声教材の中から科学系ニュースを用いてリスニング力を強化する。

第9回 理系関連ニュースリスニング (2)

予習内容 : 科学系ニュースを視聴する。

予習時間 : 45分

復習内容 : オンライン音声教材の中から科学系ニュースを用いてリスニングし、録音する。

復習時間 : 45分

前回使用した教材のシャドーイング練習をして、発表する。

第10回 理系ポッドキャスト・リスニング (1)

予習内容 : Podcastsのオンライン音声教材を用いてリスニングする。

予習時間 : 45分

復習内容 : Podcastsのオンライン音声教材を用いてシャドーイング練習をする。

復習時間 : 45分

Nature、Science Podcastsのオンライン音声教材を用いてリスニング力を強化する。

第11回 理系ポッドキャスト・リスニング (2)

予習内容 : Podcastsのオンライン音声教材を用いてシャドーイング練習をする。

予習時間 : 45分

復習内容 : Podcastsのオンライン音声教材を用いてシャドーイング練習をし録音する。

復習時間 : 45分

前回使用した教材のシャドーイング練習をして、発表する。

第12回 理系レクチャー・リスニング (1)

予習内容 : オンライン音声教材の科学系講義のリスニングしてくる。

予習時間 : 45分

復習内容 : レクチャー特有の表現などをレポートにまとめる。

復習時間 : 45分

オンライン音声教材の科学系講義のリスニングをして内容をまとめる。

第13回 理系レクチャー・リスニング (2)

予習内容 : 前回利用した講義教材のシャドーイング練習する。

予習時間 : 45分

復習内容 : 前回利用した講義教材のシャドーイング練習し録音する。

復習時間 : 45分

前回利用した講義教材のシャドーイング練習し成果を録音しポートフォリオに保存する。

第14回 理系トピック・プレゼンテーション (1)

予習内容 : 理系プレゼンテーションの準備をする。

予習時間 : 45分

復習内容 : プレゼンテーション内容をまとめる。

復習時間 : 45分

今までの授業でカバーした科学系トピックの中から自分の興味のあるトピックを選び、新聞、ネット、科学雑誌及び論文などの媒体を横断しどのように発信されているかをスライドにまとめ発表する。

第15回 理系トピック・プレゼンテーション (2)

予習内容 : 理系プレゼンテーションの準備をする。

予習時間 : 45分

復習内容 : プレゼンテーション内容をまとめる。

復習時間 : 45分

今までの授業でカバーした科学系トピックの中から自分の興味のあるトピックを選び、新聞、ネット、科学雑誌及び論文などの媒体を横断しどのように発信されているかをスライドにまとめ発表する。

科目名：英語スキル上級2			
英文名：Advanced Skills in English 2			
担当者：ジェイムズ ホーバット			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：集中	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

この科目は、英語圏在住経験者や、すでにTOEIC 500点以上（目安）またはそれ相当の資格を取得している学生を対象に実施する。アカデミックリスニングとリーディングを通してレセプティブな理解力養成を行ない、さらにアカデミックなトピックについて情報を収集し、内容を要約し、レポートにまとめるようなプロダクティブな能力や発信能力など、高度な英語スキルを養成することを目指す。総合的な英語力を伸ばす一方で、専門領域において英語を駆使できるスキルを学ぶ。授業には必ず辞書を持参すること。なお、教育効果を考慮し、受講者数調整のため、初日に抽選を行う場合がある。その際、初日を欠席した学生は、履修不可となる。

■学習・教育目標および到達目標

理工系分野において最新の情報は英語で発信されており、学科や研究分野に関わらず常日頃から英語能力の向上を図ることが不可欠である。本講座は基礎的英語運用能力を有する者を対象に、理系トピックのプレゼンテーションやディスカッションを通して、内容だけでなく、使用頻度の高い言い回しや発音などの練習を行い発信能力向上を養うことを目標とする。本講座受講後も各自英語能力向上のための学習を継続することを前提とし、それに必要な発信スキル(口頭発表、ディスカッション等)を習得することを到達目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

The teacher will give feedback in class to students about common issues-- the strong points and points to work on-- with their reports and written work. The teacher will give feedback about the quizzes-- strong points and areas to work on. The teacher will also give feedback in class about the students speaking, mentioning common good points and common errors.

■教科書

適時プリント配布

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

英語スキル上級1

■成績評価方法および基準

小テスト 30%

授業中の発表 20%

レポート 25%

プレゼンテーション 25%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階） j_horvat@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Comparing Spoken and Written English 1

予習内容 : Write down five technical terms and their meanings in English.

予習時間 : 15分

復習内容 : Complete the exercises we discussed in class.

復習時間 : 30分

Differences in daily conversation and formal English. Common Phrases used in scientific papers. Technical terms versus common language.

第2回 Comparing Spoken and Written English 2

- 予習内容 : Write down some common words we read in an English newspaper or magazine.
 予習時間 : 15分
 復習内容 : Re-read the newspaper article and the scientific journal. Finish the exercise, which is about contrasting the words used.
 復習時間 : 30分

Examining the same subject in newspaper articles versus a scientific journal-- contrasting vocabulary used and structure of the writing

第3回 Structure of a research article

- 予習内容 : Find a research article (not a literature review) you like. Please bring it to class.
 予習時間 : 15分
 復習内容 : Find the main areas (background, past studies, gap in knowledge, purpose & description) of your article's introduction
 復習時間 : 30分

Focus of a research article, main areas covered, special focus on the introduction (background, past studies, gap in knowledge, purpose & description)

第4回 Corpus Linguistics

- 予習内容 : Download Antconc to your computer.
 予習時間 : 15分
 復習内容 : Review the material about corpus linguistics. Do the exercises assigned.
 復習時間 : 30分

Students will build a personalized corpus using their own articles. These will be put together and analyzed using corpus software.

第5回 Corpus Linguistics 2

- 予習内容 : Students bring three articles (not literature reviews) to class.
 予習時間 : 15分
 復習内容 : Write some common areas and some different areas of your three articles.
 復習時間 : 30分

Students will analyze their conclusions and discuss them together. Also online concordance databases.

第6回 Journal Article Application Cover Letter

- 予習内容 : Borrow a copy of a journal from your laboratory. Look at it. Bring it to class. (Don't forget to return it to your laboratory after class!)
 予習時間 : 15分
 復習内容 : Find the author's instructions for your favorite journal.
 復習時間 : 30分

Components of a cover letter. Successful cover letters. Rules for correspondence.

第7回 Discussion of Successful Presentations

- 予習内容 : Write down three things we should do to give a good speech (e.g. speak loudly)
 予習時間 : 15分
 復習内容 : Write a brief presentation
 復習時間 : 30分

elements of a successful scientific presentation, rules for academic presentations, things to be aware of

第8回 Students Present About An Area of Interest

- 予習内容 : Prepare your presentation
 予習時間 : 15分
 復習内容 : Write about your favorite class presentation. Why was it your favorite?
 復習時間 : 30分

Based on articles, students present about an area they would like to focus on.

第9回 Safety Rules in the Laboratory

- 予習内容 : Write down three rules (on trains, in school, in the car, etc.) in life.
 予習時間 : 15分
 復習内容 : Write down some rules for your laboratory.

復習時間 : 30分

Safety Rules, Communicating with Imperatives, Using Requests, discussing laboratory equipment and procedures in English

第10回 Current Topic in Science

予習内容 : Preview the article, which I gave you at the 第9回 class. Circle any new vocabulary. Check it in a dictionary.

予習時間 : 15分

復習内容 : Re-read the article we talked about in class. Write your reflection.

復習時間 : 30分

Articles on a current topic, based on the students interest as evidenced in the class, will be read, examined, and discussed

第11回 Scientific Meetings and Conferences

予習内容 : Talk to your "seniors" on campus. Has any of them been to a conference? Write down the conference name, date, and place. Write down what they did at the conference (e.g. They attended a presentation, or they gave a poster presentation, etc.)

予習時間 : 15分

復習内容 : Fill out the conference registration form.

復習時間 : 30分

Types of Conferences, Conference Agenda, Conference Registration, Language to use with other participants

第12回 Poster Presentations

予習内容 : Preview some poster presentations I give you. Fill out the worksheet.

予習時間 : 15分

復習内容 : Write a rough draft of your poster.

復習時間 : 30分

What makes a successful poster, explaining in English about the poster, things to be aware of

第13回 Poster Presentations 2

予習内容 : Look again at your poster rough draft.

予習時間 : 15分

復習内容 : Finish writing your poster.

復習時間 : 30分

Further discussion of Posters, examining examples, discussing a copy in progress

第14回 Student Poster Presentations

予習内容 : Prepare your poster presentation.

予習時間 : 30分

復習内容 : Write about your favorite class poster presentation. Why was it your favorite?

復習時間 : 30分

Students will present their poster (the main focus will be the introduction section) to the class

第15回 Review and Wrap Up

予習内容 : Think about areas of the class that were difficult and not so difficult.

予習時間 : 15分

復習内容 : Write a comment to the instructor about this class.

復習時間 : 30分

Students will receive some final feedback on their performance in this class (strong areas, areas to work on.) Students will also have a chance to reflect on the class.

科目名： TOEIC 1			
英文名： TOEIC 1			
担当者： <small>タケナカ ヨシツグ</small> 竹中 義胤			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

TOEICテスト対策問題集の問題を解きながら、基本的語彙、聴解及び読解力を養成します。

■学習・教育目標および到達目標

TOEICスコア360点程度を取得している学生が550点以上を取得することを目標とする。TOEICの出題内容や形式に慣れ親しみ、実用的な英語力を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に「試験の要点と解説」を掲示板に掲載します。

■教科書

[ISBN]9784791931231 『ストラテジーで学ぶTOEICテスト』（杉田 麻哉, 成美堂：2010)

■関連科目

TOEIC 2・3・4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

授業参加度 30%

小テスト・課題 20%

■授業評価アンケート実施方法

学期末に授業中実施する。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階 講師控室・takenaka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩、又は昼休憩時とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Chapter 1 人物の動作や状態を的確にとらえよう 問題の冒頭部分（疑問詞など）を聞き取ろう

よく出てくる設問分をおさ

第2回 Chapter 2 人物の動作をとらえよう。周りの物にも注意しよう

問題の冒頭部分（疑問詞など）と時制をおさえよう

会話のトピックや会話が行われている場所を推測しよう

第3回 Chapter 3 写真に写っている人物の動作以外の情報もとらえよう

5W1Hの疑問文に対する多様な答え方を知ろう

アナウンスのトピックやアナウンスが行われている場所をおさえよう

第4回 Chapter 4 写真に写っている人物の動作以外の情報もとらえよう

5W1Hの疑問文に対する多様な答え方を知ろう

話し手と聞き手が誰かを推測しよう

第5回 Chapter 5 複数の人物の動作に注目しよう

質問文の主語や動詞にあった適切な答えを選ぼう

話し手と聞き手を推測しよう

第6回 Chapter 6 状況の細部に注意しよう

Yes, No疑問文に対する適切な答えを選ぼう

話し手や聞き手の次の行動を推測しよう

第7回 Chapter 7 周辺の状況や複数の人物の動作をとらえよう

Yes, No疑問文に対する適切な答えを選ぼう

話し手や聞き手の次の行動を推測しよう

第8回 Chapter 8 周辺の状況や複数の人物の動作をとらえよう

Yes, No疑問文に対する適切な答えを選ぼう

第9回 Chapter 9 風景写真の細部にも注目しよう

依頼の文に対する適切な答えを選ぼう

パラフレーズに注意しよう

第10回 Chapter 10 風景写真の細部にも注目しよう

依頼や誘いの文に対する適切な答えを選ぼう

パラフレーズに注意しよう

第11回 Chapter 11 風景写真の細部にも注目しよう

依頼の文に対する適切な答えを選ぼう

パラフレーズに注意しよう

第12回 Chapter 12 風景写真の細部にも注目しよう

誘いの文に対する適切な答えを選ぼう

パラフレーズに注意しよう

第13回 Mini-TOEIC® Test 1

第14回 Mini-TOEIC® Test 2

第15回 総復習

定期試験

科目名： TOEIC 1			
英文名： TOEIC 1			
担当者： <small>カタオカ ヒロヒト</small> 片岡 宏仁			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

TOEICスコア初級～中級レベルを想定して基礎力養成を主眼とした授業を実施する。とくに次の3点を重視する：(A)テスト形式に慣れること、(B)リスニング問題に対応するために自然な英語の発音で頻出するリンキングや脱落などを理解し自ら発音して練習すること、(C)基本的な語彙・文法事項を復習すること。授業では教科書の問題を中心に進行し、授業時間外では予習・復習のためにサポートページで練習問題を提供する。

■学習・教育目標および到達目標

TOEIC500点を取得することを目標とする。スコアアップに向けて基礎力を伸ばすための学習を着実に推し進め、成果に結びつけることのできる「成功する学習者」の育成を目指す。学内のIP テストを受験し、成果および課題を分析し、次のステップを探る

■試験・課題に対するフィードバック方法

課題: 授業サポートページに予習・復習課題用のフォームを用意し、自動採点で理解度が確認できるようにします。授業内では教科書の練習問題の解答・解説をスライドに表示しつつ進行します。

■教科書

鶴岡公幸 & Matthew Wilson, The TOEIC® Listening & Reading Test CIRCUIT, updated edition. 松柏社, 2017年. ISBN: 978-4-88198-729-2

■関連科目

TOEIC2, TOEIC3, TOEIC4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 30%

課題 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控え室 (2号館2階)

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 導入：TOEICはどういうテストか、どうやって勉強するか

予習内容 : Unit 1: Vocabulary

予習時間 : 15分

授業全体の指針、授業各回の基本的な構成、成績評価方法などの履修上の事項を確認する。TOEIC の具体的な問題を紹介し、学習の指針を解説する。

第2回 テキスト Unit1: 旅行 (1)

予習内容 : Unit 2: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 2-1. 語彙を増やす
- 2-2. シャドウイング練習
- 2-3. リスニング問題
- 2-4. リーディング問題

第3回 テキスト Unit2: オフィス (2)

予習内容 : Unit 3: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 3-1. 語彙を増やす
- 3-2. シャドウイング練習
- 3-3. リスニング問題
- 3-4. リーディング問題

第4回 テキスト Unit 3: レストラン

予習内容 : Unit 4: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 3-1. 語彙を増やす
- 3-2. シャドウイング練習
- 3-3. リスニング問題
- 3-4. リーディング問題

第5回 テキスト Unit 4: 季節・天気

予習内容 : Unit 5: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 5-1. 語彙を増やす
- 5-2. シャドウイング練習
- 5-3. リスニング問題
- 5-4. リーディング問題

第6回 テキスト Unit 5: 健康

予習内容 : Unit 6: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 6-1. 語彙を増やす
- 6-2. シャドウイング練習
- 6-3. リスニング問題
- 6-4. リーディング問題

第7回 テキスト Unit 6: 旅行 (2)

予習内容 : Unit 7: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 7-1. 語彙を増やす
- 7-2. シャドウイング練習
- 7-3. リスニング問題
- 7-4. リーディング問題

第8回 テキスト Unit 7: 休暇

予習内容 : Unit 8: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 8-1. 語彙を増やす
- 8-2. シャドウイング練習
- 8-3. リスニング問題
- 8-4. リーディング問題

第9回 テキスト Unit 8: オフィス (2)

予習内容 : Unit 9: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 9-1. 語彙を増やす
- 9-2. シャドウイング練習
- 9-3. リスニング問題
- 9-4. リーディング問題

第10回 テキスト Unit 9: ショッピング

予習内容 : Unit 10: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 10-1. 語彙を増やす

- 10-2. シャドウイング練習
- 10-3. リスニング問題
- 10-4. リーディング問題

第11回 テキスト Unit 10: 就職活動

予習内容 : Unit 11: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 11-1. 語彙を増やす
- 11-2. シャドウイング練習
- 11-3. リスニング問題
- 11-4. リーディング問題

第12回 テキスト Unit 11: 娯楽

予習内容 : Unit 13: Vocabulary

- 12-1. 語彙を増やす
- 12-2. シャドウイング練習
- 12-3. リスニング問題
- 12-4. リーディング問題

第13回 テキスト Unit 12: 旅行 (3)

予習内容 : Unit 14: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 13-1. 語彙を増やす
- 13-2. シャドウイング練習
- 13-3. リスニング問題
- 13-4. リーディング問題

第14回 テキスト Unit 13: オフィス (3)

予習内容 : Unit 15: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 14-1. 語彙を増やす
- 14-2. シャドウイング練習
- 14-3. リスニング問題
- 14-4. リーディング問題

第15回 テキスト Unit 14: 会議

定期試験

授業内で扱った問題および TOEIC 模擬試験問題を出題します。

科目名： TOEIC 1			
英文名： TOEIC 1			
担当者： <small>フジワラ チヨ</small> 藤原 知予			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

TOEICスコアが400点未満の学生を対象に、TOEIC形式の問題演習をすると同時に、基本的な英文法、語彙力、リスニング、リーディング力の定着を目指す。ペアワークやグループワークも積極的に取り入れる。

■学習・教育目標および到達目標

TOEIC500点の取得を目標とする。スコアアップに向けて基礎力を伸ばすための学習を着実に進め、成果に結びつけることのできる「成功する学習者」の育成を目指す。学内のIPテストを受験し、成果および課題を分析し、次のステップを探る。具体的には以下のとおり。

- ・基本的な英文法を理解する。
- ・基本的な英単語、イディオムを覚える。
- ・学内のTOEIC IPを受験し、成果および課題を分析し、スコアアップを目指す。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案を返却し、重要事項を学生がペアワーク、またはグループワークにおいて議論した後、教員が解説する。

■教科書

『Primary Practice for the TOEIC Listening and Reading Test』 [ISBN]978-4-384-33466-1 C1082 (by Yumi Hasegawa, Hisayo Herbert, Karl Herbert, Ayako Kobayashi, Tomoko Tamura. 三修社：2017)
初回授業までに必ず購入しておくこと。

■参考文献

授業中に提示する。

■関連科目

TOEIC2・3・4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 30%
課題 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)
chiyofujiwara@gmail.com

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とする。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 第1回 オリエンテーション Unit 1 Shopping: Listening Section

授業の進め方、授業外での学習方法などに関する説明を行う。TOEICテストとはどのようなものかを導入。Unit1のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。英語で買い物をするときに使われる語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 名詞

第2回 Unit 1 Shopping: Reading Section

Unit1のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。英語で買い物をするときに使われる語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 名詞

第3回 Unit 2 Food: Listening Section

TOEICの7つのパートの問題形式を把握する。Unit2のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。レストランにおける英会話など、食べ物に関する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 形容詞・副詞

第4回 Unit 2 Food: Reading Section

Unit2のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。レストランにおける英会話など、食べ物に関する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 形容詞・副詞

第5回 Unit 3 Health: Listening Section

TOEICの年間受験機会を把握する。Unit3のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。病気、健康管理や医療用語に関する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 比較

第6回 Unit 3 Health: Reading Section

Unit3のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。病気、健康管理や医療用語に関する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 比較

第7回 Unit 4 Media: Listening Section

大学生がTOEICを受けるメリットを把握する。Unit4のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。テレビ・ラジオ番組や天気用法など、報道に関する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 動詞・助動詞

第8回 Unit 4 Media: Reading Section

Unit4のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。テレビ・ラジオ番組や天気用法など、報道に関する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 動詞・助動詞

第9回 Unit 5 Daily Life 1: Listening Section

TOEICのリスニングセクションの各パートの問題形式を把握する。Unit5のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。学生生活や趣味などに関する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 受動態と使役

第10回 Unit 5 Daily Life 1: Reading Section

Unit5のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。学生生活や趣味などに関する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 受動態と使役

第11回 Unit 6 Daily Life 2: Listening Section

TOEICのリーディングセクションの各パートの問題形式を把握する。Unit6のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。日常生活に関連する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 主語・動詞の一致

第12回 Unit 6 Daily Life 2: Reading Section

Unit6のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。日常生活に関連する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 主語・動詞の一致

第13回 Unit 7 Travel: Listening Section

TOEICのリスニングセクション、パート3の問題形式を詳細に把握する。Unit7のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。旅行で使われる語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 文の構造

第14回 Unit 7 Travel: Reading Section

Unit7のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。旅行で使われる語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 文の構造

第15回 文法総復習

文法事項の総復習を行い、模擬試験を受験する。

定期試験

科目名： TOEIC 2			
英文名： TOEIC 2			
担当者： <small>タケナカ ヨシツグ</small> 竹中 義胤			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

TOEICテスト対策問題集の問題を解きながら、基本的語彙、聴解及び読解力を養成します。

■学習・教育目標および到達目標

TOEICスコア360点程度を取得している学生が550点以上を取得することを目標とする。TOEICの出題内容や形式に慣れ親しみ、実用的な英語力を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に「試験の要点と解説」を掲示板に掲載します。

■教科書

[ISBN]9784791950874 『TOEICテスト総合実践演習』（塩見 佳代子, 成美堂：2012）

■関連科目

TOEIC 1・3・4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

授業参加度 30%

小テスト・課題 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階 講師控室・takenaka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩、又は昼休憩時とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit 1 Shopping物の状態と場所 Yes/No 疑問文 聞き間違いやすい 数字

アナウンス情報の聞き取り（日にち）

第2回 Unit 2 Restaurant 1人の人物の動作 肯定 平叙文 数字（住所・番地）

アナウンス情報の聞き取り（電話番号）

第3回 Unit 3 Entertainment 複数人物の 動作 否定 平叙文 名前と綴り

芸能ニュース情報の聞き取り（wh- 情報）

第4回 Unit 4 Job Hunting 1人の人物の 動作と状況 否定 疑問文 can と can't の聞き取り

アドバイス要点の聞き取り（キーワード：動詞と副詞）

第5回 Unit 5 Hotel Stay 物の状態と位置 付加疑問文 音のリエゾン check in / chicken

案内説明の聞き取り (wh- 情報)

第6回 Unit 6 Business 1人の人物の 動作と場所 what疑問文 考えや気持ちを表す表現

ビジネスニュースのヘッドラインの聞き取り (固有名詞と数字)

第7回 Unit 7 Sports 複数人物の 動作と状況 Who・Which疑問文 音のリダクション want to

スポーツニュースの聞き取り (選手・チーム名と点数)

第8回 Unit 8 Education 複数人物の動作と状態 Where疑問文 音のリダクション going to

ニュース発表の聞き取り (分数とパーセント)

第9回 Unit 9 Services 複数人物の動作と場所・周りの状況 When疑問文

can のいろいろな意味 (能力・許可・依頼・可能性・推量)

宣伝内容の聞き取り (会社名とサービス内容)

第10回 Unit 10 Housing 物の状態と位置 How疑問文 住居の種類と長所短所 アナウンスの聞き取り

(位置関係：部屋のレイアウト)

第11回 Unit 11 Environment建物の状態と周りの状況・風景 Why疑問文

事実 (fact) と意見 (opinion) 説明の聞き取り (直接表現と比喻表現)

第12回 Unit 12 Vacation 複数人物の動作と周りの状況・風景依頼・提案文 行きたい所・したいこと

アナウンスの聞き取り 置き換え表現 (paraphrase)

第13回 Review Test 1 Unit 1 ~ Unit 4 (40 問) リスニング 18 問

第14回 Review Test 2 Unit 5 ~ Unit 8 (40 問) リスニング 18 問

第15回 Review Test 3 Unit 9 ~ Unit 12 (40 問) リスニング 18 問

定期試験

科目名： TOEIC 2			
英文名： TOEIC 2			
担当者： <small>カタオカ ヒロヒト</small> 片岡 宏仁			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

前期開講の「TOEIC1」から継続して基礎力養成を主眼とした授業を実施する。とくに次の3点を重視する：(A)テスト形式に慣れること、(B)リスニング問題に対応するために自然な英語の発音で頻出するリンキングや脱落などを理解し自ら発音すること、(C)基本的な語彙・文法事項を復習すること。授業では教科書の問題を中心に進行し、授業時間外では予習・復習のためにサポートページで練習問題を提供する。

■学習・教育目標および到達目標

TOEIC500点を取得することを目標とする。スコアアップに向けて基礎力を伸ばすための学習を着実に推し進め、成果に結びつけることのできる「成功する学習者」の育成を目指す。学内のIP テストを受験し、成果および課題を分析し、次のステップを探る

■試験・課題に対するフィードバック方法

課題: 予習・復習課題用のフォームを利用し、自動採点により学習者がみずから理解度を確かめられるようにします。授業内では、テキストの練習問題などの解答・解説をスライドに表示しつつ進行します。

■教科書

Mark D. Stafford, Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test: Goal500, 4th edition. 桐原書店, 2016年. ISBN: 978-4-342-55262-5

■関連科目

TOEIC1, TOEIC3, TOEIC4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 30%
課題 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階

■オフィスアワー

該当科目開講時の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 導入: 授業内容の解説とTOIEC模擬問題

予習内容 : Unit 1: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 1-1. 授業全体のプラン、授業各回の基本的な構成、成績評価方法などの履修上の事項を説明。
- 1^2. TOIECの模擬問題に取り組み現時点の習熟度を把握。
- 1-3. 今後の学習の指針を解説。

第2回 テキスト Unit 1: Daily Life

予習内容 : Unit 2: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 2-1. シャドウイング練習
- 2-2. ウォームアップ問題
- 2-3. リスニング問題
- 2-4. リーディング問題

第3回 テキスト Unit 2: Places

予習内容 : Unit 3: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 3-1. シャドウイング練習
- 3-2. ウォームアップ問題
- 3-3. リスニング問題
- 3-4. リーディング問題

第4回 テキスト Unit 3: People

予習内容 : Unit 4: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 4-1. シャドウイング練習
- 4-2. ウォームアップ問題
- 4-3. リスニング問題
- 4-4. リーディング問題

第5回 テキスト Unit 4: Travel

予習内容 : Unit 5: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 5-1. シャドウイング練習
- 5-2. ウォームアップ問題
- 5-3. リスニング問題
- 5-4. リーディング問題

第6回 テキスト Unit 5: Business

予習内容 : Unit 6: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 6-1. シャドウイング練習
- 6-2. ウォームアップ問題
- 6-3. リスニング問題
- 6-4. リーディング問題

第7回 テキスト Unit 6: Office

予習内容 : Unit 7: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 7-1. シャドウイング練習
- 7-2. ウォームアップ問題
- 7-3. リスニング問題
- 7-4. リーディング問題

第8回 テキスト Unit 7: Technology

予習内容 : Unit 8: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 8-1. シャドウイング練習
- 8-2. ウォームアップ問題
- 8-3. リスニング問題
- 8-4. リーディング問題

第9回 テキスト Unit 8: Personnel

予習内容 : Unit 9: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 9-1. シャドウイング練習
- 9-2. ウォームアップ問題
- 9-3. リスニング問題
- 9-4. リーディング問題

第10回 テキスト Unit 9

予習内容 : Unit 10: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 10-1. シャドウイング練習
- 10-2. ウォームアップ問題
- 10-3. リスニング問題
- 10-4. リーディング問題

第11回 テキスト Unit 10: Purchasing

予習内容 : Unit 11: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 11-1. シャドウイング練習
- 11-2. ウォームアップ問題
- 11-3. リスニング問題
- 11-4. リーディング問題

第12回 テキスト Unit 11: Finances

予習内容 : Unit 12: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 12-1. シャドウイング練習
- 12-2. ウォームアップ問題
- 12-3. リスニング問題
- 12-4. リーディング問題

第13回 テキスト Unit 12: Media

予習内容 : Unit 13: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 13-1. シャドウイング練習
- 13-2. ウォームアップ問題
- 13-3. リスニング問題
- 13-4. リーディング問題

第14回 テキスト Unit 13: Entertainment

予習内容 : Unit 14: Vocabulary

予習時間 : 15分

- 14-1. シャドウイング練習
- 14-2. ウォームアップ問題
- 14-3. リスニング問題
- 14-4. リーディング問題

第15回 テキスト Unit 14: Health

- 15-1. シャドウイング練習
- 15-2. ウォームアップ問題
- 15-3. リスニング問題
- 15-4. リーディング問題

定期試験

授業内で扱った問題および TOEIC の模擬問題を出題します。

科目名： TOEIC 2			
英文名： TOEIC 2			
担当者： <small>ハタナカ カヨコ</small> 畠中 加代子			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

TOEICスコアが400点未満の学生を対象に、TOEIC形式の問題演習をすると同時に、基本的な英文法、語彙力、リスニング、リーディング力の定着を目指す。ペアワークやグループワークも積極的に取り入れる。

■学習・教育目標および到達目標

TOEIC500点の取得を目標とする。スコアアップに向けて基礎力を伸ばすための学習を着実に進め、成果に結びつけることのできる「成功する学習者」の育成を目指す。学内のIPテストを受験し、成果および課題を分析し、次のステップを探る。具体的には以下のとおり。

- ・基本的な英文法を理解する。
- ・基本的な英単語、イディオムを覚える。
- ・学内のTOEIC IPを受験し、成果および課題を分析し、スコアアップを目指す

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に答案を返却し、重要事項を学生がペアワーク、またはグループワークにおいて議論した後、教員が解説する。

■教科書

『Primary Practice for the TOEIC Listening and Reading Test』 [ISBN]978-4-384-33466-1 C1082 (by Yumi Hasegawa, Hisayo Herbert, Karl Herbert, Ayako Kobayashi, Tomoko Tamura. 三修社：2017)
初回授業までに必ず購入しておくこと。

■参考文献

授業中に提示する。

■関連科目

TOEIC1・3・4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%
小テスト 30%
課題 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)
hatanaka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とする。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション Unit 8 Office Work 1: Listening Section

授業の進め方、授業外での学習方法などに関する説明を行う。TOEICテストとはどのようなものかを導入。特にリスニングセクションの最難関であるパート4の問題形式を詳細に把握する。Unit 8のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。企業で使われるビジネス英語の語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 動名詞・不定詞

第2回 Unit 8 Office Work 1: Reading Section

Unit 8のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。企業で使われるビジネス英語の語彙や表現について学ぶ。【文法事項】 動名詞・不定詞

第3回 Unit 9 Office Work 2: Listening Section

TOEICテストリーディングセクション、パート6の問題形式を詳細に把握する。Unit 9のリスニングパートの解き方を学び、

演習を行う。企業で使われるビジネス英語の語彙や表現について学ぶ。【文法事項】前置詞

第4回 Unit 9 Office Work 2: Reading Section

Unit 9のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。企業で使われるビジネス英語の語彙や表現について学ぶ。【文法事項】前置詞

第5回 Unit 10 Meetings: Listening Section

TOEICテストリーディングセクション、パート7の問題形式を詳細に把握する。Unit 10のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。英語で行われる会議で使われる語彙や表現について学ぶ。【文法事項】接続詞

第6回 Unit 10 Meetings: Reading Section

Unit 10のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。英語で行われる会議で使われる語彙や表現について学ぶ。【文法事項】接続詞

第7回 Unit 11 Factories: Listening Section

Unit 11のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。工場やそこでの作業において使われる語彙や表現について学ぶ。【文法事項】時制

第8回 Unit 11 Factories: Reading Section

Unit 11のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。工場やそこでの作業において使われる語彙や表現について学ぶ。【文法事項】時制

第9回 Unit 12 Products: Listening Section

TOEICのリスニング問題に取り組む際に役立つアメリカ、イギリス、オーストラリア英語の発音の違いについて学ぶ。Unit 12のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。消費者が買い求める製品に関連する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】完了形

第10回 Unit 12 Products: Reading Section

Unit 12のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。消費者が買い求める製品に関連する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】完了形

第11回 Unit 13 Technology: Listening Section

アメリカ、イギリス、オーストラリア英語の発音の違いとスペリングの違いについて学ぶ。Unit 13のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。制作技術や製品に関連する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】仮定法

第12回 Unit 13 Technology: Reading Section

Unit 13のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。制作技術や製品に関連する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】仮定法

第13回 Unit 14 Job Hunting: Listening Section

TOEICのリスニングセクションのスコアアップのための学習法として、映画を用いる方法を学ぶ。Unit 14のリスニングパートの解き方を学び、演習を行う。就職活動に関連する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】分詞

第14回 Unit 14 Job Hunting: Reading Section

Unit 14のリーディングパートの解き方を学び、演習を行う。就職活動に関連する語彙や表現について学ぶ。【文法事項】分詞

第15回 Unit 15 Finance: Listening & Reading Section

Unit 15のリスニング・リーディングパートの解き方を学び、演習を行う。経済活動に関連する語彙や表現について学ぶ。文法事項の総復習を行う。【文法事項】関係詞

定期試験

科目名： TOEIC 3			
英文名： TOEIC 3			
担当者： <small>ハセガワ ユミ</small> 長谷川 由美			
単 位： 1単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

TOEIC形式の問題を解くことにより、TOEICスコアのアップを目標とした授業を行います。リスニングは問題を解いた後にスクリプトを配布し、リスニングで解答した問題をリーディングすることにより、読めばわかるのに聞きとれなかった部分などを各自で確認します。文法・リーディングパートは基本的には予習部分となります。文法パートは「どうしてその解答が正しいのか」を文法的に説明できるようになりましょう。またリーディングパートに関しては、「どの部分を読んで正解を引き出したのか」を明確にしましょう。また、学内で実施されるTOEIC-IPテストもしくは公開テストを受講期間内にできるだけ1回は受験し、自分の実力を把握するようにしましょう。

■学習・教育目標および到達目標

TOEICスコア400点（目安）を取得している学生を対象に、TOEIC600点以上を取得することを目標とする。自分の得手不得手を理解し、得意なところをさらに伸ばし、不得意なところをどのようにすれば克服できるのかを考え、スコアアップに向けて実行する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

模範答案をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST LEVEL 2 Intermedite, (Asahi Press)
Yasuyuki Kitao, Harumi Nishida, Shiho Hayashi, Brian Covert, ISBN 978-4-255-15595-1

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

TOEIC1・2・4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

課題 30%

小テスト 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

長谷川研究室（2号館5階）・hasegawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜4限目(その他の時間帯は必ず予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

TOEICについて

Unit 1 Eating out 前半

オリエンテーション

・受講に際しての注意事項

TOEICについて

・TOEICの各パートの説明

Unit 1 Eating out 前半

・Part4まで

第2回 Unit 1 Eating out 後半

Unit 2 Travel 前半

Unit 1 Eating out 後半

・文法：動詞（1）

Unit 2 Travel 前半

・Part4まで

第3回 Unit 2 Travel 後半

Unit 3 Amusement 前半

Unit 2 Travel 後半

・文法：動詞（2）

Unit 3 Amusement 前半

・Part4まで

第4回 Unit 3 Amusement 後半

Unit 4 Meeting 前半

Unit 3 Amusement 後半

・文法：品詞

Unit 4 Meeting 前半

・Part4まで

第5回 Unit 4 Meeting 後半

Unit 5 Personnel 前半

Unit 4 Meeting 後半

・文法：分詞

Unit 5 Personnel 前半

・Part4まで

第6回 Unit 5 Personnel 後半

Unit 6 Shopping 前半

Unit 5 Personnel 後半

・文法：不定詞と動名詞（1）

Unit 6 Shopping 前半

・Part4まで

第7回 Unit 6 Shopping 後半

Unit 7 Advertisement 前半

Unit 6 Shopping 後半

・文法：不定詞と動名詞（2）

Unit 7 Advertisement 前半

・Part4まで

第8回 Unit 7 Advertisement 後半

Unit 8 Daily Life 前半

Unit 7 Advertisement 後半

・文法：仮定法

Unit 8 Daily Life 前半

・Part4まで

第9回 Unit 8 Daily Life 後半

Unit 9 Office Work 前半

Unit 8 Daily Life 後半

・文法：受動態

Unit 9 Office Work 前半

・Part4まで

第10回 Unit 9 Office Work 後半

Unit 10 Business 前半

Unit 9 Office Work 後半

・文法：代名詞

Unit 10 Business 前半

・Part4まで

第11回 Unit 10 Business 後半

Unit 11 Traffic 前半

Unit 10 Business 後半

・文法：数量詞・比較

Unit 11 Traffic 前半

・Part4まで

第12回 Unit 11 Traffic 後半

Unit 12 Finance and Banking 前半

Unit 11 Traffic 後半

・文法：接続詞

Unit 12 Finance and Banking 前半

・Part4まで

第13回 Unit 12 Finance and Banking 後半

Unit 13 Media 前半

Unit 12 Finance and Banking 後半

・文法：前置詞

Unit 13 Media 前半

・Part4まで

第14回 Unit 13 Media 後半

Unit 14 Health and Welfare 前半

Unit 13 Media 後半

・文法：語彙

Unit 14 Health and Welfare 前半

・Part4までの解説

第15回 Unit 14 Health and Welfare 後半

TOEIC Listening模試

Unit 14 Health and Welfare 後半

・Part4以降の解説

TOEIC Listening模試
・スクリプト配布+解説

定期試験

Unit 1～14の内容
およびTOEIC形式の類似問題

科目名： TOEIC 3			
英文名： TOEIC 3			
担当者： <small>ヤタ ヒロコ</small> 矢田 寛子			
単 位： 1単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

TOEICスコア500点以上の取得を目指して英語力を育成する。語彙力・文法力・読解力・リスニング力を養成し、総合的な英語の基礎力を培う。また、TOEIC 特有の問題形式を把握し、それに対する戦略を身につける。そのため、授業では毎回TOEIC に即した問題演習をテキストやプリント教材を使って数多く行う。

■学習・教育目標および到達目標

TOEICスコア500点～600点以上を取得することを目標とする。TOEICを通して自分が不得意な英語の分野を理解し、自らが得意なところをさらに伸ばす。不得意なところをどのようにすれば克服できるのかを考え、スコアアップに向けて実行する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』（金星堂）[ISBN]9784764740457

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

TOEIC 1, 2, 4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）hiyata@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。(他の時間帯は予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、TOEIC TEST概要、Mini Test

目標・方法・授業の進め方等の説明

・予習、小テスト、定期試験、評価

・受講に際しての注意事項

・TOEIC TESTの構成・問題形式・変更点

Mini Test実施・解答・解説

第2回 Unit 1 Travel

・Vocabulary

・TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3, 4 Practice

・TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3, 4 Challenge

第3回 Unit 1 Travel

・Vocabulary Check

・TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Practice

・TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Challenge

第4回 Unit 2 Dining Out

- ・ Vocabulary
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Practice
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Challenge

第5回 単語・熟語小テスト, Unit 2 Dining Out

- ・ 単語・熟語小テスト実施
- ・ Vocabulary Check
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Practice
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Challenge ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7に対応する演習

第6回 Unit 3 Media

- ・ Vocabulary
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Practice
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Challenge

第7回 Unit 3 Media

- ・ Vocabulary Check
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Practice
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Challenge

第8回 Unit 4 Entertainment

- ・ Vocabulary
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Practice
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Challenge

第9回 Unit 4 Entertainment

- ・ Vocabulary Check
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Practice
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Challenge

第10回 単語・熟語小テスト, Unit 5 Purchasing

- ・ 単語・熟語小テスト実施
- ・ Vocabulary
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Practice
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Challenge

第11回 Unit 5 Purchasing

- ・ Vocabulary Check
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Practice
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Challenge

第12回 IP テスト対策 (IP テストの日程により変更あり)

- ・ TOEIC Listening 模擬テスト
- ・ 解答・解説

第13回 IP テスト対策 (IP テストの日程により変更あり)

- ・ TOEIC Reading 模擬テスト
- ・ 解答・解説

第14回 Unit 6 Clients

- ・ Vocabulary
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Practice
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Challenge

第15回 Unit 6 Clients

- ・ Vocabulary check
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Practice
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Challenge

定期試験

科目名： TOEIC 4			
英文名： TOEIC 4			
担当者： <small>ハセガワ ユミ</small> 長谷川 由美			
単 位： 1単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

TOEIC形式の問題を解くことにより、TOEICスコアのアップを目標とした授業を行います。リスニングは問題を解いた後にスクリプトを配布し、リスニングで解答した問題をリーディングすることにより、読めばわかるのに聞きとれなかった部分などを各自で確認します。文法・リーディングパートは基本的には予習部分となります。文法パートは「どうしてその解答が正しいのか」を文法的に説明できるようになりましょう。またリーディングパートに関しては、「どの部分を読んで正解を引き出したのか」を明確にしましょう。また、学内で実施されるTOEIC-IPテストもしくは公開テストを受講期間内にできるだけ1回は受験し、自分の実力を把握するようにしましょう。

■学習・教育目標および到達目標

TOEICスコア400点(目安)を取得している学生を対象に、TOEIC600点以上を取得することを目標とする。自分の 得手不得手を理解し、得意なところをさらに伸ばし、不得意なところをどのようにすれば克服できるのかを考え、スコアアップに向けて実行する

■試験・課題に対するフィードバック方法

模範答案をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST LEVEL 3 Advanced, (Asahi Press)
Yasuyuki Kitao, Harumi Nishida, Shiho Hayashi, Brian Covert, ISBN 978-4-255-15596-8

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

TOEIC1・2・3

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

課題 30%

小テスト 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

長谷川研究室 (2号館5階)・hasegawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜4限目(その他の時間帯は必ず予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

TOEICについて

Unit 1 Eating out 前半

オリエンテーション

・受講に際しての注意事項

TOEICについて

・TOEICの各パートの説明

Unit 1 Eating out 前半

・Part4まで

第2回 Unit 1 Eating out 後半

Unit 2 Travel 前半

Unit 1 Eating out 後半

・文法：動詞（1）

Unit 2 Travel 前半

・Part4まで

第3回 Unit 2 Travel 後半

Unit 3 Amusement 前半

Unit 2 Travel 後半

・文法：動詞（2）

Unit 3 Amusement 前半

・Part4まで

第4回 Unit 3 Amusement 後半

Unit 4 Meeting 前半

Unit 3 Amusement 後半

・文法：品詞

Unit 4 Meeting 前半

・Part4まで

第5回 Unit 4 Meeting 後半

Unit 5 Personnel 前半

Unit 4 Meeting 後半

・文法：分詞

Unit 5 Personnel 前半

・Part4まで

第6回 Unit 5 Personnel 後半

Unit 6 Shopping 前半

Unit 5 Personnel 後半

・文法：不定詞と動名詞（1）

Unit 6 Shopping 前半

・Part4まで

第7回 Unit 6 Shopping 後半

Unit 7 Advertisement 前半

Unit 6 Shopping 後半

・文法：不定詞と動名詞（2）

Unit 7 Advertisement 前半

・Part4まで

第8回 Unit 7 Advertisement 後半

Unit 8 Daily Life 前半

Unit 7 Advertisement 後半

・文法：仮定法

Unit 8 Daily Life 前半

・Part4まで

第9回 Unit 8 Daily Life 後半

Unit 9 Office Work 前半

Unit 8 Daily Life 後半

・文法：受動態

Unit 9 Office Work 前半

・Part4まで

第10回 Unit 9 Office Work 後半

Unit 10 Business 前半

Unit 9 Office Work 後半

・文法：代名詞

Unit 10 Business 前半

・Part4まで

第11回 Unit 10 Business 後半

Unit 11 Traffic 前半

Unit 10 Business 後半

・文法：数量詞・比較

Unit 11 Traffic 前半

・Part4まで

第12回 Unit 11 Traffic 後半

Unit 12 Finance and Banking 前半

Unit 11 Traffic 後半

・文法：接続詞

Unit 12 Finance and Banking 前半

・Part4まで

第13回 Unit 12 Finance and Banking 後半

Unit 13 Media 前半

Unit 12 Finance and Banking 後半

・文法：前置詞

Unit 13 Media 前半

・Part4まで

第14回 Unit 13 Media 後半

Unit 14 Health and Welfare 前半

Unit 13 Media 後半

・文法：語彙

Unit 14 Health and Welfare 前半

・Part4までの解説

第15回 Unit 14 Health and Welfare 後半

TOEIC Listening模試

Unit 14 Health and Welfare 後半

・Part4以降の解説

TOEIC Listening模試
・スクリプト配布+解説

定期試験

Unit 1～14の内容
およびTOEIC形式の類似問題

科目名： TOEIC 4			
英文名： TOEIC 4			
担当者： <small>ヤタ ヒロコ</small> 矢田 寛子			
単 位： 1単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

TOEIC スコア500点以上の取得を目指して英語力を育成する。語彙力・文法力・読解力・リスニング力を養成し、総合的な英語の基礎力を培う。また、TOEIC 特有の問題形式を把握し、それに対する戦略を身につける。そのため、授業では毎回TOEIC に即した問題演習をテキストやプリント教材を使って数多く行う。

■学習・教育目標および到達目標

TOEICスコア500点～600点以上を取得することを目標とする。TOEICを通して自分が不得意な英語の分野を理解し、自らが得意なところをさらに伸ばす。不得意なところをどのようにすれば克服できるのかを考え、スコアアップに向けて実行する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』（金星堂）[ISBN]9784764740457

■参考文献

授業内で指示します。

■関連科目

TOEIC 1, 2, 3

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）hiyata@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。(他の時間帯は予約すること)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション、TOEIC TEST概要、Mini Test

目標・方法・授業の進め方等の説明

・予習、小テスト、定期試験、評価

・受講に際しての注意事項

・TOEIC TESTの構成・問題形式・変更点

Mini Test実施・解答・解説

第2回 Unit 7 Recruiting

・Vocabulary

・TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3, 4 Practice

・TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3, 4 Challenge

第3回 Unit 7 Recruiting

・Vocabulary Check

・TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Practice

・TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Challenge

第4回 Unit 8 Personnel

- ・ Vocabulary
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Practice
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Challenge

第5回 単語・熟語小テスト, Unit 8 Personnel

- ・ Vocabulary Check
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Practice
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Challenge

第6回 Unit 9 Advertising

- ・ Vocabulary
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Practice
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Challenge

第7回 Unit 9 Advertising

- ・ Vocabulary Check
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Practice
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Challenge

第8回 Unit 10 Meetings

- ・ Vocabulary
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Practice
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Challenge

第9回 Unit 10 Meetings

- ・ Vocabulary Check
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Practice
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Challenge

第10回 単語・熟語小テスト, Unit 11 Finance

- ・ 単語・熟語小テスト実施
- ・ Vocabulary
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Practice
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Challenge

第11回 Unit 11 Finance

- ・ Vocabulary Check
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Practice
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Challenge

第12回 IP テスト対策 (IP テストの日程により変更あり)

- ・ TOEIC Listening 模擬テスト
- ・ 解答・解説

第13回 IP テスト対策 (IP テストの日程により変更あり)

- ・ TOEIC Reading 模擬テスト
- ・ 解答・解説

第14回 Unit 12 Offices

- ・ Vocabulary
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Practice
- ・ TOEIC Listening Test PART 1, 2, 3,4 Challenge

第15回 Unit 12 Offices

- ・ Vocabulary Check
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Practice
- ・ TOEIC Reading Test PART 5, 6, 7 Challenge

定期試験

科目名：理系英語応用 1			
英文名：Applied Science English 1			
担当者：澤邊 興平 <small>サワベ コウヘイ</small>			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

- ・定評ある専門ジャーナル掲載の論文を題材として使用し、理論的展開が明快な学術英文の読解に重点を置いた学習を行います。
- ・授業中に各受講生の担当課題範囲を決め翌週に発表してもらう形式なので、積極的に授業に参加してください。
- ・授業には辞書を必ず持参しましょう。

■学習・教育目標および到達目標

科学英語への関心と実践的英語力の向上を養うことを本授業の教育目標とします。

- ・中級～上級レベルの科学英文を読み、内容を理解できる。
- ・本文で使われている単語や熟語を理解し、それらを自分のものとして使うことができる。
- ・本文に関連した内容の英文を読み、理解することができる。
- ・本文に関連した内容の英文で使われている科学英語の語彙力を向上させる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間内に課題担当者の答案を基に模範解答を板書として提示します。

■教科書

適時プリント配布

■参考文献

Science Fair：『Science』で読む科学の世界
(野崎・松本・クレアリー 南雲堂：2012) ISBN978-4-523-17698-5

この著書からの抜粋を必要に応じて授業中にプリントとして配布します。
その他の参考資料は、適宜、授業にて指示します。

■関連科目

理系英語応用 2

■成績評価方法および基準

定期テスト 50%
課題（宿題を含む）50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・ksawabe@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

授業時限前後の休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

生物学・遺伝学・応用数学・物理学・論理学などの分野から1つずつ選んだ(英語で書かれた)論文について、その中から1,000～2,000語程度の範囲を抜き出し、それぞれ2～3回の授業時間をかけて扱ってゆく予定です。論文の選択は初回授業で決定し、以降、前もって必要箇所のプリントを配布していきます。論文の難易度は指定した参考書と同等を基準とし、テーマも参考書に収録のものに関連がありますので、意欲的な方は購入してください(必須ではありません)。以下、各回の内容は、参考書の章立てを目安として記します(必ずしも題材が掲載のとおりとなる訳ではありません)。

第1回 オリエンテーション、ウォームアップ

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題

受講に際しての注意事項

- ・欠席/遅刻について

- ・忘れ物（テキスト・辞書）について
 - ・携帯電話の使用制限について
 - ・定期試験について
 - ・総合評価について
- その他、受講に関する注意点について
科学技術英語の特徴

第2回 Unit1 : Why Diets Fail (前半)

- ・なぜダイエットが難しいのかについての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第3回 Unit1 : Why Diets Fail (後半)

- ・なぜダイエットが難しいのかについての英文を読み解く（前回の続き）。
- ・食事療法についての他の事例を英語で読む。

第4回 Unit2 : Dance Moves (前半)

- ・ダンスの動きの魅力に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第5回 Unit2 : Dance Moves (後半)

- ・ダンスの動きの魅力に関する英文を読み解く（前回の続き）。
- ・運動やスポーツに関する他の事例を英語で読む。

第6回 Unit3 : The Origins of Tidiness (前半)

- ・整理整頓の人類史的起源に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第7回 Unit3 : The Origins of Tidiness (後半)

- ・整理整頓の人類史的起源に関する英文を読み解く（前回の続き）。
- ・初期人類についての他の事例を英語で読む。

第8回 Unit4 : Malagasy Spiders (前半)

- ・蜘蛛の糸の研究と応用に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第9回 Unit4 : Malagasy Spiders (後半)

- ・蜘蛛の糸の研究と応用に関する英文を読み解く（前回の続き）。
- ・蜘蛛についての他の事例を英語で読む。

第10回 Unit5 : Goodbye to Sunspots? (前半)

- ・太陽黒点減少についての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第11回 Unit5 : Goodbye to Sunspots? (後半)

- ・太陽黒点減少についての英文を読み解く（前回の続き）。
- ・太陽黒点についての他の事例を英語で読む。

第12回 Unit6 : The Moon' s Phase Affects Rainfall (前半)

- ・月の周期と降水量の関係に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第13回 Unit6 : The Moon' s Phase Affects Rainfall (後半)

- ・月の周期と降水量の関係に関する英文を読み解く（前回の続き）。
- ・降水や気象に関する他の事例を英語で読む。

第14回 Unit7 : Safe Passage for Salmon (前半)

- ・ 鮭の稚魚にやさしい河川についての英文を読み解く。
- ・ 本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第15回 Unit7 : Safe Passage for Salmon (後半)

- ・ 鮭の稚魚にやさしい河川についての英文を読み解く (前回の続き)。
- ・ 河川や自然環境に関する他の事例を英語で読む。

定期試験

科目名：理系英語応用2			
英文名：Applied Science English 2			
担当者：澤邊 興平 <small>サワベ コウヘイ</small>			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

- ・定評ある専門ジャーナル掲載の論文を題材に使用し、理論的展開が明快な学術英文の読解に重点を置いた学習を行います。
- ・授業中に各受講生の担当課題範囲を決め翌週に発表してもらう形式なので、積極的に授業に参加してください。
- ・授業には辞書を必ず持参しましょう。

■学習・教育目標および到達目標

科学英語への関心と実践的英語力の向上を養うことを本授業の教育目標とします。

- ・中級～上級レベルの科学英文を読み、内容を理解できる。
- ・本文で使われている単語や熟語を理解し、それらを自分のものとして使うことができる。
- ・本文に関連した内容の英文を読み、理解することができる。
- ・本文に関連した内容の英文で使われている科学英語の語彙力を向上させる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間内に課題担当者の答案を基に模範解答を板書として提示します。

■教科書

適時プリント配布

■参考文献

Science Fair：『Science』で読む科学の世界
(野崎・松本・クレアリー 南雲堂：2012) ISBN978-4-523-17698-5

この著書からの抜粋を必要に応じて授業中にプリントとして配布します。
その他の参考資料は、適宜、授業にて指示します。

■関連科目

理系英語応用1

■成績評価方法および基準

定期テスト 50%
課題（宿題を含む）50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・ksawabe@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

授業時限前後の休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

生物学・遺伝学・応用数学・物理学・論理学などの分野から1つずつ選んだ(英語で書かれた)論文について、その中から1,000～2,000語程度の範囲を抜き出し、それぞれ2～3回の授業時間をかけて扱ってゆく予定です。論文の選択は初回授業で決定し、以降、前もって必要箇所のプリントを配布していきます。論文の難易度は指定した参考書と同等を基準とし、テーマも参考書に収録のものに関連がありますので、意欲的な方は購入してください(必須ではありません)。以下、各回の内容は、参考書の章立てを目安として記します(必ずしも題材が掲載のとおりとなる訳ではありません)。

第1回 オリエンテーション、ウォームアップ、Unit8：Human Mobility Research (前半)

授業の進め方の説明

- ・予習の進め方
- ・授業の進め方
- ・課題

受講に際しての注意事項

- ・欠席／遅刻について

- ・忘れ物（テキスト・辞書）について
- ・携帯電話の使用制限について
- ・定期試験について
- ・総合評価について

Unit8：Human Mobility Research（前半）

- ・人の移動性向の分析についての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第2回 Unit8：Human Mobility Research（後半）

- ・人の移動性向の分析についての英文を読み解く（前回の続き）。
- ・社会における人の行動に関する他の事例を英語で読む。

第3回 Unit9：Alien Gases in the atmosphere（前半）

- ・大気中の地球外由来の気体に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第4回 Unit9：Alien Gases in the atmosphere（後半）

- ・大気中の地球外由来の気体に関する英文を読み解く（前回の続き）。
- ・地球の起源に関する他の事例を英語で読む。

第5回 Unit10：Altitude Doping（前半）

- ・高地順応トレーニングに関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第6回 Unit10：Altitude Doping（後半）

- ・高地順応トレーニングに関する英文を読み解く（前回の続き）。
- ・ドーピングに関する他の事例を英語で読む。

第7回 Unit11：Flocks of Pigeons（前半）

- ・鳩の集団のリーダーについての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第8回 Unit11：Flocks of Pigeons（後半）

- ・鳩の集団のリーダーについての英文を読み解く（前回の続き）。
- ・動物心理についての他の事例を英語で読む。

第9回 Unit12：Japanese Guts（前半）

- ・日本人の腸内細菌についての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第10回 Unit12：Japanese Guts（後半）

- ・日本人の腸内細菌についての英文を読み解く（前回の続き）。
- ・腸内細菌についての他の事例を英語で読む。

第11回 Unit13：Cats' Tongues（前半）

- ・猫の水の飲み方に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第12回 Unit13：Cats' Tongues（後半）

- ・猫の水の飲み方に関する英文を読み解く（前回の続き）。
- ・動物の行動に関する他の事例を英語で読む。

第13回 Unit14：Groundwater Disappearance（前半）

- ・地下水の消滅とその観測に関する英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

第14回 Unit14 : Groundwater Disappearance (後半)

- ・地下水の消滅とその観測に関する英文を読み解く (前回の続き)。
- ・自然環境の変化についての他の事例を英語で読む。

第15回 Unit15 : A Greener Way to Make Plastic

- ・バイオマスをプラスチック製造に活用することについての英文を読み解く。
- ・本文に使用されている単語・熟語・文の構造を理解する。

定期試験

科目名：ドイツ語総合 1			
英文名：Basic German 1			
担当者：田中 秀穂・北川 尚・南谷 真紀			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

日常のさまざまな場面で使われる会話を中心とするテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、ドイツ語検定で言えば5級に相当する語彙と基本フレーズを習得することを通じて、実際に使える初歩的なドイツ語力の獲得を目指します。

また、この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784261012583『ドイツ語一步一步』(山本 洋一, 郁文堂: 2015)

■参考文献

授業で紹介します。「ドイツ語について」の項を参照。

■関連科目

ドイツ語総合2・3・4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ドイツ語はこんな音

予習内容 : ドイツ語が使用されている地域、ドイツ語の特徴について調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : ドイツ語の発音、挨拶を練習する。

復習時間 : 45分

発音の基本/数字 (1 ~ 20)

第2回 Lektion1.私はハンス・ベッカーです。ドイツ語教師です。

予習内容 : Lektion1に出てくる単語の読み方と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion1の文章と単語を復習する。

復習時間 : 45分

主語によってかたちを変える動詞・疑問文/20以上の数字/位置を表すことば (副詞)

第3回 Lektion1.私はハンス・ベッカーです。ドイツ語教師です。

予習内容 : Lektion 1 後半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 1 後半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

主語によってかたちを変える動詞・疑問文 / 20以上の数字 / 位置を表すことば (副詞)

第4回 Lektion2 これは何?

予習内容 : Lektion 2 前半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 2 前半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

名詞には性別がある / 形容詞

第5回 Lektion2 これは何?

予習内容 : Lektion 2 後半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 2 後半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

名詞には性別がある / 形容詞

第6回 まとめと復習:小テスト

予習内容 : Lektion 1 およびLektion 2 の内容を確認する。

予習時間 : 45分

復習内容 : 小テストでよくできなかった点を復習する。

復習時間 : 45分

まとめと復習・小テスト

第7回 Lektion3 何を買うの?

予習内容 : Lektion 3 前半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 3 前半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

名詞の4つの格とその使い方

第8回 Lektion3 何を買うの?

予習内容 : Lektion 3 後半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 3 後半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

名詞の4つの格とその使い方

第9回 Lektion4 手伝ってあげて!

予習内容 : Lektion 4 前半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 4 前半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

現在人称変化で語幹まで形を変える動詞 / 命令法

第10回 Lektion4 手伝ってあげて!

予習内容 : Lektion 4 後半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 4 後半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

現在人称変化で語幹まで形を変える動詞 / 命令法

第11回 Lektion5 ぼくと一緒に来る気はある?

予習内容 : Lektion 5 前半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 5 前半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分
前置詞 / zu不定詞 / 時間の表現 / 曜日・月・季節

第12回 Lektion 5 ぼくと一緒に来る気はある？

予習内容 : Lektion 5 後半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 5 後半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分
前置詞 / zu不定詞 / 時間の表現 / 曜日・月・季節

第13回 Lektion 6 赤い車それとも白い車、どちらの車？

予習内容 : Lektion 6 前半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 6 前半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分
名詞の性・数・格を示すさまざまな方法

第14回 Lektion 6 赤い車それとも白い車、どちらの車？

予習内容 : Lektion 6 後半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 6 後半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分
名詞の性・数・格を示すさまざまな方法

第15回 まとめと復習・補足・小テスト

予習内容 : 前期の学習内容を振り返る。
予習時間 : 45分
復習内容 : 小テストでできなかった項目を確認する。
復習時間 : 45分
まとめと復習・補足・小テスト

定期試験

科目名：ドイツ語総合2			
英文名：Basic German 2			
担当者：田中 ^{タナカ} 秀穂・北川 ^{ヒデホ} 尚・南谷 ^{キタガワ} 真紀 ^{ヒサシ}			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

日常のさまざまな場面で使われる会話体のテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、実際に使えるドイツ語を目指し、ドイツ語検定4級に相当する語彙と表現を習得し、基礎的なドイツ語を理解する力をつけます。また、この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784261012583『ドイツ語一步一步』(山本 洋一, 郁文堂: 2015)

■参考文献

授業で紹介します。

「ドイツ語について」の項を参照

■関連科目

ドイツ語総合1・3・4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 前期の復習

予習内容 : 前期に学習した単語や文法事項を確認する。

予習時間 : 45分

復習内容 : 授業時に分からなかった単語や文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

前期の復習

第2回 Lektion 7 別な列車に乗り換えなければならない。

予習内容 : Lektion 7 前半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 7 前半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

複合動詞 (分離動詞・非分離動詞) / 助動詞で豊かな表現

第3回 Lektion 7 別な列車に乗り換えなければならない。

予習内容 : Lektion 7 後半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 7 後半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

複合動詞 (分離動詞・非分離動詞) / 助動詞で豊かな表現

第4回 Lektion 8 携帯の電源を切らなければならなかった

予習内容 : Lektion 8 前半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 8 前半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

動詞の三基本形 / 過去人称変化 / 従属接続詞 / 副文

第5回 Lektion 8 携帯の電源を切らなければならなかった

予習内容 : Lektion 8 後半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 8 後半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

動詞の三基本形 / 過去人称変化 / 従属接続詞 / 副文

第6回 まとめと復習

予習内容 : Lektion 7 およびLektion 8 の単語の発音と意味を確認する。
予習時間 : 45分
復習内容 : 小テストでできなかった単語や文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

まとめと復習

第7回 Lektion 9 先週末ミュンヘンに行ってきた

予習内容 : Lektion 9 前半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 9 前半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

助動詞と過去分詞で作る完了形と受動態

第8回 Lektion 9 先週末ミュンヘンに行ってきた

予習内容 : Lektion 9 後半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 9 後半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

助動詞と過去分詞で作る完了形と受動態

第9回 Lektion 10 旧友との再会が待ちどおしい

予習内容 : Lektion 10 前半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 10 前半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

再帰代名詞・再帰動詞 / 非人称主語 es / 比較表現

第10回 Lektion 10 旧友との再会が待ちどおしい

予習内容 : Lektion 10 後半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 10 後半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

再帰代名詞・再帰動詞 / 非人称主語 es / 比較表現

第11回 Lektion 11 貸した本は気に入った？

予習内容 : Lektion 11 前半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion11前半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分
関係代名詞・関係副詞

第12回 Lektion11貸した本は気に入った？

予習内容 : Lektion11後半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion11後半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分
関係代名詞・関係副詞

第13回 補足と復習

予習内容 : 話法の助動詞の意味と使いかたを調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : 話法の助動詞と完了形について復習する。
復習時間 : 45分

話法の助動詞と完了形／使役動詞・知覚動詞／接続法

第14回 補足と復習

予習内容 : 使役動詞・知覚動詞、接続法について調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : 使役動詞・知覚動詞、接続法の例文を読み、文法事項を確認する。
復習時間 : 45分

話法の助動詞と完了形／使役動詞・知覚動詞／接続法

第15回 まとめと復習・補足・小テスト

予習内容 : 後期の学習内容について確認する。
予習時間 : 45分
復習内容 : 小テストでできなかった項目を復習する。
復習時間 : 45分

まとめと復習・補足・小テスト

定期試験

科目名：ドイツ語総合3			
英文名：Basic German 3			
担当者： ^{ミナミタニ マキ} 南谷 真紀			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

これまで学んだドイツ語の文法や基本構造をもう一度確認しながら、語彙や表現の聴き取り、口頭練習、ドイツ語作文の練習などにより、ドイツの日常生活で使うことができ、またいろいろな場面で簡単に応用できる表現を習得します。随時、プリントなどの補助教材を使うことがあります。

■学習・教育目標および到達目標

「総合1・2」で学んだドイツ語の知識をもとに、さらにドイツ語の表現力や応用力を養い、簡単な会話や文章が理解できる力をつけましょう。

また、この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784560064146 『パノラマ初級ドイツ語ゼミナール』(上野 成利, 白水社 : 2015)

■参考文献

授業で紹介します。

■関連科目

ドイツ語総合1・2・4

ドイツ語総合A・B

ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4

ドイツ語カルチャーセミナー A・B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion0 Aussprache 発音

予習内容 : ドイツ語のアルファベットの発音や挨拶について調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : アルファベット、単語の読み方、挨拶の表現を練習する。

復習時間 : 45分

アルファベット／挨拶／発音の原則／母音・子音の発音

第2回 Lektion1 Was lernst du? Ich lerne Japanisch (出会いと自己紹介)

予習内容 : Lektion1 前半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion1 前半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

動詞の現在人称変化／定動詞第2位の原則／seinの現在人称変化

第3回 Lektion1 Was lernst du? Ich lerne Japanisch (出会いと自己紹介)

予習内容 : Lektion 1 後半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 1 後半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

動詞の現在人称変化／動詞第2位の原則／seinの現在人称変化

第4回 Lektion2 Hast du Geschwister?-Ja, ich habe einen Bruder. (家族について尋ねる／名詞の性・冠詞の格変化)

予習内容 : Lektion 2 前半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 2 前半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

名詞の性と数／定冠詞・不定冠詞の格変化／habenの現在人称変化

第5回 Lektion2 Hast du Geschwister?-Ja, ich habe einen Bruder. (家族について尋ねる／名詞の性・冠詞の格変化)

予習内容 : Lektion 2 後半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 2 後半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

名詞の性と数／定冠詞・不定冠詞の格変化／habenの現在人称変化

第6回 Lektion3 Wann fährst du nach München?- Morgen früh. (明日の予定を尋ねる／不規則変化動詞・命令形)

予習内容 : Lektion 3 前半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 3 前半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

不規則な現在人称変化 : ①a→型 ②e→i/e→ie型／命令形

第7回 Lektion3 Wann fährst du nach München?- Morgen früh. (明日の予定を尋ねる／不規則変化動詞・命令形)

予習内容 : Lektion 3 後半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 3 後半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

不規則な現在人称変化 : ①a→型 ②e→i/e→ie型／命令形

第8回 Lektion4 Welche Uhr kaufst du? -Ich kaufe diese Uhr. (買い物に行く・1／定冠詞類・不定冠詞類)

予習内容 : Lektion 4 前半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 4 前半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

定冠詞類の格変化／不定冠詞類の格変化／所有冠詞

第9回 Lektion4 Welche Uhr kaufst du? -Ich kaufe diese Uhr. (買い物に行く・1／定冠詞類・不定冠詞類)

予習内容 : Lektion 4 後半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 4 後半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

定冠詞類の格変化／不定冠詞類の格変化／所有冠詞

第10回 Lektion5 Kaufst du diese Bücher?- Ja, ich kaufe sie. (買い物に行く・2／複数形・人称代名詞)

予習内容 : Lektion 5 前半の単語の発音と意味を調べる。

予習時間 : 45分

復習内容 : Lektion 5 前半の単語と文法事項を復習する。

復習時間 : 45分

名詞の複数形／人称代名詞の格変化／3格・4格の語順

第11回 Lektion5 Kaufst du diese Bücher?- Ja, ich kaufe sie. (買い物に行く・2／複数形・人称代名詞)

予習内容 : Lektion 5 後半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 5 後半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

名詞の複数形／人称代名詞の格変化／3格・4格の語順

第12回 Lektion6 Was machst du an diesem Wochenende? - Ich gehe ins Kino. (週末の予定を尋ねる／前置詞の格支配)

予習内容 : Lektion 6 前半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 6 前半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

2格・3格・4格支配／3・4格支配／前置詞と定冠詞の融合形

第13回 Lektion6 Was machst du an diesem Wochenende? - Ich gehe ins Kino. (週末の予定を尋ねる／前置詞の格支配)

予習内容 : Lektion 6 後半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 6 後半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

2格・3格・4格支配／3・4格支配／前置詞と定冠詞の融合形

第14回 Lektion7 Was liest du gern? - Ich lese gern japanische Mangas. (趣味について尋ねる／形容詞の格変化)

予習内容 : Lektion 7 前半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 7 前半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

無冠詞型／定冠詞(類) + 形容詞型／不定冠詞(類) + 形容詞型

第15回 Lektion7 Was liest du gern? - Ich lese gern japanische Mangas. (趣味について尋ねる／形容詞の格変化)

予習内容 : Lektion 7 後半の単語の発音と意味を調べる。
予習時間 : 45分
復習内容 : Lektion 7 後半の単語と文法事項を復習する。
復習時間 : 45分

無冠詞型／定冠詞(類) + 形容詞型／不定冠詞(類) + 形容詞型

定期試験

科目名： ドイツ語総合 4			
英文名： Basic German 4			
担当者： <small>ミナミタニ マキ</small> 南谷 真紀			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

これまで学んだドイツ語の文法や基本構造をもう一度確認しながら、語彙や表現の聴き取り、口頭練習、ドイツ語作文の練習などにより、ドイツの日常生活で使うことができ、またいろいろな場面で簡単に応用できる表現を習得します。随時、プリントなどの補助教材を使うことがあります。

■学習・教育目標および到達目標

「総合1・2」で学んだドイツ語の知識をもとに、さらにドイツ語の表現力や応用力を養い、簡単な会話や文章が理解できる力をつけましょう。

また、この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784560064146 『パノラマ初級ドイツ語ゼミナール』(上野 成利, 白水社 : 2015)

■参考文献

授業で紹介します。

■関連科目

関連科目

ドイツ語総合1・2・3

ドイツ語総合A・B

ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4

ドイツ語カルチャーセミナー A・B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

各担当教員が初回授業で伝えます。

■オフィスアワー

各担当教員が初回授業で伝えます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion8. Wohin willst du gehen?- Ich will ins Restaurant gehen. (昼食を食べに行く／話法の助動詞・未来形)

予習内容 : Lektion 8 前半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion 8 前半の単語と文法事項を復習する。

話法の助動詞／werdenの現在人称変化／未来形

第2回 Lektion8. Wohin willst du gehen?- Ich will ins Restaurant gehen. (昼食を食べに行く／話法の助動詞・未来形)

予習内容 : Lektion 8 後半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion 8 後半の単語と文法事項を復習する。

話法の助動詞／werdenの現在人称変化／未来形

第3回 Lektion 9. Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt. - Er fährt um 9 Uhr ab. (駅の窓口で尋ねる／分離動詞・接続詞と副文)

予習内容 : Lektion 9 前半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion 9 前半の単語と文法事項を復習する。

分離動詞／非分離動詞／分離動詞の構文／従属接続詞と副文

第4回 Lektion 9. Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt. - Er fährt um 9 Uhr ab. (駅の窓口で尋ねる／分離動詞・接続詞と副文)

予習内容 : Lektion 9 後半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion 9 後半の単語と文法事項を復習する。

分離動詞／非分離動詞／分離動詞の構文／従属接続詞と副文

第5回 Lektion 10. Hast du vor, München zu besuchen? - Ich freue mich darauf. (休暇の計画を尋ねる／zu不定詞・再帰代名詞)

予習内容 : Lektion10前半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion10前半の単語と文法事項を復習する。

zu不定詞／再帰代名詞／再帰動詞

第6回 Lektion 10. Hast du vor, München zu besuchen? - Ich freue mich darauf. (休暇の計画を尋ねる／zu不定詞・再帰代名詞)

予習内容 : Lektion10後半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion10後半の単語と文法事項を復習する。

zu不定詞／再帰代名詞／再帰動詞

第7回 Lektion 11. Als ich das Museum besuchte, fand eine Ausstellung statt. (旅の経験を語る・1／動詞の3基本形・過去形)

予習内容 : Lektion11前半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion11前半の単語と文法事項を復習する。

動詞の3基本形／過去形の人称変化／分離動詞の3基本形・過去形

第8回 Lektion 11. Als ich das Museum besuchte, fand eine Ausstellung statt. (旅の経験を語る・1／動詞の3基本形・過去形)

予習内容 : Lektion11後半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion11後半の単語と文法事項を復習する。

動詞の3基本形／過去形の人称変化／分離動詞の3基本形・過去形

第9回 Lektion 12. Hast du Weimar besucht? - Ja. Es gefällt mir in Weimar. (旅の経験を語る・2／現在完了形・非人称表現)

予習内容 : Lektion12前半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion12前半の単語と文法事項を復習する。

現在完了形／他動詞と自動詞／非人称表現

第10回 Lektion 12. Hast du Weimar besucht? - Ja. Es gefällt mir in Weimar. (旅の経験を語る・2／現在完了形・非人称表現)

予習内容 : Lektion12後半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion12後半の単語と文法事項を復習する。

現在完了形／他動詞と自動詞／非人称表現

第11回 Lektion 13. Es wird gesagt, dass Tokio die teuerste Stadt ist. (意見を交換する・1／受動態・比較表現)

予習内容 : Lektion13前半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion13前半の単語と文法事項を復習する。

受動態／形容詞の比較級・最上級／副詞の比較級・最上級

第12回 Lektion 13. Es wird gesagt, dass Tokio die teuerste Stadt ist. (意見を交換する・1／受動態・比較表現)

予習内容 : Lektion13後半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion13後半の単語と文法事項を復習する。

受動態／形容詞の比較級・最上級／副詞の比較級・最上級

第13回 Lektion 14. Ich will gern Menschen helfen, die Hilfe brauchen. (意見を交換する・2／関係代名詞・関係副詞)

予習内容 : Lektion14前半の単語の発音と意味を調べる。

復習内容 : Lektion14前半の単語と文法事項を復習する。
定関係代名詞／不定関係代名詞／関係副詞

第14回 Lektion 14. Ich will gern Menschen helfen, die Hilfe brauchen. (意見を交換する・2／関係代名詞・関係副詞)

予習内容 : Lektion14後半の単語の発音と意味を調べる。
復習内容 : Lektion14後半の単語と文法事項を復習する。
定関係代名詞／不定関係代名詞／関係副詞

第15回 Lektion 15 (補足) . Wenn ich Geld hätte, würde ich auch nach Japan gehen. (別れと再会の約束／接続法)

予習内容 : Lektion15の単語の発音と意味を調べる。
復習内容 : Lektion15の単語と文法事項を復習する。
第I式：間接話法／第II式：非現実話法／願望・婉曲表現

定期試験

科目名： 中国語総合 1			
英文名： Basic Chinese 1			
担当者： <small>ムラタ ヒロシ</small> 村田 浩・ <small>ヒラサカ ヒトシ</small> 平坂 仁志・ <small>オウラン</small> 王 蘭・ <small>トウジヨウ チ エ</small> 東條 智恵			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

中国語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的な中国語を用いてコミュニケーションが図れるようにします。「総合1」では、中国語の音節構造を理解し、発音表記（ピンイン）に習熟することが第一の目標となりますが、簡単な自己紹介や日常会話ができるよう、文法の基礎もしっかりと学んでいきます。

■学習・教育目標および到達目標

「中国語総合2」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に關与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

[ISBN]9784255452371 『日中いぶこみ広場・簡明版』（相原茂・陳淑梅・飯田敦子 朝日出版社）

■参考文献

辞書：

[ISBN]9784385121703 『デイリーコンサイス中日・日中辞典 第3版, 中型版』（杉本達夫, 三省堂）

[ISBN]9784095156958 『中日辞典 第2版, 大活字版』（北京・商務印書館, 小学館）

参考書：

[ISBN]9784061489875 『はじめての中国語（講談社現代新書 987）』（相原茂, 講談社）

[ISBN]9784480056665 『中国語はじめの一步（ちくま新書 066）』（木村英樹, 筑摩書房）

■関連科目

中国語総合2・3・4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）

平坂 hirasaka@waka.kindai.ac.jp

村田 mypatax@waka.kindai.ac.jp

東條 tudi-zhahui@hotmail.co.jp

王 wanglan@sin-hinoo.ne.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。

講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。

学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。

第1回 発音1 声調・単母音・複母音・練習問題

予習内容： シラバスを読むとともに、これから学ぼうとする言語について調べておく。

復習内容： 授業内容を読み返して復習する。

第2回 発音2 声母表・無気音と有気音・そり舌音・消えるoとe・同じiでも違う音・練習問題

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第3回 発音3 鼻音を伴う母音・またしても消える e・e のヴァリエーション・練習問題

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第4回 発音4 第3声の連続・「不」の声調変化・「一」の声調変化・軽声・声調の組み合わせ・隔音マーク・r化・練習問題

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第5回 第1課 動詞「是」・名前の言い方・挨拶ことば・人称代名詞・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第6回 第2課 助詞「的」・疑問詞・語気助詞・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第7回 第1課～第2課の復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。
復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

第8回 第3課 動詞述語文・副詞「也」・連動文・場所を表すことば・指示代名詞・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第9回 第4課 助動詞「想」・反復疑問文・形容詞述語文・指示代名詞・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第10回 第3課～第4課の復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。
復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

第11回 第5課 年齢の言い方・動詞「有」・比較の言い方・数詞その1・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第12回 第6課 経験の表し方・動詞「～が好きだ」・助動詞の「要」・数詞その2・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第13回 第5課～第6課の復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。
復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

第14回 第7課 年月日、曜日、時刻の言い方・前置詞その1・文末の了・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第15回 総合1の総復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。

復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

定期試験

科目名：中国語総合2			
英文名：Basic Chinese 2			
担当者：村田 浩・平坂 仁志・王 蘭・東條 智恵			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

「中国語総合2」では、「中国語総合1」で習熟したピンインを見て、一字一句正確に発音できることを目指します。また平易な文章を聞き、話すことができるよう中国語の基礎的知識を身につけ、初級レベルのコミュニケーションが図れるようにします。

■学習・教育目標および到達目標

「中国語総合1」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

[ISBN]9784255452371 『日中いぶこみ広場・簡明版』（相原茂・陳淑梅・飯田敦子 朝日出版社）

■参考文献

辞書：

[ISBN]9784385121703 『デイリーコンサイス中日・日中辞典 第3版, 中型版』（杉本達夫, 三省堂）

[ISBN]9784095156958 『中日辞典 第2版, 大活字版』（北京・商務印書館, 小学館）

参考書：

[ISBN]9784061489875 『はじめての中国語（講談社現代新書 987）』（相原茂, 講談社）

[ISBN]9784480056665 『中国語はじめの一步（ちくま新書 066）』（木村英樹, 筑摩書房）

■関連科目

中国語総合1・3・4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）

平坂 hirasaka@waka.kindai.ac.jp

村田 mypatax@waka.kindai.ac.jp

東條 tudi-zhahui@hotmail.co.jp

王 wanglan@sin-hinoo.ne.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。

講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。

学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的にして授業に臨むこと。

第1回 総合1の復習

予習内容：これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。

復習内容：復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

第2回 第8課 前置詞その2・動詞につく「了」・時間量の言い方・量詞・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第3回 第9課 動詞の「在」・是～的構文・進行の表し方・場所を著すことば・方位詞・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第4回 第8課～第9課の復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。
復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

第5回 第10課 主述述語文・助動詞「能」・結果補語・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第6回 第11課 助動詞「会」・二重目的語をとる動詞・様態補語・自然現象の表し方・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第7回 第10課～第11課の復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。
復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

第8回 第12課 方向補語・動詞の重ね型・助動詞「可」・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第9回 第13課 疑問詞の不定用法・要是～・助動詞「得」・助動詞のまとめ・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第10回 第12課～第13課の復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。
復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

第11回 第14課 可能補語・把構文・お金の言い方・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第12回 第15課 選択疑問文・形容詞の重ね型・使役の表現・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第13回 第14課～第15課の復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。
復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

第14回 第16課 未来の表現・受け身の表現・禁止の表現・前置詞のまとめ・練習

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。
復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第15回 総合2の総復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。
復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

科目名：中国語総合 3			
英文名：Basic Chinese 3			
担当者： <small>カキウチ トモユキ</small> 垣内 智之			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

中国語総合1, 2を履修し、基礎的事項を習得した学生を対象とする科目です。
中国語総合1, 2で学習した単語や文法事項を復習しながら、単語量と文法的な知識を増やし、自分の言葉で表現できる力を養います。「総合3」では、主に「読む」と「書く」に重点を置き、中国語運用能力の基礎を身につけます。中国語を読んで理解し、自分の言いたいことが書けること、また情報や自分の考えを場面や目的に応じて適切に伝えられることを目指します。

■学習・教育目標および到達目標

総合4とあわせて、中国語検定4級程度の常用語彙と文法力を身につけます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

[ISBN]9784560069233『中国語つぎへの一步(解答なし)』(尹 景春,白水社)

■参考文献

「中国語について」の項を参照

■関連科目

中国語総合1・2・4

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階) kakiuchi@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

中国語総合1, 2で学修した内容を十分に復習し、その知識を授業内で運用できるよう日頃より準備すること。

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。

講義内で重要とされる部分をノートし、予習・復習に役立つよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。

学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的にして授業に臨むこと。

第1回 中国語発音の復習 復習1

予習内容：これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。

復習内容：復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

基本動詞・形容詞をチェックしよう 復習2 基本文型をチェックしよう

第2回 第1課 中国に行こう！

予習内容：次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容：既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

助動詞「可以」「要」・主述述語文

第3回 第1課 中国に行こう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

目的語が主述句のとき

第4回 第2課 ジャスミン茶を飲もう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

「的」の用法・原因理由の表現

第5回 第2課 ジャスミン茶を飲もう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

文末の助詞

第6回 第3課 友だちをつくろう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

連動文

第7回 第3課 友だちをつくろう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

「是～的」の文・疑問詞「怎么」

第8回 第1課～第3課の復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。

復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

第9回 第4課 長城に登ろう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

「了」の三つの用法

第10回 第4課 長城に登ろう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

副詞「就」

第11回 第5課 卓球を楽しもう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

様態補語

第12回 第5課 卓球を楽しもう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

可能性の予測をあらわす「会」・「假定」をあらわす「要是」

第13回 第6課 漢字を覚えよう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

結果補語 (1)

第14回 第6課 漢字を覚えよう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。
副詞 有点儿

第15回 「総合3」の復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。
復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

定期試験

科目名：中国語総合 4			
英文名：Basic Chinese 4			
担当者： <small>カキウチ トモユキ</small> 垣内 智之			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

「中国語総合3」に引き続き、語彙と文法的な知識を増やし、自分の言葉で表現できる力を養い、総合的な中国語運用能力を伸ばしてゆきます。

■学習・教育目標および到達目標

総合3と併せて、中国語検定4級程度の常用語彙と文法力を身につけます。この科目の修得は、本学の定めるディプロマポリシー4の達成に關与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

[ISBN]9784560069233『中国語つぎへの一歩(解答なし)』(尹 景春,白水社)

■参考文献

「中国語について」の項を参照

■関連科目

中国語総合1・2・3

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階） kakiuchi@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

中国語総合1, 2, 3で学修した内容を十分に復習し、その知識を授業内で運用できるよう日頃より準備すること。

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。

講義内で重要とされる部分をノートし、予習・復習に役立つよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。

学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的にして授業に臨むこと。

第1回 「総合3」の復習

予習内容：これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。

復習内容：復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

第2回 第7課 街を歩こう！

予習内容：次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容：既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

存現文

第3回 第7課 街を歩こう！

予習内容：次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容：既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

主語がフレーズするとき・「～了～了」の用法

第4回 第8課 中国映画を見よう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

「状態の持続」をあらわす「着」

第5回 第8課 中国映画を見よう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

副詞「再」・疑問詞の不定用法

第6回 第9課 チャイナドレスを買おう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

方向補語

第7回 第9課 使役の文

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

第8回 第7課～第9課の復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。

復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

第9回 第10課 中華を食べよう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

可能補語

第10回 第10課 中華を食べよう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

強調表現

第11回 第11課 西遊記を読もう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

結果補語 (2)

第12回 第11課 西遊記を読もう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

受け身の文

第13回 第12課 春節を祝おう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

近い未来の表現

第14回 第12課 春節を祝おう！

予習内容 : 次回学習範囲の単語の発音、文法事項に目を通し、不明な箇所はあらかじめ調べておく。

復習内容 : 既習の発音や単語、文法事項を読み返し復習する。

処置式の文

第15回 「総合3」の総復習

予習内容 : これまで学習した発音や単語、文法事項を復習し、苦手・不明な内容を把握しておく。

復習内容 : 復習した内容を改めて読み返し、苦手・不明な内容を理解したか確認する。

定期試験

科目名： 化学 I			
英文名： Chemistry I			
担当者： <small>フジサワ マサオ</small> 藤澤 雅夫			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

化学は物質の本質を究明し、物質の変化と物質間の相互作用を研究する学問である。量の単位であるモルの定義を明らかにする。原子核から原子、分子、結晶までの構造論を取り扱う。物質の三態とその変化を取り扱ったあと、分析化学の基礎となるpHや酸塩基平衡を解説する。有機化合物の構造に関する知識を習得させることで、合成高分子と生体高分子の学習の基礎とする。以上の学習に有効な問題演習も取り入れる。この講義は、高校で化学の全単元を履修しなかった学生にも配慮して進める。

■学習・教育目標および到達目標

原子の構造に関する基礎的事項を理解する。
電子配置の規則を説明できる。
化学結合の種類と特徴を説明できる。
物質の三態に関する基礎的事項を理解する。
酸・塩基の概念を理解する。
有機化合物の構造式を記述し、それらの構造式から化合物の性質を理解する。
高分子化合物の特徴を理解し、説明できる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に「試験の要点と解説」をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。
小テストは終了後、「試験の要点と解説」をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784407331325『新編基礎化学(専門基礎ライブラリー)』(実教出版：2013)

■参考文献

[ISBN]9784781908274『新化学概論(サイエンスライブラリ化学)』(吉岡 甲子郎, サイエンス社：1997)

■関連科目

化学Ⅱ、化学実験

■成績評価方法および基準

定期試験 85%
小テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

藤澤研究室（2号館5階504号室）・fujisawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日1限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 イン트로ダクション：化学という学問・SI単位・化学に必要な最低限の数学

予習内容：有効数字、対数・指数に関して予習すること。
予習時間：90分
復習内容：教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって数値の取り扱い方、単位の変換について確認すること。
復習時間：90分

第2回 原子の構造

予習内容：原子の基本構造に関連する内容を予習すること。
予習時間：90分

復習内容 : 教員が授業中に教員が説明した演習問題を、自分で解くことによって各原子やイオンにおける陽子、中性子、電子の和について確認すること。

復習時間 : 90分

第3回 原子の電子軌道

予習内容 : 電子軌道に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に教員が説明した演習問題を、自分で解くことによって主量子数、方位量子数、磁気量子数、スピン量子数および電子配置について確認すること

復習時間 : 120分

第4回 化学結合：共有結合

予習内容 : 電子対に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に教員が説明した演習問題を、自分で解くことによって混成軌道について確認すること。

復習時間 : 120分

第5回 化学結合：金属結合とイオン結合

予習内容 : 自由電子、イオン結合の強さに関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に教員が説明した演習問題を、自分で解くことによってイオン結合性、共有結合性、充填率について確認すること。

復習時間 : 120分

第6回 分子間力

予習内容 : 極性に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に教員が説明した演習問題を、自分で解くことによって双極子モーメントについて確認すること。

復習時間 : 90分

第7回 分子間相互作用

予習内容 : 分子間相互作用の種類に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に教員が説明した演習問題を、自分で解くことによって分子間にはたらく弱い力について確認すること

復習時間 : 90分

第8回 物質の状態変化

予習内容 : 物質がとりうる状態に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 60分

復習内容 : 授業中に教員が説明した演習問題を、自分で解くことによって各状態における粒子間にはたらく力について確認すること

復習時間 : 90分

第9回 気体

予習内容 : 理想気体の状態方程式に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、理想気体の状態式、実在気体の状態方程式について確認すること。

復習時間 : 120分

第10回 固体の構造

予習内容 : 自由電子、結晶格子に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、結晶構造における密度-原子量-格子定数の関係について確認すること。

復習時間 : 120分

第11回 液体、溶液の濃度と溶解度

予習内容 : 溶液の濃度の表し方に関連する内容を予習する。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、ある一つの溶液に対して数種以上の濃度で記述できることについて確認すること。

復習時間 : 90分

第12回 化学平衡と酸・塩基

予習内容 : 化学平衡と平衡定数に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、溶液のpHを求め方について確認すること。

復習時間 : 90分

第13回 元素の分類と無機化合物

予習内容 : 元素の分類に関連する内容を予習すること

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、代表的な無機化合物の性質について確認すること。

復習時間 : 90分

第14回 有機化合物の分類と異性体

予習内容 : 有機化合物の構造の分類に関連する内容を予習すること

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、有機化合物の命名法について確認すること。

復習時間 : 120分

第15回 合成高分子と生体高分子

予習内容 : 高分子化合物の構成単位に関連する項内容を予習すること

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、高分子化合物の分子構造について確認すること。

復習時間 : 120分

定期試験

科目名： 化学Ⅰ			
英文名： Chemistry 1			
担当者： <small>サクライ カズマサ</small> 櫻井 一正			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

化学とは、物質の性質や変化を理解するための考え方をまとめたものである。化学の考え方は、新たな材料や薬品の合成法の開発、およびDNAの複製や酵素反応といった生物現象の理解まで広く利用することができる。そのための第一歩として、化学Ⅰでは高校化学で習った内容を復習し、今後の関連する科目に必要な知識を固める。また、授業中では演習問題を多く取り入れ、授業内容の理解を進める。中間テストと期末テストを行い、受講者が授業内容の復習と理解をすることを図る。

■学習・教育目標および到達目標

- 1) 高校化学の範囲を復習し、基礎を固める
- 2) モル数や濃度、pHなどの化学の基本概念をマスターする
- 3) 化学結合の機構を知り、分子構造を視覚的、立体的に理解する

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業内演習や中間テストの解答と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載し、かつその一部を次回の授業の冒頭で説明する。

■教科書

[ISBN]9784407331325 『新編基礎化学(専門基礎ライブラリー)』(実教出版：2013)

■参考文献

[ISBN]9784781912707 『基礎化学(新・物質科学ライブラリ)』(梶原 篤, サイエンス社：2011)

■関連科目

化学実験、化学Ⅱ

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

中間テスト 20%

授業中の演習 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

櫻井 一正 (高圧力蛋白質研究センター)・sakurai@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日3・4限

事前にEメールでアポイントをとってください

■授業計画の項目・内容及び到達目標

各回の予習と復習について

予習内容 : 指定教科書の次回講義内容の該当箇所を読んでおくこと

予習時間 : 30分

復習内容 : 授業時間中に課された演習の解法を復習しておくこと

復習時間 : 45分

第1回 物質の成り立ち、化学の計算

第2回 原子の構造

第3回 原子軌道とエネルギー準位図

第4回 共有結合と分子軌道

第5回 化学結合と分子の構造

第6回 共有結合以外の結合

第7回 中間テスト

第8回 物質の状態と状態方程式

第9回 反応熱

第10回 化学平衡

第11回 酸と塩基・pH

第12回 酸化還元反応

第13回 無機化合物

第14回 有機化合物の命名法

第15回 有機化学の反応

定期試験

科目名： 化学 I			
英文名： Chemistry I			
担当者： <small>タカギ リョウスケ</small> 高木 良介			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

化学 I では、原子や分子の構造と性質、化学結合の種類、溶液の濃度の計算など、他の専門科目を学ぶ上で必要となる化学的基礎知識を習得することを目的とする。はじめに、物質、生体の基本をなす原子の構造と性質を理解し、原子どうしの反応による分子の形成と化学結合について学ぶ。溶液の濃度について解説し、溶液の濃度計算を習得するための演習問題を行う。さらに、生体を構成する有機化合物の構造と性質を解説し、生体高分子や生化学に関する基礎的な内容を理解する。この講義は、高校で化学を十分に学ばなかった学生に配慮して進める。

■学習・教育目標および到達目標

この授業を履修することで、以下の各項目について理解することを到達目標とする。

原子の構造と性質および質量数について理解する。

化学結合の種類と性質、分子間力について理解する。

溶液の濃度について理解し、濃度計算、変換ができる。

有機化合物について基礎的な知識を習得し、有機化学反応について理解する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

指定しない

■参考文献

[ISBN]9784785330910 『メディカル化学—医歯薬系のための基礎化学』(齋藤 勝裕, 裳華房: 2012)

[ISBN]9784621040416 『生命科学のための基礎化学—無機物理化学編』(Molly M. Bloomfield, 丸善: 1995)

[ISBN]9784621040423 『生命科学のための基礎化学—有機・生化学編』(Molly M. Bloomfield, 丸善: 1995)

[ISBN]9780471120780 『Chemistry and the Living Organism, Study Guide』(Molly M. Bloomfield, Wiley: 1995)

■関連科目

化学 II

■成績評価方法および基準

定期試験 80%

授業中の課題およびレポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

高木研究室 (西1号館5階558)

rtakagi@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日 3 限と水曜日 3 限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第 1 回 原子の構造

すべての物質は、原子の集合体である。原子は微小な物質であるが構造を有し、互いに化学結合して分子を作る。この講義では、このような物質、生体の基本をなす原子の構造と性質について解説する。

第 2 回 原子量と物質質量 (モル)

原子の質量を表す数値に原子量がある。原子の集団の質量とアボガドロ定数、および物質質量 (モル) の概念を解説する。

第 3 回 電子配置と周期表

この講義では原子の電子殻と電子配置について解説する。原子は原子核と電子から構成されており、原子に属する電子は電子殻に入る。電子がどの軌道にどのような状態に入っているかを表したものが電子配置であり、ここでは電子配置と周期表

の関係について述べる。

第4回 溶液の濃度、濃度計算と変換／溶液の重量濃度とモル濃度、アボガドロ数

濃度の概念について解説する。化学の分野では溶液を扱うことが多く、ある溶媒にどれくらいの溶質が溶けているかを表す「濃度」は、いろいろな表し方がある。それぞれの濃度の表し方の違いを理解し、濃度計算の方法を学ぶ。

第5回 電気陰性度と分子の極性

電子陰性度と周期表について解説する。原子は電気陰性度が大きいほど電子をよく引き付けるため、異種の原子間で化学結合しているとき、各原子の電子の電荷分布は偏りをもつ。この講義では原子の電気陰性度とそれによって生じる分子の極性について説明する。

第6回 化学結合（共有、配位、イオン、疎水性など）

化学結合の種類について解説する。2つの原子がエネルギー的により安定であれば化学結合によって分子を生じる。この講義では、化学結合の種類について説明し、共有結合における混成軌道の考え方について述べる。

第7回 分子間にはたらく弱い力（静電力、ファンデルワールス力、水素結合、疎水結合など）

原子が集合し化学結合によって分子を形成するように分子も集合してより高次の構造体を形成する。この講義では分子間にはたらく様々な分子間力について学ぶ。

第8回 化学反応式の書き方（質量保存の法則）

生成物の全質量は反応物の全質量に等しいとした質量保存の法則について解説する。原子は化学反応によって新たに生み出されることはないし、壊されることもないため、化学反応の前後で原子数はつり合う。この講義では、このような質量保存の法則に基づいた化学反応式について学ぶ。

第9回 化学反応速度論と化学平衡

化学反応の過程において、複雑な原子の組み換えやエネルギーの変化を詳細に解析しようとする化学反応速度論について解説する。また、化学反応では重要な、みかけ上変化が起こってないように見える化学平衡について説明する。

第10回 酸と塩基

酸と塩基の定義、そして、pHと緩衝液について解説する。この講義では、酸・塩基のいくつかの定義について述べ、さらに酸と塩基の関係の中で、溶液の酸性・塩基性および中和について述べる。

第11回 酸化還元反応

多くの化学反応は、ある原子から他のある原子への電子の移動を伴い、このような反応を酸化還元反応という。この講義では、酸化、還元について解説し、酸化還元反応式の書き方を学ぶ。

第12回 有機化合物の構造と種類

この講義では、構成元素の種類は少ないが非常に多くの種類の化合物が存在する有機化合物の構造の表し方について解説する。生命現象に関わる重要な分子の多くは有機化合物であり、有機化学的な反応性などを理解するうえで必要となる有機化合物の基礎的な知識について述べる。

第13回 有機化合物の命名法

有機化合物は非常に多くの種類が存在し、これらは体系的に命名されている。この講義では、IUPACの規則に基づいた命名法について解説する。

第14回 有機化合物の化学反応

この講義では様々な有機化学反応について解説する。有機化学反応は生体内における糖質やタンパク質などの代謝の過程を理解するうえで重要であり、ここでは生体内で見られる種々の代謝における生体成分の変化を理解する。

第15回 生体エネルギー

この講義では、生物が生きている状態を維持するためや、生体内における物質の代謝などに用いられる「生体のエネルギー通貨」と呼ばれるATPについて解説する。また、ATPの高エネルギーリン酸結合について述べる。

定期試験

科目名： 化学Ⅱ			
英文名： Chemistry 2			
担当者： <small>フジサワ マサオ</small> 藤澤 雅夫			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

化学は物質の本質を究明し、物質の変化と物質間の相互作用を研究する学問であり、物質を扱う他の科目の基礎となる。化学Ⅱでは分子構造、化学変化や分子間相互作用などの内容を理解することを目的とする。はじめに、初歩的な量子論を用いて原子の構造を解説する。エントロピー、ギブスエネルギーについて詳しく解説したのち、熱力学に基づいて化学平衡を説明する。また生物学的な系での平衡、物理的平衡なども解説する。そして順次、反応速度論、有機化学、立体異性、高分子および生化学に関する基礎的な問題を扱う。以上の学習に有効な問題演習も取り入れる。

■学習・教育目標および到達目標

水素原子の波動関数が3種類の量子数によって規定されることを理解できる。
平衡論、熱力学と反応速度の基礎的概念を理解できる。
結合状態と混成軌道など、化合物の構造と異性体の種類を理解できる。
構造式から立体分子構造をイメージできる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に「試験の要点と解説」をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。
小テストは終了後、「試験の要点と解説」をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]4781908276『新化学概論(サイエンスライブラリ化学)』(吉岡 甲子郎, サイエンス社 : 1997)

■参考文献

[ISBN]9784807905089『物理化学—分子論的アプローチ〈上〉』(D.A. マッカーリ, 東京化学同人 : 1999)

[ISBN]9784807905096『物理化学—分子論的アプローチ〈下〉』(マッカーリ, 東京化学同人 : 2000)

[ISBN]9784563045876『ハート基礎有機化学』(ハロルド ハート, 培風館 : 2002)

■関連科目

化学Ⅰ、化学実験

■成績評価方法および基準

定期試験 85%

小テスト 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

藤澤研究室 (2号館5階504号室)・fujisawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日1限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 化学結合、分子の構造と分子間力

予習内容 : 化学結合の種類と分子構造との関連性を予習する。

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、電子構造と分子の形について確認すること。

第2回 物質の三態

予習内容 : 気体、液体、気体それぞれ特徴に関連する内容を予習する。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、三態それぞれにおける粒子間にはたたく力の様子について確認すること。

復習時間 : 90分

第3回 溶液の濃度

予習内容 : 溶解現象に関連する内容を予習する。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、溶液が種々の濃度であらわされることについて確認すること。

復習時間 : 90分

第4回 希薄溶液の諸法則

予習内容 : 固体、気体の溶解度に関連する内容を予習する。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、Henryの法則、Raoultの法則、東一性について確認すること。

復習時間 : 90分

第5回 相平衡

予習内容 : 系の平衡状態が、温度、圧力、組成などによって決まることを予習する。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、相の数と自由度の関係について確認すること。

復習時間 : 90分

第6回 熱力学第一法則と熱化学

予習内容 : 外界-系間の、物質、エネルギーの出入りの有無で、系が分類されることを予習する。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、エンタルピーと熱容量について確認すること。

復習時間 : 90分

第7回 熱力学第二法則とエントロピー

予習内容 : 熱力学的温度に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、エンタルピーと熱容量について確認すること。

復習時間 : 90分

第8回 エントロピーのもうひとつの意味

予習内容 : ボルツマン定数に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、エンタルピーと熱容量について確認すること。

復習時間 : 120分

第9回 化学平衡

予習内容 : 質量作用の法則に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、平衡定数の算出方法について確認すること。

復習時間 : 120分

第10回 物質変化の方向：ギブスエネルギー

予習内容 : 定温定圧過程に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、ギブスエネルギーの変化量の算出方法について確認すること。

復習時間 : 120分

第11回 電離平衡

予習内容 : pHの定義、水のイオン積に関連する内容を予習すること

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、電離定数と電離度の関係、緩衝作用のしくみについて確認すること。

復習時間 : 120分

第12回 化学反応速度と反応次数

予習内容 : 反応次数の定義に関連する内容を予習すること。

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、一次反応、二次反応におけるそれぞれの半減期との関係について確認すること。

第13回 反応速度と温度

予習内容 : 活性化エネルギーに関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって温度の上昇が反応速度に与える影響について確認すること。

復習時間 : 120分

第14回 有機化合物：構造異性、配座異性、幾何異性と立体異性

予習内容 : 異性体の種類に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、異性体の数について確認すること。

復習時間 : 120分

第15回 合成高分子・生体高分子の構造と分子間相互作用

予習内容 : 高分子の構造に関連する内容を予習すること。

予習時間 : 90分

復習内容 : 教員が授業中に説明した演習問題を、自分で解くことによって、コンフィグレーションとコンフォメーションについて確認すること。

復習時間 : 120分

定期試験

科目名： 化学Ⅱ			
英文名： Chemistry 2			
担当 <small>サクライ カズマサ</small> 者： 櫻井 一正			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

化学とは、物質の性質や変化を理解するための考え方をまとめたものである。化学の考え方は、新たな材料や薬品の合成法の開発、およびDNAの複製や酵素反応といった生物現象の理解まで広く利用することができる。化学Ⅱではよく耳にする「エネルギー」の正体が、分子や原子の振る舞いであることを理解する。そして化学反応の進行方向や物質の状態がどのように決められるのかを、エネルギーの考え方にに基づき理解する。期間中3回程度小テストを行い、授業内容の理解を深める。

■学習・教育目標および到達目標

- 1) 「エネルギー」とは「モノ」ではなく「概念」であることを理解する
- 2) エントロピー最大の点が化学平衡点であるという概念を理解する
- 3) 化学反応や化学平衡の方向を知るための具体的な計算方法を理解する

■試験・課題に対するフィードバック方法

小テストや授業中演習の解答と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載し、かつその一部を授業中に説明する。

■教科書

[ISBN]9784781912707 『基礎化学(新・物質科学ライブラリ)』(梶原 篤, サイエンス社: 2011)

■参考文献

[ISBN]9784781913179 『基礎 化学演習(新・演習物質科学ライブラリ)』(梶原 篤, サイエンス社: 2013)

[ISBN]9784407331325 『新編基礎化学(専門基礎ライブラリー)』(実教出版: 2013)

[ISBN]9784807907038 『生命科学系のための基礎化学(CatchUP)』(Mitch Fry, 東京化学同人: 2009)

[ISBN]9784152090072 『万物を駆動する四つの法則—科学の基本、熱力学を究める』(ピーター アトキンス, 早川書房: 2009)

■関連科目

化学Ⅰ、化学実験

■成績評価方法および基準

定期テスト 55%

小テスト 30%

授業中演習 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

櫻井 一正 (高圧力蛋白質研究センター)・sakurai@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日 3・4限

事前にEメールでアポイントをとってください

■授業計画の項目・内容及び到達目標

各回の予習と復習について

予習内容 : 指定教科書の次回講義内容に該当するページを読むこと

予習時間 : 30分

復習内容 : 授業時間内で課された宿題

復習時間 : 45分

第1回 SI単位系と物理量、状態量

第2回 物質の状態図

第3回 化学ポテンシャル

第4回 混合溶液の状態図

第5回 束一的性質

第6回 熱力学第一法則とエンタルピー

第7回 エンタルピーの温度依存性

第8回 化学平衡と平衡定数

第9回 熱力学第二法則とエントロピー

第10回 化学平衡とギブスエネルギー

第11回 ギブスエネルギーの温度依存性

第12回 反応速度と速度定数

第13回 一次反応と二次反応

第14回 微分速度式と積分速度式

第15回 反応速度の温度依存性

定期試験

科目名： 基礎数学			
英文名： Basic Mathematics			
担当者： <small>ヨシダ ヒサシ フジオカ ヒデアキ マツシタ マサト</small> 吉田 久・藤岡 秀彰・松下 真人			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

生物理工学部における専門課程の基礎的な理論を学ぶために必要な数学の基礎を学習する。本講義では、計算の技法、式の文法、式と図形についての基本概念を俯瞰すると共に、初等関数について理解することを目標とする。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は今後修得する自然科学系の教養科目および専門科目を学ぶために必要不可欠な微分積分、線形代数学、物理学の基礎となる内容を学習し、基本的な考え方の理解と、実際の応用場面において、これらを利用できるようにするための計算力を身につける。

- ・計算の技法を身に付ける。
- ・式の文法を理解する。
- ・式と図形の関係を理解する。
- ・初等関数について理解する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

小テスト・課題に関しては模範解答を配布します。なお、特に注意を要する問題については、授業内に解説を行います。

■教科書

[ISBN]9784779507489『教養としての数学』(堤 裕之, ナカニシヤ出版: 2013)

指数関数・対数関数についてはプリントを配布

■参考文献

[ISBN]9784407321678『基礎数学 (数学シリーズ 新版)』(岡本 和夫, 実教出版: 2010)

■関連科目

プラクティス基礎数学、微分積分学、線形代数学、基礎物理学、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

小テスト・課題 25%

e-ラーニング 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

基礎教育センター (3号館2階就職情報室内)

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 四則演算と計算順序

予習内容 : 教科書第1講と第2講に目を通す。

予習時間 : 30分

復習内容 : 教科書第1講と第2講演習問題Aを解く。

復習時間 : 30分

第2回 べき

予習内容 : 教科書第3講に目を通す。

予習時間 : 30分

復習内容 : 教科書第3講演習問題Aを解く。

復習時間 : 30分

第3回 計算とその結果の表現

予習内容 : 教科書第4講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第4講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第4回 演算の特色

予習内容 : 教科書第5講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第5講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第5回 関係演算子と文字の利用

予習内容 : 教科書第6講と第7講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第6講と第7講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第6回 公式と方程式

予習内容 : 教科書第8講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第8講演習問題Aを解く ((1) (2) のように附番されている問題は奇数番のみ)。
復習時間 : 30分

第7回 関数とグラフ

予習内容 : 教科書第9講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第9講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第8回 種々の関数と漸化式

予習内容 : 教科書第10講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第10講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第9回 比例・反比例と比, 割合と単位

予習内容 : 教科書第11講と第12講に目を通す。
復習内容 : 教科書第10講と第12講演習問題Aを解く。

第10回 長さ・面積・体積

予習内容 : 教科書第13講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第13講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第11回 座標と角度 (三角関数)

予習内容 : 教科書第14講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第14講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第12回 方程式と図形

予習内容 : 教科書第15講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第15講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第13回 指数関数

予習内容 : 配布資料 (指数関数) に目を通す (初回の授業時に配布)。
予習時間 : 30分
復習内容 : 配布資料 (指数関数) 演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第14回 対数関数

予習内容 : 配布資料 (対数関数) に目を通す (初回の授業時に配布)。
予習時間 : 30分
復習内容 : 配布資料 (対数関数) 演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第15回 まとめ

予習内容 : 配布資料 (まとめ) に目を通す (初回の授業時に配布)。
予習時間 : 30分
復習内容 : 配布資料 (まとめ) 演習問題を解く。
復習時間 : 30分

定期試験

科目名： 基礎数学			
英文名： Basic Mathematics			
担当者： <small>ツツミ ヒロユキ</small> 堤 裕之			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

生物理工学部における専門課程の基礎的な理論を学ぶために必要な数学の基礎を学習する。本講義では、計算の技法、式の文法、式と図形についての基本概念を俯瞰すると共に、初等関数について理解することを目標とする。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は今後修得する自然科学系の教養科目および専門科目を学ぶために必要不可欠な微分積分、線形代数学、物理学の基礎となる内容を学習し、基本的な考え方の理解と、実際の応用場面において、これらを利用できるようにするための計算力を身につける。

- ・ 計算の技法を身に付ける。
- ・ 式の文法を理解する。
- ・ 式と図形の関係を理解する。
- ・ 初等関数について理解する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポート締め切り後に模範解答を配布します。なお、特に注意を要する問題については、授業内に解説を行います。

■教科書

[ISBN]9784779507489『教養としての数学』(堤 裕之, ナカニシヤ出版: 2013)

指数関数・対数関数についてはプリントを配布

■参考文献

[ISBN]9784486018636『オイラーの贈物—人類の至宝 $e^{i\pi} = -1$ を学ぶ』(吉田 武, 東海大学出版会: 2010)

■関連科目

プラクティス基礎数学、微分積分学、線形代数学、基礎物理学、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

小テスト 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階): tsutsumi@ouhs.ac.jp

備考: 携帯からの質問メールは受け付けない。

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 四則演算と計算順序

予習内容 : 教科書第1講と第2講に目を通す。

予習時間 : 30分

復習内容 : 教科書第1講と第2講演習問題Aを解く。

復習時間 : 30分

第2回 べき

予習内容 : 教科書第3講に目を通す。

予習時間 : 30分

復習内容 : 教科書第3講演習問題Aを解く。

復習時間 : 30分

第3回 計算とその結果の表現

予習内容 : 教科書第4講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第4講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第4回 演算の特色

予習内容 : 教科書第5講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第5講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第5回 関係演算子と文字の利用

予習内容 : 教科書第6講と第7講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第6講と第7講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第6回 公式と方程式

予習内容 : 教科書第8講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第8講演習問題Aを解く ((1) (2) のように附番されている問題は奇数番のみ)。
復習時間 : 30分

第7回 関数とグラフ

予習内容 : 教科書第9講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第9講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第8回 種々の関数と漸化式

予習内容 : 教科書第10講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第10講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第9回 比例・反比例と比, 割合と単位

予習内容 : 教科書第11講と第12講に目を通す。
復習内容 : 教科書第10講と第12講演習問題Aを解く。

第10回 長さ・面積・体積

予習内容 : 教科書第13講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第13講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第11回 座標と角度 (三角関数)

予習内容 : 教科書第14講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第14講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第12回 方程式と図形

予習内容 : 教科書第15講に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第15講演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第13回 指数関数

予習内容 : 配布資料 (指数関数) に目を通す (初回の授業時に配布)。
予習時間 : 30分
復習内容 : 配布資料 (指数関数) 演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第14回 対数関数

予習内容 : 配布資料 (対数関数) に目を通す (初回の授業時に配布)。
予習時間 : 30分
復習内容 : 配布資料 (対数関数) 演習問題Aを解く。
復習時間 : 30分

第15回 まとめ

予習内容 : 配布資料 (まとめ) に目を通す (初回の授業時に配布)。
予習時間 : 30分
復習内容 : 配布資料 (まとめ) 演習問題を解く。
復習時間 : 30分

定期試験

科目名： 数学			
英文名： Mathematics			
担当者： <small>フクダ マコト</small> 福田 誠			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

現在では微分積分学、線形代数学は、あらゆる工学現象を解明・解析する際に必要不可欠な道具になっている。この科目は、高校数学Ⅱの復習を兼ねて、数列、初等関数とグラフから始め、演習も取り入れて授業を進める。解答解説について学生にもプレゼンテーションをしてもらう。

■学習・教育目標および到達目標

学生は、今後修得する自然科学系の教養科目および専門科目を学ぶために必要不可欠な微分積分学、線形代数学の基礎を学習し、基礎的な考え方の理解と、実際の応用場面において、これらを利用できるようにするための計算力を身につける。自然科学や工学現象の理解に必要な道具としての数学力を修得する。

- ・ 数列、関数の基礎を理解する。
 - ・ 初等関数の微分と積分の基礎を理解する。
 - ・ 微分方程式の概念と解法の基礎を理解する。
- この科目の習得は本学科の定めるディプロマ・ポリシーの達成に付随的に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

小テスト終了後、授業中に「試験の要点の説明、解説」などをします。

■教科書

[ISBN]9784407310825 『Primary大学ノート 微分積分』(藤田 岳彦, 実教出版：2007)
演習問題冊子を配布します。

■参考文献

- [ISBN]9784407332483 『新版 微分積分: 基礎から偏微分・重積分・微分方程式まで (数学シリーズ 新版)』(佐伯 昭彦 ほか5名, 実教出版：2013)
- [ISBN]9784407321685 『微分積分1 (数学シリーズ 新版)』(岡本 和夫, 実教出版：2010)
- [ISBN]9784407321708 『微分積分〈2〉 (新版数学シリーズ)』(実教出版：2012)
- [ISBN]9784407321692 『線形代数 (新版数学シリーズ)』(実教出版：2011)
- 高校数学Ⅱ、Ⅲの教科書、参考書

■関連科目

1年後期 微分積分学、線形代数学の基礎となる科目です。

■成績評価方法および基準

- 定期試験 50%
- 小テスト 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

福田研究室 (東1号館1階120) : fukuda@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜 5 限、金曜 4 限
(事前に連絡などをお願いします。)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

授業の進捗により、事前にテーマ、取り組む問題が分かりますので、これについての予習、復習をしてください。

- 予習内容 : 演習問題冊子
- 予習時間 : 120分
- 復習内容 : 演習問題冊子
- 復習時間 : 120分

第1回 数列

第2回 数列の極限

第3回 初等関数

第4回 関数の極限

第5回 関数の微分

第6回 微分の性質

第7回 微分法の応用

第8回 微分法の応用（テイラー展開）

第9回 不定積分と定積分

第10回 積分の性質

第11回 置換積分と部分積分

第12回 有理関数の積分

第13回 区分求積法

第14回 微分方程式（1）

第15回 微分方程式（2）

定期試験

科目名： 数学			
英文名： Mathematics			
担当者： <small>クSunoki マサノブ</small> 楠 正暢			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

大学で学ぶ数学、情報学ならびに殆どの専門科目を学ぶために必要不可欠な基礎知識の第一歩として微分積分学、線形代数学を学習する。この科目は、数学としての微分積分学、線形代数学ではなく、生物理工学に必要な実用道具としての微分積分学、線形代数学を修得することを目的としている。したがって、基本的な意味や使い方、例題などにも時間をかけて講義を進める。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は今後修得する自然科学系の教養科目および専門科目を学ぶために必要不可欠な微分積分学の基礎から応用までと、線形代数学の基礎を学習し、数学的な考え方の理解と、実際の応用場面において、これらを利用できるようにするための計算力を身につける。

- ・1変数の微分と積分について基礎から応用まで理解する。
- ・行列演算の基礎を理解する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各回のレポートに関し、課題に対する解説をします。

■教科書

[ISBN]9784407310825 『Primary大学ノート 微分積分』(藤田 岳彦, 実教出版: 2007)

■参考文献

[ISBN]9784785315085 『微分積分—理工系の基礎』(石原 繁, 裳華房: 1997)

[ISBN]9784489002649 『よくわかる微分積分』(有馬 哲, 東京図書: 1988)

[ISBN]9784477026428 『新微分積分 〈1〉』(高遠 節夫, 大日本図書: 2012)

■関連科目

1年後期の微分積分学・線形代数学、物理学および専門科目の基礎となる科目です。

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

楠研究室(東1号館1階111)・ kusunoki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

土曜 1～2 限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 数列

第2回 数列の極限

第3回 初等関数

第4回 関数の極限

第5回 逆三角関数

第6回 関数の微分

第7回 微分の性質

第8回 微分法の応用

第9回 微分法の応用（テイラー展開）：中間試験

第10回 不定積分と定積分

第11回 積分の性質

第12回 積分の計算

第13回 区分求積法

第14回 行列の演算

第15回 逆行列

定期試験

科目名： 数学			
英文名：Mathematics			
担当者： <small>ナカサコ ノボル</small> 中迫 昇			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

大学で学ぶ数学、情報学ならびに殆どの専門科目を学ぶために必要不可欠な基礎知識の第一歩として微分積分学を学習する。この科目は、数学としての微分積分学ではなく、生物理工学に必要な実用道具としての微分積分学を修得することを目的としている。したがって、基本的な意味や使い方、例題などにも時間をかけて講義を進める。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は今後修得する自然科学系の教養科目および専門科目を学ぶために必要不可欠な微分積分学の基礎から応用までを学習し、数学的な考え方の理解と、実際の応用場面において、これらを利用できるようにするための計算力を身につける。
・1変数の微分と積分について基礎から応用までを理解する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

小テストについては回答例を示します。

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784477026428 『新微分積分〈1〉』(高遠節夫他, 大日本図書: 2012)

■参考文献

[ISBN]9784407310825 『Primary大学ノート微分積分』(藤田岳彦, 実教出版: 2007)

[ISBN]9784489021374 『すぐわかる微分積分』(石村園子, 東京図書: 2012)

[ISBN]9784785315184 『理工系入門微分積分』(石原繁, 裳華房: 1999)

■関連科目

微分積分学、線形代数学、その他の物理学や専門科目

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

中迫研究室（東1号館3階319）・nakasako@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜 4 限

事前にメール等で予約をとってもらえると助かります。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 数と連続

予習内容：テキストをざっと眺め、全体像を理解する。

復習内容：講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第2回 数列の極限

予習内容：前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。

復習内容：講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第3回 変数と初等関数Ⅰ（多項式関数、有理関数）

予習内容：前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。

復習内容：講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第4回 初等関数Ⅱ（対数関数、指数関数）

予習内容 : 前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。
復習内容 : 講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第5回 初等関数Ⅲ (三角関数、双曲線関数)

予習内容 : 前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。
復習内容 : 講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第6回 関数の極限と連続

予習内容 : 前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。
復習内容 : 講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第7回 微分係数

予習内容 : 前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。
復習内容 : 講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第8回 導関数とその計算

予習内容 : 前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。
復習内容 : 講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第9回 微分法

予習内容 : 前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。
復習内容 : 講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第10回 逆関数とその導関数

予習内容 : 前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。
復習内容 : 講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第11回 テイラー展開

予習内容 : 前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。
復習内容 : 講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第12回 不定積分と定積分

予習内容 : 前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。
復習内容 : 講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第13回 積分の性質

予習内容 : 前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。
復習内容 : 講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第14回 積分の計算

予習内容 : 前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。
復習内容 : 講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

第15回 微分積分の応用

予習内容 : 前回分の講義ノートを見直すとともに、テキストの今回の範囲を読み全体像を理解する。
復習内容 : 講義ノートをもとに内容を理解する。テキストの例題、問題、演習問題を何度も解く。

定期試験

科目名： 数学			
英文名： Mathematics			
担当者： <small>フジイ マサオ</small> 藤井 雅雄			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

大学における自然科学系の教養科目および専門科目を履修するにあたって、必要不可欠な基礎知識である微分積分学、線形代数学を学習する。この科目では、高校で数学Ⅲ、数学Cを履修していない学生にも理解できるように、毎回演習を取り入れた方法で授業を進める。

自然科学の仕組みや現象の論理的知識の理解に必要な数学の学力を習得する。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は今後習得する自然科学系の教養科目および専門科目を学ぶために必要不可欠な微分積分学、線形代数学の基礎を学習し、基礎的な考え方の理解と、実際の応用場面において、活用できるための計算力を身につける。

- ・初等関数の微分と積分についての基礎とその応用を理解する。
- ・行列演算の基礎を理解する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

適時プリント配布。1回目の講義で説明します。

■参考文献

[ISBN]9784785315184『理工系入門 微分積分』(石原 繁, 裳華房: 1999)

■関連科目

微分積分学、線形代数学など。

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中の課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階254)・fujii@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 数学の広がり

予習内容 : 専門分野における数学の必要性を調査すること。

予習時間 : 150分

復習内容 : 専門分野における数学の活用例を調査すること。

復習時間 : 90分

自然科学は、観察・観測・実験などによってその共通性・規則性が発見され、それが数式で表現される。

ミクロな細胞組織での現象、大気汚染現象などは実験をすることは極めて困難で、数学モデルを作る必要がある。また、新材料、新薬などの研究開発では分子レベルの挙動をコンピュータで解析する。このような数学の広がりについて解説します。

第2回 数と式

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

整式、因数分解、実数、有理化などを学びます。

第3回 直線の傾き

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

直線の傾きが微分への鍵となり、曲線も直線で表現できることを学びます。

第4回 関数の極限

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

関数の極限の概念、不定形などを学びます。

第5回 3次・4次関数

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

関数の平行移動、接点と重解、3次・4次関数の概形図などについて学びます。

第6回 微分係数と導関数

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

微分係数と導関数の定義、導関数の記号法について学びます。

第7回 導関数の計算

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

微分計算の公式、合成関数、逆関数、パラメータ表示の関数の微分を学びます。

第8回 微分法の応用(1)

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

接線の方程式、曲線の近似式、関数の概形図の求め方などを学びます。

第9回 不定積分

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

不定積分の定義、積分記号、積分公式、置換積分法、部分積分法などを学びます。

第10回 定積分

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

くこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

定積分の定義、定積分の公式などを学びます。

第11回 定積分の応用

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

面積計算、体積計算などを学びます。

第12回 いろいろな関数の微分法

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

指数関数、対数関数、三角関数などの微分法を学びます。

第13回 微分法の応用(2)

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

ロピタルの定理、テイラー展開、マクローリン展開などを学びます。

第14回 行列(1)

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

行列の加法、減法、実数倍、積などを学びます。

第15回 行列(2)

予習内容 : 高校数学などの参考書(図書館の利用)を用いて該当箇所を事前に調査し、分からない箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、配布した演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

逆行列、行列と連立方程式などを学びます。

定期試験

科目名： 生物学 I			
英文名： Biology 1			
担当者： <small>ヒライ シュウイチ</small> 平井 秀一			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

遺伝子に関する理解は近年急速に深まり、遺伝のみならず成長、運動、思考など様々な生命活動が遺伝子に依存していることが明らかになってきています。このことは現代社会に大きなインパクトを与えているのですが、内容が正確に理解されているかについては疑問です。本科目では、生命を支える遺伝子について何がわかっていて何がわかっていないかを皆さんが理解し、現代社会が抱える様々な問題について自ら考える際の助けになるよう、これまでに世界中で展開されてきた関連する研究の成果を簡潔にまとめ、系統的に整理して講義します。一部専門性の高い内容を含みますが、高校生物を履修しなかった受講者にも理解できるよう基本から順に説明します。講義終了時に少なくとも一つの質問事項をあげることを念頭に置いて受講することを求めます。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、この授業を履修することによって、遺伝子の多様な機能について理解することができます。このことは、生命が長い歴史の中で維持し、進化させてきた遺伝子という分子システム研究の現状を認識し、これらの産業への利用方法や生じうる問題について自ら考えるための基礎となるものです。さらに講義に積極的に参加することにより、科学的な思考の習慣を身につけることができます。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 1～5の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

「翌回の授業時間にミニッツペーパーを返却し、設問について模範解答を示し解説します。」

「試験終了後(試験期間終了後)に「試験の要点と解説」を掲示板に掲載します。」

■教科書

教科書は指定しない。講義は配布資料に沿って行う。

■参考文献

[ISBN]9784807908899 分子細胞生物学第7版 東京化学同人、Molecular Biology of THE CELL sixth ed. Garland Science

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中課題（ミニッツペーパー） 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・hirais@wakayama-med.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 生命は細胞と遺伝子に宿る

予習内容：講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間：30分

復習内容：ミニッツペーパーにある問に答え、疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間：60分

第2回 生殖と遺伝

予習内容：講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間：30分

復習内容：ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間：60分

第3回 細胞の運命

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。
復習時間 : 60分

第4回 遺伝子操作 I

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。
復習時間 : 60分

第5回 遺伝子操作II

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。
復習時間 : 60分

第6回 遺伝子の複製

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。
復習時間 : 60分

第7回 遺伝子の発現 (転写)

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。
復習時間 : 60分

第8回 遺伝子の発現 (翻訳)

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。
復習時間 : 60分

第9回 遺伝子の変異と修復

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。
復習時間 : 60分

第10回 遺伝的多様性と疾患

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。
復習時間 : 60分

第11回 がんと遺伝子

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。
復習時間 : 60分

第12回 免疫と遺伝子

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第13回 ウイルス

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第14回 心と遺伝子

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第15回 生命の進化と多様性

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

定期試験

科目名： 生物学 I			
英文名： Biology I			
担当者： <small>コタニ タカオ</small> 小谷 猛夫			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

生物は約40億年前に単細胞生物として海水中に出現したのが最初であると考えられている。また、最初の脊椎動物として出現したのは魚類であり、やがて長い年月の経過とともに陸生動物が出現し、現在に至っている。本講義では、生物が最初に出現した当時とよく似た環境であると考えられている海底熱水噴出孔と生物、生物の進化、脊椎動物・主に哺乳動物の体を構成している各種細胞や組織の構造とそこにみられる生物現象について学修します。なお、この科目は全学科共通の学部基礎科目であり、高校で生物を履修していなかった学生を主たる対象とします。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、この授業を履修することによって、

- 1) 生物の出現とその進化の概要、
- 2) 生物体の最小構成単位である細胞の構造と機能、
- 3) 我々ヒトを含めた哺乳動物の体を構成している各種組織の構造と機能を理解し、
- 4) 生物学的に生命とは何かを考える基礎的知識を修得することができます。

■試験・課題に対するフィードバック方法

講義内容を記したプリントおよび板書した中にすべての解答がある。

■教科書

教科書は使わない。講義内容を記したプリントを配付する。

■参考文献

[ISBN]9784061534315『絵でわかる細胞の世界(絵でわかるシリーズ)』(黒谷 明美, 講談社 : 2001)

その他参考書としては医学・獣医学系の組織学・解剖学・生理学に関する本なら入門書から専門書までどれでもよい。

■関連科目

生物学II

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階) kotani1945@t.zaq.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

以下の内容で授業を行う。講義内容を記したプリントをあらかじめ配布する。

予習内容 : 次回の講義内容を記したプリントを読み予習する。

予習時間 : 30分

復習内容 : 講義のプリント、板書した事柄のメモなどを理解し、復讐する。

復習時間 : 60分

第1回 生命の起源：海底熱水噴出孔と生物

第2回 各種顕微鏡の特性と顕微鏡標本作成法の概略

第3回 細胞の構造と機能-1

第4回 細胞の構造と機能-2

第5回 細胞増殖と細胞死

第6回 生殖細胞と初期発生

第7回 上皮組織の種類・構造・役割

第8回 外分泌腺と内分泌腺の構造・役割

第9回 結合組織の種類・構造・役割

第10回 骨・軟骨組織の構造と役割

第11回 筋組織の種類と構造・収縮機構

第12回 神経組織の構造と役割

第13回 血液細胞とその役割

第14回 遺伝の基礎知識

第15回 がん細胞

定期試験

科目名： 生物学Ⅱ			
英文名： Biology 2			
担当者： <small>ヒライ シュウイチ</small> 平井 秀一			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

生物の構成単位である細胞の生理的な機能は、細胞内外のシグナル伝達により支えられており、このシグナル伝達は複雑かつ多様な細胞の構造に依存しています。本科目ではまずシグナル伝達というものの実体について講義した後、これを支える細胞の構造について講義します。さらに多様な細胞の生理機能について、病理的な視点を交えた講義を行います。一部専門性の高い内容を含みますが、高校生物を履修しなかった受講者にも理解できるよう基本から順に説明します。講義終了時に少なくとも一つの質問事項をあげることを念頭に置いて受講することを求めます。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、この授業を履修することによって、細胞の構造と機能に関する基本的な知識を習得することができます。これは細胞という生命システムの基礎研究や産業への利用における問題を認識し、その解決の方法について自ら考える際の基礎となるものです。さらに講義に積極的に参加することにより、科学的な思考の習慣を身につけることができます。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 1～5の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

- ・翌回の授業時間にミニッツペーパーを返却し、設問について模範解答を示し解説します。
- ・試験終了後(試験期間終了後)に「試験の要点と解説」を掲示板に掲載します。

■教科書

教科書は指定しない。講義は配布資料に沿って行う。

■参考文献

[ISBN]9784807908899 分子細胞生物学第7版 東京化学同人、Molecular Biology of THE CELL sixth ed. Garland Science

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中課題 (ミニッツペーパー) 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階)・hirais@wakayama-med.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 シグナル伝達概論

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第2回 細胞内シグナル伝達経路

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第3回 細胞の基本構造と多様性

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第4回 細胞膜I 膜の基本構造と透過性

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第5回 細胞膜II 膜の流れ

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第6回 細胞骨格

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第7回 細胞接着と結合組織

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第8回 イオンチャネルと膜電位

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第9回 カルシウムシグナルと筋収縮

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第10回 細胞増殖とその制御

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第11回 細胞分化とその制御

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第12回 エネルギー代謝

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。

復習時間 : 60分

第13回 個体の中の環境維持

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。
復習時間 : 60分

第14回 遺伝情報を守るシステム

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。
復習時間 : 60分

第15回 まとめ

予習内容 : 講義タイトルに関連する事項について、自身の知識、疑問を整理しておく。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミニッツペーパーにある問に答え、講義内容に関する疑問点があればその詳細を記述する。
復習時間 : 60分

定期試験

科目名： 生物学Ⅱ			
英文名： Biology 2			
担当者： <small>コタニ タカオ</small> 小谷 猛夫			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

生物学Ⅰにおいて得られた脊椎動物、特に哺乳動物の体を構成している細胞・組織の構造と機能についての知識をもとにして、生物学Ⅱにおいてはヒトを含めて哺乳動物の各器官系の構造と機能について、動物間の差異や病的状態に言及しながら講義します。また、ウイルスや細菌などから生体をまもる機構や傷害された組織の修復機構について学修します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、この授業を履修することによって、

- 1) 脊椎動物、特にヒトを含めた哺乳動物の正常な体の構造と機能、および
- 2) それらの動物間差異や異常（病的状態）を知り、
- 3) いろいろな傷害に対する巧妙な生体の防御機構や修復機構についての基礎的知識を修得することができます。

■試験・課題に対するフィードバック方法

講義内容を記したプリントおよび板書した中にすべての解答がある。

■教科書

教科書は使わない。講義内容を記したプリントを配付する。

■参考文献

参考書としては医学・獣医学系の組織学・解剖学・生理学・病理学に関する本なら入門書から専門書までどれでもよい。

■関連科目

生物学Ⅰ

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）kotani1945@t.zaq.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

以下の内容で授業を行う。講義内容を記したプリントをあらかじめ配布する。

予習内容： 次回の講義内容を記したプリントをあらかじめ読み予習する。

予習時間： 30分

復習内容： 講義のプリント、板書した事柄のメモなどを理解し、復讐する。

復習時間： 60分

第1回 心臓の構造と機能

第2回 呼吸器系の構造と機能

第3回 消化器系の構造と機能1：消化管

第4回 消化器系の構造と機能2：肝臓と膵臓

第5回 泌尿器系の構造と機能

第6回 脳・脊髄の構造と機能

第7回 感覚器系の構造と機能

第8回 運動器系（骨・関節・筋肉）の構造と機能

第9回 内分泌系および生殖器系の構造と機能

第10回 動物組織の傷害

第11回 動物組織の傷害に対する修復機構

第12回 免疫とアレルギー

第13回 細菌感染と生体の防御反応

第14回 ウイルス感染と生体の防御反応

第15回 腫瘍

定期試験

科目名： 基礎物理学			
英文名： Basic Physics			
担当者： <small>ニシガキ ツトム タナカ カツヒロ</small> 西垣 勉・田中 克弘			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

【生物工学科・遺伝子工学科・食品安全工学科・医用工学科および2年生以上の全学科】

はじめに、物理現象を理解するのに必要なベクトルと数学的知識を学習し、静力学（力の釣り合い、モーメント、支点と反力）および運動と力（ニュートンの運動の法則）を中心とした力学の基礎を学ぶ。またプラクティス物理の時間にて演習を行う。

■学習・教育目標および到達目標

物理学は“自然現象にひそむ法則を探索する”学問であり、数学・化学・生物学・地学とともに科学および理工学の基礎となる。本講では、物理学の基本的な考え方を理解することができるように授業を進めていく。

■試験・課題に対するフィードバック方法

小テスト・課題に関しては模範解答を配布します。なお、特に注意を要する問題については、授業内に解説を行います。

■教科書

[ISBN]9784627160729『やさしい基礎物理(第2版)』（潮 秀樹, 森北出版：2014)

■参考文献

[ISBN]9784627155411『ビジュアルアプローチ基礎物理 上-力学・波動-』（大野 秀樹, 森北出版：2013)

[ISBN]9784627155619『ビジュアルアプローチ基礎物理 準拠問題集』（大野 秀樹, 森北出版：2013)

■関連科目

プラクティス基礎物理学、物理学Ⅱ、基礎数学、数学

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

小テスト 15%

課題演習及び宿題 10%

e-ラーニング 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

基礎教育センター（3号館2階就職情報室内）

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

教科書に沿って授業を進めるので、事前に予習して授業中に理解するように努めてください。講義内容の理解を深めるために、「基礎物理学」「物理学Ⅰ」では、プレイスメントの結果により履修科目（「基礎物理学」あるいは「物理学Ⅰ」）が決まります。なお、「基礎物理学」「物理学Ⅰ」の2科目のうち1科目しか履修出来ません。（来年度以降も履修出来ません）。

第1回 速度と加速度（1）

予習内容：教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。

予習時間：30分

復習内容：教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。

復習時間：120分

第2回 速度と加速度（2）

予習内容：教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。

予習時間：30分

復習内容：教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。

復習時間：120分

第3回 慣性の法則（1）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第4回 慣性の法則（2）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第5回 慣性の法則（3）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第6回 慣性の法則（4）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第7回 エネルギー・運動量・角運動量（1）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第8回 エネルギー・運動量・角運動量（2）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第9回 エネルギー・運動量・角運動量（3）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第10回 エネルギー・運動量・角運動量（4）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第11回 エネルギー・運動量・角運動量（5）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第12回 万有引力・重力・慣性力（1）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。

予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第13回 万有引力・重力・慣性力（2）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第14回 万有引力・重力・慣性力（3）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第15回 総復習

予習内容 : 今まで習った例題・問題で解けなかった箇所を確認しておくこと。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング修了テストをおこなうこと。
復習時間 : 120分

定期試験

科目名： 基礎物理学			
英文名： Basic Physics			
担当者： <small>ニシガキ ツトム ムカイ セイイチ フジオカ ヒデアキ タナカ カツヒロ</small> 西垣 勉・向井 誠一・藤岡 秀彰・田中 克弘			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

【生命情報工学科・人間環境デザイン工学科】

はじめに、物理現象を理解するのに必要なベクトルと数学的知識を学習し、静力学（力の釣り合い、モーメント、支点と反力）および運動と力（ニュートンの運動の法則）を中心とした力学の基礎を学ぶ。またプラクティス物理の時間にて演習を行う。

■学習・教育目標および到達目標

物理学は“自然現象にひそむ法則を探索する”学問であり、数学・化学・生物学・地学とともに科学および理工学の基礎となる。本講では、物理学の基本的な考え方を理解することができるように授業を進めていく。

■試験・課題に対するフィードバック方法

小テスト・課題に関しては模範解答を配布します。なお、特に注意を要する問題については、授業内に解説を行います。

■教科書

[ISBN]9784627160729 『やさしい基礎物理(第2版)』(潮 秀樹, 森北出版: 2014)

■参考文献

[ISBN]9784627155411 『ビジュアルアプローチ基礎物理 上-力学・波動-』(大野 秀樹, 森北出版: 2013)

[ISBN]9784627155619 『ビジュアルアプローチ基礎物理 準拠問題集』(大野 秀樹, 森北出版: 2013)

■関連科目

プラクティス基礎物理学、物理学Ⅱ、基礎数学、数学

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

小テスト 15%

課題演習及び宿題 10%

e-ラーニング 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）

hiroказu_miyamoto@wao-corp.com

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

教科書に沿って授業を進めるので、事前に予習して授業中に理解するように努めてください。講義内容の理解を深めるために、「基礎物理学」「物理学Ⅰ」では、プレイスメントの結果により履修科目（「基礎物理学」あるいは「物理学Ⅰ」）が決まります。なお、「基礎物理学」「物理学Ⅰ」の2科目のうち1科目しか履修出来ません。（来年度以降も履修出来ません）。

第1回 速度と加速度（1）

予習内容：教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。

予習時間：30分

復習内容：教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。

復習時間：120分

第2回 速度と加速度（2）

予習内容：教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。

予習時間：30分

復習内容：教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。

復習時間：120分

第3回 慣性の法則（1）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第4回 慣性の法則（2）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第5回 慣性の法則（3）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第6回 慣性の法則（4）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第7回 エネルギー・運動量・角運動量（1）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第8回 エネルギー・運動量・角運動量（2）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第9回 エネルギー・運動量・角運動量（3）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第10回 エネルギー・運動量・角運動量（4）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第11回 エネルギー・運動量・角運動量（5）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第12回 万有引力・重力・慣性力（1）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。

予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第13回 万有引力・重力・慣性力（2）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第14回 万有引力・重力・慣性力（3）

予習内容 : 教科書の該当箇所をよく読み、わからない点などを確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング演習をおこなうこと。
復習時間 : 120分

第15回 総復習

予習内容 : 今まで習った例題・問題で解けなかった箇所を確認しておくこと。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書の指定された箇所の例題・問題を解き理解すること。e-ラーニング修了テストをおこなうこと。
復習時間 : 120分

定期試験

科目名：物理学Ⅰ			
英文名：Physics 1			
担当者： <small>キムラ ユウイチ</small> 木村 裕一			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

物理学は、様々な自然現象の背景にある法則を明らかにする学問であり、理工学の諸分野の基礎となる。また、物理学を理解するための学習の過程は、より専門的で高度な事柄を理解するためのトレーニングともなるので重要な科目である。本講では、力学を取り扱う。

■学習・教育目標および到達目標

本講の習得により、質量、位置、速度、加速度といった力学の概念を理解すると共に、これらの物理量の間で成立する法則や、基本的な運動である、円運動、単振動、衝突現象や、現象を記述するために使用する力学的エネルギー保存則や運動量保存則などを理解する。また微分表現など、物理量を取り扱うための方法を理解する。

尚、本講は高校で物理学を履修していない、或は履修が不十分な学生を主対象とすることから、講義では高校物理の内容を主に取扱うが、一方で微分積分、微分方程式など、大学数学の内容を適宜取り込むことで、数学的な視点からの物理学の見方についても言及する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

定期試験終了後、模範解答及び解説を、UNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

[ISBN]9784320034938『大学新入生のための物理入門 第2版』(廣岡 秀明, 共立出版: 2012)

■参考文献

特に無し。

■関連科目

物理学Ⅱ

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して実施。

■研究室・E-mailアドレス

木村研究室 (東1号館4階410)・ukimura@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜日の3限目

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 物理学、力学の概説。

第2回 力の釣り合い。力の表し方、力の合成、力の分解、力の種類、作用と反作用。

第3回 大きさのある物体。質点と剛体、力のモーメント、力の釣り合い、液体や気体による圧力、浮力について。

第4回 力およびモーメントの第2回。

第5回 運動の表し方。瞬間の速度、速さと移動距離、瞬間の加速度、等加速度直線運動について。

第6回 運動の法則。運動と力、重力加速度、運動の法則、運動方程式の解法、重力による運動について。

第7回 運動の法則の解法。

第8回 いろいろな運動1。張力が働く場合、摩擦力が働く場合、空気抵抗張力が働く場合を学ぶ。

第9回 いろいろな運動2。等速円運動、等速円運動の表し方、等速円運動の例について学ぶ。

第10回 いろいろな運動3。単振動、単振動の例について学ぶ。

第11回 仕事。仕事とは、力のする仕事、力に逆らってする仕事、仕事の原理、仕事率とは。

第12回 エネルギー。運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギー保存則について。

第13回 仕事・エネルギー。

第14回 運動量。衝突、力積、運動量、運動量保存則、はね返り係数、直線状の衝突運動、エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギー保存則について。

第15回 力学の総括。

定期試験

科目名：物理学Ⅰ			
英文名：Physics 1			
担当者：藤井 雅雄 <small>フジイ マサオ</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

現代社会は、さまざまな科学技術の恩恵を受けています。したがって、科学的知識、とりわけ自然科学の基本である物理学の知識は教養として、また理工学の諸分野の基礎として重要です。本講では、力学の基礎について学びます。力学の基礎を学ぶことで、後年に学ぶ専門分野の理解を容易にすることが期待されます。この講義においては、履修生が高校において物理学を学び、理解していることを前提としていません。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、速さ、速度、加速度といった力学の基礎概念を理解するとともに、これら物理量の間に成立する法則や、基本的な運動である、円運動、単振動、衝突現象や、現象を記述するための力学的エネルギー保存則や運動量保存則などを理解します。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784627155411『ビジュアルアプローチ基礎物理 上-力学・波動-』（大野 秀樹, 森北出版：2013）

■参考文献

[ISBN]9784627155619『ビジュアルアプローチ基礎物理 準拠問題集』（大野 秀樹, 森北出版：2013）

■関連科目

物理学Ⅱ

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中の課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階254）・fujii@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 運動の表し方（1） 速度、加速度

予習内容：教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間：90分

復習内容：講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間：150分

速さ、速度と変位、平均の速度、加速度について学びます。

第2回 運動の表し方（2） 等加速度直線運動

予習内容：教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間：90分

復習内容：講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間：150分

等速直線運動、等加速度直線運動について学びます。

第3回 力と運動の法則（1） 第1、2、3法則

予習内容：教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分
運動の第1法則、第2法則、第3法則について学びます。

第4回 力と運動の法則(2) ばねの力、摩擦力

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分
重力と万有引力、ばねの力、垂直抗力と摩擦力について学びます。

第5回 いろいろな運動

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分
2物体の運動、自由落下、鉛直投げあげ、摩擦力が働く運動について学びます。

第6回 力積と運動量

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分
力積、運動量、力積と運動量の変化、運動量保存の法則、反発係数について学びます。

第7回 仕事とエネルギー

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分
仕事、エネルギーについて学びます。

第8回 力学的エネルギーの保存

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分
力学的エネルギー保存について学びます。

第9回 力の合成と分解

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分
平面、空間での運動について学びます。特に、力の合成と分解について学びます。

第10回 速度の合成

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分
速度の合成、相対速度について学びます。

第11回 平面における運動量保存の法則

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

仕事の原理、水平方向に投げ出した運動、斜めに投げあげた運動、斜面上にある物体の運動について学びます。

第12回 等速円運動

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

等速円運動について学びます。

第13回 単振動

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

単振動、慣性力について学びます。

第14回 剛体にはたらく力

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

力のモーメントについて学びます。

第15回 流体にはたらく力

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

流体の性質について学びます。

定期試験

科目名：物理学Ⅰ			
英文名：Physics 1			
担当者： <small>マツモト トシロウ</small> 松本 俊郎			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

物理学は自然現象に潜む法則を探索する学問で、理工学の基礎となる学問です。本講では力学を対象とします。最初に、運動の表し方について、速さ、変位、速度、加速度などの基本概念について学びます。つぎに、これらの物理量の間に成り立つ運動の法則を学びます。さらに、この法則を用いて、基本的な運動（円運動、単振動、衝突現象など）を学びます。最後に運動をより深く理解するためのいろいろな物理量（仕事、エネルギー、運動量、反発係数、単振動など）やそれらを用いて成立する法則（力学的エネルギー保存則や運動量保存則など）について学びます。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 2、3、4の達成に関与しています。

■学習・教育目標および到達目標

1. 力、質量、位置、速度、加速度などの基本概念および、このような物理量の取り扱い方に関する知識を持つことができる。
2. つぎに、これらの基本概念間に成り立つ運動の法則や、基本的な運動（円運動、単振動、衝突現象など）を理解できる。
3. さらに、力学的エネルギー保存則や運動量保存則などを学ぶことにより運動に関する考え方を深めることができる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に「試験の要点と解説」を掲示板に掲載します。」

■教科書

[ISBN978-4-627-15541-1]基礎物理 上 力学・波動」大野秀樹、小島洋一郎、竹内彰継、中岡鑑一郎、原 嘉昭 森北出版（株）

[ISBN978-4-627-15561-9]潮秀樹、大野秀樹、小島洋一郎、竹内彰継、中岡鑑一郎、原 嘉昭「基礎物理 準拠 問題集」森北出版（株）

■参考文献

[ISBN]9784780602005 原 康夫「自然科学の基礎としての物理学」学術図書出版社

[ISBN]9784320034938 廣岡秀明「大学新入生のための物理入門 [第2版]」共立出版株式会社

■関連科目

物理学Ⅱ

■成績評価方法および基準

定期試験 80%

授業中の課題およびレポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・matumoto@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 物理学、力学の概説

予習内容：自然現象や人の生活と物理学の関係を把握し授業で学ぶ時の目標となるよう準備する。

予習時間：60分

復習内容：物理学と工学のかかわりを材料、エネルギー等について、考察する。

復習時間：60分

物理学の概要、および力学の法則の発見の歴史と人間社会への貢献について理解する。

第2回 運動の表し方

予習内容：物体の運動状態の変化を表現するための方法を予習する。

予習時間：60分

復習内容：ニュートンの運動の第2法則を理解し、等速直線運動、等加速度直線運動について理解する。

復習時間 : 60分
速さ、速度と変位、平均の速度、瞬間の速度、加速度、等速直線運動、等加速直線運動について学ぶ。

第3回 力と運動の法則(1)

予習内容 : 1.2力と運動の法則 に関して、力の大きさと方向、ニュートンの3法則を読み、グラフを作成する。

予習時間 : 60分

復習内容 : 配布プリントの復習及び演習を行いこれらを理解する。

復習時間 : 60分

力、質量、運動の第1法則(慣性の法則)、運動の第2法則(運動方程式)、運動の第3法則(作用・反作用の法則)について学ぶ。

第4回 力と運動の法則(2)

予習内容 : 教科書1.2.6重力と万有引力の項及び1.2.7ばねの力1.2.8垂直抗力と摩擦力について、例題を解く。

予習時間 : 60分

復習内容 : 配布プリントの復習問題集1.2の該当問題を解いて理解する。

復習時間 : 80分

重力と万有引力、ばねの力、垂直抗力と摩擦力について学ぶ。

第5回 いろいろな運動

予習内容 : 教科書1.3いろいろな運動について、説明をノートに書き写して予習し、例題を解く。

予習時間 : 60分

復習内容 : 配布プリントの復習および問題集1.3の問題28～30を解いて理解する。

復習時間 : 80分

2物体の運動、自由落下、鉛直投げ上げ、摩擦力がはたらく運動について学ぶ。

第6回 力積と運動量(1)

予習内容 : 教科書1.4力積と運動量について、説明をノートに書き写して予習し、例題を解く。

予習時間 : 60分

復習内容 : 問題集1.4の問題37～40を解いて理解する。

復習時間 : 80分

力積、運動量、力積と運動量の変化について学ぶ。

第7回 力積と運動量(2)

予習内容 : 教科書1.4.4運動量保存の法則、1.4.5反発係数について、説明をノートに書き写して予習し、例題を解く。

予習時間 : 60分

復習内容 : 問題集1.4の43～46を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

運動量保存の法則、反発係数、演習問題を解く。

第8回 力学的エネルギー(1)

予習内容 : 教科書1.5力学的エネルギーについて、説明をノートに書き写して予習し、例題を解く。

予習時間 : 60分

復習内容 : 問題集1.5力学的エネルギーの48～51を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

仕事、仕事とエネルギー、運動エネルギーについて学ぶ。

第9回 力学的エネルギー(2)

予習内容 : 教科書1.5.4位置エネルギー、1.5.5力学的エネルギーの保存について、説明をノートに書き写して予習し、例題を解く。

予習時間 : 80分

復習内容 : 問題集1.5力学的エネルギーの52～54を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

位置エネルギー、力学的エネルギー保存の法則、演習問題を解く。

第10回 平面・空間での運動(1)

予習内容 : 教科書1.6を読み、力をベクトルで表す方法と複数の力の合成方法について予習する。

予習時間 : 80分

復習内容 : 問題集1.6平面・空間での運動の中で、58～61を解く

復習時間 : 80分
運動方程式の表し方、力の表し方とベクトルの性質、力の合成について学ぶ。

第11回 平面・空間での運動 (2)

予習内容 : 教科書1.6.5速度の合成、相対速度を読んで例題を解く
予習時間 : 80分
復習内容 : 問題集1.6平面・空間での運動について、58～60を解いて理解を深める。
復習時間 : 80分
力の分解、速度の合成、相対速度について学ぶ。

第12回 平面・空間での運動 (3)

予習内容 : 教科書1.6.7～1.6.9を読み、実際にノートに書き写しながら、計算をする。
予習時間 : 60分
復習内容 : 問題集1.6 63,64,66を解答し理解を深める。
復習時間 : 80分
平面における運動量保存の法則、仕事の原理、水平方向に投げ出した運動について学ぶ。

第13回 平面・空間での運動 (4)

予習内容 : 教科書1.6.10斜めに投げ上げた運動～1.6.12等速円運動を読み、実際にノートに書き写しながら、計算をする。
予習時間 : 80分
復習内容 : 問題集1.6 71,74を解答し理解を深める。ホドグラフについて復習する。
復習時間 : 80分
斜めに投げ上げた運動、斜面上にある物体の運動、等速円運動について学ぶ。

第14回 平面・空間での運動 (5)

予習内容 : 教科書1.6.13惑星の運動(ケプラーの法則)～1.6.16慣性力を読み、実際にノートに書き写しながら、計算をする。
予習時間 : 100分
復習内容 : 配布プリント及び講義内容を復習し理解を深める。問題集1.6 74を解く。
復習時間 : 80分
惑星の運動(ケプラーの法則)、単振動、単振り子、慣性力について学ぶ。

第15回 剛体や流体にはたらく力

予習内容 : 教科書1.7剛体や流体にはたらく力について、実際にノートに書き写しながら、計算をする。
予習時間 : 80分
復習内容 : 問題集1.7 77、79を解答し理解を深める。
復習時間 : 80分
力のモーメント、流体の性質、演習問題を解く。

定期試験

科目名：物理学Ⅱ			
英文名：Physics 2			
担当者：西垣 勉 <small>ニシガキ ツトム</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

物理学は自然現象に潜む法則を探索する学問で、理工学の基礎となる学問です。本講では前期に学んだ力学に引き続き、物理学を構成する熱力学、波動、及び電磁気学の基礎について学びます。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は温度、熱、波動、電気、磁気、及び関連する物理量の基本概念を理解し、熱力学、光学、電磁気学の基本法則（熱力学の第一・第二法則、反射・屈折の法則、クーロンの法則、オームの法則、ファラデー電磁誘導の法則等）を学びます。これらの基本法則を用いて熱機関の効率、ドップラー効果、レンズの特性、光の回折現象、直流回路や交流回路の特性、モーターの原理などを理解します。

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業中課題については、翌回以降の授業時間に答案を返却し、要点を解説します。

試験については、試験期間終了後に試験の要点と講評をUNIVRESAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784627160729『やさしい基礎物理(第2版)』(潮 秀樹, 森北出版: 2014)

■参考文献

[ISBN]9784627155411『ビジュアルアプローチ基礎物理 上-力学・波動-』(大野 秀樹, 森北出版: 2013)

[ISBN]9784627155510『ビジュアルアプローチ基礎物理 下-熱・電磁気・原子-』(大野 秀樹, 森北出版: 2013)

[ISBN]9784627155619『ビジュアルアプローチ基礎物理 準拠問題集』(大野 秀樹, 森北出版: 2013)

[ISBN]9784320034938『大学新入生のための物理入門 第2版』(廣岡 秀明, 共立出版: 2012)

■関連科目

物理学 I

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中の課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

西垣研究室 (西1号館3階352)・nisigaki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜 5 限

事前にメールにてアポイントをとって下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 流体・弾性体

第2回 熱と分子運動 (1)

第3回 熱と分子運動 (2)

第4回 熱と分子運動 (3)

第5回 熱と分子運動 (4)

第6回 電磁現象の基礎 (1)

第7回 電磁現象の基礎 (2)

第8回 電磁現象の基礎 (3)

第9回 電磁現象の基礎 (4)

第10回 電磁気学の基本法則

第11回 波動と光 (1)

第12回 波動と光 (2)

第13回 波動と光 (3)

第14回 波動と光 (4)

第15回 波動と光 (5)

定期試験

科目名：物理学Ⅱ			
英文名：Physics 2			
担当者： <small>キムラ ユウイチ</small> 木村 裕一			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

本講では、物理学Ⅰに引き続いて、主に電磁気学について学ぶ。電磁気学は、クーロン力から始まり、物理的な考察を重ね上げて、実用性が高い交流理論までに至る学問領域であることから、本講を通して物理的な考察過程を学ぶことができる。また、特に工学系3学科の受講生にとって学科の専門性において重要な電気電子工学に対する素養を身につけることができる。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、主に電磁気関連の物理量の基本概念を理解することができる。これらは、今後のより専門的な科目の基礎となるものである。尚、本講は高校で物理学を履修していない、或は履修が不十分な学生を主対象とすることから、講義では高校物理の内容を主に取扱う。

■試験・課題に対するフィードバック方法

定期試験終了後、模範解答及び解説を、UNIVERSAL PASSPORTに掲載する。

■教科書

[ISBN]9784320034938『大学新入生のための物理入門 第2版』(廣岡 秀明, 共立出版: 2012)

■参考文献

特に無し。

■関連科目

物理学Ⅰ

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して実施。

■研究室・E-mailアドレス

木村研究室 (東1号館4階410)・ukimura@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜日の3限目

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 クーロン力

第2回 電場・電気力線・電位

第3回 静電場問題の解答

第4回 電流・電力・オームの法則-1

第5回 電流・電力・オームの法則-2

第6回 磁気・磁場・磁力線

第7回 電流と磁場の問題解答

第8回 抵抗

第9回 コンデンサー

第10回 CR回路過度応答

第11回 直流回路の問題解答

第12回 交流の基礎と交流での抵抗の取扱い

第13回 交流回路でのコンデンサー・コイル

第14回 共振回路・インピーダンス

第15回 交流回路の問題解答

定期試験

科目名：物理学Ⅱ			
英文名：Physics 2			
担当者：藤井 雅雄 <small>フジイ マサオ</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

現代社会は、さまざまな科学技術の恩恵を受けています。したがって、科学的知識、とりわけ自然科学の基本である物理学の知識は教養として、また理工学の諸分野の基礎として重要です。本講では、前期に学んだ力学に引き続き、物理学を構成する波動、熱力学、電磁気学の基礎について学びます。これらの基礎を学ぶことで、後年に学ぶ専門分野の理解を容易にすることが期待されます。この講義においては、履修生が高校において物理学を学び、理解していることを前提としていません。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、光、音、温度、熱、電気、磁気および関連する物理量の基本概念を理解し、光学、音響学、熱力学、電磁気学の基本法則（反射・屈折の法則、熱力学の第1・第2法則、クーロンの法則、オームの法則、ファラデーの電磁誘導の法則など）を学びます。これらの基本法則を用いて、レンズの特性、光の回折現象、ドップラー効果、熱機関の効率、直流回路や交流の特性、モーターの原理などを理解します。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784627155411『ビジュアルアプローチ基礎物理 上-力学・波動-』（大野 秀樹, 森北出版：2013）

[ISBN]9784627155510『ビジュアルアプローチ基礎物理 下-熱・電磁気・原子-』（大野 秀樹, 森北出版：2013）

■参考文献

[ISBN]9784627155619『ビジュアルアプローチ基礎物理 準拠問題集』（大野 秀樹, 森北出版：2013）

■関連科目

物理学Ⅰ

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中の課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階254）・fujii@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 静電気力

予習内容：教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間：90分

復習内容：講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間：150分

帯電、クーロンの法則について学びます。

第2回 電界とガウスの法則

予習内容：教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間：90分

復習内容：講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間：150分

電界、電気力線、ガウスの法則について学びます。

第3回 電位

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

電位と電位差、等電位面、導体と静電誘導、静電遮蔽について学びます。

第4回 電流と電圧

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

電流、オームの法則、電力とジュール熱について学びます。

第5回 直流回路

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

抵抗の接続、電池の起電力と内部抵抗、電流計と電圧計、キルヒホッフの法則について学びます。

第6回 電流と磁界

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

磁石による磁界、電流による磁界、電流が磁界から受ける力、モーターの原理について学びます。

第7回 電磁誘導と交流

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

電磁誘導、交流について学びます。

第8回 温度と熱

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

温度、熱、固体の膨張、温度の測定、熱容量と比熱、潜熱について学びます。

第9回 熱力学の第1法則

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

理想気体の状態方程式、気体がする仕事、熱力学の第1法則について学びます。

第10回 熱力学の第2法則

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。

復習時間 : 150分

熱効率、熱力学の第2法則について学びます。

第11回 直線上を伝わる波

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分

波、波の基本式、正弦波、横波と縦波、波の重ね合わせ、波の反射について学びます。

第12回 平面・空間を伝わる波

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分

波面とホイヘンスの原理、波の干渉、回折現象について学びます。

第13回 音波

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分

音の発生、音の速さ、音の3要素、うなりなどについて学びます。

第14回 ドップラー効果

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分

ドップラー効果について学びます。

第15回 光の進み方

予習内容 : 教科書の該当箇所を、よく読み、分からない箇所を整理しておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 講義ノートを読み返し、該当箇所の教科書の例題、章末問題を解くこと。
復習時間 : 150分

光の反射、屈折、全反射、レンズについて学びます。

定期試験

科目名：物理学Ⅱ			
英文名：Physics 2			
担当者： <small>マツモト トシロウ</small> 松本 俊郎			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

物理学は自然現象に潜む法則を探索する学問で、理工学の基礎となります。本講義では、前期に学んだ力学に引き続き、物理学を構成する波動、熱力学、及び電磁気学の基礎について学びます。

波動において、身の回りの光、音や地震などの波動を扱う上で基礎となる波動、正弦波、横波、縦波等の物理量を解説します。つぎに、光、音波等について学びます。光について、直進するという考え方に伴う反射、屈折の法則、レンズの結像の法則等について学び、波動としての考え方に伴う干渉、回折について学習します。

熱力学において、最初に、熱の表し方について、温度、熱、熱量、熱容量などの基本概念について学びます。つぎに、気体分子ひとつひとつの運動を通して、圧力や温度を理解し、気体をもつ運動エネルギーや内部エネルギーについて解説します。さらに、これらの概念を用いて、気体がする仕事や熱効率等から熱力学の第1及び第2法則について学びます。

電磁気学において、最初に、電気量やクーロンの法則等、電気による力の表し方、物質の電氣的性質、電解、電位等について解説します。さらに、コンデンサー、電流と電圧、直流回路、電磁波について学習します。

■学習・教育目標および到達目標

1. 音、光や地震等の物理現象に対して、波の基礎や縦波や横波、干渉及び回折の考え方から理解できる。レンズによる結像の考え方からカメラ等の性能に関する考察が可能になる。
2. 熱現象に関する日常的事実から出発し、それらの経験法則の相互関連を理解し、体系的に理解できる。熱と温度や熱容量と比熱という概念を把握し気体の状態に関する考え方を確立できる。熱力学の第1及び第2法則を導き、熱現象とエネルギー保存則を考察できる。
3. 物質の電氣的性質、オームの法則の成り立ち、磁気力及び電磁誘導について理解できる。
4. 直流電源と電気抵抗とコンデンサーを含む回路に関する計算方法を体得できる。交流回路における基本的な素子の役割及び電磁波の波動的性質を理解できる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

「試験終了後（試験期間終了後）に「試験の要点と解説」を掲示板に掲載します。」

■教科書

[ISBN]9784627155510『ビジュアルアプローチ基礎物理 下-熱・電磁気・原子-』（大野 秀樹, 森北出版：2013）

[ISBN]9784627155619『ビジュアルアプローチ基礎物理 準拠問題集』（大野 秀樹, 森北出版：2013）

■参考文献

[ISBN9784320034938]『大学新入生のための物理入門』（廣岡秀明著 共立出版（株）：2012）

[ISBN]9784873619101『物理学A&B』（柏村 昌平, 学術図書出版社：2003）

■関連科目

物理学 I

■成績評価方法および基準

定期試験 80%

授業中の課題 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・matumoto@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

教科書に沿って授業を進めるので、事前に予習して授業中に理解するように努めてください。講義内容の理解を深めるために、随時演習を行うので関数電卓を持参のこと。

第1回 光の進み方

予習内容：教科書・基礎物理一上-第2章波動 2.1光の進み方～2.1.3光の屈折を読み、実際にノートに書き写しながら、計算をする。

予習時間 : 60分
復習内容 : 問題集第2章 波動 2.1光の進み方1～3を解答し理解を深める。
復習時間 : 80分

幾何光学と波動光学の取り扱いについて、光の速さ、反射と屈折について学ぶ。

第2回 レンズ

予習内容 : 教科書・基礎物理一上ー第2章波動 2.1.4光の全反射～2.1.5レンズ、2.1.6眼と光学機器を読み、例題をノートに書き写しながら、計算をする。

予習時間 : 80分

復習内容 : 問題集2.1 10～12,16を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

結像の焦点、近軸光線、結像の式、凸レンズ、凹レンズへの適用、眼やカメラの結像について学ぶ。

第3回 直線上を伝わる波

予習内容 : 教科書・基礎物理一上ー第2章波動 2.2直線上を伝わる波～2.2.4縦波と横波を読み、例題をノートに書き写しながら、計算をする。

予習時間 : 80分

復習内容 : 問題集2.2直線上を伝わる波 20～26を解答し理解を深める。

復習時間 : 100分

媒質を伝わる波、正弦波、横波と縦波について学ぶ。

第4回 平面・空間を伝わる波 (1)

予習内容 : 教科書・基礎物理一上ー第2章波動 2.3平面・空間を伝わる波～2.3.2平面・空間を伝わる波の干渉について、ノートに書き写しながら読む。

予習時間 : 100分

復習内容 : 問題集2.3 平面・空間を伝わる波 32を解答し理解を深める。

復習時間 : 60分

ホイヘンスの原理、光路差、波の干渉について学ぶ。

第5回 平面・空間を伝わる波 (2)

予習内容 : 教科書・基礎物理一上ー第2章波動 2.3.2平面・空間を伝わる波の干渉について、ノートに書き写しながら読む。

予習時間 : 80分

復習内容 : 問題集2.3 平面・空間を伝わる波 34～35を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

光路差、波の干渉について学ぶ。

第6回 波の回折 (1)

予習内容 : 教科書・基礎物理一上ー第2章波動 2.3.3波の回折について、ノートに書き写しながら読む。

予習時間 : 60分

復習内容 : 問題集2.3 平面・空間を伝わる波 33を解答し理解を深める。

復習時間 : 60分

1開口の回折、2開口の回折について学ぶ。

第7回 波の回折 (2)

予習内容 : 配布プリントを読み、干渉、1開口の回折を復習しながら予習する。

予習時間 : 80分

復習内容 : 講義内容を読み返し、配布したプリントで演習を行い理解を深める。

復習時間 : 80分

2開口の回折、回折格子の回折について学ぶ。

第8回 温度と熱

予習内容 : 教科書・基礎物理一下ー第3章熱と分子運動 3.1温度と熱3.1.5熱容量と比熱について、ノートに書き写しながら読む。

予習時間 : 80分

復習内容 : 問題集 第3章熱と分子運動 3.1 温度と熱 1～7を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

温度、熱、温度の測定、熱容量について学ぶ。

第9回 気体分子の運動

予習内容 : 教科書・基礎物理―下―第3章熱と分子運動 3.1.6潜熱～3.2気体分子の運動 3.2.1理想気体の状態方程式について、ノートに書き写しながら読む。

予習時間 : 80分

復習内容 : 問題集 第3章熱と分子運動 3.2気体分子の運動 21～27を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

理想気体の状態方程式、気体の運動エネルギーについて学ぶ。

第10回 熱力学第1及び2法則

予習内容 : 教科書・基礎物理―下―第3章熱と分子運動 3.3熱力学第1法則～3.4カルノーサイクルについて、ノートに書き写しながら読む。

予習時間 : 100分

復習内容 : 問題集 第3章熱と分子運動 3.3熱力学第1法則 42～43、51～54を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

気体がする仕事、カルノーサイクルについて学ぶ。

第11回 熱力学第1及び2法則

予習内容 : 教科書・基礎物理―下―第4章電気と磁気 4.1静電気力、4.2電解とガウスの法則～4.3電位について、ノートに書き写しながら読む。

予習時間 : 120分

復習内容 : 問題集 第4章電気と磁気 4.1静電気力1～8、11～14を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

帯電、クーロンの法則、電界、電位と電位差について学ぶ。

第12回 コンデンサー

予習内容 : 教科書・基礎物理―下―第4章電気と磁気 4.4コンデンサーについて、ノートに書き写しながら読む。

予習時間 : 120分

復習内容 : 問題集 第4章電気と磁気 4.3電位 24～28を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

コンデンサーと電気容量、コンデンサーの接続について学ぶ。

第13回 電流と電圧

予習内容 : 教科書・基礎物理―下―第4章電気と磁気 4.5電流と電圧について、ノートに書き写しながら読む。

予習時間 : 100分

復習内容 : 問題集 第4章電気と磁気 4.5電流と電圧41～46を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

電流、オームの法則、電力について学ぶ。

第14回 直流回路、電流と磁界

予習内容 : 教科書・基礎物理―下― 4.6直流回路 4.7電流と磁界 について、ノートに書き写しながら読む。

予習時間 : 120分

復習内容 : 問題集 第4章電気と磁気 4.7電流と磁界57～60を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

抵抗の接続、電流計及び電圧計、電流による磁界について学ぶ。

第15回 電磁誘導と交流

予習内容 : 教科書・基礎物理―下― 4.8電磁誘導と交流 について、ノートに書き写しながら読む。

予習時間 : 100分

復習内容 : 問題集 第4章電気と磁気 4.8磁誘導と交流74～75、76を解答し理解を深める。

復習時間 : 80分

電磁誘導、交流、電磁波について学ぶ。

定期試験

科目名：微分積分学			
英文名：Calculus			
担当者：吉田 久 <small>ヨシダ ヒサシ</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

本講義は、大学で学ぶ数学、物理学ならびにほとんど全ての専門科目を学ぶために必要不可欠な基礎として、微分積分学を学習する。この科目は、数学としての微分積分学ではなく、理工科系に必要な実用道具としての微分積分を修得することを目標としている。したがって、数学的な定義・定理・証明だけでなく、基本的な意味や使い方、例題などに主眼をおいて講義を進める。受講者はまず、前期の講義科目「数学」で学んだ初等関数に関する微分積分の概念を再度確認する目的で、微分積分学の基本定理から定積分までを学習する。その後、2変数以上の関数に拡張した偏微分や重積分を学習する。

■学習・教育目標および到達目標

本講義では、理工科系に必要な実用道具としての微分積分を修得するために、以下のことを到達目標とする。

1. 1変数の初等関数に関する微分積分の概念を復習し、合成関数や逆関数、それに対数関数微分法を使いこなせるようにする。
2. 微分法を修得した後、微分法の応用について学び、関数の極値や曲線の凹凸などを微分を使って解析できることを理解する。
3. 不定積分、定積分の関係を理解し、積分計算法（置換積分、部分積分、有理関数・無理関数）などについてマスターする。
4. 面積、体積、曲線の長さなど積分計算の応用について学び、これを理解する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

小テストは、翌回の授業時間に答案を返却します。また、模範答案をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784477026428 『新微分積分〈1〉』（高遠 節夫, 大日本図書：2012）

[ISBN]9784477026855 『新微分積分2』（高遠 節夫, 大日本図書：2013）

■参考文献

[ISBN]9784489002649 『よくわかる微分積分』（有馬 哲, 東京図書：1988）

[ISBN]9784477026442 『新微分積分1問題集』（高遠節夫, 大日本図書：2013）

[ISBN]9784477026879 『新微分積分2問題集』（高遠節夫, 大日本図書：2014）

■関連科目

基礎数学、数学、その他の専門科目

■成績評価方法および基準

定期試験 90%

授業中の発表 5%

授業中の課題 5%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

吉田研究室（東1号館4階418）・yoshida@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

前期：水曜 4、5 限

後期：水曜 2、5 限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 数列とその和、数列の極限

第2回 関数の極限と連続

第3回 導関数1（性質、合成関数の微分）

第4回 導関数2 (逆関数微分法)

第5回 導関数3 (対数関数微分法)

第6回 微分法の応用1 (関数の増減と極値)

第7回 微分法の応用2 (高次導関数と曲線の凹凸)

第8回 微分法の応用3 (変曲点)

第9回 不定積分と定積分、中間試験

第10回 積分の計算1 (置換積分法)

第11回 積分の計算2 (部分積分法)

第12回 積分の計算3 (有理・無理関数の積分)

第13回 積分の計算4 (三角関数の積分)

第14回 積分の応用1 (面積、体積)

第15回 積分の応用2 (長さ)

定期試験

科目名：微分積分学			
英文名：Calculus			
担当者：西垣 勉 <small>ニシガキ ツトム</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

微分積分学は、線形代数学と並んで理工系のほとんどの専門科目の基礎であり、その習得は必要不可欠であるといえる。本講義では、高学年において実際に各種の専門科目で微分積分学を応用することができるよう、数学としての微分積分学ではなく、実用道具としての微分積分学を修得することを目標としている。したがって、数学的な定義・定理・証明よりも、基本的な意味や実際の使い方、例題および練習問題の実践に主眼をおいて進める。受講者はまず、前期の講義科目「数学」で学んだ初等関数に関する微分積分の概念を再度確認する目的で、微分積分学の基本定理から定積分までを学習する。その後、2変数以上の関数に拡張した偏微分や重積分を学習する。

■学習・教育目標および到達目標

本講義では、各種専門科目に必要な実用道具としての微分積分を修得するために、以下のことを到達目標とする。

1. 1変数の初等関数に関する微分積分の概念を復習し、合成関数や逆関数、それに対数関数微分法を使いこなせるようにする。
2. 微分法の応用について学び、関数の極値や曲線の凹凸などを微分を使って解析できることを理解する。
3. 不定積分、定積分の関係を理解し、積分計算法(置換積分、部分積分、有理関数・無理関数)などについてマスターする。
4. 面積、体積、曲線の長さなど積分計算の応用について学び、これを理解する。
5. 2変数関数を例にして、多変数関数という概念の理解とその微分積分学の基本的な考え方を理解すること、また計算技法を身につける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業中課題については、翌回以降の授業時間に答案を返却し、要点を解説します。

試験については、試験期間終了後に試験の要点と講評をUNIVRESAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784407332483『新版 微分積分: 基礎から偏微分・重積分・微分方程式まで(数学シリーズ 新版)』(佐伯 昭彦 ほか5名, 実教出版: 2013)

[ISBN]9784407332490『新版 微分積分 演習(新版数学シリーズ)』(岡本 和夫, 実教出版: 2013)

■参考文献

[ISBN]9784477026428『新微分積分〈1〉』(高遠 節夫, 大日本図書: 2012)

[ISBN]9784477026855『新微分積分2』(高遠 節夫, 大日本図書: 2013)

■関連科目

基礎数学、数学、各学科の専門科目

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

中間試験 25%

小テスト 25%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

西垣研究室(西1号館3階352)・nisigaki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜5限

事前にメールにてアポイントをとって下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 初等関数の微分積分

第2回 合成関数、逆関数の微分

第3回 対数微分法

第4回 微分法による関数の増減の解析

第5回 微分法（2階微分）による関数の凹凸の解析

第6回 微分と不定積分

第7回 不定積分と定積分

第8回 不定積分および定積分の計算、中間試験

第9回 有理関数の積分

第10回 無理関数の積分

第11回 三角関数を含む有理関数の積分

第12回 長さ、体積の計算

第13回 テイラー展開、マクローリン展開

第14回 多変数関数と偏微分

第15回 重積分

定期試験

科目名：微分積分学			
英文名：Calculus			
担当者：西川 博昭			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

本講義は、大学で学ぶ数学、物理学ならびにほとんど全ての専門科目を学ぶために必要不可欠な基礎として、微分積分学を学習する。この科目は、数学としての微分積分学ではなく、理工科系に必要な実用道具としての微分積分を修得することを目標としている。したがって、数学的な定義・定理・証明だけでなく、基本的な意味や使い方、例題などに主眼をおいて講義を進める。受講者はまず、前期の講義科目「数学」で学んだ初等関数に関する微分積分の概念を再度確認する目的で、微分積分学の基本定理から定積分までを学習する。その後、2変数以上の関数に拡張した偏微分や重積分を学習する。

■学習・教育目標および到達目標

本講義では、理工科系に必要な実用道具としての微分積分を修得するために、以下のことを到達目標とする。

1. 2変数関数を例にして、多変数関数という概念を理解すること。
2. 多変数関数の解析に重要な、偏微分、全微分、接平面などの基本的な概念を理解し、実際に計算技法をマスターする。
3. さらに2次形式を学び、偏微分概念とともに多変数関数の極値問題を理解する。
4. 多変数関数における重積分の概念を理解し、計算技法をマスターする。
5. 多変数関数の変数変換を理解し、重積分の計算を容易にする方法を修得する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784477026855 『新微分積分2』(高遠 節夫, 大日本図書: 2013)

[ISBN]9784477026879 『新微分積分2問題集』(高遠節夫, 大日本図書: 2014)

■参考文献

[ISBN]9784489002649 『よくわかる微分積分』(有馬 哲, 東京図書: 1988)

[ISBN]9784477026428 『新微分積分1』(高遠 節夫, 大日本図書: 2012)

[ISBN]9784477026442 『新微分積分1問題集』(高遠節夫, 大日本図書: 2013)

■関連科目

基礎数学、数学、その他の専門科目

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

中間試験 30%

宿題 (各回1問から5問程度の演習問題) 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

西川研究室 (東1号館3階312)・nishik32@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

前期

木曜 4限

後期

木曜 4限

ただし、出張中、会議中を除く

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 2変数関数と曲面

予習内容 : 2変数関数の定義とグラフの書き方について調べる。

予習時間 : 60分

復習内容 : 2変数関数の計算およびグラフの書き方について、例題および練習問題を解く。
復習時間 : 180分

第2回 多変数関数と極限・連続

予習内容 : 2変数関数の発展として、2変数関数を含む多変数関数の極限および連続の概念を事前に調べる。
予習時間 : 60分
復習内容 : 多変数関数の極限操作に関する例題・練習問題を解く。
復習時間 : 180分

第3回 偏導関数

予習内容 : 多変数関数の偏導関数・偏微分係数について、その定義と計算方法を理解する。
予習時間 : 60分
復習内容 : 多変数関数の極限操作について例題と練習問題を解く。
復習時間 : 180分

第4回 接平面と全微分

予習内容 : 多変数関数の全微分の定義を調べる。また、2変数関数のグラフにおける接平面の意義を調べたうえで、接平面の方程式と全微分の関係を調べる。
予習時間 : 60分
復習内容 : 全微分の計算および接平面の方程式を求める例題と練習問題を解く。
復習時間 : 180分

第5回 合成関数の微分法

予習内容 : 合成関数の微分法について、その定義を調べて理解する。
予習時間 : 60分
復習内容 : 合成関数の微分法を用いた関数の微分、2変数関数の偏微分の例題と練習問題を解く。
復習時間 : 180分

第6回 高次偏導関数

予習内容 : 高次の偏導関数の意義と応用場面を調べる。
予習時間 : 60分
復習内容 : 高次偏導関数の計算の例題と練習問題を解く。
復習時間 : 180分

第7回 多項式による近似

予習内容 : 多項式を用いた関数の近似法について、定義を調べる。
予習時間 : 60分
復習内容 : 多項式による関数の近似の例題と練習問題を解く。
復習時間 : 180分

第8回 中間試験、極大・極小

予習内容 : 2変数関数の極大・極小の概念を調べる。
予習時間 : 60分
復習内容 : 2変数関数の極大・極小を判別する例題と練習問題を解く。
復習時間 : 180分

第9回 陰関数の微分法

予習内容 : 陰関数の定義を調べる。
予習時間 : 60分
復習内容 : 陰関数の微分計算の例題と練習問題を解く。
復習時間 : 180分

第10回 条件付き極値問題

予習内容 : Lagrangeの乗数法について調べる。
予習時間 : 60分
復習内容 : 条件付き極値問題の例題と練習問題を解く。
復習時間 : 180分

第11回 重積分の定義

予習内容 : 定積分について定義を十分に理解する。
予習時間 : 60分
復習内容 : 重積分の計算の定義を定積分の定義の発展として整理し、理解する。
復習時間 : 180分

第12回 重積分の計算

予習内容 : 重積分の実際の計算方法について理解する。
予習時間 : 60分
復習内容 : 重積分の計算の例題と練習問題を解く。
復習時間 : 180分

第13回 2変数関数の変数変換

予習内容 : ヤコビアンの定義について調べる。
予習時間 : 60分
復習内容 : 変数変換の例題と練習問題を解く。
復習時間 : 180分

第14回 広義重積分・3重積分

予習内容 : 極限操作との組み合わせが必要な重積分の例を調べる。
予習時間 : 60分
復習内容 : 広義重積分の例題と練習問題を解く。また、3重積分の練習問題にも取り組む。
復習時間 : 180分

第15回 重積分の応用

予習内容 : 重積分によって計算可能な定積分の例を調べる。
予習時間 : 60分
復習内容 : 重積分による面積や体積の計算に関する例題と練習問題を解く。
復習時間 : 180分

定期試験

科目名：微分積分学			
英文名：Calculus			
担当者：堤 裕之 <small>ツツミ ヒロユキ</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

本講義は、大学で学ぶ殆どどの理数系専門科目に必要な不可欠な微分積分学の基礎知識を学習する。数学としての微積分ではなく、理工科系に必要な実用道具としての微分・積分の応用を習得することを目標としている。したがって、数学的な定義・定理・証明だけでなく、基本的な意味や使い方、例題などに主眼をおいて講義を進める。受講者はまず、前期の講義科目「数学」で学んだ初等関数に関する一変数の微分積分の知識を更に補充するために、微積分の基本定理やその応用について学習する。続いて、二変数関数の場合の偏微分や重積分とその応用について学習する。

■学習・教育目標および到達目標

本講義では、生物理工系の学生が関連専門科目を履修するにあたって必要な、実用的な微積分の知識を修得するために、以下のことを到達目標とする。

- 1.1変数の初等関数の微分・積分の高度な問題に再挑戦し、計算技法をマスターする。
- 2.1変数の微分法の応用として、曲線の関数の特性を解析し、極値、凹凸などを求める。
- 3.1変数の積分法の応用として、平面曲線の面積、長さ、および回転体の体積、表面積の計算法を究める。
- 4.多変数関数の偏微分法、重積分法の基本定理を理解し、その技法を身につける。
- 5.2変数関数の偏微分法の応用として、テーラー展開、ラグランジェの乗数法などの解析法を修得する。
- 6.重積分の応用として、立体図形の求積法を修得する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

中間まとめレポートと期末まとめレポートは指定教科書の問題の中から出題されます。教科書には略解が載せられていますが、特に注意が必要な問題については授業内で解説します。

■教科書

[ISBN]9784785315184『理工系入門 微分積分』(石原 繁, 裳華房:1999)

■参考文献

[ISBN]9784320016330『やさしく学べる微分積分』(石村 園子, 共立出版:1999)

■関連科目

基礎数学、数学、線形代数学など

■成績評価方法および基準

定期試験 70%
 中間まとめレポート 10%
 期末まとめレポート 10%
 授業内レポート 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階) : tsutsumi@ouhs.ac.jp
 備考: 携帯からの質問メールは受け付けません。

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 微分とは何か、微分の計算公式

予習内容 : 教科書 §4 ~ §11に目を通す。
 予習時間 : 30分
 復習内容 : 教科書P21, P27, P30, P38, P48問題Bを解く
 復習時間 : 60分

第2回 テイラー展開とは何か

予習内容 : 教科書 §14 ~ §16に目を通す。

予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書P72, P78, P84, P89問題Bを解く
復習時間 : 60分

第3回 積分とは何か、そしてその計算公式

予習内容 : 教科書 § 19, § 29に目を通す。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教科書P95, P100, P105, P109問題Bを解く
復習時間 : 30分

第4回 微分積分学の基本定理とは何か、積分の計算と変数変換

予習内容 : 教科書 § 21 ~ § 27に目を通す。
予習時間 : 60分
復習内容 : 教科書P116, P120, P123, P128, P139問題Bを解く
復習時間 : 30分

第5回 関数と極限 (2変数)

予習内容 : 教科書 § 30に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書 § 30の演習問題Bを解く。
復習時間 : 30分

第6回 連続関数

予習内容 : 教科書 § 31に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書 § 31の演習問題Bを解く。
復習時間 : 30分

第7回 偏導関数

予習内容 : 教科書 § 32に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書 § 32の演習問題Bを解く。
復習時間 : 30分

第8回 高次偏導関数

予習内容 : 教科書 § 33に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書 § 33の演習問題Bを解く。
復習時間 : 30分

第9回 合成関数の微分法

予習内容 : 教科書 § 34に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書 § 34の演習問題Bを解く。
復習時間 : 30分

第10回 テイラーの定理とテイラー展開

予習内容 : 教科書 § 35 ~ § 37に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書 § 37の演習問題Bを解く。
復習時間 : 30分

第11回 極大・極小

予習内容 : 教科書 § 38に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書 § 38の演習問題Bを解く。
復習時間 : 30分

第12回 2重積分の定義

予習内容 : 教科書 § 39に目を通す。

予習時間 : 30分

復習内容 : 教科書 § 39の演習問題Bを解く。

復習時間 : 30分

第13回 2重積分の計算・累次積分

予習内容 : 教科書 § 40に目を通す。

予習時間 : 30分

復習内容 : 教科書 § 40の演習問題Bを解く。

復習時間 : 30分

第14回 極座標による2重積分

予習内容 : 教科書 § 41に目を通す。

予習時間 : 30分

復習内容 : 教科書 § 41の演習問題Bを解く。

復習時間 : 30分

第15回 体積・曲面積

予習内容 : 教科書 § 42に目を通す。

予習時間 : 30分

復習内容 : 教科書 § 42の演習問題Bを解く。

復習時間 : 30分

定期試験

科目名：線形代数学			
英文名：Linear Algebra			
担当者： <small>クSunoki マサノブ</small> 楠 正暢			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

線形代数学は、微分積分学とともに、問題を表現し、整理し、理解し、解決するときに利用できる重要な理論であり、理工学は言うに及ばず、経済学等の広範な分野で用いられている。とりわけ、ライフサイエンス系の課題に取り組む、生命情報工学科、人間環境デザイン工学科、医用工学科では、システム・情報工学、制御工学、ロボット工学、シミュレーション工学、医工学などを関連基礎分野として位置づけており、これらを理解する上で線形代数学が必要不可欠な理論的基礎となっている。本講では、ベクトル、行列と行列式、連立1次方程式、固有値と固有ベクトル、行列の対角化などの線形代数学の基本事項について講述する。

■学習・教育目標および到達目標

- ・行列の和、差、積の計算ができること。
- ・拡大係数行列の基本変形を用いて連立一次方程式を解くことができること。
- ・逆行列を用いて連立一次方程式を解くことができること。
- ・クラメルの公式を用いて連立一次方程式を解くことができること。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各回のレポートに関し、課題に対する解説をします。

■教科書

[ISBN]9784320016606『やさしく学べる線形代数』(石村 園子, 共立出版: 2000)

■参考文献

指定しない

■関連科目

他の数学科目、専門科目全般

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

楠研究室(東1号館1階111)・kusunoki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

土曜1～2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 線形代数ガイダンス

第2回 行列とベクトル

第3回 行列の演算

第4回 行列と連立一次方程式

第5回 行基本変形

第6回 階段行列と掃き出し法

第7回 行列の階数

第8回 行列の基本変形を用いた連立一次方程式の解法

第9回 単位行列と逆行列

第10回 逆行列を用いた連立一次方程式の解法

第11回 行列式とサラスの方法

第12回 余因子行列

第13回 余因子展開

第14回 行列式の性質

第15回 クラームルの公式

定期試験

科目名：線形代数学			
英文名：Linear Algebra			
担当者： <small>ミヤシタ ナオユキ</small> 宮下 尚之			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

線形代数学は、微分積分学とともに、問題を表現し、整理し、理解し、解決する時に利用できる重要な理論であり、理工学は言うに及ばず、経済学などの広範な分野でも用いられている。とりわけ、通信・システム・情報工学、制御工学、ロボット工学、シミュレーション工学、医工学などに関連する基礎分野では、線形代数学が必要不可欠な理論的基礎となっている。線形代数学には深淵な学術的な側面もあるが、本講義では将来、学生諸君の役に立つ「実学として使える線形代数」の「知識(概念)」と「技術」を教える。最初に行列の概念と基礎演算を学ぶ。前半は行列を用いた連立1次方程式の解法や、行列式、逆行列、など行列演算の為の基礎を、後半は線形空間や、固有値と固有ベクトル、行列の対角化など線形代数学の基本事項について講述する。講義は具体例を挙げながら進める。また、講義中に3-6名のチームを作って講義内で出す課題に取り組んでもらう(簡易アクティブラーニング)。

■学習・教育目標および到達目標

連立1次方程式の解法、行列式の計算、固有値問題等を学習することを通して、線形代数学の基本となるベクトルや行列の「有用性」と「概念」を理解するとともに、それらの基本的計算「技術」を修得する。具体的には、教科書に取り上げられている練習問題程度を確実に解く力を身につけることを目標とする。これによりディプロマポリシー2にある論理的思考の育成を目指します。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験に関しては、UNIPAにて要点と略解を掲載する。
講義中アクティブラーニングで実施する課題に関しては、講義中に解説する。

■教科書

[ISBN]9784320016606『やさしく学べる線形代数』(石村 園子, 共立出版: 2000)

■参考文献

[ISBN]9784563002169『入門線形代数』(三宅 敏恒, 培風館: 1991)
[ISBN]9784339061093『理工系 基礎数学演習』(山口公平ほか, コロナ社: 2015)

■関連科目

基礎数学、数学

■成績評価方法および基準

定期試験 80%
講義中アクティブラーニングで実施する課題への取り組み 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

宮下研究室(東1号館2-217) miya@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

前期は水曜4限、後期は木曜3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

毎回、復習と次回の予習をサポートするサポート課題をUNIPAにてpdfもしくはdocファイル形式で配布する。
主に、このサポート課題と教科書で予習・復習をおこなって下さい。

- 予習内容 : サポート課題と教科書などを用いて実施すること
- 復習内容 : サポート課題と教科書・参考書などを用いて実施すること

第1回 ガイダンスと行列の基礎

- 予習内容 : 2次元ベクトルについての復習を十分にしておく。行列の基礎・行列の和差の予習(教科書p.7まで読む)、行列について調べてくる。
- 復習内容 : 行列の基礎・行列の和差についてノートの復習をする・サポート課題、教科書p.7までの問題を解く。プレゼンテーションと黒板を使って、行列の概念や目的に関する講義を行う。

第2回 行列の基本演算

予習内容 : 行列の積・ 2×2 行列の逆行列の予習 (教科書p.17まで)
復習内容 : 行列の積・様々な行列についての復習を教科書とサポート課題に沿って行う
行列の演算の基礎と、様々な行列の紹介を行う。

第3回 基本変形と連立1次方程式の解法

予習内容 : 行基本変形の予習 (教科書p.25まで)
復習内容 : 行基本変形の復習を教科書とサポート課題に沿って行う。
行基本変形の基礎を講義する。

第4回 行列の階数と連立1次方程式

予習内容 : 連立1次方程式の行列を使った解き方の予習 (教科書p.39まで)
復習内容 : 連立1次方程式を行列を使って解く練習を教科書とサポート課題に沿って行う
連立1次方程式の解と行列の回数について講義する。

第5回 掃き出し法による逆行列の求め方

予習内容 : 行基本変形を用いた逆行列の求め方 (教科書p.44まで)
復習内容 : 掃き出し法を用いて逆行列を求める練習を教科書とサポート課題に沿って行う
行基本変形を用いて逆行列を求めることができる。その方法の講義をする。

第6回 行列式の定義

予習内容 : 行列式の基礎知識 (教科書p.47まで)
復習内容 : 行列式の定義を用いて値を求める練習を教科書とサポート課題に沿って行う
行列式の基本的について講義する。行列式の定義からサラスの公式までを講義する。

第7回 行列式の性質と余因子展開

予習内容 : 余因子と余因子展開 (教科書p.65まで)
復習内容 : 余因子と余因子展開で逆行列を求める練習を教科書とサポート課題に沿って行う
行列式の7つの性質と余因子展開について講義する。

第8回 行列式を用いた逆行列の求め方、連立1次方程式の解法 (クラメールの公式)

予習内容 : 余因子行列を用いた逆行列の求め方とクラメールの公式の予習 (教科書p.74まで)
復習内容 : 余因子行列を用いた逆行列の求め方とクラメールの公式を使う練習を教科書とサポート課題に沿って行う
余因子行列を用いた逆行列の求め方と、クラメールの公式について講義する。

第9回 空間ベクトル

予習内容 : ベクトルの復習と内積の予習 (教科書p.87まで)
復習内容 : ベクトルと内積の復習を教科書とサポート課題に沿って行う
ここでは多次元ベクトルのベクトル演算 (内積など) についての講義を行う。

第10回 線形空間の定義

予習内容 : 線形空間の一次結合について予習しておく (教科書p.92まで)
復習内容 : 部分空間と一次結合についての復習を教科書とサポート課題で行う
抽象的であるが線形空間に関する講義を行う。特に一次結合の理解を深める。

第11回 線形独立と線形従属

予習内容 : 一次独立・一次従属・基底について予習する (教科書p.120まで)
復習内容 : 一次独立・一次従属・基底について教科書とサポート課題で復習する
一次独立、一次従属の定義と空間的な意味合いについて講義する。

第12回 内積空間

予習内容 : 内積と外積の予習をする (教科書p.124まで)
復習内容 : 内積と外積の復習を教科書とサポート課題に沿って行う
内積空間と、内積と外積についての講義をする。

第13回 正規直交基底

予習内容 : グラム・シュミットの直交化法の手順を予習する (教科書p.129まで)
復習内容 : グラム・シュミットの直交化の練習を教科書とサポート課題に沿って行う
シュミットの正規直交化法についての講義を行う。

第14回 固有値と固有ベクトル

予習内容 : 固有値と固有ベクトルについての予習 (教科書p.138まで)
復習内容 : 固有値と固有ベクトルの復習を教科書とサポート課題で行う
固有値と固有ベクトルの意味について講義を行う。

第15回 行列の対角化

予習内容 : 対角化の予習 (教科書p.161まで)
復習内容 : 対角化の復習を教科書とサポート課題に沿って行う
幾つかの対角化法について講義する。

定期試験

毎回の講義ノートと講義中の課題、サポート課題に準ずる基礎問題と応用問題を出す。
試験範囲は1-15回全てを範囲とする。

科目名：線形代数学			
英文名：Linear Algebra			
担当者：根本 充貴 <small>ネモト ミツタカ</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

線形代数学は、微分積分学とともに、問題を表現し、整理し、理解し、解決するときに利用できる重要な理論であり、理工学は言うに及ばず、経済学等の広範な分野で用いられている。とりわけ、ライフサイエンス系の課題に取り組む、システム生命科学、人間工学科、医用工学科では、システム・情報工学、制御工学、ロボット工学、シミュレーション工学、医工学などを関連基礎分野として位置づけており、これらを理解する上で線形代数学が必要不可欠な理論的基礎となっている。本講では、ベクトル、行列と行列式、連立1次方程式、固有値と固有ベクトル、行列の対角化などの線形代数学の基本事項について講述する。

■学習・教育目標および到達目標

- ・行列の和、差、積の計算ができること。
- ・拡大係数行列の基本変形を用いて連立一次方程式を解くことができること。
- ・逆行列を用いて連立一次方程式を解くことができること。
- ・クラメルの公式を用いて連立一次方程式を解くことができること。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各回の小テスト・練習問題に関し、適宜解説をします。

■教科書

[ISBN]9784320016606『やさしく学べる線形代数』(石村 園子, 共立出版: 2000)

■参考文献

特になし

■関連科目

他の数学科目、専門科目全般

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

小テストおよび練習問題 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

根本研究室 (東1号館3階310) ・nemoto@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

前期：月曜5限, 後期：火曜4限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 線形代数ガイダンス

第2回 行列とベクトル

第3回 行列の演算

第4回 行列と連立一次方程式

第5回 行基本変形

第6回 階段行列と掃き出し法

第7回 行列の階数

第8回 行列の基本変形を用いた連立一次方程式の解法

第9回 単位行列と逆行列

第10回 逆行列を用いた連立一次方程式の解法

第11回 行列式とサラスの方法

第12回 余因子行列

第13回 余因子展開

第14回 行列式の性質

第15回 クラームルの公式

定期試験

科目名：線形代数学			
英文名：Linear Algebra			
担当者：堤 裕之 <small>ツツミ ヒロユキ</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

線形代数学は、微分積分学とともに、問題を表現し、整理し、理解し、解決するときに利用できる重要な理論であり、理工学は言うに及ばず、経営学などの広範な分野でも用いられている。とりわけ、通信・システム・情報工学、ロボット工学、シミュレーション工学、医工学などに関連する基礎分野では、線形代数学は、その基礎理論を提供する重要な役割を果たしている。特に、行列、行列式、ベクトルは、コンピュータを利用した科学技術計算の理論と方法を理解する上での不可欠な知識である。本稿では、行列と行列式、ベクトル、連立一次方程式、固有値と固有ベクトルなどの線形代数学の基本事項について講述する。

■学習・教育目標および到達目標

線形代数学の基礎知識とその有用性を理解し、行列・行列式・ベクトルの具体的な計算技術を修得する。連立一次方程式、逆行列、行列式や固有値・固有ベクトルなどの学習を通じて、教科書に取り上げられている程度の問題が確実に解ける能力を身につけることを到達目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

中間まとめレポートと期末まとめレポートは指定教科書の問題の中から出題されます。教科書には略解が載せられていますが、特に注意が必要な問題については授業内で解説します。

■教科書

[ISBN]9784320016606『やさしく学べる線形代数』(石村 園子, 共立出版: 2000)

■参考文献

特にない。

■関連科目

基礎数学、数学

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

中間まとめレポート 10%

期末まとめレポート 10%

授業内レポート 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階) : tsutsumi@ouhs.ac.jp

備考: 携帯メールからの質問は受け付けません。

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 行列

予習内容 : 教科書第1章第1節に目を通す。

予習時間 : 30分

復習内容 : 教科書第1章第1節練習問題を解く。

復習時間 : 30分

第2回 連立1次方程式の掃き出しによる解法

予習内容 : 教科書第1章第2-1, 2-2, 2-3, 2-4節に目を通す。

予習時間 : 30分

復習内容 : 教科書第1章第2-1, 2-2, 2-3, 2-4節練習問題を解く。

復習時間 : 30分

第3回 逆行列の掃き出しによる導出

予習内容 : 教科書第1章第2-5節に目を通す。
復習内容 : 教科書第1章第2-5節練習問題を解く。

第4回 行列式

予習内容 : 教科書第1章第3-1節に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第1章第3-1節練習問題を解く。
復習時間 : 30分

第5回 行列式の性質

予習内容 : 教科書第1章第3-2節に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第1章第3-2節練習問題を解く。
復習時間 : 30分

第6回 ベクトルと内積

予習内容 : 教科書第2章第1-1, 1-2節に目を通す。
復習内容 : 教科書第2章第1-1, 1-2節練習問題を解く。

第7回 線形空間

予習内容 : 教科書第2章第2節に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第2章第2節練習問題を解く。
復習時間 : 30分

第8回 内積空間

予習内容 : 教科書第2章第3-1節に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第2章第3-1節練習問題を解く。
復習時間 : 30分

第9回 正規直交基底

予習内容 : 教科書第2章第3-2節に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第2章第3-2節練習問題を解く。
復習時間 : 30分

第10回 固有値と固有ベクトル

予習内容 : 教科書第2章第3-3節に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第2章第3-3節練習問題を解く。
復習時間 : 30分

第11回 対角化

予習内容 : 教科書第2章第3-4節に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第2章第3-4節練習問題を解く。
復習時間 : 30分

第12回 直交行列による対角化

予習内容 : 教科書第2章第3-4節に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第2章第3-4節練習問題を解く。
復習時間 : 30分

第13回 対角化・直交行列による対角化の実例

予習内容 : 教科書第2章第3-4節に目を通す。
復習内容 : 教科書第2章第3-4節練習問題を解く。

第14回 2次曲線の標準形

予習内容 : 教科書第2章第3-5節に目を通す。
予習時間 : 30分
復習内容 : 教科書第2章第3-5節練習問題を解く。
復習時間 : 30分

第15回 まとめ

予習内容 : 教科書全体に目を通す。
予習時間 : 60分
復習内容 : 配布プリントの演習問題を解く。
復習時間 : 60分

定期試験

科目名： 化学実験			
英文名： Chemistry Experiments			
担当者： <small>フジサワ マサオ</small> 藤澤 雅夫			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

化学の基礎的概念を実験によって習得させ、実験の進め方・結果のまとめ方、実験のマナーを体得させることを目的とする。まず、実験を始めるに当たっての心構え、安全指針から、使用する機器；器具類の正しい名称と操作法、および薬品類の安全な取り扱い方法などを体得させる。実験の記録のとり方、レポートの書き方等を学習することによって、実験に対する考察力を育成する。実験テーマとして、定性：定量分析、無機化合物の合成と精製、有機化合物の合成、物理化学実験を行う。また、理解を深めるために複数回の小テストを行う。

■学習・教育目標および到達目標

基礎的実験テクニックだけではなく、講義では得られない問題解決能力や文献探索能力を育成する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポート最終提出期限2週間後に、「レポートの要点」をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。小テストは終了後、「試験の要点と解説」をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

テーマごとにディレクションを配布する。
近畿大学編「安全要覧」

■参考文献

[ISBN]9784759808315『化学のレポートと論文の書き方』(泉 美治, 化学同人：1999)

■関連科目

化学Ⅰ、化学Ⅱ

■成績評価方法および基準

実験レポート 70%
小テスト 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

藤澤研究室（2号館5階504号室）・fujisawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日1限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 安全教育（危険物質・有害物質の取り扱い）

予習内容： 近畿大学編「安全要覧」を熟読すること。
予習時間： 120分
復習内容： 配布したディレクションを熟読すること。
復習時間： 90分

第2回 実験器具、装置類の操作法

予習内容： 配布したディレクションの実験器具、装置類の操作法の項目を熟読すること。
予習時間： 90分
復習内容： ディレクションとビデオの内容を照らし合わせて、実例における取り扱い方を確認すること。
復習時間： 120分

第3回 定性分析（金属イオンの反応）

予習内容 : 配布したディレクションの定性分析の項目を予習すること。
予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

第4回 定量分析（中和滴定）

予習内容 : 配布したディレクションの中和滴定の項目を熟読すること。
予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

第5回 定量分析（pHメーターと緩衝液）

予習内容 : 配布したディレクションのpHメーターの項目を熟読すること。
予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

第6回 酸化還元滴定と化学的酸素要求量の測定

予習内容 : 配布したディレクションの酸化還元滴定の項目を熟読すること。
予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

第7回 塩化ナトリウムの単結晶の作成

予習内容 : 配布したディレクションにおける塩化ナトリウムの単結晶作成の項目を予習すること。
予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

第8回 ミョーバンの合成と精製

予習内容 : 配布したディレクションにおけるミョーバンの合成の項目を予習すること。
予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

第9回 玉ねぎからのケルセチンの抽出と草木染

予習内容 : 配布したディレクションにおけるケルセチンの合成の項目を予習すること。
予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

第10回 石けんの合成

予習内容 : 配布したディレクションにおける石けんの合成の項目を予習すること。
予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

第11回 香りエステルの合成

予習内容 : 配布したディレクションにおける香りエステルの合成の項目を予習すること。
予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

第12回 高分子化合物の合成（PMMA）

予習内容 : 配布したディレクションにおけるPMMAの合成の項目を予習すること。

予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

第13回 6,6-ナイロンの合成

予習内容 : 配布したディレクションにおける6,6-ナイロンの合成の項目を予習すること。
予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

第14回 常圧蒸留

予習内容 : 配布したディレクションにおける常圧蒸留の項目を予習すること。
予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

第15回 紫外可視分光光度法と線形最小二乗法

予習内容 : 配布したディレクションの紫外可視分光光度法の項目を予習すること。
予習時間 : 90分
復習内容 : 実験ノート、ディレクションと参考文献を基にレポートを作成する。
復習時間 : 120分

科目名： 化学実験			
英文名： Chemistry Experiments			
担当者： <small>タキカワ ヨシヒロ</small> 瀧川 義浩			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

化学に関わる分野は非常に広い範囲（一般化学、生物化学、物理化学等）に及ぶので、全てを扱うことは不可能であるが、できる限り多岐にわたる化学分野のテーマを取り入れる。

■学習・教育目標および到達目標

一般化学ならびに生化学の基礎を理解する。実験方法の確認、実施、後処理、実験レポート作成といった一連の流れを身につける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

要点、注意点などを授業時間でお話します。

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

適宜、授業時に紹介します。

■関連科目

化学

■成績評価方法および基準

それぞれ実験課題への取り組みと実験報告書の作製と提出 95%
その他実験に関連するレポート 5%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

生物生産工学実験室（1）（東1号館5階512号室）
takikawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

土曜日4時限目。事前にアポイントを取ってください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 安全教育（実験を行うための心構え、実験室の使い方）

第2回 安全教育（危険物質・有害物質の取り扱い）

第3回 安全教育（実験器具、試薬調整および装置類の操作方法）

第4回 容量分析 滴定（1）

第5回 容量分析 滴定（2）

第6回 容量分析 滴定（3）

第7回 容量分析 滴定（4）

第8回 抗酸化活性分析（1）

第9回 抗酸化活性分析 (2)

第10回 抗酸化活性分析 (3)

第11回 有機合成 (1)

第12回 有機合成 (2)

第13回 セッケンの合成

第14回 エステルの合成

第15回 金属イオン沈殿

科目名： 化学実験			
英文名： Chemistry Experiments			
担当者： <small>サクライ カズマサ</small> 櫻井 一正			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

化学の基礎的概念を実験によって習得させ、実験の進め方、結果のまとめ方、実験のマナーを体得させることを目的とする。実験を始めるに当たっての心構え、安全指針から、使用する機器や器具類の正しい名称と操作法、および薬品類の安全な取り扱い方法などを体得させる。実験の記録のとり方、レポートの書き方等を指導し、実験結果のまとめ方とレポート作成における留意点を理解させる。実験テーマとして、定性分析、定量分析、無機や有機化合物の合成と精製、物理化学実験を行う。

■学習・教育目標および到達目標

化学の基礎知識を実験を通して習得する。そして、実験の計画、準備、実験の実施、後処理、データ整理、レポート作成といった一連の流れを学び、実験を自分の手で実施する技術、及び、自身の行った実験や考えを他人に伝達する技術を習得する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

毎回レポートを採点したうえで、レポートに改善点やコメント等を付して返却する。

■教科書

配布プリント

■参考文献

『安全要覧』（近畿大学編）

[ISBN]9784121006240『理科系の作文技術 (中公新書 (624))』(木下 是雄, 中央公論新社 : 1981)

[ISBN]9784759808315『化学のレポートと論文の書き方』(泉 美治, 化学同人 : 1999)

■関連科目

化学 I、化学 II

■成績評価方法および基準

毎回のレポート 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

櫻井 一正（高圧力蛋白質研究センター）・sakurai@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日 3、4 限

事前にEメールでアポイントをとってください

■授業計画の項目・内容及び到達目標

各回の予習と復習について

予習内容 : 配布資料を読み、次回の実験の流れを理解したうえで実験ノートを用意しておくこと

予習時間 : 30分

復習内容 : 実験結果をまとめ、必要な知識は参考書などで補充し、レポートを作成する

復習時間 : 150分

第1回 安全教育（危険物質・有害物質の取り扱い）

第2回 実験ノート・レポート指導

第3回 実験器具、装置類の操作法

第4回 アボガドロ数の決定

第5回 ナイロン、レーヨンの合成

第6回 セッケンの合成

第7回 中和滴定

第8回 酸化還元滴定と化学的酸素要求量の測定

第9回 ミヨウバンの合成と単結晶の作製

第10回 エステルの合成

第11回 NMRによる定性分析

第12回 ショ糖の酵素反応物の定性分析

第13回 蒸留

第14回 デュマ法による分子量の決定

第15回 線形最小二乗法によるデータ処理

科目名：物理学実験			
英文名：Physics experiment			
担当者：木村 裕一・久保田 均・村田 一夫・水谷 勝己・山口 勝己			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

本実験では、各種の実験装置を用いて、力学・熱学・光学・電磁気学等の基本的物理量の測定を行うことを通して、基本的な物理法則やその測定のための実験方法を理解することを目的とする。また、科学レポートの書き方も学習する。中学理科教員の資格取得のための科目でもある。全ての講義に出席し、全てのレポートを提出することが単位取得の前提となる。

■学習・教育目標および到達目標

物理学実験では様々な装置を用いて身近な自然現象を観測し、それを支配する物理法則を実験や測定により深く理解することを目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートに対して教員がコメントを書き込むことを通して、実験内容をフィードバックする。

■教科書

各テーマごとに指導書を配付する。

■関連科目

物理学I・II

■成績評価方法および基準

レポート 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

(代表) 木村研究室 (東1号館4階410)・ukimura@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜3限目

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 実験ガイダンス

第2回 測定値と有効数字、誤差などに関する実験(1/2)

第3回 測定値と有効数字、誤差などに関する実験(2/2)

第4回 基礎電気回路（オシロスコープの使用法・低域通過フィルタの特性）(1/3)

第5回 基礎電気回路（オシロスコープの使用法・低域通過フィルタの特性）(2/3)

第6回 基礎電気回路（オシロスコープの使用法・低域通過フィルタの特性）(3/3)

第7回 重力加速度の測定(1/2)

第8回 重力加速度の測定(2/2)

第9回 光学系の特性に関する実験（結像および回折）(1/2)

第10回 光学系の特性に関する実験（結像および回折）(2/2)

第11回 電気抵抗に関する実験(1/2)

第12回 電気抵抗に関する実験(2/2)

第13回 熱の仕事等量に関する実験(1/2)

第14回 熱の仕事等量に関する実験(2/2)

第15回 レポート指導

科目名： 生命科学概論			
英文名： Introduction of Life Science			
担当者： <small>カトウ ヒロミ</small> 加藤 博己			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

生命の多面的、総合的な探求を行い、生命科学全般についての導入的な内容を学修します。本講義では、特に生命の誕生から現在に至る生き物たちの歴史を紐解くとともに、現代社会が直面する様々な課題、すなわち絶滅危惧動物の保護管理や生態系の保全、人とウイルスの戦い、生殖補助医療の背景と課題、再生医療の展望、そして科学の発展により揺らぐ倫理観などについて学び、それにより生命科学がこれからの社会にどう役に立っていくのか、科学を享受する私たちはどのような姿勢を身に着けるべきかについて考えていきます。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は本授業を履修することで

- 1) 生命の成り立ちと人類が直面する課題、特に生殖補助医療における取り組みと課題について再考し、
- 2) 野生動物と人間活動の関わり合いを理解し、課題解決に向けた取り組みについて学び、
- 3) 科学が人類に何をもちたらし、私たちがこれからどのように貢献していくのかについての理解を深める。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 1 の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートについては、翌回の授業時間に提出された受講者の考えに対する分析結果を示し共有することで、受講者は多面的な思考を身につけます。

定期試験については、試験期間終了後「試験の要点と解説」をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

必要に応じてプリント等を配布する。

■関連科目

生物学 I、II

■成績評価方法および基準

定期試験 30%

レポート 70%

■授業評価アンケート実施方法

生物理工学部実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

先端技術総合研究所教員控室 (2号館5階510) ・ kato@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日2限

事前にメールにてアポイントを取ってください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 生命とは何か 地球は巨大な実験室だ

予習内容 : 生物の定義と生物誕生の歴史について予習すること。

予習時間 : 30分

復習内容 : 生物と無生物の境界線を考察すること。

復習時間 : 30分

第2回 生物として独立できなかった小さなものたち

予習内容 : ウイルス、原核生物、真核生物に関する基礎知識を予習すること。

予習時間 : 30分

復習内容 : ミトコンドリアや葉緑体の出現過程に関する諸説の根拠を確認すること。

復習時間 : 30分

第3回 もう一つの生物 ミトコンドリア物語～母の力を生きるエネルギーに

予習内容 : ミトコンドリアの構造と機能について基礎知識を予習すること。

予習時間 : 30分
復習内容 : 生物がミトコンドリアを獲得したことによる意義を考察すること。
復習時間 : 30分

第4回 人類の起源と進化—覆される定説—

予習内容 : 人類の起源について予習すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : ミトコンドリアイブやアダムYの示す意味を理解すること。
復習時間 : 30分

第5回 「細胞死」 One for all, all for one

予習内容 : アポトーシスとネクローシスについて基礎的理解をすること。
予習時間 : 30分
復習内容 : アポトーシスのしくみを理解し、なぜアポトーシスが重要なのか確認すること。
復習時間 : 30分

第6回 人類対ウイルス 終わりなき戦いを制するのはどちらか

予習内容 : ウイルスの基本構造と生活環について基礎的理解をしておくこと。
予習時間 : 30分
復習内容 : なぜ人類はウイルスを制することができないのか考察すること。
復習時間 : 30分

第7回 ヒトの性と生殖 卵子の道のり、精子の道のり(1)

予習内容 : 有性生殖と無性生殖について予習すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 体細胞分裂と減数分裂のしくみの違いを確認すること。
復習時間 : 30分

第8回 ヒトの性と生殖 卵子の道のり、精子の道のり(2)

予習内容 : 配偶子と生殖器官形成の構造について予習すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 配偶子形成と受精について理解すること。
復習時間 : 30分

第9回 生殖補助医療 いま日本で何が起きているのか(1)

予習内容 : 少子化の背景と少子化による社会的な課題について予習すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 高齢妊娠におけるリスクを理解すること。

第10回 生殖補助医療 いま日本で何が起きているのか(2)

予習内容 : 生殖補助医療の現状について予習すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 生殖補助医療を取りまく環境と課題について考察すること。
復習時間 : 30分

第11回 老化 時間にあがなうことはできるのか

予習内容 : 加齢卵子・加齢精子(卵子の老化、精子の老化)について予習すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 配偶子の老化を防ぐためにどのような手段があるのか確認すること。
復習時間 : 30分

第12回 野生動物の保護と環境の保全 Y染色体をもたない世にも奇妙なトゲネズミ

予習内容 : 日本国内の絶滅危惧動物について予習すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 希少動物の保全に向けた取り組みについて理解すること。
復習時間 : 30分

第13回 野生動物の再生に挑む 最新の科学は絶滅に瀕する動物たちを救えるか

- 予習内容 : クローン技術やiPS細胞について予習すること。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 先端生命科学が環境保全に果たす役割について考察すること。
- 復習時間 : 30分

第14回 再生医療 我々のからだはどこまで作り変えられるのか

- 予習内容 : iPS細胞の臨床応用に向けた取り組みについて予習すること。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : iPS細胞の臨床応用に向けた課題について確認すること。
- 復習時間 : 30分

第15回 生命倫理と研究倫理 今スタート地点に立つ君たちへ

- 予習内容 : 生命倫理・研究倫理に係る報道等の情報について調べておくこと。
- 予習時間 : 30分
- 復習内容 : 生命倫理・研究倫理に係る事例についてポイントを確認すること。
- 復習時間 : 30分

定期試験

科目名： 基礎食品化学			
英文名： Food Chemistry			
担当者： <small>アマコカツミ</small> 尼子 克己			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

人間は成長し、生命を維持するために食物を摂取しなければならない。食物は体内で生命活動のエネルギー源や、種々の活動の補助因子としてはたらく。また近年、生体に必須ではないものの生理的過程に作用する食品中の成分にも注目が集まっている。しかし、こうした人間の体を構成する物質も食糧も、すべては化学物質であり、その変化も化学理論に則って起こる。この講義では食品の構成成分、構造、性質、反応などについて化学・生化学的に解説し、それをもとに調理・加工によって起こる変化を理解する。また、いくつかの食品に関わるトピックスを紹介し、現代の食環境に対する興味と問題意識を育む。

■学習・教育目標および到達目標

化学的知見をもとに、食品成分の性質、体内動態、機能が説明できるようになること。加工によって食品に起こる変化、保蔵の原理などを理解し、食品素材が安全で美味しい食品になる仕組みを説明できるようになること。自分の生活や仕事に役立てることのできる知識を修得すること。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

吉田勉 監修、早瀬文孝ら 編、白井照幸ら 著「わかりやすい食品化学」三共出版（2008）(ISBN:4782705492)

■参考文献

藤本健四郎、金子憲太郎編「健康からみた基礎食品学(改訂二版)」アイケイコーポレーション(2007)(ISBN:4874921825)
川岸舜朗、中村良 編著「新しい食品化学」三共出版（2000）(ISBN: 4782704259)

■関連科目

化学Ⅰ、化学Ⅱ、化学実験

■成績評価方法および基準

定期試験の成績 80%

講義に対する積極性・理解度（講義中、終了時等の簡易な質問等で評価）20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）または食品安全工学科東研究室・amakok@jindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 食品の機能、栄養素の分類、エネルギーの概念

第2回 炭水化物 単糖類

第3回 炭水化物 多糖類

第4回 炭水化物 繊維質

第5回 脂質の構造と反応

第6回 アミノ酸の種類とそれぞれの性質

第7回 タンパク質の構造と性質

第8回 食品に含まれる無機質・ビタミン類

第9回 食品における色と味

第10回 食品における香り、辛味、有害成分

第11回 酵素による食品の変化

第12回 酸化による食品の変化

第13回 加熱やその他の処理によって起こる食品の変化

第14回 褐変反応

第15回 食品の貯蔵

定期試験

科目名：知的財産権			
英文名：Intellectual Property			
担当者： <small>オザキ ヨシヒコ</small> 尾崎 嘉彦			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

激化する国際競争の中で、我が国は「知的財産立国」を国家戦略として掲げている。これは科学技術により創造した「知」を知的財産権として保護、活用することにより経済、社会を活性化すると共に世界をリードしようとするものである。このような背景のもと、本講は生物科学系の学生を対象に、遺伝子やタンパク質あるいは栽培作物の品種や医薬品等の生物科学系産業技術特有の知的財産権の問題について理解を深めるとともに、将来、産業界の一員として、知的財産立国を支えていく上で必要となる知的財産権に関する法律、制度、出願事務と運用等の基礎的な知識を習得し、知的財産特有の思考法・判断力を涵養することを目的に、学部基礎科目として開講する。知的財産権の中でも、特に特許について、実例を示しながら出願から登録までの流れ、権利の運用等についても学ぶ。さらに、育成者権など特許以外の知的財産権を概観し、生物系産業における知的財産権の現状について理解を深める。なお、本講義では企業などでの具体的な研究開発のプロセスを取り上げて議論を行うため、具体的な研究の手順をある程度理解していた方がより理解が深まると期待される。このため、2年次配当ではあるが、研究室に配属された3年次以降の受講が望ましい。

■学習・教育目標および到達目標

受講者はこの授業を履修することにより、生物科学系産業技術特有の知的財産権の諸問題について理解を深めるとともに、知的財産関連の制度、法律、出願事務等の基礎的な知識を習得し、知的財産権を活用する基礎的な能力と知的財産権を尊重する遵法精神を身につけます。この科目は所属する学科により関連するディプロマポリシーが異なりますので、自分の所属する学科のカリキュラム体系図等を参照してください。例えば、食品安全工学科の場合はDP2に関連します。

■試験・課題に対するフィードバック方法

いずれの課題、試験も要点の解説を行います。
小テストとレポートについては講義時間内に行います。定期試験については試験終了後ユニバーサルパスポートに掲示します。

■教科書

[ISBN]9784827112153『産業財産権標準テキスト 特許編 第8版』（発明推進協会：2013）
その他予習復習用の資料として、講義スライドのハンドアウトを配付する。

■参考文献

[ISBN]9784798044514『技術者・研究者のための特許の知識と実務 第2版』（高橋 政治, 秀和システム：2015）
[ISBN]9784061531529『できる技術者・研究者のための特許入門 元特許庁審査官の実践講座 (KS科学一般書)』（渕 真悟, 講談社：2014）

■関連科目

現代社会と法、科学技術と人間・社会

■成績評価方法および基準

定期試験 60%
小テスト（1回）20%
レポート（A4レポート用紙3枚）20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

尾崎研究室(西1号館1階153)・ozaki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

金曜3限
その他、随時（事前にメールにてアポイントをとってください。）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 知的財産権の概観

第2回 発明と特許

第3回 特許になるための条件

第4回 特許情報の形態と意義

第5回 特許情報の調査の手法（特許情報プラットフォーム『J-PlatPat』の検索方法）

第6回 特許の出願から登録まで(1) 開発内容を特許化する場合の留意点

第7回 特許の出願から登録まで(2) 特許出願事務の実際

第8回 特許の出願から登録まで(3) 特許の審査と登録

第9回 特許の出願から登録まで(4) 特許の出願人と発明者

第10回 知的財産権に関する国際的枠組み

第11回 特許の効力と侵害への対応

第12回 技術移転と知的財産戦略

第13回 特許以外の知的財産権(1) 商標権

第14回 特許以外の知的財産権(2) 育成者権

第15回 知的財産権をめぐる国内外の動き

定期試験

科目名： Webデザイン			
英文名： Design practice for World Wide Web page			
担当者： <small>ヨシダ ヒサシ</small> 吉田 久			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

様々な情報の発信、交換、活用にインターネットは不可欠である。近畿大学ではe-learningシステムを利用した教育、主に研究のための電子ジャーナル検索ポータルあるいは学生生活を快適にする各種情報のWebによる提供などにインターネットを活用している。このような情報がどのように作成され発信されているのかを知ることは、情報を発信する者に限らず、情報を利用する者にとっても重要である。本学に学ぶ学生は、在学中にも社会人となってもその両方の立場に立つことになる。本講では、情報の整理と発信のためのビジュアルデザインについて実習によってその手法を知り、意味を考える。Web制作に必要なソフトウェアと独特の手法について、ソフトの実際操作、情報の発信シミュレーションといった実習を通して体得する。

■学習・教育目標および到達目標

情報を如何に整理し、如何にわかりやすく発信するかについては、多様な方法論が存在する。そのなかで、もっとも汎用性が高いソフトウェアの基本操作と機能を知り、オーソドックスな方法を学びつつ、将来の研究発表や成果報告に必要な技術とセンスを会得する。同時に、わかりやすい情報のデザインテクニックとグローバルに公表する技術の基礎も会得する。

■教科書

プリント、パワーポイントによる講義

■参考文献

[ISBN]9784797354430 『Webデザインの基本ルール-プロに学ぶ、一生枯れない永久不滅テクニック (Design Lab+ 1-3)』(デザインラボ編集部, ソフトバンククリエイティブ: 2009)
「情報リテラシー」制作：NTTラーニングシステムズ

■関連科目

学科専門科目として開講される 情報リテラシー、情報処理基礎 およびそれらに対応する科目。
<事務部注⇒26年度より基礎情報計の科目は各学科とも共通教養科目「情報処理基礎Ⅰ・Ⅱ」として統合されます。>

■成績評価方法および基準

課題の提出状況と内容 90%
プレゼンテーション 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階254室)

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション・ファイル管理

授業概要>授業日程・成績評価・出欠・授業目標について
共有ディレクトリの確認
ファイル管理>保存・コピー・移動・削除
HTMLでのWebページ作成体験

第2回 情報倫理

ICTにおける情報倫理：情報セキュリティの必要性・防御知識の習得
著作権：引用と違法ダウンロード刑事罰化
情報化社会の現状と対策：人的脅威と情報の価値
情報化社会の現状と対策：技術的脅威の被害と対策
セキュリティ対策：マルウェア・不正アクセス・標的型攻撃と拡張子
インターネットの仕組み
スマートフォンのセキュリティ対策

第3回 PowerPoint ①

Power Pointの概要・画面構成

基本操作：文字入力・編集・テーマ

オブジェクトの挿入と編集：画像・SmartArt・表

第4回 PowerPoint ②

オブジェクトの挿入と編集：表・図形

ハイパーリンクの挿入

共通デザインの利用：スライドマスター・ヘッダーとフッター

印刷のレイアウト

第5回 PowerPoint ③

オブジェクトの挿入と編集：グラフ

アニメーション効果：画面切り替え・アニメーション

プレゼンテーション作成手順とプレゼンター留意事項について

第6回 中間課題 ①

プレゼンテーション作成

第7回 中間課題 ②

発表

第8回 Webデザイン ①

インターネットのしくみ・Webページのしくみ

Webページ作成 実習①：HTML(基本タグ)

第9回 Webデザイン ②

Webページ作成 実習②：HTML(リンク・画像・リスト)

第10回 Webデザイン ③

Webページ作成 実習③：HTML/CSS

第11回 Webデザイン ④

Webデザインの考え方

ユニバーサルデザイン・Webユーザビリティ・Webアクセシビリティ・W3C

第12回 Webデザイン ⑤

Webデザイン 実習①：情報をデザインする

第13回 Webデザイン ⑥

Webデザイン 実習②：期末課題作成

第14回 Webデザイン ⑦

Webデザイン 実習③：期末課題作成

第15回 期末課題・知識テスト

予習内容：第8回～第12回の内容を見直しておくこと。

予習時間：90分

第8回～第12回を範囲とする択一式のテストを行う。(ノートの参照可)

期末課題の提出

科目名： バイオテクノロジー技術論			
英文名： Guidance for Experience to Biotechnology			
担当者： <small>タキカワ ヨシヒロ</small> 瀧川 義浩			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

近年、農業、医薬ならびに食品といった様々な分野で活用されているバイオテクノロジーの役割は大きい。本講義では、それらを理解するために必要なバイオテクノロジーの知識（特に植物バイオテクノロジーを中心に）および技術的な内容をわかりやすく説明する。

■学習・教育目標および到達目標

バイオテクノロジーに必要な初歩的な植物組織培養技術、遺伝子工学技術ならびに微生物工学技術などの基礎知識を養う。本講義終了後の期末試験に合格すれば2単位を習得する。さらに夏期休暇中には講義で学んだ知識をもとに基本的なバイオテクノロジーの基礎技術を習得するための実習を行う（自由参加）。それを修了すれば、近畿大学先端技術総合研究所より「バイオテクノロジー 2級技能士」の認定証が授与される。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験（期末試験終了後）の要点をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

特に指定しない

■参考文献

ISBN9784782103333 高山真策「植物バイオテクノロジー」幸書房
ISBN9784540042324 大沢勝次「植物バイオテクの基礎知識」農文協

その他、適宜授業時に紹介をします。

■関連科目

植物生理学、遺伝子工学

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

生物生産工学実験室 (I) (東1号館 5階512号室)

■オフィスアワー

土曜日 4時限 事前にメールにてアポイントをとってください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 バイオテクノロジーの体系と原理（1）

第2回 バイオテクノロジーの体系と原理（2）

第3回 バイオ技術に必要な設備、機器類および培地の組成とその作製方法（1）

第4回 バイオ技術に必要な設備、機器類および培地の組成とその作製方法（2）

第5回 植物体の再生経路、植物ホルモンの種類とその作用（1）

第6回 植物体の再生経路、植物ホルモンの種類とその作用（2）

第7回 植物体の再生経路、植物ホルモンの種類とその作用（3）

第8回 植物組織培養技術（1）

第9回 植物組織培養技術（2）

第10回 植物組織培養技術（3）

第11回 遺伝子工学技術（1）

第12回 遺伝子工学技術（2）

第13回 遺伝子工学技術（3）

第14回 植物病害防除技術（1）

第15回 植物病害防除技術（2）

定期試験

科目名： ロボットメカニクス技術論			
英文名： Guidance for Experience to Robot Mechanics			
担当者： <small>ワタナベ トシアキ</small> 渡辺 俊明			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

本講義では、全学部生を対象にロボット技術の概要を平易に解説する。ロボットメカニズムを中心に、センサー技術や制御技術も含めたロボット全体の仕組みと原理を理解・把握することを目的とする。

本講義を履修した学生（希望者）を対象に、夏季休暇を利用して「ロボット夏季宿泊実習」を実施し、ロボットメカニズム、センサー、制御回路、制御ソフトの製作を体験学習することができる。

■学習・教育目標および到達目標

ロボットは、機構、センサー、自動制御、制御回路、制御ソフトなど総合的な工学・技術を必要とするものであり、その工学・技術は様々な産業機械や家電機器にも使用されている。受講者は、この授業を履修することにより、産業用ロボットを題材としてこれらの工学・技術の概要を把握し、幅広い分野の学生が「自動的に動く機械の仕組み」を理解でき、高学年で本格的なロボット工学の履修を目指している学生が「工学の重要性」と「技術の面白さ」を理解できる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

小試験や課題レポートを、講義時間中に説明によりFBする

■教科書

井上利勅・土井誠「ロボットメカニクス技術論」改訂第2版 (株)貴志

■参考文献

[ISBN]9784627913820『ロボット工学の基礎(第2版)』(川崎 晴久, 森北出版: 2012)

[ISBN]9784627944220『メカトロニクス入門 (第2版)』(土谷 武士, 森北出版: 2004)

■関連科目

ロボット制御技術論

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階254)と東1号館1階106室 FAセンター

watanabe@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ロボット工学・技術の歴史・定義・概要

第2回 ロボットの骨格と自由度

第3回 ロボットの自由度と分類

第4回 リンク機構とロボットの関節の概要

第5回 ロボットの関節とその構造

第6回 ロボットの駆動源とモータ

第7回 力の変換と減速機

第8回 回転/直動変換、関節の構成

第9回 ロボット感覚機能と関節角度センサーの構造

第10回 力覚センサ

第11回 視覚認識と信号伝達

第12回 ロボットコントローラの働きと数値制御

第13回 サーボ機構とデジタル回路

第14回 ロボット軌道生成と運動学

第15回 ロボットへの命令・ロボット言語

定期試験

科目名： ロボット制御技術論			
英文名： Guidance for Experience of Robot Controls			
担当者： ^{クボタ ヒトシ} 久保田 均			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

ロボットの初めて学習する受講者を対象にして、制御技術・ロボットプログラミング・画像処理技術等を解りやすく解説する。また、最近話題の機械学習の題材も紹介する。

[授業概要]

- ①ロボットの制御方法の基礎的解説。
- ②ロボットプログラミングの基礎的解説
- ③画像処理技術の基礎的解説。
- ④機械学習の紹介。

[授業方法]

- ①できる限り演習を主体にし、自ら考え、学ぶようにする。
- ②題材として、紙ロボットの製作、ライントレーサを使ったプログラムづくりを学ぶ。
- ③画像処理、機械学習に関しては「顔認識への応用」等を紹介する。

■学習・教育目標および到達目標

本講義を通じて、ロボットの制御技術・ロボットプログラミング、画像処理の基礎が理解できると共に、マイコンを利用した機器の仕組みが理解できる。また、最近話題の機械学習についても興味をもてるようになる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

講義中、重要な事柄はその都度いいます。

■教科書

久保田 均「ロボット工学ABC」(株) 貴志

■参考文献

なし。

■関連科目

ロボットメカニクス技術論

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

授業中の演習 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)・kubota@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜日 4時限。事前にメールをすること。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ロボットの歴史と現状

復習内容 : 教科書の復習

第2回 紙ロボット製作によるロボットの動かし方 (PTP制御)

復習内容 : 教科書の復習

第3回 紙ロボット製作によるロボットの動かし方 (CP制御)

復習内容 : 教科書の復習とレポート作成

第4回 シミュレーションによるサーボコントロールの基礎

復習内容 : 教科書の復習

第5回 シミュレーションによるサーボコントロールの基礎

復習内容 : 教科書の復習

第6回 シミュレーションによるサーボコントロールの基礎

復習内容 : 教科書の復習

第7回 ロボットプログラミング

復習内容 : 教科書の復習

第8回 ロボットプログラミング

復習内容 : 教科書の復習

第9回 ロボットプログラミング

復習内容 : 教科書の復習とレポート作成

第10回 ロボットの制御回路

復習内容 : 教科書の復習

第11回 ロボットのモータ

復習内容 : 教科書の復習

第12回 ロボットの視覚

復習内容 : 教科書の復習

第13回 ロボットの視覚

復習内容 : 教科書の復習

第14回 ロボットと機械学習

復習内容 : 教科書の復習

第15回 ロボットと機械学習

復習内容 : 教科書の復習

定期試験

科目名： 自主演習			
英文名： Autonomous seminar for the biology-oriented science and technology			
担当者： <small>セイブツリコウガクブゼンキョウイン</small> 生物理工学部全教員			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 通年	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

自主演習は、学生が生物理工学部の教育・研究理念に沿った課題を自主的に提案し、その解決に向けて大学生としての主体性を持った創造的な活動を、単独またはグループで行う演習科目です。自主演習は2年生以上の学生が履修でき、個人または数人のグループが指導教員のもとで行います。履修に先立って、履修希望者は自主演習計画書を大学に提出する必要があります。その内容等をもとに最も適任と思われる指導教員が選任されます。履修希望者は指導教員との間で課題の妥当性や解決に向けた活動計画を練り上げ、綿密な打ち合わせのもとに演習を遂行していきます。なお、演習課題は生物理工学と関連をもったものであればよく、他の授業等に差し障りがなければBOST工房にある作業台、工具等のほか、キャンパス内の設備を利用することができます。

■学習・教育目標および到達目標

学生個人または小規模なグループで、自らが課題を設け、解決に向けた計画を立てる。
自ら立案した遂行計画を成し遂げることができる。
個人、グループにかかわらずコミュニケーション力、交渉力の必要性を経験的に理解する。

■教科書

特になし。

■参考文献

特になし。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

プレゼンテーション 25%
目的の達成度・最終報告書 35%
設定課題に対する計画書・調査等報告書 15%
取り組みとして演習日誌への記録の充実度 25%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

(代表) 吉田研究室 (東1号館4階418) ・ yoshida@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

本演習指導教員のオフィスアワー

■授業計画の項目・内容及び到達目標

本授業は前もって提出された計画書に基づき、その達成に至る手順を指導教員と綿密に打ち合わせてから作業に取り組む必要があります。演習の授業回数に決まりはありませんが、延べ30時間以上の演習と15時間以上の授業時間外学習が必要です。

人間工学科

1. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人間工学科は、21世紀の福祉・ユニバーサル社会の構築に寄与できる人材として、人間生活の快適性、健康に結びつくプロダクツ(生産品)から医療・福祉に 関連する生活支援機器まで、人間生活の質(QOL)の向上を目的とした生活・福祉関連プロダクツのデザイン分野で貢献する技術者や技術コーディネーター及び研究者の養成を目的に、人間科学を基盤とする生活科学とモノづくりについて分野横断的に学ぶカリキュラムを提供します。また、社会奉仕実習、インターンシップ、キャリアデザイン、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。

1. 入学後の基礎学力の向上を図るため専門教育の基盤となる数学や物理学を分かりやすく理解するための基礎教育プログラムを提供します。
2. 「専門教育科目」においては、少子高齢化が進む中、福祉・ユニバーサル社会構築に欠かすことができない人材を育成するという社会のニーズに対応するため、教養に裏打ちされた専門性を高める教育プログラムを提供します。特に、機械科学、人間科学、住環境科学、ユニバーサルデザインの各科目群を学習することで、人間工学と環境デザインを融合させ実践できる専門力を育成します。
3. さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するため、幾つかの専門科目では外国語の書籍や文献を使用することにより国際スタンダード教育に対応した教育内容を展開します。
4. 当学部の目指す生物と工学に立脚した学際領域指向の教育を進めるため、「感性デザイン」や「スポーツダイナミクス」など学科の枠を超えた学際領域選択科目を設け、学生の学際領域指向の研究を後押しします。
5. 「生命科学指向」、「人間科学指向」を強化したライフサイエンス系学部としての教育を目指す学部理念のもと、高齢化社会における人間科学、医療・福祉、環境科学の分野での課題を解決できる人材の育成を目指した「教養教育科目」と「専門教育科目」を提供します。
6. 関西圏の企業等との連携のもとに産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。
7. 本学科の学生が、卒業後も専門知識や経験を生かし、幅広い分野で活躍できるよう、「中学校教諭一種免許(数学)」、「高等学校教諭一種免許(数学)」が取得できる「教職課程」を設けています。さらに、他学科の情報を提供できる体制により学科横断的な取り組みを展開します。
8. 社会奉仕実習、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。

2. 本学科の教育と研究の方針

人間工学科の分野横断的なカリキュラムの特徴から、学修は心理学など人間科学からものづくりに関する機械工学まで、広範囲に及びます。これらを総合的に学ぶために、自らが学ぶという積極的な姿勢で学修に臨んでください。学生の主体性を尊重して幅広い知識を学修することが可能なように、講義科目の多くを選択科目としています。

1) 1 年次の学び

導入教育用概論科目として、人間科学系列では「人間医工学概論」、機械科学系列では「暮らしの力学」、住環境科学系列では「住環境科学概論」、ユニバーサルデザイン系列では「ユニバーサルデザイン概論」を学修します。初級学年における専門導入教育をきめ細かく受講することで、学際的な学科教育の指針および勉学の動機づけを得ることができます。

2) 2 年次の学び

1 年次の導入科目の内容を展開させて、より高度な専門教育を行います。人間科学系列では「生理学」と「カラーコーディネーションの心理学」、機械科学系列では「材料力学Ⅰ、Ⅱ」と「熱力学」、住環境科学系列では「伝熱学」、ユニバーサルデザイン系列では「福祉情報デザイン」と「人間工学」を学ぶことができます。それぞれの講義内容は、「ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅰ、Ⅱ」、「造形デザイン実習」、「人間工学実験Ⅰ」といった実技科目で理解を深化することができます。

3) 3 年次の学び

これまでの専門科目の内容を統合した講義・演習として「ユニバーサルデザイン」、「福祉機器デザイン」、「生活支援ロボット」、「温熱環境学」、「ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅲ」、「3次元CADプロダクトデザイン」を配置するとともに、研究室配属となった学生を対象とした「人間工学演習Ⅰ、Ⅱ」により、ユニバーサルデザインのための統合的な学修に取り組みます。後期には「システムデザインと倫理」を必修科目として配置し、ユニバーサルデザインに関わる人間生活機器プロデューサーにとっての技術者倫理について学修します。

4) 4 年次の学び

1 年次から 3 年次までに修得した専門基礎学力に基づいて、卒業研究を行います。各研究室で実施される卒業研究を通じて、能動的発想力、問題解決能力を養成します。

3 . ディプロマポリシー (学位授与の方針)

人間工学科は、人間科学の知見をものづくりに反映でき、これに加えて人間と機器を取り巻く空間を環境デザインの観点でとらえることができ、人間生活の質の向上に資する研究者・技術者の養成を目指しています。これらの趣旨のもとに開講された科目を履修して、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。

1. 関心・意欲・態度

- 1) 機械デザイン、スポーツ・バイオメカニクス、人間支援ロボット及び人間環境工学の重要性を認識し、これらの分野が抱える技術課題を発掘し対策しようとする姿勢を有していること。
- 2) 社会の要請に強い関心を持ち、自らが社会を支えて行こうとする強い意欲を持っていること。

2. 思考・判断

- 1) ユニバーサルデザインを先導する技術者として正しい倫理観を持って責任ある行動をし得ること。
- 2) 地球的視点から多面的に物事を考える能力を身につけること。

3. 技能・表現

- 1) 技術課題を解決する手法としての観察・実験の技術、実体構築のための設計製図技術、分析効率化のためのコンピュータシミュレーション技術を利用する能力を身につけていること。
- 2) 人間生活のための機械システムや生活環境が人間及び社会に及ぼす多様な影響を分析することができること。

4. 知識・理解

- 1) 人間工学の基盤技術を理解し、機械工学を融合したユニバーサルデザイン的设计思想と創造力を身につけていること。
- 2) モノづくりの基礎知識を持ち、問題解決のために応用する能力を身につけていること。

人間工学科

カリキュラム一覧 518

学科基礎科目群

情報処理応用 525
応用解析学Ⅰ 528
応用解析学Ⅱ 530
確率統計 532
心理統計学 535
システムデザインと倫理 537
シミュレーション工学 540

人間科学科目群

人間医工学概論 541
生体機能・解剖学 544
生理学 547
カラーコーディネート・心理学 549
環境心理学 551
医用生体工学 553
スポーツ科学 555
スポーツダイナミクス 557
感性デザイン 559

機械科学科目群

暮らしの力学 561
材料力学Ⅰ 567
材料力学Ⅱ 570
熱力学 573
生体計測学 576
流れ学 578
材料機能学 580
生活支援ロボット 582

住環境科学科目群

住環境科学概論 586
プロダクトデザイン 588
スケッチと製図 590
伝熱学 592
温熱環境学 594
振動と音響の科学 596

ユニバーサルデザイン科目群

ユニバーサルデザイン概論 598
福祉情報デザイン 600
人間工学 603
建築と照明 606
福祉機器デザイン 608
ユニバーサルデザイン 611

実験・実習・演習科目群

ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅰ 613
ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅱ 615
ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅲ 617
3次元CADプロダクトデザイン 619
造形デザイン実習 621
専門ゼミ 623
人間工学実験Ⅰ 625
人間工学実験Ⅱ 627
人間工学演習Ⅰ 629
人間工学演習Ⅱ 630
人間工学講究 631
卒業研究 632

人間工学科

授業科目		配当年次	単位数		担当教員
			必修	選択	
学科基礎科目群	情報処理応用	2(後期)		2	楠 正暢
	応用解析学Ⅰ	2(前期)		2	西垣 勉
	応用解析学Ⅱ	2(後期)		2	楠 正暢
	確率統計	3(前期)		2	北山 一郎
	心理統計学	3(後期)		2	片山 一郎
	システムデザインと倫理	3(後期)	2		北山・楠・中川・山田・藤井
	シミュレーション工学	3(後期)		2	楠 正暢
人間科学科目群	人間医工学概論	1(前期)		2	谷本 道哉
	生体機能・解剖学	1(後期)		2	谷本 道哉
	生理学	2(前期)		2	谷本 道哉
	カラーコーディネーションの心理学	2(後期)		2	片山 一郎
	環境心理学	3(前期)		2	山田 崇史
	医用生体工学	3(前期)		2	中川 秀夫
	スポーツ科学	3(後期)		2	谷本 道哉
	スポーツダイナミクス	4(前期)		2	谷本 道哉
	感性デザイン	4(前期)		2	片山 一郎
機械科学科目群	暮らしの力学	1(後期)	4		廣川・野田
	材料力学Ⅰ	2(前期)		4	野田 淳二
	材料力学Ⅱ	2(後期)		4	野田 淳二
	熱力学	2(前期)		2	藤井 雅雄
	生体計測学	3(前期)		2	中川 秀夫
	流れ学	3(前期)		2	大政 光史
	材料機能学	3(後期)		2	大政 光史
	生活支援ロボット	3(後期)		2	中川 秀夫
	住環境科学科目群	住環境科学概論	1(後期)		2
プロダクトデザイン		1(前期)	2		藤田・山田
スケッチと製図		1(後期)	2		山田 崇史
伝熱学		2(後期)		2	藤田 浩司
温熱環境学		3(前期)		2	藤田 浩司
振動と音響の科学		3(後期)		2	西垣 勉
デザイン科目群		ユニバーサルデザイン概論	1(前期)		2
	福祉情報デザイン	2(前期)		2	北山 一郎
	人間工学	2(後期)		2	北山 一郎
	建築と照明	3(前期)		2	片山 一郎
	福祉機器デザイン	3(後期)		2	北山 一郎
	ユニバーサルデザイン	3(後期)		2	廣川 敬康

授業科目		配当年次	単位数		担当教員
			必修	選択	
実験・実習・演習科目群	ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅰ	2(前期)	2		廣川・西垣
	ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅱ	2(後期)	2		廣川・西垣
	ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅲ	3(前期)	2		大政 光史
	3次元CADプロダクトデザイン	3(後期)	2		中川 秀夫
	造形デザイン実習	2(前期)	1		藤田・山田・青柳・播摩
	専門ゼミ	2(後期)	1		全 教 員
	人間工学実験Ⅰ	2(後期)	2		中川・片山・谷本・藤田・野田
	人間工学実験Ⅱ	3(前期)	2		北山・楠・片山・谷本・野田
	人間工学演習Ⅰ	3(前期)	1		全 教 員
	人間工学演習Ⅱ	3(後期)	1		全 教 員
	人間工学講究	4(前期)	2		全 教 員
	卒業研究	4(通年)	6		全 教 員

※配当年次と開講期が異なる科目がありますので、シラバス・時間割等で確認してください。

カリキュラム対照表(人間工学科)

平成22～25年度カリキュラム				平成29年度開講科目名				担当教員	開講学科	
授業科目	配当年次	単位数		授業科目	開講年次	単位数				
		必修	選択			必修	選択			
学科 基礎 科目	暮らしの力学	1(後期)		4	暮らしの力学	1(後期)		4	廣川・野田	人間環境デザイン工学科
	生体の力学Ⅰ	2(前期)		4	材料力学Ⅰ	2(前期)		4	野田 淳二	人間工学科
	生体の力学Ⅱ	2(後期)		4	材料力学Ⅱ	2(後期)		4	野田 淳二	人間工学科
	応用解析学Ⅰ	2(前期)		2	応用解析学Ⅰ	2(前期)		2	西垣 勉	人間工学科
	応用解析学Ⅱ	2(後期)		2	応用解析学Ⅱ	2(後期)		2	楠 正暢	人間工学科
	確率統計	3(前期)		2	確率統計	3(前期)		2	北山 一郎	人間工学科
	心理統計学	3(後期)		2	心理統計学	3(後期)		2	片山 一郎	人間工学科
	システムデザインと倫理	3(後期)	2		システムデザインと倫理	3(後期)	2		北山・楠・中川 山田・藤井	人間工学科
人間 科学	基礎医学総論	1(前期)		2	人間医工学概論	1(前期)		2	谷本 道哉	人間環境デザイン工学科
	生体機能・解剖学	1(後期)		2	生体機能・解剖学	1(後期)		2	谷本 道哉	人間環境デザイン工学科
	生理学	2(前期)		2	生理学	2(前期)		2	谷本 道哉	人間工学科
	人間工学	2(後期)		2	人間工学	2(後期)		2	北山 一郎	人間工学科
	ユニバーサルデザイン	3(後期)		2	ユニバーサルデザイン	3(後期)		2	廣川 敬康	人間工学科
	感性デザイン	4(前期)		2	感性デザイン	4(前期)		2	片山 一郎	人間工学科
	色彩と審美デザインの心理学	2(後期)		2	カラーコーディネーションの心理学	2(後期)		2	片山 一郎	人間工学科
	高齢者心理学	3(前期)		2	環境心理学	3(後期)		2	山田 崇史	人間工学科
医療・ 福祉 工学	ユニバーサルデザイン概論	1(前期)		2	ユニバーサルデザイン概論	1(前期)		2	北山・廣川	人間環境デザイン工学科
	福祉情報デザイン	2(前期)		2	福祉情報デザイン	2(前期)		2	北山 一郎	人間工学科
	リハビリ・運動機能学	2(後期)		2	※				—	
	福祉機器デザイン	3(前期)		2	福祉機器デザイン	3(後期)		2	北山 一郎	人間工学科
	医用生体工学	3(後期)		2	医用生体工学	3(前期)		2	中川 秀夫	人間工学科
	生体計測学	3(前期)		2	生体計測学	3(前期)		2	中川 秀夫	人間工学科
	生活支援ロボット	3(後期)		2	生活支援ロボット	3(後期)		2	中川 秀夫	人間工学科
	スポーツ科学概論	3(後期)		2	スポーツ科学	3(後期)		2	谷本 道哉	人間工学科
	スポーツダイナミクス	4(前期)		2	スポーツダイナミクス	4(前期)		2	谷本 道哉	人間工学科
環境 科学	生活環境と快適性	1(前期)		2	住環境科学概論	1(後期)		2	藤田 浩司	人間環境デザイン工学科
	環境とエネルギーの科学	2(前期)		2	熱力学	2(前期)		2	藤井 雅雄	人間工学科
	生活熱科学	2(後期)		2	伝熱学	2(後期)		2	藤田 浩司	人間工学科
	温熱環境学	3(前期)		2	温熱環境学	3(前期)		2	藤田 浩司	人間工学科

○平成29年度の開講時期については時間割を確認してください。

平成22～25年度カリキュラム				平成29年度開講科目名				担当教員	開講学科	
授業科目	配当年次	単位数		授業科目	開講年次	単位数				
		必修	選択			必修	選択			
環境科学	循環と流れ学	3(前期)		2	流れ学	3(前期)		2	大政 光史	人間工学科
	振動と音響の科学	3(後期)		2	振動と音響の科学	3(後期)		2	西垣 勉	人間工学科
	材料機能学	3(前期)		2	材料機能学	3(後期)		2	大政 光史	人間工学科
プロダクトデザイン	インダストリアルデザイン	1(前期)	2		プロダクトデザイン	1(前期)	2		藤田・山田	人間環境デザイン工学科
	図学とスケッチ	1(後期)	2		スケッチと製図	1(後期)	2		山田 崇史	人間環境デザイン工学科
	ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅰ	2(前期)	2		ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅰ	2(前期)	2		廣川・西垣	人間工学科
	ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅱ	2(後期)	2		ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅱ	2(後期)	2		廣川・西垣	人間工学科
	ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅲ	3(前期)	2		ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅲ	3(前・後期)	2		大政 光史	人間工学科
3次元CADプロダクトデザイン	3(後期)	2		3次元CADプロダクトデザイン	3(前・後期)	2		中川 秀夫	人間工学科	
デザインプラクティス	情報リテラシー	1(前期)	1		情報処理基礎Ⅰ	1(前期)	1		大政 光史	共通教養科目
	情報処理基礎	1(後期)		1	情報処理基礎Ⅱ	1(後期)	1		大政 光史	共通教養科目
	情報処理応用	2(前期)		2	情報処理応用	2(後期)		2	楠 正暢	人間工学科
	シミュレーション工学	3(後期)		2	シミュレーション工学	3(後期)		2	楠 正暢	人間工学科
	造形デザイン実習	2(前期)	1		造形デザイン実習	2(前期)	1		藤田・山田・青柳・播摩	人間工学科
	専門ゼミ	2(後期)	1		専門ゼミ	2(後期)	1		全教員	人間工学科
	人間工学実験Ⅰ	2(後期)	2		人間工学実験Ⅰ	2(後期)	2		中川・片山・谷本 藤田・野田	人間工学科
	人間工学実験Ⅱ	3(前期)	2		人間工学実験Ⅱ	3(前期)	2		北山・楠・片山 谷本・野田	人間工学科
	人間工学演習Ⅰ	3(前期)	1		人間工学演習Ⅰ	3(前期)	1		全教員	人間工学科
	人間工学演習Ⅱ	3(後期)	1		人間工学演習Ⅱ	3(後期)	1		全教員	人間工学科
	人間工学講究	4(前期)	2		人間工学講究	4(前期)	2		全教員	人間工学科
	卒業研究	4(通年)	6		卒業研究	4(通年)	6		全教員	人間工学科

講 義 要 項

科目名：情報処理応用			
英文名：Application in Information Processing			
担当者： <small>クスノキ マサノブ</small> 楠 正暢			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

我々は多くの場面でコンピュータを活用している。1つのデバイス（ハードウェア）でありながら、目的に応じて様々な用途に対応できるのは、いうまでもなくソフトウェア（アプリケーション）がその役割を担っているからである。コンピュータが生活に浸透した今日では、ソフトウェアの種類も数えきれないほどあり、たいいていの場合、市販（フリーウェアや組込みソフトを含む）のソフトウェアを活用することでその用は足りている。一方、エンジニアが、「新しいものを作り出す」、「新しい知見を得る」という立場で、実験、開発、研究などの活動を行う場合、既存のソフトウェアの利用だけでは十分ではなく、その目的に応じ、独自のプログラムを作らねばならない場面に遭遇する。また、コンピュータを使って、データを適切に取り扱うことができる能力もエンジニアは備えていなければならない。本科目では、セメスターの前半に、データの扱い方、処理の仕方を、一般的な表計算ソフトを用いて行う。セメスターの後半には、プログラミング言語としてc++を例に、プログラミングの基礎を身につける。

■学習・教育目標および到達目標

- ・一般的な表計算ソフトを用いて、データの扱い、処理ができること。
 - ・表計算ソフトを用いて統計的にデータの分析ができること。
 - ・プログラミング言語としてc++を用い、基礎的なプログラミングができること。
- この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 3の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各回のレポートに関し、課題に対する解説をします。

■教科書

資料を配付

■参考文献

特になし

■関連科目

線形代数学、微分積分学、確率統計、情報処理基礎 I、II、シミュレーション工学、人間工学実験 I、II実習、卒業研究など

■成績評価方法および基準

レポート（全15回）100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

楠研究室(東1号館1階111)・kusunoki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

土曜 1～2 限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 情報処理応用ガイダンス

第2回 実験、研究における表計算ソフトの活用

第3回 表計算ソフトにおける関数(前半)

第4回 表計算ソフトにおける関数(後半)

第5回 実験データの処理(前半)

- 第6回 実験データの処理(後半)
- 第7回 誤差、フィッティング
- 第8回 基本統計量と関数 (平均値、最頻値、中央値)
- 第9回 基本統計量と関数 (分散、標準偏差)
- 第10回 正規分布 (ヒストグラム)
- 第11回 正規分布 (偏差値)
- 第12回 Visual C++を用いたプログラミング
- 第13回 プロジェクト、コンパイル、ビルド、デバッグ
- 第14回 宣言、変数、型
- 第15回 入力、代入
- 第16回 演算、式
- 第17回 関数、引数 (前半)
- 第18回 関数、引数 (後半)
- 第19回 条件分岐
- 第20回 for文
- 第21回 if文
- 第22回 while文
- 第23回 配列
- 第24回 データ
- 第25回 最大値、最小値
- 第26回 並び替え
- 第27回 サブルーチン (前半)
- 第28回 サブルーチン (後半)

第29回 実用的なプログラムの例(1)

第30回 実用的なプログラムの例(2)

科目名： 応用解析学 I			
英文名： Applied Analysis 1			
担当者： <small>ニシガキ ツトム</small> 西垣 勉			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

理工学に関わる自然現象や社会現象の事象が数理モデル化されるとき、微分方程式の形で表現されることが多い。これらの現象を解明、分析するためには微分方程式の解法が必要となる。設計で必要な力学系科目においても微分方程式の理解は不可欠である。本講では、1年で学んだ微分積分学の理解を基礎として、微分方程式の概念と1階常微分方程式の解法についておもに学ぶ。同時に微分方程式による物理現象の記述と解の意味についても講述する。

■学習・教育目標および到達目標

1. 微分方程式の概念を理解し、工学的応用についての知識を習得すること。
2. 実現象をモデル化することで微分方程式を作成して正しく解き、導かれた解の意味を理解できるようになること。
3. 基本的な1階常微分方程式が解けるようになること。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業中課題については、翌回以降の授業時間に答案を返却し、要点を解説します。

試験については、試験期間終了後に試験の要点と講評をUNIVRESAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784627076716 『基礎からの微分方程式-実例でよくわかる-』(稲岡 毅, 森北出版 : 2012)

■参考文献

[ISBN]9784320019348 『徹底攻略 常微分方程式』(真貝 寿明, 共立出版 : 2010)

[ISBN]9784627074521 『工学系学生のための常微分方程式(第2版)』(小寺 忠, 森北出版株式会社 : 2006)

■関連科目

基礎数学、数学、微分積分学

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

小テスト 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

西垣研究室 (西1号館3階352) ・ nisigaki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜 5 限

事前にメールにてアポイントをとって下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 物理現象と微分・積分

第2回 微分方程式の定義と代表的な微分方程式

第3回 モデル化と微分方程式

第4回 1階線形微分方程式

第5回 微分方程式の種類

第6回 初期値問題と境界値問題

第7回 変数分離法

第8回 微分方程式の工学的応用 (1)

第9回 変数分離型への変換

第10回 積分因子法 (1) 定数係数微分方程式

第11回 積分因子法 (2) 変数係数微分方程式

第12回 非同次型微分方程式 (1) 未定係数法

第13回 非同次型微分方程式 (2) 定数変化法

第14回 完全微分形

第15回 微分方程式の工学的応用 (2)

定期試験

科目名： 応用解析学Ⅱ			
英文名： Applied Analysis 2			
担当者： <small>クスノキ マサノブ</small> 楠 正暢			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

理工学に関わる自然現象や社会現象の事象が数理モデル化されるとき、微分方程式の形で表現されることが多い。これらの現象を解明、分析するためには微分方程式の解法が必要となる。設計で必要な力学系科目においても微分方程式の理解は不可欠である。本講では特に、2階の常微分方程式、連立微分方程式の解法、偏微分の理解を基礎とした拡散方程式、波動方程式、ラプラス方程式、ポアソン方程式などの偏微分方程式の意味と解法について学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

2階の線形常微分方程式が解けるようになる。
2階の線形常微分方程式から連立微分方程式を導き、連立微分方程式が解けるようになる。
熱伝導や振動といった物理現象を表す偏微分方程式について、基本的解析法、数値解法ができるようになる。
この科目の修得は、本学科が定めるディプロマポリシー 2 の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各回のレポートに関し、課題に対する解説をします。

■教科書

[ISBN]9784627076716 『基礎からの微分方程式-実例でよくわかる-』(稲岡 毅, 森北出版 : 2012)

■参考文献

[ISBN]9784320019348 『徹底攻略 常微分方程式』(真貝 寿明, 共立出版 : 2010)

[ISBN]9784627076112 『工学系のための偏微分方程式 - 例題で学ぶ 基礎から数値解析まで』(小出 眞路, 森北出版株式会社 : 2006)

[ISBN]9784627074200 『偏微分方程式の数値解法入門』(山崎 郭滋, 森北出版 : 1993)

■関連科目

基礎数学、数学、微分積分学、線形代数学、応用解析学 I

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

小テスト (毎回) 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

楠研究室(東1号館1階111)・ kusunoki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

土曜 1～2 限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第 1 回 2階の定数係数同次線形微分方程式 (特性方程式)

第 2 回 2階の定数係数同次線形微分方程式 (初期値問題)

第 3 回 2階の定数係数非同次線形微分方程式 (基本関数)

第 4 回 2階の定数係数非同次線形微分方程式 (基本関数の重ね合わせ)

第 5 回 2階の線形微分方程式の工学的応用

第 6 回 連立微分方程式概要

第7回 連立線形同次微分方程式 (2変数)

第8回 連立線形同次微分方程式 (n変数)

第9回 連立線形微分方程式の大域理論

第10回 連立線形微分方程式の応用問題

第11回 偏微分方程式概要 (拡散方程式、振動方程式、ラプラス・ポアソン方程式)

第12回 偏微分方程式の初等解法

第13回 偏微分方程式の数値解法 (ラプラス方程式)

第14回 偏微分方程式の数値解法 (拡散方程式の陽解法)

第15回 偏微分方程式の数値解法 (拡散方程式の陰解法)

定期試験

科目名： 確率統計			
英文名： Probability and Statistics			
担当者： <small>キタヤマ イチロウ</small> 北山 一郎			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

我々は、獲得したデータをもとになんらかの意思決定を行わなければならない場面に数多く遭遇する。その際、データから定量的な数値等で示される特徴を抽出することが必要となり、そのための有効な手法が統計学である。また、統計学の基礎となる学問が確率論である。本講義では、はじめに、データの統計的な整理方法を学びながら、それらの基礎である確率変数や確率分布などの確率論の基本概念を習得する。次に、これらの概念を生かし、データからそれらの背後にあるより大きな集団（母集団）の特性値の推定や得られたデータが同じ母集団からのものかどうかなどの差を分析する検定という手法を学ぶ。さらにそれらを発展させたものとして、回帰分析などの基本概念について学修する。授業では、できるだけ多く具体的な例を取り上げ学修を進めていく。授業の理解度を評価するため、課題（ミニッツペーパー）をほぼ毎回実施する。

■学習・教育目標および到達目標

データ処理は、統計処理ソフトウェアを使用すれば比較的簡単に実施できる。本講義ではデータの属性に対応した適する処理手法が使用できるよう確率及び統計の基本概念と事例に際しての計算をしっかりと身につける。本講は、学科ディプロマポリシー 4にある“知識・理解”に係るモノづくりの基礎知識と課題解決のために必要な講義である。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に前回の課題の解説を行います。

■教科書

[ISBN]9784434211621 『4Stepエクセル統計 第4版』(柳井久江, 星雲社 : 2015)

■参考文献

[ISBN]9784785310752 『統計学入門』(稲垣 宣生, 裳華房 : 1992)

■関連科目

数学関連科目

■成績評価方法および基準

定期試験 75%

授業中課題（ミニッツペーパー, レポート）25%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

北山研究室（西1号館1階152）・kitayama@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 統計学の役割と数値データの取扱

予習内容 : 統計学の役割を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 統計学の役割を理解し、間隔尺度などの数値データの取扱を理解する。

復習時間 : 120分

統計学の役割と名義尺度などの4種類の尺度について学ぶ。

第2回 基本統計量（I）

予習内容 : 基本統計量の種類を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 平均と分散など意味を理解し、それぞれ計算ができるようにする。

復習時間 : 120分

分布の中心および広がりを表す基本統計量（平均、分散など）を学ぶ。

第3回 基本統計量（Ⅱ）

予習内容 : ヒストグラムについて調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 分布の形を表す基本統計量とヒストグラムを理解する。

復習時間 : 120分

分布の形を表す基本統計量とヒストグラムについて学修する。

第4回 基本統計量（Ⅲ）

予習内容 : ヒストグラムの元となるデータ例について調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : データをもとにヒストグラムが作成できるようになる。

復習時間 : 120分

ヒストグラムについてさらに詳しく学び、実際の事例においてヒストグラムが作成できるようになる。

第5回 確率の基礎

予習内容 : 確率変数とは何かを調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 確率の基礎を理解し確率変数の意味を理解する。

復習時間 : 120分

確率変数や確率分布など確率の基礎事項を学ぶ。

第6回 確率分布（Ⅰ）－離散型確率分布－

予習内容 : ポアソン分布について調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 代表的な離散型確率分布および正規分布の基礎を理解する。

復習時間 : 120分

ポアソン分布など離散型確率分布および正規分布の基礎を学ぶ。

第7回 確率分布（Ⅱ）－連続型確率分布－

予習内容 : 正規分布と確率の関係を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 正規分布の分散の計算や正規分布による確率の計算などが行えるようにする。

復習時間 : 120分

正規分布を深く理解し、正規分布を用いた確率の計算などが行えるようにする。

第8回 標本分布（Ⅰ）

予習内容 : 標本分布を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 標本データの意味とそれによる標本分布について理解する。

復習時間 : 120分

標本データの意味とそれによる標本分布について学ぶ。

第9回 標本分布（Ⅱ）

予習内容 : 中心極限定理を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 標本分布についてより深く理解するとともに中心極限定理を説明できるようにする。

復習時間 : 120分

標本分布についてより深く学ぶとともに中心極限定理について学ぶ。

第10回 第1種の誤りと第2種の誤り

予習内容 : 統計学における第1種の誤りと第2種の誤りについて調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 第1種の誤り、第2種の誤り、検出力（検定力）を理解する。

復習時間 : 120分

第1種の誤りと第2種の誤りとは何かについて学ぶとともに、検出力（検定力）についても学ぶ。

第11回 スチューデントのt分布

予習内容 : スチューデントのt分布とはなにかを調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : スチューデントのt分布と正規分布の違いとt分布の活用を理解する。
復習時間 : 120分
スチューデントのt分布の意味とその活用事例を学ぶ。

第12回 推定および検定

予習内容 : 検定と推定について基礎事項を調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : 検定と推定の意味と計算の流れを理解する。
復習時間 : 120分
統計的推定と統計的検定とはなにかについて学ぶ。

第13回 F分布・2群の差の検定

予習内容 : F分布を調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : F分布を理解するとともに、2群の差の検定が活用できる程度に理解を深める。
復習時間 : 120分
F分布について学ぶとともに、実際の実験場面で多く活用されている2群の差の検定について学ぶ。

第14回 分散分析・多重比較の基礎

予習内容 : 分散分析・多重比較について調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : 分散分析・多重比較についてそれらの意味を理解し、活用できるようにする。
復習時間 : 120分
分散分析および多重比較に関する基礎事項を学ぶ。

第15回 ノンパラメトリック検定・回帰分析の基礎

予習内容 : パラメトリック検定とノンパラメトリック検定を調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : ノンパラメトリック検定の意味および回帰分析の意味を理解する。
復習時間 : 120分
ノンパラメトリック検定の意味および回帰分析についての基礎事項を学ぶ。

定期試験

科目名： 心理統計学			
英文名： Statistics for Psychology			
担当者： <small>カタヤマ イチロウ</small> 片山 一郎			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

統計学は、バラツキのあるデータの性質や規則性を見出し、データの要約や解釈を行う際の根拠となる学問であり、自然科学、社会科学、医学等の幅広い分野で応用されている。心理学においても、統計学は被験者から得られたデータを分析するための理論として不可欠な学問である。本講義では、集団から抽出された統計データの特性に基づいて、集団全体の特性を推定・検定するための推測統計学について学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

- ・統計的仮説検定の考え方を理解する。
 - ・t検定により2つの平均が比較できることを理解する。
 - ・分散分析による3つ以上の平均の比較について理解する。
- この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 2 の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784623039999『よくわかる心理統計(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』(山田 剛史, ミネルヴァ書房: 2004)

■参考文献

[ISBN]9784774109299『イラスト・図解 確率・統計のしくみがわかる本—わからなかったことがよくわかる、確率・統計入門』(長谷川 勝也, 技術評論社: 2000)

■関連科目

確率統計

■成績評価方法および基準

定期試験 70%
小テスト 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

片山研究室(東1号館2階216)・katayama@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜5限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 基礎的事項の確認

第2回 尺度水準

第3回 母集団と標本

第4回 統計的仮説検定の考え方Ⅰ

第5回 統計的仮説検定の考え方Ⅱ

第6回 母分散が未知の場合の一つの平均値の検定

第7回 相関係数の検定

第8回 度数の検定Ⅰ(適合度の検定)

第9回 度数の検定Ⅱ(独立性の検定)

第10回 母平均の差の検定Ⅰ(独立な2群の場合)

第11回 母平均の差の検定Ⅱ(対応のある2群の場合)

第12回 分散分析Ⅰ

第13回 分散分析Ⅱ

第14回 分散分析Ⅲ

第15回 多重比較

定期試験

科目名： システムデザインと倫理			
英文名： System Design and Engineering Ethics			
担当者： <small>キタヤマ イチロウ クスノキ マサノブ ナカガワ ヒデオ ヤマダ タカシ フジイ マサオ</small> 北山 一郎・楠 正暢・中川 秀夫・山田 崇史・藤井 雅雄			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

本講義は、企業経験を有する教員によるオムニバス方式で進めていく。生活・福祉関連機器のユニバーサルデザインあるいは設計における企業での取り組みや技術者に必要な倫理意識について講述し、これまで学んできた個別の講義内容を総合的にとらえ、人間科学、環境科学と機器デザインとの結びつきを学ぶ。

研究活動における倫理では研究者に求められる倫理について、過去の事例や自らの実験ノートなどを題材として学修する。

福祉機器デザインの講義では、福祉機器開発現場で臨床に求められる倫理審査及び事故につながる可能性のあるヒヤリハットなどについて解説する。

住環境のデザインでは、客の要求条件を満たす一方で、さまざまな法令を順守することが求められる。住環境に関する法令、事件・事故の事例について解説し、技術者として適切な判断ができるよう基本的な知識・倫理観を身につける。

工作機械のデザインでは、設計作業はコストや性能・安全性など多方面からの検討が必要で、倫理問題はその相反する2面間のグレーゾーンで発生することを述べる。

技術者倫理では、モノづくりにおけるコンプライアンスマインドや製造物責任などを具体的な事例を通して解説し、技術者に必要な倫理意識を身につける。

■学習・教育目標および到達目標

ものづくりにおける企業での取り組みや技術者に必要な倫理意識を具体的なケーススタディで学び、卒業研究や卒業後の実社会で活かせる実践力を身につけることを目標とする。同講義は、学部ディプロマポリシー“4. 科学技術に対して高い倫理観を有していること”を醸成する講義の一つである。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポート提出時に際し、その成否に応じて、内容構成等に対して指導を行う。

■教科書

特になし。適時資料を配付します。

■参考文献

必要に応じて、講義中に紹介します。

■関連科目

人間工学科で学ぶ専門科目に関連する。

■成績評価方法および基準

授業中の課題 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

楠研究室（東1号館1階111）・ kusunoki@waka.kindai.ac.jp

山田研究室（西1号館2階254西）・ yamada@waka.kindai.ac.jp

北山研究室（西1号館1階152）・ kitayama@waka.kindai.ac.jp

中川研究室（東1号館1階102）・ nakagawa@waka.kindai.ac.jp

藤井：講師控室（2号館2階254）・ fujii@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

代表 北山 火曜3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 研究活動における倫理（1）

予習内容：過去に起こった研究活動における不正問題について調査する。

予習時間：120分

復習内容：自らの、実験、実習のノート、レポートを見直し問題のある点を確認する。

復習時間：120分

過去に起きた研究活動における不正問題 について学ぶ。

第2回 研究活動における倫理(2)

予習内容 : 自らの、実験、実習のノート、レポートを題材として正しくはどのようにすべきか修正してみる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 講義で扱う仮想的な実験に対し、実験ノート、報告書を作成してみる。

復習時間 : 120分

実験ノートの書き方を学ぶ

第3回 研究活動における倫理(3)

予習内容 : 文献等からの引用について、その方法を調査する。

予習時間 : 120分

復習内容 : 第1回～3回の総復習を行う。

復習時間 : 120分

引用に関し留意する事項を学ぶ。

第4回 福祉機器のデザイン(1)

予習内容 : 福祉機器に係る事項としてインフォームドコンセントについて調べる

予習時間 : 150分

復習内容 : 倫理に関わる重要な用語を復習する

復習時間 : 90分

倫理に関わる重要な用語について学ぶ。代表的な開発機器における技術と安全性の事例を学ぶ。

第5回 福祉機器のデザイン(2)

予習内容 : 福祉工学について調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 福祉工学とプライバシー保護を理解する。

復習時間 : 120分

福祉工学とプライバシー保護について学ぶ。また、代表的な開発機器における技術と安全性の事例を今回も学ぶ。

第6回 福祉機器のデザイン(3)

予習内容 : ヒヤリハットについて調べる

予習時間 : 120分

復習内容 : 第4回～第6回をまとめて復習する。

復習時間 : 120分

ヒヤリハット、ヒューマンエラーについて学修する。また、代表的な開発機器における技術と安全性の事例を今回も学ぶ。

第7回 住環境のデザイン(1)

予習内容 : 身の回りの住環境(住宅、建築物、都市空間)に関わる法令について調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 講義内容をまとめ、知識として生かせるようにする。

復習時間 : 120分

住環境に関する法令について解説する。

第8回 住環境のデザイン(2)

予習内容 : 住環境に関する事件・事故の事例と概要について調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 講義内容をまとめ、知識として生かせるようにする。

復習時間 : 120分

住環境に関する事件・事故の事例について解説する。

第9回 住環境のデザイン(3)

予習内容 : 住環境に関する技術者倫理について自らの意見を考えてくる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 講義内容をまとめ、知識として生かせるようにする。

復習時間 : 120分

住環境に関する法令、事件・事故の事例を通して技術者倫理について解説する。

第10回 工作機械のデザイン(1)

予習内容 : 工作機械の種類と用途、自動化 (NC化) について調査する。
予習時間 : 150分
復習内容 : 設計者が配慮すべき、性能、コストなどの因子間の相互関係図を作成する。
復習時間 : 90分

工作機業界の特質とユーザーのコストダウン要求の背景について説明する。

第11回 工作機械のデザイン(2)

予習内容 : 工作機械製品の安全対策設計の事例を調査する、
予習時間 : 90分
復習内容 : 「安全第一」であるが、それを「第二」に押しやる要因についてまとめる。
復習時間 : 150分

工作機械の高性能化、信頼性設計、安全性設計の間のトレードオフについて説明する。

第12回 工作機械のデザイン(3)

予習内容 : 工作機械製品の環境対策、省エネ設計の事例を調査する
予習時間 : 90分
復習内容 : デザイン・環境・省エネに対する考え方の変化について時代背景を加えて整理する
復習時間 : 150分

人間工学的デザイン、環境・省エネ対策、企画・法律の観点から設計作業の重要性について述べる。

第13回 コンプライアンスマインド

予習内容 : コンプライアンスマインドについて事前調査する。
予習時間 : 150分
復習内容 : 技術者の心構えを考察する。
復習時間 : 90分

玩具を開発する若い技術者が製造現場で直面する倫理問題を通してコンプライアンスマインドについて学ぶ。

第14回 チャレンジャー事故に学ぶ

予習内容 : チャレンジャー事故について事前調査する。
予習時間 : 150分
復習内容 : 組織の中での技術者の行動倫理について考察する。
復習時間 : 90分

スペースシャトル・チャレンジャー号の事故例を通して、企業組織での技術者のあり方を考える。

第15回 製造物責任

予習内容 : 製造物責任について事前調査する。
予習時間 : 150分
復習内容 : 技術者としての心構えを考察する。
復習時間 : 90分

製造物の欠陥で人の命や財産に被害が生じた場合、製造者は損害賠償を負う義務がある。
モノづくりにかかわる技術者として製造物責任の考え方を学ぶ。

科目名：シミュレーション工学			
英文名：Simulation Engineering			
担当者： <small>クスノキ マサノブ</small> 楠 正暢			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

シミュレーションは現実にかかる事象に対し、それを何らかの形で模擬することにより、そこで生じる内容や結果について分析、推定する手法である。ここで扱う事象は自然現象、科学技術、医学、スポーツ、社会現象、経済、教育、ゲームなど、あらゆるものが対象とされる。シミュレーションを用いる目的としては、一般的にその事象を模擬的に行うことにメリットがある状況、例えば、実際に行うには危険が伴う場合、発生確率が少ない場合、時間的に長くかかりすぎる（または短すぎる）場合、コストが多くかかる場合、人工的にそれを発生させることが不可能な場合などが挙げられる。シミュレーションのレベルには、ノートで計算するような手法、小規模なモデルなどを用いて試す手法、コンピュータで仮想的に行う方法などに分けられるが、近年はコンピュータ技術の発達によりこれを用いることが圧倒的に多くなっている。本講義では、エンジニアリングに必要なコンピュータシミュレーションに重点を置き、その基礎について学修する。

■学習・教育目標および到達目標

- ・問題のモデル化ができること。
 - ・コンピュータを用いて基本的なシミュレーションができること。
- この科目の修得は、本学科が定めるディプロマポリシー3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各回のレポートに関し、課題に対する解説をします。

■教科書

講義の際に資料を配布

■参考文献

指定しない

■関連科目

情報処理基礎、情報処理応用、数学、物理など

■成績評価方法および基準

レポート 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

楠研究室(東1号館1階111)・kusunoki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

土曜1～2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回. シミュレーション工学ガイダンス
- 第2回. シミュレーションの手法
- 第3回. 問題のモデル化
- 第4回. コンピュータシミュレーションと数学的モデル
- 第5回. 条件とパラメータ
- 第6回. 表計算ソフトとプログラミング
- 第7回. シミュレーション結果の表示方法
- 第8回. 物体の運動に関するシミュレーション1
- 第9回. 物体の運動に関するシミュレーション2
- 第10回. 波に関するシミュレーション
- 第11回. 構造と強度に関するシミュレーション
- 第12回. 熱伝導に関するシミュレーション
- 第13回. 流束に関するシミュレーション
- 第14回. 生態系に関するシミュレーション
- 第15回. 感染症流行に関するシミュレーション

科目名： 人間医工学概論			
英文名： Introduction to Human Medical Engineering			
担当者： <small>タニモト ミチヤ</small> 谷本 道哉			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

生活関連機器や医療・福祉機器の開発設計・デザインを行うためには、医工学の知識が必要となる。本講義では、これらの設計・デザイン手法を学ぼうとする学生に向け、人間科学の分野で議論される力学の学理や工学技術が医学や人間生活に与えた影響・効果を主題として、21世紀の人間環境デザイン工学分野における学びの方向性について概説する。そして、ヒトの構造と機能を知り、人間生活のための機器を設計・デザインするために必要な工学基礎の概要を学び、当学科の専門科目群の履修へスムーズに移行できるようにする。

■学習・教育目標および到達目標

これから人間環境デザイン工学を学ぶ学生が、学びの方向性、修得すべき知識・技術の枠組みと範囲、さらには人間生活に携わるエンジニアとしてのセンスについて考え・理解することを目標とする。

本講義を学修することで、

- ・人間環境デザイン工学に関する技術の修得に必要な各種学理の分野を指摘できるようになる。
- ・生体内における力の釣り合い、動作・運動のもとになる動力学や関節機能に関する初等理論を説明できるようになる。
- ・生体組織の力学的強度および四肢・手指等が道具・器械に作用させる荷重の大きさなどを計算し推定できるようになる。

この科目修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 1、2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業中に実施する小テストについては、終了直後に模範解答（印刷物）を配付します。

レポートについては、翌回の授業時間に採点の要点と講評をおこないます。

定期試験については、試験期間終了後に模範解答、要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]978-4-7828-8009-8『新医学概論』（森岡恭彦ほか、産業図書：2003）

適時資料を配付する。

■参考文献

[ISBN]9784946553066『メディカルエンジニアリング』（立石 哲也、米田出版：2000）

■関連科目

生体機能・解剖学、医用生体工学、人間工学、暮らしの力学

■成績評価方法および基準

定期試験 85%

レポート 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

谷本研究室（東1号館1階110）・tanimoto-wk@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

前期：月曜2～3限

後期：金曜1～2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 人間工学と医学 それぞれの役割と位置付け

復習内容： ノートに記録した授業内容と配付プリントを見直し、本授業の目的を理解すること。

復習時間： 60分

第2回 人体の特徴・機械の特徴

復習内容： 講義ノートを見直し、人体の機能と機械の機能の類似性と違いを整理し、機械の機能を生み出すメカニズムを理解すること。

復習時間： 60分

第3回 発生・成長・老化とライフサイクル

復習内容 : ライフサイクルを構成する各専門用語を調査し、各語の意味を理解すること。
復習時間 : 60分

第4回 実験科学としての医学・医工学 (1) 実験科学とは

復習内容 : 講義ノートを見直し、実験科学の実績が現代に生きる我々の生活にいかに関与してきたかを再認識すること。
そのために、科学史を記載した書籍等を調査すること。
復習時間 : 90分

第5回 実験科学としての医学・医工学 (2) 医学と医工学の関係

復習内容 : 医学と医工学の連携とその重要性をテーマに行われた授業を思い返し、人間工学や人間環境デザイン工学の分野で医工学が果たし得る役目を考え、それを講義ノートにまとめること。
復習時間 : 120分

第6回 単位と計測 (1) 定量的表現

予習内容 : 高校までに学習してきたSI基本単位と接頭辞を教科書記載の図表で確認すること。
予習時間 : 60分
復習内容 : 組立単位、SI単位以外の慣用的に使用される単位およびそれを使用する理由を教科書・講義ノートを確認して理解すること。
復習時間 : 60分

第7回 単位と計測 (2) 測定と計測

復習内容 : 有効数字の定義、誤差の伝播、和・差における有効数字の位と積・商における有効桁数が誤差の伝播に及ぼす影響を整理すること。教科書の巻末問題に解答すること。
復習時間 : 90分

第8回 生体組織と生体材料

復習内容 : 生体組織と生体材料の定義をそれぞれ整理し、特に後者について、JIS規格の用語を確認すること。
復習時間 : 60分

第9回 弾性域・塑性域 (1) 荷重と変形

予習内容 : 高校までに学習した、物体の変形4態を教科書記載の図で確認すること。
予習時間 : 30分
復習内容 : 荷重と変形に関する専門用語を整理し、今後の専門教育の内容で突然それらが表れてもとまどわないよう、正確に理解すること。また、「荷重と変形」に対する「応力とひずみ」の関係について復習すること。
復習時間 : 100分

第10回 弾性域・塑性域 (2) 変形挙動の記述

予習内容 : 前回授業で学んだ、応力、圧力、公称ひずみ、真ひずみの数学的記述を確認すること。
予習時間 : 40分
復習内容 : 垂直応力とせん断応力の定義を図示して説明できるようになること。何故「ひずみ」の概念が必要となるのか、機械設計の観点から考えること。
復習時間 : 40分

第11回 生体硬組織の変形と破損

復習内容 : 金属に見られる展延性、セラミックスに見られる脆性を整理し、骨の力学的特性はこれらとどのように違い、その理由は何かを指摘できるように復習すること。そのために、教科書・講義ノートの確認に加えて、専門図書の調査を行うこと。
復習時間 : 120分

第12回 血液と流れ

復習内容 : 液体の流動を考える時、液体(流体)の密度や流速、質量保存則、連続の式などが重要となる。これらの単位、定義式を復習すること。
復習時間 : 60分

第13回 関節の運動と自由度

復習内容 : 力の釣り合い、関節の力学的・運動学的機能を整理すること。特に、運動の自由度と運動の方向を教科書掲載図および配付プリントで確認して、3次元空間における運動の種類や方向、それを実現する自由度を感覚的にも会得すること。

復習時間 : 60分

第14回 関節における摩擦と潤滑

予習内容 : 物体相互の接触により生じる摩擦力、接触面における摩擦係数の定義を確認すること。

予習時間 : 60分

復習内容 : 摩擦を生じたり利用したりする機械要素の名称と形状を教科書・参考書で確認して理解すること。特に継手要素とヒトの運動器である関節を対比して確認し、人間支援装置の設計・開発に欠かせない知見とその重要性を理解すること。

復習時間 : 90分

第15回 医工学における設計

復習内容 : 授業で学んだ機械設計および人間工学設計とユニバーサルデザインに必要な知見が多岐にわたることを認識し、今後の専門教育の学修に向けた心構えを正しく強固に築くこと。

復習時間 : 30分

定期試験

科目名： 生体機能・解剖学			
英文名： Organized Biofunction and Anatomy			
担当者： <small>タニモト ミチヤ</small> 谷本 道哉			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

本講義では、人が生活で利用する機器に対して、力や変形および運動を与える原動力となる運動器の機能解剖を中心に、人体の構造について学習する。上級学年における専門科目の学修に必要な解剖学の初歩的知識を与えるとともに、特に力学的観点から解説する。また、人体の構造や形態が形成される過程について、バイオメカニクスの機能的適応現象の観点からも解説を加える。

■学習・教育目標および到達目標

身体の運動や動作の根拠となる、筋骨格系の機能を生活科学としての解剖学的視点から学び、生活で活用する機器の開発設計に必要な基礎知識を習得することを目標とする。

本講義を学修することで、

- ・骨格を構成する主要な骨と筋を指摘できるようになる。
- ・肩、肘、手、股、膝、足そして指の各関節の運動を定義できるようになる。
- ・指の屈曲・進展機構を説明できるようになる。
- ・脊柱の構造と機能の概要を把握し、体幹運動との関係を理解できる。
- ・股・膝関節の運動自由度を指摘し、その運動が可能となる根拠をバイオメカニクスにより説明できるようになる。
- ・身体のバランス機能について、それを維持する複数の主要器官を指摘し、器官相互の協調制御を理解できる。

この科目修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 1、4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業期間中に実施する小テストについては、終了直後に模範解答（印刷物）を配付します。

レポートについては、翌回の授業時間に採点の要点と講評をおこないます。

定期試験については、試験期間終了後に模範解答、要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

適時資料を配付する。

■参考文献

[ISBN]9784525106416 『生体機能論—デザインのための人間因子』（宮永 美知代, 南山堂：1994）

[ISBN]9784501415907 『看護・介護のための人間工学入門』（小川 鑛一, 東京電機大学出版局：2006）

■関連科目

人間医工学概論、生理学、人間工学、ユニバーサルデザイン概論、医用生体工学、生体計測学

■成績評価方法および基準

定期試験 85%

レポート 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

谷本研究室（東1号館1階110）・ tanimoto-wk@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

前期：月曜2～3限

後期：金曜1～2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 動作・運動と運動器

予習内容：前期科目「人間医工学概論」で学んだ、§運動の講義ノートを見直し、関節の自由度を確認すること。

予習時間：30分

復習内容：動作と運動の意味の違いを明確にし、それらを実現する荷重関節、非荷重関節の場所を教科書記載の図や自身の関節を動かして確認すること。

復習時間：60分

第2回 筋骨格系の解剖と機能の概要

復習内容 : 「筋骨格系」なる用語の意味を確認し、この用語が何を指すのか場合分けして整理すること。ヒトの腕の筋骨格モデルに基づく協調運動により行われる腕の伸展・屈曲のメカニズムを復習すること。

復習時間 : 60分

第3回 上肢の構造と機能

復習内容 : 上腕・前腕を構成する骨(上腕骨、橈骨、尺骨)のイラストを描き、それらが構成する肩・肘・手関節の位置と名称を暗記すること。

復習時間 : 90分

第4回 肘、手関節、手、手指

復習内容 : 特に、手、手指を構成する各種の骨の数は多く、各骨の名称も聞き慣れないと思う。教科書や解剖学アトラスを参照して、最低でも授業中に指摘された骨については、その名称と形態学的特徴を説明できるように暗記すること。

復習時間 : 90分

第5回 手指伸展機構

復習内容 : 靭帯と腱の意味上の違いをまず正しく理解し、その後、手指の屈曲・伸展機構を確認すること。自身の手をよく観察し、確認可能な靭帯に触れて、具体的な伸展・屈曲メカニズムをイメージしてみることに。

復習時間 : 40分

第6回 肘関節の構造とてこの原理

復習内容 : 筋単体が発揮できる力には限界があることを理解し、力を増倍するメカニズムが関節に仕組みられていることを確認すること。「テコの原理」を理解し、第1から第3のテコの構造的違いを正確に説明できるようになること。

復習時間 : 90分

第7回 脊椎の構造と機能

復習内容 : 授業中に回覧した頰椎と腰椎模型を思い出し、教科書や解剖学アトラスで確認しつつ、脊柱の力学的機能とそれを効果的に発揮するための工夫、中枢神経の導管としての脊柱管や後方要素の存在意義について復習すること。

復習時間 : 60分

第8回 脊椎が支持する荷重の大きさ(1) 計算モデルの構築

復習内容 : 宿題として、第5腰椎と仙骨間に作用する荷重の大きさを簡単な計算によって推定する課題を課す。課題の説明や回答のヒントをスライドによって示すので、それに従ってレポートを作成すること。計算は「暮らしの力学」で学んだ内容を駆使して行うこと。大学での学びが他の専門科目と如何に連携しているのかも認識しながら作成すること。

復習時間 : 120分

第9回 脊椎が支持する荷重の大きさ(2) 仙骨反力と体幹角度の関係

復習内容 : 第8回と同じ。この回は第8回の続きとして位置付ける。

復習時間 : 180分

第10回 脚の構造と解剖軸・力学軸

復習内容 : 立位の下脚につき、講義ノート・配布プリントを参照して、解剖軸、力学軸とそれらの位置関係(角度関係)を深く復習すること。また、距骨滑車中心など、軸が交差する点の解剖学的用語も確認し暗記すること。

復習時間 : 60分

第11回 股関節と膝関節の形態と運動自由度

復習内容 : 球関節である股関節が下脚の外・内転、外・内旋、回外、回内といった運動を可能にするメカニズムを整理すること。また、膝関節コンポーネント表面の矢状断面形状が、対数螺旋に類似していることを確認し、対数螺旋の数学的記述と幾何学的特徴について調査すること。

復習時間 : 120分

第12回 膝関節面での滑り・転がり運動

復習内容 : 膝関節の形態学的特徴の理解を深め、その滑りと転がり運動によって、大荷重を支持し、骨格の正常な運動

を可能にしている力学的メカニズムを復習すること。

復習時間 : 90分

第13回 膝屈曲における力の釣り合い

復習内容 : 膝蓋骨と膝蓋靭帯の力学的機能として、屈曲時の機械インピーダンスについて、力のベクトルとそれらの釣り合いの観点から整理すること。

第14回 足関節およびアーチ

復習内容 : 配付プリントを参照して、足の背屈・底屈運動と歩行動作の関係を確認すること。加えて、外・内側アーチ、前方アーチの力学的機能を簡単な力学モデルを使って解説できるようになるまで理解を深めること。

復習時間 : 90分

第15回 階段昇降における股・膝・足関節の動き

復習内容 : 歩行時の床反力が二峰性を示す理由を復習すること。講義ノートを見直し、歩行における立脚・遊脚相、踵接地・離地など歩行周期の定義を整理し、重心移動の特徴についても復習すること。

復習時間 : 60分

定期試験

科目名： 生理学			
英文名： Physiology			
担当者： <small>タニモト ミチヤ</small> 谷本 道哉			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

本講義では、人体について、その生命の仕組みと機能を細胞レベルから個体レベルにわたって概説する。生命活動を支える呼吸・循環・消化・吸収および運動を生じる筋-骨格系、神経制御について学ぶ。生活関連機器のユニバーサルデザインに必要な生理学として、以上の内容を理解し人間の特質を考察する。そして、人間の特質に応じたものづくりに役立つ基礎知識を集約することを目的とする。

■学習・教育目標および到達目標

人体構造の生理学的な仕組みを理解する。
また、その知見を生活関連機器等のユニバーサルデザインへ応用する能力につなげる。
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後に模範答案（印刷物）を配布します。

■教科書

[ISBN]9784808260330 『イラスト解剖生理学』（青峰 正裕, 東京教学社：2012）

■参考文献

[ISBN]9784764410619 『筋力をデザインする（運動生理学シリーズ (5)）』（吉岡 利忠, 杏林書院：2003）

■関連科目

生体機能・解剖学、人間工学、スポーツ科学、スポーツダイナミクス

■成績評価方法および基準

定期試験 80%
レポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

谷本研究室（東1号館1階110）・ tanimoto@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

前期：月曜2～3限
後期：金曜1～2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 イン트로ダクション：生体の構造と機能

第2回 エネルギー代謝の基礎

第3回 呼吸と循環1

第4回 呼吸と循環2

第5回 消化・吸収と尿排泄

第6回 神経機能（ニューロンとシナプス）

第7回 筋収縮

第8回 運動の調整

第9回 反射

第10回 運動の生理学（エネルギー代謝の詳細）

第11回 運動の生理学（運動時の体温調整・体液調整）

第12回 内分泌系

第13回 感覚機能（体性感覚、平衡感覚など）

第14回 骨の生理学

第15回 加齢の生理学

定期試験

科目名： カラーコーディネーションの心理学			
英文名： Psychology of Color Coordination			
担当者： <small>カタヤマ イチロウ</small> 片山 一郎			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

産業用機械の開発設計では機能性が強く求められるが、生活関連機器の開発設計では、機能性ととも人間生活に密着した使用環境での要求、すなわち色や光沢、美しい形態など人間の心理に左右される要因に対しても考慮が必要である。本講義では、色彩の心理・生理学的作用、色の測定と表示および色彩文化と審美について学び、生活関連機器の開発設計やデザインに必要な感性を養うことを目的とする。

■学習・教育目標および到達目標

色覚の諸現象および色彩の定量的な取り扱いについて理解し、工業デザイン、建築・環境デザイン分野で適切な色彩設計が行えるようになる。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 4 の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784901355117『色彩科学入門 —カラーコーディネーターのための』(日本色研事業：2001)

■参考文献

[ISBN]9784130820707『色彩学入門—色と感性の心理』(東京大学出版会：2009)

■関連科目

人間工学、感性デザイン

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

小テスト 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

片山研究室（東1号館2階216）・katayama@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜5限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 物理量と心理量の関係

第2回 色覚の仕組み

第3回 色覚の諸現象

第4回 光源

第5回 色の表示方法（その1）

第6回 色の表示方法（その2）

第7回 色の表示方法（その3）

第8回 色の表示方法（その4）

第9回 色の測定

第10回 混色と色再現

第11回 色彩感情と配色調和

第12回 色と文化

第13回 商品の色彩計画

第14回 インテリアの色彩計画

第15回 環境の色彩計画

定期試験

科目名：環境心理学			
英文名：Environmental Psychology			
担当者： <small>ヤマダ タカシ</small> 山田 崇史			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

ユニバーサルデザインに基づく生活環境の計画や生活関連機器の開発においては、まず利用者である人間の心理特性や行動特性を十分に理解することが重要である。人間の心理特性や行動特性を理解するには、一般健常者だけでなく心身が脆弱な高齢者の心理的特徴、認知行動特性、視覚特性も学ぶことが必要となる。本講義では、高齢者等を含む人間と環境・製品との相互作用と基本的な関係性に注目し、その関連性や最適性についての基礎を学び、使いやすい製品デザインや快適に暮らすことができる環境デザインの構築に必要な知識を修得することを目的とする。

■学習・教育目標および到達目標

1. 人が関わるさまざまな環境とその理論について理解を深める。
2. 人と環境に関する理論の意味、用語を正しく理解し、説明することができる。
3. 人と環境に関する理論を踏まえ、環境デザインを行うことができる。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 2、3の達成に關与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に課題の解説を行います。

試験終了後に試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784781911946 羽生和紀「環境心理学～人間と環境の調和のために～」サイエンス社（2008）

■参考文献

適宜授業時に紹介します。

■関連科目

ユニバーサルデザイン概論、住環境科学概論、建築と照明、カラーコーディネーションの心理学

■成績評価方法および基準

授業中の課題 30%

レポート 20%

定期試験 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

建築・都市・人の流れ研究実験室(1号館2階254西)

yamada@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜5限

事前にメールにてアポイントをとって下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 環境心理学とは何か

第2回 環境の知覚と認知

第3回 環境の評価

第4回 環境査定と環境デザイン

第5回 パーソナリティ・個人差と環境

第6回 対人・社会環境

第7回 住環境と都市環境

第8回 環境心理学の調査と分析・レポート課題について

第9回 教育環境と労働環境

第10回 自然環境の心理学

第11回 犯罪と環境

第12回 福祉と環境 (1)

第13回 福祉と環境 (2)

第14回 これからの環境デザイン (1)

第15回 これからの環境デザイン (2)

定期試験

科目名： 医用生体工学			
英文名： Medical and Biological Engineering			
担当者： <small>ナカガワ ヒデオ</small> 中川 秀夫			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

医学と理工学の共同研究によって成立する医用生体工学は、医療機器の開発や人体の力学的・電気生理学的特性などを明らかにすることに役立ってきました。医用生体工学の目的は、生体機能を正確に計測・制御する技術を確立したり、生体機能を代替する人工臓器を開発したりすることです。本講では、バイオメカニクス、バイオマテリアルと人工臓器について学び、医療機器の開発設計・デザインに必要なシステムマインドの養成を目的とします。

■学習・教育目標および到達目標

物理学、機械工学や計測・制御工学などに関する知識と技術が医療・看護技術の発展にどのように役立ち、変革させ、支えているかを概観し、工学技術の利用と開発の必要性を理解することを目標とします。

本講義を学修することで、

- ・人間工学を修めたエンジニアが知っておくべき医用工学のトピックを説明できるようになります。
- ・生体組織の弾性・粘弾性特性を構成方程式に記述して、一定の境界条件における負荷に伴うそれら組織の変形を予測できるようになります。
- ・人工臓器の設計に必要な生体材料の種類と特徴を材料工学の知見に基づいて分類し、設計規範の設定と限界について説明できるようになります。

この科目修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 1～4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

毎回の課題については、翌回の授業時間に解答例を示し、解説をおこないます。

定期試験については、試験期間終了後に模範解答を研究室前に掲示します。

■教科書

[ISBN]9784339072341 『生体機械工学入門』(橋本 成広, コロナ社 : 2013)

適時資料も配付する。

■参考文献

[ISBN]9784339070873 『生体工学概論』(村上 輝夫, コロナ社 : 2006)

[ISBN]9784320035942 『生物学と医学のための物理学 原著第4版』(Paul Davidovits, 共立出版 : 2015)

■関連科目

生理学、生体機能・解剖学、暮らしの力学、材料力学 I・II、生体計測学、材料機能学

■成績評価方法および基準

毎回の課題 60%

定期試験 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

中川研究室 (東1号館1階102)・nakagawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜 2限

事前にメールで予約して下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス、生体と機械

復習内容 : 医用工学とはどのような学問的位置づけを有し、人類の生活に対する功罪は如何なるものであったかを復習すること。

復習時間 : 40分

第2回 単位と計測

復習内容 : 教科書・講義ノートを確認して、用語と数学的記述方法を復習すること。

復習時間 : 90分

第3回 材料の変形

第4回 材料の物性・破壊

第5回 流体と個体

第6回 流れの抵抗と流速分布

第7回 定常流と非定常流

復習内容 : ニュートン流体、非ニュートン流体の区別が明確にできるように復習すること。ニュートンの粘性法則を用いて、直管（剛体）内を流れる粘性流体の挙動解析手順を復習すること。

復習時間 : 90分

第8回 物質の状態

第9回 エネルギー変換

復習内容 : 第5回「膜と物質透過」で学んだ事項を基礎にして、肺における肺胞膜によるガス交換メカニズムとそれに関わる赤血球、ヘモグロビンの役割を復習すること。

復習時間 : 60分

第10回 物質輸送

第11回 力のつり合いと運動制御

第12回 潤滑・摩耗

第13回 人工臓器

第14回 設計・加工技術

第15回 課題のまとめ、復習

復習内容 : 現在の最先端医療技術やそれを支える高度医療機器に果たす生体工学技術を思い返し、人間工学と医工学の連携必要性や工学技術者としての自身が卒後どのように社会貢献できるかについて考えること。

復習時間 : 30分

定期試験

科目名： スポーツ科学			
英文名： Sports Science			
担当者： <small>タニモト ミチヤ</small> 谷本 道哉			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

スポーツ用具の高性能化と安全性、また新規製品開発の研究をするスポーツ工学において、運動生理学や機能解剖学、基礎医学に基づいたスポーツ科学の知識は必要不可欠である。本講では、人間生活とスポーツ、健康・医療・美容のためのスポーツについて運動生理学、解剖学、スポーツ医学の観点から概説して、スポーツ工学に必要な基礎知識の修得を目的とする。また、その応用範囲はスポーツ用具のみならず生活用品や医療・福祉関係の製品にまで広げられることを目的としたい。

■学習・教育目標および到達目標

生理学・解剖学・基礎医学に基づいた身体運動の仕組みを理解する。
 運動と生活習慣病、整形外科的疾患などの疾病との関係および運動処方の方法を理解する。
 またそれらの知見をスポーツ用具のみならず、生活用品や医療・福祉関係等の製品開発へと応用する能力につなげる。
 この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 4の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験期間終了後に模範答案（印刷物）を配布します。

■教科書

[ISBN]9784905168423 『1から学ぶスポーツ生理学【第2版】』（中里 浩一, ナップ : 2016)

■参考文献

[ISBN]9784005007028 『スポーツ科学の教科書——強くなる・うまくなる近道(岩波ジュニア新書)』（谷本 道哉, 岩波書店 : 2011)

[ISBN]9784764410619 『筋力をデザインする(運動生理学シリーズ(5))』（吉岡 利忠, 杏林書院 : 2003)

■関連科目

生理学、スポーツダイナミクス、生体機能・解剖学、人間工学

■成績評価方法および基準

定期試験 80%

レポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

谷本研究室（東1号館1階110）・tanimoto@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

前期：月曜2～3限

後期：金曜1～2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 イントロダクション：人体を動かす大まかな仕組み

第2回 運動とエネルギー代謝（有酸素運動と無酸素運動）

第3回 筋線維の種類とその特性

第4回 神経機能による運動の調整

第5回 筋の収縮様式

第6回 運動と血液循環

第7回 運動と呼吸応答

第8回 運動とホルモン

第9回 身体組成と体脂肪の役割

第10回 運動と体温調整

第11回 筋疲労の要因

第12回 運動と老化

第13回 運動と栄養

第14回 運動と生活習慣病予防

第15回 運動処方

定期試験

科目名： スポーツダイナミクス			
英文名： Sports Dynamics			
担当者： <small>タニモト ミチヤ</small> 谷本 道哉			
単 位： 2単位	開講年次： 4年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

スポーツおよび身体動作の仕組みを力学的および生理学・解剖学的観点、つまりバイオメカニクスの観点から学ぶ。身体動作における各関節に働くモーメントを運動法的式等により算出する解法等を学び、スポーツ工学に必要な基礎知識を修得することを目的とする。また、その応用範囲はスポーツ用具のみならず生活用品や医療・福祉関係の製品にまで上げられることを目的としたい。

■学習・教育目標および到達目標

身体動作の力学的、生理学・解剖学的な仕組み、及びスポーツ用具の力学特性を理解する。またそれらの知見をスポーツ用具のみならず、生活用品や医療・福祉関係等の製品開発へと応用する能力につなげる。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 4の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験期間終了後に模範答案（印刷物を配布します）。

■教科書

[ISBN]9784254690385 『スポーツバイオメカニクス』（深代 千之, 朝倉書店：2000）

■参考文献

[ISBN]9784839943417 『スポーツがうまくなる!! 身体の使い方、鍛え方』（谷本 道哉, マイナビ：2012）

[ISBN]9784764410695 『バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎』（金子 公宥, 杏林書院：2004）

■関連科目

生理学、スポーツ科学、生体機能・解剖学、人間工学

■成績評価方法および基準

定期試験 80%

レポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

谷本研究室（東1号館1階110）・ tanimoto@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

前期：月曜2～3限

後期：金曜1～2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 バイオメカニクスとは（運動学と運動力学、順動力学と逆動力学）

第2回 運動器の構造と関節モーメント（筋、腱、骨の基本構造と力学的理解）

第3回 身体運動と力学（ニュートンの運動法則による身体運動の理解）

第4回 身体内力の作用・反作用と効率的動作

第5回 筋の伸張-短縮サイクルを使った動的動作の効率的力発揮

第6回 近位-遠位連鎖を使った動的動作のエネルギー伝達

第7回 歩行動作

第8回 走動作

第9回 跳動作

第10回 投動作・打動作

第11回 発育・発達、加齢とバイオメカニクス

第12回 スポーツ用具のバイオメカニクス1

第13回 スポーツ用具のバイオメカニクス2

第14回 モーメントアームの調整と効率的な身体動作

第15回 マグヌスカと変化球

定期試験

科目名：感性デザイン			
英文名：KANSEI Design			
担当者： <small>カタヤマ イチロウ</small> 片山 一郎			
単 位：2単位	開講年次：4年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

商品の設計においては、商品の機能がよいことや価格が安いことだけではなく、スタイル、色彩、手触り、使いやすさのように、商品が心地よく感じられること、すなわち感性評価がよいことも重要となっている。本講義では、感性の数理的アプローチという観点から、商品開発のための感性評価データの分析方法について学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

感性評価データの収集方法と多変量解析を中心としたデータ処理法を習得し、感性を考慮した商品開発に応用できるようになる。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

特になし。

■参考文献

[ISBN]9784303723941 『数理的感性工学の基礎—感性商品開発へのアプローチ』(海文堂出版：2010)

[ISBN]9784303723927 『デザインと感性 (感性工学シリーズ)』(広川 美津雄, 海文堂出版：2005)

■関連科目

確率統計、心理統計学、人間工学、カラーコーディネーションの心理学

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

小テスト 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

片山研究室 (東1号館2階216) ・katayama@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜5限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 商品と感性評価

第2回 心理物理学の手法Ⅰ 尺度の種類

第3回 心理物理学の手法Ⅱ 測定可能な量

第4回 心理物理学の手法Ⅲ 測定法の種類

第5回 心理物理学の手法Ⅳ フェヒナーの法則・スティーブンスの法則

第6回 感性評価データの収集Ⅰ 尺度構成法

第7回 感性評価データの収集Ⅱ 一対比較法(1)

第8回 感性評価データの収集Ⅱ 一対比較法(2)

第9回 多変量解析Ⅰ 主成分分析(1)

第10回 多変量解析Ⅰ 主成分分析(2)

第11回 多変量解析Ⅰ 主成分分析(3)

第12回 多変量解析Ⅰ 主成分分析(4)

第13回 多変量解析Ⅱ 重回帰分析(1)

第14回 多変量解析Ⅱ 重回帰分析(2)

第15回 多変量解析Ⅱ 重回帰分析(3)

定期試験

科目名：暮らしの力学			
英文名：Introduction to Mechanics			
担当者： <small>ヒロカワ ノリヤス</small> 廣川 敬康			
単 位：4単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

生活関連機器のデザインでは力学の知識が必要となる。本講では、特に材料力学Ⅰ、Ⅱで材料力学を学ぶ上で基礎となる力の伝達、力とモーメントのつりあいなどについて学ぶ。人体や生活関連機器の具体的な例を取り上げ、対象問題の模式化、数式による定式化とその求解の方法を習得する。主な講義内容は、①力の表し方と力の単位 ②力の合成と分解 ③力のつりあい ④力のモーメント ⑤剛体に働く力の合成 ⑥剛体に働く力とモーメントのつりあい ⑦重心 ⑧仕事とエネルギーである。

本講義は週に2回の講義を行う。下記に示す教科書を活用して、各回とも前半で講義を行い、後半では演習により理解を深める。

■学習・教育目標および到達目標

力とモーメントの概念を理解すること。物体にはたらく力やモーメントをベクトルを用いて表記することができること。物体にはたらく力とモーメントのつりあい式を導出し、未知の反力やモーメントを求めることができること。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784339044836 『工業力学(改訂版)(機械系教科書シリーズ)』(吉村靖夫, コロナ社:2016)(ユニバーサルデザイン概論と共用)

■参考文献

[ISBN]9784877810108 『デザインとテクノロジー』(ジェームス ガラット, コスモス:2004)

[ISBN]9784339046021 『機械の基礎力学』(安田仁彦, コロナ社:2009)

[ISBN]9784501414504 『演習 工業力学』(一柳 信彦, 東京電機大学出版局:1998)

■関連科目

材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

宿題 20%

授業内演習 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

廣川研究室(西1号館2階258)・hirokawa[at]waka.kindai.ac.jp [at]は半角の@に変更してください

■オフィスアワー

金曜2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 私たちの暮らしと力学

第2回 力の種類

第3回 2力の合成

第4回 力の分解(1)

第5回 力の分解(2)

- 第6回 力の合成(1)
- 第7回 力の合成(2)
- 第8回 力のつりあい(1)
- 第9回 力のつりあい(2), 身の回りの機械要素(1): ベルトとチェーン
- 第10回 力のモーメント(1)
- 第11回 力のモーメント(2)
- 第12回 総合演習(1)
- 第13回 合モーメント
- 第14回 合力と合モーメント(1)
- 第15回 合力と合モーメント(2), 偶力
- 第16回 力とモーメントのつりあい(1)
- 第17回 力とモーメントのつりあい(2)
- 第18回 支持と反力(1)
- 第19回 支持と反力(2)
- 第20回 支持と反力(3), 身の回りの機械要素(2): 軸受が支持する荷重
- 第21回 支持と反力(4)
- 第22回 重心(1)
- 第23回 総合演習(2)
- 第24回 重心(2)
- 第25回 重心(3)
- 第26回 仕事(1)
- 第27回 仕事(2)
- 第28回 仕事(3), 身の回りの機械要素(3): 軸が伝達する動力

第29回 力学的エネルギー

第30回 総合演習(3)

定期試験

科目名：暮らしの力学			
英文名：Introduction to Mechanics			
担当者：野田 淳二			
単 位：4単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

生活関連機器のデザインでは力学の知識が必要となる。本講では、特に材料力学Ⅰ、Ⅱで材料力学を学ぶ上で基礎となる力の伝達、力とモーメントのつりあいなどについて学ぶ。人体や生活関連機器の具体的な例を取り上げ、対象問題の模式化、数式による定式化とその求解の方法を習得する。主な講義内容は、①力の表し方と力の単位 ②力の合成と分解 ③力のつりあい ④力のモーメント ⑤剛体に働く力の合成 ⑥剛体に働く力とモーメントのつりあい ⑦重心 ⑧仕事とエネルギーである。

本講義は週に2回の講義を行う。下記に示す教科書を活用して、各回とも前半で講義を行い、後半では演習により理解を深める。

■学習・教育目標および到達目標

力とモーメントの概念を理解すること。物体にはたらく力やモーメントをベクトルを用いて表記することができること。物体にはたらく力とモーメントのつりあい式を導出し、未知の反力やモーメントを求めることができること。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 1の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784339044836 『工業力学(改訂版)(機械系教科書シリーズ)』(吉村靖夫, コロナ社:2016)(ユニバーサルデザイン概論と共用)

■参考文献

[ISBN]9784877810108 『デザインとテクノロジー』(ジェームス ガラット, コスモス:2004)

[ISBN]9784339046021 『機械の基礎力学』(安田仁彦, コロナ社:2009)

[ISBN]9784501414504 『演習 工業力学』(一柳 信彦, 東京電機大学出版局:1998)

■関連科目

材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

宿題 20%

授業内演習 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

野田研究室(西1号館2階252)・nodaj@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 私たちの暮らしと力学(1)

第2回 2次元ベクトル

第3回 力の分解—座標成分への分解

第4回 力の合成 —合力(1) 2力の合力

第5回 合力(2)—作用点を同じくする3つ以上の力の合力

- 第6回 合力（3）－作用点を異にする3つ以上の力の合力
- 第7回 合力（4）－作用点を異にする3つ以上の力の合力（2）
- 第8回 力の釣り合い(1) 作用点を同じくする力の釣り合い（1）
- 第9回 力の釣り合い(2) 作用点を同じくする力の釣り合い（2）
- 第10回 力の釣り合い（3） 円柱の静力学
- 第11回 力の釣り合い（4） 摩擦
- 第12回 ここまでの総合演習
- 第13回 力のモーメント（1） 合モーメント
- 第14回 力のモーメント（2） 偶力
- 第15回 着力点が異なる力の釣り合い 静力学（1）
- 第16回 着力点が異なる力の釣り合い 静力学（2）
- 第17回 着力点が異なる力の釣り合い 静力学（3）
- 第18回 トラスの部材力の解析
- 第19回 第13回から第18回までの総合演習
- 第20回 重心（1） 重心の理論
- 第21回 重心（2） 組み合わせ図形の図心
- 第22回 重心（3） 組み合わせ図形の図心および重心
- 第23回 重心（4） 分布力と等価集中力
- 第24回 仕事とエネルギー（1） 仕事
- 第25回 仕事とエネルギー（2） 仕事とエネルギー
- 第26回 仕事とエネルギー（3） 力学的エネルギーの保存則
- 第27回 仕事とエネルギー（4） 動力
- 第28回 仕事とエネルギー（5） 簡単な機械装置

第29回 第20回から第28回までの総合演習

第30回 全体の総合演習

定期試験

科目名：材料力学Ⅰ			
英文名：Strength of Materials 1			
担当者：野田 淳二			
単 位：4単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

生活関連機器をデザインする際に、作用する力の大きさを考慮し、使用中に壊れないような十分な強度を持ち、変形が決められた限度内に収まるように十分な剛性（変形しにくさ）を持つように検討する必要がある。一方で、機器を軽量にすることも、環境への配慮から必要となる。この相反する必要性を合理的に満足させるためには、生活関連機器に生じる内力や変形、応力やひずみを解析し、これらの力学的性能を明らかにする必要がある。そのための学問が材料力学である。材料力学Ⅰは、内力、応力、ひずみ、せん断力、ねじりといった基礎について学ぶ。材料力学Ⅱを合わせて学ぶことにより、上記の目的を達成することができる。授業は、板書による講義と、練習問題を解く演習からなり、知識をより確実なものにするために、講義を聴講して得た知識を駆使して演習で問題を実際に解いてみる。

■学習・教育目標および到達目標

材料力学Ⅰでは、生活関連機器のデザインを行う上で必要な材料力学の基礎について考え方と計算方法を幅広く学び、続いて開講される材料力学Ⅱでデザインの基礎となる材料のたわみと応力の計算法について学ぶ。具体的には、本講を受講することにより、人体や生活関連機器を対象として、応力、ひずみ、力、ねじりによるせん断応力を数式を解いて求める方法を修得し、教科書の例題や練習問題を独力で解くことができるようになる。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784627663534 『はじめての材料力学(第2版)新装版』(小山 信次, 森北出版: 2014)(材料力学Ⅱと共用)

■参考文献

[ISBN]9784781909752 『演習 材料力学 (セミナーライブラリー機械工学)』(尾田 十八, サイエンス社: 2001)

■関連科目

暮らしの力学の履修内容が基礎知識として必要である。本講義で学んだ成果は、材料力学Ⅱで応用される。

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

中間試験 30%

宿題等の提出 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

野田研究室 (西1号館2階252)・nodaj@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 イン트로ダクション

材料力学で何を学ぶか
講義計画の紹介

第2回 静力学

1年次に学んだ静力学を演習により復習する。

第3回 材料の変形

外力を受けたときの材料の変形の種別を紹介する。

第4回 応力とひずみ(1)

引張応力と圧縮応力とひずみ

第5回 応力とひずみ(2)

せん断変形の場合の応力とひずみ

第6回 断面の位置による応力の変化 その1

断面の位置による応力の変化の考え方を理解する。

第7回 応力とひずみ まとめ

これまでに学んだ事項の理解度を高めるための演習を行う。

第8回 引張試験

材料の引張試験の方法と試験結果の記述法を紹介する。

第9回 応力-ひずみ曲線

引張試験のデータから応力-ひずみ曲線を描く方法とそれから得られる特性値の求め方を紹介する。

第10回 フックの法則

フックの法則を紹介し、弾性係数、せん断弾性係数の意味を学習する。

第11回 使用応力と安全係数 その1

許容応力度設計法の初歩を紹介する。

第12回 使用応力と安全係数 その2

許容応力度設計法を各種の载荷条件に適用した演習を等して、許容応力度設計法に対する理解を深める。

第13回 ポアソン比

ポアソン比の定義を紹介し、演習を通じてポアソン比を知ることによって得られる情報に付いての理解を深める。

第14回 熱応力 その1

熱応力の考え方と種々の条件下の熱応力の算定法を紹介する

第15回 熱応力 その2

演習を通して、種々の条件下の熱応力の算定法への理解を深める。
熱応力までを範囲とする。

第16回 自重による応力

材料の自重を考慮したときの応力とひずみの算定法を紹介する。

第17回 ひずみエネルギー

ひずみエネルギーの定義と算定法を紹介する。

第18回 衝撃荷重によって生ずる応力

ひずみエネルギーを用いて、運動エネルギーが与えられたとき（衝撃荷重）に生ずる応力を算定する方法を紹介する。

第19回 応力集中(1)

応力集中の基本的考え方を紹介する。

第20回 応力集中(2)

演習により種々の条件における応力集中したときの応力の算定法の理解を深める。

第21回 圧力容器に生ずる応力 その1

円筒薄肉圧力容器に発生する応力の算定法を紹介し、演習通してその理解を深める。

第22回 圧力容器に生ずる応力 その2

球形薄肉圧力容器に発生する応力の算定法を紹介し、演習通してその理解を深める。

第23回 ねじりによる丸軸の変形 その1

ねじりにより丸軸に発生する変形（せん断ひずみ）と応力の算定法を紹介する。

第24回 ねじりによる丸軸の変形 その2

種々の状況下でねじりを受ける部材のせん断応力の算定法を紹介する。

第25回 ねじりによる丸軸の変形 その3

演習により、種々の状況下でねじりを受ける部材のせん断応力の算定法に関する理解を深める。

第26回 動力を伝達する軸の場合 その1

ねじりによる変形の応用として、動力を伝達する軸に発生する応力とひずみの算定法を紹介する。

第27回 動力を伝達する軸の場合 その2

演習を通して、ねじりによる変形の応用として、動力を伝達する軸に発生する応力とひずみの算定法の理解を深める。

第28回 材料試験 その1

主要な材料試験である、引張試験を再度紹介し、それから得られる特性値の意味と算定法に関する理解を深める。

第29回 材料試験 その2

引張試験以外の材料試験、硬さ試験、衝撃試験、疲労試験を紹介する。

第30回 総括

本講義で講義した事柄を簡単に振り返り、材料力学Ⅱを学ぶ上で特に重要な事項を提示する。

定期試験

講義したすべてを範囲とする。

科目名： 材料力学Ⅱ			
英文名： Strength of Materials 2			
担当者： <small>ノダ ジュンジ</small> 野田 淳二			
単 位： 4単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

生活関連機器をデザインする際に、作用する力の大きさを考慮し、使用中に壊れないような十分な強度を持ち、変形が決められた限度内に収まるように十分な剛性（変形しにくさ）を持つように検討する必要がある。一方で、機器を軽量にすることも、環境への配慮から必要となる。この相反する必要性を合理的に満足させるためには、生活関連機器に生じる内力や変形、応力やひずみを解析し、これらの力学的性能を明らかにする必要がある。そのための学問が材料力学である。材料力学Ⅱは、材料力学Ⅰで学んだ、内力、応力、ひずみといった基礎知識を基に、生活のあらゆる場面で用いられるはり（長い棒）を対象として、せん断力、曲げモーメントについて学ぶ。授業は板書により行われる。各授業の最後に、ミニテストで当日学んだ内容を確認する。

■学習・教育目標および到達目標

材料力学Ⅰで、生活関連機器のデザインを行う上で必要な材料力学の基礎について考え方と計算方法を幅広く学び、材料力学Ⅱでデザインの基礎となる材料のたわみと応力の計算法について学ぶ。具体的には、本講を受講することにより、人体や生活関連機器を対象として、応力、ひずみ、力、モーメント、たわみの分布を数式を解いて求める方法を修得し、教科書の例題や練習問題を独力で解くことができるようになる。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー4の達成に關与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784627663534 『はじめての材料力学(第2版)新装版』(小山 信次, 森北出版 : 2014)

■参考文献

特になし。

■関連科目

暮らしの力学、材料力学Ⅰの履修内容が基礎知識として必要である。

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

野田研究室（西1号館2階252）・nodaj@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜 3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 材料力学Ⅱで学ぶこと

第2回 デザインと生体の力学の関係

第3回 はりの種類と支持の方法

第4回 はりの反力、反モーメント

第5回 力とモーメントの符号

第6回 力とモーメントのつり合い式

- 第7回 はりに生じるせん断力と曲げモーメント
- 第8回 せん断力線図 (SFD)と曲げモーメント線図 (BMD)
- 第9回 集中荷重が作用する両端支持はり
- 第10回 集中荷重が作用する両端支持はりのSFDとBMD
- 第11回 集中荷重が作用する片持ちはり
- 第12回 集中荷重が作用する片持ちはりのSFDとBMD
- 第13回 一様分布荷重が作用する両端支持はり
- 第14回 一様分布荷重が作用する両端支持はりのSFDとBMD
- 第15回 はりの曲げ変形と曲げひずみ
- 第16回 はりの曲げによって生じる応力
- 第17回 長方形断面はりの断面積、断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数の計算
- 第18回 いろいろな断面をもつはりの断面二次モーメント、断面係数の計算
- 第19回 曲げを受けるはりの曲率半径と曲げモーメントの関係
- 第20回 はりの曲げたわみを求める方法
- 第21回 集中荷重が作用する両端支持はりのたわみの計算1
- 第22回 集中荷重が作用する両端支持はりのたわみの計算2
- 第23回 一様分布荷重が作用する両端支持はりのたわみの計算1
- 第24回 一様分布荷重が作用する両端支持はりのたわみの計算2
- 第25回 集中荷重が作用する片持ちはりのたわみの計算1
- 第26回 集中荷重が作用する片持ちはりのたわみの計算2
- 第27回 いろいろな荷重が作用するときのはりの応力とたわみの計算1
- 第28回 いろいろな荷重が作用するときのはりの応力とたわみの計算2
- 第29回 ユニバーサルデザインで使われるはりの計算1

第30回 ユニバーサルデザインで使われるはりの計算2

定期試験

科目名：熱力学			
英文名：Thermodynamics			
担当者：藤井 雅雄 フジイ マサオ			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

現代の人間生活にとってエネルギーは必要不可欠な存在である。エネルギー資源の大部分は石油、天然ガス、石炭といった化石資源であり、資源の枯渇や地球環境問題への対策が大きな課題となっている。ところで、われわれは、加熱されたやかんの熱湯が水蒸気を吐き出しながら、その蓋を持ち上げたり、あるいは熱い風呂の湯に冷たい水を入れて適温にしたりする経験を通して、温度差とともに動くなにもものがあるのを知り、それを「熱」と呼んでいる。我が国で利用されているエネルギー資源の2/3は利用されず捨てられ、有効利用されたエネルギーも最後には排熱となって環境に排出されている。本講ではこのエネルギーの基本形態である熱を仕事・動力に変換するための基礎学問である熱力学の概要について学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

1. 熱力学の基本法則と理想気体の状態変化について理解できるようになる。
 2. 熱機関の熱効率の導出と改善方法について理解できるようになる。
 3. 地球環境問題を考える素地ができる。
- この科目の修得は、学科の定めるディプロマポリシー4の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

適時プリント配布。1回目の講義で説明します。

■参考文献

- ① [ISBN]9784061545038 都筑卓司「なっとくする熱力学」(講談社)
- ② [ISBN]9784274085468 谷下市松・北山直方「図解 熱力学の学び方」(オーム社)
- ③ [ISBN]9784842501710 甲藤好郎「工学技術者のための熱力学」養賢堂

■関連科目

「住環境科学概論」、「伝熱学」、「温熱環境学」、「流れ学」に関連します。

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中の課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控え室 (2号館2階254)・fujii@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 熱力学の意義

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

熱力学は熱を機械仕事に効率よく変換するための学問です。その歴史的な進展の過程を学びます。

第2回 熱エネルギー

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な箇所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分
様々なエネルギーがある中で、熱エネルギーの特徴を学びます。

第3回 熱力学の第一法則

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。
復習時間 : 150分
エネルギーの保存、系、状態変化、作用量と変化量、変換効率などを学びます。

第4回 熱力学で表れる物理量

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。
復習時間 : 150分
温度、圧力、密度と比体積、仕事と動力、エネルギーなどを学びます。

第5回 熱量と温度変化

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。
復習時間 : 150分
熱力学の第0,1,2法則の概念、熱容量、比熱などを学びます。

第6回 熱輸送とその様式 (伝熱)

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。
復習時間 : 150分
熱伝導、対流熱伝達、ふく射熱伝達について学びます。

第7回 仕事をする物質の性質 (理想気体)

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。
復習時間 : 150分
ボイルの法則、シャルルの法則、理想気体の状態方程式について学びます。

第8回 物質の三態

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。
復習時間 : 150分
気体・液体・固体の物質の三態について学びます。

第9回 仕事 (1)

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。
復習時間 : 150分
気体の変化の過程を、定積変化、定圧変化に分けて考察します。

第10回 仕事 (2)

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。
予習時間 : 90分
復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。
復習時間 : 150分
気体の変化の過程を、定温変化、断熱変化に分けて考察します。

第11回 熱力学の第二法則

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

熱効率の限界、カルノーサイクルについて学びます。

第12回 熱エネルギー変換装置 (ガスサイクル)

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

オットーサイクル (自動車用エンジン)、ディーゼルサイクルなどについて学びます。

第13回 熱エネルギー変換装置 (気液二相サイクル)

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

蒸気線図、ランキンサイクル、冷凍サイクルについて学びます。

第14回 熱機関、冷凍機、熱ポンプの比較

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

各サイクルの熱効率、動作係数を比較して考察します。

第15回 エネルギー資源

予習内容 : 配布資料の該当箇所を事前に読み、分からない語句や理解が困難な個所を明確にしておくこと。

予習時間 : 90分

復習内容 : 配布資料の該当箇所を読み返し、演習問題を解くことで理解を深めること。

復習時間 : 150分

気体燃料、液体燃料、固体燃料について学びます。

定期試験

科目名： 生体計測学			
英文名： The Biometrics			
担当者： <small>ナカガワ ヒデオ</small> 中川 秀夫			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

生体の状態を知るには、まずそれを測ることから始めなければなりません。そのためには、生体機能の物理的現象や電氣的現象などの変化量を捉える多種多様のセンサ類や、その信号を可視化したり解析するためのあらゆる計測機器について理解しておく必要があります。すなわち、計測の原理や機器構成を理解した上で計測機器を扱うことによって、はじめて信頼性のある出力データ、分析結果を得ることができるのです。本講では、こうした計測の基本である物理現象から、最新のセンサ・計測機器までを学修します。

■学習・教育目標および到達目標

この授業を履修することにより

- 1) 計測技術の基礎である電氣的・機械的知識、物体の色々な物理的性質・原理の知識が得られます。
- 2) 計測するときどのような注意が必要かを理解できるようになります。
- 3) それらの知識をベースとして、種々の生体計測へ応用する能力が修得できます。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーの42) の達成に主体的に関与し、また41) の達成に付随的に関与します。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各回の課題の答案例を、翌回の冒頭に示します。

毎回の課題は、最終回（定期試験前）に再度解説します。

定期試験の模範答案は、試験終了後研究室前に掲示します。

■教科書

特になし。（関連のプリントを配付します。）

■参考文献

[ISBN]9784339007206『生体計測工学入門』（橋本 成広, コロナ社：2000)

■関連科目

確率統計、医用生体工学

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

毎回授業での宿題 60%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

中川研究室（東1号館1階102）・nakagawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日 2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス、生体計測とは

予習内容： 機械計測、生体計測についてそれぞれ事例を調査のこと

予習時間： 120分

復習内容： 機械計測のノウハウを学生実験に適用させて改善点を考えること

復習時間： 120分

この授業のガイダンスとして、授業の目的、進め方、スケジュールなどを説明します。

そして、機械計測と対比させて、生体計測の特徴について説明します。

第2回 計測の基礎（その1）

予習内容： 単位系について人間工学実験のテキストを見直し予習しておくこと

予習時間： 150分

復習内容 : 受動的測定と能動的測定について事例を用いて説明し、違いを明確にしておくこと。

復習時間 : 90分

類似の計測用語について意味を解説し違いを明確化します。また単位系について説明します。

第3回 計測の基礎 (その2)

予習内容 : 人間工学実験のテキストを見直し、有効数字について予習しておくこと

予習時間 : 120分

復習内容 : 誤差の伝搬式を例題を見直して十分に理解しておくこと

復習時間 : 120分

分解能、有効数字、誤差の伝播について説明します。

第4回 計測の応答性

予習内容 : 計測器の時間応答について調べておくこと

予習時間 : 150分

復習内容 : ステップ応答の時間と出力比の関係について計算できるようにしておくこと

復習時間 : 90分

計測器の時間特性、ステップ応答と周波数応答について説明します。

第5回 計測のための電気回路 (その1)

検出器、フィルタ (LPF,HPF)、増幅器 (OPアンプ) について説明します。

第6回 計測のための電気回路 (その2)

種々のAD変換器を紹介し、それぞれの原理や特徴について説明します。

第7回 計測データの転送

計測データを集めるための通信技術、無線LANについてその方法や種類を説明し、実用化された生体テレメータについて紹介します。

第8回 位置・形状の計測

ステレオ法、光切断法、モアレについて原理を解説します。

第9回 運動の計測

眼球運動測定器、顎運動測定器、重心動揺計について説明します。

第10回 生体における温度計測

伝熱用語について説明し、体温計の種類と特徴、赤外線を応用したサーモグラフィーの原理について説明します。

第11回 生体の流体計測 (その1)

血液の物性、血圧計、血流計について説明します。

第12回 生体の流体計測 (その2)

呼気の計測について説明し、スパイロメータの原理・特徴を述べます。

第13回 超音波利用による生体計測

超音波の特性について説明し、反射、走査型エコーの応用計測機器について説明します。

第14回 X線利用による生体計測

X線の性質について説明し、X線胸部撮影、X線CTなどの応用計測機器を紹介します。

第15回 生体における電磁気計測

人体の電磁氣的性質を説明し、その応用機器である心電計、脳波計、筋電計、MRIなどの原理等を述べます。

定期試験

科目名： 流れ学			
英文名： Fluid Mechanics			
担当者： <small>オオマサ ミツシ</small> 大政 光史			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

流れ学は、工学、医療・生体、環境、気象など幅広い領域に關係しており、自然界や日常生活に密着した流れから、医療機器、工業機器、血液循環系などの管路内の流れや航空機、自動車といった人工物さらには生体内の流れなど幅広い流れ現象を取り扱う学問である。本講では、流体の物理的性質（密度、粘度）、静止した流体の力学（圧力、血圧、呼吸と圧力、液柱計）、流れの基礎（定常流、非定常流、層流・乱流）、1次元流れの保存則（連続の式、ベルヌーイの定理）と流体計測、実在する粘性流体の管路内流れ、流体機械について学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

自然界、日常生活、人工物、生体内など、さまざまな流れに適用できる基礎知識についての理解を深め、一定の条件での計算問題が解ける能力と、さまざまな流れの量的な感覚を身につける。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 4の達成に主体的に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784407315417『流体力学—シンプルにすれば「流れ」がわかる (専門基礎ライブラリー)』(実教出版：2009)

■参考文献

[ISBN]9784485302163『演習 流体力学 (基礎数学完全マスター)』(井口 學, 電気書院：2010)

[ISBN]9784320080881『流体システム工学 (機械システム入門シリーズ 12)』(佐野 勝志, 共立出版：2007)

■関連科目

「住環境科学概論」

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

大政研究室（西1号館3階351）・ohmasa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜 4 限と木曜 4 限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 流体の利用と流体力学

第2回 流体の性質と単位系

第3回 流体の圧縮性と粘性

第4回 静止流体の力学（圧力）

第5回 静止流体の力学（液柱計）

第6回 静止流体の力学（壁面に作用する力）

第7回 層流と乱流

第8回 連続の式

第9回 ベルヌーイの定理

第10回 管路内の流れ

第11回 流速の測定

第12回 運動量と平板におよぼす力

第13回 円管内の流れと損失

第14回 物体のまわりの流れ

第15回 流体機械のしくみ

定期試験

科目名： 材料機能学			
英文名： Functional Materials			
担当者： <small>オオマサ ミツシ</small> 大政 光史			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

モノが設計どおりに機能するかどうかは材料特性に依存する。材料はその用途によって、強度を活かす構造材料と働きを活かす機能材料に分けられる。具体例を取り上げ、モノづくりをするときにどのように材料選択をすべきかについて、基本的な考え方を学ぶ。主な内容は、鉄系材料、非鉄金属材料、非金属材料の特性と用途。材料の属性、力学的特性、熱的特性、電磁的特性、化学的特性。光触媒、超伝導、新機能材料、バイオマテリアルである。

■学習・教育目標および到達目標

各種材料の種類と特性を学び、構造材料と機能材料についての理解を深め、モノづくりをするときの材料選択の考え方を身につける。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 4の達成に主体的に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784563069216 鈴木・浅川編著「基礎機械材料」培風館(2005)

■参考文献

[ISBN]9784888981699『機械材料学 (JSMEテキストシリーズ)』(日本機械学会：2008)

■関連科目

医用生体工学

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

大政研究室（西1号館3階351）・ohmasa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜 3 限と木曜 3 限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第 1 回 生活の中で利用される材料の機能（繊維の例）

第 2 回 モノづくりと材料技術

第 3 回 材料の基本性質

第 4 回 金属材料の特性

第 5 回 鉄鋼材料の基礎

第 6 回 鉄鋼材料の種類と性質

第 7 回 ステンレスの性質と用途

第8回 アルミニウム合金の性質と用途

第9回 各種合金の性質と用途

第10回 セラミックス

第11回 プラスチック

第12回 木質系材料

第13回 複合材料

第14回 機能性材料と生体材料

第15回 環境を意識した材料とリサイクル

定期試験

科目名：生活支援ロボット			
英文名：Life Support Robots			
担当者： <small>ナカガワ ヒデオ</small> 中川 秀夫			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

生活支援ロボットとは、家庭・施設などで人間の生活や自立を支援するロボットの総称です。そのため、人の意図を正しく認識する機能が不可欠です。また、工場で使われている産業用ロボットがロボットのために準備された環境内で機能するのに対して、この生活支援ロボットは、多種多様な人間生活環境下で機能する必要があります。そこで本講では、人と共存するロボットに必要な安全な機構や制御技術、音声入力や画像処理技術をはじめとするヒューマンインターフェースについて、ハード・ソフトの両側面から学習します。また、その背景にあるロボット開発の歴史にも触れ、どのような応用がされているのかパワーポイントによるスライドを使用して、画像等を利用した説明を行います。

■学習・教育目標および到達目標

ロボットというとアニメ・映画の未来的な固定イメージが定着していますが、この授業を履修することにより、次のようなことが習得できます。

- 1) 一般的なロボットの機能と仕組み、動作原理を学習することにより、現状の能力でできることと将来への課題を区別して理解できます。
- 2) そこからロボットの開発がどのような方向へ向っているかを修得します。
- 3) 生活支援という分野が必要とされる社会的な背景を理解することにより、福祉や医療の各分野で活躍するロボットについての基礎知識が修得できます。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシーの42) の達成に主体的に関与し、また41) の達成に付随的に関与します。

■試験・課題に対するフィードバック方法

各回の課題の答案例を、翌回の冒頭に示して復習します。
 毎回の課題について、最終回（定期試験前）に再度解説します。
 定期試験の模範答案は、定期試験後に研究室前に掲示します。

■教科書

特になし。

■参考文献

[ISBN]9784274208942 『わかりやすいロボットシステム入門—メカニズムから制御，システムまで—』(松日楽 信人，オーム社：2010)

■関連科目

福祉機器デザイン

■成績評価方法および基準

定期試験 40%
 毎回授業での課題 60%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

中川研究室（東1号館1階102）・nakagawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日 2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス、ロボットの分類

予習内容：産業用ロボットと呼ばれるロボットについて事前調査する

予習時間：150分

復習内容：ロボットはどのようにして動くのか整理する

復習時間：90分

- | | |
|------------------|-----------------|
| (1) ロボットの学問的位置付け | (2) 本講義で扱う範囲と目標 |
| (3) 授業形態 | (4) 成績評価方法 |
| (5) 授業スケジュール | (6) 教科書・参考書について |

- (7) 最新の産業用ロボット (8) 順運動学・逆運動学
(9) ロボットの動かし方

第2回 ロボットハンドの機構

予習内容 : 一般的なロボットの構成ユニットの名称・機能について調査すること

予習時間 : 150分

復習内容 : ロボットの関節の種類、記号について整理し、自由度を理解しておくこと。

復習時間 : 90分

- (1) ロボットアームの構成要素 (2) 自由度
(3) 関節の記号 (4) リンク機構の種類
(5) ロボットアームの機構例 (6) アクチュエータの機構
(7) 手首の機構例
(8) ハンドの機構例

第3回 ロボットに用いられるセンサー

予習内容 : ロボットにはどのようなセンサが用いられているか調査する

予習時間 : 150分

復習内容 : センサの原理、特長、注意点について一覧表にまとめる

復習時間 : 90分

- (1) センサについて (2) 角度センサ
(3) 距離センサ (4) 接触センサ
(5) 力覚センサ (6) 視覚センサ

第4回 ロボットのアクチュエータ

予習内容 : ロボットにはどのようなアクチュエータが用いられているか調査する

予習時間 : 150分

復習内容 : ロボットのアクチュエータについて原理、特長、注意点について整理する

復習時間 : 90分

- (1) アクチュエータとは (2) 電気モータの種類
(3) DCモータ (4) ACモータ
(5) パルスモータ (6) 超音波モータ

第5回 ロボットの軌道計画

予習内容 : パス生成の補間法について調べておく

予習時間 : 120分

復習内容 : 間接空間法とデカルト空間法について対比説明をまとめる

復習時間 : 120分

- (1) 軌道計画とは? (2) 関節空間法の考え方
(3) 1次式と3次式 (4) 直線と放物線の組合せ
(5) デカルト空間法 (6) 手先軌跡の補間処理

第6回 ロボットの順運動学(1)

予習内容 : ロボット座標系にはどのような種類があるか調査すること

予習時間 : 120分

復習内容 : 座標回転について、授業で説明したZ軸まわりの回転にならって、X軸、Y軸まわりの回転行列を導出しておくこと

復習時間 : 120分

- (1) 関節変数と手先位置・姿勢の一般的関係
(2) ロボットの座標系 (3) ベクトルと座標回転
(4) 回転行列の性質 (5) 同次変換行列

第7回 ロボットの順運動学(2)

予習内容 : D-H法について調査しておく

予習時間 : 120分

復習内容 : 簡便な市販ロボットのリンクパラメータ表を作成してみる

復習時間 : 120分

- (1) 座標系の設定ルール (2) 座標系間の関係表現
(3) 同次変換行列での表現 (4) リンクパラメータ表

第8回 ロボットの逆運動学

予習内容 : 逆運動学はどういうところで必要となるかについて調査のこと

予習時間 : 150分

復習内容 : 2変数逆正接関数について利用できるように十分に理解しておくこと

復習時間 : 90分

- (1) 逆運動学の解法
- (2) 2変数逆正接関数
- (3) 幾何学的解法
- (4) 複数解の対応

第9回 産業用ロボット

予習内容 : 種々の市販ロボットについて種類別に分類してみる

予習時間 : 120分

復習内容 : ロボットの知能化について、定義、事例、将来方向性について整理する

復習時間 : 120分

- (1) ロボットの歴史
- (2) 産業用ロボットの例
- (3) ロボットの形態と構造
- (4) ロボットの知能化

第10回 社会支援ロボット

予習内容 : 社会支援型ロボットの事例について調査しておくこと

予習時間 : 120分

復習内容 : 授業で紹介したロボットの機能や特徴について整理しておくこと

復習時間 : 120分

- (1) ロボット需要の社会背景
- (2) 社会支援型ロボットの課題
- (3) 公共分野(危険作業)
- (4) 生活分野への進出
- (5) 医療・福祉分野

第11回 農作業支援ロボット

予習内容 : 農業用ロボットは、現在の農機とどのように異なるか事例を調査のこと

予習時間 : 150分

復習内容 : 授業で紹介したロボットの機能と特徴について整理しておくこと

復習時間 : 90分

- (1) 農業ロボット化の背景
- (2) 農作業支援ロボットの課題
- (3) 農業用ロボットの歴史と分類
- (4) 車両系ロボット
- (5) マニピュレータ系ロボット

第12回 生物型ロボット

予習内容 : 「バイオミメティクス」の意味、意義、事例について調査しておくこと

予習時間 : 120分

復習内容 : 人間型ロボットが人の形を持つことの意義について整理すること

復習時間 : 120分

- (1) 生物模倣技術
- (2) 昆虫型ロボット
- (3) 無測生物型ロボット
- (4) 水棲動物型ロボット
- (5) 動物型ロボット
- (6) 人間型ロボット

第13回 介護・福祉用ロボット

予習内容 : 福祉ロボットの事例について調査しておくこと

予習時間 : 120分

復習内容 : 福祉用ロボットの各事例について、ロボットの特徴、工夫点などを整理すること

復習時間 : 120分

- (1) 福祉分野へロボット技術
- (2) 高齢者支援ロボット
- (3) 障がい者支援ロボット
- (4) 介護者支援ロボット

第14回 医療・リハビリ用ロボット

- (1) 医療分野へのロボット進出
- (2) 訓練支援(患者ロボット)
- (3) 検査・手術計画支援
- (4) 手術ロボット
- (5) リハビリロボット

第15回 各回の課題のまとめ

予習内容 : 各回の課題について見直し、疑問点を整理しておくこと

予習時間 : 120分

復習内容 : 日本の少子高齢化問題、労働力不足などの社会動向と関連付けてロボットの需要、利用分野を整理してまとめること

復習時間 : 120分

(1) 各回の課題と解答例の説明

(2) 定期試験についての注意事項の説明

(3) 成績評価方法の確認

定期試験

科目名：住環境科学概論			
英文名：Introduction to Living Environmental Science			
担当者： <small>フジタ コウジ</small> 藤田 浩司			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

豊かな人間生活の実現のためには生活の豊かさを実現できる住環境の構築が重要となる。本講義では、人間と自然環境の関係、快適な住まいづくりのための環境要因である生活空間の温熱、空気、光、音と人との関わり、快適な住まい環境を実現するための設備、高齢者に対応するための環境要因についての概要を学ぶ。さらに、地球環境保全の立場から生活環境を捉え、住まいにおける環境負荷の低減や環境共生住宅についての基礎知識も学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

快適な生活環境の実現に影響する因子として、人と熱水分（健康、快適性）、人と空気（汚染物質、健康、換気）、人と光（日照、日射、照明、色彩）、人と音（音特性、聴覚、遮音、吸音）、人と環境共生の関係が理解できるようになる。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 1 の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

単元毎に実施する確認テストの後に解答例を配布します。

■教科書

[ISBN]9784395280452『住まいの環境 (図解住居学5)』(彰国社：2011)

■参考文献

[ISBN]9784765525633『健康に暮らすための住まいと住まい方エビデンス集』(健康維持増進住宅研究委員会, 技報堂出版：2013)

■関連科目

「熱力学」、「伝熱学」、「温熱環境学」、「振動と音響の科学」、「建築と照明」

■成績評価方法および基準

定期試験 40%
確認テスト 40%
レポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

藤田研究室（東1号館2階201）：fujita@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜 2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 地球の環境とエネルギー

第2回 地球と人間

第3回 温熱環境と健康

第4回 温熱環境と快適性

第5回 熱環境計画(1)

第6回 熱環境計画(2)

第7回 水分環境計画(1)

第8回 水分環境計画(2)

第9回 空気環境と健康

第10回 換気計画

第11回 光環境（光の性質）

第12回 光環境（照明、色彩）

第13回 音環境（音の性質）

第14回 音環境（騒音、遮音、吸音）

第15回 住環境の改修と評価

定期試験

科目名： プロダクトデザイン			
英文名： Product Design			
担当者： <small>フジタ コウジ ヤマダ タカシ</small> 藤田 浩司・山田 崇史			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

プロダクトデザインとは、人間生活に求められるモノを、使用者と使用環境の視点から構想し、産業という手段を通して具現化する活動である。プロダクトデザインが対象とする商品の多くは工業生産された商品であり、生活をより豊かにするために絶え間ない革新が求められている。本講義では、プロダクトデザインの意義とデザインのプロセス、方法について学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

モノづくりにおける、デザインマネジメント、デザインプロセス、ユーザ調査・コンセプト・視覚化・デザイン評価のための手法、マーケティングが理解できるようになる。
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 1 の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業の中で、レポートの講評と要点の解説を行います。

■教科書

[ISBN]9784862670632 『プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ』(JIDA「プロダクトデザイン」編集委員会, ワークスコーポレーション: 2009)

■参考文献

特になし。

■関連科目

スケッチと製図

■成績評価方法および基準

確認テスト 60%

レポート 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

藤田研究室 (東1号館2階201)・fujita@waka.kindai.ac.jp

山田研究室 (西1号館2階254西)・yamada@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜2限(藤田(代表教員)のオフィスアワー)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 プロダクトデザインの背景

第2回 社会とプロダクトデザイン

第3回 企業とプロダクトデザイン、デザインマネジメント

第4回 デザインプロセス、ユーザ調査のための手法

第5回 コンセプトのための手法

第6回 視覚化のための手法

第7回 デザイン評価のための手法

第8回 科学とデザイン、マーケティングとデザイン

第9回 プロダクトの企画書、課題説明

第10回 デザインの発想・検討

第11回 デザインの評価

第12回 製作プロセス(1)

第13回 製作プロセス(2)

第14回 製作プロセス(3)

第15回 製作プロセス(4)

科目名： スケッチと製図			
英文名： Mechanical and Architectural Drawing and Perspective			
担当者： <small>ヤマダ タカシ</small> 山田 崇史			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

生活関連機器、住環境関連器具・用品の開発設計や配置設計等には、それらの立体形状とその空間位置を正確に表現・操作する能力が求められる。本講では、立体を二次元紙面に正確に表現する作図法、すなわち各種の投影法と製図法および製図規格を学び、イメージを具象化して伝達するための基礎的技術の修得を目標とする。同時に、住環境に係る設計に必要な設計者のイメージを表現する能力の養成も目的とし、理論に加え作図・スケッチ演習を交えて講義を展開する。

■学習・教育目標および到達目標

図法幾何学の理論とその実用をコンセプトにして学びを展開し、まず正投影、軸測投影といった各種投影法を理解する。第一角法および第三角法による投影図を作図でき、両者の違いを説明できるようになる。JISおよびISO規格の意義を理解し、機械製図、建築製図のための規格について、単純な要素の規格、図示方法、省略図法、寸法記入方法を理解し、製図機器を用いて作図できるようになる。透視図法によって簡単な立体構造のスケッチパースを描けるようになる。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 3、4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後に試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784274069529 大西 清「JISにもとづく標準製図法 第13全訂版」オーム社 (2010)

■参考文献

[ISBN]9784274207235 稲葉 武彦「図説 図学」オーム社 (2009)

[ISBN]9784274211164 住野 和男「わかりやすい図学と製図」オーム社 (2011)

■関連科目

プロダクトデザイン、造形デザイン実習、ユニバーサルデザイン・CAD演習 I～III、3次元CADプロダクトデザイン

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

演習課題 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

建築・都市・人の流れ研究実験室(1号館2階254西)

yamada@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜5限

事前にメールにてアポイントをとって下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス（作図法の必要性、人間工学におけるスケッチと製図について）

第2回 作図の基礎

第3回 投影法の種類

第4回 直線の正投影

第5回 平面の正投影

第6回 立体とその正投影

第7回 立体の切断

第8回 立体の相貫

第9回 立体の展開

第10回 立体の軸測投影

第11回 立体の透視投影

第12回 立体のスケッチパース

第13回 製図の規格と図面の構成

第14回 図形の表し方

第15回 寸法記入方法

定期試験

科目名：伝熱学			
英文名：Heat Transfer			
担当者： <small>フジタ コウジ</small> 藤田 浩司			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

太陽の熱が地球に届き、その熱が窓や壁を通じて部屋に入ってくる。パソコンの内部ではファンによって部品の高温化を防いでいる。このように私たちの周りでは常に熱の移動が生じており、温熱環境の形成や機器の設計に熱移動に関する知識が必要となる。本講では、熱移動の3形態（伝導、対流、放射）それぞれについて説明し、熱の移動メカニズムを学習する。

■学習・教育目標および到達目標

熱移動の3形態が理解でき、その移動量の計算ができるようになる。
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

単元毎に実施する確認テストの後に解答例を配布します。

■教科書

特になし

■参考文献

[ISBN]9784844521174『伝熱学 (機械工学基礎講座)』(西川 兼康, 理工学社 : 1982)
[ISBN]9784254268638『エース建築環境工学〈2〉熱・湿気・換気 (エース建築工学シリーズ)』(鉾井 修一, 朝倉書店 : 2002)

■関連科目

「住環境科学概論」、「熱力学」、「温熱環境学」、「流れ学」、「材料機能学」に関連します。

■成績評価方法および基準

定期試験 60%
確認テスト 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

藤田研究室（東1号館2階201）：fujita@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 暮らしの中の熱

第2回 熱伝導と熱伝達

第3回 熱貫流(1)

第4回 熱貫流(2)

第5回 熱回路網

第6回 非定常熱伝導（一次元）

第7回 非定常熱伝導（三次元）

第8回 放射熱放散

第9回 立体角と立体角投射率

第10回 直接放射(1)

第11回 直接放射(2)

第12回 相互放射(1)

第13回 相互放射(2)

第14回 対流熱伝達

第15回 無次元数

定期試験

科目名： 温熱環境学			
英文名： Thermal Engineering for Life Design			
担当者： <small>フジタ コウジ</small> 藤田 浩司			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

科学技術の進展により、人間にとって「熱的・快適な状態」に維持・制御できる環境作りへの要求が高まっている。本講では、人間の熱的快適性を物理的に説明し、人間を取り巻く環境における熱・水分・空気の移動メカニズムと、それによって形成される室内環境について学習する。

■学習・教育目標および到達目標

熱・水分・空気の移動現象を理解し、それらを駆使して健康・快適な室内環境を設計できる能力の修得を目標とする。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

単元毎に実施する確認テストの後に解答例を配布します。

■教科書

[ISBN]9784254268638 『エース建築環境工学〈2〉熱・湿気・換気(エース建築工学シリーズ)』(鉾井 修一, 朝倉書店: 2002)

■参考文献

特になし

■関連科目

住環境科学概論、伝熱学、熱力学、流れ学、材料機能学

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

確認テスト 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

藤田研究室(東1号館2階201)・fujita@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 温熱環境と健康・快適性

第2回 人体の熱収支(1)

第3回 人体の熱収支(2)

第4回 人体の体温調節機構

第5回 体感温度指標

第6回 室温計算法(1)

第7回 室温計算法(2)

第8回 結露防止法

第9回 室内空気質の時間変化

第10回 開口の空気流動特性

第11回 流量係数の合成

第12回 気密測定

第13回 重力換気

第14回 風力換気

第15回 換気量の計算

定期試験

科目名： 振動と音響の科学			
英文名： Science of Vibrations and Acoustics			
担当者： <small>ニシガキ ツトム</small> 西垣 勉			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

振動・騒音の発生や音環境は製品の性能や人間の生活環境に大きな影響を及ぼしており、快適性、高性能化のための振動や音響特性への要求もますます高まってきている。本講ではまず、生活の中の振動現象について整理することから始め、振動現象の表現方法や評価方法について基本的振動系モデルを用いて学修することで、実際の機械設計や振動現象の理解に必要な振動解析の基礎知識を修得する。また、音と人、聴覚・音声・音楽や騒音の分析法など生活と音の関わりについても学修する。以上の講義により、生活の中の現象を動力的観点から捉える方法を修得する。

■学習・教育目標および到達目標

1. 身近な現象や製品などから振動、音響に関する事象を取りあげて考察できるようになること。
2. 振動・音響に関する事象の科学的・工学的観点からの分析方法や解析方法の基礎を習得し、環境科学としての定量的な評価をし得る能力を習得すること。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 4の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業中課題については、翌回以降の授業時間に答案を返却し、要点を解説します。

試験については、試験期間終了後に試験の要点と講評をUNIVRESAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

指定しない。適宜プリントを配付する。

■参考文献

[ISBN]9784627666825 『振動工学の基礎』(岩壺 卓三(編著), 森北出版 : 2014)

[ISBN]9784764903302 『新音響・音声工学』(古井 貞熙, 近代科学社 : 2006)

[ISBN]9784061539723 『基礎音響学—振動・波動・音波』(吉川 茂, 講談社 : 2002)

■関連科目

住環境科学概論、微分積分学、応用解析学 I

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

小テスト 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

西垣研究室 (西1号館3階352) ・ nisigaki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜 5 限

事前にメールにてアポイントをとって下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 音響学・振動学の歴史

第2回 身近な振動・音響現象

第3回 音波の基本的性質

第4回 音波と音圧、音圧レベル

第5回 聴覚と音声

第6回 波動とはなにか、波動方程式と定在波

第7回 機械振動系：単振動

第8回 機械振動系：1自由度系の自由振動

第9回 機械振動系：1自由度系の強制振動

第10回 連続体の振動：弦、棒の振動

第11回 連続体の振動：はり、膜の振動

第12回 音・振動のスペクトルとフーリエ変換

第13回 室内音響：吸音、遮音

第14回 騒音の分析法

第15回 振動と音響の制御

定期試験

科目名：ユニバーサルデザイン概論			
英文名：Introduction to Universal Design			
担当者：北山 一郎・廣川 敬康			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

私たちが暮らす社会には、高齢者や子供、障がい者などを含め多様な特性を持った人々が生活している。本講では、福祉工学とユニバーサルデザインの基本的な考え方と手法について概説する。福祉工学は、高齢者や障がい者が感じる不自由さを解消できるように、特性に応じた支援を行うための工学技術である。また、ユニバーサルデザインは、高齢者や障がい者だけでなく、一般の人々も含めた誰もが使いやすい製品を設計することである。

■学習・教育目標および到達目標

現代社会には、年齢や性別、体格などの特性が様々な異なる人々が暮らしており、これらの人々の多様な特性を考慮して製品設計を行う必要があることを理解すること。各種の福祉機器やユニバーサルデザイン製品の開発状況を踏まえ、福祉工学やユニバーサルデザインを具現化するための方法を理解すること。本科目は、学科ディプロマポリシーの“2. 思考・判断”、“4. 知識・理解”に関する基礎能力向上に関わる講義である。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に前回の課題の解説を行います。

■教科書

[ISBN]9784819025027「人間工学とユニバーサルデザイン新潮流」(ユニバーサルデザイン研究会編,日本工業出版:2013)
 [ISBN]9784339044836『工業力学(改訂版)(機械系教科書シリーズ)』(吉村靖夫,コロナ社:2016)(暮らしの力学と共用)
 吉村靖夫

■参考文献

[ISBN]9784526073427『トコトンやさしいユニバーサルデザインの本(第2版)
 (今日からモノ知りシリーズ)』(宮入賢一郎,日刊工業新聞社:2014)
 [ISBN]9784251093912『ユニバーサルデザインーみんなの暮らしを便利に〈1〉ユニバーサルデザインってなに?』(成松 一郎,あかね書房:2006)
 [ISBN]9784251093929『ユニバーサルデザインーみんなの暮らしを便利に〈2〉暮らしの中のユニバーサルデザイン』(星野 恭子,あかね書房:2006)
 [ISBN]9784251093936『ユニバーサルデザインーみんなの暮らしを便利に〈3〉まちのユニバーサルデザイン』(中和 正彦,あかね書房:2006)
 [ISBN]9784501414504『演習 工業力学』(一柳 信彦,東京電機大学出版局:1998)

■関連科目

生体機能・解剖学、生理学、福祉情報デザイン、人間工学、ユニバーサルデザイン、福祉機器デザイン

■成績評価方法および基準

定期試験 70%
 レポート 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

北山研究室 (西1号館1階152)・kitayama[at]waka.kindai.ac.jp [at]は半角の@に変更してください
 廣川研究室 (西1号館2階258)・hirokaawa[at]waka.kindai.ac.jp [at]は半角の@に変更してください

■オフィスアワー

北山一郎 火曜3限 廣川敬康 金曜2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 社会の人々の多様性(老若男女、障がい者、病人・けが人、外国人など)

第2回 人間の身体特性

第3回 高齢者・子供・障がい者の特性

第4回 バリアフリー

第5回 福祉工学（高齢者・子供・障がい者に対する福祉機器・支援技術）Ⅰ

第6回 福祉工学（高齢者・子供・障がい者に対する福祉機器・支援技術）Ⅱ

第7回 福祉情報デザイン

第8回 福祉機器デザイン

第9回 人間工学とユニバーサルデザイン

第10回 ヒューマン・マシン・インタフェース

第11回 人々の多様な特性

第12回 ユニバーサルデザイン(1)

第13回 ユニバーサルデザイン(2)

第14回 ユニバーサルデザインのための力学(1)：力、モーメント、仕事

第15回 ユニバーサルデザインのための力学(2)：重心と転倒・安定性

定期試験

科目名： 福祉情報デザイン			
英文名：Design of Electronic and Information Technology Based Assistive Technology			
担当者： <small>キタヤマ イチロウ</small> 北山 一郎			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

感覚障害やコミュニケーションに係る障害の支援において、情報工学・メカトロニクスを基盤とする生活支援技術は必要不可欠であり、状況に応じた機器のデザインに取り組める人材が求められている。本講では、情報工学・メカトロニクスで支援する福祉技術について、現状と問題点を理解するとともに支援機器設計に関する基礎事項を学ぶ。さらに、障がい者の自立をサポートするため、コンピュータによる支援技術と補助機材をその障害に応じて結びつける手法の習得やその操作技術の指導者である福祉情報技術コーディネータの育成も目指す。なお、講義では支援機器の羅列ではなく、それらの設計の基本となる事項（フローチャート、アルゴリズム、センサ、AD変換器等）についてできる限り詳しく説明する。

■学習・教育目標および到達目標

情報格差を受ける可能性が高い人々の現状および格差を解消する支援機器を知ることで、情報のユニバーサル化に必要な項目、要素の理解を深めること。現状の主な支援機器の目的と仕組みを理解すること。特に、機器の使い方や機能のみならず、設計の基本となる事項への理解を深めること、さらに、ワークショップにおいては、新たな支援機器のアイデアを生み出すとともに、課題をまとめ、それらをプレゼンテーションする能力を高めることを教育の目標とする。同講は、学科ディプロマポリシーの“1. 関心・意欲・態度”の人間支援ロボットおよびそれらの分野における技術課題の発掘と“4. 知識・理解”の人間工学の基板技術、ユニバーサルデザインによる創造力の獲得に関連する講義である。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に前回の課題の解説を行います。

■教科書

[ISBN]9784844607670『福祉工学』(依田 光正, 理工図書: 2011)

■参考文献

参考資料を適宜配付する。

■関連科目

ユニバーサルデザイン概論、生理学、人間工学、福祉機器デザイン

■成績評価方法および基準

定期試験 75%

授業中課題（ミニツツペーパー）15%

グループ単位のプレゼンテーション 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

北山研究室（西1号館1階152）・kitayama@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 福祉と福祉工学

予習内容：福祉六法の概要を調べる。

予習時間：120分

復習内容：福祉工学の対象者および福祉六法の基礎事項を理解する。

復習時間：120分

福祉工学の対象者およびそれらを支援する法律の基礎を学ぶ。

第2回 人間の計測技術

予習内容：いくつかの代表的な生体計測法を調べる。

予習時間：120分

復習内容：ホメオスタシス、さらに心電図・筋電図などの生理機能計測について理解する。

復習時間 : 120分
ホメオスタシスについて学び、さらに心電図・筋電図などの生理機能計測について学修する。

第3回 生理機能の計測技術

予習内容 : 呼吸器計測を調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : 呼吸器計測および換気工学の基礎を理解する。
復習時間 : 120分
呼吸器計測および換気工学の基礎を学ぶ。

第4回 身体形状計測技術

予習内容 : 音波および超音波について調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : 身体の外形や身体内部の器官などの計測技術を理解する。
復習時間 : 120分
身体の外形や身体内部の器官などの計測技術を学ぶ。

第5回 運動計測

予習内容 : フレキシブルゴニオメータについて調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : フレキシブルゴニオメータや力覚センサなどの身体運動を計測するセンサ、システムを理解する。
復習時間 : 120分
フレキシブルゴニオメータや力覚センサなどの身体運動を計測するセンサ、システムを学ぶ。

第6回 福祉メカトロニクス (I)

予習内容 : メカトロニクスという用語を調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : メカトロニクスとそれらの構成要素を理解する。
復習時間 : 120分
メカトロニクスとそれらの構成要素を学ぶ。

第7回 福祉メカトロニクス (II)

予習内容 : アルゴリズムの意味と事例を調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : アクチュエーターおよびプログラミングの基礎を理解する。
復習時間 : 120分
メカトロニクスで重要な役割と果たすアクチュエーターおよびプログラミングの基礎を学ぶ。

第8回 障がい者と情報通信関連技術

予習内容 : 通信技術が障がい者に与える恩恵と課題を調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : 障がい者と情報関連技術の関わりに関する事項を理解する。
復習時間 : 120分
障がい者と情報関連技術の関わりについて学修する。

第9回 入出力支援装置

予習内容 : 自助具について調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : 障がい者用を支援する入出力装置を学ぶ。
復習時間 : 120分
自助具および障がい者用キーボードやスクリーンキーボードなど入出力を支援する装置を学ぶ。

第10回 視覚障害と支援機器 (I)

予習内容 : 目の機能を調べる。
復習内容 : 視覚障害、ロービジョンを理解する。
目の機能およびその能力が低下したとき状況について学修する。

第11回 視覚障害と支援機器 (II)

予習内容 : 視覚障がい者の支援機器について調査する。

予習時間 : 120分

復習内容 : 提出レポートを作成する。

復習時間 : 120分

視覚障がい者（ロービジョン者等）を支援する機器・用具について学ぶ。

第12回 ワークショップ：視覚障がい者（ロービジョン者等）の支援機器（Ⅰ）

予習内容 : 提出レポートを完成させる。

予習時間 : 120分

復習内容 : ワークショップの内容を復習する。

復習時間 : 120分

ワークショップ：視覚障がい者（ロービジョン者等）の支援機器を実施し、プレゼンテーション資料を完成させる。

第13回 ワークショップ：視覚障がい者（ロービジョン者等）の支援機器（Ⅱ）

予習内容 : プレゼンテーションの準備をする。

予習時間 : 120分

復習内容 : プレゼンテーションの内容を復習する。

復習時間 : 120分

ワークショップ：視覚障がい者（ロービジョン者等）のプレゼンテーションを行う。

第14回 聴覚障害と支援機器

予習内容 : 蝸牛、半規管などの機能を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 耳の機能と働きおよびそれらの機能が低下した時の状況について理解する。

復習時間 : 120分

耳の機能と働きおよびそれらの機能が低下した時の状況について学ぶ。

第15回 高齢者支援技術

予習内容 : 高齢社会の現状を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 高齢社会の状況と高齢者を支援する技術を理解する。

復習時間 : 120分

高齢社会の状況と高齢者を支援する技術について学ぶ。

定期試験

科目名：人間工学			
英文名：Ergonomics			
担当者：北山 一郎			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

人間工学とは、人間と機械との整合性を探求し、それぞれの特性、特徴を生かした安全で快適なシステムを設計するための学問領域である。本講義では、人間の身体構造や感覚および運動機能の特徴を説明し、人間と機械との接点である表示器、操作器などマンマシンインターフェースについて論じる。さらに、自動車、コンピュータ、操作盤、作業用具などの実際に存在する機械や道具等の製品を人間工学的に設計する際の手法と留意点について力学、心理学、生理学、運動学的概念を取り入れながら解説する。

■学習・教育目標および到達目標

本講義では、“人にやさしい機械”を設計するために必要とされる人及び人と機械の接点に関する基本事項を解説する。特に、人間の感覚、運動機能、などの基礎事項を確実に理解するとともに、人が効率良く機械を操作するためにはどのような設計概念が必要であるかについて人間工学に関わる法則を含め理解すること。また、人間工学的な評価手法については実例での計算ができるよう確実に理解すること。同講義は、学科ディプロマポリシーの“1. 関心・意欲・態度”の人間支援ロボットに係る課題抽出と解決力の向上、“4. 知識・理解”の人間工学の基板技術の理解及びユニバーサルデザインの設計思想と創造性の獲得に係る講義である。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に前回の課題の解説を行います。

■教科書

[ISBN]9784889221244 『エンジニアのための人間工学』(横溝 克己, 日本出版サービス : 2013)

■参考文献

[ISBN]9784777513741 『はじめてのAHP—すぐ使える意志決定手法! Analytic Hierarchy Process (I・O biz)』(武田 正則, 工学社 : 2008)

■関連科目

人間医工学概論、生理学、福祉情報デザイン、ユニバーサルデザイン、福祉機器デザイン

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中課題 (ミニツツペーパー) 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

北山研究室 (西1号館1階152)・kitayama@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 人間工学とは

予習内容 : 人間工学について調べる。

予習時間 : 90分

復習内容 : 人間工学が説明できるように、機械の有すべき8要件を覚える。

復習時間 : 150分

人間工学の意味と重要性および優れた機械の有すべき要件について学ぶ。

第2回 マンマシンシステム

予習内容 : マンマシンシステムを調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : マンマシンシステムの図が画けるように学修する。

復習時間 : 120分

マンマシンシステムとマンマシンインターフェースについて学ぶ。

第3回 人間の生理的仕組みと特性

予習内容 : 人間の基本的仕組みを調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 人間の生理的を理解する。特にホメオスタシスを理解する。

復習時間 : 120分

人間の生理的仕組みと特性について学ぶ。

第4回 人間の心理的仕組みと特性

予習内容 : 人間の受容器を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 人間の反応や認知機能を理解する。

復習時間 : 120分

人間の受容器における反応（Weber-Fechnerの法則）や認知機能などを学修する。

第5回 反応時間と身体的特性

予習内容 : Hickの法則を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 人間反応時間に係る法則および作業域など人間の身体的特性等を理解する。

復習時間 : 120分

人間反応時間に係る法則および作業域など人間の身体的特性について学ぶ。

第6回 視覚表示器（Ⅰ）

予習内容 : 目の構造を調べ、確認する。

予習時間 : 120分

復習内容 : 目の構造、視覚の特性、基本的な視覚表示器について理解する。

復習時間 : 120分

目の構造および視覚の特性、さらにそれを利用した基本的な視覚表示器について学ぶ。

第7回 視覚表示器（Ⅱ）

予習内容 : 視覚表示器の事例を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 視覚表示器の特性と表示器の事例を理解する。

復習時間 : 120分

視覚表示器の特性について個々の事例を基に詳細に学修する。

第8回 聴覚表示器・触覚表示器

予習内容 : 耳の構造を調べ、確認する。

予習時間 : 120分

復習内容 : 耳の構造、聴覚の特性、聴覚表示器さらに触覚表示器について理解する。

復習時間 : 120分

耳の構造、聴覚の特性およびそれを用いた聴覚表示器、さらには触覚表示器について学ぶ。

第9回 操作器

予習内容 : 手や足による操作器を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 手や足の機能とそれらを用いた操作器の機能・特性を理解する。

復習時間 : 120分

手や足の機能とそれらを用いた操作器について学ぶ。

第10回 操作器寸法と形状

予習内容 : 把持の形態の種類について調べる。

予習時間 : 1分

復習内容 : 操作器の寸法、把持の形態を理解する。

復習時間 : 120分

操作器の寸法、把持の形態について学ぶ。

第11回 マン-マシンインターフェースの配置

予習内容 : C/D比について調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : マン-マシンインターフェースと人間との空間配置に関する事項を理解する。

復習時間 : 120分

マン-マシンインターフェースと人間との空間配置および配置例について学ぶ。

第12回 スピード

予習内容 : Fittsの法則を調べる。

予習時間 : 1分

復習内容 : 人間の情報処理時間および負担について理解する。

復習時間 : 120分

マン-マシンシステムとの関連として人間の情報処理時間について学修する。

第13回 操作手順と駆動方法

予習内容 : 使いやすさとは何かを調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 機器・用具の使いやすさに関する項目および事例を理解する。

復習時間 : 120分

機器・用具の使いやすさに関する項目および使いやすさについて学修する。

第14回 漏洩物

予習内容 : 電磁波・音波を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 漏洩物の種類とそれによる人体への影響を理解する。

復習時間 : 120分

漏洩物の種類とそれによる人体への影響を学ぶ。

第15回 人間工学の技法

予習内容 : 人間工学的技法の一つであるAHPを調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 人間工学の技法の概要を理解し、AHPが使用できるようにする。

復習時間 : 120分

人間工学の技法の概要とAHPについて学ぶ。

定期試験

科目名： 建築と照明			
英文名： Architecture and Lighting			
担当者： <small>カタヤマ イチロウ</small> 片山 一郎			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

照明や色彩は、我々の生活のあらゆる場面で活用されているが、あまりに身近すぎてそれらの効果を意識することもない。しかし、照明や色彩によって空間はさまざまに表情を変化させる。本講義では、照明や色彩をうまく生かした空間を実現するために必要な基礎的事項および活用事例を解説する。

■学習・教育目標および到達目標

照明により、空間はさまざまに表情を変化させることを理解する。光と色に関する基礎事項および建築計画やインテリアデザインにおける照明の活用方法を理解する。
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 2 の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784274102752 『光と色の環境デザイン』(オーム社：2001)

■参考文献

[ISBN]9784274205842 『空間デザインのための照明手法』(オーム社：2008)

■関連科目

カラーコーディネーションの心理学、環境心理学

■成績評価方法および基準

定期試験 70%
小テスト 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

片山研究室(東1号館2階216)・katayama@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜5限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 基礎的事項の確認

第2回 日照

第3回 日射

第4回 測光量 (I)

第5回 測光量 (II)

第6回 測光量 (III)

第7回 明視環境

第8回 採光（Ⅰ）

第9回 採光（Ⅱ）

第10回 人工照明

第11回 照明方式

第12回 照度計算

第13回 各種空間の照明

第14回 光と生体リズム

第15回 色彩

定期試験

科目名： 福祉機器デザイン			
英文名： Design of Assistive Technology			
担当者： <small>キタヤマ イチロウ</small> 北山 一郎			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

障がい者、高齢者の生活を支援する機器の設計には、加齢や障害等の特性に応じたデザイン手法が要求される。本講では、はじめに、福祉機器設計の基礎となる力学等の基礎学問を学ぶ。ついで、移動・運動機能支援機器、生活環境支援機器、バリアフリーを実現する機器・技術の現状と問題点について学びを進めて行く。また、移動支援技術の成果である最新の義肢装具などの具体的な事例をもとに、生体運動機能解析と電子・機械工学の知識に基づくデザイン手法について解説する。ワークショップを通じて福祉技術の考え方について意見を交換・集約する。なお、本講義には福祉住環境コーディネータの資格と結びつく内容を含む。

■学習・教育目標および到達目標

障がい者、高齢者の生活の実際を学びながら、それらの人々を支援する現状の機器について、目的と動作原理を理解すること。さらに、障害の特性に応じた機器等がデザインできるよう、福祉機器設計のための基礎概念と手法を学ぶこと。また、基礎事項として、様々な事例を用いて平易にかつ詳細に繰り返し説明するので、その結果として福祉用具とそれを使用する人との間で生じる力学的状態を理解し、福祉用具に力のベクトルが記載できることを求める。同講義は、学科ディプロマポリシーの“1. 関心・意欲・態度”の人間支援ロボットに係る課題解決力の向上、“4. 知識・理解”の人間工学の基板技術の獲得及びユニバーサルデザインに基づく設計の推進と創造力向上に係る講義である。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に前回の課題の解説を行います。

■教科書

[ISBN]9784339070910 『生命・医療・福祉ハンドブック』(早稲田大学生命・生体・福祉研究所, コロナ社 : 2007)

■参考文献

e-A T利用促進協会 詳解 福祉情報技術 (2011)

[ISBN]9784339045239 『基礎 福祉工学 (ロボティクスシリーズ)』(手嶋 教之, コロナ社 : 2009)

■関連科目

ユニバーサルデザイン概論、生体機能・解剖学、福祉情報デザイン、生理学、人間工学

■成績評価方法および基準

定期試験 75%

授業中課題 (ミニッツペーパー) 15%

グループ単位のプレゼンテーション・レポート 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

北山研究室 (西1号館1階152)・kitayama@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 福祉機器について

予習内容 : 教科書の目次および福祉用具関連項目を購読する。

予習時間 : 120分

復習内容 : 福祉機器の概要と工学との関連を理解する。

復習時間 : 120分

福祉機器の概要と工学との関連を学ぶ。

第2回 福祉機器と力学 (I)

予習内容 : ニュートン力学について学んだことを確認しておく。

予習時間 : 120分

復習内容 : ニュートンの並進運動と回転運動の法則、それらの福祉用具との関連を理解する。

復習時間 : 120分
ニュートンの並進運動の法則と回転運動の法則、それらの福祉用具との関連について学修する。

第3回 福祉機器と力学(Ⅱ)

予習内容 : 力のベクトルについて調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : 福祉機器にかかる力のベクトルの記載ができるようにする。
復習時間 : 120分
福祉機器にかかる力のベクトルの記載について学修する。

第4回 人体と福祉機器(Ⅰ)

予習内容 : モーメントについて調べておく。
予習時間 : 120分
復習内容 : 人体モデルにおける力ベクトル、モーメントベクトルの釣り合いを理解する。
復習時間 : 120分
人体モデルにおける力ベクトルの釣り合い、モーメントベクトルの釣り合いについて学ぶ。

第5回 人体と福祉機器(Ⅱ)

予習内容 : 3点支持を調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : 医療での機器にかかる力のベクトルが記載できるようにする。
復習時間 : 120分
医療現場等で重要な“3点支持”について、力学的観点からの分析を学ぶ。

第6回 人体と福祉機器(Ⅲ)

予習内容 : ベクトルの外積を調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : 福祉機器における力のベクトルとモーメントベクトルおよびその計算を理解する。
復習時間 : 120分
福祉機器における力のベクトルとモーメントベクトルおよびその計算方法について学ぶ。

第7回 高齢者の作業能力・自立支援

予習内容 : WHOのICFを調べる。
予習時間 : 1分
復習内容 : ICFおよび加齢変化について理解する。
復習時間 : 120分
WHOのICFおよび加齢変化について学ぶ。

第8回 車いす・電動車いす

予習内容 : 電動車いすを含む車いすの種類を調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : 車いすおよび電動車いすの種類と機能および力学との関連を理解する。
復習時間 : 120分
車いすおよび電動車いすの種類と機能および力学との関連を学ぶ。

第9回 歩行補助機器・心電図モニター

予習内容 : ロフトランドクラッチを調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : T字杖、ロフトランドクラッチ、歩行器とそれらにかかる力ベクトルが記載できるようにする。心電図についても理解する。
復習時間 : 120分
T字杖、ロフトランドクラッチ、歩行器とそれらにかかる荷重および心電図について学ぶ。

第10回 介護支援機器、介護ベッド

予習内容 : 介護支援システムについて調べる。
予習時間 : 120分
復習内容 : 介護支援のついて学ぶとともに、そこで使用されている介護支援機器、介護ベッドについて機構等を理解する。
復習時間 : 120分

介護支援のついて学ぶとともに、そこで使用されている介護支援機器、介護ベッドについて学ぶ。

第11回 福祉車両・福祉機器

予習内容 : 福祉車両を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 福祉車両・福祉機器の機能とそれらにかかる荷重状態を理解する。

復習時間 : 120分

福祉車両・福祉機器について様々な事例およびそこでの力学を学ぶ。

第12回 生活支援ロボット

予習内容 : ワークショップ(生活支援ロボット)のレポートのための調査を行う。

予習時間 : 120分

復習内容 : ワークショップレポートの作成を行う。

復習時間 : 120分

生活支援ロボットの応用が期待される分野について詳細を学ぶ。

第13回 ワークショップ

予習内容 : レポート課題を完成させる。

予習時間 : 180分

復習内容 : プレゼンテーション内容を復習する。

復習時間 : 60分

調査した生活支援ロボットについてグループディスカッションを行い、まとめた内容についてプレゼンテーションを行う。同時に、調べた内容等のレポートを提出する。

第14回 筋電・脳波

予習内容 : 筋電と脳波を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 筋電図および脳波を理解する。

復習時間 : 120分

筋電図および脳波について学修する。

第15回 医療福祉機器

予習内容 : 血流量計、血圧計を調べる。

予習時間 : 120分

復習内容 : 主な医療福祉に関連する機器の概要と原理を理解する。

復習時間 : 120分

医療福祉に関連する機器として、血流量計、血圧計、MRIなどについて基礎事項を学ぶ。

定期試験

科目名：ユニバーサルデザイン			
英文名：Universal Design			
担当者： <small>ヒロカワ ノリヤス</small> 廣川 敬康			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

本講義では、ユニバーサルデザイン（UD）の実現方法を習得するために、UD開発プロセスと評価方法について学ぶ。UDマトリックスやUDマトリックスアイデアシートによる評価と設計についての講義とワークショップ等の演習を行うことによって、UDを具現化するための方法を身につける。

■学習・教育目標および到達目標

UDの開発プロセスを理解し、UDマトリックスとUDマトリックスアイデアシートによるUDの評価方法とデザインコンセプトの構築方法を習得すること。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

[ISBN]9784320071551『ユニバーサルデザイン実践ガイドライン』（日本人間工学会, 共立出版：2003）

■参考文献

[ISBN]9784819025027『人間工学とユニバーサルデザイン新潮流—実践ヒューマンセンタードesignのものづくりマニュアル』（日本工業出版：2013）

[ISBN]9784526073427『トコトンやさしいユニバーサルデザインの本(第2版) (今日からモノ知りシリーズ)』（宮入賢一郎, 日刊工業新聞社：2014）

[ISBN]9784251093912『ユニバーサルデザイン—みんなの暮らしを便利に 〈1〉 ユニバーサルデザインってなに?』（成松 一郎, あかね書房：2006）

[ISBN]9784251093929『ユニバーサルデザイン—みんなの暮らしを便利に 〈2〉 暮らしの中のユニバーサルデザイン』（星野 恭子, あかね書房：2006）

[ISBN]9784251093936『ユニバーサルデザイン—みんなの暮らしを便利に 〈3〉 まちのユニバーサルデザイン』（中和 正彦, あかね書房：2006）

[ISBN]9784822235017『ユニバーサルデザインの教科書 第3版』（日経BP社：2015）

■関連科目

ユニバーサルデザイン概論、生理学、人間工学、ユニバーサルデザイン・CAD演習 I、ユニバーサルデザイン・CAD演習 II

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

授業中の発表 40%

レポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

廣川研究室（西1号館2階258）・hirokawa[at]waka.kindai.ac.jp [at]は半角の@に変更してください

■オフィスアワー

金曜2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 UDとガイドライン(1)

第2回 UDとガイドライン(2)

第3回 UDとガイドライン(3)

第4回 UD開発のプロセス(1)

第5回 UD開発のプロセス(2)

第6回 ユーザ分類表

第7回 UDマトリックス

第8回 簡易型要求事項抽出方法

第9回 ワークショップ(1)

第10回 ワークショップ(2)

第11回 ワークショップ(3)

第12回 ワークショップ(4)

第13回 ワークショップ(5)

第14回 ワークショップ(6)

第15回 ワークショップ(7)

定期試験

科目名：ユニバーサルデザイン・CAD演習 I			
英文名：Exercises of Universal Design and CAD 1			
担当者： <small>ヒロカワ ノリキス ニシガキ ツトム</small> 廣川 敬康・西垣 勉			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

すべての人が使いやすい製品を作るユニバーサルデザインの考え方を理解するために、市販のソフトウェア「Body Shape Designer(BSD)」を用いて精密人体モデル（デジタルマネキン）を生成し、利用する演習を行う。

■学習・教育目標および到達目標

3次元CADによるモデリング技術を習得し、3次元空間内の実体のある物をコンピュータ上の仮想的な物体として表現したり、コンピュータ上に表現された仮想的な物体を3次元空間内の実体のある物として認識したりできること。CADによる2次元製図の基礎を習得し、製図図面から3次元空間内の製品を認識できること。コンピュータ上に構築した幾何学的な人体モデルに人体各部のサイズや関節角度等を設定することによって、人体の姿勢や運動の操作、静力学解析や物体間の幾何学的な干渉チェック、リーチや視野の評価が行えること。さらにこれらの技能を利用して、人体の身体的特性と、年齢・性別等によるそれらの特性のばらつきを踏まえて、デジタルマネキンを利用したユニバーサルデザインの実現方法を習得すること。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回以降の授業時間に講評をします。

■教科書

[ISBN]9784274069529 『JISにもとづく標準製図法 第13全訂版』(大西 清, オーム社：2010)

■参考文献

[ISBN]9784798017891 『AutoCADではじめる3Dモデリング&レンダリング』(堀川 裕己, 秀和システム：2007)

[ISBN]9784774177991 『[JIS対応] 実践 AutoCAD/AutoCAD LT 製図入門』(稲葉 幸行, 技術評論社：2015)

[ISBN]9784797340365 『基礎から学ぶAutoCAD 2008 2D作図編 (ヒューマンアカデミー Professional養成ゼミ)』(ヒューマンアカデミー, ソフトバンククリエイティブ：2008)

■関連科目

ユニバーサルデザイン概論、プロダクトデザイン、生体機能・解剖学、スケッチと製図、生理学、人間工学、ユニバーサルデザイン、ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅱ、ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅲ、3次元CADプロダクトデザイン

■成績評価方法および基準

総合演習 30%

レポート・製図等課題（全課題を提出すること）70%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

廣川研究室（西1号館2階258）・hirokawa[at]waka.kindai.ac.jp [at]は半角の@に変更してください

西垣研究室（西1号館3階352）・nisigaki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

廣川：金曜2限

西垣：木曜5限 事前にメールにてアポイントをとって下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 3次元物体の生成(1)：CADの概念、プリミティブの生成と変形・移動

第2回 3次元物体の生成(2)：生活関連機器の生成（杖）

第3回 3次元物体の生成(3)：生活関連機器の生成（ベンチ）

第4回 コンピュータによる2次元製図(1)：2次元基本図形の作成

- 第5回 コンピュータによる2次元製図(2)：2次元図形の作成、寸法記入
- 第6回 コンピュータによる2次元製図(3)：生活関連機器の製図（杖）
- 第7回 コンピュータによる2次元製図(4)：生活関連機器の製図（ベンチ）、総合演習(1)
- 第8回 BSDの基本操作(1)：デジタルマネキンの概念と生成・移動・姿勢変更
- 第9回 BSDの基本操作(2)：デジタルマネキンの姿勢変更
- 第10回 BSDの基本操作(3)：ベンチへの着座・ベンチからの立ち上がりとバランス表示
- 第11回 BSDの基本操作(4)：静的力学負荷の評価
- 第12回 BSDの基本操作(5)：製品使用時の姿勢の変更と静的力学負荷の評価
- 第13回 BSDの基本操作(6)：視野とリーチの評価、総合演習(2)
- 第14回 杖のユニバーサルデザイン(1)：関節角度の評価と杖長さの適正化
- 第15回 杖のユニバーサルデザイン(2)：静的力学負荷の評価

科目名：ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅱ			
英文名：Exercises of Universal Design and CAD 2			
担当者： <small>ヒロカワ ノリヤス ニシガキ ツトム</small> 廣川 敬康・西垣 勉			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

すべての人が使いやすい製品を作るユニバーサルデザイン(UD)の考え方を理解するために、市販のソフトウェア「Body Shape Designer(BSD)」を用いて精密人体モデル（デジタルマネキン）を生成し、利用する演習を行う。

■学習・教育目標および到達目標

コンピュータ上に構築した幾何学的な人体モデルに人体各部のサイズや関節角度等を設定することによって、人体の姿勢や運動の操作、静力学解析や物体間の幾何学的な干渉チェック、リーチや視野の評価が行えること。さらに、これらの技能を利用して、人体の身体的特性と、年齢・性別等によるそれらの特性のばらつきを踏まえ、デジタルマネキンを利用して具体的な生活関連機器のユニバーサルデザインの実現方法を習得すること。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 3の達成に参与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回以降の授業時間に講評をします。

■教科書

[ISBN]9784274069529 『JISにもとづく標準製図法 第13全訂版』(大西 清, オーム社:2010)

■参考文献

[ISBN]9784798017891 『AutoCADではじめる3Dモデリング&レンダリング』(堀川 裕己, 秀和システム:2007)

[ISBN]9784774177991 『[JIS対応] 実践 AutoCAD/AutoCAD LT 製図入門』(稲葉 幸行, 技術評論社:2015)

[ISBN]9784797340365 『基礎から学ぶAutoCAD 2008 2D作図編 (ヒューマンアカデミー Professional養成ゼミ)』(ヒューマンアカデミー, ソフトバンククリエイティブ:2008)

■関連科目

ユニバーサルデザイン概論、プロダクトデザイン、生体機能・解剖学、スケッチと製図、生理学、人間工学、ユニバーサルデザイン、ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅰ、ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅲ、3次元CADプロダクトデザイン

■成績評価方法および基準

レポート・製図等課題（全課題を提出すること）70%
グループ演習課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

廣川研究室（西1号館2階258）・hirokaw[at]waka.kindai.ac.jp [at]は半角の@に変更してください
西垣研究室（西1号館3階352）・nisigaki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

廣川：金曜2限
西垣：木曜5限 事前にメールにてアポイントをとって下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 車いすの使用を考慮したUD(1)：車いすの3次元モデリング

第2回 車いすの使用を考慮したUD(2)：車いす運転時の負荷の分析

第3回 自転車のUD(1)：自転車の3次元モデリング

第4回 自転車のUD(2)：自転車使用時の姿勢と静的力学負荷の分析

第5回 システムキッチンのUD(1)：基本サイズのキッチンシンクの評価

- 第6回 システムキッチンのUD(2)：システムキッチンのユニバーサルデザイン
- 第7回 LDKのUD(1)：ダイニング・キッチン・リビングの3次元モデリング
- 第8回 LDKのUD(2)：ダイニング・キッチン・リビングの使いやすさの評価と設計
- 第9回 生活用品のUD(1)：グループ演習での課題決定と情報収集
- 第10回 生活用品のUD(2)：対象製品の情報収集と3次元モデリング
- 第11回 生活用品のUD(3)：対象製品使用時の使いやすさの評価(1)
- 第12回 生活用品のUD(4)：対象製品使用時の使いやすさの評価(2)
- 第13回 生活用品のUD(5)：対象製品の設計変更(1)
- 第14回 生活用品のUD(6)：対象製品の設計変更(2), プレゼンテーション準備
- 第15回 生活用品のUD(7)：プレゼンテーション

科目名：ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅲ			
英文名：Exercises of Universal Design and CAD 3			
担当者： <small>オオマサ ミツシ</small> 大政 光史			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

さまざまな体型に合わせた機器の形状を考案し、CADと連携した構造解析による確認を行うことによって、機器のユニバーサルデザインの演習を行う。

■学習・教育目標および到達目標

機器や生活用品の寸法や材質を変更することによって、すべてのユーザに適合させるユニバーサルデザインの実践的なスキルを身につける。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 3の達成に主体的に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回の授業時間に課題の採点と解説をします。

■教科書

資料を配付する。

■参考文献

特になし。

■関連科目

ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅰ、Ⅱ、3次元CADプロダクトデザイン

■成績評価方法および基準

演習課題 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

大政研究室（西1号館3階351）・ohmasa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

前期は水曜4限と木曜4限、後期は水曜3限と木曜3限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 設計デザインと構造解析

第2回 二次元モデルの解析方法

第3回 荷重条件の種類と有効数字

第4回 境界条件の種類と単位系

第5回 三次元モデルの解析方法

第6回 CADデータをもとにした構造解析

第7回 構造解析のための形状分割

第8回 三次元ワイヤーフレーム構造の解析

第9回 自転車の構造解析をもとにした設計(1)

第10回 自転車の構造解析をもとにした設計(2)

第11回 自転車の構造解析をもとにした設計(3)

第12回 車椅子の構造解析をもとにした設計(1)

第13回 車椅子の構造解析をもとにした設計(2)

第14回 車椅子の構造解析をもとにした設計(3)

第15回 各種解析とまとめ

科目名： 3次元CADプロダクトデザイン			
英文名： Product Design using 3D CAD system			
担当者： <small>ナカガワ ヒデオ</small> 中川 秀夫			
単 位： 2単位	開講年次： 3年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

モノづくりは、「頭の中で考えたアイデアを様々な知識を活用して具体化し、実際のモノの形状に表していく一連のプロセス」です。設計者の頭の中に浮かんだアイデアを他人と共有し、相互に理解し合うためには共通のルールとコミュニケーションが必要です。3次元CADを用いた演習を通して、アイデアの具現化と共通のルール、コミュニケーション能力を身につけます。

複数のグループに分かれて、ユニバーサルデザインによる生活支援システム（掃除ロボットなど）の構想設計（設計の5W1H、機能定義）、詳細設計（材料力学などの知識を用いた計算、重心、重量、塗装量、コスト計算）、樹系図について学びます。チームデザインによる3次元モデリング、カタログ・組立指示書の作成を通してコミュニケーション能力を高めることができます。

■学習・教育目標および到達目標

この授業を履修することによって、次のような能力が修得できます。

- 1) ハイエンドの3次元CADソフトであるCREOを用いて、基本的なモデルを作成する技術が身に付きます。
- 2) 演習を通して、アイデアを具現化する方法や、共通のルール、コミュニケーション能力が修得できます。
- 3) 具体的な生活支援ロボット（掃除ロボット）について、構想設計、詳細設計、樹系図、組立指示書などを作成することにより企業における設計作業を理解することができます。

この科目の修得は本学科の定めるディプロマポリシーの3-1) および3-2) の達成に主体的に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

毎回の演習課題の操作方法を説明した資料ファイルを共通ドライブに公開しているので、常時閲覧できます。

スキルチェックテストの採点結果は、採点ポイントとともに演習室内に公開します。

スキルチェックテストで多数の不正解があった項目については、翌回に手順を解説します。

各グループの作品モデルは、全体発表会で公開され、受講者全員の評価コメントを受け取ることができます。

■教科書

特になし。（モデル作成手順書を公開します）

■参考文献

[ISBN]9784274069529 『JISにもとづく標準製図法 第13全訂版』（大西 清, オーム社 : 2010)

■関連科目

ユニバーサルデザイン・CAD演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

■成績評価方法および基準

各回演習課題 50%

スキルチェックテスト（実技テスト）20%

最終レポート 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

中川研究室（東1号館1階102）・nakagawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日 2限

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス、チーム設計演習（1）

予習内容： 機械設計作業の一般的な手順について調査しておく

予習時間： 120分

復習内容： チームの課題コンセプト（5W2H）を明確にし、キャッチフレーズを考える

復習時間： 120分

演習手順、チーム編成、課題について説明し、各チームでコンセプトづくりに取り掛かります。

第2回 CAD演習（1）、チーム設計演習（2）

3次元CAD(CREO)の基本操作について説明する。チーム作業では仕様の決定と機能のリストアップを行う。

第3回 CAD演習(2)、チーム設計演習(3)

CAD演習では「文鎮」のモデリングを行います。チーム設計演習では前回決めたコンセプトに従ってそれを数値化し、仕様(大きさ、重量、速度)を決定します。

第4回 CAD演習(3)、チーム設計演習(4)

CAD演習ではブラケットモデルを作成します。またチーム設計演習では掃除ロボットの駆動系に使用するモータを消費エネルギーの観点から選定し、および必要な電池の種類、本数を決定します。

第5回 CAD演習(4)、チーム設計演習(5)

CAD演習では前回のブラケットモデルを使ったブラケット図面を作成します。チーム設計演習ではギヤボックスの設計を行います。

第6回 CAD演習(5)、チーム設計演習(6)

CAD演習では回転によって「ボルト」のモデルを作成し、前回習得した図面作成方法によりそのボルトモデルを図面化します。またチーム設計演習では、全体配置図、機構検討を行います。

第7回 CAD演習(6)、チーム設計演習(7)

CAD演習では、これまで作成してきたブラケット、ボルトの部品モデルを用いて組立図(アセンブリ)を作成し、それを用いて図面化して組み立て指示書を作成します。チーム設計演習では、樹系図とポンチ絵の作成を行います。

第8回 スキルチェックテスト、チーム設計演習(8)

CAD操作の実技テストとしてスキルチェックテストを実施します。問題用紙に指示されたようにモデルを作成したり与えられたモデルを修正したりして提出します。チーム設計演習では、樹系図のEXCELへの転記、モデル作成担当者の決定、材質の決定などを行い、掃除ロボットモデル作成準備を行います。

第9回 チーム設計演習(9)

前回提出した樹系図の指摘事項を修正し、必要な部品・組み立ての全ファイルを空で作成します。

第10回 チーム設計演習(10)

空ファイルの構成、共通部品のコピー、1フィーチャー部品のモデリングを行います。

第11回 チーム設計演習(11)

アセンブリファイルのモデル間距離調整、ギヤボックスの作成を行います。

第12回 チーム設計演習(12)

干渉チェック、重量の計算、オフセット調整を行います。

第13回 チーム設計演習(13)

CADを用いたプレゼン方法について説明します。次回の発表会に向けてプレゼン資料(PowerPoint)を作成し、CADモデルをプレゼン用に修正します。

第14回 デザインレビュー

作品発表会で、各チームがコンセプトや設計手順についてCADモデルを用いて発表します。発表チーム以外の全員が質問し、採点します。

第15回 チームおよび個人の設計レポートの作成

チームとしての作品制作過程をまとめたレポートを担当部分ごとに作成し、各個人レポートを加えて1冊のレポートを作成し提出します。

科目名： 造形デザイン実習			
英文名： Practice of Industrial Design and Machining Process			
担当者： <small>フジタ コウジ ヤマダ タカシ アオキギ エイジ ハリマ シゲトシ</small> 藤田 浩司・山田 崇史・青柳 栄治・播摩 重俊			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

プロダクトの設計等を行うためには、各種の加工方法やその特徴を知る必要がある。また、プロダクトの構成要素をどの順番でどのように組み立てるのかや組み立て完成品を環境内に適切に配置するする能力も要求される。以下に示すテーマについて実習を行い、これらの素養を確立する。

(1) 部品の締結に不可欠なねじ・ボルトの切削加工と組み立てをテーマとして、設計図の作成、加工、精度測定、組み立てなどの一連の技術を実習する。

(2) モノづくりにおいて、そのモノの立体的なイメージを二次元の紙面上で伝えることが求められる。インテリアパースの作図を通じて、住空間や家具などを紙面上に立体的・視覚的に表現する方法を学ぶ。

■学習・教育目標および到達目標

本実習を通して、

(1) ねじの設計製図と加工方法および締結機構と強度計算ができるようになる。

(2) 1 消点の透視投影法を理解し、イメージした空間のスケッチパースが描けるようになる。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 3 の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

第 15 回目に、各課題のレポート・提出物について講評し、要点を解説します。

■教科書

[ISBN]9784274069529 『JISにもとづく標準製図法 第13全訂版』(大西 清, オーム社 : 2010)

課題毎に資料を配付する

■参考文献

特になし。

■関連科目

スケッチと製図、プロダクトデザイン

■成績評価方法および基準

レポート 70%

課題提出物 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

藤田研究室 (東1号館2階201)・fujita@waka.kindai.ac.jp

山田研究室 (西1号館2階254西)・yamada@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜 2 限 (藤田 (代表教員) のオフィスアワー)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第 1 回 造形デザインにおける機械加工と安全管理 (全体講義)

第 2 回 造形デザインにおける意匠設計の技法 (全体講義)

第 3 回 S : ねじの設計と製図

第 4 回 S : 締結ねじの強度

第 5 回 S : おねじの機械加工

第6回 S：おねじの形状精度測定

第7回 S：めねじの機械加工

第8回 S：ねじの締め込みと組み立て精度

第9回 D：インテリアパース（LDKの配置計画）

第10回 D：インテリアパース（LDKの立面図）

第11回 D：インテリアパース（LDKの1消点透視投影）（1）

第12回 D：インテリアパース（LDKの1消点透視投影）（2）

第13回 D：インテリアパース（LDKの1消点透視投影）（3）

第14回 D：インテリアパース（LDKの1消点透視投影）（4）

第15回 各テーマの総括と学習事項の上級履修への反映方法について（全体講義）

科目名： 専門ゼミ			
英文名： Subject Seminar			
担当者： <small>ニンゲンコウガクカゼンキョウイン</small> 人間工学科全教員			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

専門ゼミでは、1年次の基礎ゼミで学んだ大学で勉強する上で必要な課題の設定の仕方、情報の収集・調査・整理の仕方、プレゼンテーションの仕方をさらに発展させて、情報の収集・調査によって得られた内容を文章でまとめ、科学技術レポートを作成するための基本事項について学ぶ。また、創造的な思考能力を育成する目的で、ユニバーサルデザインに関する課題を設定し、各グループごとにアイデアを出し合い、これをプレゼンテーションするという形式のワークショップを行う。

■学習・教育目標および到達目標

1. 近畿大学の学生として、充実した学習・研究を今後遂行できるスキルと積極的に課題に取り組む姿勢を修得する。
 2. ユニバーサルデザインワークショップを通じて、人に配慮したモノづくりの考え方、さらにはコミュニケーション能力の向上を修得する。
- この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートの要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

特になし。

■参考文献

適宜資料を配付する。

■関連科目

人間工学科専門科目、基礎ゼミ

■成績評価方法および基準

授業中の発表 50%
レポート 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

(代表) 廣川研究室 (西1号館2階258) ・ hirokawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

複数教員のため、ユニバーサルパスポート (<https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html>) のオフィスアワーを参照ください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 専門ゼミの位置づけ

第2回 論理的に考えるとは

第3回 科学的文章の書き方とその工夫

第4回 情報の理解と伝達に必要な論理的思考について

第5回 情報の分析に必要な批判的思考について

第6回 情報の分析と理解から新しい知恵を生み出す創造的思考

第7回 プレゼンテーション(1)

第8回 プレゼンテーション(2)

第9回 プレゼンテーション(3)

第10回 プレゼンテーション(4)

第11回 ユニバーサルデザインワークショップ(1)

第12回 ユニバーサルデザインワークショップ(2)

第13回 ユニバーサルデザインワークショップ(3)

第14回 ユニバーサルデザインワークショップ(4)

第15回 報告書の作成

科目名：人間工学実験Ⅰ			
英文名：Human Engineering Experiments 1			
担当者：中川 秀夫・片山 一郎・谷本 道哉・藤田 浩司・野田 淳二			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

人間工学科の講義の中で学んだ自然界の法則や現象を自らの目で確認すること、心理学の実験データを統計学的にまとめて特性を見出すこと、人間工学的デザインの問題点を実験を通じて体得することは非常に重要である。また、研究開発の計画や研究成果の公表に際しては適切な報告書を作成する必要がある。本実験では、以下の示す、人間工学分野の中の生体計測学、心理学、人間工学、材料力学、熱科学に関するテーマについて、実験の進め方、各種測定法、実験データの整理法、報告書の作成について学習する。1. 生体計測実験：装具使用の有無や生活用品使用方法の適否による体重心の動揺性を評価する実験、2. 感覚・知覚心理学実験：ミュラー・リヤー図形における錯視量の測定、3. 人間工学実験：立ち上がり動作の違いによる筋活動レベル簿の変化と定量方法、4. 生体の力学実験：引っ張り試験による応力ひずみ線図、5. 温熱環境実験：サーモレーサによる生体温度計測

■学習・教育目標および到達目標

人間工学科で重要な技術分野の基本的な身体計測、心理学実験、人間工学、材料の性質、伝熱現象などをテーマとして、実験の進め方、各種測定法、実験データの整理法、報告書の作成について学修する。社会で求められる報告書には、①分かりやすく記述されている、②記述内容が正確である、③提出期限が守られている、などの条件があり、これらの条件を満たす報告書を作成するための基礎を身につけることができる。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 3の達成に関与しています。

■教科書

人間工学科 編「人間工学実験Ⅰ」を配付する。

■参考文献

各実験に関連する科目の教科書を参照することで、理解を深めることができる。

■関連科目

人間工学実験Ⅱ、人間工学科専門科目、卒業研究

■成績評価方法および基準

レポート 70%

実験への取り組みとして予習内容・正確なデータ測定と記録状態 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

藤田研究室（東1号館2階201）・fujita@waka.kindai.ac.jp

中川研究室（東1号館1階102）・nakagawa@waka.kindai.ac.jp

谷本研究室（東1号館1階110）・tanimoto@waka.kindai.ac.jp

片山研究室（東1号館2階216）・katayama@waka.kindai.ac.jp

野田研究室（西1号館2階252）・nodaj@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

前期：月曜2～3限

後期：金曜1～2限

（担当代表者：谷本まで）

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 人間工学実験Ⅰの進め方、実験データのまとめ方、報告書の作成方法

第2回 生体計測実験Ⅰ

第3回 生体計測実験Ⅱ

第4回 生体計測実験Ⅲ

第5回 感覚・知覚心理学実験Ⅰ

第6回 感覚・知覚心理学実験Ⅱ

第7回 感覚・知覚心理学実験Ⅲ

第8回 人間工学実験Ⅰ

第9回 人間工学実験Ⅱ

第10回 人間工学実験Ⅲ

第11回 生体の力学実験Ⅰ

第12回 生体の力学実験Ⅱ

第13回 温熱環境実験Ⅰ

第14回 温熱環境実験Ⅱ

第15回 人間工学実験Ⅰの総括

科目名：人間工学実験Ⅱ			
英文名：Human Engineering Experiments 2			
担当者：北山 一郎・楠 正暢・片山 一郎・谷本 道哉・野田 淳二			
単 位：2単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

人間環境デザイン工学科の講義の中で学ぶ①生理学、②カラーコーディネーションの心理学、③センシング工学、④材料力学Ⅰ、Ⅱ、⑤福祉機器デザインの知見を実験を通して体験し、確認するとともに、確認した内容を報告書として、分かりやすく、正確に、期限内にまとめることにより、より理解を深める。また、研究開発の計画や研究成果の公表に際して必要となる適切な報告書を作成する能力を向上させる。実験は、以下に示す5種類を対象として、実験を行った後に報告書の作成を行い、指導教員の承認を得る。最後に総括を行うことにより完結する。①運動時の酸素消費量とエネルギー効率、②色彩を定量的に測定する実験、③光センサを用いた計測と通信、④はりのたわみとひずみの計測、⑤福祉ロボットの作動原理とデータ計測。

■学習・教育目標および到達目標

人間環境デザイン工学科で重要な技術分野の専門的な5種類の実験を対象として、実験の進め方、測定機器の使用方法、実験データの整理方法、報告書の作成方法について体験を通して学修する。対象以外の実験を実施担当する際に、指導者の適切な指導のもとで、支障なく実験を実施し、適切な報告書を作成することができるようになる。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 3の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

受け取ったレポートの修正指示を担当各教員より行い、指示に従って再度提出していただきます。合格点に達したレポートを受理し、レポート作成の解説（印刷物）を最終授業回に配布します。

■教科書

人間環境デザイン工学科 編「人間環境デザイン工学実験Ⅱ」を配付する。

■参考文献

各実験に関連する科目の教科書を参照することで、理解を深めることができる。

■関連科目

人間工学実験Ⅰ、人間工学、生理学、カラーコーディネーションの心理学、流れ学、材料力学Ⅰ、Ⅱ、福祉機器デザイン、生活支援ロボット

■成績評価方法および基準

レポート 70%

実験への取り組みとして予習内容・正確なデータ測定と記録状態 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

楠研究室（東1号館1階111）・kusunoki@waka.kindai.ac.jp

北山研究室（西1号館1階152）・kitayama@waka.kindai.ac.jp

片山研究室（東1号館2階216）・katayama@waka.kindai.ac.jp

谷本研究室（東1号館1階110）・tanimoto-wk@waka.kindai.ac.jp

野田研究室（西1号館2階252）・nodaj@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜日3時限

(担当代表者：谷本まで)

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 人間環境デザイン工学実験Ⅱの進め方、実験データのまとめ方、報告書の作成方法

第2回 スポーツ健康科学実験Ⅰ

第3回 スポーツ健康科学実験Ⅱ

第4回 スポーツ健康科学実験Ⅲ

第5回 色彩実験Ⅰ

第6回 色彩実験Ⅱ

第7回 色彩実験Ⅲ

第8回 センシング実験Ⅰ

第9回 センシング実験Ⅱ

第10回 材料力学実験Ⅰ

第11回 材料力学実験Ⅱ

第12回 福祉ロボット・メカトロ実験Ⅰ

第13回 福祉ロボット・メカトロ実験Ⅱ

第14回 福祉ロボット・メカトロ実験Ⅲ

第15回 人間環境デザイン工学実験Ⅱの総括

科目名：人間工学演習 I			
英文名：Exercises of Biomechanical and Human Factors Engineering 1			
<small>ニンゲンコウガクカゼンキョウイン</small> 担当者：人間工学科全教員			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

人間工学における主要な学問分野である人間科学、医療・福祉、生体力学、環境科学の学びを深く掘り下げ、卒業研究の準備を行うことを目的とする。本演習では、学生は数名の教員で構成される研究室に属し、その指導のもとで、卒業研究に関連した専門知識を幅広く習得するための文献講読や文献紹介のプレゼンテーションを行う。文献を要約して報告書を作成することで、文書作成能力の養成も行う。

■学習・教育目標および到達目標

卒業研究に関連した専門知識を幅広く習得し、文献を要約して報告書を作成することで、文書作成能力を養う。この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートの要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

特になし。

■参考文献

適宜資料を配付する。

■関連科目

人間工学演習II、人間工学講究、人間工学科専門科目、卒業研究

■成績評価方法および基準

レポート 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

(代表) 廣川研究室 (西1号館2階258) ・hiroki@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

複数教員のため、ユニバーサルパスポート (<https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html>) のオフィスアワーを参照ください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回～第4回 研究室の学問分野の解説と文献検索

- ・研究分野の学修
- ・基礎資料の収集
- ・関連分野の文献・資料検索

第5回～第11回 文献・資料の要約、報告書の作成

- ・文献購読
- ・図表の解釈
- ・情報の分析と整理
- ・ディスカッション
- ・関連資料の調査
- ・報告書の作成

第12回～第15回 プレゼンテーション

- ・報告書による発表
- ・質疑応答
- ・総括

予習内容 : 各講義で指示された課題に取り組むこと。

復習内容 : 各講義で指示された課題に取り組むこと。

科目名：人間工学演習Ⅱ			
英文名：Exercises of Biomechanical and Human Factors Engineering 2			
担当者：人間工学科全教員 <small>ニンゲンコウガクカゼンキョウイン</small>			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

人間工学における主要な学問分野である人間科学、医療・福祉、生体力学、環境科学の学びを深く掘り下げ、卒業研究の準備を行うことを目的とする。本演習では、卒業研究の担当教員の個別指導のもとで、これまでに修得した知識をより高度に総合的に応用し、卒業研究の基礎となる演習を行う。さらに、卒業研究のテーマ設定を行い、実験設備や計算機システムの利用法を身につけ、4年時からの卒業研究が円滑に行えるようにする。

■学習・教育目標および到達目標

卒業研究の分野の専門知識について、より高度に総合的に理解を深め、さらに、卒業研究のテーマ設定を行い、実験設備や計算機システムの利用法を身につける。
この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 2の達成に関与しています。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートの要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

特になし。

■参考文献

適宜資料を配付する。

■関連科目

人間工学演習Ⅰ、人間工学講究、人間工学科専門科目、卒業研究

■成績評価方法および基準

レポート 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

(代表) 廣川研究室 (西1号館2階258) ・ hirokawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

複数教員のため、ユニバーサルパスポート (<https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html>) のオフィスアワーを参照ください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回～第4回 卒業研究のテーマ設定と資料収集

- ・研究テーマの学修
- ・資料の収集関
- ・分野の文献・資料検索

第5回～第11回 研究方法の学修と報告書の作成

- ・文献整理
- ・実験装置や計算機の習熟
- ・実験・解析の実施
- ・データ分析
- ・関連資料の調査
- ・報告書の作成

第12回～第15回 プレゼンテーション

- ・報告書による発表
- ・質疑応答
- ・総括

予習内容 : 各講義で指示された課題に取り組むこと。

復習内容 : 各講義で指示された課題に取り組むこと。

科目名：人間工学講究			
英文名：Research of Biomechanical and Human Factors Engineering			
<small>ニンゲンコウガクカゼンキョウウイン</small> 担当者：人間工学科全教員			
単 位：2単位	開講年次：4年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

国際的に活躍するグローバルエンジニア育成のために必要となる専門英語を身につけることを目的に、卒業研究に関連した英語学術論文あるいは英語専門書を輪読する。専門知識、用語、実験・解析の方法、考察の進め方などについての英語表現を学修し、研究室ごとに、輪読した文献の内容をプレゼンテーションすることによって理解を深める。

■学習・教育目標および到達目標

卒業研究に関連した英語学術論文あるいは英語専門書を輪読して英語表現を学修し、その要約をプレゼンテーションすることによって理解を深める。

この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー 2の達成に関与しています。

■教科書

特になし。

■参考文献

適宜資料を配付する。

■関連科目

人間工学演習I、人間工学演習II、人間工学科専門科目、卒業研究

■成績評価方法および基準

プレゼンテーション 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

(代表) 廣川研究室 (西1号館2階258) ・hiroka@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

複数教員のため、ユニバーサルパスポート (<https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html>) のオフィスアワーを参照ください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回～第11回 卒業研究に関連した英語学術論文または英語専門書の輪読

- ・専門用語の英語表現
- ・実験・解析方法の英語表現
- ・結果・考察の英語表現
- ・引用文献
- ・関連分野の文献・資料検索
- ・図表の解釈
- ・情報の分析と整理
- ・ディスカッション
- ・関連資料の調査
- ・報告書の作成

第12回～第15回 プレゼンテーション

- ・報告書による発表
- ・質疑応答
- ・総括

予習内容 : 各講義で指示された課題に取り組むこと。

復習内容 : 各講義で指示された課題に取り組むこと。

科目名：卒業研究			
英文名：Graduation Thesis			
担当者：人間工学科全教員 <small>ニンゲンコウガクカゼンキョウウイン</small>			
単 位：6単位	開講年次：4年次	開講期：通年	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

人間工学における3つの主要な学問分野である人間科学、機械科学、住環境科学に関する知識を統合・応用して、具体的な研究課題を自らの力で解き、研究成果を論文としてまとめ、発表する技術を養うことを目的とする。学生各自が関心のある研究室を選び、指導教員との討論や学生間での研究協力を通じて、研究に対する基本的姿勢を学びとると共に、人間性豊かな科学技術者の育成に役立てる。

■学習・教育目標および到達目標

1. 卒業研究の課題に対して自主的に調査し、問題解決するための研究計画を立案する能力を修得する。
 2. 実験・解析を計画・遂行する際、得られた結果に対して適切で正確な分析・解析を行い、工学的に考察する能力を修得する。
 3. 卒業論文、卒研発表では、論理的な記述力、口頭発表力、討論などのコミュニケーション能力を修得する。
- この科目の修得は、本学科の定めるディプロマポリシー2の達成に主体的に、ディプロマポリシー1、3および4の達成に付随的に関与しています。

■教科書

特になし。

■参考文献

課題に関連する資料を配付する。

■関連科目

専門必修科目、研究課題に係る専門科目、外国語

■成績評価方法および基準

論文内容 60%

論文発表 30%

中間発表 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

(代表) 廣川研究室 (西1号館2階258) ・ hirokawa@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

複数教員のため、ユニバーサルパスポート (<https://www.itp.kindai.ac.jp/index.html>) のオフィスアワーを参照ください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

OA作業時のイス体圧分布とその時間変動に関する研究
 バasketボールシューズのソールによる足圧力軽減効果に関する研究
 筋電図測定を用いた使いやすいスマートフォンのキー配置の研究
 デジタルマネキンを用いた生活関連用品のユニバーサルデザイン
 シート・クッションの形状・材質と人体の変形・圧力分布の解析
 人間の操作姿勢や動作範囲に配慮した車イスの設計
 バーチャルリアリティ技術を利用したつり革・手すりの転倒防止効果の研究
 骨折しない転び方の運動生理学的・人間工学研究
 運動靴の緩衝性能のメカニズムを解明する研究
 電車・バスの車内での転倒・骨折を防止する研究
 生体信号を活用した機器操作に関する研究
 人間の歩行を支援する機器・システムに関する研究
 ミカン収穫ロボットのハンドユニットの開発
 介助犬ロボットによる落下物の把持と回収動作
 住宅および事務所における床下暖房に関する研究
 潜熱蓄熱材の蓄熱性状に関する研究
 平板スピーカによる壁面透過騒音のアクティブ吸音
 高齢者の聴覚に合わせた音場デザイン
 住空間における配色効果の定量的評価に関する研究

各種光源の演色性評価に関する研究
歩行方法の工夫が生理学的負荷に与える影響
野球の変化球の動作特性の分析

教 職 課 程

教職課程

カリキュラム一覧	638
教職論	641
教育原理	643
教育心理学	645
教育行政学	647
教育課程論	649
道德教育論	653
特別活動論	657
教育方法学	659
生徒指導論	664
教育相談	668
教育実習特講	670
教職実践演習（中・高）	672
理科教育法Ⅰ	676
理科教育法Ⅱ	679
理科教育法特講Ⅰ	683
理科教育法特講Ⅱ	686
数学科教育法Ⅰ	690
数学科教育法Ⅱ	693
数学科教育法特講Ⅰ	696
数学科教育法特講Ⅱ	699
情報科教育法Ⅰ	702
情報科教育法Ⅱ	704
物理学概論Ⅰ	706
物理学概論Ⅱ	708
地学概論Ⅰ	710
地学概論Ⅱ	713
地学実験	716
代数学概論Ⅰ	719
代数学概論Ⅱ	721
幾何学ⅠA	723
幾何学ⅠB	725
幾何学ⅡA	727
幾何学ⅡB	729

教職課程

※教員免許状取得要件についての詳細は「教職課程履修要項」を参照してください。

科目	教科	学科	授業科目	配当年次	開講期	単位数	担当教員	中学校免許状	高校免許状
教職科目	共通	全学科共通	教職論	1	前期・後期	2	小田 義隆	必修	必修
			教育原理	1	前期・後期	2	小田 義隆	必修	必修
			教育心理学	1	前期・後期	2	村上 凡子	必修	必修
			教育行政学	2	前期・後期	2	小田 義隆	必修	必修
			教育課程論	2	前期・後期	2	渡部 容子	必修	必修
			道德教育論	2	前期・後期	2	渡部 容子	必修	選択
			特別活動論	2	前期・後期	2	森本 芳生	必修	必修
			教育方法学	2	前期・後期／集中	2	森本芳生／谷口知美	必修	必修
			生徒指導論	2	前期・後期	2	渡部 容子	必修	必修
			教育相談	2	前期・後期	2	村上 凡子	必修	必修
			教育実習Ⅰ	4	通年	2	渡部容子・小田義隆	必修	必修
			教育実習Ⅱ	4	通年	2	渡部容子・小田義隆	必修	選択
			教育実習特講	3	後期	1	渡部容子・小田義隆	必修	必修
			教職実践演習(中・高)	4	後期	2	渡部容子・小田義隆	必修	必修
			理科	生・遺・食・医	理科教育法Ⅰ	2	前期	2	伊丹 芳徳
理科教育法Ⅱ	2	後期			2	伊丹 芳徳	理科必修	理科必修	
理科教育法特講Ⅰ	2	前期			2	伊丹 芳徳	理科選択	理科選択	
理科教育法特講Ⅱ	2	後期			2	伊丹 芳徳	理科選択	理科選択	
数学	※生命情報・人間環境	数学科教育法Ⅰ	2	前期	2	今井 敏博	数学必修	数学必修	
		数学科教育法Ⅱ	2	後期	2	今井 敏博	数学必修	数学必修	
		数学科教育法特講Ⅰ	2	前期	2	今井 敏博	数学選択	数学選択	
		数学科教育法特講Ⅱ	2	後期	2	今井 敏博	数学選択	数学選択	
情報	※生命情報	情報科教育法Ⅰ	2	集中	2	豊田 充崇	-	情報必修	
		情報科教育法Ⅱ	2	集中	2	豊田 充崇	-	情報必修	
教科科目	理科	生・遺・食・医	物理学概論Ⅰ	1	前期	2	濱端 広充	理科必修	理科必修
			物理学概論Ⅱ	1	後期	2	濱端 広充	理科必修	理科必修
			地学概論Ⅰ	1	前期	2	佐藤 昇	理科必修	理科必修
			地学概論Ⅱ	1	後期	2	佐藤 昇	理科必修	理科必修
			地学実験	1	前期・後期	1	佐藤 昇	理科必修	理科選択
	数学	※生命情報・人間環境	代数学概論Ⅰ	1	前期	2	平井 崇晴	数学必修	数学必修
			代数学概論Ⅱ	1	後期	2	平井 崇晴	数学必修	数学必修
			幾何学ⅠA	1	前期	2	森杉 馨	数学必修	数学必修
			幾何学ⅠB	1	後期	2	森杉 馨	数学必修	数学必修
			幾何学ⅡA	2	前期	2	森杉 馨	数学選択	数学選択
			幾何学ⅡB	2	後期	2	森杉 馨	数学選択	数学選択

※平成29年4月から、学科名称が変更となっています。

平成26年度～28年度入学生の学科名称は、システム生命科学科・人間工学科となります。

講 義 要 項

科目名： 教職論			
英文名：The Study of Teaching Profession			
担当者： <small>オダ ヨシタカ</small> 小田 義隆			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

教職課程全体の入門として配置される科目であり、教職に就くとはどういうことか、教職の全体像をつかみながら学校教育の専門家になるために必要な資質・能力を講義する。授業では、教科書を基礎としつつ、学生のこれまでの学校体験を出し合いながら教師という仕事を深める。

■学習・教育目標および到達目標

本科目は「教職の意義等に関する科目」であり、教職・教師として人生を生きる意味をつかみ、意欲を育むことを目標とする。教職の意義、教員の役割や職務内容に関する知識の修得を通じ、教職に関しての理解を深めると共に、将来教職に就くことについて多角的に考察し、強い動機付けとなる事を図ります。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後に試験の要点を解説します。

■教科書

[ISBN]9784623058358 『現代教育制度論』(土屋 基規, ミネルヴァ書房:2011)

■参考文献

[ISBN]9784762015236 『現代教職論』(土屋 基規, 学文社:2006)

[ISBN]9784130520782 『概説 教育行政学』(東京大学出版会:2009)

[ISBN]9784820802563 『時代を拓いた教師たち—戦後教育実践からのメッセージ』(田中 耕治, 日本標準:2005)

[ISBN]9784820804222 『時代を拓いた教師たち〈2〉実践から教育を問い直す』(田中 耕治, 日本標準:2009)

[ISBN]9784313011939 『教育小六法』(市川 須美子, 学陽書房:2017)

■関連科目

教育原理、教育課程論、暮らしのなかの憲法、教育行政学、特別活動論、教育実習特講

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中に指定する課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

小田研究室 (2号館5階509)・oda@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜 4 限

事前にメールにてアポイントをとってください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 教職の意義と21世紀の教師像

第3回 教師像の変遷

第4回 教師になる仕組み・教育実習

第5回 教師採用の仕組み

第6回 教師と教育法規(サービス、身分保障を中心に)

第7回 教師の資質向上と研修制度

第8回 教師の職務①（学校の組織と学校運営）

第9回 教師の職務②（教育課程編成・学習指導）

第10回 教師の職務③（教育相談および学級経営）

第11回 保護者・地域社会との連携

第12回 教員採用試験の実際

第13回 教師をめぐる問題（学級崩壊・バーンアウト）

第14回 総括・理想の教師像とは

第15回 学生との集中討論

定期試験

科目名： 教育原理			
英文名： The Study of Principles of Education			
担当者： <small>オダ ヨシタカ</small> 小田 義隆			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

教職課程において開設される他の科目との関連を図りながら、教職課程のコアとして位置づけ、基礎的・基本的事項を学習する。加えて学生が発展的な学習を行い、さらには他の科目において専門的な学習が可能となる基盤を培うべく話題提供していく。本講義では、人間・子どもの尊厳を基底的な主題とする教育・学校・社会の原理的・歴史的把握をしたのち、子どもをめぐる現代日本が当面している教育問題について考察したい。授業方法としては、主として講義形式で行う。

■学習・教育目標および到達目標

- ・近現代の教育原理を「子どもの成長発達」の視点から問い直し、21世紀型教育の未来を本質的・主体的に描ける力を養うことを目標とする。
- ・教師教育における教育学的な思考の基礎的な部分を身につけ、教師としての態度を養うことを目的としている。それとともに、教職に関する他の科目を修得する基盤を構築する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後に試験の要点を解説します。

■教科書

[ISBN]9784938795849 『子どもと教師のための教育原理』(石田美清, 保育出版社: 2010)

■参考文献

[ISBN]9784767950204 『なぜからはじめる教育原理』(池田 隆英, 建帛社: 2015)
 [ISBN]9784313610330 『教育小事典』(学陽書房: 2011)
 [ISBN]9784761009021 『教育の原理を学ぶ—教育を実践する人たちに』(遠藤 克弥, 川島書店: 2015)
 [ISBN]9784815808129 『教育と学びの原理—変動する社会と向き合うために—』(名古屋大学出版会: 2015)
 [ISBN]9784897083551 『林竹二 その授業と思想—日本の教育原理を求めて』(鈴木 清隆, 揺籃社: 2015)
 [ISBN]9784181919139 『よくわかる学校現場の教育原理 教師生活を生き抜く10講』(堀 裕嗣, 明治図書出版: 2015)

■関連科目

持続可能な社会論、国際社会と日本、教育行政学ほか教職課程諸科目。

■成績評価方法および基準

レポート（中間・最終）各2000字程度 70%
 授業中課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

小田研究室（2号館5階509）・oda@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜 4 限
 事前にメールにてアポイントをとってください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 オリエンテーション 教育とは何か
- 第2回 教育の本質と思想（教育の目的・社会的規定、近代教育思想）
- 第3回 子ども観 再考①（ルソーの子ども観、子どもの自然と発達）
- 第4回 子ども観 再考②（医学からのアプローチ）
- 第5回 子ども観 再考③（心理学からのアプローチ）

- 第6回 子どもの権利条約（子どもの権利条約、成立の意義と内容）
- 第7回 「遺伝と環境」と教育
- 第8回 日本の近代化・戦争と教育（近代社会の成立、戦時下の学校教育）
- 第9回 戦後教育改革（憲法・教育基本法の成立と意義）
- 第10回 戦後教育改革のその後（50年代以降の学校教育の変容）
- 第11回 日本の経済成長と学校（60年代高度経済成長と学校の機能）
- 第12回 能力主義と学校（能力主義の教育論的検討）
- 第13回 教育改革にどう向き合うか
- 第14回 教育基本法の改正（新教育基本法成立）と教育改革
- 第15回 現代日本の教育問題を考える

科目名： 教育心理学			
英文名： Educational Psychology			
担当者： <small>ムラカミ ホシコ</small> 村上 凡子			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

本科目は、教育者となるために学修することのうち、心理学の分野で探究されてきた教育に関する知見をテーマとします。定型発達児における認知能力や社会的能力の発達段階、特別な教育的支援ニーズのある子どもの特性や対応を取り上げます。また、ヒトの「学習」および「動機づけ」の仕組み、学びのユニバーサルデザインに関する知見を概説し、望ましい授業方法について検討を行います。さらに、より良い学級づくりのために、教育者がどのような役割を果たせばよいのかについて理解を深めます。教育者に求められるコミュニケーション能力の向上をねらいとして、講義形式に加えて、必要に応じてグループによる意見交流および発表を取り入れます。

■学習・教育目標および到達目標

本科目の目標は、①対人専門職に必要な社会的能力の向上を目指すこと、②発達の観点からの子ども理解に関する心理学的な知見を理解し、修得すること、③授業実践や学級経営に関する基礎的な知識について理解し、修得することの3点です。

■試験・課題に対するフィードバック方法

定期試験については、試験終了後に試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。小テストは15回の授業のうち、2回実施します。次の回に採点をしたものを返却し、解説します。復習シートは、確認問題として授業時間の終了前に取り組み、提出を求めます。次の回に正誤を示して返却します。

■教科書

特に使用しません。必要な資料は適宜配布します。

■参考文献

[ISBN]9784641123458 『はじめて出会う心理学 改訂版(有斐閣アルマ)』(長谷川 寿一, 有斐閣 : 2008)
 [ISBN]9784883671106 『教育心理学—保育者をめざす人へ』(石井 正子, 樹村房 : 2011)
 [ISBN]9784472403187 『教育心理学(玉川大学教職専門シリーズ)』(作間 慎一, 玉川大学出版部 : 2005)

■関連科目

「教育原理」「教職論」

■成績評価方法および基準

定期試験 80%
 小テスト 15%
 復習シート集の提出 5%

■授業評価アンケート実施方法

大学の規則に応じて実施します。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階 講師控室 murakami@shinai-u.ac.jp

■オフィスアワー

授業時間帯の前後とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 教職の意義とキャリア発達

教職について省察し、心理テストの結果に示される自らの社会的能力の特性と照らし合わせながら、教育者としてのキャリア発達について検討する。

第2回 ピアジェによる認知能力の発達段階

教育心理学者ピアジェが唱えた認知能力の発達段階について、各時期の特徴を取り上げる。中学、高校にあたる時期の特徴に関しては、多角的な面から検討を加える。

第3回 子ども理解とパーソナリティに関する理論

近年におけるパーソナリティ心理学の知見に基づいて、子どものパーソナリティをどのように理解すればよいのかという点について、基礎的な事項を取り上げる。

第4回 エリクソンによる社会的能力の発達段階と青年期の発達課題

心理学者エリクソンが唱えた心理・社会的発達段階について概説し、特に青年期における発達の危機について詳しく取り上げる。

第5回 青年期前期の発達課題と対応

中学生の時期は、青年期前期に当たる。中1ギャップといわれる我が国の中学生における発達の危機について、心理学の知見に照らし合わせて詳しく取り上げる。また、中1ギャップを予防するための基本的な考え方や実践について検討を加える。

第6回 行動理論からみた学習—条件付けの応用—

古典的条件付けおよびオペラント条件付けの基本原理および、各条件付けの教育場面での応用について検討する。

第7回 認知論からみた学習—記憶のしくみ—

符号化、貯蔵、検索という一連の記憶の過程を、体験的な学習を交えながら理解を深める。長期記憶の忘却率の実験結果を示し、「忘れる」ことを前提とした授業方法について検討を試みる。

第8回 学習意欲—「やる気」の生成・消失過程

動機付けの理論に基づいて、心理学からみた学習への「やる気」を取り上げる。「やる気」が生成し、高まる過程とその要因、消失する要因について取り上げる。

第9回 学校教育における包括的支援ニーズ

近年のスコットランドの教育法に示された学校教育における4つの側面における支援ニーズに関する考え方を示し、幅広い観点から支援ニーズについて検討を加える。

第10回 特別な教育的支援ニーズのある子どもへの対応

特別な教育的支援ニーズの多様な側面を取り上げ、各ニーズに応じた学校教育における対応の基本について示す。

第11回 授業の本質と学びのユニバーサルデザイン

授業の構成要素を確認し、特に授業方法に関して、学びにくさのある子どもたちに対する具体的な授業の工夫をユニバーサルデザインの観点から取り上げる。

第12回 授業方法及び教授者の姿勢に関する基礎的理論

適性処遇交互作用、ピグマリオン効果といった教育心理学の基礎的な知見を理解し、教授者である教師としての望ましい在り方について検討する。

第13回 様々な学習理論

プログラム学習や発見学習に焦点を当て、実際の教科において導入する際の効果や課題について検討を加える。

第14回 学級集団のしくみと学級経営

メンバーが一定期間固定される学級集団の性質および学級経営の基本概念を確認する。また、望ましい学級経営の在り方について、リーダーシップに関する「PM理論」をもとに考察する。生徒と教師との関係についても検討を行う。

第15回 望ましい授業づくりと学級づくり

わかりやすく面白い授業づくり、どの生徒にも居場所のある学級づくりというテーマについて検討し、教職の意義や自己課題について考えを深める。

定期試験

科目名： 教育行政学			
英文名： The Study of Educational Administration			
担当者： <small>オダ ヨシタカ</small> 小田 義隆			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

教育行政は、一般行政とは独自の仕組みをもち、教育活動の条件整備を立法に基づき行う行政活動である。この教育行政活動が、国の教育政策によってどのような教育的価値を実現する教育活動かを実質的に左右する。その教育行政の仕組みと現状、問題を検討する。授業方法としては、主として講義形式で行う。

■学習・教育目標および到達目標

教員として心得ておくことが必要不可欠な法令や制度を理解するとともに、日常的に話題となる教育問題に関して、教育行政の視点から具体的に考えることができる能力を身につけ、教育行政の役割と現状、教育にとって必要なあり方を理解することを目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後に試験の要点を解説します。

■教科書

『現代教育制度論』(土屋 基規, ミネルヴァ書房: 2011)ISBN-13: 978-4623058358

『地域に根ざす学校づくりー “子どもが主人公”の学校改革を求めて』(仲田 陽一, 本の泉社: 2016)ISBN-13: 978-4780712940

■参考文献

『事例で学ぶ学校の安全と事故防止』(添田久美子, ミネルヴァ書房: 2015) ISBN-13: 9784623073368

『概説 教育行政学』(平原春好, 東京大学出版会: 2009)ISBN-13: 9784130520782

『公平な社会を築く公教育論』(嶺井正也, 八千代出版: 2015) ISBN-13: 9784842916453

『戦後日本の教育委員会: 指揮監督権はどこにあったのか』(大島菜穂子, 勁草書房: 2015) ISBN-13: 9784326251148

『ガイドブック教育法 新訂版』(戸波江二, 三省堂: 2015) ISBN-13: 9784385323138

『新基本法コンメンタール 教育関係法(別冊法学セミナー)』(荒牧重人, 日本評論社: 2015) ISBN-13: 9784535402560

『教育小六法 平成29年版』(市川須美子, 学陽書房: 2017)ISBN-13: 9784313011939

『教育制度と経営』(岡本徹, ミネルヴァ書房: 2016)

『教育制度論』(早田幸政, ミネルヴァ書房: 2016)

■関連科目

暮らしのなかの憲法、現代社会と法、教育原理ほか教職課程諸科目。

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中課題 10%

小テスト (10回) 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

小田研究室 (2号館5階509) ・ oda@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

木曜 4 限

事前にメールにてアポイントをとってください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション 人間の自由・平等原理と教育行政

第2回 行政と教育行政

第3回 国の教育行政制度

第4回 地方の教育行政制度、地方分権

第5回 教育委員会制度の歴史

第6回 教育行政と学校の管理・運営

第7回 学校選択制と学校参加

第8回 教育行政と教師、教員養成と研修

第9回 学校評価と教員評価

第10回 特別支援教育

第11回 少年非行と教育行政

第12回 児童福祉、少年司法と教育行政

第13回 乳幼児教育と教育行政

第14回 高等教育と教育行政

第15回 まとめ、現代社会と教育行政

定期試験

科目名： 教育課程論			
英文名：Theory of School Curriculum			
担当者： <small>ワタナベ ヨウコ</small> 渡部 容子			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

何のために（教育目的／教育目標）、何を（教育内容）、いつどのように何を用いて（教育方法）教え、学ばせるかを計画し、実践し、評価する教育課程編成の能力は、教職の専門性の中核といえる。その基礎を養うために、この授業では、教育課程の基本的な考え方としくみ、編成原理、評価、歴史、改革動向等について概説する。

また、現行の学習指導要領を中心とする教育課程についての理解を深め、関連する教職科目に繋げる。

■学習・教育目標および到達目標

- 1) 学校教育における教育課程の意義について理解する。
- 2) 教育課程編成に関する基礎的知識を獲得する。
- 3) 現代日本の教育課程および学習指導要領について理解する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

小テストおよび定期試験は、答案回収後その場において解題講義を行う。

■教科書

[ISBN]9784623051441 『よくわかる教育課程(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』(ミネルヴァ書房：2009)

■参考文献

[ISBN]9784324900024 『中学校学習指導要領解説 総則編』(文部科学省, ぎょうせい：2008)

[ISBN]9784827814804 『高等学校学習指導要領解説 総則編〔平成21年〕』(文部科学省, 東山書房：2009)

*注意：表記にかかわらず、学習指導要領は最新版を使用する。

■関連科目

教職科目全般

■成績評価方法および基準

小テストおよび定期試験 75%

提出物 15%

授業への積極的参加 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

渡部研究室（2号館5階）・ywtnb@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜日2限目

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 カリキュラムと教育課程、子どもの発達

予習内容：教科書第I章、第IV章に目を通す。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第1回記入

- 1.シラバスを用いて授業オリエンテーションを行う。
- 2.「発達」の概念を軸とした教育学と教育課程
- 3.「カリキュラム」と「教育課程」
- 4.日本における教育課程の特徴

第2回 学校教育と教育課程のしくみ

予習内容：教科書第I章、第V章に目を通す。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第2回記入

- 1.「教育課程」の定義
- 2.教育課程固有の検討課題
- 3.授業に関係して－学習指導要領

4.授業に関して－教科書

第3回 近代日本の教育課程（明治・大正・昭和前期）

予習内容：教科書第Ⅶ章に目を通す

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第3回記入

各時期の教育課程の特徴を、学校系統樹と照らし合わせながら理解する。

- 1.明治期の教育課程
- 2.大正自由教育期の教育課程
- 3.国民学校期の教育課程

第4回 現代日本の教育課程（1968年まで）

予習内容：教科書第Ⅶ章4.5、第Ⅷ章1.2.3.4.に目を通す。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第4回記入

各学習指導要領の特徴を整理する。

学習指導要領の展開

- 1.1947年学習指導要領
- 2.1951年学習指導要領
- 3.1958年学習指導要領
- 4.1968年学習指導要領

第5回 現代日本の教育課程（1998年まで）

予習内容：教科書第Ⅶ章6、第Ⅷ章5.6.7.に目を通す。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第5回記入

各学習指導要領の特徴を整理する。

学習指導要領の展開

- 1.1977年学習指導要領
- 2.1989年学習指導要領
- 3.1998年学習指導要領

第6回 現行の教育課程

予習内容：教科書第Ⅷ章8および参考文献に目を通す。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第6回記入

学習指導要領の特徴を整理する。

- 1.2008年学習指導要領
- 2.2015年一部改正 学習指導要領

第7回 中間まとめの小テストおよびその解題

予習内容：教科書・配布資料などを参照して、第6回までの授業の復習を行う。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第7回記入

小テストで理解が不十分であったことが分かった部分を見直す。

- 1.第6回までの授業を振り返る。
- 2.小テストを実施する。(30分間を予定)
- 3.答案回収後、小テストの解題を行う。

第8回 教育課程の構造

予習内容：教科書第Ⅱ章1.2.3.4.5、第Ⅲ章に目を通す。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第8回記入。

キーワードを整理する。

- 1.生活を重視するカリキュラム
- 2.社会の要求を重視するカリキュラム
- 3.科学を重視するカリキュラム
- 4.人間性を重視するカリキュラム
- 5.近代学校批判
- 6.経験主義と系統主義
- 7.領域論
- 8.カリキュラムの分化と統合
- 9.クロス・カリキュラム

第9回 教育課程の編成1（構成要件）

予習内容 : 教科書第Ⅲ章3.4.5に目を通す。
復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第9回記入
キーワードを整理する。

- 1.教育課程の構成要件
- 2.タイラー原理
- 3.工学的アプローチと羅生門的アプローチ
- 4.スコープとシーケンス

第10回 教育課程の編成2 (教育環境)

予習内容 : 教科書第Ⅵ章に目を通す
復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第10回記入

- 1.学級編成
- 2.教室
- 3.学校図書館
- 4.教育と学習の道具
- 5.時間割
- 6.学級の編成
- 7.教授組織の編成

第11回 教育課程と評価

予習内容 : 教科書第Ⅶ章に目を通す
復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第11回記入
実践記録の読書リストを作成し、順次読み進むことが望ましい。

- 1.カリキュラム評価
- 2.学力の評価
- 3.指導要録・通知表
- 4.授業の評価
- 5.実践記録
- 6.アカウントビリティ
- 7.隠れたカリキュラム
- 8.社会・文化的再生産とカリキュラム

第12回 教科と教科外のカリキュラム

予習内容 : 教科書第Ⅸ章、第Ⅹ章に目を通す。
復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第12回記入

- 1.国語科のカリキュラム
- 2.算数・数学科のカリキュラム
- 3.社会科のカリキュラム
- 4.理科のカリキュラム
- 5.生活科のカリキュラム
- 6.音楽科のカリキュラム
- 7.図画工作・家庭科のカリキュラム
- 8.技術・家庭科のカリキュラム
- 9.保健体育科のカリキュラム
- 10.外国語科のカリキュラム
- 11.道徳のカリキュラム
- 12.総合的な学習
- 13.特別活動
- 14.生徒指導

第13回 諸外国のカリキュラムと学校・授業 (視聴覚教材)

予習内容 : 配布資料に目を通す。
復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第13回記入

日本の典型的な教育課程とは異なるカリキュラムに基づく外国の学校教育・授業の例を、視聴覚教材を用いて紹介する。フランスのフレネ学校を予定。

第14回 諸外国のカリキュラムと教育改革

予習内容 : 教科書第14章に目を通す
復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第14回記入
関心のある国について、更に調べることが望ましい。

- 1.中国
- 2.アメリカ合衆国
- 3.イギリス
- 4.フランス
- 5.ドイツ

第15回 まとめと討議

予習内容 : 「学習の軌跡」をもれなく記入し、自らの学びを振り返る。

復習内容 : 授業全体を振り返り、「学習の軌跡」第15回、まとめを記入

- 1.「シラバス」「学習の軌跡」をもとに、教育課程論の振り返りを行う。
- 2.関心を持った事項、自分で更に学習した成果をもとに受講生同士で意見交換を行う。
- 3.他の教職科目との関連について確認を行う。

定期試験と解題

小テストの範囲を含む。

答案回収後、解題講義を行う。

科目名： 道徳教育論			
英文名： The Study of Moral Education			
担当者： <small>ワタナベ ヨウコ</small> 渡部 容子			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

授業では、まずテキストを用いながら、現代社会と道徳、道徳性の発達、学校で行われる道徳教育、日本における道徳教育の歴史、道徳教育と宗教の関係等について概説する。次に現行の「特別の教科 道徳」について講義を行い、実際に授業を行うために必要な学習指導計画の立案、教材研究などについて学ぶ。テキストを毎回熟読し理解に努めたり、教材研究の経験を広げるなど、積極的な取り組みが必要である。

■学習・教育目標および到達目標

- 1) 道徳・道徳性について広い見地から、認識し、考えることができる。
- 2) 道徳教育の目標・教材・指導過程・評価の各レベルの基本的な知識を持ち、論じることができる。
- 3) 「特別の教科 道徳」について理解し、授業を行うために必要な基本がわかる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了、答案回収後、その場で解題講義を実施する。

■教科書

- ①[ISBN]9784762026553『道徳教育-改訂版(教師教育テキストシリーズ)』(学文社:2016)
 - ②文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」2015年7月。
- *注意：表記にかかわらず学習指導要領は最新版を使用する。

■関連科目

教職科目全般

■成績評価方法および基準

試験 50%
提出物 40%
授業への積極的参加 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

渡部研究室 (2号館5階)・ywtnb@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜日 2限目

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 「道徳」学習経験の振り返り

予習内容： シラバス、教科書の目次に目を通しておく。

復習内容： 授業を振り返り、「学習の軌跡」第1回記入

- 1.シラバスを用いて授業ガイダンスを行う。
- 2.受講生の了解のうえで、簡単なアンケートを実施し、小中学校および一部高等学校で受けた道徳教育の経験を振り返る。
- 3.「道徳教育が欠けている」「いけないことだと思う」等の事例について、受講生同士で意見交換を行う。

第2回 学習指導要領の変遷と「道徳」のあゆみ

予習内容： 教科書①の「序」に目を通す。

復習内容： 授業を振り返り、「学習の軌跡」第2回記入

- 1.第1回で行った振り返りの結果を共有し、「特別の教科 道徳」までの学習指導要領の変遷について講義を行う。
- 2.「道徳教育が欠けている」「いけないことだと思う」等の事例が、どのような性質の問題なのかを腑分けしていき、道徳教育論の学びの導入とする。
- 3.第3回以降の教科書①の読み方、資料の調べ方等について解説を行う。

第3回 現代社会と道徳

予習内容 : 教科書①第1章を読み、要点を理解する。
コメンターに指名された場合は、コメントの準備をする。

復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第3回記入

教科書①第1章参照

- 1.道徳を必要とするのは誰か
- 2.両親の自覚を促すには何が必要か
- 3.学校の教育活動全体と道徳
- 4.道徳教育を担う教師の課題

第4回 道徳教育の本質と目標

予習内容 : 教科書①第2章を読み、要点を理解する。
コメンターに指名された場合は、コメントの準備をする。

復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第4回記入

教科書①第2章参照

- 1.道徳的価値とその問題点
- 2.社会規範の内面化としての道徳性とその問題点
- 3.総合的な能力としての道徳性

第5回 道徳性の発達（1）発達理論

予習内容 : 教科書①第3章を読み、要点を理解する。
コメンターに指名された場合は、コメントの準備をする。

復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第5回記入

教科書①第3章参照

- 1.道徳性の発達理論とその臨界
 - 1)フロイト
 - 2)ピアジェ
 - 3)コールバーグ
- 2.「可逆操作の高次化における階層-段階理論」

第6回 道徳性の発達（2）幼児期からの実際

予習内容 : 発達理論に関する配布資料に目を通す

復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第6回記入

- 1.幼児期の道徳性の発達
視聴覚教材を用いて
- 2.青年期までの発達と道徳性
- 3.討議

第7回 道徳教育はどうあるべきか

予習内容 : 教科書①第4章を読み、要点を理解する。
コメンターに指名された場合は、コメントの準備をする。

復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第7回記入

教科書①第4章参照

- 1.特設「道徳の時間」導入の歴史的背景
- 2.「道徳」授業批判
- 3.モラル・ジレンマ授業の意義と問題点
- 4.ジャスト・コミュニティ・プログラムと市民性教育－鍵概念としての「対話」－

第8回 道徳教育の方法

予習内容 : 教科書①第5章を読み、要点を理解する。
コメンターに指名された場合は、コメントの準備をする。

復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第8回記入

教科書①第5章参照

- 1.国家主義的道徳教育と民主的道徳教育
- 2.道徳教育の指導形態
- 3.道徳教育の計画

第9回 道徳教育の授業

予習内容 : 教科書①第6章を読み、要点を理解する。
コメンターに指名された場合は、コメントの準備をする。

復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第9回記入
教科書①第6章参照
1.道徳授業の前提となる諸要素
2.道徳科の指導案
3.道徳科の「教育内容・教材研究」
4.道徳科における評価
5.道徳科授業の「落とし穴」

第10回 道徳教育の歴史

予習内容 : 教科書①第7章を読み、要点を理解する。
コメントに指名された場合は、コメントの準備をする。
復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第10回記入
教科書①第7章参照
1.道徳教育の歴史をなぜ、問うのか
2.明治期の道徳教育
3.大正、昭和戦前期の道徳教育
4.敗戦後の道徳教育
5.全面主義・特設時代の道徳教育

第11回 道徳教育と宗教

予習内容 : 教科書①第8章を読み、要点を理解する。
コメントに指名された場合は、コメントの準備をする。
復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第11回記入
教科書①第8章
1.宗教的道徳教育が必要だとされるが…
2.宗教的価値の絶対性と相対性
3.近代における宗教と道徳の関係性原理
4.日本における道徳教育と宗教の〈関係〉

第12回 道徳の授業づくり(1) 指導計画の作成

予習内容 : 教科書②学習指導要領解説を丁寧に読みノートをとる。
復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第12回記入
教科書②参照
1 全体計画
2 年間指導計画
3 学習指導案

第13回 道徳の授業づくり(2) 視聴覚教材の研究

予習内容 : 学習指導案の立案の手順を復習しておく。
復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第13回記入
視聴覚教材を用いた授業と評価
1.視聴覚教材の視聴
2.ワークシートの記入
3.学習指導案作成の実際
4.視聴覚教材の再視聴

第14回 道徳の授業づくり(3) 読み物教材の研究

予習内容 : 配付された読み物資料を熟読し、授業の構想を立てる。
復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第14回記入
1.読み物教材の熟読
2.学習指導案の立案
3.学習指導案のバリエーション

第15回 道徳教育論のまとめ

予習内容 : 「学習の軌跡」の記入を点検し、振り返りを行いながら必要事項を埋めておく。提出物を整えておく。
復習内容 : 教科書、配布資料、「学習の軌跡」を用いて第1回からの復習を行い、試験準備を行う。
1.「学習の軌跡」を用いて、総まとめを行う。
2.「学習の軌跡」の第15回目を記入する。

定期試験と解題

定期試験を実施する。試験範囲は、学習範囲全般である。
試験を終え答案回収後、パワーポイントを用いて試験の解題を行う。

科目名： 特別活動論			
英文名：The Theory of Extra-curricular Activities			
担当者： <small>モリモト ヨシオ</small> 森本 芳生			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期・後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

まず特別活動の概説を講義したのち、この領域で社会的に問題となっている事例を紹介する。その後1990年代中葉からの教育改革の中心的テーマの一つである「生きる力」の形成・教育にかかわって、「特別活動」領域および「総合的な学習の時間」で問題とされる事例を紹介する。これらを問題とする際、20～30分程度の映像資料を多用する予定である。

■学習・教育目標および到達目標

受講生はこの授業を履修することによって、1) こんにちの社会状況のもとでの学校における特別活動の意義、2) いわゆる「生きる力」論、3) 特別活動における教師個人の問題意識の重要性を理解することができる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

定期試験 要点・解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

小テスト 講義で説明・確認したことのテストであるため、正答は各自授業ノートを見直してください。

レポート 中間レポート提出後、優れたレポート・改善の余地のあるレポートの具体を授業で解説します。

■教科書

使用しない。

■参考文献

[ISBN]9784773501377 『たのしい「生活指導」』（「たのしい授業」編集委員会, 仮説社：1999）

[ISBN]9784623038336 『豚のPちゃんと32人の小学生一命の授業900日』（黒田 恭史, ミネルヴァ書房：2003）

[ISBN]9784761911331 『部活動—その現状とこれからのあり方』（西島 央, 学事出版：2006）

[ISBN]9784750323824 『働くことを学ぶ（若者の希望と社会）』（明石書店：2006）

[ISBN]9784750330525 『「食育」批判序説—「朝ごはん」運動の虚妄をこえて、科学的食・生活教育へ』（森本 芳生, 明石書店：2009）

■関連科目

教職課程諸科目

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

レポート 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・baaqk409@jttk.zaq.ne.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス（授業の概要・特別活動とは何か）

予習内容：学校教育の全体像

復習内容：学校教育における特別活動の位置・役割

第2回 特別活動論概説（1）歴史的変遷

予習内容：戦後学習指導要領の変遷

復習内容：学習指導要領改訂の諸要因と特別活動

第3回 特別活動論概説（2）教科教育との関連と差異

予習内容：教科教育と教科外教育

復習内容 : 教科教育のなかの特別活動、教科外教育としての特別活動

第4回 特別活動に関する教育問題 (1) 入学式・卒業式

予習内容 : 学校行事とは何か

復習内容 : 身体性を伴った学習の場と儀式的行事への関心

第5回 特別活動に関する教育問題 (2) 学級づくり

予習内容 : 学級担任の仕事

復習内容 : 学級づくりのやりがいとは何か

第6回 「生きる力」とは何か、何故問題とされるのか。

第7回 子どもの食事情と生活リズム

予習内容 : 戦後社会と家族関係の変化

復習内容 : 私的生活と学校教育の関係・特別活動の役割

第8回 学校給食の現状と課題

第9回 「遠足」はいま (歩くこと・遊び環境の変遷)

予習内容 : 後期戦後社会における子どもの生活 - 遊び環境変化

復習内容 : 「生きる力」論における健康問題

第10回 交通安全教育

予習内容 : 学校安全とは何か

復習内容 : 交通安全教育の今日的課題

第11回 文化祭

予習内容 : 学校教育における文化祭 (文化的行事) の変遷

復習内容 : 高校文化祭の可能性と課題

第12回 青年期の生き方と特別活動の課題

予習内容 : 発達段階としての青年期

復習内容 : 青年期的課題と学校教育・特別活動の役割

第13回 「総合的な学習の時間」との関連

予習内容 : 「総合的な学習の時間」創設経緯と現在

復習内容 : 「総合的な学習 (探求) の時間」と特別活動との関連

第14回 特別活動の年間計画

予習内容 : 「6・3・3」制、小中一貫・中高一貫教育

復習内容 : 特別活動の年間計画を規定する制度論的要因と課題

第15回 まとめ・補足

予習内容 : 授業全体を振り返って

復習内容 : 特別活動の可能性と課題

定期試験 第15回授業を踏まえて各自の「まとめ」

科目名： 教育方法学			
英文名： The Study of Educational Methods			
担当者： <small>タニグチ トモミ</small> 谷口 知美			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 集中	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

教育課程を含んだ広義の教育方法について、原理的に考えていく。現代社会における子どもの貧困やヴィゴツキーの発達論を軸にしなが、発達と教育との関係についての理解を深める。教育課程の変遷を見ていくことで教育課程編成の原理をつかむとともに、学力について考えを深め、学力を保障する授業づくりの基礎を習得する。基本的には講義形式で進めるが、グループディスカッションも取り入れる。

■学習・教育目標および到達目標

技能に流れずに、子どもの発達と教育についての考え方を理解し、教育課程および授業を構成する主体としての力量を修得する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

テスト終了後、出題の意図および解答のポイントについて解説する。

■教科書

プリントを配布する。

■参考文献

適宜提示する。

■関連科目

教育課程論

■成績評価方法および基準

平常点(意見カード、ワークシート、発表) 45%
授業内テスト 55%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階254 (講師控室) thirata@center.wakayama-u.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

各回のテーマに関連する文献を、積極的に読み進めていくことを望む。また、学校教育をめぐる時事的な問題等に日ごろから注意を払い、積極的に情報を入手し学習すること。

第1回 教育方法学の対象

第2回 子どもの発達と教育(1)

第3回 子どもの発達と教育(2)

第4回 教育課程改革の歴史(1)

第5回 教育課程改革の歴史(2)

第6回 学習指導要領の変遷(1)

第7回 学習指導要領の変遷(2)

第8回 新学習指導要領の特質

第9回 「学力」は「低下」したのか？(1)PISA調査の読み解き

第10回 「学力」は「低下」したのか？(2)「学力低下論争」の検証

第11回 教材解釈と発問づくり(1)

第12回 教材解釈と発問づくり(2)

第13回 共同的な学習の意義

第14回 授業分析(1)

第15回 授業分析(2)、情報機器の活用

科目名： 教育方法学			
英文名： The Study of Educational Methods			
担当者： <small>モリモト ヨシオ</small> 森本 芳生			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

授業では、近代学校教育における教育方法の特質を、近世の教育機関・学習場面でのそれと比較して把握したのち、今日に至る100年余の学校教育での注目すべき教育方法を順次取り上げ、解説を加えていく。その際、そうした教育方法の背後にある教育観・教育思想・社会状況等にも言及する。方法を単なる技術次元の問題としてのみ捉えてほしくない為である。こうした作業を通して、学校教育およびそこで教育方法に対する関心を高め、知見を得ることが授業目的である。

■学習・教育目標および到達目標

受講生はこの授業を履修することによって、1) 学校教育における教育方法の特質、2) 教育方法が教育思想・教育観と切り離して考えられない事、3) これまで教育現場で試みられてきた代表的教育方法、4) 今後の課題を知ることができる。

■試験・課題に対するフィードバック方法

定期試験 要点・解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

小テスト 講義で説明・確認したことのテストであるため、正答は各自授業ノートを見直してください。

レポート 中間レポート提出後、優れたレポート・改善の余地のあるレポートの具体を授業で解説します。

■教科書

[ISBN]9784820802563 『時代を拓いた教師たち—戦後教育実践からのメッセージ』(田中 耕治, 日本標準 : 2005)

■参考文献

[ISBN]9784000260053 『教育方法学 (岩波テキストブックス)』(佐藤 学, 岩波書店 : 1996)

[ISBN]9784903500348 『教育の方法 (放送大学叢書)』(佐藤 学, 左右社 : 2010)

[ISBN]9784820804406 『教育実践学と教育方法論—カリキュラム・教科指導・学力を教育実践から問い直す』(臼井 嘉一, 日本標準 : 2010)

■関連科目

教職課程諸科目

■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

レポート 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階) baaqk409@jttk.zaq.ne.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス、教科書の使い方

予習内容 : 歴史区分、近世・近代・現代

復習内容 : 近代学校教育の位置

第2回 近世の教育方法 (寺子屋・藩学・日常生活)

予習内容 : 近世社会における身分・地域性

復習内容 : 近世における学習の機会と方法

第3回 学校教育の開始

(ルソー・ペスタロッチ教育法の輸入)

予習内容 : 近代公教育とは
復習内容 : 明治初期の学校教育・教育方法の特質

第4回 授業の定型化

(ヘルバルト学派の段階教授法の輸入・浸透)

予習内容 : ヘルバルト学派とは
復習内容 : ヘルバルト式段階教授法の受容と学校教育への影響

第5回 明治期の学校教育・教育方法の総括

予習内容 : 明治時代とは如何なる時代であったのか
復習内容 : 明治期の学校教育と支配的教育方法の変化

第6回 大正自由主義教育（児童中心主義教育）の展開と挫折

予習内容 : 大正時代とは如何なる時代であったのか
復習内容 : 大正新教育運動の意義と限界

第7回 生活綴り方教育の登場と弾圧

予習内容 : 昭和初期とは如何なる時代であったのか
復習内容 : 生活綴り方教育の意義

第8回 戦後教育改革

予習内容 : 学習指導要領（試案）について
復習内容 : 学習指導要領（試案）に現れた教育行政と教育現場の関係性

第9回 系統主義教育と仮説実験授業

予習内容 : 高度経済成長期とは如何なる時代であったのか
復習内容 : 科学の時代と学校教育、理数系「重視」と対抗的教育方法開発

第10回 仮説実験授業の拡大

予習内容 : 仮説実験授業の思想と方法
復習内容 : 数学教育、社会科教育と仮説実験授業の思想

第11回 「できる」と「わかる」に関して、百ます計算・暗誦

予習内容 : 近年のドリル学習法「強制」「流行」
復習内容 : 「わからないけれどできる」をどう考えるか

第12回 生活綴り方教育の現在－「教育と生活の結合」「教育と科学の結合」

予習内容 : 格差社会とは
復習内容 : 生活綴り方教育の再評価

第13回 教育方法と教育観

予習内容 : 「ほんものの教育」を求めた教師たち
復習内容 : なぜ「教育方法は政治」なのか

第14回 ICT教育の可能性と課題

予習内容 : ICT教育とは
復習内容 : 21世紀型学力とICT教育

第15回 課題と展望

予習内容 : 授業内容を振り返って
復習内容 : 各自の「ほんものの教育」への志向を広げ・深める

定期試験

第15回授業を踏まえて各自の「まとめ」

科目名： 生徒指導論			
英文名： Guidance			
担当者： <small>ワタナベ ヨウコ</small> 渡部 容子			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

学校は、学習の場であると同時に、児童生徒が相互の人間関係を築き、その中で自らの生き方や進路を探っていく場でもある。それを適切に援助し導いていくのが生徒指導である。授業では、生徒指導の意義と原理、生徒理解およびその前提となる発達を軸とした人間観・子ども観、学校の教育活動における生徒指導の理論と実践方法、個別課題の検討、家庭・地域・専門機関との連携、社会との接続等について講義を行う。

グループワークや討論、課題の発表（プレゼンテーション）も予定しており、積極的な授業参加が必要である。

■学習・教育目標および到達目標

- 1) 生徒指導の基礎的な理論と実践方法について理解をしている。
- 2) 生徒および生徒集団を、発達のにとらえることができ、深く理解しようとする。
- 3) 学校と社会の接続について認識し、生徒指導に生かす視点を持つ。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験は、答案の回収をした後に、その場で解題講義を実施する。課題は、授業内の発表形式である場合は、発表後に講評を行う。提出の場合は、講評を書き込んで複写物を授業期間内に返却する。

■教科書

- ①[ISBN]9784877302740『生徒指導提要』（文部科学省，教育図書：2011）
- ②[ISBN]9784762026201『生徒指導・進路指導:理論と方法（教師のための教育学シリーズ）』（林尚示，学文社：2016）

■参考文献

[ISBN]4093871388『子どもによる子どものための「子どもの権利条約」』（小口 尚子，小学館：1995）

■関連科目

「教育原理」「教育課程論」「道徳教育論」「教育実習Ⅰ・Ⅱ」

■成績評価方法および基準

試験 50%

課題 20%

提出物 20%

授業への積極的参加 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

渡部研究室（2号館5階）・ywtnb@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

水曜日2限目

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業ガイダンス、生徒指導の意義と原理

予習内容：教科書①②の第1章を目を通す。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第1回記入

- 1.シラバスをもとに授業ガイダンスを行う。
- 2.課題の作成方法、提出物「学習の軌跡」についての説明を行う。
- 3.生徒指導の意義と原理について講義を行う。

教科書①第1章、②第1章

第2回 生徒指導の前提となる子ども観

予習内容：・「児童の権利に関する条約」を用意し、条文全文に目を通す。

・参考文献にも目を通すことが望ましい。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第2回記入

- 1.古代から21世紀に至るまでの「子ども観」の歴史について講義を行う。
- 2.「児童の権利に関する条約」に集約された現代の子ども観について、その背景および条文に触れながら講義を行う。
- 3.現代の「発達保障」の理論にも言及する。
- 4.子ども観と「生徒理解」、教職がどのように関係するのかについて、討論を行い考える。

第3回 児童生徒理解と生徒指導

予習内容 : ・教科書①②第3章に目を通す。
・「発達障がい」に関連した図書のリストを作ったり、読み始めることが望ましい。

復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第3回記入

- 1.児童生徒を理解するための基本的な事項について講義を行う。
教科書①第3章、②第3章、
- 2.「発達障がい」について、配布資料をもとに補足する。

第4回 教育課程と生徒指導

予習内容 : 教科書①②の第2章に目を通す。

復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第4回記入。

授業で紹介のあった教育実践書を読むことが望ましい。

- 1.生徒指導と教育課程の関係について講義を行う。特に、教科外のみならず、各教科にも生徒指導が位置づくことについて言及する。
教科書①第2章、②第2章
- 2.過去の優れた教育実践をとりあげ、理解を深める。

第5回 学校における生徒指導体制と計画

予習内容 : ・教科書①第4章、第6章I第6節、教科書②第4・5章に目を通す。

・学校教育法施行規則第70条、第104条、第135条を用意し、条文を読む。

復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第5回記入

- 1.学校における生徒指導体制の基本的な考え方、組織と運営、生徒指導主事の役割、教員研修等について講義を行う。
教科書①第4章、②第4章
- 2.生徒指導の全体計画、年間指導計画について、資料を配布し講義を行う。
- 3.学校全体ですべての児童生徒を対象とした指導を行う際の組織的対応の在り方について講義を行う。
教科書①第6章I、教科書②第5章
- 4.学校種間や学校間の連携についても言及する。

第6回 家庭・地域・関係機関との連携、法制度

復習内容 : ・授業を振り返り、「学習の軌跡」第6回記入

・関連ある資料や統計、図書に目を通すことがのぞましい。

- 1.生徒指導における家庭・地域との連携の必要性と方法について講義を行う。
- 2.生徒指導に係った専門機関・関係機関とその役割、連携の進め方について講義を行う。
教科書①第8章
- 3.生徒指導に関わる法制度について講義を行う。
教科書①第7章、教科書②第7章、
- 4.苦情への対応についても言及する。

第7回 生徒指導の個別課題（基本的生活習慣）

予習内容 : ・教科書①第6章I第5節・第6節・第7節に目を通す。

・教育基本法第5条、第6条、第10条、学校教育法第21条、学校保健安全法第26条を用意し、目を通す。

・課題の発表会であればスライドを用意する。

復習内容 : 授業を振り返り、「学習の軌跡」第7回記入

- 1.食事習慣・睡眠習慣・運動習慣・排泄習慣などの基本的生活習慣の確立が、どのように学校生活にも関わり、生徒の社会的自立や自己実現につながるかについて講義を行う。
- 2.関連して、校内規律や学校安全についても講義を行う。
教科書①第6章I第5節・第6節・第7節
- 3.<学生によるプレゼンテーション>今回のテーマを課題に選んだ学生がパワーポイントを用いて発表を行う。発表は、サブテーマを絞り、テーマの選択理由・背景・実態・問題点・対策・考察など6枚のスライドで簡潔に行う。(受講人数により、発表形態や時間は確定するが、6枚のスライド作成は全員が行い、課題として最終回に提出する。)

第8回 生徒指導の個別課題（いじめ）

予習内容 : ・教科書①第6章II第6節、教科書②第6章に目を通す。

・新聞記事などで、関心をもった事件などを調べておく。

・課題の発表会であればスライドを用意する。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第8回記入

1. いじめ問題について講義を行う。

教科書①第6章Ⅱ第6節、教科書②第6章

2. <学生によるプレゼンテーション> 今回のテーマを課題に選んだ学生がパワーポイントを用いて発表を行う。発表は、サブテーマを絞り、テーマの選択理由・背景・実態・問題点・対策・考察など6枚のスライドで簡潔に行う。(受講人数により、発表形態や時間は確定するが、6枚のスライド作成は全員が行い、課題として最終回に提出する。)

3. 討議を行う。

第9回 生徒指導の個別課題（不登校）

予習内容：教科書①第6章Ⅱ第11.12.13節、教科書②第7章に目を通す。

・関連の統計などを調べておく。

・課題の発表会であればスライドを用意する。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第9回記入

1. 不登校問題について講義を行う。

教科書①第6章Ⅱ第12節、教科書②第7章

2. <学生によるプレゼンテーション> 今回のテーマを課題に選んだ学生がパワーポイントを用いて発表を行う。発表は、サブテーマを絞り、テーマの選択理由・背景・実態・問題点・対策・考察など6枚のスライドで簡潔に行う。(受講人数により、発表形態や時間は確定するが、6枚のスライド作成は全員が行い、課題として最終回に提出する。)

3. 討議を行う。

第10回 生徒指導の個別課題（インターネット）

予習内容：教科書①第6章Ⅱ第7節に目を通す。

・新聞記事などで、関心をもった事件などを調べておく。

・課題の発表会であればスライドを用意する。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第10回記入

1. インターネットや携帯電話と生徒指導について講義を行う。

教科書①第6章Ⅱ第7節、

2. <学生によるプレゼンテーション> 今回のテーマを課題に選んだ学生がパワーポイントを用いて発表を行う。発表は、サブテーマを絞り、テーマの選択理由・背景・実態・問題点・対策・考察など6枚のスライドで簡潔に行う。(受講人数により、発表形態や時間は確定するが、6枚のスライド作成は全員が行い、課題として最終回に提出する。)

3. 討議を行う。

第11回 生徒指導の個別課題（虐待・性に関する問題）

予習内容：教科書①第6章Ⅱ第8節第10節に目を通す。

・新聞記事などで、関心をもった事件などを調べておく。

・課題の発表会であればスライドを用意する。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第11回記入

1. 児童虐待に関する基本的知識、学校の対応について講義を行う。

教科書①第6章Ⅱ第10節

2. 性に関する問題行動や性的被害の防止、学校の対応について講義を行う。

教科書①第6章Ⅱ第8節

3. <学生によるプレゼンテーション> 今回のテーマを課題に選んだ学生がパワーポイントを用いて発表を行う。発表は、サブテーマを絞り、テーマの選択理由・背景・実態・問題点・対策・考察など6枚のスライドで簡潔に行う。(受講人数により、発表形態や時間は確定するが、6枚のスライド作成は全員が行い、課題として最終回に提出する。)

第12回 生徒指導の個別課題（少年非行・暴力）

予習内容：教科書①第7・8章、配布された資料や統計に目を通す。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」12第回記入。

礼状を兼ねた感想文を書く（翌週提出）。

・関係機関の専門家をゲストスピーカーとして招聘予定である。

1. 少年非行に関わる法制度と関係機関、全国および県内の状況、保護者・学校・関係機関の連携等について講義を受ける。

2. 質疑応答

第13回 進路指導の理論と方法（働くことと学ぶこと）

予習内容：教科書②第9章、第10章、第11章、第12章に目を通す。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第13回記入

1. 働くことと学ぶことの接続・移行について歴史的に概説する。

2. 「生涯学習」概念の登場と、現代の「キャリア」概念について講義を行う。

3. 学校における進路指導・キャリア教育の意義と原理について講義を行う。

教科書②第9章、第10章、第11章、第12章

第14回 進路指導の理論と方法（キャリアデザイン）

予習内容：教科書②第11章を復習する。

復習内容：授業を振り返り、「学習の軌跡」第14回記入

- 1.学校におけるキャリア教育の進め方について講義を行う。
- 2.キャリア教育の全体計画、年間指導計画の立案について講義を行う。

第15回 生徒指導論のまとめ

予習内容：「学習の軌跡」の記入を点検し、振り返りを行いながら必要事項を埋めておく。提出物を整えておく。

復習内容：教科書、配布資料、「学習の軌跡」を用いて第1回からの復習を行い、試験準備を行う。

- 1.「学習の軌跡」を用いて、総まとめを行う。
- 2.「学習の軌跡」の第15回を記入する。

定期試験と解題

定期試験を実施する。試験範囲は、学習範囲全般である。

試験を終え答案回収後、パワーポイントを用いて試験の解題を行う。

科目名： 教育相談			
英文名： Educational Counseling			
担当者： <small>ムラカミ ボンコ</small> 村上 凡子			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

現在、いじめや不登校といった課題に加えて、発達障がい児、被虐待児への対応など教育相談の領域に対する社会からの要請は大きくなっています。こうした状況を踏まえ、教員として子どもたちの多様な教育相談領域のニーズに適切に対応するために、必要な専門的知識を学びます。さらに、教育相談に求められる態度や実践力に関して講義に加えて演習形式を導入し、理論と実践双方の方向から学びを深めていきます。

■学習・教育目標および到達目標

この授業の到達目標は、1) 教育相談領域に関する現代の課題を確認し、教育相談の意義と役割について理解すること、2) 児童生徒理解のための基礎的知識を習得すること、3) 教育相談に必要な自己理解や対人援助に関する実践力を高めることの3点です。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験に関しては、試験終了後試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。小テストに関しては、15回のじゅぎょうのうち2回実施します。次の回に採点したものを返却し、解説します。予習・復習課題及びレポート課題に関して講評を書き入れて返却します。

■教科書

[ISBN]9784761920685『入門 学校教育相談—知っておくべき基礎基本と実際の対応』(嶋崎 政男, 学事出版: 2014)

■参考文献

[ISBN]9784121020666『いじめとは何か—教室の問題、社会の問題(中公新書)』(森田 洋司, 中央公論新社: 2010)

[ISBN]9784760825868『自己カウンセリングとアサーションのすすめ』(平木 典子, 金子書房: 2000)

■関連科目

「生徒指導」「教育心理学」

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

小テスト 20%

予習復習ノート 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学の規則に準じて実施します。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階 講師控室 murakami@shinai-u.ac.jp

■オフィスアワー

授業時間の前後に質問等に応じます。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 教育相談の意義と役割

学校教育をめぐる教育相談領域のニーズを確認し、教育相談の意義や機能とその役割を学ぶ。問題解決機能だけでなく、問題の発生を予防する機能の重要性についても検討を深める。

第2回 教育相談に関する基本的対人態度

積極的傾聴の態度、共感的な応答など1対1の対人援助場面における基本的な原則について、体験的に学ぶ。

第3回 児童生徒理解の方法

教育相談に求められる児童生徒理解の方法を多様な観点から取り上げる。またその一環として学校現場で実施可能な心理テストとその評価方法について学ぶ。

第4回 教育相談の校内体制と他職種・他機関との連携

学級担任、教育相談担当者等から構成される校内の組織体制の在り方や、スクールカウンセラーなど外部の学校支援者及び外部機関との連携に関して事例をもとに検討する。

第5回 自己理解・人間関係づくりのための実践

児童生徒を対象として個別的援助法及び、学級集団を対象とした人間関係づくりの方法を取り上げる。特に、構成的グループエンカウンターの技法に焦点を当て、理論と実践双方を取り上げる。

第6回 共感能力、自己表現力をたかめるための実践

教員が行う教育相談の実践に必要な資質と能力を高めるために、共感能力や自己表現力の向上をめざして自己主張トレーニングを中心的に学ぶ。

第7回 自己調整力をたかめるための実践

生徒のみならず教員の自己調整力を高めるために、アンガーマネジメントの技法を体験し、望ましくない行動をとる生徒への対応を検討する。

第8回 発達障がいに関する基礎的理解と対応の原則

特別支援教育の対象となる発達障がいのある子どもの特性を確認し、当事者への支援に加えて、周囲との相互理解が深まるような実践について検討する。

第9回 発達障がい児への特別支援教育

個別の指導計画の策定に必要な基本的事項を理解し、通常の学級における授業上の配慮や、学級経営などの多角的な視点から、提示された指導計画に関して検討を加える。

第10回 「いじめ」に関する基礎理論

いじめの四層構造の基礎理論を取り上げる。また、いじめ同調傾向に関する研究や欧米諸国との比較研究に触れながら、我が国におけるいじめの特徴について考察を加える。

第11回 「いじめ」への対応の原則

いじめが発生してからの問題解決機能及び、いじめを予防するための開発的機能としての実践法を検討する。本講義で取り上げた方法の有効性も考究する。

第12回 「不登校」への対応

不登校と長期欠席について多様な観点から理解を深め、問題解決機能と開発的機能の双方の観点から実践的に学ぶ。

第13回 児童虐待に関する基礎的理解

我が国における重大な社会的課題としての児童虐待の問題を取り上げる。その実態、発生要因、対応の原則について検討する。

第14回 被虐待児への対応

被虐待児の小学校から中学校までの成長過程を分析し、被虐待経験からの回復において教員が果たす役割について学ぶ。

第15回 教育相談における保護者対応

当事者の保護者への対応についての原則を示し、役割演技等を通して実践的に学ぶ。

定期試験

科目名： 教育実習特講			
英文名：A Theory of Teaching Practice			
担当者： <small>ワタナベ ヨウコ オダ ヨシタカ</small> 渡部 容子・小田 義隆			
単 位：1単位	開講年次：3年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

教育実習は教職課程を履修した者のみが経験できる重要な実践的学習である。教育実習を通して、教職の意味を実践的に把握し、教職の道を人生の生き方として選択するケースも多い。講義のほか、学生自身が模擬授業を立案・実施し、それをもとにグループによる討論や相互の検討を行い、実践的に教科指導に必要な課題を認識し、教材、生徒、教師によって構成される授業とは何かについて考察を深め、次年度の教育実習に備える。

■学習・教育目標および到達目標

教職課程における学修を基盤に、実習校及び生徒に対する責任感をもって教科指導（授業）の実習に取り組むことができるように、教材研究、学習指導案作成、授業過程の構想づくり、授業における生徒理解の在り方等、教師の職務に必要な基礎的な力量を形成する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

授業終了後に試験・課題の評価に関する要点を解説します。

■教科書

『理系のための教育実習ハンドブック』（渡部容子・小田義隆，近畿大学：2017）

【留意事項】参考文献のうち教育実習を行う学校種の解説総則編・解説教科編をテキストとする。

※中学校免許取得者は以下のテキストも必ず購入すること。

『よくわかる社会福祉施設—教員免許志願者のためのガイドブック』（全国社会福祉協議会：2015）[ISBN]9784793511578

■参考文献

『中学校学習指導要領 平成20年3月告示』（文部科学省，東山書房：2008）

『中学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省，ぎょうせい：2008）

『中学校学習指導要領解説 理科編』（文部科学省，大日本図書：2008）

『中学校学習指導要領解説 数学編—平成20年9月』（文部科学省，教育出版：2008）

『中学校学習指導要領解説 道徳編』（文部科学省，日本文教出版：2008）

『高等学校学習指導要領』（文部科学省，東山書房：2011）

『高等学校学習指導要領解説 総則編〔平成21年〕』（文部科学省，東山書房：2009）

『高等学校学習指導要領解説 数学編理数編』（文部科学省，実教出版：2009）

『高等学校学習指導要領解説 理科編理数編』（文部科学省，実教出版：2009）

『高等学校学習指導要領解説 情報編』（文部科学省，開隆館出版販売：2010）

[ISBN]9784761920487 『新版 教育実習安心ハンドブック』（小山 茂喜，学事出版：2014）

[ISBN]9784054057050 『学習指導案と分かる授業のつくり方：プロ教師になる！（教育ジャーナル選書）』（大木 光夫，学研教育みらい：2013）

[ISBN]9784091050151 『教育実習完璧ガイド：実習生・受け入れ校必携（教育技術MOOK）』（宮崎 猛，小学館：2015）

[ISBN]9784906768288 『アクティブ・ラーニング対応 わかる！書ける！授業改善のための学習指導案 教育実習・研究授業に役立つ』（藤村 裕一，ジャムハウス：2015）

[ISBN]9784382057234 『アクティブラーニング入門（アクティブラーニングが授業と生徒を変える）』（小林昭文，産業能率大学出版部：2015）

■関連科目

教職課程科目のすべて

■成績評価方法および基準

学習指導案の作成 40%

模擬授業 60%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

渡部研究室（2号館5階507室）・ywtnb@waka.kindai.ac.jp

小田研究室（2号館5階509室）・oda@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

渡部・火曜3限

小田・木曜4限

事前にメールにてアポイントメントをとってください。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 教育実習の目的と授業

第2回 教育実習の視点（生徒、教職員との関係）、学習指導案の作成方法

第3回 学生による模擬授業 1（以下、教科・学校種により班を編成する）

第4回 学生による模擬授業 2

第5回 学生による模擬授業 3

第6回 学生による模擬授業 4

第7回 学生による模擬授業 5

第8回 学生による模擬授業 総括

科目名： 教職実践演習（中・高）			
英文名： Seminar for Prospective Teachers(Junior and Senior High School)			
担当者： <small>ワタナベ ヨウコ</small> 渡部 容子・ <small>オダ ヨシタカ</small> 小田 義隆			
単 位： 2単位	開講年次： 4年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

本演習では、教職課程の最終段階として、自らの学びを振り返り、特に補充・発展させるべき自己の課題を明らかにする。そのために、「履修カルテ」を活用した省察とグループディスカッション、教育実習での研究授業を発展させた模擬授業と相互評価、学校見学や授業見学などの教育フィールドワーク、重要なテーマ別のゲストスピーカーを交えた講話とディスカッションなどを行う。少人数でのグループ活動、学外での学び、外部講師の招聘などを含んでおり、特に積極的な授業参加と、自らの資質・能力の向上を目指す意欲が必要である。

■学習・教育目標および到達目標

中学校教諭・高等学校教諭として必要な基礎的な知識と専門性の形成に関して、以下の4項目について確認し、自己の課題を明らかにする。

- ① 教育に対する使命感や責任感を持ち、生徒に対する愛情が豊かであること。
- ② 社会性や対人関係、コミュニケーションの能力が適切であること。
- ③ 生徒や学校に関する必要な知識や対応能力の基礎を身に付けていること。
- ④ 理科もしくは数学科についての専門的指導力の基礎を形成していること。

■試験・課題に対するフィードバック方法

毎回の授業課題については、原則翌週に講評を行う。総括レポートについては、担当者が講評を書き込み「履修カルテ」と共に卒業までの期間に返却する。

■教科書

指定しない。

【留意事項】 関連の既習教科書・学習指導要領等を適宜参照のこと。必要な回には資料を配布する。

■関連科目

教職科目全般

■成績評価方法および基準

授業課題 50%

総括レポートおよび履修カルテ 40%

授業への積極的参加 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行う。

■研究室・E-mailアドレス

渡部研究室（2号館5階）・ywtnb@waka.kindai.ac.jp

小田研究室（2号館5階）・oda@waka.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

渡部・水曜2限

小田・木曜4限

事前にメールでアポイントメントを取って下さい。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 履修カルテを使った振り返りⅠ（全般について）

予習内容： ・「履修カルテ」を十分に整理し、必要なところをすべて記入しておく。

・教職課程の履修状況、成績等から自らの到達点を考え、補うべきところ、伸ばしていきたいところについて考えをまとめておく。

復習内容： ・グループディスカッションを通して、再度自分の課題について考え、総括レポートに繋がるように書き留めておく。

1.授業オリエンテーション…この科目の趣旨、ねらい、評価等について説明の後、「授業計画表」および「課題一覧」を配布し、詳細を説明する。

2.グループ分けを行う。

3.「履修カルテ」の記入を確認した後、グループごとに、それぞれの学びの振り返りについて意見交換を行う。

第2回 履修カルテを使った振り返りⅡ（教育実習を中心に）

予習内容：教育実習を中心に振り返りを行い、後輩にアドバイスをするとすれば、という想定でまとめておく。

復習内容：【履修カルテ】「履修カルテ」は、「教職実践演習」最終回後に提出する必要があるため、教育関係書の読書やボランティアなどを継続して進める。

- 1.教育実習、スクール・インターンシップ、ボランティアなど学外での学びを中心に振り返りを行い、グループごとに意見交換を行う。
- 2.グループディスカッションの結果は、第1回と合わせて「後輩へのアドバイス」としてグループごとにまとめて提出する。

第3回 授業の方法と技術Ⅰ

予習内容：教育実習の研究授業で用いた学習指導案を改善し、模擬授業の準備を行う。学習指導案は必要部数を印刷しておく。

復習内容：【課題①】模擬授業の講評も踏まえて、学習指導案を更に改良し、修正箇所を赤字で記入したものを提出用に用意しておく。

- ・教育実習の研究授業で用いた学習指導案を改善し、それをもとに模擬授業を順次行う。
- ・グループごとに発表順、司会、タイムキーパーを決めておく。
- ・授業者は、事前に学習指導案を用意し（教員用2部、グループ員用各1部）、必要な教具も用意する。
- ・模擬授業の前には、授業の背景、意図、改善点などをプレゼンテーションし、終了後は質疑応答を行う。
- ・グループ員は、質疑応答に積極的に参加するとともに、感想票を記入する。

第4回 授業の方法と技術Ⅱ

予習内容：教育実習の研究授業で用いた学習指導案を改善し、模擬授業の準備を行う。学習指導案は必要部数を印刷しておく。

復習内容：【課題①】模擬授業の講評も踏まえて、学習指導案を更に改良し、修正箇所を赤字で記入したものを提出用に用意しておく。

- ・教育実習の研究授業で用いた学習指導案を改善し、それをもとに模擬授業を順次行う。
- ・グループごとの発表順に従い、司会、タイムキーパーが進行する。
- ・授業者は、事前に学習指導案を用意し（教員用2部、グループ員用各1部）、必要な教具も用意する。
- ・模擬授業の前には、授業の背景、意図、改善点などをプレゼンテーションし、終了後は質疑応答を行う。
- ・グループ員は、質疑応答に積極的に参加するとともに、感想票を記入する。

第5回 授業の方法と技術Ⅲ

予習内容：教育実習の研究授業で用いた学習指導案を改善し、模擬授業の準備を行う。学習指導案は必要部数を印刷しておく。

復習内容：【課題①】模擬授業の講評も踏まえて、学習指導案を更に改良し、修正箇所を赤字で記入したものを提出用に用意しておく。

- ・教育実習の研究授業で用いた学習指導案を改善し、それをもとに模擬授業を順次行う。
- ・グループごとの発表順に従い、司会、タイムキーパーが進行する。
- ・授業者は、事前に学習指導案を用意し（教員用2部、グループ員用各1部）、必要な教具も用意する。
- ・模擬授業の前には、授業の背景、意図、改善点などをプレゼンテーションし、終了後は質疑応答を行う。
- ・グループ員は、質疑応答に積極的に参加するとともに、感想票を記入する。

第6回 教育フィールドワークⅠ（学校見学）

予習内容：見学する学校のHPを調べ、学校の沿革や教育方針、特色などを事前によく把握する。

復習内容：教育フィールドワークのまとめの一部として見学したことの内容をまとめておく。

- ・教育フィールドワークは、和歌山県内の中学校で実施予定である。
- ・事前に資料を配布し説明を行う。必要な申込み、誓約書の提出などを期限までに行っておくこと。
- ・学校の施設・設備、環境が、生徒の学習や活動および当該校の特色とどのように関わっているのかを意識しながら見学を行う。

第7回 教育フィールドワークⅡ（授業見学）

予習内容：見学する教科の単元などを予め調べ、熟知しておくこと。自分の免許状取得予定教科であれば、自らの学習指導案を立案するところまで予習を行う。

復習内容：教育フィールドワークのまとめの一部として授業見学の感想をまとめておく。

- ・和歌山県内の中学校の公開授業に参加予定である。
- ・質疑応答や講評会への参加も可能であれば行う。

第8回 教育フィールドワークⅢ（学校経営・教員研修の実際）

予習内容：研修テーマについて事前学習を行う。関連する書籍や統計、白書、答申などに目を通して、発表や討議が理

解できるように準備する。

復習内容：【課題②】研修見学の内容と感想をまとめ、前回・前々回と合わせて、教育フィールドワークのまとめを作成する。

- ・和歌山県内の中学校の研修会へ参加予定である。
- ・学校経営の方針・実践について知り、同時に教員研修の実際を学ぶ。

第9回 授業の方法と技術Ⅳ

予習内容：教育実習の研究授業で用いた学習指導案を改善し、模擬授業の準備を行う。学習指導案は必要部数を印刷しておく。

復習内容：【課題①】模擬授業の講評も踏まえて、学習指導案を更に改良し、修正箇所を赤字で記入したものを提出用に用意しておく。

- ・教育実習の研究授業で用いた学習指導案を改善し、それをもとに模擬授業を順次行う。
- ・グループごとの発表順に従い、司会、タイムキーパーが進行する。
- ・授業者は、事前に学習指導案を用意し（教員用2部、グループ員用各1部）、必要な教具も用意する。
- ・模擬授業の前には、授業の背景、意図、改善点などをプレゼンテーションし、終了後は質疑応答を行う。
- ・グループ員は、質疑応答に積極的に参加するとともに、感想票を記入する。
- ・各グループで、優れた模擬授業を行ったものを代表として選ぶ。

第10回 授業の方法と技術Ⅴ

予習内容：代表者は、行った模擬授業の略案を提出し、授業の準備を行う。

復習内容：【課題③】これまでの模擬授業の感想票を完成する。

- ・各グループの代表が、全員の前で模擬授業を行う。
- ・代表者は、学習指導案（略案）を教員に予め提出しておく。
- ・全体で講評会を行う。

第11回 学級経営の実際と留意点

予習内容：学校経営に関連した既習科目を復習する。

復習内容：【課題④】提出する感想文を書く。

- 1.現職教員をゲストスピーカーとして招き、学級経営の実際と留意点についてお話を伺う。
- 2.講師との質疑応答を行う。
- 3.グループディスカッションで、自らの課題に引き付けて学ぶ。

第12回 特別支援教育の実際と留意点

予習内容：特別支援教育や発達障害に関連した本を新たに1冊以上読んで出席すること。

復習内容：【課題⑤】提出する感想文を書く。

- 1.現職教員をゲストスピーカーとして招き、特別支援教育の実際と留意点についてお話を伺う。
- 2.講師との質疑応答を行う。
- 3.グループディスカッションで、自らの課題に引き付けて学ぶ。

第13回 ソーシャルワークと生徒支援

予習内容：関連する新聞記事を検索し、ブックレット、本を新たに1冊以上読む。

復習内容：【課題⑥】提出する感想文を書く。

- 1.ソーシャルワーカーをゲストスピーカーとして招き、困難な状況にある子どもたちや家庭の実態、支援の在り方、学校と福祉機関との連携等についてお話を伺う。
- 2.講師との質疑応答を行う。
- 3.グループディスカッションで、自らの課題に引き付けて学ぶ。

第14回 これからの学校と教師の課題

予習内容：「これからの学校と教師の課題」に関連する興味あるトピックについて調べ、グループでディスカッションができる資料を作成する。

復習内容：ディスカッションの内容、自分の考え等をまとめておく。

- ・外部講師による連続講話も踏まえ、テーマについて各グループでディスカッションを行う。
- ・資料を添えて各自1つのトピックを持ち寄り、それを素材として話し合う。
- ・自らの振り返りや課題発見と繋げることが望ましい。

第15回 「教職実践演習」と教職課程履修のまとめ

予習内容：「教職実践演習」を振り返り、何を得たのか発表できるように考えを深めておく。

復習内容：【総括レポート】総括レポートの作成

- 1.全体で「教職実践演習」での学びを総括し、何を学び取ったのかそれぞれ発表を行う。
- 2.総括レポートについて説明を行う。

科目名：理科教育法 I			
英文名：Methodology of Teaching Science I			
担当者：伊丹 芳徳 <small>イタミ ヨシノリ</small>			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

本科目は、教育職員免許法「教職課程及び指導法に関する科目」に定められた理科教育免許の取得に必修の科目です。中学校学習指導要領 理科編ならびに高等学校学習指導要領 理科編 理数編に沿った教育実践力の習得とともに、自然科学に関する素養を涵養します。

■学習・教育目標および到達目標

受講者はこの授業を受講することによって

- ① 小学校・中学校・高等学校の理科教育の学習体系を把握し
- ② 中学校や高等学校での理科教育の授業指導案を作成する能力を習得し
- ③ 理科教育の授業展開の実践力を養います

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後に模範答案(印刷物)を配布します。

■教科書

適宜、プリントを配布します

■参考文献

適宜、授業中に紹介します

■関連科目

理科教育法特講 I, 理科教育法 II, 理科教育法特講 II および他の教職課程教科・科目

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

演習レポート 50%

■授業評価アンケート実施方法

本学実施規定に準拠して行います

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)

itami.y@hb.tpl.jp

■オフィスアワー

当該科目授業時間後の約2時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション「理科教員養成と理科教育法 I」

予習内容 : 理科教員採用試験内容についてネット検索する

予習時間 : 30分

復習内容 : 実施した理科教員採用試験過去問の答え合わせを行う

復習時間 : 60分

- ① 授業内容の概要と成績評価方法の説明
- ② 都道府県の教員採用試験の概要
- ③ 教員採用試験過去問の解説

第2回 理科教員採用試験問題の研究

予習内容 : 理科教員採用試験方法についてネット検索等を行う

予習時間 : 30分

復習内容 : 理科教員採用試験の分析を行う

復習時間 : 60分

- ① 理科教員採用試験方法と過去問についての解説

第3回 学習指導要領と教科書(物理・化学)との関係

予習内容 : 中・高校の学習指導要領 理科を一読する

予習時間 : 30分

復習内容 : 学習指導要領と中学・高校の理科教科書(物理・化学)との関係をまとめる

復習時間 : 60分

物理・化学分野に関する学習指導要領と中学・高校の理科教科書との関係について理解する

第4回 学習指導要領と教科書(生物・地学)との関係

予習内容 : 中・高校の学習指導要領 理科を再読する

予習時間 : 30分

復習内容 : 学習指導要領と中学・高校の理科教科書(生物・地学)との関係をまとめる

復習時間 : 60分

生物・地学分野に関する学習指導要領と中学・高校の理科教科書との関係について理解する

第5回 理科教育の捉え方・考え方

予習内容 : 学習指導要領 理科の変遷について調べる

予習時間 : 30分

復習内容 : 学習指導要領 理科の変遷をまとめる

復習時間 : 60分

学習指導要領 理科の変遷をたどり、現在から将来にわたって求められる理科教育の在り方について考える

第6回 理科教育と科学技術との関連

予習内容 : 理科教育に期待される項目を調べる

予習時間 : 30分

復習内容 : 理科教育が科学技術の継承・発展に果たす役割をまとめる

復習時間 : 60分

理科教育が科学技術の継承・発展に果たす役割をOECDの調査結果報告等を基に研究する

第7回 科学実験と安全管理

予習内容 : 科学実験での安全管理を調べる

予習時間 : 30分

復習内容 : 学校管理下での科学実験での安全管理をまとめる

復習時間 : 60分

学校管理下での科学実験での安全管理について、法的根拠、安全管理、事故例などを研究する

第8回 授業研究(物理)

予習内容 : 中学校「エネルギー分野」内容構成を把握する

予習時間 : 30分

復習内容 : 中学校「エネルギー分野」の指導案を作成する

復習時間 : 60分

「エネルギー分野」に関する授業計画、授業指導案の作成、模擬授業

第9回 授業研究(化学)

予習内容 : 中学校「粒子分野」の内容構成を把握する

予習時間 : 30分

復習内容 : 中学校「粒子分野」の指導案を作成する

復習時間 : 60分

「粒子分野」に関する授業計画、授業指導案の作成、模擬授業

第10回 授業研究(生物)

予習内容 : 中学校「生命分野」の内容構成を把握する

予習時間 : 30分

復習内容 : 中学校「生命分野」の指導案を作成する

復習時間 : 60分

「生命分野」に関する授業計画、授業指導案の作成、模擬授業

第11回 授業研究「地学」

予習内容 : 中学校「地球分野」の内容構成を把握する
予習時間 : 30分
復習内容 : 中学校「地球分野」の指導案を作成する
復習時間 : 60分

「地球分野」に関する授業計画, 授業指導案の作成, 模擬授業

第12回 学習指導計画での板書について(物理)

予習内容 : 中学校「エネルギー分野」板書のあり方について調べる
予習時間 : 30分
復習内容 : 中学校「エネルギー分野」での板書案の作成
復習時間 : 60分

「エネルギー分野」学習指導計画での板書案の作成, 模擬授業

第13回 学習指導計画での板書について(化学)

予習内容 : 中学校「粒子分野」板書のあり方について調べる
予習時間 : 30分
復習内容 : 中学校「粒子分野」での板書案の作成
復習時間 : 60分

「粒子分野」学習指導計画での板書案の作成, 模擬授業

第14回 学習指導計画での板書について(生物)

予習内容 : 中学校「生命分野」板書のあり方について調べる
予習時間 : 30分
復習内容 : 中学校「生命分野」での板書案の作成
復習時間 : 60分

「生命分野」学習指導計画での板書案の作成, 模擬授業

第15回 学習指導計画での板書について(地学)

予習内容 : 中学校「地球分野」板書のあり方について調べる
予習時間 : 30分
復習内容 : 中学校「地球分野」での板書案の作成
復習時間 : 60分

「地球分野」学習指導計画での板書案の作成, 模擬授業

定期試験

- ・学習指導「理科」に関する論述
- ・授業指導案の作成
- ・理科一般教養・教職教養問題

科目名：理科教育法Ⅱ			
英文名：Methodology of Teaching Science II			
担当者：伊丹 芳徳 <small>イタミ ヨシノリ</small>			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

本科目は、理科教育法Ⅰに引き続いて行う、理科教員免許の取得に必修な科目で、学習指導要領 理科に基づいて授業計画や理科教材の作成、授業展開等の教育実践力を育むとともに、自然科学についての素養を培います。

■学習・教育目標および到達目標

本科目を受講することで、

- ①学校での理科教育の目標についての理解を深め
- ②理科教育体系を把握し
- ③理科の授業計画を立案し、実施する等の教育実践力を高めます

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後に模範答案(印刷物)を配布します。

■教科書

適宜、プリントを配布します

■参考文献

適宜、授業中に紹介します

■関連科目

理科教育法Ⅰ、理科教育法特講Ⅰ、理科教育法特講Ⅱおよび他の教職課程科目

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

演習レポート 50%

■授業評価アンケート実施方法

本学実施規程に準拠して行います

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)

itami.y@hb.tpl.jp

■オフィスアワー

当該科目授業後の約2時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション「理科教員養成と理科教育法Ⅱについて」

予習内容：教員採用試験についての調査を行う

予習時間：30分

復習内容：教員採用試験過去問を研究する

復習時間：60分

①授業内容と成績評価の説明

②教員採用試験の実施形態と過去問

第2回 授業展開事例研究(物理)

予習内容：「力の合成・分解」について復習する

予習時間：30分

復習内容：「力の合成・分解」に関する問題を解く

復習時間：60分

①力の合成・分解

②関連する教採過去問研究

第3回 授業展開事例研究(物理)

予習内容 : 「運動」についての復習を行う

予習時間 : 30分

復習内容 : 「運動」についての問題を解く

復習時間 : 60分

- ①力と運動
- ②関連する教採過去問研究

第4回 授業展開事例研究(物理)

予習内容 : 「エネルギー」を復習する

予習時間 : 30分

復習内容 : 「エネルギー」についての問題を解く

復習時間 : 60分

- ①エネルギー
- ②関連する教採過去問研究

第5回 授業展開事例研究(化学)

予習内容 : 「水溶液」を復習する

予習時間 : 30分

復習内容 : 「水溶液」についての問題を解く

復習時間 : 60分

- ①教科書内容の研究 (水溶液)
- ②小テストを作成, 実施する授業展開の検討
- ③簡易模擬授業の実施

第6回 授業展開事例研究(生物)

予習内容 : 「遺伝」を復習する

予習時間 : 30分

復習内容 : 「遺伝」についての問題を解く

復習時間 : 60分

- ①教科書内容の研究 (遺伝)
- ②小テストを作成, 実施する授業展開の検討
- ③簡易模擬授業の実施

第7回 授業展開事例研究(地学)

予習内容 : 「太陽系・宇宙」を復習する

予習時間 : 30分

復習内容 : 「太陽系・宇宙」についての問題を解く

復習時間 : 60分

- ①教科書内容の研究 (太陽系、宇宙)
- ②小テストを作成, 実施する授業展開の検討
- ③簡易模擬授業の実施

第8回 授業展開事例研究(化学)

予習内容 : 「中和」を復習する

予習時間 : 30分

復習内容 : 「中和」についての問題を解く

復習時間 : 60分

- ①教科書内容の研究 (化学：中和)
- ②小テストを作成, 実施する授業展開の検討
- ③簡易模擬授業の実施

第9回 「環境」分野での授業展開研究

予習内容 : 「環境」について復習する

予習時間 : 30分

復習内容 : 「環境」についての問題を解く

復習時間 : 60分

- ①「環境」内容の研究

- ②小テストを作成, 実施する授業展開の検討
- ③簡易模擬授業の実施

第10回 「物理」分野での授業展開研究

予習内容 : 「力と運動」の小テストを作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「力と運動」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分

- ①「力と運動」内容の研究
- ②小テストを作成, 実施する授業展開の検討
- ③簡易模擬授業の実施

第11回 「物理」分野での授業展開研究

予習内容 : 「比熱、電気」の小テストを作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「比熱、電気」の模擬授業を行う
復習時間 : 60分

- ①「比熱、電気」内容の研究
- ②小テストを作成, 実施する授業展開の検討
- ③簡易模擬授業の実施

第12回 「化学」分野での授業展開研究

予習内容 : 「物質量、中和」の小テストを作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「物質量、中和」の模擬授業を行う
復習時間 : 60分

- ①「物質量、中和」内容の研究
- ②小テストを作成, 実施する授業展開の検討
- ③簡易模擬授業の実施

第13回 「化学」分野での授業展開研究

予習内容 : 「酸化還元」の小テストを作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「酸化還元」の模擬授業を行う
復習時間 : 60分

- ①「酸化還元」内容の研究
- ②小テストを作成, 実施する授業展開の検討
- ③簡易模擬授業の実施

第14回 「生物」分野での授業展開研究

予習内容 : 「遺伝子」の小テストを作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「遺伝子」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分

- ①「遺伝子」内容の研究
- ②小テストを作成, 実施する授業展開の検討
- ③簡易模擬授業の実施

第15回 「生物」分野での授業展開研究

予習内容 : 「体内環境の維持」の小テストを作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「体内環境の維持」の模擬授業を行う
復習時間 : 60分

- ①「体内環境の維持」内容の研究
- ②小テストを作成, 実施する授業展開の検討
- ③簡易模擬授業の実施
- ④文部科学省等の答申内容研究

定期試験

- ・理科教育に関する論述
- ・授業指導案の作成
- ・理科一般教養・教職教養の問題

科目名：理科教育法特講Ⅰ			
英文名：Methods for Scientific Education Special Lecture I			
担当者：伊丹 芳徳			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

理科教育法Ⅰに引き続き、理科教員に必要な教育関係法令の理解、授業指導案作成、教材開発実践力の伸長を図るための授業を行います

■学習・教育目標および到達目標

本授業では

- ①中学校理科ならびに高等学校理科の教科内容概要を理解し
- ②学習指導要領に基づいて授業を展開し
- ③授業を実践する能力を養成します。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後に模範答案(印刷物)を配布します。

■教科書

適宜、プリントを配布します

■参考文献

適宜、授業中に紹介します

■関連科目

理科教育法Ⅰ、理科教育法Ⅱ、理科教育法特講Ⅱおよび他の教職課程科目

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

演習レポート 50%

■授業評価アンケート実施方法

本学実施規程に準拠して行います

■研究室・E-mailアドレス

講師控室(2号館2階)

itami.y@hb.tp1.jp

■オフィスアワー

授業後の約1時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション「本授業と理科教員養成、教採関連事項について」

予習内容 : 理科教員に期待される項目を調べる

予習時間 : 30分

復習内容 : 教採の構成と実施形態をまとめる

復習時間 : 60分

①特講Ⅰの目的(理科教員の養成)、講義の構成、試験・評価の説明

②教採の構成と実施形態

第2回 教員採用試験事例研究

予習内容 : 教員採用試験過去問を調べる

予習時間 : 30分

復習内容 : 教員採用試験過去問を解答する

復習時間 : 60分

教員採用試験過去問および実施形態の解説

第3回 小・中・高校の学習内容の系統的展開について(物理・化学)

予習内容 : 物理・化学分野での、小・中・高校の学習内容の系統性を調べる
予習時間 : 30分
復習内容 : 物理・化学分野での、小・中・高校の学習内容の系統性をまとめる
復習時間 : 60分

物理・化学分野について、小・中・高校の学習内容の系統性の理解

第4回 小・中・高校の学習内容の系統的展開について(生物・地学)

予習内容 : 生物・地学分野での、小・中・高校の学習内容の系統性を調べる
予習時間 : 30分
復習内容 : 生物・地学分野での、小・中・高校の学習内容の系統性をまとめる
復習時間 : 60分

生物・地学分野について、小・中・高校の学習内容の系統性の理解

第5回 学習指導要領にみる理科教育の変遷

予習内容 : 学習指導要領の歴史を調べる
予習時間 : 30分
復習内容 : 理科教育の変遷を学習指導要領の改訂に沿ってまとめる
復習時間 : 60分

理科教育の変遷を学習指導要領の改訂に沿ってまとめ、研究する

第6回 指導法にみる理科教育の変遷

予習内容 : 理科教育の考え方を調べる
予習時間 : 30分
復習内容 : 系統学習や仮設実験授業、構成主義等の概要をまとめる
復習時間 : 60分

系統学習や仮設実験授業、構成主義などを取り上げ、自らの教育観を考える

第7回 理科での危機管理

予習内容 : 理科での危機管理の在り方を調べる
予習時間 : 30分
復習内容 : 理科での危機管理の事例をまとめる
復習時間 : 60分

理科教育についての危機管理体制の整備を目的にして、危機管理の在り方を研究する

第8回 教材研究(物理)

予習内容 : 物理分野(エネルギー)での教材例を調べる
予習時間 : 30分
復習内容 : 物理分野(エネルギー)での教材例をまとめる
復習時間 : 60分

物理分野(エネルギー)での教材開発と学習指導案の作成を行い、これを用いた模擬授業をする

第9回 教材研究(化学)

予習内容 : 化学分野(粒子)での教材例を調べる
予習時間 : 30分
復習内容 : 化学分野(粒子)での教材例をまとめる
復習時間 : 60分

化学分野(粒子)での教材開発と学習指導案の作成を行い、模擬授業をする

第10回 教材研究(生物)

予習内容 : 生物分野(生命)での教材例を調べる
予習時間 : 30分
復習内容 : 生物分野(生命)での教材例をまとめる
復習時間 : 60分

生物分野(生命)での教材開発と学習指導案の作成を行い、これを用いた模擬授業をする

第11回 教材研究(地学)

予習内容 : 地学分野(地球)での教材例を調べる
予習時間 : 30分

復習内容 : 地学分野(地球)での教材例をまとめる

復習時間 : 60分

地学分野(地球)での教材開発と学習指導案の作成を行い, これを用いた模擬授業をする

第12回 系統的な授業計画(物理)

予習内容 : 物理分野の学習指導案における板書案を調べる

予習時間 : 30分

復習内容 : 物理分野の学習指導案における板書案を作成する

復習時間 : 60分

物理分野の学習指導案における板書案を策定し, これを用いた模擬授業を行う

第13回 系統的な授業計画(化学)

予習内容 : 化学分野の学習指導案における板書案を調べる

予習時間 : 30分

復習内容 : 化学分野の学習指導案における板書案を作成する

復習時間 : 60分

化学分野の学習指導案における板書案を策定し, これを用いた模擬授業を行う

第14回 系統的な授業計画(生物)

予習内容 : 生物分野の学習指導案における板書案を調べる

予習時間 : 30分

復習内容 : 生物分野の学習指導案における板書案を作成する

復習時間 : 60分

生物分野の学習指導案における板書案を策定し, これを用いた模擬授業を行う

第15回 系統的な授業計画(地学)

予習内容 : 地学分野の学習指導案における板書案を調べる

予習時間 : 30分

復習内容 : 地学学分野の学習指導案における板書案を作成する

復習時間 : 60分

地学分野の学習指導案における板書案を策定し, これを用いた模擬授業を行う

定期試験

①学習指導要領に沿った授業の展開の工夫について

②学習指導案の作成

③教採過去問

科目名：理科教育法特講Ⅱ			
英文名：Methods for Scientific Education Special Lecture II			
担当者：伊丹 芳徳 <small>イタミ ヨシノリ</small>			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

理科教員に求められる教育法規の理解や教育実践力を養成するための授業を行います。

■学習・教育目標および到達目標

理科教育法Ⅱと関連した内容で、学習指導要領 理科に沿った学習指導案の作成や、これに基づいた模擬授業を行い、授業実践力を養成します。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に模範答案（印刷物）を配布します。

■教科書

適宜、プリントを配布します。

■参考文献

適宜、授業中に紹介します。

■関連科目

理科教育法Ⅱ、および他の教職課程科目

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

演習レポート 50%

■授業評価アンケート実施方法

本学実施規定に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控え室(2号館2階)

itami.y@hb.tpl.jp

■オフィスアワー

当該科目授業後の約1時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション(授業計画と評価について)

予習内容 : 教員採用試験について調査する

予習時間 : 30分

復習内容 : 教員採用試験を解く

復習時間 : 60分

①授業計画概説と成績評価方法についての説明

②教員採用試験問題の解説

第2回 学習指導案研究(物理)

予習内容 : 学習指導案「力」を作成する

予習時間 : 30分

復習内容 : 「力」についての模擬授業を行う

復習時間 : 60分

①学習指導案「力」の作成

②模擬授業(板書を含む)

③実験教材「アルコールロケット」製作と実験

第3回 学習指導案研究(物理)

予習内容 : 学習指導案「運動」を作成する

- 予習時間 : 30分
復習内容 : 「運動」の模擬授業を行う
復習時間 : 60分
①学習指導案「運動」の作成
②模擬授業(板書を含む)
③実験教材「リングキャッチャー」の活用

第4回 学習指導案研究(物理)

- 予習内容 : 学習指導案「エネルギー」を作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「エネルギー」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分
①学習指導案「エネルギー」の作成
②模擬授業(板書を含む)
③教員採用試験過去問 検討

第5回 学習指導案研究(化学)

- 予習内容 : 学習指導案「水溶液の性質」を作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「水溶液の性質」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分
①学習指導案「水溶液の性質」の作成
②模擬授業(板書を含む)
③教員採用試験過去問 検討

第6回 学習指導案研究(生物)

- 予習内容 : 学習指導案「遺伝」を作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「遺伝」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分
①学習指導案「遺伝」の作成
②模擬授業(板書を含む)
③教員採用試験過去問 検討

第7回 学習指導案研究(地学)

- 予習内容 : 学習指導案「太陽系、恒星」を作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「太陽系、恒星」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分
①学習指導案「太陽系、恒星」の作成
②模擬授業(板書を含む)
③教員採用試験過去問 検討

第8回 学習指導案研究(化学)

- 予習内容 : 学習指導案「中和」を作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「中和」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分
①学習指導案「中和」の作成
②模擬授業(板書を含む)
③教員採用試験過去問 検討

第9回 学習指導案研究(環境教育)

- 予習内容 : 学習指導案「環境教育」及び「科学技術と人間」を作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「環境教育」及び「科学技術と人間」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分
①学習指導案「環境教育」及び「科学技術と人間」の作成
②模擬授業(板書を含む)

③教員採用試験過去問 検討

第10回 学習指導実践研究(物理)

予習内容 : 学習指導案「力と運動」を作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「力と運動」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分

- ①学習指導「力と運動」の実践
- ②模擬授業と相互評価
- ③教員採用試験過去問 検討

第11回 学習指導実践研究(物理)

予習内容 : 学習指導案「比熱」・「電気」を作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「比熱」・「電気」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分

- ①学習指導「比熱」、「電気」の実践
- ②模擬授業と相互評価
- ③教員採用試験過去問 検討

第12回 学習指導実践研究(化学)

予習内容 : 学習指導案「物質質量」・「中和反応」を作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「物質質量」・「中和反応」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分

- ①学習指導「物質質量」、「中和反応」の実践
- ②模擬授業と相互評価
- ③教員採用試験過去問 検討

第13回 学習指導実践研究(化学)

予習内容 : 学習指導案「酸化還元」・「科学技術と人間」を作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「酸化還元」・「科学技術と人間」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分

- ①学習指導「酸化還元」、「科学技術と人間」の実践
- ②模擬授業と相互評価
- ③教員採用試験過去問 検討

第14回 学習指導実践研究(生物)

予習内容 : 学習指導案「遺伝」を作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「遺伝」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分

- ①学習指導「遺伝」の実践
- ②模擬授業と相互評価
- ③教員採用試験過去問 検討

第15回 学習指導実践研究(生物)並びに理科教育関連法規のまとめ

予習内容 : 学習指導案「恒常性」を作成する
予習時間 : 30分
復習内容 : 「恒常性」についての模擬授業を行う
復習時間 : 60分

- ①学習指導「恒常性」の実践
- ②模擬授業と相互評価
- ③理科教育関連法規のまとめ
- ④教員採用試験過去問 検討

定期試験

- ①理科教育関連法規
- ②理科学習指導案の作成
- ③理科専門教養問題並びに一般教養問題

科目名： 数学科教育法 I			
英文名： Methodology of Mathematics Education I			
担当者： <small>イマイ トシヒロ</small> 今井 敏博			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

中学校数学科教員免許・高等学校数学科教員免許を取得するために履修する必要がある科目である。中学校教諭、高等学校教諭に必要な資質の習得を目標とする。教材内容の背景を探り、実際に教科書に掲載されている教材に結びつけていく。問答によって授業を進め、後半には演習を行う。

■学習・教育目標および到達目標

授業で扱った内容を確実に習得し、自分が授業実践を行うときに適用・応用する力を身につけることを、学習目標・教育目標・到達目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートについては評価後コメントを記入し返却します。
授業中課題については、答案を回収し翌回の授業時間に解説します。

■教科書

[ISBN]9784316300139 『中学校学習指導要領解説 数学編—平成20年9月』(文部科学省, 教育出版：2008)
[ISBN]9784407319255 『高等学校学習指導要領解説数学編理数編』(文部科学省, 実教出版：2015)
[ISBN]9784316300078 『個に応じた指導に関する指導資料—発展的な学習や補充的な学習の推進 (中学校数学編)』(文部科学省, 教育出版：2003)

■参考文献

[ISBN]9784491016443 『和英/英和 算数・数学用語活用辞典』(東洋館出版社：2000)
[ISBN]9784906488261 『算数・数学教育の理論と実践—算数・数学科教育法』(正田実, 現代教育社(堺)：2003)
[ISBN]9784319106844 『教師教育講座 第14巻 中等数学教育』(小山正孝, 協同出版：2014)
[ISBN]9784319106653 『教科教育の理論と授業〈2〉理数編 (新教職教育講座)』(協同出版：2012)
[ISBN]9784863590816 『算数・数学科教育 (教科教育学シリーズ 第3巻)』(一藝社：2015)

■関連科目

数学科教育法Ⅱ
数学科教育法特講Ⅰ
数学科教育法特講Ⅱ

■成績評価方法および基準

レポート 50%
授業中課題 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階講師控室・imai-t@maroon.plala.or.jp

■オフィスアワー

授業時間帯の前後

■授業計画の項目・内容及び到達目標

数概念の拡張、「数」教材を扱う。整除性、順序構造、ユークリッド互除法、ピタゴラス数などの自然数に関する内容とその教材化の可能性を考察する。自然数、有理数、実数へ至る数概念の拡張を行う。その後、教科書で扱われている「正の数・負の数」の内容の様々な指導法を扱う。最後に、無理数の導入、平方根の計算に関する教科書での扱いについて触れる。

第1回 整除性

予習内容： 整除性という用語を調べておくこと
復習内容： 整除性を復習し、整除性を扱った授業展開例を調べること
整除性とその教材としての扱いを解説する。

第2回 順序構造と約数・倍数

予習内容 : 順序構造という用語を調べておくこと
復習内容 : 約数・倍数の図的表記を復習し、確実に理解すること
順序構造を解説し、約数・倍数との関連を考察する。

第3回 ユークリッドの互除法

予習内容 : ユークリッド互除法という用語について調べておくこと
復習内容 : ユークリッド互除法の方法の理解を確実にし、計算できるようにすること
ユークリッドの互除法を解説し、現在の学校数学の最大公約数の扱いと比較する。

第4回 公約数の図的表記

予習内容 : 約数・倍数の図的表記(第2回)を復習しておくこと
復習内容 : いろいろな2つの数の公約数を図的表記から求められるようにすること
2数の公約数の図的表記に関する演習を行う。

第5回 ピタゴラス数を導く方法

予習内容 : ピタゴラス数という用語を調べておくこと
復習内容 : ピタゴラス数を導く方法を確実に理解し、大きい数をも求められるようにすること
ピタゴラス数を導く方法を解説し、実際にピタゴラス数を求める。

第6回 数概念の拡張 ー整数ー

予習内容 : 整数という用語について調べておくこと
復習内容 : 整数の計算の数学的定義にしたがって計算ができるように復習すること
整数の構成を数学的に解説し、教材との関連を考察する。

第7回 数概念の拡張 ー有理数ー

予習内容 : 有理数という用語について調べておくこと
復習内容 : 有理数の計算の数学的定義にしたがって計算ができるように復習すること
有理数の構成を数学的に解説し、教材との関連を考察する。

第8回 正の数・負の数に関する教材とその指導(1)

予習内容 : 正の数・負の数についての本講義の教科書での記述を読んでおくこと
復習内容 : 正の数・負の数の授業実践例を調べること
正の数・負の数の導入教材とその指導法を考察する。

第9回 正の数・負の数に関する教材とその指導(2)

予習内容 : 正の数・負の数の計算に関する本講義の教科書の記述を読んでおくこと
復習内容 : 正の数・負の数の計算に関する授業実践例を調べること
正の数・負の数の計算方法の意味理解に関する指導法を紹介する。

第10回 平方根の導入教材

予習内容 : 平方根という用語を調べておくこと
復習内容 : 平方根の導入に関する授業実践例を調べること
平方根の導入教材の様々を紹介する。

第11回 ルート2は有理数でないことの証明

予習内容 : 背理法という用語を調べておくこと
復習内容 : ルート2の数は有理数でないことの証明を扱った授業実践例を調べること
ルート2は有理数でないことの証明方法を難易にしたがって様々紹介する。

第12回 平方根の定義とその指導

予習内容 : 平方根に関する本講義の教科書での記述を読んでおくこと
復習内容 : 平方根を扱った授業実践例を調べること
平方根の定義の指導を生徒の意味理解の観点から考察する。

第13回 平方根の計算とその指導(1)

予習内容 : 平方根の加減の計算についての本講義の教科書の記述をよんでおくこと
復習内容 : 平方根の加減の計算についての授業実践例を調べること
加法の意味理解を扱う

第14回 平方根の計算とその指導 (2)

予習内容 : 平方根の乗除に関する本講義の教科書の記述を読んでおくこと
復習内容 : 平方根の乗除を扱った授業実践例を調べること
乗法の意味理解を扱う。

第15回 「数」教材の学習指導要領での扱いとその変遷

予習内容 : 「数」教材の学習指導要領の記述を読んでおくこと
復習内容 : 「数」教材の系統性についての理解を確実にすること
戦後の変遷を振り返る。

科目名： 数学科教育法Ⅱ			
英文名： Methodology of Mathematics Education II			
担当者： <small>イマイ トシヒロ</small> 今井 敏博			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

中学校数学科教員免許・高等学校数学科教員免許を取得するために履修する必要がある科目である。中学校教諭、高等学校教諭に必要な資質の習得を目標とする。教材内容の背景を探り、実際に教科書に掲載されている教材に結びつけていく。問答によって授業を進め、後半には演習を行う。

■学習・教育目標および到達目標

授業で扱った内容を確実に習得し、自分が授業実践を行うときに適用・応用する力を身につけることを、学習目標・教育目標・到達目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートについては、評価後コメントを記入して返却します。
授業中課題については、答案を回収し翌回の授業時間に解説します。

■教科書

[ISBN]9784316300139 『中学校学習指導要領解説 数学編—平成20年9月』(文部科学省, 教育出版：2008)
[ISBN]9784407319255 『高等学校学習指導要領解説数学編理数編』(文部科学省, 実教出版：2015)
[ISBN]9784316300078 『個に応じた指導に関する指導資料—発展的な学習や補充的な学習の推進 (中学校数学編)』(文部科学省, 教育出版：2003)

■参考文献

[ISBN]9784491016443 『和英/英和 算数・数学用語活用辞典』(東洋館出版社：2000)
[ISBN]9784906488261 『算数・数学教育の理論と実践—算数・数学科教育法』(正田実, 現代教育社(堺)：2003)
[ISBN]9784319106844 『教師教育講座 第14巻 中等数学教育』(小山正孝, 協同出版：2014)
[ISBN]9784319106653 『教科教育の理論と授業〈2〉理数編 (新教職教育講座)』(協同出版：2012)
[ISBN]9784863590816 『算数・数学科教育 (教科教育学シリーズ 第3巻)』(一藝社：2015)

■関連科目

数学科教育法Ⅰ
数学科教育法特講Ⅰ
数学科教育法特講Ⅱ

■成績評価方法および基準

レポート 50%
授業中課題 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階講師控室・imai-t@maroon.plala.or.jp

■オフィスアワー

授業時間帯の前後

■授業計画の項目・内容及び到達目標

学校数学における「文字式」教材とその背景を扱う。式の役割、式の語源、式の種類、式を用いるよさについて述べる。方程式の扱い(未知数・変数)、一次方程式による問題解決、二次方程式、連立方程式、不等式とその性質についての指導法を考察する。

第1回 数の式の意味(1)

予習内容：等号の役割について自分なりに調べておくこと
復習内容：等号の小・中・高の校種ごとの扱いの違いについて整理すること
関係を表す記号と生徒の誤認識を扱う。

第2回 数の式の意味(2)

予習内容 : 演算記号、かっこの役割について自分なりに調べておくこと
復習内容 : 演算、かっこに関する授業実践での指導上の留意点をまとめること
演算、かっこなどの記号と生徒の誤認識を扱う。

第3回 数の式、方程式の語源

予習内容 : 方程式の語源について自分なりに調べておくこと
復習内容 : 方程式を扱った和算の例について調べること
歴史的な考察を行う。

第4回 数の式の種類

予習内容 : 本講義の教科書における「文字と式」の部分を読んでおくこと
復習内容 : 文字式の4つの分類の理解を確実にすること
オープン型・クローズド型、フレーズ型・センテンス型の分類を行う。

第5回 数の式を用いるよさ

予習内容 : 本講義の教科書の「数式」に関する部分を読み「よさ」という用語が用いられている箇所をチェックしておくこと
復習内容 : 講義で扱った内容と類似の授業実践例を調べること
数の式のよさを生徒に感得させる指導法を考察する。

第6回 数の式と思考の有効性

予習内容 : 逆思考、順思考という用語を調べておくこと
復習内容 : 順思考、逆思考の違いについての理解を確実にすること
逆思考、順思考と学校数学との関連を考察する。

第7回 方程式の指導(1)

予習内容 : 本講義の教科書における方程式の記述について読んでおくこと
復習内容 : 方程式の文字 x の扱いについての理解を確実にすること
方程式と恒等式の違い、文字 x の未知数的扱いと変数的扱いの違いを考察する。

第8回 方程式の指導(2)

予習内容 : 本講義の教科書における方程式における変数の扱いの部分を読んでおくこと
復習内容 : 学校の数学科の授業実践における方程式の導入について調べること
方程式の文字 x の変数的扱いの導入を考察する。

第9回 方程式の指導(3)

予習内容 : 本講義の教科書における方程式の解き方の記述部分を読んでおくこと
復習内容 : 方程式の解き方の授業実践例を調べること
方程式の解き方の指導例を紹介する。

第10回 方程式を用いた問題解決

予習内容 : 本講義の教科書における1次方程式の応用に関する記述部分を読んでおくこと
復習内容 : 1次方程式の応用を扱った授業実践例を調べること
日常的な題材による方程式を用いた問題解決の指導例を紹介する。

第11回 連立方程式の指導

予習内容 : 本講義の教科書における連立方程式の記述部分について調べること
復習内容 : 加減法、代入法など連立方程式を扱った授業実践例を調べること
連立方程式の加減法、代入法の価値を考察する。

第12回 不等式の解き方(1)

予習内容 : 本講義の教科書における不等式の記述部分を読んでおくこと
復習内容 : 命題としての不等式の見方についての理解を確実にすること
オープンセンテンスとしての不等式の見方を考察する。

第13回 不等式の指導(2)

予習内容 : 本講義の教科書における不等式の応用の記述部分について読んでおくこと
復習内容 : 不等式の応用を扱った授業展開例を調べること
日常的な問題解決における不等式の活用を考察する。

第14回 関数の導入

予習内容 : 本講義の教科書における関数の記述部分を読んでおくこと
復習内容 : 関数の導入についての授業実践例を調べること
変化と対応の扱い、表・式・グラフの表現方法を考察する。

第15回 関数の定義

予習内容 : 関数の定義について自分なりに調べておくこと
復習内容 : 学校数学における関数の扱いの変遷についての理解を確実にすること
関数の定義の学校数学での扱いに関する変遷を考察する。

科目名： 数学科教育法特講 I			
英文名： The Study of Mathematics Education I			
担当者： <small>イマイ トシヒロ</small> 今井 敏博			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

中学校数学科教員免許・高等学校数学科教員免許を取得するために選択履修することができる科目である。中学校教諭、高等学校教諭に必要な資質の習得を目標とする。教材内容の背景を探り、実際に教科書に掲載されている教材に結びつけていく。問答によって授業を進め、後半には演習を行う。

■学習・教育目標および到達目標

授業で扱った内容を確実に習得し、自分が授業実践を行うときに適用・応用する力を身につけることを、学習目標・教育目標・到達目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートについては、評価後コメントを記入して返却します。
授業中課題については、答案を回収し翌回の授業時間に解説します。

■教科書

[ISBN]9784316300139 『中学校学習指導要領解説 数学編—平成20年9月』(文部科学省, 教育出版：2008)
[ISBN]9784407319255 『高等学校学習指導要領解説数学編理数編』(文部科学省, 実教出版：2015)
[ISBN]9784316300078 『個に応じた指導に関する指導資料—発展的な学習や補充的な学習の推進 (中学校数学編)』(文部科学省, 教育出版：2003)

■参考文献

[ISBN]9784491016443 『和英/英和 算数・数学用語活用辞典』(東洋館出版社：2000)
[ISBN]9784906488261 『算数・数学教育の理論と実践—算数・数学科教育法』(正田実, 現代教育社(堺)：2003)
[ISBN]9784319106844 『教師教育講座 第14巻 中等数学教育』(小山正孝, 協同出版：2014)
[ISBN]9784319106653 『教科教育の理論と授業〈2〉理数編 (新教職教育講座)』(協同出版：2012)
[ISBN]9784863590816 『算数・数学科教育 (教科教育学シリーズ 第3巻)』(一藝社：2015)

■関連科目

数学科教育法 I
数学科教育法 II
数学科教育法特講 II

■成績評価方法および基準

レポート 50%
授業中課題 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階講師控室・imai-t@maroon.plala.or.jp

■オフィスアワー

授業時間帯の前後

■授業計画の項目・内容及び到達目標

「図形」教材を扱う。平行線、三角形の合同条件、三角形・四角形の定義と性質、三角形の相似条件、平行線と線分の比について、系統的に展開する。円の性質についても系統的な指導方法を考察する。三平方の定理の証明方法を比較検討する。「確率」教材については、数学的確率と統計的確率など教材の背景を述べる。その後、確率の加法性、確率の乗法性に具体的な事象により考察する。

第1回 平面図形の指導(1)

予習内容：本講義の教科書における平行線、三角形の合同条件に関する記述箇所を読んでおくこと
復習内容：平行線、三角形の合同条件に関する授業実践例を調べること
平行線、三角形の合同条件の指導法を、生徒の誤認識を含めて考察する。

第2回 平面図形の指導(2)

予習内容 : 本講義の教科書における三角形の性質、平行四辺形の性質に関する記述箇所を読んでおくこと
復習内容 : 三角形の性質、平行四辺形の性質を扱った授業実践例を調べること
三角形の性質、平行四辺形の性質とその指導を考察する。

第3回 図形の論証

予習内容 : 本講義の教科書における平面図形の論証に関する記述箇所を読んでおくこと
復習内容 : 平面図形の証明を扱った授業実践例を調べること
平面図形に関する証明問題の指導を考察する。

第4回 相似の導入

予習内容 : 本講義の教科書における相似に関する記述箇所を読んでおくこと
復習内容 : 相似の証明を扱った授業実践例を調べること
相似の定義、相似の位置などの基本的概念の指導を考察する。

第5回 平行線と線分の比の指導

予習内容 : 本講義の教科書における平行線と線分の比に関する記述箇所を読んでおくこと
復習内容 : 平行線と線分の比に関する授業実践例を調べておくこと
相似との関連から、種々の性質の指導を考察する。

第6回 円に関する性質の指導

予習内容 : 本講義における円に関する性質の記述箇所を読んでおくこと
復習内容 : 円に関する性質の授業実践例を調べておくこと
2つの円の位置関係、円周角と中心角、円に内接する四角形に関する証明とその指導を考察する。

第7回 三平方の定理の指導

予習内容 : 本講義の教科書における三平方の定理の記述箇所を読んでおくこと
復習内容 : 三平方の定理を扱った授業実践例を調べること
いくつかの証明方法を考察する。

第8回 確率教材の導入

予習内容 : 本講義の教科書における確率に関する記述箇所を読んでおくこと
復習内容 : 確率の導入を扱った授業実践例を調べること
確率の概念(ラプラス流、ミーゼス流)を解説する。

第9回 場合の数の指導

予習内容 : 本講義の教科書における場合の数に関する記述箇所を読んでおくこと
復習内容 : 場合の数を扱った授業実践例を調べること
和の法則、積の法則を扱う。

第10回 確率の求め方

予習内容 : 本講義の教科書における確率の計算の記述箇所を読んでおくこと
復習内容 : 確率の計算を扱った授業実践例を調べること
確率の加法性、確率の乗法性について扱う。

第11回 統計の基本

予習内容 : 本講義の教科書における統計に関する記述箇所を読んでおくこと
復習内容 : 平均や標準偏差を扱った授業実践例を調べること
代表値と偏差の概念について扱う。

第12回 正規分布

予習内容 : 本講義の教科書における正規分布の記述箇所を読んでおくこと
復習内容 : 正規分布を扱った授業実践例を調べること
正規分布、標準得点について解説する。

第13回 2つの平均値の差の検定

予習内容 : 平均値の差の検定について自分なりに調べておくこと
復習内容 : 平均値の差の検定の社会での応用について考察すること
検定の手法について解説する。

第14回 カイ二乗検定

予習内容 : カイ二乗検定について自分なりに調べておくこと
復習内容 : カイ二乗検定の社会での応用について考察すること
カイ二乗検定の手法とその使い方について解説する。

第15回 図形、確率・統計に関する教材の学習指導要領における扱い

予習内容 : 図形、確率・統計の学習指導要領での記述箇所を調べておくこと
復習内容 : 図形教材の系統性、確率・統計教材の系統性をまとめること
現在および歴史の変遷を解説する。

科目名： 数学科教育法特講Ⅱ			
英文名： The Study of Mathematics Education II			
担当者： <small>イマイ トシヒロ</small> 今井 敏博			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

中学校数学科教員免許・高等学校数学科教員免許を取得するために選択履修することができる科目である。中学校教諭、高等学校教諭に必要な資質の習得を目標とする。学習者に関する要因を扱った近年の研究を紹介する。

■学習・教育目標および到達目標

授業で扱った内容を確実に習得し、自分が授業実践を行うときに適用・応用する力を身につけることを、学習目標・教育目標・到達目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートについては、評価後コメントを記入して返却します。
授業中課題については、答案を回収して翌回の授業時間に解説します。

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

[ISBN]9784491026268『数学教育学研究ハンドブック』（東洋館出版社：2011）

■関連科目

数学科教育法Ⅰ
数学科教育法Ⅱ
数学科教育法特講Ⅰ

■成績評価方法および基準

レポート 50%
授業中課題 50%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階講師控室・imai-t@maroon.plala.or.jp

■オフィスアワー

授業時間帯の前後

■授業計画の項目・内容及び到達目標

認知的要因として創造的思考を扱う。具体的な題材を用いて創造的思考を働かすことの演習を行う。次に情意的要因を扱う。具体的には、情動、信念、態度について、最近の研究を含めて述べる。また、それらの数学教育実践への適用を考察する。発展的教材や数学的活動を、教材研究として行う。日本の数学教育の歴史、世界からみた日本の数学教育の状況についても述べる。

第1回 数学教育における創造性（1）

予習内容：創造性という用語について自分なりに調べておくこと
復習内容：思考の固着を克服することについての理解を深めること
思考の固着、洞察などの創造的思考を考察する。

第2回 数学教育における創造性（2）

予習内容：拡散的思考という用語を自分なりに調べておくこと
復習内容：拡散的思考の評価方法としての数量化を理解すること
拡散的思考とその評価方法を考察する。

第3回 数学教育における創造性（3）

予習内容：数学教育における問題設定について自分なりに調べておくこと
復習内容：問題設定を取り入れた数学科の授業実践を調べること

多様なアイデアを引き出す問題設定について考察する。

第4回 数学的問題解決

予習内容 : ポリアの問題解決の4段階について自分なりに調べること

復習内容 : 数学的問題解決に焦点をあてた授業実践例を調べること
ポリアの4段階を具体的な題材を用いて解説する。

第5回 数学教育における情意的要因(1)

予習内容 : 情意という用語を自分なりに調べておくこと

復習内容 : 数学的問題解決における情動についてまとめること
情意的要因の分類と情動について解説する。

第6回 数学教育における情意的要因(2)

予習内容 : 信念、態度という用語を自分なりに調べておくこと

復習内容 : 数学教育における児童・生徒の信念、態度の測定についてまとめること
信念、態度とその評価方法を解説する。

第7回 教材研究(1) -正四面体-

予習内容 : 正四面体について自分なりに調べておくこと

復習内容 : 正四面体に関する数学的な分析を確実に理解すること
正四面体の種類と性質を数学的に解説する。

第8回 教材研究(2) -図形数-

予習内容 : 図形数という用語を自分なりに調べておくこと

復習内容 : 図形数の数学的分析についての理解を確実にすること
三角数、四角数、・・・の性質を考察する。

第9回 教材研究(3) -格子点を結んで描く図形-

予習内容 : 幾何板(ジオボード)について自分なりに調べること

復習内容 : 格子点上の図形から見出される規則についての理解を確実にすること
格子点上に図形を描き、性質を導く数学的活動を行う。

第10回 教材研究(4) -円上の点を結んで描く図形-

予習内容 : スターパターンという用語を調べておくこと

復習内容 : 円上に描いた図形から見出される規則に関する理解を確実にすること
円上の等間隔の点を結んで図形を描く数学的活動を行う。

第11回 数学教育の史的変遷(1) -明治から昭和初期-

予習内容 : 明治時代の教育について自分なりに調べておくこと

復習内容 : 明治時代の国定教科書の特徴をまとめておくこと
国定教科書の出現とその改訂を解説する。

第12回 数学教育の史的変遷(2) -昭和初期から戦前-

予習内容 : 数学教育改造運動という用語を調べておくこと

復習内容 : 数学教育改造運動の影響を受けた国定教科書の特徴をまとめておくこと
数学教育改造運動のわが国への影響を解説する。

第13回 数学教育の史的変遷(3) -戦後-

予習内容 : 戦後の学習指導要領の改訂年度を調べておくこと

復習内容 : 戦後の学習指導要領の改訂時期の社会的背景をまとめること
戦後の学習指導要領の特徴を解説する。

第14回 戦後のアメリカの数学教育

予習内容 : アメリカの全米数学教師協会について自分なりに調べておくこと

復習内容 : アメリカの数学教育の動向のわが国への影響をまとめること

戦後日本に影響を及ぼしたアメリカの数学教育の主な動きについて解説する。

第15回 世界からみた日本の数学教育

予習内容 : PISA, TIMSSという国際調査について自分なりに調べること

復習内容 : PISA, TIMSSにおける日本の子どもたちの学力と情意の状況をまとめること
国際調査における日本の結果を解説する。

科目名： 情報科教育法 I			
英文名： Methodology of Teaching Information Studies I			
担当者： <small>トヨダ ミチタカ</small> 豊田 充崇			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 集中	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

当講義は、高等学校「共通教科情報科」および「専門教科情報科」を指導担当するための知識・技能を習得することを目的とします。（※但し、「専門教科情報科」は、情報科教育法Ⅱにて実施します。）

まずは、コンピュータの原理やその操作、情報の取り扱い方、情報メディアの特性、通信ネットワークの構造からその活用等幅広い情報技術に関する知識を学び、さらに、情報科の学習指導要領の読み解き・カリキュラムの構成方法・授業計画の立案等のいわゆる「授業づくり」に着手します。特に、主要な演習の活動における指導方法の習得においては、マルチメディア作品等を実際に作成したり最新のタブレットデバイス等を活用しながら受講者（生徒の立場）と指導者としての両者の立場から学ぶこととなります。また、指導技術の向上のため、自作教材を用いた「模擬授業」を取り入れ、実践的な授業力を向上させます。

このような演習を円滑におこなうために、コンピュータの基本操作を習得していること、Office系ソフトウェアの基本的な操作及び電子メールやインターネットの活用方法が事前に習得されていることが必要です。また、情報科教育法ⅠとⅡは連続して受講してください。

なお、「情報科教育法」では、作品づくりや演習的なワークが多くあります。模擬授業も行いますので、コミュニケーション能力は特に重要です。受け身ではなく、自主的、主体的な活動に期待します。

■学習・教育目標および到達目標

- ・情報教育の主要な目標である「情報活用の実践力の育成」「情報の科学的な理解」「情報化社会に参画する態度」を踏まえ、情報科で指導する学習内容を理解する。
- ・情報科学に関する幅広い知識を持ち、情報メディアを課題解決のため、暮らしを豊かにするために活用するといった意図を持って、創作的な学習活動をおこなえるようになること。
- ・情報処理の手段としてのコンピュータだけではなく、表現・発信のツールとして活用できるようになること。また、「情報モラル」に関しては特に留意して、最新のトラブル事例なども把握し、指導できるようになること。
- ・授業者として、生徒らに「わかる授業」を実施するための基本的な授業スキル・指導方法・教材作成方法を習得する。また、カリキュラム構成、教材研究・授業設計等一連の「授業づくり」の手順や方法を理解すること。

■教科書

[ISBN]9784780602104 『情報科教育法』（本村 猛能, 学術図書出版社：2010）

※できるだけ新しいテキストを利用したいため、実際の購入テキストや資料については講義初日に指示します。

■参考文献

- ・高等学校学習指導要領解説 情報編（文部科学省）
（文部科学省ウェブサイトから1～40ページまでを印刷して初日に持参すること。両面・割り付け印刷でも可。）

■関連科目

特になし

■成績評価方法および基準

情報教育に関する知識を問う小テスト 15%

授業中の発表や学習意欲 15%

授業レポート 20%

プレゼンテーション 10%

模擬授業（授業計画立案、指導案・教材作成を含む）25%

マルチメディア作品 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・連絡電子メールアドレス：toyoda@center.wakayama-u.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス（授業の目的と内容について）

第2回 情報科とは（情報教育の経緯、教科「情報」が設置された背景、科目の概要、学習指導要領の改訂について）

- 第3回 「情報科」の学習指導要領解説から学習内容の理解と要点整理
- 第4回 共通教科情報科「社会と情報」の目標と内容について
- 第5回 共通教科情報科「情報の科学」の目標と内容について
- 第6回 情報科における課題選択の観点、教材化の工夫
- 第7回 情報科における課題解決の方法、進め方、留意点について
- 第8回 カリキュラムの構成方法および学習指導計画の立案
- 第9回 具体的な授業を想定した学習指導案の作成
- 第10回 模擬授業(1) 教材作成や基本的な授業スキル
- 第11回 模擬授業(2) 授業の基本的な進め方、生徒評価の方法等
- 第12回 模擬授業(3) 授業の具体的な展開について、授業評価の方法等
- 第13回 授業分析 模擬授業の評価・改善点等について討議する
- 第14回 情報メディアの活用(1) 調査・分析
- 第15回 情報メディアの活用(2) まとめ・情報発信

科目名： 情報科教育法Ⅱ			
英文名： Methodology of Teaching Information Studies II			
担当者： <small>トヨダ ミチタカ</small> 豊田 充崇			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 集中	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

当講義は、高等学校「共通教科情報科」および「専門教科情報科」を指導担当するための知識・技能を習得することを目的とします。(※但し、「専門教科情報科」は、情報科教育法Ⅱにて実施します。)

まずは、コンピュータの原理やその操作、情報の取り扱い方、情報メディアの特性、通信ネットワークの構造からその活用等幅広い情報技術に関する知識を学び、さらに、情報科の学習指導要領の読み解き・カリキュラムの構成方法・授業計画の立案等のいわゆる「授業づくり」に着手します。特に、主要な演習の活動における指導方法の習得においては、マルチメディア作品等を実際に作成したり最新のタブレットデバイス等を活用しながら受講者（生徒の立場）と指導者としての両者の立場から学ぶこととなります。また、指導技術の向上のため、自作教材を用いた「模擬授業」を取り入れ、実践的な授業力を向上させます。

このような演習を円滑におこなうために、コンピュータの基本操作を習得していること、Office系ソフトウェアの基本的な操作及び電子メールやインターネットの活用方法が事前に習得されていることが必要です。また、情報科教育法ⅠとⅡは連続して受講してください。

なお、「情報科教育法」では、作品づくりや演習的なワークが多くあります。模擬授業も行いますので、コミュニケーション能力は特に重要です。受け身ではなく、自主的、主体的な活動に期待します。

■学習・教育目標および到達目標

- ・情報教育の主要な目標である「情報活用の実践力の育成」「情報の科学的な理解」「情報化社会に参画する態度」を踏まえ、情報科で指導する学習内容を理解する。
- ・情報科学に関する幅広い知識を持ち、情報メディアを課題解決のため、暮らしを豊かにするために活用するといった意図を持って、創作的な学習活動をおこなえるようになること。
- ・情報処理の手段としてのコンピュータだけではなく、表現・発信のツールとして活用できるようになること。また、「情報モラル」に関しては特に留意して、最新のトラブル事例なども把握し、指導できるようになること。
- ・授業者として、生徒らに「わかる授業」を実施するための基本的な授業スキル・指導方法・教材作成方法を習得する。また、カリキュラム構成、教材研究・授業設計等一連の「授業づくり」の手順や方法を理解すること。

■教科書

[ISBN]9784780602104 『情報科教育法』(本村 猛能, 学術図書出版社：2010)

※できるだけ新しいテキストを利用したいため、実際の購入テキストや資料については講義初日に指示します。

■参考文献

- ・高等学校学習指導要領解説 情報編（文部科学省）
(文部科学省ウェブサイトから1～40ページまでを印刷して初日に持参すること。両面・割り付け印刷でも可。)

■関連科目

特になし

■成績評価方法および基準

- 情報教育に関する知識を問う小テスト 15%
- 授業中の発表や学習意欲 15%
- 授業レポート 20%
- プレゼンテーション 10%
- 模擬授業（授業計画立案、指導案・教材作成を含む） 25%
- マルチメディア作品 15%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）・連絡電子メールアドレス：toyoda@center.wakayama-u.ac.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 メディアリテラシーとその教材化について

第2回 著作権、情報倫理、情報モラル・セキュリティとその教材化について

- 第3回 専門教科「情報」の解説と共通教科情報科との相違点
- 第4回 専門教科情報科「情報産業と社会」の目標と内容について(1)
- 第5回 専門教科情報科「課題研究」の目標と内容について(2)
- 第6回 カリキュラムの構成・学習指導計画・学習指導案の作成
- 第7回 専門教科情報科における課題選択の観点、教材化の工夫
- 第8回 専門教科情報科における問題解決の方法、進め方、留意点について
- 第9回 模擬授業(4) 教材作成や基本的な授業スキル
- 第10回 模擬授業(5) 授業の基本的な進め方、生徒評価の方法等
- 第11回 模擬授業(6) 授業の具体的な展開について、授業評価の方法等
- 第12回 授業分析 模擬授業の評価・改善点等について討議する
- 第13回 情報メディアの活用(3) 問題解決型学習
- 第14回 情報メディアの活用(4) 問題解決型学習
- 第15回 評価の方法（ポートフォリオ等）

科目名：物理学概論 I			
英文名：Introduction to Physics I			
担当者：濱端 広充 <small>ハマバタ ヒロミツ</small>			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

物理学は、自然現象を観測し、そこに潜む法則を見出すことを目的とする。この講義では、日常の身のまわりの現象を科学的に考察し、現象を理解する能力と数理的に解析する能力を養うことを目指す。物理学概論 I では、力と運動、仕事とエネルギー、エネルギーの保存および熱力学を主なテーマとして講義する。講義時間ごとにレジュメを配布して、理解を深める。本科目は教職課程の科目で、中学校・高等学校における物理学分野の授業に必要な資質を習得することを目的とする。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、この授業を履修することによって、大学で物理学に関する事柄を学ぶうえで基礎知識として習得しておかなければならない項目や、物理学的なもの見方、考え方について学習します。すなわち、

- 1) 基本となるベクトル・スカラーの概念とその物理的意味。
- 2) 物理量や状態量、エネルギーの概念、
- 3) 物理現象の観測結果からそこに潜む一般化された物理法則を導出する過程と得られた法則などを学習し、さらに
- 4) 身のまわりの自然現象を物理的にとらえ、それらに物理法則を適用する能力を培うことができます。

■試験・課題に対するフィードバック方法

解答例をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

James T. Shipman 著、勝守 寛 監訳 「シップマン 自然科学入門 新物理学 増補改訂版」 学術図書出版 ISBN: 978-4873619309

■参考文献

原 康夫 著 「自然科学の基礎としての物理学」 学術図書出版 ISBN: 978-4780602005
原 康夫 著 「第3版 物理学入門」 学術図書出版 ISBN: 978-4780605006

■関連科目

物理学概論 II

■成績評価方法および基準

定期試験 70%
レポート 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階) hamabata@sci.osaka-cu.ac.jp

■オフィスアワー

講義前後の休憩時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス 自然現象と物理量 基本単位と次元

第2回 運動の表し方 直線運動と速度・加速度

第3回 一般の運動 位置ベクトル ベクトルとスカラー

第4回 自由落下と重力加速度 放物体の運動

第5回 力のつりあい 力の合成と分解 剛体のつり合い 摩擦力

第6回 運動の法則 運動方程式の解き方

第7回 運動量 力積 衝突現象

第8回 円運動 遠心力と向心力 太陽系惑星の運動 人工衛星角運動量

第9回 円運動と単振動

第10回 仕事とエネルギー 仕事率 位置エネルギーと運動エネルギー 力学的エネルギー保存の法則

第11回 力と物体の変形 フックの法則

第12回 温度と熱 熱の本質 熱の伝達 物質の状態変化の物理的意味

第13回 気体の性質 気体の膨張とボイル・シャルルの法則 理想気体の状態方程式 絶対温度 断熱変化

第14回 臨界温度・臨界圧力 熱伝導と熱放射 気体の分子運動論

第15回 熱力学第1法則と熱力学第2法則 エントロピー

定期試験

科目名：物理学概論Ⅱ			
英文名：Introduction to Physics II			
担当者： <small>ハマバタ ヒロミツ</small> 濱端 広充			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

物理学は、自然現象を観測し、そこに潜む法則を見出すことを目的とする。この講義では、日常の身のまわりの現象を科学的に考察し、現象を理解する能力と数理的に解析する能力を養うことを目指す。物理学概論Ⅱでは、波動、波動現象と光学、電磁気学および原子物理を主なテーマとして講義する。講義時間ごとにレジュメを配布して、理解を深める。本科目は教職課程の科目で、中学校・高等学校における物理学分野の授業に必要な資質を習得することを目的とする。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、この授業を履修することによって、大学で物理学に関する事柄を学ぼうと基礎知識として習得しておかなければならない項目や、物理学的なものの方、考え方について学習します。すなわち、

- 1) 物理学概論Ⅰでの学習項目に続けて、波動現象や電磁気現象の本質、それらとエネルギーのかかわり、
- 2) 量子現象、
- 3) 物理現象の観測結果からそこに潜む一般化された物理法則を導出する過程と得られた法則などを学習し、さらに
- 4) 身のまわりの自然現象を物理的にとらえ、それらに物理法則を適用する能力を培うことができます。

■試験・課題に対するフィードバック方法

解答例をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

James T. Shipman 著、勝守 寛 監訳 「シップマン 自然科学入門 新物理学 増補改訂版」 学術図書出版 ISBN: 978-4873619309

■参考文献

原 康夫 著 「自然科学の基礎としての物理学」 学術図書出版 ISBN: 978-4780602005

原 康夫 著 「第3版 物理学入門」 学術図書出版 ISBN: 978-4780605006

■関連科目

物理学概論Ⅰ

■成績評価方法および基準

定期試験 70%

レポート 30%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階) hamabata@sci.osaka-cu.ac.jp

■オフィスアワー

講義前後の休憩時間

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 流体の力学 パスカルの原理 ベルヌーイの定理

第2回 波の性質 波の速さ 波の重ね合わせの原理

第3回 波の反射・屈折・回折・干渉

第4回 定常波 音波 ドップラー効果

第5回 光の回折・反射・屈折・干渉 偏光

第6回 球面鏡とレンズ

第7回 電荷と静電場 クーロンの法則 電場と電位

第8回 導体と電場 誘電体 キャパシター (コンデンサー)

第9回 電気回路と起電力 電気抵抗 オームの法則 キルヒホッフの法則 電源の仕事 ジュール熱

第10回 電流と磁場 磁力線 電磁誘導 自己誘導と相互誘導

第11回 交流 電気振動 電磁波と光

第12回 光電効果 光の粒子性と波動性 光量子仮説

第13回 原子構造と光スペクトル

第14回 電子の粒子性と波動性 ド・ブロイ波

第15回 量子力学 ハイゼンベルグの不確定性原理 核物理学

定期試験

科目名： 地学概論 I			
英文名： Essentials of Geoscience I			
担当者： <small>サトウ ノボル</small> 佐藤 昇			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

地学は、宇宙から足下の大地、そしてそこに生きる生物まで、137億の時間と空間の中での、物質の生成と運動、進化を解き明かし、理解しようとする学問です。「地学概論 I」では、宇宙・天体、気象を学びます。観測技術の発展などにより、太陽系の姿や宇宙の起源と構造について、宇宙のイメージがより具体的なものになってきました。現在明らかになりつつある宇宙の姿について考えます。気象は私たちのもっとも身近な自然環境です。地球環境の変化に関する科学的な理解を深め、人と地球環境のあり方を考えます。

■学習・教育目標および到達目標

1. 宇宙・天体、気象について、基礎基本となる幅広い新しい知識を学び、市民レベルの「近未来の地球環境」を考える基礎となる「現代の自然観」を身につける。
2. 中学校・高等学校での地学分野の教科内容の授業実践に役立つ知識と経験を身につける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

模範答案をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

適宜プリントを配布する。

■参考文献

- [ISBN]9784416211328 『基礎からわかる天文学』(誠文堂新光社：2011)
 [ISBN]9784769912286 『天文マニア養成マニュアル』(恒星社厚生閣：2010)
 [ISBN]9784072699430 『宇宙のしくみ—宇宙開発年表&太陽系惑星データつき (主婦の友ベストBOOKS)』(高柳 雄一, 主婦の友社：2010)
 [ISBN]9784480688965 『宇宙はこう考えられている: ビッグバンからヒッグス粒子まで (ちくまプリマー新書)』(青野 由利, 筑摩書房：2013)
 [ISBN]9784254161144 『基礎気象学』(浅井 富雄, 朝倉書店：2000)
 [ISBN]9784062577212 『図解・気象学入門—原理からわかる雲・雨・気温・風・天気図 (ブルーバックス)』(古川 武彦, 講談社：2011)
 [ISBN]9784860644338 『風はなぜ吹くのか、どこからやってくるのか (BERET SCIENCE)』(杉本 憲彦, ベレ出版：2015)
 [ISBN]9784834340129 『ニューステージ新地学図表—地学基礎+地学対応』(浜島書店, 浜島書店：2013)

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

定期試験 60%
 レポート (個々の授業のまとめ) 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階) sato@edu.osaka-c.ed.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とする。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 天体の位置と運動

- ①天球
- ②日周運動
- ③公転運動と星座

第2回 太陽の活動と内部構造

- ①太陽系の構成とその特徴

- ②太陽の内部構造
- ③太陽の活動と地球への影響

第3回 太陽系の惑星と運動

- ①太陽系の惑星
- ②惑星の視運動
- ③ケプラーの法則

第4回 恒星の性質

- ①恒星の距離
- ②恒星の明るさ（絶対等級）
- ③恒星の光の色とスペクトル

第5回 恒星の進化

- ①恒星の種類（HR図）
- ②恒星の誕生
- ③恒星の一生

第6回 銀河系と宇宙の構造

- ①私たちの銀河系
- ②宇宙の大規模構造
- ③宇宙の膨張
- ④宇宙の始まりと未来

第7回 太陽系と地球の形成、地球大気の構造

- ①地球大気の進化の概略
- ②地球大気の鉛直方向の構造
- ③大気圧

第8回 地球大気の熱収支と大気の大循環

- ①太陽放射
- ②地球の熱収支
- ③大気の大循環

第9回 雲と降水

- ①大気中の水蒸気
- ②雲のでき方（乾燥断熱と湿潤断熱）
- ③雲の種類
- ④雨のでき方（氷晶雨と暖かい雨）

第10回 天気の変化

- ①コリオリの力
- ②風の吹き方
- ③温帯低気圧と移動性高気圧

第11回 四季の天気と気象災害

- ①気団
- ②大気安定度
- ③日本の四季の天気の特徴と気象災害

第12回 気象観測と天気予報

- ①気象観測
- ②天気図（地上・高層）
- ③天気予報（数値予報）

第13回 海洋の構造と運動

- ①海水の性質
- ②海流（風成海流）
- ③深層流（熱塩循環）

第14回 大気と海洋の相互作用

- ①台風の特徴
- ②台風による災害
- ③エルニーニョ／ラニーニャ

第15回 大気環境の変動

- ①オゾン層の破壊
- ②地球温暖化
- ③ヒートアイランド

定期試験

科目名： 地学概論Ⅱ			
英文名： Essentials of Geoscience II			
担当者： <small>サトウ ノボル</small> 佐藤 昇			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 必修科目

■授業概要・方法等

地学は、宇宙から足下の大地、そしてそこに生きている生物まで、137億年の時間と空間の中での、物質の生成と運動、進化を解き明かし、理解しようとする学問です。「地学概論Ⅱ」では固体地球について、現在起きている身近な事象から、過去の地球変動の歴史へと認識を広げながら学び、地球の46億年の物語を読み解きます。

■学習・教育目標および到達目標

1. 地球をつくる物質とその変動の歴史について、基礎基本となる幅広い新しい知識を学び、市民レベルの「近未来の地球環境」を考えるための基礎となる「現代の自然観」を身に付ける。
2. 中学校・高等学校での地学分野の教科内容の授業実践に役立つ知識と経験を身に付ける。

■試験・課題に対するフィードバック方法

模範答案をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します。

■教科書

適宜プリントを配布する。

■参考文献

- [ISBN]9784759813241 『地球環境46億年の大変動史(DOJIN選書 24)』(田近 英一, 化学同人: 2009)
 [ISBN]9784798024356 『図解入門最新地球史がよくわかる本[第2版] (How - nual Visual Guide Book)』(川上 紳一, 秀和システム: 2009)
 [ISBN]9784486020998 『地球学入門 第2版 一惑星地球と大気・海洋のシステム』(酒井 治孝, 東海大学出版会: 2016)
 [ISBN]9784405106543 『カラー版徹底図解 地球のしくみ』(新星出版社: 2006)
 [ISBN]9784309252582 『いちばんやさしい地球変動の話』(巽 好幸, 河出書房新社: 2011)
 [ISBN]9784062578349 『図解・プレートテクトニクス入門 (ブルーバックス)』(木村 学, 講談社: 2013)
 [ISBN]9784000062466 『地球全史——写真が語る46億年の奇跡』(岩波書店: 2012)
 [ISBN]9784622077497 『気候変動を理学する——古気候学が変える地球環境観』(多田 隆治, みすず書房: 2013)
 [ISBN]9784398200549 『なるほど知図帳 日本の自然災害 (地図帳 マップル)』(昭文社: 2014)
 [ISBN]9784834340129 『ニューステージ新地学図表—地学基礎+地学対応』(浜島書店, 浜島書店: 2013)

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

定期試験 60%

レポート (個々の授業のまとめ) 40%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室 (2号館2階) sato@edu.osaka-c.ed.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とする。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 近畿地方の地形と地質

- ①地表の変化の仕方
- ②近畿地方の地形と地質の特徴
- ③近畿の新しい地殻変動

第2回 地球の形と大きさ

- ①地球の大きさ
- ②地球の形

- ③地球の内部構造の調査法
- ④陸と海

第3回 地球の内部構造

- ①地球の内部構造
- ②地球内部の構成物質
- ③地球内部の物性

第4回 プレートテクトニクス1

- ①プレートとプレート境界
- ②プレートの運動
- ③ウェゲナーの大陸移動説

第5回 プレートテクトニクス2

- ①古地磁気学と大陸移動説の復活
- ②海底拡大
- ③ウィルソンサイクル
- ④ブルームテクトニクス

第6回 岩石と鉱物

- ①火成岩の分類
- ②火成岩の組織
- ③造岩鉱物

第7回 火山とマグマ

- ①マグマの成り方
- ②火山の分類
- ③火山噴火と噴出物

第8回 火山噴火と火山災害

- ①噴火災害の要因と噴火現象の分類
- ②火山災害の実例
- ③火山噴火の予測
- ④火山の恩恵

第9回 地震のしくみ

- ①地震と断層
- ②震度とマグニチュード
- ③地震波の種類と性質
- ④地震記録の見方

第10回 地震災害

- ①地震による災害
- ②兵庫県南部地震と東北地方太平洋沖地震
- ③今後予測される地震
- ④地震に備えて

第11回 地層の形成と地殻変動

- ①風化作用による岩石の碎屑物
- ②堆積岩（成壤作用）
- ③地層の重なりと構造
- ④変成岩（変成作用）

第12回 地層の年代を知る

- ①相対年代と絶対年代
- ②化石（示準化石・示相化石）

- ③放射性同位体
- ④地質年代表

第13回 地球の歴史と生物進化1

- ①地球の形成
- ②生命の誕生
- ③スノーボールアース仮説
- ④顕生代の5大生物大量絶滅事件

第14回 地球の歴史と生物進化2

- ①新生代第四紀
- ②酸素同位体温度計
- ③第四紀の気候変動
- ④人類の進化

第15回 日本列島の構造と形成史

- ①島弧としての日本列島の特徴
- ②付加体
- ③日本列島の地質と構造
- ④日本列島の形成史

定期試験

科目名： 地学実験			
英文名： Experiments in Geoscience			
担当者： <small>サトウ ノボル</small> 佐藤 昇			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期・後期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

地学は、地球を含めた宇宙全体の自然を歴史的に認識し、現在、未来を知ろうとする学問で、具体的には、天文学、気象学、地震学、地質学(地形、地質、岩石・鉱物・化石)などがあります。

天文分野では天体望遠鏡を組み立て天体観測をしたり、天文ソフトによるシミュレーションなどを、気象分野では断熱変化、大気圧、雲の発生などを、地震学では地震波から震源の特定、液化化などを、地質学では、鉱物岩石の観察などを実習、実験します。

■学習・教育目標および到達目標

地学について、基礎理論を含め、観察、実習、実験を行うことによって、自然に対する総合的な見方や考え方を養います。特に、天体、気象、固体地球の各分野について、中学校・高等学校の教科書での実験観察の基本的な内容を重点的に学ぶとともに、自らの観察実験に基づく研究へと発展させるような創造的な能力を培うものとします。

■試験・課題に対するフィードバック方法

翌回以降の授業時間にレポートを返却します。

■教科書

適宜プリントを配布します。

■参考文献

特にありません。

■関連科目

地学概論 I、II

■成績評価方法および基準

実験レポート 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

物理、地学実験室(10号館109) sato@edu.osaka-c.ed.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 地球の大きさ、形

地球の大きさ、形がいかにして理解されてきたかを概観した後、下記の実習をする。

- ①あるデータをもとに、地球の大きさを計算する。
- ②地球は回転楕円体であるが、その本質を知るために、回転楕円体の作図をする。

第2回 天体の位置のあらわし方(特に赤道座標)、天体の見え方

赤道座標などを解説をした後、下記の実習をする。

- ①星図に、太陽の年周運動を記入する。
- ②星図を見て、天体の南中高度、南中時刻などを計算する。
- ③星図を見て、周極星、出没星、全没星を区分する。 等

第3回 惑星の運動(ケプラーの第一、第二、第三法則)

真円の宇宙観を解き放ったケプラーの功績を概観した後、次の実習をする。

- ①火星の位置変化のデータをもとに、火星の軌道の作図をし、ケプラーの第一、第二、第三法則が成立している事を確認する。

第4回 天体望遠鏡の使い方(太陽、月、惑星の観測) ※天気の都合で日程が前後する

天体望遠鏡、赤道義の解説をした後、次の実習をする。

- ①天体望遠鏡の組み立て、収納。
- ②極軸の合わせ方。
- ③ファインダーの合わせ方。
- ④太陽、月、惑星などの観察。

第5回 天文ソフトによる天文現象のシミュレーション

ある天文ソフトを概観した後、次の実習をする。

- ①世界の各地での天体の見え方のシミュレーション。
- ②日食、月食、惑星食、星食、流星などのシミュレーション。
- ③惑星の公転、自転に関するシミュレーション。 等

第6回 気象観測

気象要素とその観測方法を概観した後、次の実験・実習を行う。

- ①気象観測値の時間変化の特徴から天気を推定する。
- ②雲の分類。
- ③大気圧と水圧の関係を考える。

第7回 雲や雨の形成

断熱変化および雲・雨の形成について概観した後、次の実験を行う。

- ①湿度と露点の測定。
- ②減圧装置を使って、乾燥空気および湿潤空気についての気圧と温度との関係を調べる。
- ③シャボン玉の中にできる水滴(雲)を観察する。
- ④フィズキーパーで雲をつくる。

第8回 天気図の分類

天気図について概観した後、次の実習を行う。

- ①四季の気圧に関するイソプレット図を作成し、日本の天気の特徴をとらえる。

第9回 気象データの解析

日本の天気の特徴を概観した後、気象データを解析する実習を行う。

- ①地上気象観測値から大気現象に関する規則性を導き出す。

第10回 地震波

地震波の種類、震源距離の求め方、震源を特定する方法を概観した後、次の実習をする。

- ①三か所の地震波のデータから震源を特定する。
- ②一か所の地震波のデータから震源を特定する。

第11回 地震災害(断層、液状化など)

地震災害に関して概観した後、次の実習をする。

- ①液状化の簡易実験。
- ②断層モデル実験。

第12回 地形図の作成

地形の成り立ちを概観した後、次の実験・実習を行う。

- ①流水実験と堆積実験。
- ②空中写真の判別実習。
- ③ソフトウェアを使い身近な地域の3D地形図から、その特徴をとらえる。

第13回 鉱物の観察

偏光板と鉱物の光学的性質及び主な鉱物の性質を概観した後、次の実習をする。

- ①偏光板を使って、方解石の光学的性質を調べる。
- ②火山灰中の鉱物を調べる。

第14回 偏光顕微鏡による岩石薄片の観察

岩石の成因を概観した後、次の観察をする。

- ①堆積物の観察。
- ②岩石鉱物の肉眼観察。
- ③岩石鉱物の偏光顕微鏡観察。

第15回 化石の観察

地質時代と化石について概観した後、次の実習を行う

- ①微化石の顕微鏡観察を行い、その変化から堆積環境の変化をとらえる。

科目名：代数学概論 I			
英文名：Introduction to Algebra I			
担当者： <small>ヒライ タカハル</small> 平井 崇晴			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

主に群論について概説する。学期のはじめは群論を学ぶための準備に充てる。集合や2項関係から始めて、必要最小限の概念や数学記法を用意する。その後、群の定義を与えて本論に入るが、いくつかの例や剰余類など初歩的な内容にとどめる。その代わりに、大学数学がどのように作られていくのかが実感できるような授業展開を予定している。学期の終盤では実用的な応用として公開鍵暗号（RSA暗号）を簡単に紹介する。また、原則として毎回演習を行い、学習の定着を目指す。

■学習・教育目標および到達目標

高校までの数学に比べ内容が抽象的になるため、面食らう学生も多いと思われる。そこで、内容を厳選する代わりに、本講義で習う記法を数学言語として意のままに操れること、抽象的な概念をイメージできることを到達目標とする。その上で群論を実感し、身近に感じることを授業のテーマである。無味乾燥な事務的処理の習得をさせるつもりは全くない。ボリュームが極めて少ない代わりに、きっちりできるようになって頂く。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に試験の要点と解説を公式ホームページ <http://takaharu-hirai.private.cocan.jp/kinki/algebra/algebra.html> に掲載します。各回実施の演習は翌回に解説します。

■教科書

「代数学概論 I・II 2017年度版 サブノート」プリント教材を製本したもの。学内コンビニエンスストアで販売予定。

■参考文献

[ISBN]9784797367546 『数学ガール/ガロア理論 (数学ガールシリーズ 5)』(結城 浩, SBクリエイティブ:2012)

■関連科目

線形代数学、幾何学 I A・I B・II A・II B

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階 非常勤講師控室・takaharu.hirai@nifty.com

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス（講義概要と達成目標および受講心得）

第2回 集合と2項関係

第3回 群の定義

第4回 同値関係

第5回 合同式

第6回 剰余類

第7回 数字根

第8回 同値類による類別

第9回 剰余類と加法群

第10回 剰余類と乗法群 (1)

第11回 剰余類と乗法群 (2)

第12回 オイラーの関数 (RSA暗号の準備)

第13回 公開鍵暗号 (1)

第14回 公開鍵暗号 (2)

第15回 まとめ

定期試験

科目名：代数学概論Ⅱ			
英文名：Introduction to Algebra 2			
担当者： <small>ヒライ タカハル</small> 平井 崇晴			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

代数学概論Ⅰに引き続いて群論を概説し、現在それがどのように応用されているかを紹介する。代数学概論Ⅰでは群として数の集合を主な対象としたのに対し、本講義では数以外の集合を対象とする。対称群や交代群、正多面体群、巡回群などを扱い、群論が広く一般に活躍する理論であることを実感させるような内容である。一見無関係と思われるあみだくじやスライドパズル、ルービックキューブなどの問題解決に群論が一役買っていることを紹介する。原則として毎回演習を行い、学習の定着を目指す。

■学習・教育目標および到達目標

代数学概論Ⅰに引き続き、数学言語としての数学記法を読み取り自由に扱えるようになること、抽象概念を自分なりにイメージして操作できるようになることを到達目標とする。群論が全く無関係と思えるパズルなどの問題の解決に用いられることに感動し、広く一般に活用可能であることを体感することが授業のテーマである。無味乾燥な事務的処理の習得をさせるつもりは全くない。ボリュームが極めて少ない代わりに、きっちりできるようになって頂く。

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に試験の要点と解説を公式ホームページ <http://takaharu-hirai.private.cocan.jp/kinki/algebra/algebra.html> に掲載します。各回実施の演習は翌回に解説します。

■教科書

「代数学概論Ⅰ・Ⅱ 2017年度版 サブノート」プリント教材を製本したもの。学内コンビニエンスストアで販売予定。

■参考文献

[ISBN]9784797367546 『数学ガール/ガロア理論 (数学ガールシリーズ 5)』(結城 浩, SBクリエイティブ: 2012)

■関連科目

線形代数学、幾何学ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB

■成績評価方法および基準

定期試験 100%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

2号館2階 非常勤講師控室。takaharu.hirai@nifty.com

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 変換と群 (1)

第2回 変換と群 (2)

第3回 対称群

第4回 互換

第5回 偶置換・奇置換

第6回 あみだくじ

第7回 スライドパズル

第8回 正6面体群 (1)

第9回 正6面体群 (2)

第10回 群の同型

第11回 正多面体群

第12回 巡回群

第13回 元の位数

第14回 軌道

第15回 まとめ

定期試験

科目名：幾何学 I A			
英文名：Geometry 1A			
担当者： <small>モリスギ カオル</small> 森杉 馨			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

この講義では、後期の I B での実数論の理解の準備として、数学言語として基礎的な集合論的な扱いになれることを目標とする。背理法などにもなれることも目標のひとつである。これらは、中学校、高校の数学のバックグラウンドでもある。特に、濃度の概念を学び、ものを数えるという行為の意味、さらに無限を数えると言う観点で、後期の実数論を集合的観点から前もって補足する。そのため、適宜、演習などを行いながらの講義となる。

■学習・教育目標および到達目標

中学校・高校の数学理解をより厳密に行うには、背後に集合論や実数論が必要になることが多い。このことは、図形の性質などを見るとき、面積や長さを調べることに関連している。幾何学 I A、B の講義では、実数とは有理数のいかなる意味の拡張であるか、何故にそのような拡張が必要となるのかを理解することを目標とする。そのため前期の I A では、数学言語としての簡単な集合概念を理解し、それを使えるようになることを目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

課題を課した時は、講義中に論評し、解説する。

■教科書

プリントを配付する。

■参考文献

集合及び実数に関して書いてあるものであれば何でもよい、ただし、詳し過ぎるものは好ましくない。

■関連科目

引き続き幾何学 I B を受講することが望ましい。

■成績評価方法および基準

中間試験 90%

レポート 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mail アドレス

講師控室（2号館2階）kaoru_morisugi_1947@yahoo.co.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 集合

第2回 命題、否定、対偶、背理法など

第3回 集合の記号と意味

第4回 上記の具体例

第5回 べき集合、直積集合、写像

第6回 集合演算、写像

第7回 単射、全射、全単射、逆写像

第8回 種々のexample

第9回 可算、濃度

第10回 さまざまな例

第11回 対角線論法etc

第12回 実数と有理数

第13回 中学校や高校での無理数の解釈

第14回 濃度の大小

第15回 まとめ

科目名：幾何学 I B			
英文名：Geometry 1B			
担当者： <small>モリスギ カオル</small> 森杉 馨			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：必修科目

■授業概要・方法等

この講義では、前期で身に付けた集合論的扱いのもとで、数学の基礎基本である実数論を学ぶ。これらは、中学校、高校の数学（とりわけ、幾何・解析関連）のバックグラウンドでもある。有理数だけではなぜ不足なのか、実数とは有理数のいかなる意味の拡張になっているのかを中心テーマとして学習する。また、高校では学べない極限についても演習などを交えて学ぶ。その延長として、高校では十分には解説されていない指数関数の定義とその性質までやりたいと考えている。

■学習・教育目標および到達目標

中学校・高校の数学、理解をより厳密に行うには、背後に集合論や実数論が必要になることが多い。このことは、図形の性質などを見るとき、面積や長さを調べることに関連している。幾何学 I A、B の講義では、実数とは有理数のいかなる意味の拡張であるか、何故にそのような拡張が必要となるのかを理解することを目標とする。そのため後期の I B では、中学・高校の数学の背景として必要な、実数論を身に付けることを目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

課題を課した時は、講義中に論評し、解説する。

■教科書

プリントを配付する。

■参考文献

集合及び実数に関して書いてあるものであれば何でもよい、ただし、詳し過ぎるものは好ましくない。

■関連科目

幾何学 I A を受講済みであることを前提とする。

■成績評価方法および基準

中間試験 90%

レポート 10%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）kaoru_morisugi_1947@yahoo.co.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 実数

第2回 有理数の性質

第3回 順序体とDedekindの切断公理

第4回 上限、下限、有界

第5回 数列と収束

第6回 さまざまな例

第7回 区間縮小法の原理、集積点など

第8回 基本列とその性質

第9回 実数の完備性

第10回 実数の構成

第11回 級数、数列

第12回 さまざまな例

第13回 関数の連続性

第14回 指数関数について

第15回 まとめ

科目名：幾何学ⅡA			
英文名：Geometry 2A			
担当者： <small>モリスギ カオル</small> 森杉 馨			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

作図問題に関して講義する。中学・高校までに学んでいる平面幾何を少し厳密に振り返った後、基本的な作図を学び、また、実際に定規とコンパスを用いて作図を行う。その後、平面上の作図を簡潔に表すために複素数平面を考えるとともに、複素数平面の幾何学的意味を理解し、以後、複素数平面上の作図を扱う。これにより中学校・高校で学んだ2次方程式の解、定規とコンパスによる基本作図などを有機的に理解する（実際に作業する）。基本的には予備知識は要求しない。

■学習・教育目標および到達目標

中学校レベルの代数・幾何と高校での複素数を、作図と言う観点から見直し、その関連性を理解できること。2次方程式、作図、複素数平面を有機的に理解する。

■試験・課題に対するフィードバック方法

課題を課した時は、講義中に論評し、解説する。

■教科書

プリントを配付する。

■参考文献

特になし。

■関連科目

代数学概論Ⅰ，Ⅱ

■成績評価方法および基準

中間試験 80%

レポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）kaoru_morisugi_1947@yahoo.co.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 作図

第2回 定規とコンパスによる作図

第3回 中学・高校平面幾何学の復習 平行線と角

第4回 中学・高校平面幾何学の復習 外角と内角、合同

第5回 中学・高校平面幾何学の復習 相似、円

第6回 四則演算と作図

第7回 2次方程式と作図

第8回 複素数について(1) 演算

第9回 複素数について(2) 幾何学的意味

第10回 複素数について(3) 数の本質

第11回 作図可能性について

第12回 正五角形、正17角形の作図

第13回 ギリシャの3大作図問題

第14回 ギリシャの3大作図問題

第15回 まとめ

科目名：幾何学ⅡB			
英文名：Geometry 2B			
担当者： <small>モリスギ カオル</small> 森杉 馨			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

■授業概要・方法等

高校までの2次曲線を、円錐の切断面に現れるもの、点集合の軌跡として楕円・放物線・双曲線、座標平面上の標準形、および、極座標表示などについて振り返るとともに統一的に見直す。予備知識は要求しないが、この講義では、線形代数をある程度知っていることが望ましい。ただし、前提としない。

■学習・教育目標および到達目標

高校での2次曲線をより深く理解することを目標とする。古典的な楕円、放物線、双曲線の定義が理解できるとともに、それらの方程式の標準形が分かること。その後、空間内の曲面として、2次曲面について理解する。また与えられた3変数の2次式から、それを標準形に直して、その式が表すものがいかなる曲面になっているかが判定できることを目標とする。

■試験・課題に対するフィードバック方法

課題を課した時は、講義中に論評し、解説する。

■教科書

プリントを配付する。

■参考文献

特になし。

■関連科目

特になし。

■成績評価方法および基準

中間試験 80%

レポート 20%

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・E-mailアドレス

講師控室（2号館2階）kaoru_morisugi_1947@yahoo.co.jp

■オフィスアワー

当該科目開講時限の前後休憩時間とします。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 円錐曲線

第2回 2次曲線

第3回 楕円とその標準形

第4回 放物線および双曲線の標準形

第5回 円錐曲線

第6回 2次曲線とその標準形（行列は使わない）

第7回 2次曲線とその標準形（行列は使わない）

第8回 極座標表示

第9回 線形代数から1 一次独立と次元

第10回 線形代数から2 固有値と固有ベクトル

第11回 線形代数から3 対角化

第12回 実対称行列の直交行列による対角化

第13回 2次曲面について 標準的なもの

第14回 2次曲面について 標準形

第15回 まとめ

平成29年度近畿大学
生物理工学部人間工学科
授業計画

2017.4 印刷発行

発行者 近畿大学生物理工学部

編集 近畿大学生物理工学部

所在地 〒649-6493 和歌山県紀の川市西三谷930

電話番号 (0736)77-3888

インターネット版シラバス

下記のアドレスでもシラバスを公開しています。

<http://syllabus.itp.kindai.ac.jp/customer/Form/sy01000.aspx>

※インターネット版シラバスでは、学科名以外にも、キーワードや、開講年次、単位、開講期、科目区分、必修・選択の別などの科目属性からシラバスを検索することができます。

